Syllabus2022

シラバス（教授要目）

北陸学院大学

Realize Your Mission

あなたの使命を実現しよう

2022年度学事暦（大学）

4月 (APR)						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

10月 (OCT)						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

3月18日（金）～25日（金）	前期履修登録期間（2・3・4年）
3月30日（水）～4月4日（月）	前期履修登録期間（1年）
3月30日（水）～4月6日（水）	オリエンテーション期間
4月2日（土）	入学式（午後）
4月7日（木）	前期授業開始
4月13日（水）～4月15日（金）	前期履修登録変更期間
4月23日（土）	Enjoy!ミッション

5月 (MAY)						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

11月 (NOV)						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8 金	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

5月20日（金）～5月21日（土）	フレッシュマン・セミナー（1年）
5月20日（金）	2～4年休講
6月13日（月）～17日（金）	特別伝道礼拝週間（1・3年）
7月29日（金）	前期授業終了
7月30日（土）～8月5日（金）	前期試験期間
8月6日（土）～9月17日（土）	夏期休業期間（補講・集中講義・学外実習）

6月 (JUN)						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

12月 (DEC)						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20 木	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

9月9日（金）	北陸学院創立記念日
9月2日（金）～9月9日（金）	後期履修登録期間
9月19日（月）	後期授業開始・通常講義日
9月23日（金）	通常講義日
9月28日（水）～30日（金）	後期履修登録変更期間
10月3日（月）～7日（金）	特別伝道礼拝週間（2・4年）

7月 (JUL)						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

1月 (JAN)						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

10月20日（木）	大学祭準備（休講）
10月21日（金）～22日（土）	大学祭（栄光祭）
11月8日（火）	金曜代替講義日
11月11日（金）～12日（土）	オータム・セミナー（1・2年生）
11月11日（金）	3・4年休講

8月 (AUG)						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2月 (FEB)						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

11月30日（水）	クリスマスツリー点灯式（5時限振替）
12月20日（火）	木曜代替講義日
12月21日（水）	クリスマス礼拝
12月23日（金）	全学休講予備日
12月24日（土）～1月5日（木）	冬期休業期間
1月26日（木）	後期授業終了
1月30日（月）～2月3日（金）	後期試験期間

9月 (SEP)						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

3月 (MAR)						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

1月14日（土）	全学休講予備日
1月21日（土）	全学休講予備日
3月3日（金）	卒業者発表
3月13日（月）	卒業感謝礼拝
3月14日（火）	卒業証書・学位記授与式

授業　補講　曜日振替
試験　全学休講予備日

子ども教育学科　科目見取表
1・2・3年

科目概要							Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相 / Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習				Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相 / Exercise 演習			Practice 現場実践		成績評価の対象となるもの								ディプロマポリシー						
ページ番号	科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②全学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養を身につけている。	③学科での学びを通して、自ら課題を設定して探究することができる。	④4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	⑤幼児教育及び初等・中等教育において、保育者・教育者の役割や職務内容をよく理解している。	⑥子どもの育ちや発達、英語・英語教育に関する専門的知識に基づき、幼・少・中・高の教育連携、自らの教育観ならびに保育観、子ども観を自分の言葉で語り、実践できる。	⑦子どもの育ちや発達に関する専門的知識に基づき、子どもや保護者に寄り添って自らの教育観ならびに保育観、子ども観を自分の言葉で語り、実践できる。
1	HG100U	北陸学院セミナーⅠ	1	1	必修	演習	○	○	○				○	○										○		○			○	○	○				
3	HG110U	キリスト教概論Ⅰ	1	1	必修	講義		○				○											○	○		○			○	○	○				
4	HG120U	キリスト教概論Ⅱ	1	1	必修	講義		○				○											○	○		○			○	○	○				
7	GE100U	総合教養AⅠ	1	2	必選	講義																		○		○				○					
8	GE110U	総合教養AⅡ	1	2	必選	講義																		○		○				○					
9	GE120U	総合教養BⅠ	1	2	必選	講義			○													○		○		○				○					
10	GE130U	総合教養BⅡ	1	2	必選	講義			○													○		○		○				○					
11	GE140U	総合教養CⅠ	1	2	必選	講義																		○						○					
12	GE150U	総合教養CⅡ	1	2	必選	講義																		○						○					
13	GE160U	総合教養DⅠ	1	2	必選	講義		○				○	○	○		○					○		○	○	○						○	○			
14	GE170U	総合教養DⅡ	1	2	必選	講義		○				○	○	○		○					○		○	○	○						○	○			
15	LJ090U	日本語基礎	1	1	自由	演習		○	○	○		○	○	○		○			○		○	○		○	○	○				○		○			
16	LJ110U	日本語表現法Ⅰ	1	1	必修	演習		○	○	○		○	○	○		○			○		○	○		○	○	○				○		○			
17	LJ120U	日本語表現法Ⅱ	1	1	必修	演習		○	○	○		○	○	○		○	○					○		○	○	○				○		○			
18	LE090U	英語基礎	1	1	自由	演習			○			○	○			○							○		○	○		○		○		○			
19	LE155U	英語AⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○		○		○			
20	LE160U	英語AⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○		○		○			
21	LE145U	英語BⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○		○		○			
22	LE150U	英語BⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○		○		○			
23	LE135U	英語CⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
24	LE140U	英語CⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
25	LE125U	英語DⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
26	LE130U	英語DⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
27	LE115U	英語EⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
28	LE120U	英語EⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
29	LE105U	英語FⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
30	LE110U	英語FⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
31	LE165U	ｱｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭA	1	1	選択	演習				○		○	○			○								○	○	○		○		○		○			
32	LE175U	ｱｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭC	1	3	選択	演習				○						○				○				○	○	○		○		○		○			
37-40	PE100U	生涯スポーツA	1	1	必修	実技																				○		○		○	○				
41-43	PE110U	生涯スポーツB	1	1	必修	実技																				○		○		○	○				
44	PE120U	健康科学	1	2	必修	講義															○			○		○				○	○				
45	HC100U	キャリアデザインⅠ	1	1	必修	演習	○	○					○	○								○		○		○			○	○	○				
47	HC110U	キャリアデザインⅡ	1	1	必修	演習	○	○					○	○								○		○		○		○	○	○	○				
57	HC160U	情報機器演習A	1	1	必修	演習			○					○		○							○	○		○				○	○				
59	HC170U	情報機器演習B	1	1	必修	演習			○					○		○							○	○		○				○	○				
61	EK100U	基礎ゼミⅠ	1	2	必修	演習		○					○	○								○		○		○					○	○			
62	EK110U	基礎ゼミⅡ	1	2	必修	演習		○					○	○								○			○	○					○	○			
71	EK120U	地域社会と子ども	1	2	必修	講義	○	○	○				○	○										○	○	○					○		○	○	○
72	EK130U	教育学概論	1	2	必修	講義		○													○			○									○		
75	EK151U	特別支援教育論	1	2	※	講義		○	○			○									○			○		○					○	○	○	○	○
81	EK160U	日本国憲法	1	2	必修	講義				○											○		○	○		○								○	
85	ES201U	英語学概論	1	2	必修	講義				○											○					○								○	
87	ES210U	英語音声学Ⅰ	1	2	※	演習						○							○		○		○	○	○	○		○						○	
88	ES310U	英語音声学Ⅱ	1	2	※	演習						○							○		○		○	○	○	○		○						○	
89	ES220U	言語教育のための英文法Ⅰ	1	2	※	演習		○				○		○							○		○			○								○	
90	ES320U	言語教育のための英文法Ⅱ	1	2	※	演習		○				○		○							○		○			○								○	
100	EL100U	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ	1	2	※	演習		○				○	○	○		○			○				○	○	○	○								○	
101	EL110U	プラクティカル・イングリッシュ	1	2	※	演習		○				○	○	○		○			○				○	○	○	○								○	
102	EL120U	キッズ・イングリッシュA	1	2	※	演習		○		○		○	○	○		○					○		○	○	○	○								○	
103	EL125U	キッズ・イングリッシュB	1	2	必修	演習		○		○		○	○	○		○					○		○	○	○	○								○	
104	EL130U	シンプル・イングリッシュA	1	2	※	演習		○				○	○										○			○								○	
105	EL135U	シンプル・イングリッシュB	1	2	必修	演習		○				○	○			○							○	○		○								○	
137	EC210U	生活	1	2	※	演習	○	○		○		○	○	○					○			○		○		○							○	○	
138	EC215U	図画工作	1	2	※	演習							○		○						○					○		○					○	○	
144	EC090U	器楽入門	1	1	自由	演習				○			○													○		○						○	
145	EC110U	器楽Ⅰ	1	1	選択	演習							○													○		○					○	○	
149	EC261U	保育内容・環境指導法	1	2	※	演習	○	○	○			○	○	○							○			○	○	○							○	○	
153	EC271U	保育内容・言葉指導法	1	2	※	演習			○			○		○									○	○	○	○	○	○					○	○	
161	EN150U	保育原理	1	2	選択	講義		○					○	○			○				○			○		○					○		○		○
164	EN155U	社会福祉	1	2	選択	講義		○					○								○			○		○							○	○	○
176	EN160U	音楽表現Ⅰ	1	1	選択	演習		○		○		○	○						○				○	○		○								○	
177	EN165U	音楽表現Ⅱ	1	1	選択	演習		○		○		○	○						○				○	○		○								○	
181	ED100U	心理学概論A	1	2	選択	講義		○	○	○	○			○							○			○									○		
182	ED105U	心理学概論B	1	2	選択	講義		○	○	○		○	○								○	○	○	○		○								○	
183	ED110U	臨床心理学概論	1	2	選択	講義						○	○						○			○		○		○					○			○	

子ども教育学科　科目見取表
1・2・3年

科目概要							Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相									Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの								ディプロマポリシー						
							Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習				Exercise 演習			Practice 現場実践																
ページ番号	科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②全学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養を身につけている。	③学科での学びを通して、自ら課題を設定して探究することができる。	④4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	⑤幼児教育及び初等・中等教育において、保育者・教育者の役割や職務内容をよく理解している。	⑥子どもの育ちや発達、英語・英語教育に関する専門的知識に基づき、幼・少・中・高の教育連携、自らの教育観ならびに保育観、子ども観を自分の言葉で語り、実践できる。	⑦子どもの育ちや発達に関する専門的知識に基づき、子どもや保護者に寄り添って自らの教育観ならびに保育観、子ども観を自分の言葉で語り、実践できる。
2	HG200U	北陸学院セミナーⅡ	2	1	必修	演習	○	○	○				○	○										○		○				○	○	○			
5	HG130U	キリスト教人間論Ⅰ	2	1	必修	講義	○		○												○		○	○		○			○	○					
6	HG140U	キリスト教人間論Ⅱ	2	1	必修	講義	○		○												○		○	○		○			○	○					
33	LC100U	中国語Ⅰ	2	1	必選	演習		○		○		○	○						○			○	○	○	○	○				○					
34	LC110U	中国語Ⅱ	2	1	必選	演習		○		○		○	○						○			○	○	○	○	○				○					
35	LF100U	フランス語Ⅰ	2	1	必選	演習		○				○	○			○			○		○				○	○				○					
36	LF110U	フランス語Ⅱ	2	1	必選	演習		○				○	○			○			○		○				○	○				○					
49	HC200U	キャリアデザインⅢ	2	1	選択	演習	○		○				○	○						○		○		○		○			○	○	○	○			
51	HC210U	キャリアデザインⅣ	2	1	選択	演習	○	○	○				○	○		○				○		○		○		○			○	○	○	○			
63	EK200U	プロゼミA	2	2	必修	演習							○	○		○						○			○	○	○				○	○			
64	EK210U	プロゼミB	2	2	必修	演習							○	○		○						○			○	○	○				○	○			
73	EK140U	教職論	2	2	必修	講義		○				○	○								○			○		○							○	○	○
74	EK142U	保育者論	2	2	選択	講義		○	○	○											○			○		○	○	○					○	○	○
76	EK220U	発達心理学	2	2	※	講義		○	○	○											○			○		○					○		○	○	○
77	EK230U	教育心理学	2	2	※	講義		○	○	○											○			○		○					○		○	○	○
80	EK240U	初歩文献講読	2	2	選択	演習								○		○		○						○		○									
82	EK270U	異文化間コミュニケーション論	2	2	選択	講義				○			○	○		○								○	○	○					○			○	
83	EK280U	児童文学	2	2	選択	講義			○	○						○						○			○	○					○			○	
84	EK290U	郷土の文学を楽しむ	2	2	選択	講義			○	○						○						○			○	○					○				
86	ES301U	英語学	2	2	※	講義				○											○					○					○			○	
94	ES250U	コミュニカティブ・イングリッシュA	2	2	※	演習			○		○	○	○	○		○			○				○	○	○	○								○	
95	ES340U	コミュニカティブ・イングリッシュB	2	2	※	演習						○	○	○		○			○		○			○	○							○		○	○
96	ES260U	英語科教育法Ⅰ	2	2	※	演習							○	○	○	○					○		○	○	○	○							○	○	○
97	ES265U	英語科教育法Ⅱ	2	2	※	演習			○				○	○	○	○			○				○	○	○	○							○	○	○
106	EL200U	スピーチ＆ドラマ	2	2	必修	演習						○	○	○		○			○						○	○		○				○		○	
107	EL205U	エクステンシブ・リーディング	2	2	※	演習			○			○				○								○	○	○					○	○		○	
108	EL210U	トラベル・イングリッシュA	2	2	必選	演習			○	○		○	○			○			○				○		○	○								○	
109	EL220U	トラベル・イングリッシュB	2	2	必選	演習			○	○		○	○			○			○				○		○	○								○	
110	EL225U	プレゼンテーション	2	2	※	演習				○		○	○	○		○								○	○	○		○			○	○		○	
118	EE210U	理科	2	2	必選	演習		○					○									○		○		○							○	○	
119	EE200U	社会	2	2	必選	演習	○	○		○		○	○	○					○			○		○		○							○	○	
120	EE215U	家庭	2	2	必選	演習			○			○	○			○					○			○		○		○					○	○	
122	EE311U	算数科指導法	2	2	選択	講義		○					○	○		○								○	○	○							○	○	
123	EE316U	理科指導法	2	2	選択	講義		○					○	○		○								○	○	○							○	○	
125	EE321U	生活科指導法	2	2	選択	講義				○			○	○						○		○		○	○	○							○	○	
126	EE326U	図画工作指導法	2	2	選択	講義			○				○			○					○					○							○	○	
127	EE331U	音楽科指導法	2	2	選択	講義		○		○		○	○	○		○			○					○	○	○		○					○	○	
128	EE336U	家庭科指導法	2	2	選択	講義	○	○	○				○	○		○				○	○			○				○					○	○	
135	EC200U	国語	2	2	※	演習	○			○			○			○			○		○			○		○							○	○	
136	EC205U	算数	2	2	必選	演習		○					○											○		○							○	○	
139	EC220U	音楽	2	2	必選	演習		○		○		○	○						○				○	○		○							○	○	
141	EC228U	英語	2	2	必修	演習		○	○		○		○	○		○							○	○	○	○								○	○
146	EC245U	器楽Ⅱ	2	1	選択	演習							○													○		○					○	○	
147	EC251U	教育課程論	2	2	※	講義							○	○		○	○				○			○		○		○			○		○	○	○
148	EC256U	保育内容総論	2	1	※	演習							○	○		○	○					○		○		○		○			○		○	○	○
151	EC266U	保育内容・健康指導法	2	2	※	演習			○			○		○					○			○	○	○	○	○					○		○	○	○
155	EC276U	保育内容・人間関係指導法	2	2	※	演習		○	○				○	○					○		○			○	○	○		○			○		○	○	○
157	EC281U	保育内容・表現指導法	2	2	※	演習			○			○	○	○										○		○		○			○		○	○	○
162	EN251U	子ども家庭福祉論Ⅰ	2	2	選択	講義		○	○				○	○					○			○	○		○	○							○	○	○
166	EN255U	社会的養護	2	2	選択	講義																○		○		○		○			○		○	○	○
167	EN260U	社会的養護内容	2	2	選択	演習		○	○			○	○	○		○	○		○			○	○	○		○	○	○			○		○	○	○
168	EN266U	子どもの保健	2	2	選択	講義				○		○	○	○							○		○	○		○					○			○	
172	EN275U	乳児保育Ⅰ	2	2	選択	講義		○	○			○	○	○							○			○		○					○		○	○	○
174	EN280U	障がい児保育	2	2	選択	演習			○	○		○				○					○			○	○						○			○	
179	EN285U	児童文化	2	2	選択	演習		○					○			○					○			○	○	○					○			○	
184	ED221U	心理学統計法	2	2	選択	講義		○	○	○		○	○					○			○	○	○	○		○								○	
185	ED231U	心理学実験Ⅰ	2	2	選択	実習						○	○											○		○								○	
186	ED251U	心理学実験Ⅱ	2	2	選択	実習																		○		○					○	○			
187	ED226U	心理学研究法	2	2	選択	講義		○	○	○		○	○					○			○	○	○	○		○								○	
188	ED246U	心理的アセスメント	2	2	選択	講義						○	○						○			○		○		○					○	○		○	
189	ED256U	人格心理学(感情・人格心理学A)	2	2	選択	講義		○	○	○		○										○		○		○					○	○		○	
205	ET201U	教育実習指導Ⅰ（幼）	2	1	選択	演習	○	○	○	○		○	○	○		○			○	○				○	○	○		○					○	○	○
207	ET206U	教育実習Ⅰ（幼）	2	2	選択	実習	○	○	○					○					○	○				○		○		○					○	○	○
215	ET220U	保育実習指導Ⅰ（施設）	2	1	選択	演習	○		○				○			○				○				○	○	○		○					○	○	○
216	ET225U	保育実習Ⅰ（施設）	2	2	選択	実習	○																	○	○	○		○					○	○	○

子ども教育学科　科目見取表
1・2・3年

科目概要							Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相									Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの								ディプロマポリシー						
							Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習				Exercise 演習			Practice 現場実践																
ページ番号	科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②全学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養を身につけている。	③学科での学びを通して、自ら課題を設定して探究することができる。	④4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	⑤幼児教育及び初等・中等教育において、保育者・教育者の役割や職務内容をよく理解している。	⑥子どもの育ちや発達、英語・英語教育に関する専門的知識に基づき、幼・少・中・高の教育連携、自らの教育観ならびに保育観、子ども観を自分の言葉で語り、実践できる。	⑦子どもの育ちや発達に関する専門的知識に基づき、子どもや保護者に寄り添って自らの教育観ならびに保育観、子ども観を自分の言葉で語り、実践できる。
53	HC300U	キャリアデザインⅤ	3	1	選択	演習	○	○				○	○	○		○			○					○	○	○		○	○		○	○	○		
55	HC310U	キャリアデザインⅥ	3	1	選択	演習		○	○			○	○	○					○					○	○	○			○		○	○	○		
65-66	EK300U	専門ゼミⅠ	3	4	必修	演習							○	○		○								○	○	○					○	○		○	○
91	ES231U	英語文学Ⅰ	3	2	※	講義		○	○	○											○		○			○				○					
92	ES331U	英語文学Ⅱ	3	2	選択	講義		○		○		○	○	○	○						○		○	○	○	○				○					
93	ES241U	英語圏の児童文学	3	2	※	講義			○	○			○			○						○	○	○		○								○	○
98	ES350U	英語科教育法Ⅲ	3	2	※	演習			○			○	○	○		○							○	○	○	○							○	○	
99	ES355U	英語科教育法Ⅳ	3	2	※	演習			○	○			○	○					○				○	○	○	○							○	○	
111	EL310U	ムービー・イングリッシュA	3	2	※	演習		○				○	○	○		○			○				○	○	○	○								○	
112	EL320U	ムービー・イングリッシュB	3	2	必選	演習		○				○	○	○		○			○				○	○	○	○								○	
113	EL230U	ビジネス・イングリッシュA	3	2	必選	演習			○	○		○	○			○			○				○	○	○	○								○	
114	EL240U	ビジネス・イングリッシュB	3	2	必選	演習			○	○		○	○			○			○				○	○	○	○								○	
115	EL350U	インテンシブ・リーディング	3	2	※	演習		○	○			○											○	○		○	○							○	
116	EL360U	エッセイ・ライティング	3	2	※	演習		○	○			○											○	○		○	○							○	
117	EL370U	バイブル・イングリッシュ	3	2	必選	演習		○				○		○									○			○								○	
121	EE306U	国語科指導法（書写を含む）	3	2	選択	講義		○	○		○	○	○	○	○	○			○					○	○	○					○	○		○	○
124	EE301U	社会科指導法	3	2	選択	講義				○			○	○						○		○		○	○	○							○	○	
129	EE341U	体育科指導法	3	2	選択	講義			○			○	○	○					○			○		○	○	○					○	○	○	○	○
130	EE346U	英語科指導法	3	2	必修	講義			○			○	○	○					○		○		○	○	○								○	○	
131	EE228U	道徳教育指導論（小中）	3	2	※	講義		○													○	○		○		○									
132	EE238U	教育課程編成論（特別活動を含む）（小中高）	3	2	※	講義		○					○								○			○		○								○	○
133	EE243U	生徒・進路指導論（小中高）	3	2	※	講義		○					○						○			○		○		○							○		○
140	EC225U	体育	3	2	必選	演習						○														○		○			○		○	○	
142	EC230U	教育社会学	3	2	必修	講義		○	○	○												○				○							○		
143	EC238U	教育の方法・技術（総合的な学習の時間の対応を含む）（幼小中高）	3	2	※	講義		○			○					○					○			○		○					○		○		○
150	EC321U	環境	3	2	選択	講義	○	○	○				○	○						○			○	○	○	○					○	○	○	○	○
152	EC326U	健康活動	3	2	選択	講義			○			○	○	○		○			○			○	○	○	○	○					○	○	○	○	○
154	EC331U	言葉	3	2	選択	講義			○			○	○	○			○					○		○	○	○		○			○	○	○	○	○
156	EC336U	人間関係	3	2	選択	講義	○	○	○			○	○	○					○				○	○	○	○								○	○
158	EC341U	表現	3	2	選択	講義			○			○	○	○								○		○	○	○		○			○	○	○	○	○
160	EC350U	子どもの理解と援助	3	1	選択	演習		○	○	○			○						○			○				○		○						○	○
163	EN301U	子ども家庭福祉論Ⅱ	3	2	選択	講義	○	○				○	○	○					○			○	○		○	○								○	○
165	EN306U	家庭支援の心理学	3	2	選択	講義		○	○			○	○	○					○			○			○	○								○	○
169	EN311U	子どもの健康	3	2	選択	演習							○	○					○		○			○										○	○
170	EN315U	子どもの食と栄養	3	2	選択	演習			○	○			○			○					○	○	○	○	○	○								○	○
171	EN320U	家庭支援論	3	2	選択	講義		○	○			○	○	○		○			○				○		○	○		○						○	○
173	EN325U	乳児保育Ⅱ	3	2	選択	演習			○			○	○	○		○					○			○	○	○								○	○
178	EN290U	身体表現	3	1	選択	演習			○			○	○	○		○						○		○		○		○			○	○	○	○	○
180	EN295U	絵本論	3	2	選択	講義		○					○	○		○						○		○	○	○					○			○	
190	ED306U	社会・集団・家族心理学	3	2	選択	講義		○	○	○		○	○			○					○	○	○	○		○								○	
191	ED311U	産業・組織心理学	3	2	選択	講義		○	○	○		○	○			○					○	○	○	○		○								○	
192	ED316U	知覚・認知心理学	3	2	選択	講義		○	○	○		○	○			○					○	○	○	○		○								○	
193	ED321U	感情心理学(感情・人格心理学B)	3	2	選択	講義		○	○	○											○					○								○	
194	ED326U	心理学的支援法	3	2	選択	講義		○	○	○	○	○	○	○					○		○			○									○		
195	ED327U	学校心理学（教育・学校心理学）	3	2	選択	講義			○		○	○	○	○										○		○		○					○		
196	ED336U	障害者・障害児心理学	3	2	選択	講義			○	○		○	○									○		○		○							○		
197	ED331U	心理演習	3	2	選択	演習						○	○			○			○			○		○		○							○		○
199	ED351U	教育史	3	2	必選	講義		○		○												○		○		○							○		
200	ED356U	子どもと法	3	2	必選	講義																											○	○	○
201	ED371U	教育学文献講読A1	3	2	必選	演習								○		○								○	○	○					○	○		○	
202	ED381U	教育学文献講読B1	3	2	必選	演習								○		○								○	○	○					○	○		○	
203	ED393U	教育実践研究A	3	2	必選	講義		○	○	○		○	○	○					○					○	○	○					○		○	○	○
206	ET301U	教育実習指導Ⅱ（幼）	3	1	選択	演習	○	○	○			○	○	○		○			○	○				○	○	○		○					○	○	○
208	ET306U	教育実習Ⅱ（幼）	3	2	選択	実習	○	○	○					○						○				○		○		○					○	○	○
209	ET211U	教育実習指導（小）	3	1	選択	演習	○					○	○	○					○	○				○		○							○	○	○
210	ET216U	教育実習Ⅰ（小）	3	4	選択	実習	○		○	○									○	○				○		○		○					○	○	○
212	ET361U	教育実習指導（中高）	3	1	選択	演習			○				○	○		○			○					○	○	○							○	○	○
213	ET366U	教育実習Ⅰ（中高）	3	4	選択	実習	○		○					○						○				○	○	○							○	○	○
217	ET230U	保育実習指導Ⅰ（保育所）	3	1	選択	演習	○		○			○	○	○		○				○				○	○	○							○	○	○
218	ET235U	保育実習Ⅰ（保育所）	3	2	選択	実習	○		○											○				○	○	○		○					○	○	○
219	ET320U	保育実習指導Ⅱ	3	1	選択	演習	○		○			○	○	○		○				○				○	○	○							○	○	○
220	ET325U	保育実習Ⅱ（保育所）	3	2	選択	実習	○																	○	○	○		○					○	○	○
221	ET330U	保育実習指導Ⅲ	3	1	選択	演習	○		○			○	○	○		○								○	○	○							○	○	○
222	ET335U	保育実習Ⅲ（施設）	3	2	選択	実習	○																	○	○	○							○	○	○

※コースによって異なる

子ども教育学科　科目見取表
4年

科目概要							Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相									Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの								ディプロマポリシー					
							Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習				Exercise 演習			Practice 現場実践																
ページ番号	科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①全学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養を身につけている。	②学科での学びを通して、自ら課題を設定して探究することができる。	③4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	④幼児教育及び初等・中等教育において、保育者・教育者の役割や職務内容をよく理解している。	⑤子どもの育ちや発達、英語・英語教育に関する専門的知識に基づき、幼・少・中・高の教育連携、自らの教育観ならびに保育観、子ども観を自分の言葉で語り、実践できる。	⑥子どもの育ちや発達に関する専門的知識に基づき、子ども観を自分の言葉で語り、実践できる。自らの教育観ならびに保育観、子ども観を自分の言葉で語り、実践できる。
67-68	EK305U	専門ゼミⅡ	4	4	必修	演習							○	○		○						○			○	○			○	○	○	○	○	○	○
69-70	EK360U	卒業研究	4	4	選択	演習							○	○		○						○			○	○			○	○	○	○	○	○	○
78-79	EK350U	キリスト教と教育	4	2	必修	講義	○	○		○			○	○		○			○	○			○	○	○	○				○	○	○	○	○	○
134	EE363U	教育相談（小中高）	4	2	※	講義							○	○		○						○		○	○							○	○	○	○
159	EC345U	幼児理解	4	2	※	演習		○	○			○	○	○					○	○				○	○	○				○	○	○	○	○	○
175	EN331U	子育てと支援	4	2	選択	演習		○	○	○			○						○				○	○		○						○	○	○	○
198	ED341U	選択音楽	4	1	必選	演習				○		○	○						○							○		○							○
204	ED396U	教育実践研究B	4	2	必選	講義	○	○	○	○		○	○	○		○			○					○	○	○		○		○	○	○	○	○	○
211	ET316U	教育実習Ⅱ（小）	4	2	選択	実習																										○	○	○	○
214	ET371U	教育実習Ⅱ（中高）	4	2	選択	実習	○		○					○						○				○	○	○						○	○	○	○
223	ET386U	教職実践演習（幼小中高・保）	4	2	選択	演習			○				○	○		○								○	○	○						○	○	○	○
224	ET340U	介護等体験	4	2	選択	演習	○	○				○								○		○		○		○						○			○

※コースによって異なる

社会学科　科目見取表
1・2・3年

科目概要							Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相									Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの								ディプロマポリシー						
							Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習	Peer 学生間の深化型学習					Exercise 演習			Practice 現場実践																
ページ番号	科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②全学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養を身につけている。	③学科での学びを通して、自ら課題を設定して探究することができる。	④4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	⑤現代社会が直面する問題を、社会学を中心に心理学・社会福祉学などのその他関連領域の理論と実証的データに基づいて理解できる。	⑥現代社会が直面する問題の解決のために、自ら設定した課題を探求し、貢献できる。	⑦現代社会が直面する問題の解明のために、実験・社会調査・フィールドワークができる。
1	HG100U	北陸学院セミナーⅠ	1	1	必修	演習	○			○			○	○		○								○		○			○	○	○				
3	HG110U	キリスト教概論Ⅰ	1	1	必修	講義		○				○											○	○		○			○	○	○				
4	HG120U	キリスト教概論Ⅱ	1	1	必修	講義		○				○											○	○		○			○	○	○				
7	GE100U	総合教養AⅠ	1	2	必選	講義																		○		○				○					
8	GE110U	総合教養AⅡ	1	2	必選	講義																		○		○				○					
9	GE120U	総合教養BⅠ	1	2	必選	講義			○													○		○		○				○					
10	GE130U	総合教養BⅡ	1	2	必選	講義			○													○		○		○				○					
11	GE140U	総合教養CⅠ	1	2	必選	講義																	○							○					
12	GE150U	総合教養CⅡ	1	2	必選	講義																	○							○					
13	GE160U	総合教養DⅠ	1	2	必選	講義		○				○	○	○		○					○		○	○	○						○	○			
14	GE170U	総合教養DⅡ	1	2	必選	講義		○				○	○	○		○					○		○	○	○						○	○			
15	LJ090U	◆日本語基礎	1	1	自由	演習		○	○	○		○	○	○		○			○		○	○		○	○	○				○		○			
16	LJ110U	日本語表現法Ⅰ	1	1	必修	演習		○	○	○		○	○	○		○			○		○	○		○	○	○				○		○			
17	LJ120U	日本語表現法Ⅱ	1	1	必修	演習		○	○	○		○	○	○		○	○					○		○	○	○				○		○			
18	LE090U	◆英語基礎	1	1	自由	演習			○			○	○			○							○		○	○		○		○		○			
19	LE155U	英語AⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○		○		○			
20	LE160U	英語AⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○		○		○			
21	LE145U	英語BⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○		○		○			
22	LE150U	英語BⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○		○		○			
23	LE135U	英語CⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
24	LE140U	英語CⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
25	LE125U	英語DⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
26	LE130U	英語DⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
27	LE115U	英語EⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
28	LE120U	英語EⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
29	LE105U	英語FⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
30	LE110U	英語FⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
31	LE165U	ｱｸﾃｨﾌﾞｲﾝｸﾞﾘｯｼｭA	1	1	選択	集中				○		○	○			○								○	○	○		○		○		○			
32	LE175U	ｱｸﾃｨﾌﾞｲﾝｸﾞﾘｯｼｭC	1	3	選択	集中				○						○				○				○	○	○		○		○		○			
37-40	PE100U	生涯スポーツA	1	1	必修	実技																				○		○		○	○				
41-43	PE110U	生涯スポーツB	1	1	必修	実技																				○		○		○	○				
44	PE120U	健康科学	1	2	必修	講義															○			○		○				○	○				
46	HC100U	キャリアデザインⅠ	1	1	必修	演習			○				○	○		○								○	○	○					○	○		○	
48	HC110U	キャリアデザインⅡ	1	1	必修	演習			○				○	○		○								○	○	○					○	○			
58	HC160U	情報機器演習A	1	1	必修	演習									○			○								○		○		○		○			
60	HC170U	情報機器演習B	1	1	必修	演習									○			○					○		○	○				○		○			
225	SK100U	基礎ゼミⅠ	1	2	必修	演習						○	○	○		○	○					○		○	○	○	○					○			
226	SK105U	基礎ゼミⅡ	1	2	必修	演習										○	○					○		○	○	○					○	○			
229	SK110U	社会学リレー講義	1	2	必修	講義																		○		○	○					○			
230	SK115U	社会学概論A	1	2	必修	講義		○						○		○					○			○	○								○		
231	SK120U	社会学概論B	1	2	必選	講義			○	○			○	○								○		○		○							○		
232	SK125U	社会調査論	1	2	必修	講義		○													○			○		○							○		
233	SK130U	社会調査法	1	2	必選	講義		○													○			○		○							○		
234	SK135U	統計データの読み方	1	2	必修	講義		○	○	○			○			○						○	○		○	○					○		○	○	○
236	SO100U	データ処理基礎	1	2	選択	演習		○	○	○			○			○						○	○		○	○					○		○	○	○
242	SO105U	文化人類学	1	2	選択	講義		○					○										○	○		○							○		
243	SO110U	現代社会と福祉Ⅰ	1	2	選択	講義		○				○	○								○			○		○							○		
244	SO115U	現代社会と福祉Ⅱ	1	2	選択	講義		○				○	○								○			○		○							○		
245	SO120U	心理学概論A	1	2	選択	講義		○	○	○	○			○							○			○									○		
246	SO125U	心理学概論B	1	2	選択	講義		○	○	○											○			○									○		
255	SL105U	経営学入門	1	2	選択	講義															○		○			○							○		
259	SL115U	児童福祉論	1	2	選択	講義		○	○	○											○		○			○							○		
261	SL120U	障害者福祉論	1	2	選択	講義			○													○	○	○		○	○						○		
266	SP100U	臨床心理学概論	1	2	選択	講義						○	○						○			○		○		○					○		○	○	
281	SB100U	生涯学習概論	1	2	選択	講義			○			○	○	○		○				○		○		○	○	○						○	○		
285	ST100U	公認心理師の職責	1	2	選択	講義		○		○				○		○					○			○		○							○		

社会学科　科目見取表
1・2・3年

科目概要							Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相									Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの								ディプロマポリシー						
							Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習				Exercise 演習			Practice 現場実践																
ページ番号	科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②全学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養を身につけている。	③学科での学びを通して、自ら課題を設定して探究することができる。	④4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	⑤現代社会が直面する問題を、社会学を中心に心理学・社会福祉学などのその他関連領域の理論と実証的データに基づいて理解できる。	⑥現代社会が直面する問題の解決のために、自ら設定した課題を探求、貢献できる。	⑦現代社会が直面する問題の解明のために、実験・社会調査・フィールドワークができる。
2	HG200U	北陸学院セミナーⅡ	2	1	必修	演習	○						○	○										○		○			○	○	○				
5	HG130U	キリスト教人間論Ⅰ	2	1	必修	講義	○		○												○		○	○		○			○	○						
6	HG140U	キリスト教人間論Ⅱ	2	1	必修	講義	○		○												○		○	○		○			○	○						
33	LC100U	中国語Ⅰ	2	1	必選	演習		○		○		○	○						○				○	○	○	○				○						
34	LC110U	中国語Ⅱ	2	1	必選	演習		○		○		○	○						○			○	○	○	○	○				○						
35	LF100U	フランス語Ⅰ	2	1	必選	演習		○				○	○			○			○		○				○	○				○						
36	LF110U	フランス語Ⅱ	2	1	必選	演習		○				○	○			○			○		○				○	○				○						
50	HC200U	キャリアデザインⅢ	2	1	必修	演習			○				○	○		○								○	○	○					○	○		○	
52	HC210U	キャリアデザインⅣ	2	1	必修	演習	○	○	○	○		○	○	○		○				○		○	○	○	○	○					○	○		○	○
227	SK200U	プロゼミA	2	2	必修	演習																○		○		○						○	○		
228	SK205U	プロゼミB	2	2	必修	演習							○	○		○						○				○	○					○	○		
235	SK210U	質的研究法	2	2	選択	講義							○			○				○	○			○	○								○		○
237	SO201U	心理学統計法	2	2	選択	講義		○	○	○		○	○								○			○									○		○
238	SO205U	社会学理論	2	2	選択	講義				○												○	○			○							○		
239	SO210U	家族社会学	2	2	選択	講義							○	○		○					○			○	○								○		
240	SO215U	都市社会学	2	2	選択	講義		○						○								○		○									○		
241	SO220U	環境社会学	2	2	選択	講義		○		○			○								○		○	○		○							○		
247	SC200U	宗教と社会	2	2	選択	講義			○				○										○	○		○			○	○	○		○		
248	SC215U	多文化共生論	2	2	選択	講義		○						○								○		○									○		
249	SC220U	グローバル社会論	2	2	選択	講義		○					○			○																			
250	SC315U	社会病理学	2	2	選択	講義		○	○	○				○							○			○		○							○		
251	SL225U	経済学Ⅰ	2	2	選択	講義								○									○			○				○	○	○	○		
252	SL230U	経済学Ⅱ	2	2	選択	講義								○									○			○				○	○	○	○		
253	SL315U	政治学	2	2	選択	講義		○	○	○											○		○	○		○					○	○	○	○	
254	SL320U	地域社会政策論	2	2	選択	講義		○					○								○		○	○		○							○		
256	SL200U	社会貢献論	2	2	選択	講義		○		○			○								○		○	○		○							○		
257	SL235U	環境と開発	2	2	選択	講義		○		○			○								○		○	○		○							○		
258	SL245U	地域福祉と包括的体制Ⅰ	2	2	選択	講義		○		○				○		○					○		○	○	○	○							○	○	
260	SL205U	高齢者福祉論	2	2	選択	講義		○				○	○								○			○		○							○		
262	SL240U	社会保障論	2	2	選択	講義				○											○			○		○							○		
263	SL215U	障害者スポーツ	2	2	選択	講義			○											○		○	○	○		○	○						○		
264	SL100U	図書館概論	2	2	選択	講義															○		○			○							○		
265	SL220U	情報技術論	2	2	選択	講義															○					○							○		
267	SP201U	心理学実験Ⅰ	2	2	選択	実習						○	○											○		○							○		○
268	SP206U	心理学実験Ⅱ	2	2	選択	実習																		○		○							○		○
269	SP211U	心理学研究法	2	2	選択	講義		○	○	○		○	○									○	○	○									○		○
270	SP216U	心理的アセスメント	2	2	選択	講義						○	○						○			○		○		○					○	○	○	○	○
271	SP225U	発達心理学	2	2	選択	講義		○	○	○											○			○		○					○		○	○	
272	SP230U	教育心理学	2	2	選択	講義		○	○	○											○			○		○					○		○	○	
273	SP236U	人格心理学（感情・人格心理学A）	2	2	選択	講義		○	○	○		○										○		○		○					○		○	○	
274	SW201U	ソーシャルワークの基盤と専門職	2	2	選択	講義						○	○	○		○							○	○		○							○		
275	SW206U	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2	2	選択	講義						○	○	○		○							○	○		○							○		
276	SW211U	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	2	選択	講義						○	○	○		○							○	○		○							○		○
277	SW221U	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	2	選択	演習		○				○	○						○		○			○	○	○							○		○
278	SW226U	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	2	選択	演習		○				○	○								○			○	○	○							○		○
279	SW351U	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	2	選択	演習		○				○	○											○	○	○							○	○	○
280	SW366U	ソーシャルワーク実習Ⅰ	2	1	選択	実習	○													○				○		○		○					○	○	○
282	SB200U	図書館サービス概論	2	2	選択	講義															○			○		○							○		
283	SB205U	情報サービス論	2	2	選択	講義															○		○			○							○		
284	SB210U	情報資源組織論	2	2	選択	講義															○		○			○							○		
286	ST200U	学習・言語心理学	2	2	選択	講義			○				○	○								○		○									○		
287	ST205U	神経・生理心理学	2	2	選択	講義																		○									○		
288	ST210U	人体の構造と機能及び疾病	2	2	選択	講義		○	○			○			○						○					○							○		

社会学科　科目見取表
1・2・3年

科目概要							Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相									Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの								ディプロマポリシー						
							Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習				Exercise 演習			Practice 現場実践																
ページ番号	科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②全学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養を身につけている。	③学科での学びを通して、自ら課題を設定して探究することができる。	④4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	⑤現代社会が直面する問題を、社会学を中心に心理学・社会福祉学などのその他関連領域の理論と実証的データに基づいて理解できる。	⑥現代社会が直面する、問題の解決のために、自ら設定した課題を探求、貢献できる。	⑦現代社会が直面する問題の解明のために、実験・社会調査・フィールドワークができる。
54	HC300U	キャリアデザインⅤ	3	1	必修	演習		○	○				○	○										○		○		○			○	○		○	
56	HC310U	キャリアデザインⅥ	3	1	必修	演習		○	○				○	○		○								○	○	○					○	○		○	
289-290	SK300U	専門ゼミⅠ	3	4	必修	演習																○				○					○	○	○	○	○
291	SO300U	応用心理社会統計法	3	2	選択	講義		○	○	○		○	○								○			○									○		○
292-293	SO305U	社会調査実習	3	4	選択	実習		○					○									○				○								○	○
294	SC300U	石川の伝統文化と産業	3	2	必選	演習	○	○					○			○							○	○	○	○								○	○
295	SC305U	教育社会学	3	2	選択	講義		○	○	○												○				○							○		
296	SC310U	犯罪社会学	3	2	選択	講義		○	○	○			○	○	○	○		○			○				○	○						○		
297	SC320U	メディア文化論	3	2	選択	講義	○	○		○			○								○			○		○							○		
298	SL300U	地域行政入門	3	2	必選	演習		○	○	○		○	○							○		○	○			○					○	○	○	○	○
299	SL310U	法律学	3	2	選択	講義		○	○	○		○		○							○					○							○		
300	SL325U	社会貢献実習	3	2	選択	実習	○						○	○		○				○		○				○					○			○	○
301	SL330U	地域環境マネジメント論	3	2	必選	演習	○	○	○	○			○	○		○						○	○	○	○	○					○			○	○
302	SL335U	マーケティング論	3	2	選択	講義															○		○			○							○		
303	SP306U	社会・集団・家族心理学	3	2	選択	講義		○	○	○		○	○								○			○									○		
304	SP311U	産業・組織心理学	3	2	選択	講義		○	○	○		○	○								○			○									○		
305	SP316U	知覚・認知心理学	3	2	選択	講義		○	○	○		○	○								○			○									○		
306	SP321U	感情心理学（感情・人格心理学B）	3	2	選択	講義		○	○	○		○				○					○					○							○		
307	SP326U	障害者・障害児心理学	3	2	選択	講義		○	○	○	○	○	○	○					○			○		○									○		○
308	SP331U	心理学的支援法	3	2	選択	講義		○	○	○	○	○	○	○					○		○			○									○		
309	SP332U	学校心理学（教育・学校心理学）	3	2	選択	講義			○		○	○	○	○										○		○		○					○		
310	SP336U	心理演習	3	2	選択	演習						○	○			○			○			○		○		○							○		○
311	SW300U	相談援助の理論と方法Ⅲ	3	2	選択	講義		○				○	○								○			○		○							○		
312	SW305U	相談援助の理論と方法Ⅳ	3	2	選択	講義		○				○	○								○			○		○							○		
313	SW325U	保健医療サービス	3	2	選択	講義		○				○	○	○							○			○		○							○		
314	SW330U	就労支援サービス	3	1	選択	講義			○													○	○			○							○		
315	SW335U	相談援助演習Ⅲ	3	2	選択	演習		○	○			○	○	○		○		○	○				○	○	○	○							○		
316	SW340U	相談援助演習Ⅳ	3	2	選択	演習		○	○			○	○	○		○		○	○				○	○	○	○							○		
317	SW355U	相談援助実習指導Ⅱ	3	2	選択	演習		○				○	○																						
318	SW360U	相談援助実習指導Ⅲ	3	2	選択	演習		○				○	○																						
319	SW370U	相談援助実習Ⅱ	3	3	選択	実習	○													○															
320	SS300U	精神保健学	3	2	選択	講義																○	○	○		○	○						○		
321	SS305U	スクールソーシャルワーク論	3	2	選択	講義			○													○	○	○		○	○						○		
322	SB300U	児童サービス論	3	2	選択	講義	○	○	○	○											○			○		○							○		
323	SB305U	図書館制度・経営論	3	2	選択	講義	○	○	○	○											○			○		○							○		
324	SB310U	情報サービス演習Ⅰ	3	1	選択	演習		○																○		○							○		○
325	SB315U	情報サービス演習Ⅱ	3	1	選択	演習		○								○								○	○	○							○		○
326	SB320U	情報資源組織演習Ⅰ	3	1	選択	演習																		○		○							○		
327	SB325U	情報資源組織演習Ⅱ	3	1	選択	演習										○								○	○	○							○		○
328	SB330U	図書館情報資源概論	3	2	選択	講義															○					○							○		
329	SB335U	図書・図書館史	3	2	選択	講義															○					○							○		
330	ST300U	福祉心理学	3	2	選択	講義		○	○			○	○	○					○			○	○			○					○		○	○	
331	ST305U	司法・犯罪心理学	3	2	選択	講義				○		○	○	○								○	○		○	○					○		○	○	
332	ST315U	健康・医療心理学	3	2	選択	講義		○	○			○	○	○							○		○	○							○		○	○	
333	ST320U	関係行政論	3	2	選択	講義			○			○	○			○					○		○			○					○		○	○	

社会学科　科目見取表
4年

科目概要							Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相									Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの								ディプロマポリシー					
							Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習				Exercise 演習			Practice 現場実践															
ページ番号	科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①全学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養を身につけている。	②学科での学びを通して、自ら課題を設定して探究することができる。	③4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	④現代社会が直面する問題を、社会学を中心に心理学・社会福祉学などのその他関連領域の理論と実証的データに基づいて理解できる。	⑤現代社会が直面する問題の解決のために、自ら設定した課題を探求し、貢献できる。	⑥現代社会が直面する問題の解明のために、実験・社会調査・フィールドワークができる。
334-335	SK305U	専門ゼミⅡ	4	4	必修	演習																		○	○	○				○	○	○	○	○
336-337	SK310U	卒業研究	4	4	選択	演習																		○	○	○				○	○	○	○	○
338	SW310U	福祉行財政と福祉計画	4	2	選択	講義		○		○			○			○					○		○	○									○		
339	SW315U	福祉サービスの組織と経営	4	2	選択	講義			○	○												○				○							○		
340	SW320U	公的扶助論	4	2	選択	講義						○		○								○				○							○		
341	SW345U	相談援助演習Ⅴ	4	2	選択	演習		○				○	○	○		○		○	○		○			○	○	○							○		
342	SW355U	相談援助実習指導Ⅱ	4	2	選択	演習		○				○	○											○	○	○							○	○	○
343	SW360U	相談援助実習指導Ⅲ	4	2	選択	演習		○				○	○											○	○	○							○	○	○
344	SW370U	相談援助実習Ⅱ	4	3	選択	演習	○													○				○		○		○					○	○	○
345	SS310U	スクールソーシャルワーク演習	4	1	選択	演習		○	○			○	○	○		○			○				○	○	○	○							○		
346	SS315U	スクールソーシャルワーク実習指導	4	1	選択	演習		○				○	○											○	○	○							○	○	○
347	SS320U	スクールソーシャルワーク実習	4	2	選択	実習	○													○				○		○		○					○	○	○
348	SB340U	図書館実習	4	1	選択	実習														○				○		○								○	○
349	ST400U	心理実習	4	2	選択	実習	○		○											○								○					○	○	○

2022年度　実務経験のある教員による授業科目一覧

【子ども教育学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要	掲載ページ
伊藤　雄二	・海外（イタリア・ミラノ）日本人学校の小・中学部の教員として3年間勤務 ・公立及び国立大学附属中学校教員として23年勤務 ・国立大学附属高等学校教員として11年勤務 ・2020年度より、石川県英語教育指導アドバイザーとして学校現場の巡回指導を行っている。 ・2018年度より県内中学校・高等学校の英語教員のための授業研究会を主宰し、英語による授業（Oral Method）の具体的方法を広めている。	地域社会と子ども	2	中学校教員の経験をもとに、中学校の現場で起きた問題をテーマにしてグループディスカッションを行っている。また、授業参観のための事前・事後指導を行っている。	71
		言語教育のための英文法Ⅰ	2	中学・高等学校の教員の経験をもとに、現場で実際に起きた生徒のつまづき（特に文法）とその対応策を大学の授業に生かしている。また、文法用語を極力使用せずにわかりやすい説明を心掛けている。	89
		言語教育のための英文法Ⅱ	2	中学・高等学校の教員の経験をもとに、現場で実際に起きた生徒のつまづき（特に文法）とその対応策を大学の授業に生かしている。また、学生自身の文法力をメタ認知させるよう心掛けている。	90
		コミュニカティブ・イングリッシュA	2	中学・高等学校の教員の経験をもとに、現場で実際に起きた生徒のつまづき（特に発表活動）とその対応策を大学の授業に生かしている。また、プレゼン用ソフトを用いた、発表活動を取り入れている。	94
		英語	2	小学校における英語教育の経験を学生に話し、中学・高校との違いを気付かせ、学生自身の小学校で英語を教えるための資質向上に役立てている。	141
		英語科教育法Ⅱ	2	中学校教員の経験をもとに、中学校の現場で実際に行った授業を再現し、学生の模擬授業の一助としている。	97
		英語科教育法Ⅲ	2	・中学校・高校の現場で実際に行った授業を再現し、学生の模擬授業の一助としている。 ・中学校・高校の現場で実際に起きた問題をテーマにグループディスカッションを行っている。	98
		教育実習指導（中高）	1		212
		教職実践演習（幼小中高・保）	2	小中高における指導経験を活かし、学生が深めたいと思う今日的課題に対するアドバイスを行い、足りない資質を発見できるよう支援している。	223
		アクティブ・イングリッシュB	2	3年間のイタリア滞在経験を活かし、コミュニケーション力の必要性や国際理解の大切さを話し、学生が充実した海外生活（約2週間）を実現するための一助としている。	
岡田　文貴	社会福祉事業に35年以上勤務し、その中で障害児の相談援助や直接支援に5年勤務	社会福祉	2	社会福祉事業における勤務経験を活かし、社会福祉従事者に必要な価値観・態度・知識・情報・技術などについて説明し、これらの知識は保育分野でも有効であることを伝えている。	164
川真田　早苗	・小学校教諭として33年勤務した ・ソニー科学教育研究会(SSTA)では10年間企画研修委員として理科授業の改善に取り組んだ。現在も、関わり活動している。 ・2013年よりモザンビーク国の理科教育研修の講師を務めている。	理科	2	小学校における勤務経験及び平成29年小学校学習指導要領理科執筆の経験をもとに、小学校学習指導要領理科の目標の構造及び内容について体系的に取り上げ、理解を深めている。	118
		算数科指導法	2	小学校における勤務経験及び算数教育研究校での研究主任の経験をもとに、小学校学習指導要領算数科の目標・内容と関連付けた実践を例示・説明している。これをもとに、学生には、教材研究、指導案作成、模擬授業を行わせている。	122
		理科指導法	2	小学校における勤務経験及び平成29年小学校学習指導要領理科執筆の経験をもとに、小学校学習指導要領理科の目標・内容と関連付けた実践を例示・説明している。これをもとに、学生には、教材研究、指導案作成、模擬授業を行わせている。	123
		算数	2	小学校における勤務経験及び算数教育研究校での研究主任の経験をもとに、小学校学習指導要領算数科の目標の構造及び内容について体系的に取り上げ、理解を深めている。	136
		教育課程編成論（特別活動を含む）（小中高）	2	小学校での研修主任の経験をもとに、教育課程編成の意義や方法及び江戸後期からこれまでの日本の教育及び学習指導要領の変遷について説明し、平成29年学習指導要領のねらいを実現するためにはどのような教育課程を編成するかについてディスカッションを行っている。	132
		教育実習指導（小）	1	・小学校教諭としての経験をもとに、児童の発達段階に応じた教員の支援について具体的に伝達している。 ・小学校での教育実習生受け入れ教員としての経験をもとに、教育実習生としての心構え・実習での態度及び教員・児童・保護者に対する対応について具体的に伝達している。	209

2022年度　実務経験のある教員による授業科目一覧

【子ども教育学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要	掲載ページ
楠本　史郎	・日本基督教団牧師経験42年勤務（教会担任教師として28年勤務・教務教師として14年勤務） ・幼稚園園長として30年勤務 ・金沢刑務所宗教教誨師として18年勤務	キリスト教概論Ⅰ	1	牧師として聖書・キリスト教研究の成果を、幼稚園園長・宗教教誨師としての経験を実例として挙げつつ、キリスト教人間観・歴史観・教育観について講義し、学生にレスポンスペーパー記入を義務付け、それに応える形で授業を進めている。	3
		キリスト教概論Ⅱ	1		4
		キリスト教と教育	2		78-79
齊藤　英俊	臨床心理士、非常勤のカウンセラー（主にスクールカウンセラー・学生相談員）として12年間勤務	発達心理学	2	スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例をもとに発達課題などのテーマと関連づけて紹介し、子どもへの関わり方について検討する時間を設けている。	76
		教育心理学	2	スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例（いじめや不登校など）をもとに、子どもへの関わり方や解決策について検討する時間を設けている。	77
		家庭支援の心理学	2	心理実践の経験をもとに、事例などをテーマにしたワークやディスカッションを通して家族の理解や家族支援について心理的視点から説明している。	165
		心理演習	2	心理実践の経験をもとに、事例などをテーマにしたワークやディスカッションを通して心理面接の演習を行う。	197
		幼児理解	2	心理実践の経験をもとに、事例などをテーマにしたワークやディスカッションを通して子ども理解における心理的視点について説明している。	159
側垣　二也	児童養護施設に40年以上勤務	社会的養護	2	児童養護施設における自身の勤務経験を踏まえつつ、現代社会にある児童と家庭の問題、課題について講義を行っている。	166
髙村　真希	・保育士として12年勤務 ・日保協幼児教育実践研究会 グループ研究アドバイザー（2019年度） ・金沢市保育部会　保育士会　ブロック研究アドバイザー（2020年4月から2022年3月）	地域社会と子ども	2	保育士としての経験をもとに、保育施設（主に保育所）とはどういった施設であるのか、保育者の役割とその重要性についてを説明している。また乳幼児が保育施設においてどのように生活しているのかについても説明し、事前事後の検討会をしている。	71
		保育内容・言葉指導法	2	保育士としての経験をもとに、乳幼児の言葉の発達について、保育現場での事例（動画）を基に具体的に指導を行っている。また、実際に視聴覚教材を使用しての実践を行い、学生自身が子どもになり体感する機会を設けている。	153
		言葉	2	保育現場での事例を基にディスカッションし、今後、保育者に求められる資質（子どもの言葉を捉える力と育む力）とは何かをグループ・ペアで討議している。	154
		乳児保育Ⅱ	2	保育現場での経験や保育現場から提供いただいた動画を基に、子どもの生活と遊びを支える環境について、具体的な実践事例を提示し紹介する。また，その動画をもとに検討を行っている。	173
		保育実習指導Ⅰ（保育所）	1	保育所実習Ⅰへ向けて、乳幼児の発達や保育所の日常を振り返り、保育所とはどのような施設であるのか、保育者に求められる力をグループで討議している。また、一人一人を丁寧に見つめる視点について、保育現場の動画や写真を基に考える機会を設けている。	217
		保育実習指導Ⅱ	1	保育所実習Ⅱへ向けて、保育現場の現代的課題を再整理し、指導案を立てる中で実践からの学びをグループで討議し、意識を高めている。また、一人一人の発達を踏まえた関わり、保育現場の動画や写真を基に考える機会を設けている。	219
		教職実践演習（幼小中高・保）	2	保育士としての経験をもとに、保育現場で求められている力や現代的課題を追求し、グループによるディスカッションを行っている。また、4年間の学びの中でうまれた保育観を深める機会を設けている。	223
谷　昌代	・幼稚園、幼保連携型認定こども園、保育所等乳幼児教育保育施設にて約14年間勤務。 ・金沢市教育プラザ統合保育巡回指導員を2018年度より担当。 ・初任～3年目対象保育士訪問サポート研修担当。 ・保育士等キャリアアップ研修講師を2019年度より担当。	総合教養ＡⅠ	2	幼稚園教諭、保育教諭、子育て支援の経験をもとに、乳幼児と保護者の周辺で起こっている出来事について実際の事例を通して紹介し、乳幼児の育ち合う姿をビデオ映像などを通して伝えている。	7
		総合教養ＡⅡ	2	幼稚園教諭、保育教諭、子育て支援の経験をもとに、乳幼児と保護者の周辺で起こっている出来事について実際の事例を通して紹介し、乳幼児の育ち合う姿をビデオ映像などを通して伝えている。	8
		キャリアデザインⅡ	1	子どもに関わるイベント運営に向けて学生たちが個々の能力を発揮しつつ、グループでの協働の体験を積む。保育者、教育者を目指す者として、子どもとの関わりから様々に感じ、身に付けたい力に気付いていく機会としたい。	47

2022年度　実務経験のある教員による授業科目一覧

【子ども教育学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要	掲載ページ
谷　昌代	・幼稚園、幼保連携型認定こども園、保育所等乳幼児教育保育施設にて約14年間勤務。 ・金沢市教育プラザ統合保育巡回指導員を2018年度より担当。 ・初任～3年目対象保育士訪問サポート研修担当。 ・保育士等キャリアアップ研修講師を2019年度より担当。	特別支援教育論	2	保育の現場で関わってきた気になる子どもたちの姿や発達障害児の事例を紹介し、当該児の見え方や感じ方、援助について考え、多様な子どもたちと実践的に関わっていくための理解を深める。	75
		保育内容・人間関係指導法	2	幼稚園教諭、保育教諭の経験をもとに、学生たちが実践する模擬保育を通して学ぶ中で、実際の子どもの姿を事例として紹介していく。	155
		乳児保育Ⅰ	2	保育教諭、子育て支援の経験をもとに、乳児保育の意義や役割について現代の課題と共に歴史的背景と照らし合わせて伝えていく。乳児の発達や生活の捉え方をビデオ映像や保育事例を通して伝え、乳児期の人と関わりの質について考えていく。	172
		人間関係	2	ヒトと関わりながら生きていることを幼少期からの学生自身のエピソードや実習記録、保育場面のビデオ分析等を中心に捉え話し合う。また、個・集団・仲間などの捉え方を実際の遊びや体験と通して感じる機会となるよう提供している。	156
		幼児理解	2	子どもを様々な側面から理解するということを事例を通して学ぶ。実際の子どもの関わり場面（実際の保育現場ビデオ）から、学生自身が分析し、子どもを理解することの意味や難しさを知る。	159
		教職実践演習（幼小中高・保）	2	乳幼児を取り巻く環境、子育て支援等保育、教育についての諸問題に学生自身が課題意識を持ち、仲間との活動や討議を重ね学びを深めていく機会を提供する。その中で多様な考えに触れ、自身の子ども観や保育観への気付きとなることに期待したい。	223
徳田　茂	障害児通園施設に45年以上勤務	障がい児保育	2	障害のある子どもの育ちの援助についてより理解を深められるよう、障害児福祉施設における自身の勤務経験をもとに、事例を取り入れ、講義を行っている。	174
中島　賢介	・高等学校で国語科教諭として5年間勤務 ・北陸学院小学校校長として3年間勤務	総合教養ＡⅠ	2	高等学校の国語科における文学指導、北陸学院小学校における読書推進活動で得た経験を活用する。	7
		国語	2	小学校における勤務経験をもとに、小学校の国語科の授業で取り上げられている事柄について取り上げ、理解を深めている。	135
		キャリアデザインⅤ	1	高等学校における進路指導の経験や小学校校長としての現任研修の経験をもとに、社会人として自己課題の明確化と、自己課題に対する主体性ある取組みの必要性を具体性を挙げて講義する。	53
		キャリアデザインⅥ	1	高等学校における進路指導の経験や小学校校長としての現任研修の経験をもとに、社会人として自己課題の明確化と、自己課題に対する主体性ある取組みの必要性を具体性を挙げて講義する。	55
		キリスト教と教育	2	小学校における勤務経験をもとに、北陸学院小学校でのキリスト教育の経験を授業内で紹介し、協議する。	78-79
中野　聡	小学校、中学校の教員として30年以上勤務	総合教養ＡⅠ	2	小学校での指導経験を踏まえて、具体的な事例を紹介しながら小学校外国語・英語科の大切にすべきことを指導している。	7
		総合教養ＡⅡ	2	小学校での指導経験を踏まえて、具体的な事例を紹介しながら小学校外国語・英語科の大切にすべきことを指導している。	8
		英語ＥⅠ	1	小中学校での指導経験を生かしてプロジェクト活動や様々なペアアーク、グループワークを取り入れて意見が発表できるように指導している。	27
		英語ＥⅡ	1	小中学校での指導経験を生かしてプロジェクト活動や様々なペアアーク、グループワークを取り入れて意見が発表できるように指導している。	28
		地域社会と子ども	2	小中学校の経験を生かして、今日的課題を発見し対処方法について考えて、自分の言葉で語るように指導している。	71
		シンプル・イングリッシュA	2	小中学校での経験を生かして4技能統合型の様々な活動を通して総合的なコミュニケーション能力を効果的に育成するための指導をしている。	104
		シンプル・イングリッシュB	2	小中学校での経験を生かして4技能統合型の様々な活動を通して総合的なコミュニケーション能力を効果的に育成するための指導をしている。	105

2022年度　実務経験のある教員による授業科目一覧

【子ども教育学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要	掲載ページ
中野　聡	小学校、中学校の教員として30年以上勤務	英語	2	小中学校での経験を生かして授業場面の具体を紹介して幼・保・小学校における外国語活動・英語科の授業をするために必要な教科に関する専門事項としての「英語力」「知識」及び「実践的活動」を身に付けるための指導をしている。	141
		英語科指導法	2	小中学校での経験を生かして授業場面の具体を紹介して幼・保・小学校における外国語活動・英語科の授業をするために必要な教科に関する専門事項としての「英語力」「知識」及び「実践的活動」を身に付けるための指導をしている。	130
		インテンシブ・リーディング	2	中学校での経験を生かして、精読を中心としながらもある程度の分量を継続的に読んでいくこと、読み取った文の中で自分のものとしたい表現についてポートフォリオにしていく指導をしている。	115
		エッセイ・ライティング	2	中学校での経験を生かして、パラグラフも意識した構成ができりるように指導する。また、学生自身が自分の作品を読み返す、あるいはクラスメイトと読み合う機会を設けることで、自ら間違いやすいところを意識して、改善できるように指導していく。	116
		教育実践研究A	2	小中学校での経験を生かして模擬授業指導案の作成と実践を通して、教師として必要な資質・能力、学び続ける姿勢を身に付けるための指導をしている。	203
福江　厚啓	・公立小学校教諭9年間、国立幼稚園教諭9年間の実務経験 ・3歳～12歳までの担任および特別支援学級担任（知障・自情）、特別支援教育コーディネーター、就学指導担当、副教務、情報教育主担等	総合教養ＡⅠ	2	幼稚園、小学校の教諭としての経験をもとに、絵本の中の子どもの姿、幼稚園や小学校における実際の子どもの姿を紹介し、「物語論的」に子どもの内面世界を見取ることの豊かさについて話題提供している。	7
		総合教養ＡⅡ	2	幼稚園、小学校の教諭としての経験をもとに、絵本の中の子どもの姿、幼稚園や小学校における実際の子どもの姿を紹介し、「物語論的」に子どもの内面世界を見取ることの豊かさについて話題提供している。	8
		キャリアデザインⅡ	1	市内小学校におけるイベント運営の場を設け、事業計画、予算立案、準備、運営、振り返り、引継という一連のプロセスを経験させることで、子どもにかかわる専門職に必要な資質・能力を磨く経験の場を提供している。	47
		生活	2	小学校教諭の経験をもとに、小学校における実践を紹介し、グループ討議等に利用。また、大学生版アレンジとして演習を行っている。	137
		社会	2		119
		社会科指導法	2	小学校教諭の経験をもとに、小学校における実践を例示し、教材研究、指導案作成の手がかりとしている。	124
		生活科指導法	2		125
		教育実践研究A	2	小学校教諭の経験をもとに、小学校における「学級づくり」の好事例を紹介し、授業づくり、学級づくりのヒントにしている。	203
		教育実習指導（小）	1	・小学校教諭としての経験をもとに、小学校における実践（保幼小連携、特別支援等）を紹介し、グループ討議等に利用。 ・授業記録の取り方や研究協議会の持ち方など、現場における授業研究で即戦力となる技術を伝達している。	209
		教職実践演習（幼小中高・保）	2	幼稚園、小学校それぞれの現場経験から、より実践的なアドバイスをおこなっている。	223
松下　健	臨床心理士、スクールカウンセラーとして4年間勤務	臨床心理学概論	2	公認心理師、臨床心理士として、医療、教育、産業、そして福祉の４領域における実践経験をもとに、疾患、障害、対応方法の講義を行う	183
		心理学実験Ⅰ	2	実務に活用できる行動科学の基本的な発想，研究法，分析法，古典的な研究，成果のまとめ方を演習により学ぶ	185
		心理的アセスメント	2	公認心理師、臨床心理士として、医療、教育、産業、そして福祉の４領域における実践経験をもとに、実践を想定して心理アセスメントの演習を行う	188
		心理演習	2	公認心理師、臨床心理士として、医療、教育、産業、そして福祉の４領域における実践経験をもとに、実践を想定して面接の演習を行う	197
		教育相談（小中高）	2	スクールカウンセラーの実践経験を生かし、障害、疾患、多職種連携、協働、コンサルテーション、心理療法といった心理的対応について教授している。	134
向出　圭吾	幼稚園教諭として１３年間勤務	総合教養ＡⅡ	2	子どもの遊びは、幼稚園現場においては単なる遊びに終わるのではなく、その中に学びがあることを、実際の現場の遊びを通して他学科の学生にも意識してもらっている。	8
		地域社会と子ども	2	幼稚園現場とのパイプ役となり、幼稚園現場での参観を行い、遊びや生活についてのグループディスカッションを行っている。	71

2022年度　実務経験のある教員による授業科目一覧

【子ども教育学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要	掲載ページ
向出　圭吾	幼稚園教諭として１３年間勤務	保育内容・環境指導法	2	幼稚園教諭としての勤務経験をもとに、現場での遊びや生活のビデオを活用し、グループディスカッションを行う。 自然とのかかわり、自然物を取り入れた遊びなど、実際の現場での実践を取り入れている。	149
		保育内容・表現指導法	2	幼稚園教諭としての勤務経験をもとに、粘土、劇、しかけ絵本等の教材を用いてなど、実際の現場での実践を取り入れて表現を考える。	157
		教育実習指導Ⅰ（幼）	1	幼稚園教諭としての勤務経験をもとに、幼稚園での子どもの生活や遊びを、実際の遊びの模擬保育を通して行っている。	205
		環境	2	園外保育のあり方や現場での実践を、実際に第一幼稚園に出向いて、現場で行っている。	150
		表現	2	幼稚園教諭としての勤務経験をもとに、影絵や切り絵等の教材を用いるなど、実際の現場での実践を取り入れて表現について考える。	158
		教育実習指導Ⅱ（幼）	1	幼稚園教諭としての勤務経験をもとに、遊びの指導計画の立案に重点を置き、実践、見直し、改善のPDCAサイクルがしっかりできるように、現場でのやり方を取り入れている。	206
		保育実習指導Ⅰ（保育所）	1	保育所実習Ⅰへ向けて、認定こども園になりつつある現場の状況を鑑み、幼稚園教諭としての勤務経験をもとに、幼児教育の視点も取り入れながら、乳幼児の内面を読み取る指導を行う。	217
		保育実習指導Ⅱ	1	保育所実習Ⅱへ向けて、保育現場で学びをさらに深めるために、発達に即した指導計画の立案について実践、見直し、改善のPDCAサイクルがしっかりできるように、現場でのやり方を取り入れている。	219
		幼児理解	2	これまでの実習を踏まえて、遊びの実践や他学年への指導を踏まえて幼児を理解する力をつける。	159
		教職実践演習（幼小中高・保）	2	幼稚園教諭としての勤務経験をもとに、図書館での絵本の実践や幼保グループによる現場での今日的課題等のディスカッションを行い、現場に出向く準備をする。	223
虫明　淑子	幼稚園教諭として20年間勤務	総合教養ＡⅠ	2	幼稚園における管理職の経験をもとに、幼児教育の重要性や「遊び」がなぜ「学び」につながるのかの視点を提示する。	7
		総合教養ＡⅡ	2	幼稚園における管理職の経験をもとに、幼児教育の重要性や「遊び」がなぜ「学び」につながるのかの視点を提示する。	8
		保育原理	2	幼稚園教諭としての保育経験、カリキュラム・マネジメント者及び保育指導助言者としての経験、園や地域における子育て支援活動や発達障害のある子ども及び保護者に対する支援活動の経験、医療施設におけるLD児の学習支援者としての経験等によって得られた様々な事例を提示する。	161
		教職論	2	教職者とはどうあるべきかについて、幼稚園教諭、管理職、園内研修指導助言者、園や地域における子育て支援者、発達障害のある子ども及び保護者への支援者等の経験によって得られた実践知をもとに解説する。	73
		教育課程論	2	幼稚園教諭、管理職、園内研修指導助言者として複数園のカリキュラム・マネジメントを行って得られた知見、また、子育て支援、発達障害のある子どもや保護者支援による様々な経験に基づく事例を提示する。	147
		保育内容総論	1	園のカリキュラム・マネジメント者として、同僚保育者や保護者と協働し、園の保育実践の質をよりよいものに改善してきた保育実践事例とその記録（写真や映像等）また、その際に活用した資料等を提示する。	148
		教育実習指導Ⅰ（幼）	1	幼稚園にて養成校の学生を受け入れ実習指導を行った経験から、園の実態、環境、指導の重点、１日の生活等の理解、担当学年の発達段階に即した適切な指導計画の立案、それに基づく保育実践、記録による省察、改善の流れが捉えられるようにする。また、教師として望ましい姿勢についても適宜伝える。	205
		教育実習指導Ⅱ（幼）	1	幼稚園にて養成校の学生を受け入れ実習指導を行った経験から、園の実態、環境、指導の重点、１日の生活等の理解、担当学年の発達段階に即した適切な指導計画の立案、それに基づく保育実践、記録による省察、改善の流れが捉えられるようにする。また、保育者としての姿勢についても適宜伝える。	206
		教育学文献講読B1	2	幼稚園教諭、管理職、親支援、発達障害支援施設における学習支援員等によって得られた知見を活用し、様々なジャンルの文献に触れ、それぞれの専門性を学ぶ機会にする。	202

2022年度　実務経験のある教員による授業科目一覧

【子ども教育学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要	掲載ページ
虫明　淑子	幼稚園教諭として20年間勤務	教育実践研究B	2	幼稚園教諭、管理職、園内研修指導助言者として複数園において保育実践や園におけるカリキュラム・マネジメントを行ってきた経験によって得られた知見を提示する。その他、園や地域における子育て支援活動や発達障害のある子ども及び保護者への支援活動による実務経験の他、実践研究を論文化した経験や園の保育の質向上を図るマネジメント実践者の経験も活用する。	204
		教職実践演習（幼小中高・保）	2	幼稚園のカリキュラム・マネジメント者としての実践経験から、なぜ幼児教育が小学校以降の学習の基盤となるか等について具体的事例を挙げ、説明している。	223
村井　万寿夫	・小学校教員として26年間勤務。 ・現在でも、教育の原理や方法、評価に関する研究会の委員（日本教育工学協会理事、石川県教育工学研究会長、NHK学校放送番組活用アドバイザー）として小中高等学校の教員との関わりを持つとともに、教育の原理や方法、評価について研究を行い、成果を全国大会や学会において発表している。	教育学概論	2	・教育の原理や方法について、実際の小学校や中学校の授業の様子を取材し、写真やビデオを学生に提示し、感想を持たせたり全体発表したりしている。 ・教育の評価について、学校現場から指導要録や通知表などのサンプルを提供してもらい、それを提示して理解できるようにしている。	72
		特別支援教育論	2	特別支援学校や特別支援学級の教員と交流し、特別な支援を必要とする児童生徒の視聴覚教材や情報機器の活用事例について紹介している。	75
		初歩文献講読	2	「子どものものの考え方」について、現在の小学校で使っている教科書を学生に示しながら、子どもの科学的思考の発達の段階について考えさせている。	80
		道徳教育指導論（小中）	2	・小学校や中学校の道徳科の授業を動画記録して視聴させて、グループ討議したりレポート作成したりしている。 ・デジタル教材活用例についてテキスト内の自己の執筆内容をもとに紹介し、多様な指導法について理解させている。	131
		教育課程編成論（特別活動を含む）（小中高）	2	小学校、中学校、高等学校の特別活動について情報収集し、指導計画や活動写真などを提示して理解を促したり、グループ討論したりしている。	132
		生徒・進路指導論（小中高）	2	中学校における不登校について中学校教員や保護者と連携しながら社会的自立のための支援を行っている。	133
		教育の方法・技術（総合的な学習の時間の対応を含む）（幼小中高）	2	幼稚園・保育園、小学校、中学校の教育方法について取材（写真、動画、資料収集）して提示し、各校種における教育方法の特徴について理解を促したり、レポート作成したりしている。	143
		教育史	2	教育史に見られる教育方法の不易なものについて小学校の教員と議論し、媒体は異なっても教え方には共通性があり、現代のメディアを活用する際のヒントにしている。	199
		教育実習指導（小）	1	小学校における児童や教師の「一日」を取材し、写真や資料等を学生に提示し、グループ討議したり全体発表したりしている。	209
		教職実践演習（幼小中高・保）	2	実際の小学校の教師に、「小学校教師に求めらること」の観点から聞き取りし、それをもとに学生の指導に役立てている。	223
		介護等体験	2	特別支援学校を訪問したりして介護等体験を行うために必要な連携体制づくりを行とともに、指導計画や施設・設備について提示し、理解させている。	224

2022年度　実務経験のある教員による授業科目一覧

【社会学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要	掲載ページ
井上　克洋	公益社団法人 日本監査役協会に8年勤務	経済学Ⅰ	2	経済学で語られる基本的な経済現象が、実際の社会や会社、役所、家庭などにどのような影響を与えているのか経験に基づき具体例を挙げて講義を行う。	251
		経済学Ⅱ	2	経済学で語られる基本的な経済現象や思想が、実際の社会や会社、役所、家庭などにどのような影響を与えているのか経験に基づき具体例を挙げて講義を行う。	252
楠本　史郎	・日本基督教団牧師経験42年勤務（教会担任教師として28年勤務・教務教師として14年勤務） ・幼稚園園長として30年勤務 ・金沢刑務所宗教教誨師として18年勤務	キリスト教概論Ⅰ	1	牧師として聖書・キリスト教研究の成果を、幼稚園園長・宗教教誨師としての経験を実例として挙げつつ、キリスト教人間観・歴史観・教育観について講義し、学生にレスポンスペーパー記入を義務付け、それに応える形で授業を進めている。	3
		キリスト教概論Ⅱ	1		4
		宗教と社会	2		247
		社会学リレー講義	2		229
真砂　良則	福祉施設において16年間勤務	社会学リレー講義	2	高齢者福祉について、各種委員会等（施設職員研修、介護老人福祉施設第三者委員等）の経験をもとに具体例をあげて講義している。	229
		高齢者福祉論	2		260
		現代社会と福祉Ⅰ	2	社会福祉について、各種委員会等（契約締結審査会、権利擁護センター委員等）の委員の経験をもとに具体例をあげて講義している。	243
		現代社会と福祉Ⅱ	2		244
		ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	毎年実施している施設職員向けの研修や本学の出張講座等の経験をもとに、面接や記録等の相談援助についてのロールプレイやディスカッションを行っている。	277
		ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	毎年実施している施設職員向けの研修や本学の出張講座等の経験をもとに、ケアマネジメントの演習を行っている。	278
		相談援助の理論と方法Ⅲ	2	スーパービジョンやカンファレンス等、相談援助の理論と方法について、毎年実施している施設職員向けの各種研修の経験をもとに具体的なテーマを設定し、ディスカッションを取り入れている。	311
		相談援助の理論と方法Ⅳ	2	さまざまな実践モデルとアプローチ等、相談援助の理論と方法について、毎年実施している施設職員向けの各種研修の経験をもとに具体的なテーマを設定し、ディスカッションを取り入れている。	312
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	職能団体である社会福祉士会の現場職員との定期的な交流、意見交換をもとに現場で求められる社会福祉士像について、ディスカッション等により指導をおこなっている。	279
		相談援助実習指導Ⅱ	2		317 342
		相談援助実習指導Ⅲ	2		318 343
松下　健	臨床心理士、スクールカウンセラーとして4年間勤務	心理的アセスメント	2	公認心理師、臨床心理士として、医療、教育、産業、そして福祉の4領域における実践経験をもとに、実践を想定して心理アセスメントの演習を行う	270
		心理演習	2	公認心理師、臨床心理士として、医療、教育、産業、そして福祉の4領域における実践経験をもとに、実践を想定して面接の演習を行う	310
		心理実習	2	公認心理師、臨床心理士として、医療、教育、産業、そして福祉の4領域における実践経験をもとに実習指導を行う	349
上農　肇	公立学校教員として31年勤務(特別支援教育教員として26年勤務） 教育委員会指導主事として7年勤務 スクールカウンセラーとして3年勤務	学校心理学（教育・学校心理学）	2	教育相談員やスクールカウンセラーとしての経験や担当した幼児期・児童期・青年期の事例を取り上げ、討論や演習を通して学生の学びを深めている。	309
齊藤　英俊	臨床心理士、非常勤のカウンセラー（主にスクールカウンセラー・学生相談員）として12年間勤務	発達心理学	2	スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例をもとに発達課題などのテーマと関連づけて紹介し、子どもへの関わり方について検討する時間を設けている。	271
		教育心理学	2	スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例（いじめや不登校など）をもとに、子どもへの関わり方や解決策について検討する時間を設けている。	272
		心理演習	2	心理実践の経験をもとに、事例などをテーマにしたワークやディスカッションを通して心理面接の演習を行う。	310

2022年度　実務経験のある教員による授業科目一覧

【社会学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要	掲載ページ
大矢　正則	小学校・中学校・高等学校の校長として勤務、児童相談所や、市区の子ども家庭支援センターの職員等と連携・協同して、困難な状況下におかれた子どもたちの安全・安心の確保に努めている。 その間、病院倫理委員として終末期医療を受ける高齢者および家族に対する職員の倫理に関して、心理学的観点から意見を発信している。 特定非営利法人ストレス対処法研究所にて、監事を務めている。監事となる前はカウンセラーとして若者の就労支援にあたっていた。また路上生活者支援を教育活動にも携わっている。	福祉心理学	2	小・中・高等学校の校長として勤務する中で、児童相談所等の職員との連携により子どもの安全・安心の確保に努めている。また、病院倫理委員として高齢者および家族に対する職員の倫理に関して心理学的観点から意見を発信している。 自身の経験を踏まえ、福祉の対象となる側(乳児・児童・障害者・高齢者)を軸に章立てをし，その分野の福祉的な諸問題に，心理学がどのように役立つのかをペア・グループワークやディスカッションを交えながら説明する。	330
小笠原　知子	大学学生相談室のカウンセラーとして勤務（6年）メンタルヘルスカウンセラー及び夫婦家族療法士として米国で病院・学校臨床に従事（実習を含め約10年）	関係行政論	2	これまでの対人援助専門職としての実務経験を活かし、心理的支援の際に関わる政策や法律について具体的な運用を念頭に置きながら講義を行う。	333
辰巳　平一	放送局において40年間勤務	メディア文化論	2	放送局における勤務経験をもとに、勤務時代の経験，取材体験を紹介，さらにテレビ局で研修を行っている。	297
高橋　律子	学芸員として20年間勤務	生涯学習概論	2	学芸員としての経験をもとに、金沢市内の図書館及び美術館などの社会教育施設の現場見学を取り入れつつ、具体的な学習支援の方法と内容の理解を深められるよう講義を行う。	281
前川　直樹	社会福祉法人職員として15年勤務	相談援助演習Ⅴ	2	社会福祉の実施機関、事業所での相談員としての実務経験をもとに、近年の動向も取り入れながら、社会福祉の理論や歴史、制度、方法等について話をしている。	341
松多　岳史	医療機関において19年勤務	保健医療サービス	2	実務経験をもとに、学生がイメージしやすいよう、病院で医療ソーシャルワーカーがどのような業務を行うか事例を紹介する。また、病院内連携、地域包括ケアシステムなどをミクロ・メゾ・マクロレベルに分けて情報提供し、学生の知識に落とし込めるようディスカッションを行う。	313
三田村　悦子	公立図書館に正規職員（司書）として勤務（23年半）公立図書館長として勤務（10年）	児童サービス論	2	子どもたちへ、児童サービス（絵本の読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク、わらべうた）を数多く実践してきた経験から、学生たちにその手法を実際に見せ、より具体的に教えている。	322
		図書館制度・経営論	2	館長の経験を活かして、図書館制度の重要性および図書館経営の在り方を実例を挙げてより具体的に説明している。	323
柚木　颯偲	臨床心理士／公認心理師として勤務（13年）	神経・生理心理学	2	脳・神経と行動や心理・精神との関連を理解・習得するために、医療機関における臨床心理士／公認心理師としての実務経験をもとに、臨床的知見を取り入れた授業を実施する。	287

2022年度 SDGs169のターゲットと科目の関連性（全学共通）

教員名	科目名	ターゲット番号	科目とターゲットの関連性	掲載ページ
矢澤　励太	北陸学院セミナーⅠ	4.1 8.5	「すべての子どもが男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い」教育を修了できるように、キリスト教NGO「チャイルド・ファンド・ジャパン」を通じて里子支援に取り組む。「働きがいのある人間らしい仕事」を通じて神からの使命を実現する、キリスト教人間観に基づくキャリア形成を鼓舞する。	1
	北陸学院セミナーⅡ			2
楠本　史郎	キリスト教概論Ⅰ	4.7	SDGs全般について。現在・将来の全世代を含む全ての人を例外なく尊重し、その生存と幸福well-beingを追求しつつ、その環境である世界をより良く保持・発展させようとする、基本的で責任的なキリスト教人間観、世界観を学ぶ。 とくに4.7「持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ…の持続可能な開発への貢献の理解の教育」を図る。	3
	キリスト教概論Ⅱ	16.3	SDGs全般について。現在・将来の全世代を含む全ての人を例外なく尊重し、その生存と幸福well-beingを追求しつつ、その環境である世界をより良く保持・発展させようとする、基本的で責任的なキリスト教人間観、世界・自然観を学ぶ。 とくに16.3「国家及び国際的なレベルでの法の支配」の根幹について、8.5「働きがいのある人間らしい仕事」について、学ぶ。	4
矢澤　励太	キリスト教人間論Ⅰ	12.8	「神のかたち」として創造された人間の尊厳を知り、「神の協働者」として被造世界を治め管理するために、「持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識」を喚起する。	5
	キリスト教人間論Ⅱ	8.5	「神のかたち」として創造された人間の尊厳を知り、「若者や障碍者を含むすべての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事」が保証された、シャローム（神の平和）を映し出した社会を形成するために、使命（ミッション）に生きる人生観を身につける。	6
谷　昌代	総合教養AⅠ	3.2 4.2	赤ちゃんの不思議：乳幼児はどのように人の心を理解するのか…探ってみよう。	7
		4.2	モノ・場・自分と対話をしながら学び、育つ乳幼児の姿を見てみよう。	
		3.7 11.7	現代の子育て事情のいろんなこと：子育てする保護者の心の揺れ動きを知ろう。	
中島　賢介		4.2 4.5 13.1 13.3 16.1 16.2	担当する3回分は、いずれも「子どもと向き合う」をテーマに、児童文学作品を通して哲学、平和、災害に向き合うことを授業の到達目標としている。哲学の時間は目標4、平和の時間には目標16、災害の時間には目標13をそれぞれ講義の中で触れ、授業そのものがSDGsの理念によって構成されていることを伝える。	
虫明　淑子		4.2	幼児期における「遊び」の重要性と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について理解する。	
谷　昌代	総合教養AⅡ	3.2 4.2	赤ちゃんの不思議：乳幼児はどのように人の心を理解するのか…探ってみよう。	8
		4.2	モノ・場・自分と対話をしながら学び、育つ乳幼児の姿を見てみよう。	
		3.7 11.7	現代の子育て事情のいろんなこと：子育てする保護者の心の揺れ動きを知ろう。	
虫明　淑子		4.2	幼児期における「遊び」の重要性と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について理解する。	
富岡　和久	総合教養DⅠ	1.1～1.b 4.1～4.a 5.1 5.3 5.c 10.2	富岡担当分においては、キリスト教精神に基づいた「ホスピタリティ」を社会福祉や具体的人物の活動を通して学ぶ。 その際のキーワードとして、貧困救済、ジェンダー、平等などが取上げられており、標記のターゲット達成のための基本的考え方や知識の習得に役立つ。	13
	総合教養DⅡ			14
中島　賢介	日本語表現法Ⅰ	4.7	社会人として必要な言語スキルの学習が、「全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。」ことの一環でいるという認識の下で行う。具体的には、TPOに応じた日本語表現を身につけ、コミュニケーションスキルを高め続けることの重要性について考える機会を持つ。	16
	日本語表現法Ⅱ			17

2022年度 SDGs169のターゲットと科目の関連性（子ども教育学科）

教員名	科目名	ターゲット番号	科目とターゲットの関連性	掲載ページ
荒井　紀子	家庭科指導法	1.3、2.1、3.7 4.7、5.1、5.5 11.1、11.7、12.3 12.8、13.1、14.1 15.1	本科目は小学校家庭科で生活問題の知識理解を深め、問題解決にむけての能力を育む授業の構成や教授法を学ぶ科目である。衣食住や家族、経済、環境、消費にかかわる生活問題、すなわち家庭科の学習内容とSDGの各目標は広く関わっている。具体的には、1「貧困」2「飢餓」、3「健康・福祉」4「質の高い教育」5「ジェンダー平等」11「住み続けられるまちづくり」12「作る責任、使う責任」13-15「気候変動や海・陸の豊かさを守る」と関係が深い。	128
伊藤　雄二	教職実践演習（幼小中高・保）	4.1	学習者中心のわかりやすい授業の構築（4.1）、文化に関する教育に必要な知識や技能の効果的な選択(4.7)、質の高い教員育成のための素地・下地の育成(4.c)を実現しながら、SDGs目標4「すべての人に包括的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯教育の機会を促進する」ことに間接的・直接的に寄与することを目指す。	223
	英語科教育法Ⅱ	4.7		97
	英語科教育法Ⅲ	4.c		98
川真田　早苗	理科指導法	11.5	この科目を学び，気候変動による影響や災害発生の原因を理解し，防災・減災につなげる理科の指導法を身に付けることにより、SDGs11．5「2030年までに、水関連災害などの災害による死者や被災者数を大幅に削減し、世界の国内総生産比で直接的経済損失を大幅に減らす。」ことを目指す。	123
	理科		この科目を学び，気候変動による影響や災害発生の原因と地球領域の学習内容との関わりを理解することにより、SDGs11．5「2030 年までに、水関連災害などの災害による死者や被災者数を大幅に削減し、世界の国内総生産比で直接的経済損失を大幅に減らす。」ことを目指す。	118
北川　節子	子どもの健康	3.3	この科目では子どもの感染症予防のための衛生管理、子どもへの衛生教育について学ぶ。これにより「2030年までに、エイズ、結核、マラリア及び顧みられない熱帯病といった伝染病を根絶するとともに、肝炎、水系感染症及びその他の感染症に対処する。」ことを目指す。	169
		3.4	この科目では、子どもの事故の予防と事故後の対応について学ぶ。これにより「2030年までに、非感染性疾患による若年者死亡率を、予防や治療を通じて3分の1減少させ、精神保健及び福祉を増進させる。」ことを目指す。	
		3.6	この科目では交通事故にあいやすい子どもの特性と事故防止の方法について学ぶ。これにより「2020までに、世界の道路交通事故による死傷者数を半減させる。」ことを目指す。	
楠本　史郎	キリスト教と教育	4.2 4.1	キリスト教保育・教育の基礎であるキリスト教子ども観を学び、4.2「すべての子どもが男女の区別なく、質の高い乳幼児の発達・ケア及び就学前教育にアクセスする」ことについて、4.1「すべての子どもが男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できる」ことについて考え、実現の方途を探る。	78-79
髙村　真希	乳児保育Ⅱ	3.2	本科目を学び、新生児期、乳児期の発達段階だけではなく、日本の新生児、乳児の死亡率や死亡原因とその予防策を理解することにより、SDGs 3.2「すべての国が新生児死亡率を少なくとも出生1，000件中12件以下まで減らし、5歳未満児の予防可能な死亡を根絶する。」ことを目指す。	173
谷　昌代	乳児保育Ⅰ	3.7 4.2	日本の少子化が継続した先の社会を支える構造を考え、3.7の「家族計画等、性と生殖に関する保健サービスの全ての人への利用」含め、乳幼児、子育て世代が安心できる環境を目指し問い続ける。さらに、全ての子どもたちが4.2「質の高い乳幼児の発達・ケア及び就学前教育へのアクセス」として、人間形成の土台となる乳幼児期における保育の質と関連して考えてきたい。	172
	人間関係	11.7	本科目では、様々な体験により安心、安定した人間関係の構築について考えていく。 11.7「女性、子ども、高齢者及び障害者を含め、人々に安全で包摂的かつ利用が容易な緑地や公共のスペース」への保障を掲げ、人々が出会う場が減少しつつある現代において、環境の質と人との関わりの相互作用を考え続けていく。	156
	特別支援教育論	4.5	本科目は、インクルーシブ保育、教育について、多様性が受け入れられ、異なるものが共にあることで生み出される豊かさを享受するものとしての理解を目指す。4.5「障害者、先住民及び脆弱な立場にある子どもなど、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセス」と掲げられるように全てに等しく共にあることの意味を保育・教育現場と家庭、地域と包括的に考えていく。	75
中島　賢介	郷土の文学を楽しむ	4.7 6.1～6.b 14.1～14.c 15.1～15.c	石川県、そして北陸地域ゆかりの作家を紹介し作品を解説することで、北陸地域の自然環境とその環境下で育つことが文学にとってもよい影響をもたらすということを講義する。また、最終回では、文学の学びは生涯続けることのできる学習の一つであるということを論じる。	84
	児童文学	4.1～4.c	児童文学をただジャンル分けして作品作家を紹介するという方法だけでなく、自分でそれぞれテーマを決めて、そのテーマに基づいて読解していく方法を採用している。それぞれの回で、今回はSDGsのどの目標を関連するかという質問をする。	83

2022年度 SDGs169のターゲットと科目の関連性（子ども教育学科）

教員名	科目名	ターゲット番号	科目とターゲットの関連性	掲載ページ
中野　聡	インテンシブ・リーディング	5.5 5.c 13.1 15.2	教科書に加えて、英語版天声人を読み解いている。そのテーマとして、ジェンダー平等の促進、気候関連災害や自然災害に対する強靭性（レジリエンス）及び適応力の強化、再植林を大幅に増加など、SDGsに関連するテーマをいくつか取り上げる。	115
	エッセイ・ライティング	10.2 15.1	教科書に加えて、英語版天声人を読み解いている。そのテーマとして、社会、環境的ショックや災害に暴露や脆弱性を軽減すること、すべての人々の健康的な生活を確保することなど、SDGsに関連するテーマをいくつか取り上げる。	116
福江厚啓	生活	4.1 4.7	幼児教育から連なる教科「生活」における児童と教師の実相を追体験することを通し、小学校における全ての教科の根底にある学習者主体の指導の基盤を培う。その際、児童が学び合う学級の様子にふれ、児童の多様性が学びを豊かにすることを学ぶ。 Target4.1および4.7を目指す教員の育成をねらいとしている。	137
	社会	4.1 4.7	学生自身が学習者として受けてきた社会科の授業を振り返ることに始まり、世界の抱える諸課題を踏まえた小学校社会科の授業づくりについての基礎的な知識と認識を身につける。「当事者意識」涵養と社会的発展の影に潜む「リスク」への焦点化クリティカルシンキング等、Target4.1および4.7を目指す教員の育成をねらいとしている。	119
	キャリアデザインⅡ	4.1 4.2 17.17	地域社会における協働プロジェクト「米泉　・あそVIVA☆クリスマス」」の企画・運営をおこなう。この経験を通し、社会から求められる事柄を実感する中で、教師・保育者として求められる専門性を磨くと共に自己課題を明確にし、自己の生き方を見つめる。 直接的にはTarget17.17に寄与しつつ、Target4.1および4.2を目指す教員の育成をねらいとしている。	47
	専門ゼミⅠ	4.1 4.7 17.17	３年次は畑における栽培活動と収穫を通し、地域の自然環境や社会環境といった地域資産やそれらがもつ課題にふれる。４年次は校区中学校との連携を通して、自己の生き方を見つめ、中学生の進路選択に関わる話題提供をおこなう。直接的にはTarget17.17に寄与しつつ、Target4.1および4.7を目指す教員の育成をねらいとしている。	65-66
	専門ゼミⅡ	4.1 4.7 17.17		67-68
ポーター倫子	保育者論	4.2	この科目を通して、今日の保育事情に対応し、質の高い保育を行うための基礎を学ぶことにより、SDGs4.2「2030年までに、すべての子どもが男女の区別なく、質の高い乳幼児の発達・ケア及び就学前教育にアクセスすることにより、初等教育を終了できるようにする。」ことを目指す。	74
	子どもの理解と援助	4.a	この科目を通し、子ども理解の意義や基礎的な方法を学ぶことにより、SDGs4.2「子ども、障害及びジェンダーに配慮した教育施設を構築・改良し、すべての人々に安全で非暴力的、包摂的、効果的な学習環境を提供できるようにする」ことを目指す。	160
向出　圭吾	環境	4.2	この科目の身近な環境を通して今の子どもたちがそこから生きる力となる学びをどのように育んで、小学校に繋げることができるかを、遊びを通して分析・考察する力を身に付けることによって、将来保育現場に出た時に、SDGs4.2「すべての子どもが…初等教育を受ける準備が整うようにする。」方向を目指す保育者を養成する。	150
虫明　淑子	保育原理	4.2	この科目を学び質の高い乳幼児の発達・ケアー及び小学校以降の学校教育における学習の土台としての就学前教育の重要性等について認識し、それらによって持続可能な社会に必要な知識・技能の基礎を培うことを目指す。	161
村井　万寿夫	教育の方法・技術（総合的な学習の時間の対応を含む）（幼小中高）	4.a	本科目では、自ら考え判断し表現する授業とはどういったものなのか、幼稚園においては幼児の主体的な活動や幼児期にふさわしい生活とはどういったものなのか、理論や具体的な事例をもとに学ぶ。その過程で、SDGsの観点からは、「子どもに配慮した施設環境や効果的な学習・保育環境の提供の仕方」についても学ぶ。	143
	教育課程編成論（特別活動を含む）（小中高）	5.c	本科目の後半では、小中高等学校における特別活動に焦点を当て、特別活動の意義・領域、展開の方法について学ぶ。その過程で、SDGsの観点からは、体育的行事において「ジェンダー平等が促進されていることをもとに、学校における男女平等」について考える。	132
	教育学概論	4.1	本科目では、教育の歴史や思想において教育の理念がどのように現れてきたか西洋、中国、日本の教育史を概観し、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ変遷してきたのかなどについて学ぶ。その過程で、SDGsの観点からは、過去に「義務教育の無償制」が唱えられ、現在においては「公立の高等学校においても無償」となっていることを学ぶ。	72
	特別支援教育論	12.c	私が担当する第6回授業においては、母国語や貧困の問題等が育ちと学びにもたらす困難と二次障害について知り、特別の教育的ニーズに対する保育者・教師による支援について考える。このため、SDGsの観点からは「母国語や貧困の問題等が子どもの育ちと学びにもたらす困難」について考える。	75

2022年度 SDGs169のターゲットと科目の関連性（社会学科）

教員名	科目名	ターゲット番号	科目とターゲットの関連性	掲載ページ
楠本　史郎	宗教と社会	8.5 16.3	キリスト教職業観を学び、8.5「若者や障害者を含むすべての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事」の実現を促す。 聖書解釈が差別を助長した事例と、逆に差別を克服する根拠となった事例を学び、16.3「国家及び国際的なレベルでの法の支配を促進し、すべての人々に司法への平等なアクセスを提供する」道を探る。	247
田中　純一	環境社会学	3.6 11.4 11.a 12.8 15.1 15.5	講義内の具体的事例を通し、「交通問題」(3.6)、「歴史的文化的環境」(11.4)「都市と農山漁村との良好なつながり」(11.a)、「自然と調和したライフスタイル」(12.8)、「生物多様性の損失阻止」(15.5)などのターゲットについて、日々の暮らしと関連付けつつ、目標達成に向けた対方策を検討する。	241
	福祉行財政と福祉計画	1.1～1.3 3.1～3.2 4.1～4.a 10.2～10.4 11.3 16.7	講義を通し、「貧困の終焉」(1.1-1.3)、「健康的な暮らしと福祉の推進」(3.1-3.2)、「教育機会の保障」(4.1-4.a)、「ジェンダー平等」(5.1)、「不平等の是正」(10.2-10.4)、「居住福祉」(11.3)、「政策決定に係る意見の表明と参画」(16.7)などについて理解するだけでなく、これらの視点を踏まえた行財政政策、福祉計画づくりを考える力を涵養する。	338
	地域環境マネジメント論	目標1～目標17	講義ではSDGsについての基本的知識を通して持続可能な社会について考える。これにより受講者は講義全体を通して個々の目標お呼びターゲットの内容のみならず、目標間の関連性について理解を深め、個々のターゲットから受講者自身の関心領域にどのように向き合うについて具体的対応に向けたアイデアを考える。	301
	社会貢献実習	12.8 14.1	地域に顕在化する具体的な課題に向き合うことを通し、「持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つ」(12.8)及び「海洋汚染の削減」(14.1)に向けた具体的対応策を提案する。	300
	地域社会政策論	11.b	社会の脆弱性と自然災害の巨大化に対する社会の脆弱化という今日的トレンドの中、【目標11】、中でも「ターゲット11.b」に関連付けつ、「レジリエンス」及び「住み続けられる地域」について理解するとともに、災後も住み続けられる地域づくりに向けた具体的なアイデアを考える。	254
	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	目標1 目標3 目標10	講義では地域福祉と包括的支援体制を理解する際、「貧困の終焉」(目標1)、「福祉の促進」(目標3)「不平等の是正」(目標10.)の3つの目標を関連づけつつ、個別の目標及び関連するターゲットの理解を目指すとともに、これらの目標を通し既存地域福祉を捉え直しつつ、一人ひとりの視点にたった包括的支援体制づくりを目指す。	258
	環境と開発	目標1 目標2 目標3 目標5 目標6 目標10 目標11 目標12	講義では開発問題と環境問題の事例を通して、「貧困の終焉」(目標1)、「食糧安全保障」(目標2)、「福祉の促進」(目標3)、「ジェンダー平等」(目標5)、「衛生的な水の利用と管理」(目標6)、「不平等の是正」(目標10)、「人間居住」(目標11)、「責任ある消費」(目標12)などについて取り上げる。受講者は個々の関心領域の問題を目標・ターゲットを通して捉え直し、具体的な対応策を考える。	257
	社会貢献論	目標1～目標17	講義では受講者の関心領域領域(目標1～目標17)とボランティアとを関連づけ、具体的なアクションに展開できるようになることを目指す。	256
堂田　俊樹	公的扶助論	1.2	公的扶助は、すべての世代、ジェンダーにかかわらず、「2030 年までに、各国定義によるあらゆる次元の貧困状態にある、すべての年齢の男性、女性、子どもの割合を半減させる。」ことを目指す。	340
		1.3	生活保護制度の1つの目的である、「各国において最低限の基準を含む適切な社会保護制度及び対策を実施し、2030 年までに貧困層及び脆 弱層に対し十分な保護を達成する。」ことを目指す。	
		2.1	生活保護制度は、貧困にある対象者が健康で文化的な生活を送ることを目的としている。「 2030 年までに、飢餓を撲滅し、すべての人々、特に貧困層及び幼児を含む脆弱な立場にある人々が一 年中安全かつ栄養のある食料を十分得られるようにする。」ことを目指す。	
		4.1	教育扶助で義務教育、生業扶助で高等学校の進学を進め、「2030 年までに、すべての子どもが男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ 公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする。」を目指す。	
宮城　徹	司法・犯罪心理学	3.5 10.3 16.1～16.3 16.6 16.7 16.9 16.b	この科目を学び、現代日本の司法(特に家族法、少年法)についての理解を深め、また女性や未成年者、在留外国人等の心理を学び、自分のステレオタイプを認識する。これらを通じ、身近に存在する不平等に気づき、平和で包括的な社会を促進する意識を育てることを目指す。	331
横山　壽一	社会保障論	1.3	この科目を学び現代の社会保障の役割を理解しSDGs1.3「各国において最低限の基準を含む適切な社会保護制度及び対策を実施し、2030 年までに貧困層及び脆弱層に対し十分な保護を達成する。」ことを目指す。	262
		3.8	この科目を学び社会保障が掲げる健康権を理解しSDGs3.8「すべての人々に対する財政リスクからの保護、質の高い基礎的な保健サービスへのアクセス及び安全で効果的かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンへのアクセスを含む、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)を達成する。」を目指す。	

SDGs の 17 の目標と 169 のターゲット

目標 1. あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる【国地総:全般】

- 1.1　2030 年までに、現在 1 日　1.25 ドル未満で生活する人々と定義されている極度の貧困をあらゆる場所で終わらせる。
- 1.2　2030 年までに、各国定義によるあらゆる次元の貧困状態にある、すべての年齢の男性、女性、子どもの割合を半減させる。
- 1.3　各国において最低限の基準を含む適切な社会保護制度及び対策を実施し、2030 年までに貧困層及び脆弱層に対し十分な保護を達成する。
- 1.4　2030 年までに、貧困層及び脆弱層をはじめ、すべての男性及び女性が、基礎的サービスへのアクセス、土地及びその他の形態の財産に対する所有権と管理権限、相続財産、天然資源、適切な新技術、マイクロファイナンスを含む金融サービスに加え、経済的資源についても平等な権利を持つことができるように確保する。
- 1.5　2030 年までに、貧困層や脆弱な状況にある人々の強靭性（レジリエンス）を構築し、気候変動に関連する極端な気象現象やその他の経済、社会、環境的ショックや災害に暴露や脆弱性を軽減する。
- 1.a　あらゆる次元での貧困を終わらせるための計画や政策を実施するべく、後発開発途上国をはじめとする開発途上国に対して適切かつ予測可能な手段を講じるため、開発協力の強化などを通じて、さまざまな供給源からの相当量の資源の動員を確保する。
- 1.b　貧困撲滅のための行動への投資拡大を支援するため、国、地域及び国際レベルで、貧困層やジェンダーに配慮した開発戦略に基づいた適正な政策的枠組みを構築する。

目標 2. 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する【経安、国地総:全般】

- 2.1　2030 年までに、飢餓を撲滅し、すべての人々、特に貧困層及び幼児を含む脆弱な立場にある人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られるようにする。
- 2.2　5　歳未満の子どもの発育阻害や消耗性疾患について国際的に合意されたターゲットを 2025 年までに達成するなど、2030 年までにあらゆる形態の栄養不良を解消し、若年女子、妊婦・授乳婦及び高齢者の栄養ニーズへの対処を行う。
- 2.3　2030 年までに、土地、その他の生産資源や、投入財、知識、金融サービス、市場及び高付加価値化や非農業雇用の機会への確実かつ平等なアクセスの確保などを通じて、女性、先住民、家族農家、牧畜民及び漁業者をはじめとする小規模食料生産者の農業生産性及び所得を倍増させる。
- 2.4　2030 年までに、生産性を向上させ、生産量を増やし、生態系を維持し、気候変動や極端な気象現象、干ばつ、洪水及びその他の災害に対する適応能力を向上させ、漸進的に土地と土壌の質を改善させるような、持続可能な食料生産システムを確保し、強靭　（レジリエント）な農業を実践する。
- 2.5　2020 年までに、国、地域及び国際レベルで適正に管理及び多様化された種子・植物バンクなども通じて、種子、栽培植物、飼育・家畜化された動物及びこれらの近縁野生種の遺伝的多様性を維持し、国際的合意に基づき、遺伝資源及びこれに関連する伝統的な知識へのアクセス及びその利用から生じる利益の公正かつ衡平な配分を促進する。】
- 2.a　開発途上国、特に後発開発途上国における農業生産能力向上のために、国際協力の強化などを通じて、農村インフラ、農業研究・普及サービス、技術開発及び植物・家畜のジーン・バンクへの投資の拡大を図る。

- 2.b　ドーハ開発ラウンドの決議に従い、すべての形態の農産物輸出補助金及び同等の効果を持つすべての輸出措置の並行的撤廃などを通じて、世界の農産物市場における貿易制限や歪みを是正及び防止する。
- 2.c　食料価格の極端な変動に歯止めをかけるため、食料市場及びデリバティブ市場の適正な機能を確保するための措置を講じ、食料備蓄などの市場情報への適時のアクセスを容易にする。

目標 3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する

- 3.1　2030 年までに、世界の妊産婦の死亡率を出生 10 万人当たり 70 人未満に削減する。
- 3.2　すべての国が新生児死亡率を少なくとも出生 1,000 件中 12 件以下まで減らし、5 歳以下死亡率を少なくとも出生 1,000 件中 25 件以下まで減らすことを目指し、2030 年までに、新生児及び 5 歳未満児の予防可能な死亡を根絶する。
- 3.3　2030 年までに、エイズ、結核、マラリア及び顧みられない熱帯病といった伝染病を根絶するとともに肝炎、水系感染症及びその他の感染症に対処する。
- 3.4　2030 年までに、非感染性疾患による若年死亡率を、予防や治療を通じて 3 分の 1 減少させ、精神保健及び福祉を促進する。
- 3.5　薬物乱用やアルコールの有害な摂取を含む、物質乱用の防止・治療を強化する。
- 3.6　2020 年までに、世界の道路交通事故による死傷者を半減させる。
- 3.7　2030 年までに、家族計画、情報・教育及び性と生殖に関する健康の国家戦略・計画への組み入れを含む、性と生殖に関する保健サービスをすべての人々が利用できるようにする。
- 3.8　すべての人々に対する財政リスクからの保護、質の高い基礎的な保健サービスへのアクセス及び安全で効果的かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンへのアクセスを含む、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）を達成する。
- 3.9　2030 年までに、有害化学物質、ならびに大気、水質及び土壌の汚染による死亡及び疾病の件数を大幅に減少させる。
- 3.a　すべての国々において、たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約の実施を適宜強化する。
- 3.b　主に開発途上国に影響を及ぼす感染性及び非感染性疾患のワクチン及び医薬品の研究開発を支援する。また、知的所有権の貿易関連の側面に関する協定（TRIPS 協定） 及び公衆の健康に関するドーハ宣言に従い、安価な必須医薬品及びワクチンへのアク セスを提供する。同宣言は公衆衛生保護及び、特にすべての人々への医薬品のアクセス提供にかかわる「知的所有権の貿易関連の側面に関する協定（TRIPS 協定)」の柔軟性に関する規定を最大限に行使する開発途上国の権利を確約したものである。
- 3.c　開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国において保健財政及び保健人材の採用、能力開発・訓練及び定着を大幅に拡大させる。
- 3.d　すべての国々、特に開発途上国の国家・世界規模な健康危険因子の早期警告、危険因子緩和及び危険因子管理のための能力を強化する。

目標 4. すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

- 4.1　2030 年までに、すべての子どもが男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする。
- 4.2　2030 年までに、すべての子どもが男女の区別なく、質の高い乳幼児の発達・ケア及び就学前教育にアクセスすることにより、初等教育を受ける準備が整うようにする。

- 4.3　2030 年までに、すべての人々が男女の区別なく、手の届く質の高い技術教育・職業教育及び大学を含む高等教育への平等なアクセスを得られるようにする。
- 4.4　2030 年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。
- 4.5　2030 年までに、教育におけるジェンダー格差を無くし、障害者、先住民及び脆弱な立場にある子どもなど、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスできるようにする。
- 4.6　2030 年までに、すべての若者及び大多数（男女ともに）の成人が、読み書き能力及び基本的計算能力を身に付けられるようにする。
- 4.7　2030 年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。
- 4.a　子ども、障害及びジェンダーに配慮した教育施設を構築・改良し、すべての人々に安全で非暴力的、包摂的、効果的な学習環境を提供できるようにする。
- 4.b　2020 年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国、ならびにアフリカ諸国を対象とした、職業訓練、情報通信技術（ICT）、技術・工学・科学プログラムなど、先進国及びその他の開発途上国における高等教育の奨学金の件数を全世界で大幅に増加させる。
- 4.c　2030 年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国における教員研修のための国際協力などを通じて、質の高い教員の数を大幅に増加させる。

目標 5.　ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う

- 5.1　あらゆる場所におけるすべての女性及び女児に対するあらゆる形態の差別を撤廃する。
- 5.2　人身売買や性的、その他の種類の搾取など、すべての女性及び女児に対する、公共・私的空間におけるあらゆる形態の暴力を排除する。
- 5.3　未成年者の結婚、早期結婚、強制結婚及び女性器切除など、あらゆる有害な慣行を撤廃する。
- 5.4　公共のサービス、インフラ及び社会保障政策の提供、ならびに各国の状況に応じた世帯・家族内における責任分担を通じて、無報酬の育児・介護や家事労働を認識・評価する。
- 5.5　政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する。
- 5.6　国際人口・開発会議（ICPD）の行動計画及び北京行動綱領、ならびにこれらの検証会議の成果文書に従い、性と生殖に関する健康及び権利への普遍的アクセスを確保する。
- 5.a 女性に対し、経済的資源に対する同等の権利、ならびに各国法に従い、オーナーシップ及び土地その他の財産、金融サービス、相続財産、天然資源に対するアクセスを与えるための改革に着手する。
- 5.b　女性の能力強化促進のため、ICT をはじめとする実現技術の活用を強化する。
- 5.c　ジェンダー平等の促進、ならびにすべての女性及び女子のあらゆるレベルでの能力強化のための適正な政策及び拘束力のある法規を導入・強化する。

SDGs の 17 の目標と 169 のターゲット

目標 6. すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する

- 6.1　2030 年までに、すべての人々の、安全で安価な飲料水の普遍的かつ衡平なアクセスを達成する。
- 6.2　2030 年までに、すべての人々の、適切かつ平等な下水施設・衛生施設へのアクセスを達成し、野外での排泄をなくす。女性及び女児、ならびに脆弱な立場にある人々のニーズに特に注意を払う。
- 6.3　2030 年までに、汚染の減少、投棄の廃絶と有害な化学物・物質の放出の最小化、未処理の排水の割合半減及び再生利用と安全な再利用の世界的規模で大幅に増加させることにより、水質を改善する。
- 6.4　2030 年までに、全セクターにおいて水利用の効率を大幅に改善し、淡水の持続可能な採取及び供給を確保し水不足に対処するとともに、水不足に悩む人々の数を大幅に減少させる。
- 6.5　2030 年までに、国境を越えた適切な協力を含む、あらゆるレベルでの統合水資源管理を実施する。
- 6.6　2020 年までに、山地、森林、湿地、河川、帯水層、湖沼を含む水に関連する生態系の保護・回復を行う。
- 6.a　2030 年までに、集水、海水淡水化、水の効率的利用、排水処理、リサイクル・再利用技術を含む開発途上国における水と衛生分野での活動と計画を対象とした国際協力と能力構築支援を拡大する。
- 6.b　水と衛生の管理向上における地域コミュニティの参加を支援・強化する。

目標 7. すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する

- 7.1　2030 年までに、安価かつ信頼できる現代的エネルギーサービスへの普遍的アクセスを確保する。
- 7.2　2030 年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。
- 7.3　2030 年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる。
- 7.a　2030 年までに、再生可能エネルギー、エネルギー効率及び先進的かつ環境負荷の低い化石燃料技術などのクリーンエネルギーの研究及び技術へのアクセスを促進するための国際協力を強化し、エネルギー関連インフラとクリーンエネルギー技術への投資を促進する。
- 7.b　2030 年までに、各々の支援プログラムに沿って開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国、内陸開発途上国のすべての人々に現代的で持続可能なエネルギーサービスを供給できるよう、インフラ拡大と技術向上を行う。

目標　8.　包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する

- 8.1　各国の状況に応じて、一人当たり経済成長率を持続させる。特に後発開発途上国は少なくとも年率 7%の成長率を保つ。
- 8.2　高付加価値セクターや労働集約型セクターに重点を置くことなどにより、多様化、技術向上及びイノベーションを通じた高いレベルの経済生産性を達成する。
- 8.3　生産活動や適切な雇用創出、起業、創造性及びイノベーションを支援する開発重視型の政策を促進するとともに、金融サービスへのアクセス改善などを通じて中小零細企業の設立や成長を奨励する。

- 8.4　2030 年までに、世界の消費と生産における資源効率を漸進的に改善させ、先進国主導の下、持続可能な消費と生産に関する 10 年計画枠組みに従い、経済成長と環境悪化の分断を図る。
- 8.5　2030 年までに、若者や障害者を含むすべての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、ならびに同一労働同一賃金を達成する。
- 8.6　2020 年までに、就労、就学及び職業訓練のいずれも行っていない若者の割合を大幅に減らす。
- 8.7　強制労働を根絶し、現代の奴隷制、人身売買を終らせるための緊急かつ効果的な措置の実施、最悪な形態の児童労働の禁止及び撲滅を確保する。2025 年までに児童兵士の募集と使用を含むあらゆる形態の児童労働を撲滅する。
- 8.8　移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある労働者など、すべての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する。
- 8.9　2030 年までに、雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業を促進するための政策を立案し実施する。
- 8.10　国内の金融機関の能力を強化し、すべての人々の銀行取引、保険及び金融サービスへのアクセスを促進・拡大する。
- 8.a　後発開発途上国への貿易関連技術支援のための拡大統合フレームワーク（EIF）などを通じた支援を含む、開発途上国、特に後発開発途上国に対する貿易のための援助を拡大する。
- 8.b　2020 年までに、若年雇用のための世界的戦略及び国際労働機関（ILO）の仕事に関する世界協定の実施を展開・運用化する。

目標 9. 強靭（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る

- 9.1　すべての人々に安価で公平なアクセスに重点を置いた経済発展と人間の福祉を支援するために、地域・越境インフラを含む質の高い、信頼でき、持続可能かつ強靭（レジリエント）なインフラを開発する。
- 9.2　包摂的かつ持続可能な産業化を促進し、2030 年までに各国の状況に応じて雇用及び GDP に占める産業セクターの割合を大幅に増加させる。後発開発途上国については同割合を倍増させる。
- 9.3　特に開発途上国における小規模の製造業その他の企業の、安価な資金貸付などの金融サービスやバリューチェーン及び市場への統合へのアクセスを拡大する。
- 9.4　2030 年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。すべての国々は各国の能力に応じた取組を行う。
- 9.5　2030 年までにイノベーションを促進させることや 100 万人当たりの研究開発従事者数を大幅に増加させ、また官民研究開発の支出を拡大させるなど、開発途上国をはじめとするすべての国々の産業セクターにおける科学研究を促進し、技術能力を向上させる。
- 9.a　アフリカ諸国、後発開発途上国、内陸開発途上国及び小島嶼開発途上国への金融・テクノロジー・技術の支援強化を通じて、開発途上国における持続可能かつ強靭（レジリエント）なインフラ開発を促進する。
- 9.b　産業の多様化や商品への付加価値創造などに資する政策環境の確保などを通じて、開発途上国の国内における技術開発、研究及びイノベーションを支援する。

- 9.c　後発開発途上国において情報通信技術へのアクセスを大幅に向上させ、2020 年までに普遍的かつ安価なインターネット・アクセスを提供できるよう図る。

目標 10. 各国内及び各国間の不平等を是正する

- 10.1　2030 年までに、各国の所得下位 40%の所得成長率について、国内平均を上回る数値を漸進的に達成し、持続させる。
- 10.2　2030 年までに、年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、すべての人々の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進する。
- 10.3　差別的な法律、政策及び慣行の撤廃、ならびに適切な関連法規、政策、行動の促進などを通じて、機会均等を確保し、成果の不平等を是正する。
- 10.4　税制、賃金、社会保障政策をはじめとする政策を導入し、平等の拡大を漸進的に達成する。
- 10.5　世界金融市場と金融機関に対する規制とモニタリングを改善し、こうした規制の実施を強化する。
- 10.6　地球規模の国際経済・金融制度の意思決定における開発途上国の参加や発言力を拡大させることにより、より効果的で信用力があり、説明責任のある正当な制度を実現する。
- 10.7　計画に基づき良く管理された移民政策の実施などを通じて、秩序のとれた、安全で規則的かつ責任ある移住や流動性を促進する。
- 10.a　世界貿易機関（WTO）協定に従い、開発途上国、特に後発開発途上国に対する特別かつ異なる待遇の原則を実施する。
- 10.b　各国の国家計画やプログラムに従って、後発開発途上国、アフリカ諸国、小島嶼開発途上国及び内陸開発途上国を始めとする、ニーズが最も大きい国々への、政府開発援助（ODA）及び海外直接投資を含む資金の流入を促進する。
- 10.c　2030 年までに、移住労働者による送金コストを 3%未満に引き下げ、コストが 5%を越える送金経路を撤廃する。

目標 11. 包摂的で安全かつ強靭（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する

- 11.1　2030 年までに、すべての人々の、適切、安全かつ安価な住宅及び基本的サービスへのアクセスを確保し、スラムを改善する。
- 11.2　2030 年までに、脆弱な立場にある人々、女性、子ども、障害者及び高齢者のニーズに特に配慮し、公共交通機関の拡大などを通じた交通の安全性改善により、すべての人々に、安全かつ安価で容易に利用できる、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する。
- 11.3　2030 年までに、包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、すべての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。
- 11.4　世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する。
- 11.5　2030 年までに、貧困層及び脆弱な立場にある人々の保護に焦点をあてながら、水関連災害などの災害による死者や被災者数を大幅に削減し、世界の国内総生産比で直接的経済損失を大幅に減らす。
- 11.6　2030 年までに、大気の質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する。

- 11.7　2030 年までに、女性、子ども、高齢者及び障害者を含め、人々に安全で包摂的かつ利用が容易な緑地や公共スペースへの普遍的アクセスを提供する。
- 11.a　各国・地域規模の開発計画の強化を通じて、経済、社会、環境面における都市部、都市周辺部及び農村部間の良好なつながりを支援する。
- 11.b　2020 年までに、包含、資源効率、気候変動の緩和と適応、災害に対する強靭さ（レジリエンス）を目指す総合的政策及び計画を導入・実施した都市及び人間居住地の件数を大幅に増加させ、仙台防災枠組 2015-2030 に沿って、あらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施を行う。
- 11.c　財政的及び技術的な支援などを通じて、後発開発途上国における現地の資材を用いた、持続可能かつ強靭（レジリエント）な建造物の整備を支援する。

目標 12.　持続可能な生産消費形態を確保する

- 12.1　開発途上国の開発状況や能力を勘案しつつ、持続可能な消費と生産に関する 10 年計画枠組み（10YFP）を実施し、先進国主導の下、すべての国々が対策を講じる。
- 12.2　2030 年までに天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する。
- 12.3　2030 年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食品ロスを減少させる。
- 12.4　2020 年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質やすべての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。
- 12.5　2030 年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。
- 12.6　特に大企業や多国籍企業などの企業に対し、持続可能な取り組みを導入し、持続可能性に関する情報を定期報告に盛り込むよう奨励する。
- 12.7　国内の政策や優先事項に従って持続可能な公共調達の慣行を促進する。
- 12.8　2030 年までに、人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。
- 12.a　開発途上国に対し、より持続可能な消費・生産形態の促進のための科学的・技術的能力の強化を支援する。
- 12.b　雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業に対して持続可能な開発がもたらす影響を測定する手法を開発・導入する。
- 12.c　開発途上国の特別なニーズや状況を十分考慮し、貧困層やコミュニティを保護する形で開発に関する悪影響を最小限に留めつつ、税制改正や、有害な補助金が存在する場合はその環境への影響を考慮してその段階的廃止などを通じ、各国の状況に応じて、市場のひずみを除去することで、浪費的な消費を奨励する、化石燃料に対する非効率な補助金を合理化する。

目標 13.　気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる*【国地気候：全般】

*国連気候変動枠組条約（UNFCCC）が、気候変動への世界的対応について交渉を行う基本的な国際的、政府間対話の場であると認識している。

- 13.1　すべての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靭性（レジリエンス）及び適応の能力を強化する。
- 13.2　気候変動対策を国別の政策、戦略及び計画に盛り込む。

- 13.3　気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。
- 13.a　重要な緩和行動の実施とその実施における透明性確保に関する開発途上国のニーズに対応するため、2020 年までにあらゆる供給源から年間 1,000 億ドルを共同で動員するという、UNFCCC の先進締約国によるコミットメントを実施するとともに、可能な限り速やかに資本を投入して緑の気候基金を本格始動させる。
- 13.b　後発開発途上国及び小島嶼開発途上国において、女性や青年、地方及び社会的に疎外されたコミュニティに焦点を当てることを含め、気候変動関連の効果的な計画策定と管理のための能力を向上するメカニズムを推進する。

目標 14. 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

- 14.1　2025 年までに、海洋ごみや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する。
- 14.2　2020 年までに、海洋及び沿岸の生態系に関する重大な悪影響を回避するため、強靭性（レジリエンス）の強化などによる持続的な管理と保護を行い、健全で生産的な海洋を実現するため、海洋及び沿岸の生態系の回復のための取組を行う。
- 14.3　あらゆるレベルでの科学的協力の促進などを通じて、海洋酸性化の影響を最小限化し、対処する。
- 14.4　水産資源を、実現可能な最短期間で少なくとも各資源の生物学的特性によって定められる最大持続生産量のレベルまで回復させるため、2020 年までに、漁獲を効果的に規制し、過剰漁業や違法・無報告・無規制（IUU）漁業及び破壊的な漁業慣行を終了し、科学的な管理計画を実施する。
- 14.5　2020 年までに、国内法及び国際法に則り、最大限入手可能な科学情報に基づいて、少なくとも沿岸域及び海域の 10 パーセントを保全する。
- 14.6　開発途上国及び後発開発途上国に対する適切かつ効果的な、特別かつ異なる待遇が、世界貿易機関（WTO）漁業補助金交渉の不可分の要素であるべきことを認識した上で、2020 年までに、過剰漁獲能力や過剰漁獲につながる漁業補助金を禁止し、違法・無報告・無規制（IUU）漁業につながる補助金を撤廃し、同様の新たな補助金の導入を抑制する[2]。
  注釈 2　現在進行中の世界貿易機関（WTO）交渉および WTO ドーハ開発アジェンダ、ならびに香港閣僚宣言のマンデートを考慮。
- 14.7　2030 年までに、漁業、水産養殖及び観光の持続可能な管理などを通じ、小島嶼開発途上国及び後発開発途上国の海洋資源の持続的な利用による経済的便益を増大させる。
- 14.a　海洋の健全性の改善と、開発途上国、特に小島嶼開発途上国および後発開発途上国の開発における海洋生物多様性の寄与向上のために、海洋技術の移転に関するユネスコ政府間海洋学委員会の基準・ガイドラインを勘案しつつ、科学的知識の増進、研究能力の向上、及び海洋技術の移転を行う。
- 14.b　小規模・沿岸零細漁業者に対し、海洋資源及び市場へのアクセスを提供する。
- 14.c　「我々の求める未来」のパラ 158 において想起されるとおり、海洋及び海洋資源の保全及び持続可能な利用のための法的枠組みを規定する海洋法に関する国際連合条約（UNCLOS）に反映されている国際法を実施することにより、海洋及び海洋資源の保全及び持続可能な利用を強化する。

目標 15. 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

- 15.1 2020 年までに、国際協定の下での義務に則って、森林、湿地、山地及び乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全、回復及び持続可能な利用を確保する。
- 15.2 2020 年までに、あらゆる種類の森林の持続可能な経営の実施を促進し、森林減少を阻止し、劣化した森林を回復し、世界全体で新規植林及び再植林を大幅に増加させる。
- 15.3 2030 年までに、砂漠化に対処し、砂漠化、干ばつ及び洪水の影響を受けた土地などの劣化した土地と土壌を回復し、土地劣化に荷担しない世界の達成に尽力する。
- 15.4 2030 年までに持続可能な開発に不可欠な便益をもたらす山地生態系の能力を強化するため、生物多様性を含む山地生態系の保全を確実に行う。
- 15.5 自然生息地の劣化を抑制し、生物多様性の損失を阻止し、2020 年までに絶滅危惧種を保護し、また絶滅防止するための緊急かつ意味のある対策を講じる。
- 15.6 国際合意に基づき、遺伝資源の利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分を推進するとともに、遺伝資源への適切なアクセスを推進する。
- 15.7 保護の対象となっている動植物種の密猟及び違法取引を撲滅するための緊急対策を講じるとともに、違法な野生生物製品の需要と供給の両面に対処する。
- 15.8 2020 年までに、外来種の侵入を防止するとともに、これらの種による陸域・海洋生態系への影響を大幅に減少させるための対策を導入し、さらに優先種の駆除または根絶を行う。
- 15.9 2020 年までに、生態系と生物多様性の価値を、国や地方の計画策定、開発プロセス及び貧困削減のための戦略及び会計に組み込む。
- 15.a 生物多様性と生態系の保全と持続的な利用のために、あらゆる資金源からの資金の 動員及び大幅な増額を行う。
- 15.b 保全や再植林を含む持続可能な森林経営を推進するため、あらゆるレベルのあらゆる供給源から、持続可能な森林経営のための資金の調達と開発途上国への十分なインセンティブ付与のための相当量の資源を動員する。
- 15.c 持続的な生計機会を追求するために地域コミュニティの能力向上を図る等、保護種の密猟及び違法な取引に対処するための努力に対する世界的な支援を強化する。

目標 16. 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する

- 16.1 あらゆる場所において、すべての形態の暴力及び暴力に関連する死亡率を大幅に減少させる。
- 16.2 子どもに対する虐待、搾取、取引及びあらゆる形態の暴力及び拷問を撲滅する。
- 16.3 国家及び国際的なレベルでの法の支配を促進し、すべての人々に司法への平等なアクセスを提供する。
- 16.4 2030 年までに、違法な資金及び武器の取引を大幅に減少させ、奪われた財産の回復及び返還を強化し、あらゆる形態の組織犯罪を根絶する。
- 16.5 あらゆる形態の汚職や贈賄を大幅に減少させる。
- 16.6 あらゆるレベルにおいて、有効で説明責任のある透明性の高い公共機関を発展させる。
- 16.7 あらゆるレベルにおいて、対応的、包摂的、参加型及び代表的な意思決定を確保する。
- 16.8 グローバル・ガバナンス機関への開発途上国の参加を拡大・強化する。

- 16.9　2030 年までに、すべての人々に出生登録を含む法的な身分証明を提供する。
- 16.10　国内法規及び国際協定に従い、情報への公共アクセスを確保し、基本的自由を保障する。
- 16.a　特に開発途上国において、暴力の防止とテロリズム・犯罪の撲滅に関するあらゆるレベルでの能力構築のため、国際協力などを通じて関連国家機関を強化する。
- 16.b　持続可能な開発のための非差別的な法規及び政策を推進し、実施する。

目標 17. 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

資金

- 17.1　課税及び徴税能力の向上のため、開発途上国への国際的な支援なども通じて、国内資源の動員を強化する。
- 17.2　先進国は、開発途上国に対する ODA を GNI 比 0.7%に、後発開発途上国に対する ODA を GNI 比 0.15~0.20%にするという目標を達成するとの多くの国によるコミットメントを含む ODA に係るコミットメントを完全に実施する。ODA 供与国が、少なくとも GNI 比 0.20%の ODA を後発開発途上国に供与するという目標の設定を検討することを奨励する。
- 17.3　複数の財源から、開発途上国のための追加的資金源を動員する。
- 17.4　必要に応じた負債による資金調達、債務救済及び債務再編の促進を目的とした協調的な政策により、開発途上国の長期的な債務の持続可能性の実現を支援し、重債務貧困国（HIPC）の対外債務への対応により債務リスクを軽減する。
- 17.5　後発開発途上国のための投資促進枠組みを導入及び実施する。

技術【軍科協、国地環境、国地総:全般】

- 17.6　科学技術イノベーション（STI）及びこれらへのアクセスに関する南北協力、南南協力及び地域的・国際的な三角協力を向上させる。また、国連レベルをはじめとする既存のメカニズム間の調整改善や、全世界的な技術促進メカニズムなどを通じて、相互に合意した条件において知識共有を進める。
- 17.7　開発途上国に対し、譲許的・特恵的条件などの相互に合意した有利な条件の下で、環境に配慮した技術の開発、移転、普及及び拡散を促進する。
- 17.8　2017 年までに、後発開発途上国のための技術バンク及び科学技術イノベーション能力構築メカニズムを完全運用させ、情報通信技術（ICT）をはじめとする実現技術の利用を強化する。

能力構築【国協企、国協総】

- 17.9　すべての持続可能な開発目標を実施するための国家計画を支援するべく、南北協力、南南協力及び三角協力などを通じて、開発途上国における効果的かつ的をしぼった能力構築の実施に対する国際的な支援を強化する。

貿易【経国貿】

- 17.10　ドーハ・ラウンド（DDA）交渉の結果を含めた WTO の下での普遍的でルールに基づいた、差別的でない、公平な多角的貿易体制を促進する。
- 17.11　開発途上国による輸出を大幅に増加させ、特に 2020 年までに世界の輸出に占める後発開発途上国のシェアを倍増させる。
- 17.12　後発開発途上国からの輸入に対する特恵的な原産地規則が透明で簡略的かつ市場アクセスの円滑化に寄与するものとなるようにすることを含む世界貿易機関（WTO）の決定に矛盾しない形で、すべての後発開発途上国に対し、永続的な無税・無枠の市場アクセスを適時実施する。

体制面【国地総】

政策・制度的整合性

- 17.13 政策協調や政策の首尾一貫性などを通じて、世界的なマクロ経済の安定を促進する。
- 17.14 持続可能な開発のための政策の一貫性を強化する。
- 17.15 貧困撲滅と持続可能な開発のための政策の確立・実施にあたっては、各国の政策空間及びリーダーシップを尊重する。

マルチステークホルダー・パートナーシップ

- 17.16 すべての国々、特に開発途上国での持続可能な開発目標の達成を支援すべく、知識、専門的知見、技術及び資金源を動員、共有するマルチステークホルダー・パートナーシップによって補完しつつ、持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップを強化する。
- 17.17 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。

データ、モニタリング、説明責任

- 17.18 2020 年までに、後発開発途上国及び小島嶼開発途上国を含む開発途上国に対する能力構築支援を強化し、所得、性別、年齢、人種、民族、居住資格、障害、地理的位置及びその他各国事情に関連する特性別の質が高く、タイムリーかつ信頼性のある非集計型データの入手可能性を向上させる。
- 17.19 2030 年までに、持続可能な開発の進捗状況を測る GDP 以外の尺度を開発する既存の取組を更に前進させ、開発途上国における統計に関する能力構築を支援する。

授業科目名	HG100U 北陸学院セミナーⅠ			開講学科	人間総合	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	1年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	礼拝・セミナー
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
1．大学礼拝　①礼拝：毎週平均2.5回以上の出席　②献金礼拝。キリスト教行事や世界の子ども支援に用いる　③花の日：６月　花を諸施設に届ける　④特別伝道礼拝：牧師を招き春は１・３年生を対象に。１年生は必ず出席　⑤創立記念礼拝：９月　学院の歴史、建学の精神に触れる　⑥収穫感謝：11月　果物を各所に届ける　⑦クリスマス礼拝：12月　学外説教者を招き、特別な礼拝を行う。１年生は必ず出席。 2．フレッシュマン・セミナー　全学科教員で実施に当たる本学独自の行事。全学科１年生が出席。聖書から本学の歴史、精神を学び、学びの姿勢を整える。 2022年度：５月20日（金）～21日（土）　講師・楠本史郎学院長・学長 3．各学科で秋に実施されるオータム・セミナーには２年生と一緒に１年生も参加する。 ※SDGsターゲット4.1,8.5関連科目	１）聖書の言葉を、心を落ち着け、静かに聴いて親しみ、その意味を聴き取る方法を体得する。 ２）賛美歌に親しみ、キリスト教精神を感得する。 ３）祈りに加わり、有限な世界を越えた永遠の世界に思いを馳せる。 ４）生の意味について考え、自分の存在の意味を考える。 ５）世界と歴史の意味に触れる。 ６）自己を発見し、職業選択を含めた、自分に与えられた使命を自覚する。 ７）教職員や友人と交流し、価値観を広げるとともに、意思伝達能力や集団における行動力を育む。

教授方法	大学礼拝およびフレッシュマン・セミナーならびにオータム・セミナーへの参加
履修条件	宗教オリエンテーションおよびキリスト教概論Ⅰで礼拝への参加方法を学び、フレッシュマン・セミナーについての学科オリエンテーションと準備作業に参加する。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
礼拝出席回数と姿勢	50	聖書・讃美歌を持参し、週平均2.5回以上大学礼拝に出席し、特別な礼拝にも主体的に参加している。	課題・レポート	10	セミナーの課題やレポートが期日までに提出されている。分量や内容について、指示どおり適切に作成されている。
セミナーへの参加	40	・事前の準備に積極的に参加している。 ・セミナーでの講演を主体的に聴いて理解し、グループでの話合いなどに参加している。 ・事後のレポート等で振り返りを行っている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
１）日頃より、聖書・讃美歌に親しむことが望ましい。 ２）地域の諸教会で行われている日曜日の礼拝に出席することが望ましい。〔90分〕 出席する教会については学生要覧を参照、または宗教主事に質問する。 ３）セミナーの準備に主体的に参加する。〔60分〕 ４）セミナー参加後に、レポート等により問題意識を深める。〔30分〕	セミナーに対する感想や疑問の要点を捉え、大学礼拝での奨励の主題に取り入れて語る。

受講生に望むこと	１）毎日の大学礼拝に聖書と讃美歌を持って主体的に参加する。携帯電話等は持ち込まない。万が一持ち込んだ場合は電源を切り、鞄にしまう。私語を慎み、礼拝に集中する。終了時にカードに押印を受け、押印が終了したページを、裏面に感想を記し、定められた提出期限内に提出する。私語や携帯使用など姿勢に問題がある場合、またカードが未提出の場合、欠席したとみなされる[ただし、少なくとも前期中は Google Classroom を通じて礼拝出席ミニレポート提出をもって出席と数える予定]。 ２）セミナーに主体的に参加することを望む。	教科書・テキスト	『聖書協会共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会、 『讃美歌21』日本基督教団出版局
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	HG200U 北陸学院セミナーⅡ			開講学科	人間総合	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	2年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	礼拝・セミナー
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
1．大学礼拝　①礼拝：毎週平均2.5回以上の出席　②献金　キリスト教行事や世界の子ども支援に用いる　③花の日：6月　花を諸施設に届ける　④特別伝道礼拝：牧師を招き秋は２・４年生を対象に。２年生は必ず出席　⑤創立記念礼拝：９月　学院の歴史、建学の精神に触れる　⑦収穫感謝：11月　果物を各所に届ける　⑧クリスマス礼拝：12月　学外説教者を招き、特別な礼拝を行う。２年生は必ず出席。 2．オータム・セミナー　全学科教員で実施に当たる本学独自の行事。全学科１・２年生が出席。聖書の世界に触れ、自分の生き方を考える。学科ごとに準備を行う。2022年度予定：11月11日（金）～12日（土） ※SDGsターゲット4.1,8.5関連科目	1）聖書の言葉を、心を落ち着け、静かに聴いて親しみ、その意味を聴き取る方法を体得する。 2）賛美歌に親しみ、キリスト教精神を感得する。 3）祈りに加わり、有限な世界を越えた永遠の世界に思いを馳せる。 4）生の意味について考え、自分の存在の意味を考える。 5）世界と歴史の意味に触れる。 6）自己を発見し、職業選択を含めた、自分に与えられた使命を自覚する。 7）教職員や友人と交流し、価値観を広げるとともに、学年を超えた交わりを通して意思伝達能力や集団における行動力を育む。

教授方法	大学礼拝およびオータム・セミナーへの参加
履修条件	キリスト教概論ⅠおよびⅡの単位を取得していることが望ましい。オータム・セミナーについての学科オリエンテーションと準備作業に参加する。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
礼拝出席回数と姿勢	50	聖書・讃美歌を持参し、週平均2.5回以上大学礼拝に出席し、特別な礼拝にも主体的に参加している。	課題・レポート	10	セミナーの課題やレポートが期日までに提出されている。分量や内容について、指示どおり適切に作成されている。
オータムセミナーへの参加	40	・事前の準備に積極的に参加している。 ・セミナーでの講演を主体的に聴いて理解し、グループでの話合いなどに参加している。 ・事後のレポート等で振り返りを行っている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1）日頃より、聖書・讃美歌に親しむことが望ましい。 2）地域の諸教会で行われている日曜日の礼拝に出席することが望ましい。〔90分〕 出席する教会については学生要覧を参照、または宗教主事に質問する。 3）セミナーの準備に主体的に参加する。〔60分〕 4）セミナー参加後に、レポート等により問題意識を深める。〔30分〕 5）１年生もオータム・セミナーに参加する。	セミナーに対する感想や疑問の要点を捉え、大学礼拝での奨励の主題に取り入れて語る。

受講生に望むこと	1）毎日の大学礼拝に聖書と讃美歌を持って主体的に参加する。携帯電話等は持ち込まない。万が一持ち込んだ場合は電源を切り、鞄にしまう。私語を慎み、礼拝に集中する。終了時にカードに押印を受け、押印が終了したページを、裏面に感想を記し、定められた提出期限内に提出する。私語や携帯使用など姿勢に問題がある場合、またカードが未提出の場合、欠席したとみなされる。[ただし、少なくとも前期中は Google Classroom を通じて礼拝出席ミニレポート提出をもって出席と数える予定]。 2）セミナーに主体的に参加することを望む。	教科書・テキスト	『聖書協会共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会、『讃美歌21』日本基督教団出版局
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	HG110U ｷﾘｽﾄ教概論Ⅰ			開講学科	人間総合	必修・選択	必修
担当教員名	楠本　史郎						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
本講義は全学生必修科目であり、北陸学院の基本精神である旧新約聖書について学ぶ入門科目である。キリスト教は世界で最大の信仰者を擁する宗教で、人類の歴史に大きな影響を与えてきた。今日の世界標準global standardの多くは、キリスト教の背景を持つ。聖書はその基準であり、現在、もっとも広く読まれているベストセラーでもある。 本講義では、担当教員を紹介し、心の根幹にかかわる信仰および宗教とは何かを知ることから始める。続いて、キリスト教について、聖書に基づき、概要を話し、他の宗教との違い、とくに各々の人間観・世界観・歴史観の相違を学ぶ。さらに、新約聖書の記述に直接触れつつ、おもにマルコによる福音書に基づいて、イエス・キリストの生涯について学び、新約聖書全体のメッセージのまとめで本講義を終わる。 ※SDGsターゲット4.7関連科目	北陸学院の建学の精神である「キリスト教に基づく人間教育」の根幹をなすキリスト教の思想を、聖書の学びによって知り、人間観、世界観、歴史観を広げる。 具体的には、聖書を学ぶことによって ①聖書について、キリスト教について、イエスの地上の生涯について、概略を理解することができる。 ②聖書を読み、その中心思想を理解し、それに対する自分の思考を文章によって表現する力を身に付ける。 ③聖書を通して世界とその歴史に触れ、国際人として広い視野を持つことができる。 ④人間理解を深め、自分自身の生き方を考え、求める方法を身に着ける。 ⑤他者や社会を尊重し、それらと自己との関わりを理解し、深めることができる。 ⑥北陸学院の建学の精神を知り、ここでの全ての学びの基礎を身に付ける。

教授方法	講義と応答レポート作成・提出を組み合わせて行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	自分を見つめる。担当者の紹介と授業予定、礼拝の守り方、聖書の開き方、賛美歌の歌い方を学ぶ。大学礼拝の守り方を知る。信じることと生きることについて考え、宗教とは何かを学ぶ。信じることの意味を知る。	
2	諸宗教のなかでのキリスト教の位置、および聖書の背景について学ぶ。日本と世界の宗教理解の相違を知る。新約の時代と歴史について学び、旧約と新約の継続性と違いを知る。新約の構成と背景にあるイエスの生涯の概略を理解する。	
3	時間論的視点から旧約と新約の違いを知る。宗派・教派による聖書の違いについて基本知識を持つ。イエスの生涯①　マルコ福音書1:9-14により、神が人となる受肉の意味を学ぶ。キリストの両性の意味を理解する。	
4	イエスの生涯②　マルコ5:1-20から、真の自分を取り戻し、真の自己となることの意味を学ぶ。真の自己の存在を知る。イエスの生涯③　マルコ8:27-9:1から、疎外からの解放がどのように行われるのかを学ぶ。真の自己となることの意味を知る。	
5	イエスの生涯④　マルコ10:1-12から、聖書の結婚観、夫婦観、家族観を学ぶ。聖書の結婚観を知り、自己の結婚観・家族観を養う。	
6	イエスの生涯⑤　存在の意味　マルコ10:35-45から、人間の存在の意味について学ぶ。自己の生の意味を他者との関係で捉える。 イエスの生涯⑥　マルコ12:28-34から、神への愛と他者への愛、真の自己愛とは何か、学ぶ。愛の構造を理解する。	
7	小テスト①およびイエスの生涯⑦　マルコ14:1-11から、受難の社会的構造を学ぶ。イエスの死の経緯と、救済史的な意味を理解する。イエスの生涯⑧　マルコ14:22-26から、最後の晩餐が示すイエスの死の贖罪の意味を知る。イエスの死の意味を知る。	
8	小テスト②および新約の中心的使信について説明し、それを聴き取るためのガイダンスを行う。新約の中心的メッセージを理解する。	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度・理解度	20	授業参加度・理解度	新約聖書の目次を覚える小テスト	20	新約聖書の目次を覚える小テスト
新約等前期授業の内容について小テスト	30	新約等前期授業の内容について小テスト	レポート	30	①教会の主日（日曜）礼拝への参加態度 ②そこでの説教内容のまとめ ③それに対する自己の意見

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①聖書およびそれに立つ北陸学院の基本姿勢を理解するため、大学礼拝および特別な礼拝への主体的参加を求める。〔20分〕 ②さらに、地域諸教会における主日礼拝への参加を勧める〔60分〕 ③フレッシュマンセミナーへの積極的参加を求める。〔28時間〕 ④日頃より聖書に親しみ、北陸学院宗教諸行事への積極的参加を求める。	毎回の応答用紙およびレポートには評価を書き込む。小試験については授業でコメントする。

受講生に望むこと	①受け身ではなく、主体的に授業に参加し、自分のノート・メモを取ること。 ②聖書を必ず持参すること。 ③遅刻や欠席、私語をせず、携帯電話等を鞄にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。	教科書・テキスト	『聖書協会共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会　毎回授業に持参する。『讃美歌21』
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	①原則として１回90分に、45分授業2コマ分を行う。１回欠席すると2コマの欠席となるので、努めて出席すること。 ②毎回の授業レポートを丁寧に記し、提出すること。提出しないと欠席扱いとする。 ③小テストを授業時間のなかで行うので、必ず受験すること。 ④レポートはClassroomを用いて必ず指定された期限内に提出すること。

実務経験を活かした授業の概要

牧師として聖書・キリスト教研究の成果を、幼稚園園長・宗教教誨師としての経験を実例として挙げつつ、キリスト教人間観・歴史観・教育観について講義し、学生にレスポンスペーパー記入を義務付け、それに応える形で授業を進めている。

授業科目名	HG120U ｷﾘｽﾄ教概論Ⅱ			開講学科	人間総合	必修・選択	必修
担当教員名	楠本　史郎						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
本講義は全学生必修科目であり、北陸学院の基本精神である旧新約聖書について学ぶ入門科目である。キリスト教は世界で最大の信仰者を擁する宗教で、人類の歴史に大きな影響を与えてきた。今日の世界標準global standardの多くは、キリスト教の背景を持つ。聖書はその基準であり、現在、もっとも広く読まれているベストセラーでもある。 キリスト教概論Ⅰで学んだ新約聖書の歴史と背景、その内容を前提として、おもに旧約聖書について学ぶ。旧約の背景となったイスラエル史は、他民族による侵略と支配を受け、民が自身の罪の現実と向かい合いながら、なお神の守りと救いを信じ、共同体を形成・維持し続けた苦難の歴史でもある。これを学ぶことにより、自己と社会を形作る基盤は何かを問う。具体的には旧約聖書の歴史と背景、および内容を学び、人間と世界の存在の意味、それに対する人間の責任と現実、契約と共同体倫理としての法の概念、歴史観と希望の概念等を課題とする。それに対する各自の主体的応答を、発表、レポート等の形で表現し、論議を深める。 ※SDGsターゲット16.3関連科目	北陸学院の建学の精神である「キリスト教に基づく人格教育」の根幹をなすキリスト教の思想を、聖書の学びによって知り、人間観、世界観、歴史観を広げる。 具体的には、聖書を学ぶことによって ①聖書について、キリスト教について、旧約の内容とイスラエル史について、概略を理解することができる。 ②聖書を読み、その中心思想を理解し、それに対する自分の思考を文章によって表現する力を身に着ける。 ③聖書を通して世界とその歴史に触れ、国際人として広い視野を持つことができる。 ④人間理解を深め、自分自身の生き方を考え、求める方法を身に着ける。 ⑤他者や社会を尊重し、それらと自己との関わりを理解し、深めることができる。 ⑥北陸学院の建学の精神を知り、ここでの全ての学びの基礎を身に付ける。

教授方法	講義と応答レポート作成・提出を組み合わせて行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イエスの生涯⑨　マルコ15:6-41により、イエスの十字架の死について学び、後期授業について概略を知る。イエスの十字架の意味を理解する。イエスの生涯⑩　マルコ16:1-8により、イエスの復活について知り、その意味を学ぶ。イエスの復活の意味を理解する。	
2	旧約を概論的に見て、その区分を学び、旧約全体の意味を学ぶ。旧約39書とその区分、本質を知る。イスラエル史の概略を知り、その過程で生まれた旧約の全体を知る。旧約各書とイスラエル史との関連を理解する。	
3	天地創造物語を読む。聖書の人間理解①　創世記1章の祭司資料Pから人間を「神のかたち」と捉える人間観を学ぶ。聖書の人間理解②　創世記2章のヤーウェ資料Jから、人間を土の塵と理解し、その命の根源に迫る。J資料の歴史的背景から聖書の生命観を理解する。	
4	堕罪物語　創世記3章から、神の前での罪と救いを学ぶ。聖書の罪理解と救いを知る。族長史　創世記12章以下から、アブラハム以下の物語を学び、その意味を知る。唯一神信仰の背景を理解する。	
5	十戒①　神の恵みと人間の責任　出エジプト記20章より、神の恵みへの応答として、十戒の前半５つの戒めを学ぶ。旧約における法の意味を知る。十戒②　法と社会　十戒の後半５つの戒めを学び、イスラエルの共同体形成を学ぶ。共同体形成原理を知る。	
6	イスラエル王国史を学び、ダビデ王の生涯とその功罪を知る。ダビデ王朝史を知り、聖書の歴史観を学ぶ。ダビデを通して旧約の指導者像を学ぶ。聖書における指導者の姿を理解する。	
7	旧約預言者の分類について、また代表的な使信を学ぶ。歴史的背景による旧約預言者の区分とその使信の相違を理解する。クリスマスについての概説を行う。および小テスト①	
8	小テスト②および、旧約の中心的使信について説明し、それを聴き取るためのガイダンスを行う。キリスト教の職業観を歴史的に振り返り、それぞれの人生形成を考える。旧約の中心的メッセージを理解する。	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度・理解度	20	毎回の講義内容をミニレポートにまとめ提出する。	旧約聖書の目次を覚える小テスト	20	旧約39書の正式書名を覚え、正典の順序で正しく書き記す。
旧約等後期授業の内容について小テスト	30	旧約関連の重要語、思想、その理解とそれに対する自己の考えを問う。	レポート	30	①教会の主日（日曜）礼拝への参加態度 ②そこでの説教内容のまとめ ③それに対する自己の意見

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①聖書およびそれに立つ北陸学院の基本姿勢を理解するため、大学礼拝および特別な礼拝への主体的参加を求める。〔20分〕 ②さらに、地域諸教会における主日礼拝への参加を勧める。〔60分〕 ③オータムセミナーへの積極的参加を求める。〔28時間〕 ④日頃より聖書に親しみ、北陸学院宗教諸行事への積極的参加を求める。	毎回の応答用紙およびレポートには評価を書き込む。小試験については授業でコメントする。

受講生に望むこと	①受け身ではなく、主体的に授業に参加し、自分のメモを取り、ノートを作ること。 ②聖書を必ず持参すること。 ③遅刻や欠席、私語をせず、携帯電話等を鞄にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。	教科書・テキスト	『聖書協会共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会　毎回授業に持参する。『讃美歌21』
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	①原則として１回90分に、45分授業2コマ分を行うので、１回欠席すると2コマの欠席となる。努めて授業に出席する。 ②毎回の授業レポートを丁寧に記し、提出すること。提出しないと欠席扱いとする。 ③小テストを授業時間のなかで行うので、必ず受験すること。 ④レポートはClassroomを用いて必ず指定された期限内に提出すること。

実務経験を活かした授業の概要

牧師として聖書・キリスト教研究の成果を、幼稚園園長・宗教教誨師としての経験を実例として挙げつつ、キリスト教人間観・歴史観・教育観について講義し、学生にレスポンスペーパー記入を義務付け、それに応える形で授業を進めている。

授業科目名	HG130U ｷﾘｽﾄ教人間論Ⅰ			開講学科	人間総合	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
キリスト教的人間観を理解し生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission)を発見し、実現しようとする力を身につけるために、キリスト教概論Ⅰ及びⅡで得た基礎理解を土台として、助けとなる素材と考え方を提供する。ねらいは①学生が礼拝の作法を身に着け、礼拝者として整えられること、②学生が聖書の使信（メッセージ）との関わりの中で自らの人生を主体的に形成していけるようになること、である。学生はキリスト教大学である本学で学ぶことの意味を理解し、北陸学院の学生としてのアイデンティティーが深まり、世界と人生の諸課題にキリスト教の視点からアプローチし取り組めるようになる。 ※SDGsターゲット12.8関連科目	①北陸学院の「建学の精神」を理解し本学院の学生としてのアイデンティティーが深まり、教会・学校・人生を通して礼拝者として生きる姿勢を習得する。 ②礼拝者としての姿勢が整えられ、「主の祈り」と「十戒」を会衆と共に暗唱できるようになる。 ③聖書のストーリーとのつながりの中で自分の人生を理解し、人生と世界の諸課題を主体的に考察し、自分の考えを表現できるようになる。

教授方法	レジュメに基づく講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	・本コースの概要を理解し、学びの姿勢を整える。Google Classroom 設定クラス参加手続。 ・「キリスト教人間学」とは：内容・意味・目的	
2	・「建学の精神」と北陸学院の歩み：学院の形成にあたり重要な役割を果たした先達たちと出会う。 ・「本当の友とは」（ヨハネ15:11-17）：主イエスが私たちの本当の友となってくださることを発見する。	
3	・「主の祈り」（ルカ11:1-13）「主の祈り」を理解し、祈り始める。 ・「赦し」（マタイ18:21-35）：神の御前で赦しを必要とする存在として自己を見つめ直す。	
4	・小テスト①：「主の祈り」 ・「献金」（マルコ12:41-44）：献金の心構えについて理解し実践する。花の日献金準備。	
5	・「聖書」という書物（テモテ二3:14-17）：聖書の成り立ちやジャンルを学ぶ。 ・「環境と飢餓」（申命記24:19-22）：世界の環境・飢餓問題について聖書から語りかけられるメッセージに聴く。	
6	・「十戒」：神が授けられた自由の道しるべとしての十戒を知る。 ・「労働と余暇」（ローマ12:1-8）：働くことにはどんな意味があるのかを問い、使命探求型人生を発見する。	
7	・小テスト②：「十戒」 ・「人格的交わりとしての性」（エフェソ5:21-33）：真に相手を人格として受け止め、尊敬をもって互いに接することができるようになる。	
8	・学期末授業評価アンケート ・期末試験準備説明	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度・理解度	20	「振り返りシート」で授業内容について自分の言葉で感想や疑問を表現できているかを評価。授業の妨げとなる態度・行為は大きく減点。	教会出席レポート	20	教会の主日礼拝に出席し、説教内容についての感想を自分の言葉によって表現できているかを評価。
小テスト	20	学期中2回（①「主の祈り」②「十戒」）、重要語句を書けるようにする小テストで評価。	学期末試験	40	講義内容の理解度を測る期末試験で評価。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、チャペル礼拝への主体的参加を求める。[30分] ②その週の授業内容をプリントで復習し、小テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。[30分] ③日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。[15分] ④収穫感謝・クリスマスにあたり、神に感謝し、花束や諸奉仕団体の活動のためにささげられる献金への参加準備をする。[15分]	「振り返りシート」は学期中の授業展開の上で参考にしていく。「礼拝出席レポート」、「学期末試験」については全体講評をメソフィア等で告知する。

受講生に望むこと	①本コースのファイルを用意し、毎回配布されるプリントをとじていくこと。 ②聖書・プリント用ファイルを必ず持参すること。 ③遅刻や欠席、無断での途中退席、私語等をせず、携帯電話等も鞄にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。 ④本学ならではの学びのチャンスにまずは心を開いて向き合ってみてほしい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／『神学のよろこびーはじめての人のための「キリスト教神学」ガイド』新装増補改訂版、アリスター・Ｅ・マクグラス（芳賀力訳）、キリスト新聞社、2017年。ISBN: 978-4-87395-721-0 『聖書は何を語るか』、大島力、日本キリスト教団出版局、1998年。ISBN: 978-481840316　その他、授業内で紹介する。	その他・特記事項	・毎回聖書を持参すること。 ・授業中の他科目の内職、私語、スマホ操作など基本的社会マナー違反は放置せず注意する。繰り返されるマナー違反は厳しく減点する。他の受講生のためにも最低限のマナーは守ること。 ・指定された日にはノートパソコンを持参。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	HG140U ｷﾘｽﾄ教人間論Ⅱ			開講学科	人間総合	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
キリスト教概論Ⅰ及びⅡで得た基礎理解を土台として、学生が自分の人生観や価値観を聖書的理解に基づいてかたちづくっていくために助けとなる素材を提供する。ねらいは①学生が礼拝の作法を身に着け、礼拝者として整えられること、②学生が聖書の使信（メッセージ）との関わりの中で自らの人生を主体的に形成していけるようになること、である。学生はキリスト教大学である本学で学ぶことの意味を理解し、北陸学院の学生としてのアイデンティティーが深まり、世界と人生の諸課題にキリスト教の視点からアプローチし取り組めるようになる。 ※SDGsターゲット8.5関連科目	①北陸学院の「建学の精神」を理解し本学院の学生としてのアイデンティティーが深まり、教会・学校・人生を通して礼拝者として生きる姿勢を習得する。 ②礼拝者としての姿勢が整えられ、「使徒信条」を会衆と共に暗唱できるようになり、前期と合わせて三要文を身に着けて、豊かな礼拝体験を持てるようになる。 ③聖書のストーリー、歴史を生きた信仰者とのつながりの中で自分の人生を理解し、聖書の「大いなる物語」の一部として自分もこの人生を生きていることを理解できるようになる。

教授方法	レジュメに基づく講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	・イントロダクション：本コースの概要説明。Google Classroom 設定クラス参加手続。 ・「キリスト教人間学」とは：内容・意味・目的	
2	天地創造と堕罪の物語ー人間の栄光と悲惨を知り、神によって霊を吹き込まれ生きるようになった特別な存在としての自己を発見する。	
3	アブラハムの信仰物語ー人生の諸課題に神への信頼から来る勇気をもって立ち向かえるようになる視点を発見する。 ・小テスト①：使徒信条	
4	預言者の召命ー自分の賜物をもって神から示された使命に生きる人生観を発見する。 ・収穫感謝献金準備。	
5	聖書の人間観ー「魂」・「霊」・「肉」の諸次元について理解し、神に「祈る」ことを発見する。	
6	・「運命ではなく摂理」（創世記45:1-8）：運命論ではなく、神の摂理に導かれた人生観を発見する。 ・小テスト②：キリスト教史	
7	・パウロの人間観ー罪を赦され「新しく造りかえられた」存在としてのアイデンティティーを発見する。 ・クリスマス礼拝賛美練習・献金準備	
8	・学期末授業評価アンケート ・期末試験準備説明	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業態度	20	「振り返りシート」で授業内容を自分の言葉でまとめて感想や疑問を表現できているかを評価。授業の妨げとなる態度・行為は大きく減点。	小テスト	20	学期中2回（①「使徒信条」②「キリスト教史」）行う小テストで評価。
教会出席レポート	20	地域教会の礼拝に出席し、メッセージ内容についての感想を自分の言葉によって表現できているかを評価。	学期末試験	40	講義内容の理解度を測る記述試験により評価。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、チャペル礼拝への主体的参加を求める。[30分] ②その週の授業内容をプリントで復習し、小テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。[30分] ③日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。[15分] ④収穫感謝・クリスマスにあたり、神に感謝し、花束や諸奉仕団体の活動のためにささげられる献金への参加準備をする。[15分]	「振り返りシート」は学期中の授業展開の上で参考にしていく。「礼拝出席レポート」、「学期末試験」については全体講評をメソフィア等で告知する。

受講生に望むこと	①コースのファイルを用意し、毎回配布されるプリントをとじていくこと。 ②聖書・プリント用ファイルを必ず持参すること。 ③遅刻や欠席、無断での途中退席、私語等をせず、携帯電話等も鞄にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。 ④本学ならではの学びのチャンスにまずは心を開いて向き合ってみてほしい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし。／金子晴勇『キリスト教人間学入門』（教文館、2016年）。 アリスター・Ｅ・マクグラス（芳賀力訳）『神学のよろこびーはじめての人のための「キリスト教神学」ガイド』新装増補改訂版（キリスト新聞社、2017年）。その他、授業で紹介する。	その他・特記事項	・毎回聖書を持参すること。 ・授業中の他科目の内職、私語、スマホ操作などのマナー違反が繰り返される場合は厳しく減点する。他の受講生のためにも最低限のマナーは守ること。 ・指定された日にはノートパソコンを持参。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	GE100U 総合教養AⅠ			開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修
担当教員名	中野　聡・中島　賢介・虫明　淑子・福江　厚啓・谷　昌代　（代表教員　中野　聡）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、全学共通科目における「総合教養科目」に位置付けられている科目である。「子ども」をキーワードに様々な角度から話題を提供する。少子化が進行する時代にあって、子どもの魅力、子育ての楽しさ、子どもから学ぶことなど、多くの事例を通して理解を深める、オムニバス方式の本講義に幼、小、中それぞれの現場の様子や、それら教育実践を貫く教育思想について５人の教員がリレー方式で、各担当の専門分野を活かしながら３回ずつ講義を担当する。 ※SDGsターゲット3.2,4.2,4.5,11.7,13.1,13.316.1,16.2関連科目	１～３回：子どもは皆、それぞれの認識世界に生きているということを理解し、幼小接続期の子どもや特別な支援を必要とする子どもの事例をもとに、育ち・学びとはどのようなものなのか考えることができる。（福江） ４～６回：乳幼児期の心と身体の育ちを理解し、子どもたちを取り巻く環境や人々の課題について関心を持ち、考えることができる。（谷） ７～９回：子どもが生きる未来をよりよくするには、園や学校の協働と家庭や地域が連携して社会で子どもを育てる視点をもつことと、幼児期の教育を充実することが重要であることを理解する。（虫明） １０～１２回：子どもの頃に読んできた絵本や物語を読み直すことで、これからの社会のあり方について考えることができる。（中島） １３～１５回：小学校に英語が導入されるに至った歴史的背景と現状について通時的、共時的に理解する。特に小学校英語で大切にしている「意味あるやり取り」と、英語と日本語の言語接触によってどのような影響があるかを体験も通して理解する。（中野）

教授方法	５名の子ども教育学科教員によるオムニバス形式の講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：担当教員紹介、科目を学ぶ意義、レポートの書き方 子どもの世界は「物語」：子どもの姿から、一人ひとりをみてみよう。	福江
2	幼保から小学校へ：就学期に子どもが感じるエトセトラ。	福江
3	小学校の特別支援教育：一人ひとりに応じること、協働すること。	福江
4	赤ちゃんの不思議：乳幼児はどのように人の心を理解するのか…探ってみよう。	谷
5	乳幼児期の学び：人・モノ・場・自分と対話をしながら学び、育つ乳児の姿を見てみよう。	谷
6	現代の子育て事情のいろんなこと：子育てする保護者の心の揺れ動きを知ろう。	谷
7	子どもを取り巻く環境の変化に伴う教育上の課題を考える。	虫明
8	幼児期における「遊び」の重要性と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について理解する。	虫明
9	「遊び」がなぜ「学び」につながるのかについて考える。	虫明
10	子どもと哲学に向き合う　児童文学の中で哲学的話題に関する作品を紹介・解説し、哲学的話題とどのように向き合うかを考える。	中島
11	子どもと平和に向き合う　児童文学の中で戦争などに関する作品を紹介・解説し、平和とどのように向き合うかを考える。	中島
12	子どもと災害に向き合う　児童文学の中で災害などに関する作品を紹介・解説し、災害とどのように向き合うかを考える。	中島
13	小学校の外国語活動・英語科の現状：子どもたちが今取り組んでいること、大切にしていることについて知ろう。	中野
14	外国語教育の歴史と海外事情：日本の英語教育の歴史、諸外国の英語教育の現状について知ろう。	中野
15	言語接触による影響：英語が子どもたちの日本語に与える影響、外来語に対する意識について考えてみよう。	中野

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
担当者ごとの授業後の課題レポート	100（20×5）	授業内容の把握とそれに対する自分の考えを的確に表現している			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
今、子ども・教育問題への関心はどの年齢層にとっても関心が強く、社会で論議されている。普段からそれらの論議に関心を寄せると共に、授業の中で生まれた課題意識を授業者が紹介した書籍等から積極的に学んで深めてほしい。[30分程度]	教員ごとに応対する。

受講生に望むこと	子ども教育学科生以外は、それぞれの専門領域ではないが、どの職業も何らかの形で人に関わること、今という学生時代を仲間と共に生きること、将来家庭をつくり子育てに関わる可能性が高いことを考えれば、人がどのように学び、育つのかを深く理解しておくことは極めて重要である。ぜひ意欲と関心を高めて授業に参加してほしい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	Classroomを用いて課題等を提示することがある。

実務経験を活かした授業の概要

中野：小学校での指導経験を踏まえて、具体的な事例を紹介しながら小学校外国語・英語科の大切にすべきことを指導している。
中島：高等学校の国語科における文学指導、北陸学院小学校における読書推進活動で得た経験を活用する。
虫明：幼稚園における管理職の経験をもとに、幼児教育の重要性や「遊び」がなぜ「学び」につながるのかの視点を提示する。
福江：幼稚園、小学校の教諭としての経験をもとに、絵本の中の子どもの姿、幼稚園や小学校における実際の子どもの姿を紹介し、「物語論的」に子どもの内面世界を見取ることの豊かさについて話題提供している。
谷：幼稚園教諭、保育教諭、子育て支援の経験をもとに、乳幼児と保護者の周辺で起こっている出来事について実際の事例を通して紹介し、乳幼児の育ち合う姿をビデオ映像などを通して伝えている。

授業科目名	GE110U 総合教養AⅡ			開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修
担当教員名	中野　聡・虫明　淑子・福江　厚啓・谷　昌代・向出　圭吾　（代表教員　中野　聡）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、全学共通科目における「総合教養科目」に位置付けられている科目である。「子ども」をキーワードに様々な角度から話題を提供する。少子化が進行する時代にあって、子どもの魅力、子育ての楽しさ、子どもから学ぶことなど、多くの事例を通して理解を深める、オムニバス方式の本講義に幼、小、中それぞれの現場の様子や、それら教育実践を貫く教育思想について５人の教員がリレー方式で、各担当の専門分野を活かしながら３回ずつ講義を担当する。 ※SDGsターゲット3.2,4.2,11.7関連科目	１～３回：乳幼児期の心と身体の育ちを理解し、子どもたちを取り巻く環境や人々の課題について関心を持ち、考えることができる。（谷） ４～６回：幼稚園・保育園時代に誰もが体験した「遊び」の中にいろんな「学び」があることを遊びの体験を通して感じ取り、今後の幼稚園・保育園の動向についても興味・関心がもてるようになる。（向出） ７～９回：子どもが生きる未来をよりよくするには、園や学校の協働と家庭や地域が連携して社会で子どもを育てる視点をもつことと、幼児期の教育を充実することが重要であることを理解する。（虫明） １０～１２回：子どもは皆、それぞれの認識世界に生きているということを理解し、幼小接続期の子どもや特別な支援を必要とする子どもの事例をもとに、育ち・学びとはどのようなものなのか考えることができる。（福江） １３～１５回：小学校に英語が導入されるに至った歴史的背景と現状について通時的、共時的に理解する。特に小学校英語で大切にしている「意味あるやり取り」と、英語と日本語の言語接触によってどのような影響があるかを体験も通して理解する。（中野）

教授方法	５名の子ども教育学科教員によるオムニバス形式の講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	赤ちゃんの不思議：乳幼児はどのように人の心を理解するのか…探ってみよう。	谷
2	乳幼児期の学び：人・モノ・場・自分と対話をしながら学び、育つ乳幼児の姿を見てみよう。	谷
3	現代の子育て事情のいろんなこと：子育てする保護者の心の揺れ動きを知ろう。	谷
4	遊びを通して学ぶ幼児期の子ども（1）実際に遊びを体験することによって、学びの原点について考える。	向出
5	遊びを通して学ぶ幼児期の子ども（2）遊びを繰り返すこと、継続することによって学びが深まる過程を考える。	向出
6	今後の幼稚園・保育園の行方：幼稚園・保育園の現状について理解するとともに、認定こども園への移行、保育教諭、幼児教育・保育の無償化等、今後の動向について考える。	向出
7	子どもを取り巻く環境の変化に伴う教育上の課題を考える。	虫明
8	幼児期における「遊び」の重要性と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について理解する。	虫明
9	「遊び」がなぜ「学び」につながるのかについて考える。	虫明
10	子どもの世界は「物語」：子どもの姿から、一人ひとりをみてみよう。	福江
11	幼保から小学校へ：就学期に子どもが感じるエトセトラ	福江
12	小学校の特別支援教育：一人ひとりに応じること、協働すること	福江
13	小学校の外国語活動・英語科の現状：子どもたちが今取り組んでいること、大切にしていることについて知ろう。	中野
14	外国語教育の歴史と海外事情：日本の英語教育の歴史、諸外国の英語教育の現状について知ろう。	中野
15	言語接触による影響：英語が子どもたちの日本語に与える影響、外来語に対する意識について考えてみよう。	中野

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
担当者ごとの授業後の課題レポート	100（20×5）	授業内容の把握とそれに対する自分の考えを的確に表現している			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
今、子ども・教育問題への関心はどの年齢層にとっても関心が強く、社会で論議されている。普段からそれらの論議に関心を寄せると共に、授業の中で生まれた課題意識を授業者が紹介した書籍等から積極的に学んで深めてほしい。[30分程度]	教員ごとに応対する。

受講生に望むこと	子ども教育学科生以外は、それぞれの専門領域ではないが、どの職業も何らかの形で人に関わること、今という学生時代を仲間と共に生きること、将来家庭をつくり子育てに関わる可能性が高いことを考えれば、人がどのように学び、育つのかを深く理解しておくことは極めて重要である。ぜひ意欲と関心を高めて授業に参加してほしい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	Classroomを用いて課題等を提示することがある。

実務経験を活かした授業の概要

中野：小学校での指導経験を踏まえて、具体的な事例を紹介しながら小学校外国語・英語科の大切にすべきことを指導している。
虫明：幼稚園における管理職の経験をもとに、幼児教育の重要性や「遊び」がなぜ「学び」につながるのかの視点を提示する。
福江：幼稚園、小学校の教諭としての経験をもとに、絵本の中の子どもの姿、幼稚園や小学校における実際の子どもの姿を紹介し、「物語論的」に子どもの内面世界を見取ることの豊かさについて話題提供している。
谷：幼稚園教諭、保育教諭、子育て支援の経験をもとに、乳幼児と保護者の周辺で起こっている出来事について実際の事例を通して紹介し、乳幼児の育ち合う姿をビデオ映像などを通して伝えている。
向出：子どもの遊びは、幼稚園現場においては単なる遊びに終わるのではなく、その中に学びがあることを、実際の現場の遊びを通して他学科の学生にも意識してもらっている。

授業科目名	GE120U 総合教養BⅠ			開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修
担当教員名	田中　純一・小林　正史・加藤　仁　（代表教員　田中　純一）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業は、社会学、比較文化、心理学といった各担当教員の専門分野の視点から、人間と社会の関係に焦点をあて、社会における人間のありようと抱える課題について考える。	・災害が炙り出す社会の脆弱性と構造的課題について理解する。また、災害ボランティア活動事例を通して、共助、互助の意義、ボランティアの社会的役割について理解する。（田中） ・食器などの比較を通して、伝統的（手作り）技術の優れた面を理解できるようになる。（小林） ・心理学の研究知見に基づくところの働きについて理解する。また、心理学の基礎知識から日常を振り返り、生活に役立てられるようになる。（加藤）

教授方法	3名の社会学科教員によるオムニバス形式の講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：科目概要、到達目標、受講する際の注意事項等について。 災害からの復旧・復興過程と諸課題：過去の自然災害から、被災→生活復旧→生活復興へと至る過程で発生する諸課題について理解する。	田中
2	災害弱者とは誰か：避難所で発生するさまざまな生活課題について理解する。	田中
3	災害と地域コミュニティ：超少子高齢社会における自助、共助・互助、公助の関係性について理解する。	田中
4	災害ボランティア：国内外の活動事例を通し、災害ボランティアの社会的役割と意義、課題について理解する。	田中
5	住み続けられる地域とは：減災概念、レジリエンス概念について理解する。	田中
6	食器の作り分け：日本の飯椀と汁椀の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する。	小林
7	食器の作り分け：日本と韓国・中国の食器の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する。	小林
8	稲作農耕民の飲食方法民族誌：箸食・匙食との比較をとおして手食の役割を理解する。	小林
9	炊飯方法と食べ方の歴史：米調理方法が米品種の特徴に合わせて変化すること、および、食べ方が米調理方法に合わせて変化することを理解する。	小林
10	日本と英語圏の食文化の比較：稲作文化圏と小麦文化圏の比較を通して、食材、調理方法、食べ方の関連を理解する。	小林
11	自己の心理学：自己概念について理解し、自分自身への理解を深める。	加藤
12	パーソナリティ心理学：ダークトライアド概念について理解する。	加藤
13	道徳の心理学：道徳心理学の観点から公正の概念について学習し、自身の価値観を振り返る。	加藤
14	人間関係の心理学：恋愛・結婚に伴う人間関係のさまざまな側面について理解を深める。	加藤
15	ポジティブ心理学：自己実現を達成するための心理学の技法について学習し、実際に体験する。	加藤

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加態度及び意欲	30	授業への取り組み姿勢・講義時に求められる提出物の取り組み状況	小レポート等の提出	20	授業時間外で行う小課題が適切に作成されている。また、提出期限を守っている。
レポート課題	50	各担当者の講義終了時（5回講義1セット）にレポートを作成し提出する。レポートの形式はその都度担当教員の指示に従うこと。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前に配布されたレジュメ等は必ず目を通しておくこと（30分） その日のうちに学んだことを復習すること（30分）	個々の教員の指示に従うこと

受講生に望むこと	授業への積極的な参加を求めるとともに、講義中に学んだことを深く掘り下げる努力をする。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	配布された資料を読むように指示されることがある。	その他・特記事項	特になし。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	GE130U 総合教養BⅡ			開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修
担当教員名	田中　純一・小林　正史・加藤　仁　（代表教員　田中　純一）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業は、社会学、比較文化、心理学といった各担当教員の専門分野の視点から、人間と社会の関係に焦点をあて、社会における人間のありようと抱える課題について考える。	・災害が炙り出す社会の脆弱性と構造的課題について理解する。また、災害ボランティア活動事例を通して、共助、互助の意義、ボランティアの社会的役割について理解する。（田中） ・食器などの比較を通して、伝統的（手作り）技術の優れた面を理解できるようになる。（小林） ・心理学の研究知見に基づくところの働きについて理解する。また、心理学の基礎知識から日常を振り返り、生活に役立てられるようになる。（加藤）

教授方法	3名の社会学科教員によるオムニバス形式の講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：科目概要、到達目標、受講する際の注意事項等について。 災害からの復旧・復興過程と諸課題：過去の自然災害から、被災→生活復旧→生活復興へと至る過程で発生する諸課題について理解する。	田中
2	災害弱者とは誰か：避難所で発生するさまざまな生活課題について理解する。	田中
3	災害と地域コミュニティ：超少子高齢社会における自助、共助・互助、公助の関係性について理解する。	田中
4	災害ボランティア：国内外の活動事例を通し、災害ボランティアの社会的役割と意義、課題について理解する。	田中
5	住み続けられる地域とは：減災概念、レジリエンス概念について理解する。	田中
6	食器の作り分け：日本の飯椀と汁椀の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する。	小林
7	食器の作り分け：日本と韓国・中国の食器の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する。	小林
8	稲作農耕民の飲食方法民族誌：箸食・匙食との比較をとおして手食の役割を理解する。	小林
9	炊飯方法と食べ方の歴史：米調理方法が米品種の特徴に合わせて変化すること、および、食べ方が米調理方法に合わせて変化することを理解する。	小林
10	日本と英語圏の食文化の比較：稲作文化圏と小麦文化圏の比較を通して、食材、調理方法、食べ方の関連を理解する。	小林
11	自己の心理学：自己概念について理解し、自分自身への理解を深める。	加藤
12	パーソナリティ心理学：ダークトライアド概念について理解する。	加藤
13	道徳の心理学：道徳心理学の観点から公正の概念について学習し、自身の価値観を振り返る。	加藤
14	人間関係の心理学：恋愛・結婚に伴う人間関係のさまざまな側面について理解を深める。	加藤
15	ポジティブ心理学：自己実現を達成するための心理学の技法について学習し、実際に体験する。	加藤

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加態度及び意欲	30	授業への取り組み姿勢・講義時に求められる提出物の取り組み状況	小レポート等の提出	20	授業時間外で行う小課題が適切に作成されている。また、提出期限を守っている。
レポート課題	50	各担当者の講義終了時（5回講義1セット）にレポートを作成し提出する。レポートの形式はその都度担当教員の指示に従うこと。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前に配布されたレジュメ等は必ず目を通しておくこと（30分） その日のうちに学んだことを復習すること（30分）	個々の教員の指示に従うこと

受講生に望むこと	授業への積極的な参加を求めるとともに、講義中に学んだことを深く掘り下げる努力をする。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	配布された資料を読むように指示されることがある。	その他・特記事項	特になし。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	GE140U 総合教養CⅠ	開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修
担当教員名	新澤　祥恵・上農　肇・坂井　良輔・田中　弘美・三田　陽子　（代表教員　新澤　祥恵）				

標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
生活環境の変化に伴い、食環境も多様化する中で、肥満ややせ、メタボリックシンドロームなど食に関連する問題が多く提起されている。健康づくりには、「栄養」「運動」「休養」の３つのバランスが大切であるが、中でも、栄養（食生活）が基本的な問題といえる。この授業では、今日的課題である「食育」「食の安全・安心」といった視点も踏まえ、次のテーマをとおして、これからの食生活の在り方を考えていきたい。	①食物と健康の関連を理解する。 ②栄養素と健康の関連を理解する。 ③正しい食生活のあり方を理解する。 ④食と心理の関係を理解する。 ⑤食糧需給の現状を理解し、課題意識を持つ。

教授方法	5名の食物栄養学科教員によるオムニバス形式の講義。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	食と生活：人間にとって食とは、どのようなものかを考え、理解する。	新澤
2	日本人の食生活の変化と問題点：自分の食生活を見直し、問題点をみつける。	田中
3	食品の一次、二次、三次機能とは何かについて学ぶ	坂井
4	食品の一次機能について学ぶ　-タンパク質、脂質、糖質-	坂井
5	食品の一次機能について学ぶ　-味成分、香り成分、色素成分-	坂井
6	食品の三次機能について学ぶ　-機能成分-	坂井
7	日本人の食文化：人間が育んできた食の歴史から食文化を理解し、行事食や郷土食の継承について考える。	三田
8	食に関する情報と健康：食を取り巻く様々な情報の取捨選択の仕方について考える。	三田
9	献立作成の基本を学ぶ。（食事摂取基準、食事バランスガイドの理解を含む）	田中
10	ライフステージを通して、健康な食事を考える。	田中
11	食物摂取と健康の概念：私たちはなぜ食べるのか？健康とはなにか？を考える。	三田
12	食事と環境：人間と食べ物と環境のつながりから、環境調和型食生活の意義を考える。	三田
13	食と心理①：食べることや食べるものによる、私たちの心理面や行動面に与える影響について、特に発達の観点から考える。	上農
14	食と心理②：食行動の健康と病理について、特に家族関係の観点から考える。	上農
15	21世紀の国民健康づくり運動：「健康日本21」が策定されたことを踏まえ、国民一人ひとりがどうあるべきか考える。	田中

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
担当者毎のレポート	90	①授業内容と課題に応じて論理的に考察されている ②質的量的に適切である ③指定期日までの提出	受講態度	10	授業参加意欲

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
食生活と健康に関する情報に関心を持ち、これらに関連する本や新聞、雑誌の記事を読むこと。毎回の授業内容をまとめる。[毎回30分程度]	毎回の授業ごとに対応は異なるが、課題の記載内容について講評することもある。

受講生に望むこと	①各担当者が出す課題のレポートを確実に提出すること ②授業中の私語を慎み、遅刻をしない	教科書・テキスト	授業ごとに担当者が配布する資料を用いる
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	GE150U 総合教養CⅡ	開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修
担当教員名	新澤　祥恵・上農　肇・俵　万里子・西　正人　（代表教員　新澤　祥恵）				

標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
生活環境の変化に伴い、食環境も多様化する中で、肥満ややせ、メタボリックシンドロームなど食に関連する問題が多く提起されている。健康づくりには、「栄養」「運動」「休養」の３つのバランスが大切であるが、中でも、栄養（食生活）が基本的な問題といえる。この授業では、今日的課題である「食育」「食の安全・安心」といった視点も踏まえ、次のテーマをとおして、これからの食生活の在り方を考えていきたい。	①食物と健康の関連を理解する。 ②栄養素と健康の関連を理解する。 ③正しい食生活のあり方を理解する。 ④食と心理の関係を理解する。 ⑤食糧需給の現状を理解し、課題意識を持つ。

教授方法	4名の食物栄養学科教員によるオムニバス形式の講義。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	食と生活：人間にとって食とは、どのようなものかを考え、理解する。	新澤
2	健康と食文化：人間が育んできた食の歴史から食文化を理解し、健康との関連を考える。	新澤
3	ライフステージに応じた食育（胎児期・乳児期）：健康な心身の基礎を作るための望ましい食生活のあり方について考える。	俵
4	ライフステージに応じた食育（成長期）：心身の健全な成長・発達のための食生活のあり方について考える。	俵
5	ライフステージに応じた食育（成人期）：生活習慣病予防のための食生活のあり方を考える。	俵
6	運動・スポーツと栄養：運動・スポーツ時の身体変化とそのために必要な栄養摂取について理解する。	俵
7	食品と薬剤1：ヒトの消化器系の構造と機能、生体内に薬剤が吸収される仕組みを理解する。	西
8	食品と薬剤2：薬剤の服用方法や食品の薬効に及ぼす影響とその仕組みについて学ぶ。	西
9	食品と薬剤3：食品中の特定成分（カフェイン、色素、食品群別）が薬効に及ぼす影響について学ぶ。	西
10	アレルギーと経口免疫寛容4：経口免疫寛容の成り立ち。アレルギーや経口免疫寛容に影響する機能性食品や腸内細菌の働きについて学ぶ。	西
11	食と心理①：食べることや食べるものによる私たちの心理面や行動面に与える影響について、特に発達の観点から考える。	上農
12	食と心理②：食行動の健康と病理について、特に家族関係の観点から考える。	上農
13	食と流通：世界の食料資源はどうなっているか理解し、日本の食料需給の問題を考える。	新澤
14	環境と食：環境負荷の少ない調理など、環境調査型食生活の意義を考える。	新澤
15	食の安全安心：食の安全安心をハザードとリスクや食育の視点から理解する。	新澤

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
担当者毎のレポート	90	①授業内容と課題に応じて論理的に考察されている ②質的量的に適切である ③指定期日までの提出	受講態度	10	授業参加意欲

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
食生活と健康に関する情報に関心を持ち、これらに関連する本や新聞、雑誌の記事を読むこと。毎回の授業内容をまとめる。[毎回30分程度]	毎回の授業ごとに対応は異なるが、課題の記載内容について講評することもある。

受講生に望むこと	①各担当者が出す課題のレポートを確実に提出すること ②授業中の私語を慎み、遅刻をしない	教科書・テキスト	授業ごとに担当者が配布する資料を用いる
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	GE160U 総合教養DⅠ			開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修
担当教員名	富岡　和久・葦名　理恵　（代表教員　富岡　和久）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
日本の産業界では「おもてなし」と同義で「ホスピタリティ」が使われている。一方欧米ではキリスト教精神が根付いており、日本とは別の視点で捉えられている。本講義でははじめにホスピタリティ産業から、サービス、おもてなし、ホスピタリティの違いや、顧客満足、従業員満足について理解を深めるとともに、コロナ禍における人と人とのつながり、社会で役立つコミュニケーションスキルを学ぶ。次にキリスト教的視点に立ち、他者支援・援助のあり方を通してホスピタリティについて学ぶ。 ※SDGsターゲット1.1～1.b,4.1～4.a,5.1,5.3,5.c,10.2関連科目	・サービス、おもてなし、ホスピタリティの違いを説明できる。 ・ホスピタリティマインドを理解する。 ・基本的なコミュニケーションスキルを身につける。 ・ビジネスとしてのホスピタリティとキリスト教の精神に基づいたホスピタリティの違いを理解している。 ・社会福祉の視点からの思いやりについて例を挙げて説明できる。

教授方法	講義、演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション	葦名・富岡
2	ホスピタリティについての基礎知識を確認、サービス・おもてなしとの違いを理解する。	葦名
3	ホスピタリティ産業とは？①　ブライダル業を一例にホスピタリティマインドを理解する。	葦名
4	コミュニケーションスキル①　挨拶・自己紹介テキスト作成する。	葦名
5	コミュニケーションスキル②　外見からの第一印象を通し、身だしなみを整える必要性を理解する。	葦名
6	コミュニケーションスキル③　聞く力 スピーキングテクニックとアクティブ・リスニングを理解し、活用例を学ぶ。	葦名
7	コミュニケーションスキル④　話す力スピーキングテクニックを理解し、活用例を学ぶ 最終課題について。	葦名
8	コミュニケーションスキル最終回　自己紹介を「自己プレゼンテーション」として表現できるようになる。	葦名
9	ヒトはなぜ人を助けるのか。 　目標：なぜ人間だけが他者を援助するのかについて理解している。	富岡
10	社会福祉とホスピタリティ 　ビジネスにおけるホスピタリティと社会福祉の観点からのホスピタリティの違いを理解している。	富岡
11	茶道に見るおもてなしの原点。 　茶道の作法から日本におけるおもてなし精神の源流を理解している。	富岡
12	ヤヌシュ･コルチャックに学ぶ。 　ヤヌシュ･コルチャックの活動から子どもへの思いやりについて理解している。	富岡
13	ヘレン・ケラーに学ぶ。 　ヘレン・ケラーの生涯から他者への思いやりについて理解している。	富岡
14	マーティン･ルーサー･キング･ジュニアに学ぶ。 　マーティン･ルーサー･キング･ジュニアの公民権運動から他者への思いやりについて理解している。	富岡
15	マザー・テレサに学ぶ。 　マザー・テレサの活動から死を待つ人々への思いやりについて理解している。	富岡

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
振り返りシート・レポート	30	・振り返りシート、など提出物にて授業内容の理解度を確認し、評価する。〔葦名・富岡 15%〕	授業参加態度	20	授業への積極的参加や取り組み態度を評価する。[葦名 ・富岡 10%]
最終課題	25	学んだ内容（コミュニケーションスキル）を活用した内容を評価する。〔葦名〕 授業時間外に鑑賞した指定の映画のレポート内容を評価する。〔富岡〕	ワークシート	25	授業ごとのまとめシート（ワークシート）にて授業内容の理解度を確認し、評価する。〔富岡〕

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
【葦名】 ・日ごろから他者とのかかわり（コミュニケーション）の際に学習したスキルの活用を心掛けること［60分］ 【富岡】 ・シラバスに標記された各回のテーマと目的を参考に、事前に不明な点を調べる。また、授業後疑問や新たな課題について調べる。［30分］ ・授業で取り上げられた人物について調べる。［15分］ ・指定の映画を鑑賞し、そこから発見したことや疑問を抽出する。［約70分］	課題提出物などついては指定の講義日に返却する。 その他質問などは講義時間内に受け付ける。

受講生に望むこと	・コミュニケーションスキルの基本を身につけ、実践できるようになるため、積極的な受講態度を望む ・ビジネスシーンだけでなく、日常生活でのホスピタリティのあり方について考えてほしい。	教科書・テキスト	適宜、プリントを配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし　適時講義の中で紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	GE170U 総合教養DⅡ			開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修
担当教員名	富岡　和久・葦名　理恵　（代表教員　富岡　和久）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
日本の産業界では「おもてなし」と同義で「ホスピタリティ」が使われている。一方欧米ではキリスト教精神が根付いており、日本とは別の視点で捉えられている。本講義でははじめにホスピタリティ産業から、サービス、おもてなし、ホスピタリティの違いや、顧客満足、従業員満足について理解を深めるとともに、コロナ禍における人と人とのつながり、社会で役立つコミュニケーションスキルを学ぶ。次にキリスト教的視点に立ち、他者支援・援助のあり方を通してホスピタリティについて学ぶ。 ※SDGsターゲット1.1～1.b,4.1～4.a,5.1,5.3,5.c,10.2関連科目	・サービス、おもてなし、ホスピタリティの違いを説明できる。 ・ホスピタリティマインドを理解する。 ・基本的なコミュニケーションスキルを身につける。 ・ビジネスとしてのホスピタリティとキリスト教の精神に基づいたホスピタリティの違いを理解している。 ・社会福祉の視点からの思いやりについて例を挙げて説明できる。

教授方法	講義、演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション	葦名・富岡
2	ホスピタリティについての基礎知識を確認、サービス・おもてなしとの違いを理解する。	葦名
3	ホスピタリティ産業とは？①　ブライダル業を一例にホスピタリティマインドを理解する。	葦名
4	コミュニケーションスキル①　挨拶・自己紹介テキスト作成する。	葦名
5	コミュニケーションスキル②　外見からの第一印象を通し、身だしなみを整える必要性を理解する。	葦名
6	コミュニケーションスキル③　聞く力 スピーキングテクニックとアクティブ・リスニングを理解し、活用例を学ぶ。	葦名
7	コミュニケーションスキル④　話す力スピーキングテクニックを理解し、活用例を学ぶ 最終課題について。	葦名
8	コミュニケーションスキル最終回　自己紹介を「自己プレゼンテーション」として表現できるようになる。	葦名
9	ヒトはなぜ人を助けるのか。 　目標：なぜ人間だけが他者を援助するのかについて理解している。	富岡
10	社会福祉とホスピタリティ 　ビジネスにおけるホスピタリティと社会福祉の観点からのホスピタリティの違いを理解している。	富岡
11	茶道に見るおもてなしの原点。 　茶道の作法から日本におけるおもてなし精神の源流を理解している。	富岡
12	ヤヌシュ･コルチャックに学ぶ。 　ヤヌシュ･コルチャックの活動から子どもへの思いやりについて理解している。	富岡
13	ヘレン・ケラーに学ぶ。 　ヘレン・ケラーの生涯から他者への思いやりについて理解している。	富岡
14	マーティン･ルーサー･キング･ジュニアに学ぶ。 　マーティン･ルーサー･キング･ジュニアの公民権運動から他者への思いやりについて理解している。	富岡
15	マザー・テレサに学ぶ。 　マザー・テレサの活動から死を待つ人々への思いやりについて理解している。	富岡

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
振り返りシート・レポート	30	・振り返りシート、など提出物にて授業内容の理解度を確認し、評価する。〔葦名・富岡 15%〕	授業参加態度	20	授業への積極的参加や取り組み態度を評価する。[葦名 ・富岡 10%]
最終課題	25	学んだ内容（コミュニケーションスキル）を活用した内容を評価する。〔葦名〕 授業時間外に鑑賞した指定の映画のレポート内容を評価する。〔富岡〕	ワークシート	25	授業ごとのまとめシート（ワークシート）にて授業内容の理解度を確認し、評価する。〔富岡〕

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
【葦名】 ・日ごろから他者とのかかわり（コミュニケーション）の際に学習したスキルの活用を心掛けること［60分］ 【富岡】 ・シラバスに標記された各回のテーマと目的を参考に、事前に不明な点を調べる。また、授業後疑問や新たな課題について調べる。［30分］ ・授業で取り上げられた人物について調べる。［15分］ ・指定の映画を鑑賞し、そこから発見したことや疑問を抽出する。［約70分］	課題提出物などついては指定の講義日に返却する。 その他質問などは講義時間内に受け付ける。

受講生に望むこと	・コミュニケーションスキルの基本を身につけ、実践できるようになるため、積極的な受講態度を望む ・ビジネスシーンだけでなく、日常生活でのホスピタリティのあり方について考えてほしい。	教科書・テキスト	適宜、プリントを配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし　適時講義の中で紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LJ090U 日本語基礎			開講学科	人間総合	必修・選択	自由
担当教員名	小松　洋一						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は大学での講義受講やレポート作成に必要とされる日本語表現の基礎力養成を目的としている。「漢字」「語彙」「文法」などの基礎力を充実させ、大学生活で必要な「文章表現」「口頭表現」の力を伸ばす。また、大学生活を豊かにする「文学作品」「日本の美しいことば」等に触れる。	①辞書に親しみ、使いこなすことができる ②決められた「テーマ」「時間」で文章表現ができる ③表現力を豊かにするために「漢字」「語彙」「文法」などの基礎力を伸ばす ④口頭表現に慣れ親しむ

教授方法	演習と講義。
履修条件	入学時基礎学力テスト結果に基づき総合的に判断した結果、本授業履修が必要と判断された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：「日本語基礎力」とはどういうものかを理解する。「自己紹介文」を書く。	
2	①前回の「自己紹介文」を「口頭表現」「文章表現」として発表し、「すばらしい点」「直したい点」を考える。 ②辞書を使い慣れる（漢字の「読み」と「意味」）	
3	①表現力を豊かにする語彙（対義語） ②辞書を使い慣れる（「対義語」）	
4	①文章表現の基礎（「構成」を考える）　②表現力を豊かにする語彙（同義語） ③辞書を使い慣れる（「同義語」）	
5	①文章表現の基礎（「構成」「起承転結」を考える）　②表現力を豊かにする語彙（四字熟語） ③辞書を使い慣れる（「四字熟語」）	
6	①文章表現の実践（「エッセイ」を書く）②表現力を豊かにする語彙（三字熟語） ③辞書を使い慣れる（「三字熟語」）	
7	①口頭表現の実践（「詩」の朗読）②表現力を豊かにする語彙（故事成語） ③辞書を使い慣れる（「故事成語」）	
8	①口頭表現の実践（「詩」「散文」の朗読）　②表現力を豊かにするために（仮名遣い） ③辞書を使い慣れる（仮名遣いに注意して）　④到達確認テスト	
9	①文章表現の実践（「意見文」を書く） ②表現力を豊かにするために（言葉の意味を知る）	
10	①口頭表現の実践（前回の「意見文」を推敲し、発表する） ②表現力を豊かにするために（「ことわざ」を使いこなす）	
11	①文章表現の実践（「意見文」を書く） ②表現力を確実にするために（教育漢字の確認）	
12	①口頭表現の実践（前回の「意見文」を推敲し、発表する） ②表現力を確実にするために（常用漢字の確認）	
13	①文章表現の実践（「意見文」を書く） ②表現力を確実にするために（表外漢字の確認）	
14	①文章表現の実践（小論文」を書く） ②表現力を確実にするために（日本語の乱れ・文法）	
15	①文章表現の実践（「小論文」を書く） ②表現力を確実にするために（まとめ）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期テスト（16 回目）	50	各回の講義内容・演習内容を理解している。	到達確認テスト（8 回目）	20	各回の講義内容・演習内容を理解している。
各回の課題提出	20	定められた書式・時間に従って提出している。さらに、「文章表現」においては自分の考え・意見を表現している。	授業参加態度	10	課題に取り組み、弱点を克服している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回学んだ内容をまとめ、配布された資料・プリントを復習しておくこと［40分］	・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・提出された課題で返却するものは授業の中で返却し、随時フィードバックを行う。

受講生に望むこと	授業を通して、大学生活に必要なマスメディア・文学・辞書などに触れる習慣を身に付けよう。	教科書・テキスト	担当者が配布する資料・プリントを用いる。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①辞書（電子辞書が望ましい）を持参すること

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LJ110U 日本語表現法Ⅰ			開講学科	人間総合	必修・選択	必修
担当教員名	中島　賢介・亀田　孝太郎・清水　實・小松　洋一　（代表教員　中島　賢介）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は、全学共通科目のうち学部の言語教育科目に位置付けられている。受講生は本授業内の演習や課題作成を通して、大学における授業理解の土台となる文章表現力と口頭表現力の基礎を培う。文章表現においては、問題演習を通して語彙を増やし、具体的かつ適切に言葉を用いる技術を学ぶ。口頭表現においては、敬語の理解を通してまとまった内容を人前で話すことについての基本を学ぶ。また、さまざまな場面を想定した会話を練習することによって、正しい敬語を使用することに慣れる。 ※SDGsターゲット4.7関連科目	①言葉で伝えるための基本的な姿勢を習得する。（聞き方、話し方、読み方、書き方） ②敬語の基本を理解し、敬語を適切に用いた表現ができる。 ③問題演習などを通し、大学生・社会人レベルの語彙を身につけ、適切な漢字表記ができる。 ④基本的な文章作成のルールを身につけ、読み手にわかりやすい文章を作成することができる。 ⑤総合的な日本語表現力（日本語検定２級を目指す実力）を身につけている。

教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。随時ディスカッションを行う。
履修条件	「日本語基礎」履修者は、単位修得後に「日本語表現法Ⅰ」を履修することができる。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	「敬語の種類と使い分け」について理解する。/ 「尊敬語」「謙譲語Ⅰ」「謙譲語Ⅱ」「丁寧語」「美化語」それぞれを適切な場で、適切に使うことができるようになる。	全員
2	「注意すべき敬語」について理解する。/ 尊敬語・謙譲語の混同をはじめ、二重敬語・マニュアル敬語といった日常よく耳にする間違いやすい敬語について理解することができる。	全員
3	「配慮を示す言葉」について理解する。/ 円滑な人間関係を確立・維持するための言語行動について理解し、必要なときに、必要な場で、正しい敬語を使うことができるようになる。	全員
4	「品詞・活用の種類」について理解する。/ 文法を学ぶための必要な基本的知識として、品詞の種類や、述語に用いられる動詞や形容詞の活用について理解することができる。	全員
5	「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」について理解する。/「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」は、どういう点で問題があるのかについて理解し、このような誤った言葉遣いをしないためには、どうすればいいのかについて、考えることができる。	全員
6	「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」について理解する。/長い文、あるいは構造が複雑な文の、主語・述語が対応しているかどうか、文の複数の意味を持つあいまいな文になっていないかどうかなどを判断することができる。	全員
7	「接続語・指示語と文章」について理解する。/ 接続語や指示語が、意見の要点を定めたり、論の展開を考えるのにとても大切な役割を果たしていることに気付き、それぞれの語を正しく理解し、効果的に使うことができるようになる。	全員
8	「類義語・対義語」について理解する。/ 類義語や同義語の使い分けについて整理することができる。	全員
9	「動詞の自他・視点」について理解する。/ 物事を描写する方法は一つではないこと、どこに視点を置いて述べるかによって、伝えられる内容が変わって見えることについて、理解することができる。	全員
10	「文体、話し言葉・書き言葉」について理解する。/ 言語を表現する際、条件によって整える必要のある「文体」について、その使い分けのポイントを理解することができる。	全員
11	「コロケーション」について理解する。/ 「肩で風を切って歩く」「的を射る」等、慣用的な言葉のつながりについて理解することができる。	全員
12	「部首・音訓・熟語」について理解する。/ 漢字に関わる事項の中で、部首や読み方(音読み・訓読み)、熟語について、理解することができる。	全員
13	「仮名遣い・送り仮名」について理解する。/ 現代仮名遣いと送り仮名の付け方について理解する。	全員
14	「スキルアップ!日本語力」(東京書籍)に取り組んでの気付き、発見、学びを「Ａ４」1枚にまとめることができる。	全員
15	レポートの書き方について、理解を深めることができる。	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加状況	20	①必要な準備をして参加している。 ②毎回の学習事項について予習復習をしている。 ③積極的にディスカッションに参加している。	提出課題	30	①授業時に指示する課題について、学習した事項を踏まえて表現し、提出している。 ②日本語検定・領域別問題集について、指示された書式・期日を守り、自己採点を行った上で提出している。
単位認定試験	50	①授業で取り組んだ各分野の内容を概ね修得している。 ②得意な分野を伸長し、苦手な分野を克服している。 ③日本語検定3級以上の実力がついている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回指定された課題・問題に取り組む。[40分] ②苦手な分野の克服に向けて努力する。具体的には、苦手とする領域の問題集（指定図書の欄参照）に取り組む。[40分] ③前期の授業で学んだ内容をもとに、夏季休業中にレポートを作成して、後期の授業に持参すること。[夏期休業中に10日～14日間程度]	・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・提出された課題で返却するものは授業の中で返却し、随時フィードバックを行う。

受講生に望むこと	①毎回、必ずChromebookを持参すること。 ②主体的に課題やディスカッションに取り組むこと。 ③各自の学習成果を確認するため、日本語検定を受験すること。	教科書・テキスト	『ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第2版　プロセス重視のレポート作成』大島弥生他　ひつじ書房　2014 ISBN: 978-4‐89476‐709‐6 『スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳』名古屋大学日本語研究会GK７　東京書籍　2018(第13刷発行)　ISBN: 978-4‐487‐80364‐4
指定図書／参考書等	日本語検定委員会　（東京書籍　2008）発行の以下のテキストより 1 冊を選んで問題を解く。 ①日本語検定公式テキスト『日本語中級３・４級』ISBN　978-4487802906 ②日本語検定領域別問題集『敬語』ISBN　978-4487802760 ③日本語検定領域別問題集『語彙・言葉の意味』ISBN　978-4487802784 ④日本語検定領域別問題集『文法』ISBN　978-4487802777 ⑤日本語検定領域別問題集『漢字・表記』ISBN　978-4487802971	その他・特記事項	①基礎学力テストで一定の基準に達しなかった学生は「日本語基礎」の授業を履修し、単位取得した後で履修すること。 ②日本語表現法Ⅱにおいてもテキストを継続して使用する。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LJ120U 日本語表現法Ⅱ			開講学科	人間総合	必修・選択	必修
担当教員名	中島　賢介・亀田　孝太郎・清水　實　（代表教員　中島　賢介）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は、全学共通科目のうち、言語教育科目に位置付けられている。受講生は、日本語表現法Ⅰで学んだことを基礎として、大学生活から社会生活におけるさらに高度な文章表現力と口頭表現力を培う。 文章表現においては、レポート作成を通して形式に則った作成方法を学ぶ。口頭表現においては、相手の話の要点を的確に把握し、論理的で説得力のある話し方について考え、スピーチやディベートなどの体験を通して実践的に学ぶ。 ※SDGsターゲット4.7関連科目	①言葉で伝えるための実践的な知識・技能を身につけている。 ②敬語の知識を身につけ、場に応じて相手に配慮した適切な敬語を使うことができる。 ③定型文章表現（主としてレポート作成）に必要な知識やルールを理解して、適切に表現することができる。 ④人前で改まった内容のスピーチを行うことができる。 ⑤資料に基づいて論理的に物事を説明することができる。 ⑥グループで協力してディベートを行うことができる。

教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。
履修条件	「日本語表現法Ⅰ」の単位を修得済の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：日本語表現法Ⅱで学ぶ文章表現、口頭表現について概要を説明する。	全員
2	テキスト①：文章・表現・形式を点検する。 テキスト②：重要語句を確認する。	全員
3	テキスト①：発表を準備する。 テキスト②：重要語句を確認する。	全員
4	テキスト①：口頭発表をする。 テキスト②：重要語句を確認する。	全員
5	テキスト①：口頭発表をする。 テキスト②：重要語句を確認する。	全員
6	テキスト①：学んだことを振り返る。 テキスト②：重要語句を確認する。	全員
7	テキスト①：スピーチ原稿、手元資料（メモカード）を作成する。 テキスト②：重要語句を確認する。	全員
8	テキスト①：発表資料（レジュメなど）を作成する。 テキスト②：重要語句を確認する。	全員
9	スピーチの実践（前半グループ）	全員
10	スピーチの実践（後半グループ）	全員
11	ディベートについて理解し、論題についてディスカッションを行う。	全員
12	ディベートの技術を理解する。	全員
13	ディベートの実践（前半グループ）	全員
14	ディベートの実践（後半グループ）	全員
15	後期の授業で学んだことを振り返り、グループで協議する。自己の課題を取り上げ、ミニレポートを作成する。	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加状況	20	①必要な授業準備をして参加している。 ②与えられた役割・課題を果たして、ディスカッションやディベートに参加している。 ③毎回学習する事項について予復習をしている。	口頭表現発表態度	40	①学習内容を理解して発表を行っている。 ②ディベートやディスカッションのルールを理解し実践している。 ③相手の意見をしっかり聞き、積極的に発言している。
課題レポート	40	①形式・内容の両面において、学習内容が反映されている。 ②計画通りにレポートが作成できている。 ③大学生レベルの語彙力・表現になっている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①日本語表現法Ⅰで課されたレポートを夏季休業期間を利用して作成し、初回の授業で提出すること。[夏期休業中に10日～14日間] ②ディベートはグループごとに役割分担をして、資料収集・論点組立の準備をする。[120分] ②レポート発表は、各自が自分に最適だと思われる方法を考え準備する。	・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・提出された課題で返却するものは授業の中で返却し、随時フィードバックを行う。

受講生に望むこと	①「日本語表現法Ⅰ」で学んだ内容を踏まえた上で授業を行うため、必要に応じて復習をしておくこと。 ②毎回Chromebookを持参し、分からない単語や表現などはその都度調べるなどして語句の理解に努めること。 ③授業時はもちろん相当量の事前事後学習が求められるため、学習する時間を確保して、集中して取り組むこと。	教科書・テキスト	①『ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第2版　プロセス重視のレポート作成』大島弥生他　ひつじ書房　2014 ISBN: 978-4‐89476‐709‐6 ②『スキルアップ！日本語力　大学生のための日本語練習帳』名古屋大学日本語研究会GK７　東京書籍　2018(第13刷発行) ISBN: 978-4‐487‐80364‐4
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	日本語表現法Ⅰで使用したテキストを継続して用いる。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LE090U 英語基礎			開講学科	人間総合	必修・選択	自由
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は，全学共通科目における「基礎力強化科目」に位置付けられている。本授業では英語学習の仕方や中学校程度の基礎知識（文法的知識や語彙・発音）の定着をすることを目標に、「予習⇒授業での理解確認⇒テスト⇒復習・予習」サイクルで授業を行う。具体的には、毎回テキストに従って、基本的文法事項の理解確認と同時に、練習問題やペアワークを通じて大学生の日常生活に必要な語彙を使って発信できる力を養う。	・大学での英語学習に必要な基本的語彙・文型を用いて、シンプルな文を自分で組み立てられる。 ・シンプルな文でスピーキング・ライティングができる。 ・自律的に英語を学ぶ姿勢が身についている。

教授方法	演習（予習⇒授業での理解確認⇒テスト⇒復習・予習）の形式で行う。
履修条件	入学時基礎学力テスト結果に基づき総合的に判断した結果、本授業履修が必要と判断された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、クラスルール、ノートの作り方、テキストの使い方等について学ぶ。英語での自己紹介をする。	
2	Lesson 1: This is my everyday life.一般動詞(1)現在形の肯定文、否定文、疑問文を学ぶ	
3	前回の授業で学んだ文型を用いて、日常生活の表現を実際に聞き、読み、話し、書く。	
4	Lesson 2: Do you keep a diary?一般動詞(2) 一般動詞のWh-疑問文と答え方。人称代名詞の使い方を学ぶ。日常生活について、質問の仕方、答え方を実際に使えるようにする。	
5	Lesson 3: These are my family photos. be動詞(1) be動詞現在形を使い、家族についての紹介の仕方を学ぶ。	
6	Lesson 4: Where are you from? be動詞(2) be動詞のwh-疑問文を使って、相手の状態や持ち物についての質問の仕方と答え方を学ぶ。予習	
7	Lesson 5: We love our town,Sakura-Yokocho.　場所の表現　基本的な前置詞を用いて、街の紹介文を理解し、発信できるようにする。	
8	Lesson 6: I'm so busy this month! 時の表現　時点、期間、回数など様々な時の表現を用いて過去の行為や予定についての表現を学ぶ。	
9	Lesson 7: Are you enjoying the Autumn Festival?　進行形　進行形を用いて目の前の出来事の記述や過去のある時点での行為の説明の仕方を学ぶ。	
10	Lesson 8: How was the job interview? 助動詞　面接試験の場面を題材に義務･可能･許可などの表現の仕方を学ぶ。	
11	Lesson 9:　What does he look like?　Wh-疑問文　wh疑問文を用いて相手から情報を得たり、答えたりする表現を学ぶ。	
12	Lesson 10: Can you come to our Christmas Concert?　基本動詞 get, have, come,　go等の基本動詞の用法を学び、発信に使う	
13	Lesson 11: Santa Claus is coming. 基本動詞の前置詞　put, take等基本動詞の句動詞としての用法を学び、発信に使う。	
14	Lesson 12: Let's take a trip.英語で自分を表現するために　英語で発信する際の文の組み立て方を確認する。	
15	文法事項を復習し、まとめとして自分の日常生活またはこれからの予定など、自分についての短いスピーチ原稿を書き、発信する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	授業に取り組む姿勢(発音、ペアワーク、質問等)	ノートづくり・課題への取り組み	50	①予習：指定された範囲の課題（ノートづくり）ができている。 ②質問して分かったことがノートにメモされている。 ③復習：本時の学習事項を定着すべく練習している。
スピーチ原稿と発信	10	学んだことをいかして自分についてのスピーチ原稿を作り、発信する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習型で進められる。単語や文の意味（発音・ストレスは音声データを用いて練習)を下調べし、練習問題の答を書いてくる。［40分］不明な点等があれば授業で質問すること。 ②授業後は内容を確認しながら音読するなど復習をして定着を図ること。［20分］ ③目安として毎日30分程度の学習を行うよう課題が出される。計画的に取り組むこと。	随時行う

受講生に望むこと	①1回目のオリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。守らない場合、単位認定に影響することがある。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Communication in Simple English発信型シンプル・イングリッシュ』三修社　2007年　ISBN:978-4-384-33378-7 C1082
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	入学時基礎学力テストで「英語基礎」に該当した者は、「英語基礎」の単位を修得しなければ、「英語ＦＩ」を履修できない。本科目を1年次に2回履修し、単位修得ができなかった場合には進級基準により3年次への進級できないことが確定する。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LE155U 英語A I			開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修
担当教員名	アンソニー　ダガン						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。	・現代社会のさまざまな問題について英語を適切に用いて、理解、発信ができる。 ・それぞれのテーマについてデータからの情報を利用して論理的なディスカッションを行うことができる。 ・ディスカッションや新たな情報も取り入れて自分の意見をまとめ、スピーチ、プレゼンあるいはライティングで発表できる。 ・CEFRのB2+～C1レベルに近い言語運用力を身につける。

教授方法	演習（ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等)　Self-introduction	
2	Unit 1 (1)Artificial Intelligenceをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたテ　ィスカッションの準備をする	
3	Unit 1 (2) Artificial Intelligenceについてディスカッションを行い、自分の意見をまとめる	
4	Unit 2 (1) Business:The Sharing Economyをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたテ　ィスカッションの準備をする	
5	Unit 2 (2) Business:The Sharing Economyについてディスカッションを行い、自分の意見をまとめる	
6	Unit 3 (1) Food Wasteをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたテ　ィスカッションの準備をする	
7	Unit 3 (2) Food Wasteについてディスカッションを行い、自分の意見をまとめ発表する	
8	Unit 4 (1) Plastic Wasteをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたテ　ィスカッションの準備をする	
9	Unit 4 (2) Plastic Wasteについてディスカッションを行い、自分の意見をまとめ発表する	
10	Unit 5 (1) The Japaese Mentalityをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたテ　ィスカッションを行う	
11	Unit 5 (2) The Japaese Mentalityについてディスカッションを振り返り、自分の意見をまとめ発表する Unit 1 ～ Unit 5の復習、振り返り	
12	外部テスト　(特記事項参照)	
13	Unit 6 (1) Space Explorationをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたテ　ィスカッションを行う	
14	Unit 6 (2) Space Explorationについて自分の意見をまとめ発表する Unit 7 (1) Immigrationをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたテ　ィスカッションを行う	
15	Unit 7 (2) Immigrationについて自分の意見をまとめ発表する Unit 6 ～ Unit 7の復習、前期の振り返り	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	30	小テスト・発表・タスク等 ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト	単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。	外部テスト	20	目標レベルに到達している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］ ③テーマについて積極的に情報収集を行い効果的なディスカッションができるよう準備をすること。［50分］	随時行う

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『CLIL Discuss the Changing World』 Miyako Nakaya et al.2020年　成美堂. ISBN:978-4791972081
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストは状況により実施週が変更になる可能性もあります。別途指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LE160U 英語AⅡ			開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修
担当教員名	アンソニー　ダガン						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。	・現代社会のさまざまな問題について英語を適切に用いて、理解、発信ができる。 ・それぞれのテーマについてデータからの情報を利用して論理的なディスカッションを行うことができる。 ・ディスカッションや新たな情報も取り入れて自分の意見をまとめ、スピーチ、プレゼンあるいはライティングで発表できる。 ・CEFRのB2+～C1レベルの言語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト等）。
履修条件	「英語AⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	クラスオリエンテーション、 Unit 8（1）Education: Online Learningをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、ディスカッションを行う	
2	Unit 8（2）Online Learningについて自分の意見をまとめ発表する	
3	Unit 9（1）Entertainmentをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う	
4	Unit 9（2）Space Explorationについて自分の意見をまとめ発表する	
5	Unit 10（1）The Agricultural Revolutionをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う	
6	Unit 10（2）The Agricultural Revolutionについて自分の意見をまとめ発表する Unit 11（1）The Aging Societyをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う	
7	Unit 11（2） The Aging Societyについて自分の意見をまとめ発表する Unit 12（1） DNA Technologyをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う	
8	Unit 12（2） DNA Technologyについて自分の意見をまとめ発表する Unit 8～Unit 12の復習、振り返り	
9	Unit 13（1） Trade Warをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う	
10	Unit 13（2）Trade Warについて自分の意見をまとめ発表する Unit 14（1）Religionをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う	
11	Unit 14（2）Religionについて自分の意見をまとめ発表する	
12	外部テスト（特記事項参照）	
13	Unit 15（1）Privacy and Freedom of Expressionをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う	
14	Unit 15（2）Privacy and Freedom of Expressionについて自分の意見をまとめ発表する Unit 13～Unit 15の復習、振り返り	
15	Unit 8～Unit 15で学んだテーマから1つを選び、データを用い反論も考慮に入れてプレゼンテーションを行う Unit 8～Unit 15の復習、振り返り	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	30	(小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習容確認の小テスト	単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。	外部テスト	20	目標レベルに到達している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］ ③テーマについて積極的に情報収集を行い効果的なディスカッションができるよう準備をすること。［50分］	随時行う

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『CLIL Discuss the Changing World』 Miyako Nakaya et al.2020年　成美堂. ISBN:978-4791972081
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストは状況により実施週が変更になる可能性もあります。別途指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LE145U 英語BⅠ			開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修
担当教員名	キャサリン　シュリーヴズ						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。	・大学生にとって関心が高く論議を呼びそうなさまざまな分野の話題について理解し、発信できる。 ・さまざまなディコース方略を知り、ディスカッションに生かすことができる。 ・統計データを利用してディスカッションやライティングを行うことができる。 ・CEFRのB2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等)　Self-introduction	
2	Unit 1 (1) Cell phonesをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。	
3	Unit 1 (2)　Cell phonesをテーマにディスカッション方略を学び､統計を用いてディスカッションを行う。	
4	Unit 2 (1) 'Freeters'をテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。	
5	Unit 2 (2) 'Freeters'をテーマにディスカッション方略を学び､統計を用いてディスカッションを行う。	
6	Unit 3 (1) The Olympic Gamesをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。	
7	Unit 3 (2) The Olympic Gamesをテーマにディスカッション方略を学び､統計を用いてディスカッションを行う。	
8	Unit 4 (1) Marriageをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。	
9	Unit 4 (2) Marriageをテーマにディスカッション方略を学び､統計を用いてディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。	
10	Unit 5 (1) Smoking and drinkingをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする	
11	Unit 5 (2) Smoking and drinkingをテーマにディスカッション方略を学び､統計を用いてディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。	
12	外部テスト　(特記事項参照)	
13	Unit 6　Englishをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。	
14	Unit 7　Exerciseをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。	
15	Unit 1～Unit 7　これまで学んたことがらから各自 1つのテーマを選び、スピーチまたはプレゼンテーションをする。 Unit 1～Unit 7の復習、振り返り。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト	単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。	外部テスト	20	目標レベルに到達している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分]不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。[20分] ③テーマについて積極的に情報収集を行い効果的なディスカッションができるよう準備をすること。[50分]	随時行う

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Which side are you on?: Forming views and opinions, New Edition』 2017年 Gillian Flaherty. 成美堂. ISBN: 978-4791960286
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストは状況により実施週が変更になる可能性もあります。別途指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LE150U 英語BⅡ			開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修
担当教員名	キャサリン　シュリーヴズ						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。	・大学生にとって関心が高く論議を呼びそうなさまざまな分野の話題について理解し、発信できる。 ・さまざまなディコース方略を知り、ディスカッションに生かすことができる。 ・統計データを利用してディスカッションやライティングを行うことができる。 ・CEFRのB2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語BⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、Unit 8 (1) Divorceをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。	
2	Unit 8 (2) Divorceをテーマにディスカッション方略を学び､統計を用いてディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。	
3	Unit 9 (1) Traffic in city centersをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。	
4	Unit 9 (2) Traffic in city centersをテーマにディスカッション方略を学び､統計を用いてディスカッションを行い、自分の意見をまとめ、発表する。	
5	Unit 10 (1) Working parentsをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。	
6	Unit 10 (2) Working parentsをテーマにディスカッション方略を学び､統計を用いてディスカッションを行い、自分の意見をまとめ、発表する。	
7	Unit 11 (1) Computersをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。	
8	Unit 11 (2) Computersをテーマにディスカッション方略を学び､統計を用いてディスカッションを行い、自分の意見をまとめ、発表する。	
9	Unit 12 (1) Televisionをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションの準備をする。	
10	Unit 12 (2) Televisionをテーマにディスカッション方略を学び､統計を用いてディスカッションを行い、自分の意見をまとめ、発表する。	
11	Unit 13 Gamblingをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。	
12	外部テスト　（特記事項参照）	
13	Unit 14 Gender gapをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。	
14	Unit 15 Cloningをテーマに導入の質問、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。テーマについてのPros and Consを書き出し、ディスカッションを行い、自分の意見をまとめる。	
15	Unit 8～Unit 15　これまで学んたことがらから各自 1つのテーマを選び、スピーチまたはプレゼンテーションをする。 Unit 8～Unit 15の復習、振り返り。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	30	(小テスト・発表・タスク･リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。。 ③学習内容確認の小テスト	単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。	外部テスト	20	目標レベルに到達している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］ ③テーマについて積極的に情報収集を行い効果的なディスカッションができるよう準備をすること。［50分］	随時行う

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Which side are you on?: Forming views and opinions, New Edition』 2017年 Gillian Flaherty.成美堂. ISBN: 978-4791960286
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストは状況により実施週が変更になる可能性もあります。別途指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LE135U 英語CⅠ			開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修
担当教員名	カーラ　カリー						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。	・日常的な身近な場面に加えて一般化した話題にも使われる語彙や表現になじみ、理解、発信ができる。 ・得た情報をもとに言語使用ができる。 ・会話ストラテジーや適切な文法を用いてコミュニケーションが行えるようになる。 ・CEFRのB1～B2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等)　Self-introduction	
2	Unit 1 (1) Occupationsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。 although/but/because/soなどの接続詞が正しく使えるようになる。	
3	Unit 1 (2) OccupationsについてDear Funture Selfと題した手紙を書き､発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
4	Unit 2 (1) At the Dinner Tableをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。 can/could/mightなどの接続詞の法助動詞が正しく使えるようになる。	
5	Unit 2 (2) At the Dinner Tableついてレストランでの会話を完成させ､発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
6	Unit 3 (1)Sportsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。 always/usually/seldom/rarely/neverなどの頻度の副詞が正しく使えるようになる。	
7	Unit 3 (2)Sportsについてグラフを読み取りレポートを書き､発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
8	Unit 4 (1) Healthをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。不定詞、動名詞が正しく使えるようになる。	
9	Unit 4 (2)　Healthについてある患者の問診票を参考に、体調不良による病欠をする旨のメールを先生にあてて書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
10	Unit 5 (1) Musicをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。both A and B/neither A nor Bなどの相関接続詞が正しく使えるようになる。	
11	Unit 5 (2) Musicについてパンフレットからの情報を読み取る。ロックスターの日常を想像して書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
12	外部テスト　(特記事項参照)	
13	Unit 6 (1) At the Moviesをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。 see/watch/hear/feelなどの知覚動詞が正しく使えるようになる。	
14	Unit 6 (2) At the Moviesについて映画館の上映案内を読み取り友人に向けて映画に誘うメッセージを書き、発表し合う。 Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
15	Review (Unit 1 - Unit 6)に取り組む Unit 1～Unit 6　これまで学んだことがらから各自 1つのテーマを選び、スピーチまたはプレゼンテーションをする	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト	単元テスト・期末ト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。	外部テスト	20	目標レベルに到達している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Live Escalate: Trekking. Teruhiko Kadoyama et al』 2021年. 成美堂. ISBN: 978-4791972227
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストは状況により実施週が変更になる可能性もあります。別途指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LE140U 英語CⅡ			開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修
担当教員名	カーラ　カリー						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。	・日常的な身近な場面に加えて一般化した話題にも使われる語彙や表現になじみ、理解、発信ができる。 ・得た情報をもとに言語使用ができる。 ・会話ストラテジーや適切な文法を用いてコミュニケーションが行えるようになる。 ・CEFRのB1～B2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語CⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション　　Unit 7 (1) Technology in Daily Lifeをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。SVOOとSVO　+ Prep. + I.Oの与格交替が正しく使えるようになる。	
2	Unit 7 (2) Technology in Daily Lifeについてamazing inventionsの記事を参考に架空の発明品についてライティングを行い、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
3	Unit 8 (1) Social Networkをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。that節、wh-節などの名詞節が正しく使えるようになる。	
4	Unit 8 (2)　Social NetworkについてSNSサイトのコメントを参考にSNSにアップする記事を書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
5	Unit 9 (1) Looking on the Bright Sideをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。be/sense/keepなどの連結動詞が正しく使えるようになる。	
6	Unit 9 (2) Looking on the Bright Sideのついて前向きな生き方についてのアドバイスを参考に、自分独自のアドバイスを書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
7	Unit 10 (1) Love Affairsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。that/who/whichなどの関係代名詞が正しく使えるようになる。	
8	Unit 10 (2) Love Affairsについてデートに誘うメッセージを参考に自分のメッセージを書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
9	Unit 11 (1) Storytellingをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。who/whichの関係代名詞の制限用法/非制限用法が正しく使えるようになる。	
10	Unit 11 (2) Storytellingについてある寓話を読み、その続きを完成させ、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
11	Unit 12 (1)The Power of Wordsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。happy that/kind of sb. to Vなど形容詞補部が正しく使えるようになる。	
12	外部テストによる到達度確認（特記事項参照）	
13	Unit 12 (2) The Power of Wordsについてriddlesの作り方を参考に自分でもriddleを作り、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
14	Review (Unit 7 – Unit 12)に取り組み、Unit 7～Unit 12の復習、振り返りを行う。	
15	Unit 7～Unit 12　これまで学んたことがらから各自 1つのテーマを選び、スピーチまたはプレゼンテーションをする	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	30	小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト	単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。	外部テスト	20	目標レベルに到達している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Live Escalate: Trekking. Teruhiko Kadoyama et al』2021年 成美堂.　ISBN: 978-4791972227
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストは状況により実施週が変更になる可能性もあります。別途指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LE125U 英語DⅠ			開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修
担当教員名	茶谷　丹午・エリック　モーニン　（代表教員　茶谷　丹午）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。	・世界遺跡をテーマに、身近な話題・海外の行儀や習慣等の話題に用いられる語彙や表現を理解し、発信に用いることができる。 ・理解した内容についてスピーキング、ライティングができる。 ・CEFRのA2+～B1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(助業のねらい､履修上の注意等)　Self-introduction Unit 1　世界遺産とは何かを4技能を用いた様々な活動を通じて理解する	
2	Unit 2（1）古代ローマ遺跡をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する	
3	Unit 2（2）古代ローマ遺跡について前回学んだことを基にまとめ発表する	
4	Unit 3（1）姫路城をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する	
5	Unit 3（2）姫路城について前回学んだことを基にまとめ発表する	
6	Unit 4（1）グランドキャニオンをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する	
7	Unit 4（2）グランドキャニオンについて前回学んだことを基にまとめ発表する	
8	これまでに学んだテーマから1つを選びショートスピーチをする、 Unit 5（1）万里の長城をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する	
9	Unit 5（2）万里の長城について前回学んだことを基にまとめ発表する	
10	Unit 6（1）マチュピチュをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する	
11	Unit 6（2）マチュピチュについて前回学んだことを基にまとめ発表する	
12	外部テスト(特記事項参照)	
13	Unit 7（1）カッパドキアをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する	
14	Unit 7（2）カッパドキアについて前回学んだことを基にまとめ発表する	
15	これまでに学んだテーマから1つを選びプレゼンテーションを行う 前期の学習の確認、振り返り	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト	単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。	外部テスト	20	目標レベルに到達している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	笹島茂編『CLIL World Heritage』2018年　三修社 ISBN:9784384334784
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストは状況により実施週が変更になる可能性もあります。別途指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LE130U 英語DⅡ			開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修
担当教員名	茶谷　丹午・エリック　モーニン　（代表教員　茶谷　丹午）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。	・世界遺跡をテーマに、身近な話題・海外の行儀や習慣あるいは新聞記事等で用いられる語彙や表現を理解し、発信に用いることができる。 ・理解した内容についてプレゼンテーション、ライティングができる。 ・CEFRのA2+～B1レベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語DⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	クラスオリエンテーション Unit 8（1）自由の女神をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する	
2	Unit 8（2）自由の女神について前回学んだことを基にまとめ発表する	
3	Unit 9（1）古代エジプト遺跡をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する。	
4	Unit 9（2）古代エジプト遺跡について前回学んだことを基にまとめ発表す	
5	Unit 10（1）知床をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する	
6	Unit 10（2）知床について前回学んだことを基にまとめ発表する Unit 8 ～ Unit 10の振り返り	
7	Unit 11（1)アンコールワットをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する	
8	Unit 11（2）アンコールワットについて前回学んだことを基にまとめ発表する	
9	Unit 12（1）ウルルをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する	
10	Unit 12（2）ウルルについて前回学んだことを基にまとめ発表する	
11	Unit 13（1）サグラダファミリアをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する	
12	外部テスト（特記事項参照）	
13	13（2）サグラダファミリアについて前回学んだことを基にまとめ発表する	
14	Unit 11 ～ Unit 13の振り返り Unit 14 各自が選んだ世界遺産についてリサーチを行いプレゼンテーションの準備をする	
15	Unit 14 各自が選んだ世界遺産についてプレゼンテーションを行う 振り返り、リフレクション最終提出	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	30	(小テスト・発表・タスク･リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト	単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。	外部テスト	20	目標レベルに到達している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	笹島茂編『CLIL World Heritage』2018年　三修社 ISBN:9784384334784
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストは状況により実施週が変更になる可能性もあります。別途指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LE115U 英語EⅠ			開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修
担当教員名	宮浦　国江・中野　聡・マシュー　ボッシュ・白井　雅代・本間　千重子　（代表教員　宮浦　国江）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。	・異文化理解、外国語学習など大学生に身近な話題について、リスニング、リーディングにより正しく内容理解ができる。 ・学んだ内容について、要点を確認した後、発信に用いることができる。 ・CEFRのA2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等) Self-introduction	
2	Unit 1 (1)異文化理解をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する	
3	Unit 1 (2) 異文化理解について前回のリーデングの要点を確認し、テキストの内容について自分の意見をまとめ、発表する	
4	Unit 2 (1) 和食をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する	
5	Unit 2 (2) 和食について前回のリーデングの要点を確認した後､意見を発表する	
6	Unit 3 (1) 外国語学習をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する	
7	Unit 3 (2) 外国語学習について前回のリーデングの要点を確認した後､意見を発表する	
8	Unit 1～Unit 3の復習、振り返り Unit 4 (1) スポーツをテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する	
9	Unit 4 (2) スポーツについて前回のリーデングの要点を確認した後､意見を発表する	
10	Unit 5 (1) ファッションをテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する	
11	Unit 5 (2) ファッションについて前回のリーデングの要点を確認した後､意見を発表する Unit 1～Unit5の復習、振り返り	
12	外部テスト(特記事項参照)	
13	Unit 1～Unit 5で学んたことがらから各自 1つのテーマを選び、スピーチをする Unit 6 (1) 生き物をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する	
14	Unit 6 (2) 生き物について前回のリーデングの要点を確認した後､意見を発表する Unit 7 (1) 芸術について英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する	
15	Unit 7 (2) 芸術について前回のリーデングの要点を確認した後､意見を発表する これまで学んだことの復習、振り返り	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト	単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。	外部テスト	20	目標レベルに到達している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	VELC研究会教材開発グループ編著/熊沢孝昭･静哲人･望月正道著『Ambitions Elementary』2018年　金星堂 ISBN:9784764740549
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストは状況により実施週が変更になる可能性もあります。別途指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

中野：小中学校での指導経験を生かしてプロジェクト活動や様々なペアアーク、グループワークを取り入れて意見が発表できるように指導している。

授業科目名	LE120U 英語EⅡ			開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修
担当教員名	宮浦　国江・中野　聡・マシュー　ボッシュ・白井　雅代・本間　千重子　（代表教員　宮浦　国江）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。	・児童就労や長寿などの社会的な話題について、リスニング、リーディングにより正しく内容理解ができる。 ・学んだ内容について、要点を確認した後、スピーキング、ライティングに適切に用いることができる。 ・CEFRのA2レベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語EⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	クラスオリエンテーション、前期の振り返り、short speeches on summer vacation等	
2	Unit 9（1）ニンジャをテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する	
3	Unit 9（2）ニンジャについて前回のリーデングの要点を確認した後､意見を発表する Unit 10（1）児童就労をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する	
4	Unit 10（2）児童就労について前回のリーデングの要点を確認した後､意見を発表する Unit 11（1）長寿をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する	
5	Unit 11（2）長寿について前回のリーデングの要点を確認した後､意見を発表する Unit 9 ～ Unit 11の復習、振り返り、その中からテーマを各自1つ選びショートスピーチの準備をする	
6	各自が選んだテーマについてのショートスピーチを行う Unit 12（1）騒音公害をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する	
7	Unit 12（2）騒音公害について前回のリーデングの要点を確認した後､意見を発表する Unit 13（1）食物廃棄をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する	
8	Unit 13（2）食物廃棄について前回のリーデングの要点を確認した後､意見を発表する Unit 12 ～ Unit 13の復習、振り返り、その中からテーマを各自1つ選びショートスピーチの準備をする	
9	各自が選んだテーマについてのショートスピーチを行う Unit 14（1）ダンスクラブと法規制をテーマに英会話・リスニング活動を中心にポイントを把握する	
10	Unit 14（2）ダンスクラブと法規制についてリーデング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認の後、意見発表の準備をする	
11	Unit 14（3）ダンスクラブと法規制について意見を発表する Unit 15（1）ドローンを例に科学技術の進歩をテーマに英会話・リスニング活動を中心にポイントを把握する	
12	外部テスト（特記事項参照）	
13	Unit 15（2）ドローンを例に科学技術の進歩についてリーデング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認し、意見発表の準備をする	
14	Unit 15（3）ドローンを例に科学技術の進歩について意見を発表する Unit 12 ～ Unit 15の復習、振り返り、その中からテーマを各自一つ選びプレゼンテーションの準備をする	
15	各自が選んだテーマについてプレゼンテーションを行う､振り返り リフレクション最終提出	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	30	(小テスト・発表・タスク･リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト	単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。	外部テスト	20	目標レベルに到達している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	VELC研究会教材開発グループ編著/熊沢孝昭･静哲人･望月正道著『Ambitions Elementary』2018年　金星堂 ISBN:9784764740549
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストは状況により実施週が変更になる可能性もあります。別途指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

中野：小中学校での指導経験を生かしてプロジェクト活動や様々なペアアーク、グループワークを取り入れて意見が発表できるように指導している。

授業科目名	LE105U 英語FⅠ			開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修
担当教員名	木村　ゆかり・本間　千重子　（代表教員　木村　ゆかり）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、「全学共通科目」のうち「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。	・自己紹介、住む町など日常生活で使用する身近な表現や簡単な語彙、基礎的表現を用いて、理解、発信できる。 ・基本文型、現在形、過去形等、文法の基礎を理解し、発信に用いることができる。 ・CEFRのA1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。または「英語基礎」の単位を修得済の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等) Self-introduction	
2	Unit 1（1）動詞の現在形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてテキストの登場人物について基本情報を理解する	
3	Unit 1（2）自己紹介文の構成を理解し､自分の自己紹介文を作り発表する	
4	Unit 2(1) 代名詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて自分の住む町について説明する	
5	Unit 2（2）自分の住む町について説明する文を理解し､自分の住む町についてライティングと発表を行う	
6	Unit 3（1）時を表す前置詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて休日の過ごし方を述べる	
7	Unit 3（2）休日の過ごし方を述べる英文を理解し、自分の休日の過ごし方についてライティングと発表を行う Unit 1 ～ Unit 3の振り返り	
8	Unit 4（1）英語の基本文型を確認しつつ、様々な活動を通じて自分の持ち物について説明する表現を学ぶ	
9	Unit 4（2）自分の持ち物について説明する英文を理解し、自分の持ち物についてライティングと発表を行う	
10	Unit 5（1）動詞の過去形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてある日の行動についての表現を学び、自分のある日の習慣的行動を作文する	
11	Unit 5（2）自分のある日の習慣的行動について発表を行う Unit 6（1）進行形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて過去と現在における自分の変化を述べる表現を学び、作文する	
12	外部テスト(特記事項参照)	
13	Unit 6（2)過去と現在における自分の変化についての発表を行う Unit 7（1）未来形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて自分の未来の目標や夢について述べる表現を学び、作文する	
14	Unit 7（2)自分の未来の目標や夢についての発表を行う Unit 4 ～ Unit 7の振り返り	
15	Unit 1～Unit 7　これまで学んたことがらから各自 1つのテーマを選び、スピーチまたはプレゼンテーションを行う､振り返り	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト	単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。	外部テスト	20	目標レベルに到達している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	Robert Hickling・臼倉美里著『English First Basic』2014年　金星堂　ISBN:9784764739703
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。③外部テストは状況により実施週が変更になる可能性もあります。別途指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LE110U 英語FⅡ			開講学科	人間総合	必修・選択	選択必修
担当教員名	木村　ゆかり・本間　千重子　（代表教員　木村　ゆかり）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。	・今後の予定、大学についての説明など日常生活で使用する身近な表現や語彙を用いて、理解、発信できる。 ・現在完了形、受動態等を理解し、適切に用いることができる。 ・CEFRのA1レベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト等）。
履修条件	「英語FⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	クラスオリエンテーション Unit 8（1）助動詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて今後の予定を述べる表現を学ぶ	
2	Unit 8（2）今後の予定について述べる英文を理解し、自分の今後の予定について作文する発表を行う	
3	Unit 9（1）不定詞や動名詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて友人の好きなこと/嫌いなことを述べる	
4	Unit 9（2）他人の好きなこと/嫌いなことを述べる英文を理解し、自分の親しい友人の好きなこと/嫌いなことについてライティングと発表を行う	
5	Unit 10（1）現在完了形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてこれまでの経験について述べる表現を学ぶ	
6	Unit 10（2）これまでの状況や経験を説明する英文を理解し、自分の過去3ヶ月に経験したことについてライティングと発表を行う	
7	Unit 11（1）接続詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じていろいろな場面での自分の感情について述べる	
8	Unit 11（2）自分がどのような時にどのような感情をもつかについての発表を行う Unit 8～Unit 11の振り返り	
9	Unit 12（1）比較表現の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてスポーツや人物を比較する表現を学び、自分の2人の友人についての作文をする	
10	Unit 12（2）自分の2人の友人についての発表を行う Unit 13(1) 受動態の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてお気に入りの映画等ついて説明する表現を学び、作文をする	
11	Unit 13（2）自分のお気に入りの映画について発表を行う Unit 14（1）分詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて絵に描かれている状況を説明する表現を学び、作文をする	
12	外部テスト（特記事項参照）	
13	Unit 14（2）絵に描かれている状況説明の発表を行う Unit 15（1）　関係詞の用法を確認しつつ、一年間の活動やある場所を説明する表現を学び、自分の大学についての作文をする	
14	Unit 15（2）自分の大学についての発表を行う Unit 12 ～ Unit 15の振り返り	
15	これまでに学んだテーマから各自が選んだテーマについてプレゼンテーションを行う リフレクション最終提出	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	30	（小テスト・発表・タスク･リフレクション等） ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト	単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。	外部テスト	20	目標レベルに到達している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う

受講生に望むこと	①1回目のオリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。守らない場合、単位認定に影響することがある。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	Robert Hickling・臼倉美里著『English First Basic』2014年　金星堂　ISBN:9784764739703
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。。③外部テストは状況により実施週が変更になる可能性もあります。別途指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LE165U ｱｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭA			開講学科	人間総合	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	1・2・3・4年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は，全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する学生には、アクティブ・イングリッシュA,B,Cから1科目以上選択必修の科目である。本授業では、まず英語に浸ることで自分のこれまでの学びが現実のものであることを認識し、その中から伝えたいことを探し、まとめ、最終的に伝えたいことを効果的に述べることができるプレゼンテーションスキルを身に付ける。事前授業では英語でのプレゼンテーションに必要な知識・技能を学び、British Hills（福島県）では英語漬けの生活を送る中で体験的学びをしつつ、プレゼンテーションの仕上げ・発表を行う。研修中は毎日英文日誌を書く。事後学習で、学内での成果発表会でプレゼンテーションを行う。(諸般の事情によりBritish Hillsでの研修が不可能な場合はBritish Hills Online研修を行う。)	①自分の言いたいことを効果的に述べることができるようになる。 ②英語によるプレゼンテーションスキルを身に付ける。 ③英語がコミュニケーションのツールである体験を積み重要性に気付く。 ④英語運用能力を現在のレベルよりも向上させる。 ⑤異文化・異言語間のコミュニケーションとはどのようなものか知る。 ⑥異文化・異言語の壁を越えるためのスキルを身に付ける。 ⑦異文化コミュニケーションの楽しさを体験的に学び楽しさを知る。

教授方法	講義と演習：ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト。
履修条件	英語だけで行われる授業を受ける語学力・意欲・忍耐力があり、また3泊4日の宿泊研修（福島県）に参加できる者。大学および施設でのルールが守れる者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	事前学習(1):クラスオリエンテーション(授業のねらい、クラスルール、旅行参加条件等）※参加希望者は必ず出席すること。	
2	事前学習(2):British Hillsでの研修に関連するテーマを選びリサーチをする。英語プレゼンテーションの留意点・構成・語彙・文型などを学ぶ。	
3	事前学習(3):各自がリサーチしたテーマについてのミニ・プレゼンテーション。研修に必要な英語表現を学ぶ。	
4	British Hills（以下BH）(1)Check-in, Orientation, Guide & BH Tour:英語でチェックインし、BHスタッフよりルール説明を受け、その後BHツアーに参加する。	
5	BH(2)Interview & Orienteering:BHスタッフに英語でインタビューをしつつBHについて学ぶ。	
6	BH(3)Dance：英国に伝わる伝統的な、様々なスタイルのダンスを覚える。（※受講者が８名に満たない場合には別のテーマになる)	
7	BH(4)Group presentation 1: 効果的なプレゼンテーションとは何かを学ぶとともに、事前学習で準備した内容をグループワークでさらに深め、内容を確定する。	
8	BH(5)　British Wedding：イギリスで行われている、伝統的な結婚式の流れや習慣について学ぶ。後半、花嫁・花婿・参列者となり、実際にチャペルで模擬結婚式を行う。	
9	BH(6)　World of Food:世界の様々な食についての知識を深め、食に関する表現・フレーズなどについて学ぶ。	
10	BH(7) Travel in UK：英国を中心にの主要都市、観光スポット、食事などを通して、それぞれの地域の知識を深める。	
11	BH(8)Group presentation 2: グループ発表内容についてのスライドを作成しつつ、効果的なプレゼンテーションについてのスキルを養う。	
12	BH(9)Culture and Manners：挨拶の仕方など、日本と海外の文化・慣習の違いを学ぶことを通して異文化異文化についての知識を広げる。	
13	BH(10)Group presentation 3:　最終発表に向けて、声の大きさ、姿勢、ジェスチャーにも気を配りつつ、リハーサルを行う。	
14	BH(11)Group presentation 4:　最終プレゼンテーション　自己評価、相互評価のほか、BHスタッフ・教員が評価を行う。	
15	事後学習:学内で開催される「アクティブ・イングリッシュ」成果発表会で、BH(10),BH(11)に基づきプレゼンテーションを行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
事前学習	15	①ミニ・プレゼンテーションに積極的に取り組み、自分の選んだテーマについてのスライドを仕上げ、聞き手に分かりやすく発表する。 ②必要な英語表現を身につける。 ③英語運用力測定。	BH研修参加態度	60	BH研修に、積極的かつ協力的な態度で取り組んでいる。
英文日誌	10	①授業（活動）の概要について具体的に記載できている。 ②自分の学び、気づき、弱みや強みを具体的に記載できている。 ③指示された文字数等分量を書いている。	事後学習	15	①学内での成果発表会で、他のメンバーと協力的にプレゼンテーションを行う。 ②事後レポートを期日までに英語・日本語で作成し、提出する。 ③英語運用力測定。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①与えられた課題に対し、単語や文型を下調べして臨むこと。[40分] ②授業で学んだことや指摘事項を次回に活かすべくメモをとり、改善し、定着・反映させるようにすること。[20分] ③イギリスの文化や福島県のBritish Hillsとはどのようなものなのか、自分はどのようなテーマで取り組むのか、書籍や新聞、ネットなど様々な方法を駆使して調べておくこと。[60分]	随時行う

受講生に望むこと	①英語を積極的に学び、使う姿勢を持つこと。 ②会話だけでなく、読んだり書いたりすることでより英会話力が上がる。そのサイクルを大切にすること。 ③集団生活なので、個人差はあるがストレスを生じることがある。健康管理に気を付けること。	教科書・テキスト	Akira Morita他.『Winning Presentations: 8 Types of Successful Presentation』. 2018年.成美堂. ISBN: 9784791934249
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①履修登録変更期間締切時点で登録が5名に満たない場合には未開講となる。②団体研修であるため、人数によって参加費用は変動する。1時間目のオリエンテーションに募集要項を用いて説明を行う。必ず参加し、よく内容を理解すること。③諸般の事情によりBHでの研修が不可能な場合は本学で、BH Online研修を行う。④事後学習の学内発表会の他にも、研修について発表する可能性がある。⑤事前・事後学習の一環として英語力測定を行う。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LE175U ｱｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭC			開講学科	人間総合	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	1・2・3・4年	開講時期	通年	単位	3単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は，全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する学生には、アクティブ・イングリッシュA,B,Cから1科目以上選択必修の科目である。 本科目は、学内の手続きを経て承認された学生が、本学の提携校で、英語力向上をめざして3週間以上の研修を行う。学生は担当教員の指導の下、計画段階（事前学習）から実施（留学）及び終了段階（事後学習）まで見通しをもって主体的に取り組む。留学先では、英語研修、寮滞在の経験を通じ、また留学先アドバイザーの指導の下で、英語力や専門に関する学びを深めるだけでなく、現地の人々等と交流し、国際的な視野を広げる。帰国後は、事後学習においてレポートを作成、発表し、個々の学びの共有化を図る。	・留学目的を明確にし、指導教員等のアドバイスに留意しつつ留学計画立案・諸準備等に計画的かつ主体的に取り組むことができる。 ・事前学習では、英語力を高め、異文化理解への態度・スキルを養うとともに、授業の全体計画や留学先での研修内容や記録の仕方を理解することができる。 ・提携校での研修では、研修の目的や計画に沿った研修を行うとともに地域の人々との交流を英語で積極的に実行することができる。また、日々の研修内容を英文で記録するなど、帰国後の発表活動の準備も自力で行うことができる。 ・事後学習では、研修中の記録をもとにレポートを英文で作成する。その際、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。作成したレポート内容をもとに海外留学報告を英語で行うことができる。

教授方法	渡航に関するオリエンテーション、事前・事後学習、提携校での研修(オリエンテーション、提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)
履修条件	学科指定の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	事前学習① オリエンテーション：渡航・留学先での研修及び事後学習までの本授業の目標と内容を正しく理解するとともに、主体的に取り組む姿勢や意欲を高める。	
2	事前学習②　研修先で自己紹介、故郷紹介、日本文化紹介がスムーズにできるようにグループで役割分担して練習をする。また、留学先及び現地での生活や学修に必要な英語表現を学ぶ。	
3	事前学習③　留学先機関・地域についての調査を行いまとめる。研修先での学修についての自己のテーマや計画を明確にし、英文にまとめ、研修先に伝えられるようにする。	
4	提携校での研修、オリエンテーション、ホームステイまたは寮滞在	
5	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
6	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
7	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
8	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
9	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
10	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
11	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
12	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
13	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
14	事後学習①　研修中の記録に基づき、英文でレポートを作成する。その際に、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。また、海外留学報告会を学生主体で準備をする。(開催案内のチラシ作成と告知)	
15	事後学習② 海外留学報告会において、作成したレポートをもとに、英語によるプレゼンテーションと質疑応答を行う。運営全般や進行なども学生主体で行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
事前学習	10	①留学への取り組み､計画書等諸書類作成に適切かつ積極的に取り組んでいるかどうかを評価する ②英語運用力測定	留学先での英語学習・調査研究に関する評価	60	研修先での成績や活動に基づき総合的に評価する
留学中の報告書	10	定期的に留学に関する報告書が提出されているかどうかを評価する	事後学習	20	①帰国後にレポートを提出するとともに日本語と英語で留学の報告を行い、これを評価する ②英語運用力測定

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
留学の目的を明確にし、1年以上前から継続して英語の学習をすること。［毎日40分］英語研修が目的の学生は目的とするレベルを明確にし、英語の授業等をできるだけ多く履修し、積極的に参加すること。調査研究が目的の学生はアドバイザーの指導の下、専門的な内容をまとめておき、渡航先での調査目的・方法等を明確にしておくこと。英語で説明できるように準備する。［毎日30分］	適宜行う

受講生に望むこと	現地では独力で問題解決する必要に迫られるため、日ごろから情報収集・計画の立案・実施・評価等をする力を養うこと。英語力は4技能が必要である、会話だけではなく読み書き・論理的思考力向上にも励むこと。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／『今日から使える！留学&ホームステイのための英会話』細井忠俊、バーウィック妙子・著、アルク、2016年（ISBN: 978-4757426658）	その他・特記事項	・提携校指定英語集中クラスについてはアドバイザーから別途詳細についてのガイダンスを受ける。 ・英検2級程度の英語力がある者に限る。準備の過程で、学生生活および学業の面で問題があると判断した場合には、留学を中止することもある。「留学の手引き」をよく読むこと。 ・事前・事後学習の一環として英語力測定を受ける ・留学時期によって報告会が年度内に不可能な場合は別途指示する。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LC100U 中国語Ⅰ			開講学科	人間総合	必修・選択	選択
担当教員名	渡邉　彩奈						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では、中国語の「話す・聞く・読む・書く」技能をバランスよく身につけ、自らの考えを口頭や文章によって他者に伝えられるようになることを目的とする。中国語を単に「知識」として知るだけでなく、実際に運用できる能力を習得し、社会においてもこれを活用できるようにする。実際の授業では、まず単語と文法を学び、その後対話文や長文を通して文法の定着を図る。中国語を学びながら中国の文化や社会に関する理解を深める。	①発音の基礎を身につけ、中国語を正確に発音できるようになる。 ②中国語を用いてコミュニケーションがとれるようになる。 ③中国語の文法を理解する。 ④中国語の基本的な知識を身につけ、文章を作ることができるようになる。

教授方法	基本的に講義形式による授業となりますが、学生同士でのロールプレイの練習やペアワークも行います。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス(授業の進め方と成績評価の方法についての説明)後、単母音の発音と声調（音の高低）を習得する。	
2	単母音と声調の復習 複母音・子音の発音を練習し、子音と母音を組み合わせて発音できるようになる。	
3	子音と母音の組み合わせ練習 鼻音・軽声・声調変化などピンインを読む際のルールを習得する。	
4	発音の総復習 挨拶等の簡単な日常会話ができるようになる。	
5	第1課「あいさつする」(中国語の挨拶を身につけ、さらに相手の国籍を尋ねたり自分の国籍を言えるようになる。)	
6	第1課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第2課「名前を尋ねる」(相手の名前や趣味等の情報を聞き出す表現を習得する。)	
7	第2課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第3課「食べたいものを尋ねる」(相手の希望の尋ね方や質問を返す表現を身につける。)	
8	第3課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第4課「近況を尋ねる」(相手の近況を尋ねたり、週末の予定について話せるようになる。)	
9	第4課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第1課から第4課の復習をし、本文を参考にして他己紹介ができるようになる。	
10	第5課「予定を尋ねる」(相手に直近の予定を尋ねたり、時間詞を用いた表現を身につける。)	
11	第5課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第6課「場所を尋ねる」(場所の表し方、行きたい場所の尋ね方を習得する。)	
12	第6課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第7課「注文する」(中国語での数量の言い方や、要求する際の表現を習得する。)	
13	第7課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第8課「値段の交渉をする」(品物の値段を尋ねたり、値段を交渉する表現を習得する。)	
14	第8課「値段の交渉をする」の復習後、第5課から第8課をまとめた文章で文法知識の定着を図る。 前期に学んだ学習内容を総復習し、自己紹介文を作成する。	
15	自己紹介文を完成させる。 期末試験に備えて、模擬発表をおこなう。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業内の活動	20	授業内で行われる質疑応答やペアワーク、ロールプレイングの表現練習などに積極的に参加する姿勢、またその完成度で評価する。	小テスト（適宜）	30	1課が終了するごとに、学習の到達度確認のための小テストをおこなう。
自己紹介文の完成度	20	第15回授業で自己紹介文を作成する。その完成度で評価する。	期末試験（口頭発表）	30	期末試験では各自作成した自己紹介文を発表する。発音の正確さや表現力を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業前には教科書に目を通し、新出単語と文法事項を確認、それから音声を聞きながら実際に声に出して発音練習をすること。[40分] ②授業後は新出単語（発音、ピンイン、簡体字）、新たに学習した文法項目を復習し、授業で課された練習問題に取り組むこと。[60分] ③自己紹介文を作成することを考えて、あらかじめ内容を準備すること。[20分]	①小テストは添削・採点をしたものを次回授業の冒頭に返却する。 ②第15回授業で作成する自己紹介文は添削後に返却する。 ③採点や評価等に対しての疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。

受講生に望むこと	語学は積み重ねが大事です。多くの中国語を聞き、積極的に話すようにしてください。授業後は復習をしっかりおこない、語彙や文法の知識を積み上げていきましょう。単語を調べるときは辞書を用いてください。	教科書・テキスト	『できる・つたわるコミュニケーション中国語』第7刷 岩井伸子・胡興智著　白水社　2019年出版 ISBN:978-4-560-06935-6
指定図書／参考書等	なし／『日中辞典[第３版]』小学館　2015年出版　ISBN:978-4095-156538 『中日辞典[第３版]』小学館　2016年出版　ISBN:978-4095-156040 『Ｗｈｙ？にこたえるはじめての中国語の文法書＜新訂版＞』相原茂・石田知子・戸沼市子著　同学社　2016年出版　ISBN:978-4-8102-0327-1	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LC110U 中国語Ⅱ			開講学科	人間総合	必修・選択	選択
担当教員名	渡邉　彩奈						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では中国語を用いて自らの考えや意見を表現できるようになることを目的とする。前期に習得した「話す・聞く・読む・書く」スキルをさらにレベルアップさせ、表現の幅を広げる。語学を身につけると同時に、教科書の会話や本文を通して、中国への知識や理解をより一層広める。中国語を単に「知識」として知るだけでなく、実際に運用できる能力を習得し、社会においてもこれを活用できるようにする。	①中国語を正確に発音できるようになる。 ②中国語でコミュニケーションを取れるようになる。 ③中国語の構造に関する知識を身につけ、いくつかの文法が混在した複雑な構造の文を作ることができるようになる。 ④習得した文法や語彙を用いて、自分の考えを他者に伝えられるようになる。

教授方法	基本的に講義形式による授業となりますが、学生同士でのロールプレイの練習やペアワークも行います。
履修条件	「中国語Ⅰ」の単位を修得済の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	前期の復習 復習文を参考にして、今後の予定を説明できるようになる。	
2	第9課「出来事を尋ねる①」（完了形の言い方、「～しに行く、しに来る」という連動文の表現を身につける。）	
3	第9課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第10課「出来事を尋ねる②」（「～するのが…だ」という様態補語の表現を習得する。）	
4	第10課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第11課「希望を尋ねる」（相手の希望の尋ね方、前置詞を用いて「どこで～する」の表現を身につける。）	
5	第11課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第12課「行き方を尋ねる」（道の尋ね方、選択疑問文を習得する。）	
6	第12課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第13課「経験を尋ねる」（経験の有無の言い方を習得する。）	
7	第13課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第9課から第13課の復習文を参考にして長期休暇に何をしたのかを説明できるようになる。	
8	第14課「相手の都合を尋ねる」（相手の都合の尋ね方、中国語の可能表現を身につける。）	
9	第14課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第15課「比較する」（比較表現、新たな疑問文の表現である反復疑問文を習得する。）	
10	第15課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第16課「条件・情報を尋ねる」（２点間の隔たりを表す表現、比較文の否定形を習得する。）	
11	第16課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第17課「進行状況を尋ねる」（進行表現、結果補語を習得する。）	
12	第17課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第18課「別れを告げる」（義務・当為をあらわす助動詞、変化を表す表現を身につける。）	
13	第18課の復習と練習問題を通して、文法の理解をさらに深める。	
14	第14課から第18課の復習文を参考にして今後の夢を説明できるようになる。 1年間の学習内容を総復習し、期末課題の自由テーマ文を作成する。	
15	1年間の学習内容を総復習し、期末課題の自由テーマ文を完成させる。 期末試験に備えて、模擬発表をおこなう。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業内の活動	20	授業内で行われる質疑応答やペアワーク、ロールプレイングの表現練習などに積極的に参加する姿勢、またその完成度で評価する。	小テスト（適宜）	30	1課が終了するごとに、学習の到達度確認のための小テストをおこなう。
自由テーマ文の完成度	20	第15回授業で自由なテーマで文章を作成する。その完成度で評価する。	期末試験（口頭発表）	30	期末試験では各自作成した自由テーマ文を発表する。発音の正確さや表現力を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業前には教科書に目を通し、新出単語と文法事項を確認、それから音声を聞きながら実際に声に出して発音練習をすること。[40分] ②授業後は新出単語（発音、ピンイン、簡体字）、新たに学習した文法項目を復習し、授業で課された練習問題に取り組むこと。[60分] ③自由テーマ文を作成することを考えて、あらかじめ内容を準備すること。[20分]	①小テストは添削・採点をしたものを次回授業の冒頭に返却する。 ②第15回授業で作成する自由テーマ文は添削後に返却する。 ③採点や評価等に対しての疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。

受講生に望むこと	前期に比べて複雑な文法項目が多いので、必ず復習をしましょう。 学期末には自由なテーマで文章を作成してもらいます。あらかじめどのような内容にするのかを考えておきましょう。	教科書・テキスト	『できる・つたわるコミュニケーション中国語』第7刷 岩井伸子・胡興智著　白水社　2019年出版 ISBN:978-4-560-06935-6
指定図書／参考書等	なし／『日中辞典[第３版]』小学館　2015年出版　ISBN:978-4095-156538 『中日辞典[第３版]』小学館　2016出版　ISBN:978-4095-156040 『Ｗｈｙ？にこたえるはじめての中国語の文法書＜新訂版＞』相原茂・石田知子・戸沼市子著　同学社　2016年出版　ISBN:978-4-8102-0327-1	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LF100U ﾌﾗﾝｽ語Ⅰ			開講学科	人間総合	必修・選択	選択
担当教員名	濱西　和子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目はフランス語を初めて学ぶ学生を対象にアルファベットの読み方から始め、発音の基礎やフランス語のルール、また文法を一通り解説する。口頭練習を通して日常会話に必要な基本的なフランス語表現を学ぶ。また言葉だけでなく、言葉の背景となるフランスの文化ついて、様々な角度から知り、体験していく。言葉としてのフランス語を通してフランスの社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学ぶ。	①フランス語の基礎を固めると同時に、日常会話に必要な基本的なフランス語表現を理解し習得する。 ②言葉だけでなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。 ③一つの言語を習得することは、その国の文化を深く知り、また世界的な視野が拡がることであり、フランス語という言語を通してその実感を体験する。

教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	フランス語の基礎，アルファベ，綴り字の読み方，発音のルール，リエゾン・アンシェヌマン Eléments de base / prononciation	
2	挨拶，授業で使う表現　Salutations Bonjour, Madame.　Salut, Paul.　Ça va?	
3	自己紹介・国籍・身分・名前の言い方，人称代名詞　je/tu の使い方，動詞　êtreの活用形・否定形・疑問形 Est-ce que tu es japonais?　verbe négation, questions fermées	
4	名詞の性・数　masculin/féminin canadien（s）　canadienne（s）chinois (e)	
5	定冠詞・不定冠詞　un, une, des, le, la, l', les C'est une école de Jean.	
6	住んでいるところ・言語・学科を言う，第一群規則動詞，否定形ne...pas J'habite à Tokyo.　Je parle français.　　je n'habite pas à Paris.	
7	第一群規則動詞 -er　疑問形・否定形の口頭練習 Vous parlez français?　Non, je ne parle pas français.	
8	動詞 avoirの活用，年齢・好みをいう，数(11～20) J'ai un frère.　　J'ai vingt ans.　J'aime le cinéma	
9	動詞 avoirの否定形・疑問形の口頭練習，不定冠詞，否定文中のde，avoirを使った表現 je n'ai pas de frère.　j'ai faim.　J'ai froid.	
10	食べる，飲む，たずねる（何？　いくつ？），部分冠詞 Tu manges du fromage.　Je prends du café.	
11	部分冠詞の否定形，カフェでの飲み物の注文の仕方の口頭練習 Je bois de l'eau. Je ne bois pas d'eau. Il y a une voiture. Il n'y a pas de voiture. Qu'est-ce que tu prends le matin? Je prends du café au lait.	
12	人・物を描写する，たずねる（誰？，どんな？），形容詞の性・数・位置，指示代名詞，所有形容詞 Il est grand. Elle est gentille. C'est un étudiant intelligent.　C'est mon père. Ce sont mes amis.	
13	形容詞の女性/男性形の例外 beau-belle gentil-gentille ennuyeux-ennuyeuse	
14	動詞aller/venirの活用　行先・国名，冠詞縮約(à) à+le-au/ (de) de+le-du Je vais en France.　Je vais à l'école.　　Je vais aux Etats-Unis.　Je viens du bureau.	
15	行く・来る，人称代名詞強勢形，数（60～） Je suis étudiant.　Et toi?	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	70	学習内容をきちんと習得している。	受講態度	30	講義に積極的に参加している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業内容に関して指示されたことに基き予習・復習をきちんと行う。 自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習、復習をして下さい。[120分]	テキスト中にある練習問題を自主学習し、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。 質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。 提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします。

受講生に望むこと	語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを聞き口に出して練習してください。 予習してくると余裕を持って学び、理解することが容易になります。	教科書・テキスト	『SALUT（サリュ！）』田口啓子・末永朱胤他著,駿河台出版社,2004年,ISBN978-4-411-00815-2　C1085
指定図書／参考書等	授業中に随時紹介します。 プリントや資料等は随時配布します。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	LF110U ﾌﾗﾝｽ語Ⅱ			開講学科	人間総合	必修・選択	選択
担当教員名	濱西　和子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は第２外国語科目として開講される。前期にフランス語を学んだ学生を対象に、基礎の上に更に時制やテキストの後半部分の文法や基本文型などを一通り説明する。前期と同じく口頭練習を通して日常会話に必要な基本的なフランス語表現を学ぶ。また言葉だけでなく言葉の背景となるフランスの文化について様々な角度から知り、体験していく。フランス社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学ぶ。	①フランス語の基礎を固めると同時に、日常生活に必要なフランス語表現を理解できるようにする。 ②言葉だけではなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。 ③一つの言語を習得することはその国の文化を深く知り、また世界的な視野が展がることあり、言語を通してその実感を体験する。

教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。
履修条件	『フランス語Ⅰ』の単位を修得済みの者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	動詞aller/venirを使った近接未来・近接過去　futur proch/passé récent Tu vas sortir ce week-end ?　Je viens de finir mon travail.	
2	時刻，たずねる（何時？何時に？いつ？）（何をする？），第二群規則動詞finir/faireの慣用表現，家事について Quelle heure est-il?　Il est trois heures. A quelle heure …? quel? quand?　Je fais　la cuisine.	
3	代名動詞（再帰動詞）の疑問形 se coucher/s'appeler Je me couche à dix heures. Je m'appelle Sophie.	
4	時制や頻度を表す名詞や副詞　toujours, souvent, tous les jours, aujourd'hui, hier, demain	
5	pouvoir/vouloirの活用と表現　　Je veux voyager.　Je peux sortir.	
6	たずねる（なぜ？），痛みに関する表現，Pourquoi?に対して　～ Parce-que の答え方 J'ai mal à la tête.	
7	日常の行動をいう，午前・午後・週などをいう，代名動詞／指示形容詞 Tu te lèves tôt?　A　quelle heure vous vous couchez?	
8	天気をいう，季節・月・週・午前・午後などの語彙 Il fait beau.　Il neige.　lundi,　hiver,　janvier	
9	場所をいう，道順をいう，冠詞の縮約(de)，前置詞，序数 Où est le café?　　Il est en face de la maison.　　dans, sur,　sous	
10	命令・義務の表現　　命令形／il faut… Allez tout droit.　　Il faut travailler.　　Sois sage!	
11	過去のことを語る（1）-1　複合過去(passé composé) avoir + pp.　様々な否定（1） J'ai fait du tennis.　Je n'ai pas téléphoné.	
12	過去分詞の作り方，中性代名詞en Il a travaillé.　　J'ai fini mon étude.　Je n'en ai plus.	
13	過去のことを語る（2）-1　　複合過去(passé composé) être + pp.　様々な否定（2）・ être動詞を伴う動詞の種類 aller/venir/sortirなど・過去分詞は主語の性・数に一致する　　Elle est allée au musée.	
14	複合過去(passé composé)の疑問分・否定文の作り方 Il est venu de la piscine?　Non, il n'est pas venu.	
15	外国に行ったことがありますか？Il y aの使いかた（過去を表現する場合），中性代名詞　場所を表す副詞 y，半過去形 Tu　est déjà allé(e) à l'étranger?　Quan ça?　Il y a dix ans, j'étais à Paris.（10年前私はパリにいました）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	70	学習内容をきちんと習得している。	受講態度	30	講義に積極的に参加している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業内容に関して指示されたことに基き予習・復習をきちんと行う。 自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習、復習をして下さい。[120分]	テキスト中の練習問題を自主学習し、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。 質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。 提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします。

受講生に望むこと	語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを聞き口に出して練習してください。 予習してくると余裕を持って学び理解することが容易になります。	教科書・テキスト	『SALUT（サリュ！）』田口啓子・末永朱胤他著,駿河台出版社,2004年,ISBN978-4-411-00815-2　C1085
指定図書／参考書等	授業中に随時紹介します。 プリントや資料等は随時配布します。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	PE100U 生涯ｽﾎﾟｰﾂA（ｺﾞﾙﾌ）			開講学科	人間総合	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。 健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。 ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「ゴルフ」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「ゴルフ」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。	① ゴルフの競技特性を理解する。 ② ゴルフの基本的技術を習得する。 ③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。

教授方法	スポーツ実技
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、ゴルフ競技の説明、用具の説明。ゴルフというスポーツを理解する。	
2	パッティングゲーム：パッティングゲームを通してゴルフのゲーム性に触れる。	
3	ショットの基礎①：グリップ、ポスチャー、エイミング ～ ショートスイング 正しいグリップ、ポスチャー及びエイミングを理解し、ショートスイングを通して習得する。	
4	ショットの基礎②：グリップ、ポスチャー、エイミング ～ ショートスイング ～ ハーフスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくしハーフショットまでの技術を習得する。	
5	ショットの基本③：グリップ、ポスチャー、エイミング ～ ショートスイング ～ ハーフスイング ～ フルスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくしフルショットまでの技術を習得する。	
6	ショットの基本④：ボール弾道の法則とフェースコントロール･･･スイング及びフェースの向きによって生じる９ 種類の弾道を理論として理解し、各自のスイングの修正に結びつけることができるようになる。	
7	ショットの基本⑤：ＶＴＲによる視覚的フィードバック。 自分のスイングを映像で見ることで、体内感覚と実際の運動のずれを確認し、修正することに 結びつける。	
8	ショットの基本⑥：アプローチ 練習グリーンに向かってショットを行うことで、具体的な距離と方向をコントロールする技術 を習得する。	
9	ショットの基本⑦：グリーン周りの技術 ～ パッティング グリーン周りの各種ショット技術及びパッティングの基礎技術を習得する。	
10	講義：ゴルフの歴史、ルールを理解する	
11	ショットの基本⑧：ショートアイアンとミドルアイアン～ウッドクラブ クラブを使い分けることで飛距離をコントロールする	
12	ターゲットバードゴルフ①　ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのゲーム性に触れる。	
13	ターゲットバードゴルフ②　ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのルール、ラウンド方法、マナーを学習す る。また、一回目のスコアを元に個人的に目標を立ててラウンドする。	
14	ショートゲームテストとまとめ	
15	講義：本授業での学びを振り返り、健康的で豊かなスポーツライフの実現ついて考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加している。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力している。	種目毎に実施するスキルテスト	30	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
レポート	10	課題を理解し、適切な内容が書かれている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行います。［準備体操を含め60分程度］ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。

受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し、実技に参加することが原則です。 運動のできる服装で参加して下さい。 主にグランドで実技を行いますので、外履きの運動靴を用意して下さい。また、必要に応じて帽子、ゴルフグローブなどを用意して下さい。 詳しくは初回ガイダンスにて説明します。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	参考書：US PGA TOUR Golf Lesson Vol.1 ～ 7　MICO　ケンメディア	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。 （事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	PE100U 生涯ｽﾎﾟｰﾂA（ﾃﾆｽ）			開講学科	人間総合	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一・田邊　圭子・熊谷　史佳　（代表教員　永山　亮一）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。 健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。 生涯スポーツとして実戦人口の多い「テニス」を実技種目とし、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「テニス」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。	① テニスの競技特性を理解する。 ② テニスの基本的技術を習得する。 ③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。

教授方法	対面授業によるスポーツ実技。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、用具の説明	田邊・熊谷
2	グリッピング、ラケットワーク	田邊・熊谷
3	基本ストローク（フォア）1：フォアハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。	田邊・熊谷
4	基本ストローク（フォア）2：フォアハンドストロークの打ち方の習得を目指す。	田邊・熊谷
5	基本ストローク（バック）：バックハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。	田邊・熊谷
6	基本ストローク（フォア・バック）：簡易ルールでフォアとバックを用いたゲームを楽しむ。	田邊・熊谷
7	基本ストローク（ボレー）：ボレーの打ち方を理解し、習得する。	田邊・熊谷
8	基本ストローク（サーブ）：サーブの打ち方を理解し、習得する。	田邊・熊谷
9	簡易ゲーム（フォア・バック・ボレー・サーブ）：簡易ルールでフォア、バック、ボレー、サーブを用いたゲームを楽しむ。	田邊・熊谷
10	講義：ルール説明と審判法：テニスの正式なルールと審判法を理解し、実際のゲームで活用できるようにする。	田邊・熊谷
11	ゲーム 1 ：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに審判の方法についてお互いに確認し合う。	田邊・熊谷
12	ゲーム 2 ：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに一人で審判ができるようにする。	田邊・熊谷
13	ゲーム3：クラス内でダブルスのリーグ戦を行う。	田邊・熊谷
14	ゲーム4：クラス内でダブルスのリーグ戦の続きを行う。	田邊・熊谷
15	講義：本授業での学びを振り返り、健康的で豊かなスポーツライフの実現ついて考える。	田邊・熊谷

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する ・実技に対して積極的に参加しているか ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか	種目毎に実施するスキルテスト	30	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
レポート	10	課題を理解し、適切な内容が書かれているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行います。［準備体操を含め 60分程度］ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。

受講生に望むこと	実技科目のため、出席し実技に参加することが原則です。 運動ができる服装で参加して下さい。 主に屋外テニスコートで実技を行います。外履き用の運動靴を用意して下さい。また、必要に応じて帽子など用意して下さい。 詳しくは初回ガイダンスにて説明します。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。 （事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	PE100U 生涯ｽﾎﾟｰﾂA（ﾀﾞﾝｽ）			開講学科	人間総合	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一・木藤　由麻　（代表教員　永山　亮一）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。 健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。 ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「ダンス」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「ダンス」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。	① ダンスの特性を理解する。 ② ダンスの基本的技術を習得する。 ③ 習得した技能を生かし、ダンスを表現・創作することを楽しむ。 ④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。

教授方法	スポーツ実技
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、ダンスを理解する。	木藤
2	リズムの基礎：リズムの考え方、アイソレーションを理解し習得する。	木藤
3	伝統的なダンス(フォークダンス)：フォークダンスを通して踊りの特性に触れる。	木藤
4	基本のステップ 1 ：ダウン・アップのリズムを理解し、習得する。	木藤
5	基本のステップ 2 ：サイドステップ・スリーステップターン・ボックスステップのリズムを理解し、習得する。	木藤
6	基本のステップ 3 ：クロスステップ・サイドランジ・ランニングマンのリズムを理解し習得する。	木藤
7	簡易創作 1 ：習得したステップをグループ内で組合せ、発表を楽しむ。	木藤
8	基本のステップ 4 ：ニュージャックスイング・クラブステップのリズムを理解し、習得する。	木藤
9	簡易創作 2 ：簡単なルーティーンのアレンジ・フォーメーション作品を創作する。	木藤
10	講義：ダンスの歴史を理解する。	木藤
11	創作活動 1 ：グループ内で、これまでに習得した技術を組合せ、ダンス作品を創作する。	木藤
12	作品発表 1 ：グループ内で創作した作品を発表しあう。 相互評価ならびにVTRによるフィードバックを行い、作品の修正・発展に結びつける。	木藤
13	創作活動 4 ：フィードバックを通して作品の修正を行い、最終発表に向け作品を完成させる。	木藤
14	作品発表 2 ：グループ内で創作した作品を発表しあう。 相互評価を行い、その結果を踏まえこれまでの学びを各自で振り返る。	木藤
15	講義：本授業での学びを振り返り、健康的で豊かなスポーツライフの実現ついて考える。	木藤

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加している。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力している。	種目毎に実施するスキルテスト	30	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
レポート	10	課題を理解し、適切な内容が書かれている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。［準備運動を含め 60分程度］ ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。

受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。 運動のできる服装で参加して下さい。 主に体育館で実技を行いますので、内履きの運動靴を用意して下さい。 また、必要に応じてタオルなどを用意して下さい。 詳しくは初回ガイダンスにて説明します。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。 （事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	PE110U 生涯ｽﾎﾟｰﾂB（集中講義：ｽｷｰｾﾐﾅｰ）			開講学科	人間総合	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一・田邊　圭子　（代表教員　永山　亮一）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本野外活動プログラムは冬期休業期間に長野県栂池高原スキー場にて３泊４日の合宿形式にて行う。 スキーはウインタースポーツの代表格ともいえるスポーツである。遊びの要素をふんだんに含み、自然環境と相まって素晴らしい満足感・達成感を与えてくれることから、生涯スポーツとして最も親しまれているものの一つである。本授業では、スキー技術について基礎から応用まで各々のレベルに応じて身に付けることをねらうが、単にスキーの技術を学ぶだけでなく、健康管理、安全管理、リスクマネジメント、社会スキルの醸成なども合宿を通して学習し、“スキーヤー”としての基本を身につけることを目的とする。さらに、技術レベルに応じた班別での実習を行うため、チームワークを重視し仲間を思いやる気持ちも学んでいく。 なお、「生涯スポーツB」の単位は、「スキーセミナー（本頁）」の他に「後期開講する授業」及び「ゴルフセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。（詳細はシラバス別頁を参照） ※ 各セミナーの日程、詳細内容、費用等は別途通知する。 ※ 各プログラムの予定受講数を大幅に超える希望がある場合には、抽選にて受講を決定する。	① スキーの特性を理解し、自分で準備し安全に楽しむ能力を修得する。 ② スキーに関する知識や技術を自分で深め高める能力を修得する。 ③ スキーの技能改善のための知識批判力と方法論的能力を修得する。 ④ ウインタースポーツを通じた人間関係能力を養う。 ⑤ ウインタースポーツを通じた環境への感受性や認識力を高める。 ⑥ 合宿を通じて、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ⑦ 合宿を通じて、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。

教授方法	スキー実技
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	事前オリエンテーション：ガイダンス、合宿に関する諸注意、事前準備について、健康状態の把握 用具の準備（用具とその使用法の説明、パッキング）	永山、田邊
2	【実習　1 日目　午後Ⅰ】 開講式／クラス編成確認（技術レベル別に編成）	各班担当者
3	【実習　1 日目　午後Ⅱ】 クラス別レッスン①	各班担当者
4	【実習　1 日目　夜】 講義：スキー技術の変遷／スキー用具のメインテナンス	永山、田邊
5	【実習　2 日目　午前Ⅰ】　VTR 撮影／クラス別レッスン②	各班担当者
6	【実習　2 日目　午前Ⅱ】 クラス別レッスン③	各班担当者
7	【実習　2 日目　午後Ⅰ】 クラス別レッスン④	各班担当者
8	【実習　2 日目　午後Ⅱ】 クラス別レッスン⑤／ VTR 撮影	各班担当者
9	【実習　2 日目　夜】　VTR によるフィードバック／クラス別ミーティング／スキーのメインテナンス	永山、田邊
10	【実習　3 日目　午前Ⅰ】　VTR 撮影／クラス再編成／クラス別レッスン⑥	各班担当者
11	【実習　3 日目　午前Ⅱ】 クラス別レッスン⑦	各班担当者
12	【実習　3 日目　午後Ⅰ】 クラス別レッスン⑧	各班担当者
13	【実習　3 日目　午後Ⅱ】 クラス別レッスン⑨／ VTR 撮影	各班担当者
14	【実習　3 日目　夜】　VTR によるフィードバック／クラス別ミーティング／スキー用具のメインテナンス	永山、田邊
15	【実習　3 日目　午前】 クラス別レッスン⑩／閉講式	各班担当者

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加している。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力している。	実習終了後のレポート評価	20	1．指定されたフォーマットに準じて記載されている。 2．本セミナーの経験を、生涯にわたりスポーツに親しむ態度に結びつけて考えられている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。実習前に自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行います。［最低1日］ ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。

受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。 ３泊４日の合宿になりますので体調を整えて参加して下さい。 詳しくは初回のガイダンスにて説明いたします。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。場合によっては実習への参加を認めない場合があります。（事故防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	PE110U 生涯ｽﾎﾟｰﾂB（集中講義：ｺﾞﾙﾌｾﾐﾅｰ）			開講学科	人間総合	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一・田邊　圭子　（代表教員　永山　亮一）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本野外活動プログラムは 4 日間にわたる集中講義にて行う。 ゴルフは広く社会に普及しており、年齢や性別に関わらず誰にでも出来ることから生涯スポーツの主流になりつつある。これは昨今のプレーフィーの格安化に加え、ジュニア期から世界的に活躍し、話題性の多い若手選手の活躍が一般に知れ渡ったことも関与していると考えられる。また、自分の健康や楽しみのためのプライベートなプレーもさることながら、職域や地域の人々とのコミュニケーションの場としてゴルフが活用されるケースが多いからではないかと考える。従って、本講義の開設は将来を見据えたものであり、前期授業において習得したゴルフの基礎技術を確認し、最終日のラウンド実習につなげることで、ゴルフの楽しさをより深く体感することができ、生涯を通してスポーツに親しむ態度の育成に寄与するものと期待する。 なお、「生涯スポーツB」の単位は、「ゴルフセミナー（本頁）」の他に「後期開講の授業」及び「スキーセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。（詳細はシラバス別頁を参照） ※ 各セミナーの日程、詳細内容、費用等は別途通知する。 ※ 各プログラムの予定受講数を大幅に超える希望がある場合には、抽選にて受講を決定する。	① ゴルフの特性を理解し、自分で準備し安全に楽しむ能力を修得する。 ② ゴルフに関する知識や技術を自分で深め高める能力を修得する。 ③ グリップ、ポスチャー、エイミングなどアドレスの基本技術を修得する。 ④ ショートスイングからフルスイングまで段階的にスイングの基本技術を身につける。 ⑤ 距離感や方向性などボールコントロールの理論及び方法を理解する。 ⑥ 基本的なルールやマナーを理解し、安全なプレー・ラウンドが出来るようになる。 ⑦ ゴルフを通じた人間関係能力を養う。

教授方法	ゴルフ実技　（大学グランド及びゴルフ練習場における練習とラウンド実習）
履修条件	前期「生涯スポーツA」の単位を修得済みの者の内「ゴルフ」を選択した者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	事前オリエンテーション：ガイダンス、屋外実習に関する諸注意、事前準備について、健康状態の把握／用具の準備。	永山、田邊
2	【実習　1 日目　午前Ⅰ】　開講式／レッスン①：スタンスの確認（グリップ、ポスチャー、エイミング） ショートスイング　～　スリークォータースイング（ 9Ⅰ）	永山、田邊
3	【実習　1 日目　午前Ⅱ】　レッスン②：スリークォータースイング　～　ハーフスイング（ 9Ⅰ）	永山、田邊
4	【実習　1 日目　午後Ⅰ】　レッスン③：ハーフスイング　～　フルスイング（ 9Ⅰ）	永山、田邊
5	【実習　1 日目　午後Ⅱ】　レッスン④：ハーフスイング　～　フルスイング（ 9Ⅰ、7Ⅰ、5Ⅰ）	永山、田邊
6	【実習　2 日目　午前Ⅰ】　レッスン⑤： 9Ⅰ、7Ⅰ、5Ⅰまでを利用して段階的にスイング技術を習得する。 また、距離の打ち分けに関する理論及び技術を習得する。／VTR 撮影	永山、田邊
7	【実習　2 日目　午前Ⅱ】　レッスン⑥：「ボール弾道の法則」を理解する。また、その理論により各自のスイング及び 弾道をセルフチェックし、修正に結びつけられるようにする。／ VTR撮影	永山、田邊
8	【実習　2 日目　午後Ⅰ】 レッスン⑦：ウッドクラブによるスイング（ゴルフ練習場）。	永山、田邊
9	【実習　2 日目　午後Ⅱ】 レッスン⑧：パッティング及びグリーン周りのアプローチショット技術を習得する。	永山、田邊
10	【実習　3 日目　午前Ⅰ】　レッスン⑨：VTR によるフィードバック／クラブ選択を行いながらの打ち込みを行う。	永山、田邊
11	【実習　3 日目　午前Ⅱ】 レッスン⑩：ルール解説、ラウンド方法及びラウンドマナーの講習／グルーピング／打ち込み。	永山、田邊
12	【実習　3 日目　午後Ⅰ】 レッスン⑪：グランド仮設コースによるラウンド練習を行う。	永山、田邊
13	【実習　3 日目　午後Ⅱ】 レッスン⑫：グランド仮設コースによるラウンド練習を行う。 ラウンド方法に慣れ、コースマネージメントの考え方を学習する。	永山、田邊
14	【実習　4 日目　午前】 レッスン⑬：民間練習場にてウッド・アイアンショットの確認を行う。	永山、田邊
15	【実習　4 日目　午後】 ラウンド実習②：本コース 9ホールのハーフラウンド体験を行う。／閉講式	各担当者

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加している。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力している。	実習終了後のレポート評価	20	1．指定されたフォーマットに準じて記載されている。 2．本セミナーの経験を、生涯にわたりスポーツに親しむ態度に結びつけて考えられている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。前期の授業中に学んだことを夏期休業中に自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行います。〔1回60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。

受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。 ４日間の集中講義になりますので体調を整えて参加して下さい。 詳しくは事前オリエンテーションにて説明いたします。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。場合によっては実習への参加を認めない場合があります。（事故防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	PE110U 生涯ｽﾎﾟｰﾂB			開講学科	人間総合	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。 健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って　若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。 ここでは生涯スポーツとして実践人口も多く、社会体育としても積極的に導入されている「ニュースポーツ」を実技種目として採用する。 ニュースポーツは軽度な運動量に加え、初歩的な技術レベル及び筋力が低い者でも十分に楽しむ事ができるスポーツ群であると考えられ、スポーツに対して苦手意識を持つ者でも参加しやすく、スポーツの楽しみや喜びを感じやすいカテゴリーであると考えられる。そこからスポーツを日常化・生活化し、豊かで健康的な生活を営む能力と習慣の獲得につなげる。 なお、「生涯スポーツB」の単位は、「毎週開講する授業（本頁）」の他に「ゴルフセミナー」及び「スキーセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。（詳細はシラバス別頁を参照）	① 各種ニュースポーツの競技特性を理解する。 ② 各種ニュースポーツの基本的技術を習得する。 ③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。

教授方法	スポーツ実技
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：ニュースポーツというスポーツカテゴリーを理解する。	
2	フライングディスク①：フライングディスクという競技を理解し、実践する。 各種投法を理解し、ディスクをコントロールして投げられるようになる。	
3	フライングディスク②：フライングディスクという競技を理解し、実践する。 前回習得した技術を基に、ドッヂビーなどのゲームを楽しむ。。	
4	ソフトバレーボール①：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 オーバーパス、アンダーパスなどの基礎技術を習得する。	
5	ソフトバレーボール②：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基に簡易ゲームを行い、ルールを覚える。	
6	ソフトバレーボール③：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 リーグ戦形式で複数のゲームを楽しむ。	
7	インディアカ①：インディアカという競技を理解し、実践する。 インディアカボールを扱う基本的技術を習得する。	
8	インディアカ②：インディアカという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。	
9	フレッシュテニス①：フレッシュテニスという競技を理解し、実践する。 フレッシュテニスの基礎的技術を習得する。 （ラケットワーク、フォアストローク、バックストローク）	
10	フレッシュテニス②：フレッシュテニスという競技を理解し、実践する。　習得した技術を基にゲームを楽しむ。	
11	ユニホック①：ユニホックという競技を理解し、実践する。 ユニホックの基礎的技術を習得する。（スティックワーク、パス、ショット）	
12	ユニホック②：ユニホックという競技を理解し、実践する。　習得した技術を基にゲームを楽しむ。	
13	タグラグビー①：タグラグビーという競技を理解し、実践する。　タグラグビーの基礎的技術を習得する。	
14	タグラグビー②：タグラグビーという競技を理解し、実践する。　習得した技術を基にゲームを楽しむ。	
15	講義：小・中・高と体験してきた学校体育とは違ったスポーツの体験をまとめ、今後、生涯スポーツとして スポーツに親しむ礎とする。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	70	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加している。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力している。	授業中に実施するミニスキルテスト	20	スポーツ技術の習熟度をスキルテストによって確認する。 ・詳細は各種目毎に説明する。
レポート	10	課題を理解し、適切な内容が書かれている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行います。〔準備体操を含め 60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。

受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主に体育館にて行いますので、内履きの運動靴を用意して下さい。 詳しくは初回ガイダンスにて説明します。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。 （事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	PE120U 健康科学			開講学科	人間総合	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。 現在我々を取りまく生活環境は刻々と変化し、少子・高齢化社会・労働内容の合理化・自由時間の増大・食生活環境の変化といった様々な変化に適応・対処して行かなければならない。その中で健康的な生活を営んでいくためには、個人が自立して体力や健康の維持増進を図ることができる知識・能力を身につけること、各種スポーツの特徴を理解し積極的に余暇時間にスポーツ活動を取り入れていくこと、バランスのとれた運動と休養のタイミングを理解すること、肥満の解消に有効な運動の内容を理解し実践することなど、様々な事柄に対する理解を深める必要がある。本講義において、これらの基礎的な知識を学習することで、様々な環境に適応し、健康的で豊かな生活を送って行くための自己管理能力を身につける。	① 健康的な生活の意義を理解する。 ② 健康的な生活を営むために必要な事柄を理解する。 ③ 健康的な生活を自らデザインし、実践していく態度を身につける。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	健康の意義：健康的な生活の意義について理解を深める。	
2	健康的な生活①：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「栄養（食生活）」についての理解を深める。	
3	健康的な生活②：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「運動」についての理解を深める。	
4	健康的な生活③：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「休養」についての理解を深め、三大要素のバランスについて考える。	
5	健康を脅かすもの①：健康を脅かすものとして、「飲酒」「喫煙」に対する理解を深める。	
6	健康を脅かすもの②：健康を脅かすものとして、「薬害」「アレルギー」に対する理解を深める。	
7	健康を脅かすもの③：健康を脅かすものとして、「感染症」に対する理解を深める。	
8	健康を脅かすもの④：健康を脅かすものとして、「性感染症」について学ぶとともに「免疫機能」に関して理解を深める。	
9	健康を脅かすもの⑤：健康を脅かすものとして「生活習慣病」について理解を深める。 「肥満」「糖尿病」「高脂血症」「高血圧」	
10	健康を脅かすもの⑥：生活習慣病の理解とともに、代表的な死因との関係を学ぶ。 「虚血性心疾患」「脳血管障害」「悪性腫瘍」	
11	運動習慣と疾病の関係①：生活習慣病及び代表的な死因との関係を理解するとともに、運動習慣との関係を学ぶ。	
12	運動習慣と疾病の関係②：生活習慣病及び代表的な死因との関係を理解するとともに、運動習慣との関係を学ぶ。 「生活習慣病」と「肥満」の関連性を理解し、疾病予防についての運動習慣の有効性を学ぶ。	
13	健康増進及び疾病予防のための運動プログラミングの考え方① ：健康を目的とした運動プログラミングの基本理論を理解する。	
14	健康増進及び疾病予防のための運動プログラミングの考え方②：健康を目的とした運動プログラミングの内容を考え、自分に合ったプログラムを作成できるようになる。	
15	まとめ：これまでに学習してきた内容をまとめ、各自において健康的な生活を営む計画を立案する。 また、その計画を実践できるような心構え・態度を獲得する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	40	受講態度を重視する。 ・学んだ内容を基に自分自身の生活を振り返り、健康的なモノへと変化させている。	学期末試験	60	講義内容に関する筆記テストを行う。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各講義を振り返り、分からなかった用語などを調べ、理解を深める。[30分] ②各講義の内容を自分の生活と結びつけ、健康的な生活へと改善を図る。[30分] なお、事前事後学習内容の詳細に関しては授業内で説明する。	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。

受講生に望むこと	本講義で学ぶ内容を各々の生活に還元し、健康的な生活を営む礎として下さい。	教科書・テキスト	教員が作成するプリントを使用する。
指定図書／参考書等	参考書：「現代人のための健康づくり」 石川県大学健康教育研究会編著　北國新聞社　2014年 ISBN：978-4-8330-1972-9	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	HC100U ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ			開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	松本　理沙・向出　圭吾　（代表教員　松本　理沙）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は、全学共通科目のうち学部のキャリア教育科目に位置づけられている。キャリアデザインとは、自分の人生の中で職業を主体的に構想したり、設計したり、実現することである。そのために自分の適性と、社会の現状を知り、将来を見通すことが求められる。	①自己理解：自分に足りない能力や自分の能力・正確に気づく。 ②課題対応能力・対人対応能力：社会の中で人と関わる力・社会で必要となる力に気づく。

教授方法	講義、演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業概要の説明：到達目標、成績評価と基準、授業外における学習など	松本
2	現代社会とキャリアデザイン：キャリアデザインとは何か、キャリアデザインの基本と方法	松本
3	大学で学ぶ意義：学びの姿勢を考える①（これまでの自分を振り返る）	松本
4	大学で学ぶ意義：学びの姿勢を考える②（自己概念を知る）	松本
5	大学で学ぶ意義：学びの姿勢を考える③（大学で学ぶとは）	松本
6	大学で学ぶ意義：学びの姿勢を考える④（4年後を見据えて）	松本
7	キャリアデザインと人生設計：現代人のライフサイクルと職業について、社会人から学ぶ	松本
8	「加賀百万石ウォーク」活動①	向出
9	「加賀百万石ウォーク」活動②	向出
10	「加賀百万石ウォーク」活動についての振り返り	向出
11	学童保育とは：学童クラブで児童と関わる方から学ぶ	松本
12	大学祭とは：大学祭の在り方を考える	松本
13	大学祭②イベントの企画・準備を行う	松本
14	組織マネジメントの理解とチームワークの醸成	松本
15	総括	松本

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業態度	30	授業中の課題への取り組み方や積極性を重視する	レポート	30	・期限内に提出しているか ・指定された分量が書かれているか ・課題に即した内容となっているか ・自身の振り返りができているか（考察） ・振り返りを今後につなげようとしているか
提出物	40	・期限内に提出しているか ・指定された分量が書かれているか ・課題に即した内容となっているか ・自身の振り返りができているか（考察）			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業内容から自身の知的好奇心を促進したものについての自己分析を行う。	①他の学生と課題を見せ合い、他者から学ぶ。 ②課題によっては教員からコメントする。

受講生に望むこと	①キャリアデザインは、自分の人生についての設計を考える大切な科目であり自分自身と真摯に向き合うことが望まれる。 ②理論だけでなく、実際に行動することで自分の位置を知る体験学習がある。積極的に取り組むことが望まれる。	教科書・テキスト	『大学生のためのキャリアデザイン　自分を知る・社会を知る・未来を考える』川崎友嗣編　ミネルヴァ書房　2019年　ISBN:9784623084876
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	必要に応じて、資料を配付する。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	HC100U ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ			開講学科	社会	必修・選択	必修
担当教員名	井上　克洋・小林　正史・松下　健・加藤　仁　（代表教員　井上　克洋）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
授業の目的は２つある。1つ目は、社会で必要とされる力に気づき、その運用法を知ることである。もう1つは、その社会で必要な力を身につけるために、大学でいかに学ぶかを自らが考え、行動することである。これらの目的に従って、授業では実際の社会が抱える課題を知り、チームでその解決に取り組む。具体的には、2つの企業の担当者から実際に企業が直面している課題を受け取り、それを解決するためにチームで取り組む。そして、その成果について中間プレゼン・最終プレゼンを行い、企業担当者からフィードバックを受ける。	①社会に必要な力に気づく。 ②自分に足りない能力や知識、自分の興味、性格、能力の強みに気づく。 ③社会に出るまでにつけなければならない能力や知識を残りの大学生活の中でどのように習得していくのかを考えることができるようになる。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：授業の目的、流れ、方針と評価方法、チームに貢献するためのルールについて理解する。	全教員
2	課題とは何か？：「課題」とは何かを理解し、「課題」に取り組むために必要なディスカッションの基本的な手法を学ぶ。	全教員
3	Missionを受け取る：企業Aの担当者からMissionを受け取る。課題や目標となるゴールを正しく理解する。	全教員
4	第１次提案に向けて：チーム活動。第１次提案の目的や心構え、準備について理解し、どのように議論を進めるべきかをチームで検討する。	全教員
5	第１次提案：企業担当者の前でプレゼンを行う。企業担当者からのフィードバック、他のチームのプレゼンなどから議論を再構築する。	全教員
6	第２次提案に向けて：チーム活動。簡潔にかかりやすく伝えるプレゼンをするための注意事項を理解し、準備を整える。	全教員
7	第２次提案：プレゼンを行い、企業担当者からフィードバックを受ける。チームで自分たちの議論および活動を振り返る。	全教員
8	問題解決に必要なスキルを知る：クリティカルシンキングの大まかな概要をつかむ。	全教員
9	Missionを受け取る：企業Bの担当者からMissionを受け取る。課題や目標となるゴールを正しく理解する。	全教員
10	第１次提案に向けて：チーム活動。企業担当者からどのようなアドバイスをもらえれば議論が進むのかを整理する。	全教員
11	第１次提案：企業担当者の前でプレゼンを行う。企業担当者からのフィードバック、他のチームのプレゼンなどから議論を再構築する。	全教員
12	第２次提案に向けて：チーム活動。簡潔にわかりやすく伝えるプレゼンをするための注意事項をチェックし、準備を整える。	全教員
13	第２次提案：プレゼンを行い、企業担当者からフィードバックを受ける。チームで、自分たちの議論および活動を振り返る。	全教員
14	全体の振り返り：授業での経験をもとに、残りの大学生活をどのように過ごすのかをまとめる。	全教員
15	前期の初めに自らが設定した中期目標と長期目標がどの程度達成されたか、今後の大学生活と授業にどのように臨むかについての「自分宣言」を行う。	全教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	30	積極的に授業およびグループワークに参加したか。	提出物	50	期限内に提出しているか。課題に即した内容となっているか（例えば、毎回提出するリアクションシートの場合は、振り返りが記され、規定文字数を満たしている）。
発表	20	発表内容。発表態度。質疑応答への応対。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
問題解決のための資料探しや企業研究、社会調査やディスカッションなど、中間プレゼンおよび最終プレゼンの準備をすすめること。準備はほぼ授業時間外ですすめることになる。（60分）	プレゼンテーションや提出物などの課題については、次学期のキャリアデザインⅡにおいてコメントする。

受講生に望むこと	常に主体的に考え、責任を持って動くように心がけること。	教科書・テキスト	『PROJECT SUPPORT NOTEBOOK』ベネッセコーポレーション、2014年。　ISBN:なし
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	HC110U ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ			開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	福江　厚啓・谷　昌代　（代表教員　福江　厚啓）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は、全学共通科目のうち、学部の「キャリア教育科目」に位置付く。キャリアデザインⅠに引き続き、自己の人生を主体的に構想・設計・実現する当事者としての力を高めたい。 教育系学科であるからこそ、まずは教師・保育者として求められる専門性にふれ、地域社会における協働の経験を通し、社会から求められる事柄が何であるのかを実感する。この経験を通して自己課題を明確にし、自己の生き方を見つめていってほしい。 ※SDGsターゲット4.1,4.2,17.17関連科目	①「理想の自己実現」のためのキャリアプランニング能力 ②教師・保育者としての専門的な職業能力 ③自己理解・自己管理能力 ④課題対応能力、対人対応能力 以上4点の資質・能力を、各自の自己課題に基づき、活動を通じて総合的に高めることができる。

教授方法	講義、演習、体験学習
履修条件	なし。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業概要の説明：到達目標、成績評価と基準、「キャリア体験学習」など。	全員
2	キャリアデザインと職場理解：キャリア考察「今の自分、これからの自分」	全員
3	春季放課後児童クラブ(学童保育）体験について概要を理解し、計画を立てる。	全員
4	春季放課後児童クラブ(学童保育）体験について計画を立て、準備を進める。	全員
5	放課後児童クラブ(学童保育）について理解する。	全員
6	「キャリア体験学習」ワークショップに生かせそうなことの事前学習(個人調べ)	全員
7	「キャリア体験学習」の説明と役割分担、連絡方法の確認、ワークショップ内容決定、予算計画等	全員
8	「キャリア体験学習」の第１回事前学習（準備）	全員
9	「キャリア体験学習」の第２回事前学習（準備）	全員
10	「キャリア体験学習」の第３回事前学習（模擬実施と反省）※体育館使用予定	全員
11	「キャリア体験学習」の第４回事前学習（最終準備と打合せ）	全員
12	「キャリア体験学習」（公民館イベント）①	全員
13	「キャリア体験学習」（公民館イベント）②	全員
14	「キャリア体験学習」の事後学習(個人まとめ)	全員
15	「キャリア体験学習」の事後学習と報告書・引継書（ポスター型）作成	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業態度	40	①講義内容についての理解ができている ②自己への問題提起が身についている ③新しい発見ができている ※代替授業時の提出課題を含む	最終レポート	30	「これが私の進む道」 学びを踏まえ、今後の自己課題を明確に。 （体験学習の報告、発表の反省を含むこと）
ミニレポート	30	「キャリア体験学習」の準備作業記録と事後レポート			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
専門的な職業能力に直結する「キャリア体験学習」に取り組みます。その体験学習に際しては事前の入念な準備と事後の振り返りが大切であり、それに要する時間は延べ6時間以上が目安です。 単に時間を要する、ということよりも、目的を共有するチームとしての報告・連絡・相談、役割分担や連携が大切になります。	グループごとに事業計画を立て、役割分担、調査研究や準備を行い、記録することで自己フィードバックする。 最終レポートは、評価が終わり次第返却する。

受講生に望むこと	①積極的に参加すること。 ②理論だけでなく、実際に行動すること。 ③グループにより、準備等のスケジュールは異なるので各自が手帳等を準備し、自己管理して下さい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	「キャリア体験学習」は12月(土。日付未定)公民館イベント運営を以て2コマに充てる。 （地域の要請により日程等には毎年変化があるため、代休講2回、授業日の日程等、詳細については開講時に改めて説明する）

実務経験を活かした授業の概要

福江：市内小学校におけるイベント運営の場を設け、事業計画、予算立案、準備、運営、振り返り、引継という一連のプロセスを経験させることで、子どもにかかわる専門職に必要な資質・能力を磨く経験の場を提供している。
谷：子どもに関わるイベント運営に向けて学生たちが個々の能力を発揮しつつ、グループでの協働の体験を積む。保育者、教育者を目指す者として、子どもとの関わりから様々に感じ、身に付けたい力に気付いていく機会としたい。

授業科目名	HC110U ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ			開講学科	社会	必修・選択	必修
担当教員名	加藤　仁・小林　正史　（代表教員　加藤　仁）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は，全学共通科目のキャリア教育科目に位置づけられるものである。キャリアデザインⅡでは，キャリアデザインⅠで培われた気づきを拡張，深化させていく。そのために，MIP1の振り返りや批判的，論理的な思考力を高めるトレーニング，また，働き方や社会の動き，先達の話を聴く機会や仕事に就くにあたって考えるべきことなど様々な角度から自身の「キャリア」を考えるための時間とする。	①グループワークや発表をとおして，自身の意見を的確に他者に伝えることができる。 ②先達の話や社会の動き捉える活動から，現代社会の情勢などの知識を身につける。 ③仕事につく際に必要とされるが，現在は不足している力について，学生時代にどのようにして身につけるかの具体的プランが立てられる。

教授方法	教員による講義，ゲストスピーカーによる講演，グループワークおよび発表など多様な方法により演習を進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業概要の説明および前期の振り返りと自己評価の分析を行う。	加藤・小林
2	クリティカルシンキングの自己分析を行う。	加藤・小林
3	MIP1におけるプレゼンテーション修正版を考え，発表を行う。	加藤・小林
4	社会の情勢を把握し他者に伝える（1）：新聞を用い社会の出来事について考察する。	加藤・小林
5	社会の情勢を把握し他者に伝える（2）：新聞を用いたグループワークおよび発表を行う。	加藤・小林
6	会社の仕組み，仕事の仕組みについて考える。	加藤・小林
7	職業選択について（1）：周りの人の聞き取りを踏まえたグループワークを行う。	加藤・小林
8	職業選択について（2）：周りの人の聞き取りを踏まえたグループワークの結果を発表する。	加藤・小林
9	グローバル企業で働くことについて学ぶ。	加藤・小林
10	グローバル企業で働く際の問題点と解決策について具体的に考える（MIP2に向けて）。	加藤・小林
11	就職活動とは：4年生と卒業生の話を聞く。	加藤・小林
12	ワークライフバランスについて考える。	加藤・小林
13	労働者の権利について考える。	加藤・小林
14	企業の社長たちの学生時代の話を聞く（パネルディスカッション）	加藤・小林
15	自己を振り返る（自分史を作る自己分析）。授業の総括とMIP２へのつながりの説明	加藤・小林

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	授業中のワークの達成度，および演習への参加態度	リアクションシート	40	毎回提出するリアクションシートが授業の内容に沿って具体的に記入されている。
課題・レポート	20	授業時に課された課題やレポートの内容	グループ発表	10	グループ発表が論理的に構成されており，わかりやすい話し方である。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①グループ・個人に課された課題・レポートの作成［120分］ ②日頃から新聞等を読み，社会の事象等に関心を持つ。［60分］	グループ発表やレポート提出時に学生と教員がコメントする。

受講生に望むこと	グループワークを中心とした授業なので，学生の活発な参加が求められる。社会学科の他の科目の学習とともに，社会の事象について関心を持つ姿勢が必要である。	教科書・テキスト	必要に応じて資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	代替授業が行われる場合は，別途指示する。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	HC200U ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅢ			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	福江　厚啓						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は、全学共通科目のうち、学部の「キャリア教育科目」に位置付く。キャリアデザインⅡに引き続き、自己の人生を主体的に構想・設計・実現する当事者としての力を高めたい。 具体的には自己課題に基づいて様々な地域連携等の事業から自己決定し、都合4回の「運営スタッフ活動」を経験する。運営側として主催者や仲間、参加者等の想いに触れ、社会の一員として自分がどのように在るべきか、今後の自己課題を明確にする機会としたい。	①「理想の自己実現」のためのキャリアプランニング能力 ②教師・保育者としての専門的な職業能力 （または、一般職としての社会参加を見据えた汎用的能力） ③自己理解・自己管理能力 ④課題対応能力、対人対応能力 以上4点の資質・能力を、各自の自己課題に基づき、活動を通じて総合的に高めることができる。

教授方法	講義、演習、体験学習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：到達目標、授業の進め方、成績評価の方法等を知る。	
2	1年次経験したプレ実習等を活用したキャリア考察をおこない、自己課題を明らかにする。	
3	「運営スタッフ活動」（選択）予定の立案を行う。	
4	「運営スタッフ活動」（選択）予定を決定し、報告を行う。	
5	「運営スタッフ活動」①に向けての事前学習	
6	「運営スタッフ活動」①（選択）	
7	「運営スタッフ活動」①の振り返りと②に向けての事前学習	
8	「運営スタッフ活動」②（選択）	
9	「運営スタッフ活動」②の振り返りと③に向けての事前学習	
10	「運営スタッフ活動」③（選択）	
11	「運営スタッフ活動」③の振り返りと④に向けての事前学習	
12	「運営スタッフ活動」④（選択）	
13	「運営スタッフ活動」④の振り返り。発表のきまりについて理解し、準備を行う。	
14	発表に向けて準備を進める。	
15	まとめ：「運営スタッフ活動を通して学んだこと～社会とのつながりの中で～」に関する発表と討論。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
最終課題	20	「運営スタッフ活動を通して学んだこと～社会とのつながりの中で～」をテーマにしたレポートを作成することができているか(1600字)。	PDCA シート	40	①学びや自己課題の分析が行われているか。 ②学びや自己課題を踏まえたPDCAサイクルができているか。（10×4回）
主体的態度	20	事前準備、事後の振り返りや自己管理、報告・連絡・相談を含めて、主体的に運営スタッフ活動に参加できたか。	社会的態度	20	講義及び外部での運営スタッフ活動に積極的に取り組むことができていたか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①自分で選択した「運営スタッフ活動」に関し、PDCAシートを用いて自己分析を行う。[60分] ②本科目も含め、前期期間の予定を適切に管理する[30分]	課題は「最終課題」と「PDCAシート」を期末にまとめて提出することとする。評価ののちすみやかに返却する。

受講生に望むこと	将来の社会参加を念頭に、一つひとつの活動に目当てをもって取り組んでほしい。 また、社会の一端を担うものとしての自覚をもち、適切な報告・連絡・相談の在り方を実践的に学んでほしい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	各自が選択した「運営スタッフ活動」を以て授業4コマ分に充てる。 具体的な日程等については、Classroomを用いて調整する。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	HC200U ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅢ			開講学科	社会	必修・選択	必修
担当教員名	小林　正史・俵　希實・若山　将実　（代表教員　小林　正史）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
授業の前半は、企業と連携し、ICTを用いて授業を進める。企業が抱えるグローバル課題を知り、チームで課題解決に取り組む。第一次提案と最終提案を行い、企業担当者からフィードバックを受ける。授業の後半は、前半で学んできたことを活かして、大学生対象ビジネスコンテスト「課題解決プロジェクト」（企業がテーマを出題し、学生はチームを組みテーマについてプレゼンテーションを行う。コンペティション方式で優勝を目指す）に参加する。	①グローバル企業で働くために必要な知識・グローバルコミュニケーション力とはどのようなものかを認識できるようになる。 ②グローバル課題を提示する企業とのコミュニケーションを通じて、実務に対する意識や必要とされる力と現在の自分の持つ意識や力のギャップに気づく。 ③プレゼン動画作成などICTを用いて多文化共生の実践的経験を学び、海外業務に必要な表現形式を習得する。 ④コンペティション方式に対応したプレゼンテーションができるようになる。

教授方法	講義と演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーションと課題提示：授業の目的、流れ、方針と評価方法、チームに貢献するためのルールについて学ぶ。	全員
2	優勝チームのプレゼンのビデオ視聴	全員
3	課題提示：企業担当者から課題を受け取る。	全員
4	第一次提案に向けての準備：文化的背景の異なる相手に対して、簡潔にわかりやすく自分の意図を伝えるための注意事項を確認し、第一次提案に向けての準備を整える。	全員
5	第一次提案：企業担当者に対して第一次提案を行う。企業担当者からのフィードバックや、他のチームのプレゼンテーションから自分たちのプレゼンテーションの改良すべき点に気づく。	全員
6	最終提案に向けての再構築：第一次提案における企業担当者からのフィードバックを受けて、各グループで振り返りを行い、最終提案に向けて課題に対するアプローチを再構築する。	全員
7	最終提案：ICT技術を用いて最終提案を行い、企業担当者からフィードバックを受ける。	全員
8	振り返り：チームで、自分たちの活動（文献調査、社会調査、議論など）を振り返る。	全員
9	課題解決プロジェクト：　担当者から説明を受け、エントリー作業を行う。	全員
10	課題解決プロジェクト：企画書作成	全員
11	課題解決プロジェクト：企画書提出	全員
12	振り返り：チームで、自分たちの活動（文献調査、社会調査、議論など）を振り返る。	全員
13	プレゼン動画の作成方法	全員
14	企画書を用いたプレゼン動画の作成	全員
15	他のグループのプレゼン・ビデオの視聴。課題解決プロジェクトの結果報告	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	10	授業に参加し、チームに貢献しているか。	提出物(振り返りシートとプレゼン視聴コメント)	30	①期限内に提出しているか ②課題に即した内容となっているか ③指定された分量が書けているか ④指定された形式になっているか ⑤ふりかえりができているか
プレゼンテーション（前半）	30	①内容：課題に即した内容となっているか／指定された様式・時間を守っているか ②態度 ③質疑への応答	プレゼンテーション（後半）	30	企画書とプレゼン動画

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
プレゼンテーションの準備を進める。準備はほぼ授業時間外で進めることになる。必要に応じて調査を行う場合も課外で進める。[90分]	プレゼンテーションに対して企業担当者および教員がコメントする。

受講生に望むこと	チームワークをうまく進めていくために、一人一人が常に主体的に考え、動くように心がける。	教科書・テキスト	『PROJECT SUPPORT NOTEBOOK』Ver1　ベネッセコーポレーション　2014　ISBN：なし
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	詳細はオリエンテーション等で説明する。協力企業の都合により、回によっては開講曜日が変わる場合もある。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	HC210U ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅣ			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	髙村　真希						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は、全学共通科目のうち、学部の「キャリア教育科目」に位置付く。キャリアデザインⅢの学外での「運営スタッフ活動」に引き続き、キャリアデザインⅣでは学内外での主体的活動を通して、さらに構想・設計・実現する力を高めたい。	①「理想の自己実現」のためのキャリアプランニング能力 ②教師・保育者としての専門的な職業能力 （または、一般職としての社会参加を見据えた汎用的能力） ③自己理解、自己管理能力 ④課題対応能力、対人対応能力 以上４点の資質・能力を活動を通じて総合的に高め、社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）を身につけることができる。

教授方法	講義・演習・体験学習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方、到達目標、成績評価の方法等の説明 就職活動や学業に関する現在の悩みや考えを語り、今後の計画を行う	髙村
2	なりたい自分になるための「大学生活の目標」を立てる。 PDCAサイクルを理解し、活用する。	外部講師
3	体験学習の目的と意義を理解する。	外部講師
4	体験学習に行うために：電話対応・訪問マナー等を学び、実践する。	外部講師
5	体験学習①（学外での体験）の事前学習（体験における目標設定とタイムスケジュールを立案する）	髙村
6	体験学習（学内外での体験）①	髙村
7	体験学習①（学外での体験）の事後学習、お礼状の作成	髙村
8	体験学習②（学外での体験）の事前学習（体験における目標設定とタイムスケジュールを立案する）	髙村
9	体験学習②（学外での体験）	髙村
10	体験学習②（学外での体験）の事後学習、お礼状の作成	髙村
11	卒業生（または4年次生）からの学び：卒業生との対話からの学び	髙村
12	体験学習①②（学外での体験）＋卒業生（または4年次生）からの学びの時間としてカウントする	髙村
13	発表に向けての準備①（学生間で発表のタイムスケジュールや役割分担を行う） 卒業生との対話からの学び（事後学習）、お礼状の作成	髙村
14	発表に向けての準備②	髙村
15	キャリアデザインⅣ全15回を振り返っての自身の学びと今後の課題等を発表する	髙村

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
発表（第15回）	20	「主体的活動を通して学んだこと 」を到達目標と照らし合わせて発表されているか。	主体的態度	40	事前準備、事後の振り返りや自己管理、報告・連絡・相談を含めて、主体的に活動や授業に参加できたか。グループに貢献できたか。
PDCAシート・課題シート	40	①学びや自己課題の分析が行われているか。 ②学びや自己課題を踏まえたPDCAサイクルができているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①体験学習担当の外部講師との打ち合わせ（電話連絡、資料作成）［60分］ ②体験学習の事前準備［30分×３］ ③第15回の発表準備を進める［90分］	課題（PDCAシート）は期末にまとめて返却する。

受講生に望むこと	前期科目「キャリアデザインⅢ」での学びの成果を今後の活動に活かしてほしい。また、前期に引き続いて社会の一端を担うものとしての自覚をもち続け、日頃から報告・連絡・相談を心掛けること。さらに、その場に応じて臨機応変に対応できるように期待する。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	外部講師や卒業生の都合により、日程の変更がある可能性がある。 連絡事項はClassroomにて配信する。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	HC210U ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅣ			開講学科	社会	必修・選択	必修
担当教員名	若山　将実・小林　正史　（代表教員　若山　将実）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
前半は、マイナビ主催の課題解決プロジェクトに取り組む。すなわち、企業から提示された課題について、社員の立場に立って企画を作り、プレゼンを行う。後半では、社会人基礎力（経産省が提唱する、仕事を行っていく上で必要な基礎的能力）を高めるためのワークを通して、社会へ出るまでに各学生がどのような準備をすべきかを考える。	①グループワークを通して、課題解決力を身につける。 ②自分に足りない能力や知識、および、自分の強みを明確に認識する。 ③社会に出るまでに身につける必要がある能力や知識を、これからの学生生活の中でどのように習得していくかを考えることができるようになる。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要説明。課題解決プロジェクトの概要説明とグループエントリー	全教員
2	課題解決プロジェクト①：企業課題の確認（グループワーク）	全教員
3	課題解決プロジェクト②：企画書案の作成（グループワーク）	全教員
4	課題解決プロジェクト③：企画書案の作成と修正（グループワーク）	全教員
5	課題解決プロジェクト④：企画書案の学内プレゼン（前半グループ）	全教員
6	課題解決プロジェクト⑤：企画書案の学内プレゼン（後半グループ）	全教員
7	課題解決プロジェクト⑥：他グループの評価（Peer Review）を文章化し提出	全教員
8	社会人基礎力の自己判定：社会人基礎力の判定テストを通して、自分の不足している力と強みを認識する。	全教員
9	SPI　就職模擬テストの実施。	全教員
10	時間（スケジュール）管理の大切さ（外部講師による講座）	全教員
11	学外キャリアイベントへの参加	全教員
12	課題解決プロジェクト⑦：最終企画書の作成（グループワーク）	全教員
13	課題解決プロジェクト⑧：最終企画書の提出（グループワーク）	全教員
14	大学の学びと就職後の仕事　（外部講師による講座）	全教員
15	キャリアパスの多様性（外部講師による講座）：計画性を持って行動する必要性を認識する。	全教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	30	積極的にグループワークや授業に参加している。	課題解決プロジェクト企画書	20	企画書内容がグループワークの成果を反映した内容になっている。
その他提出物	50	リアクションシートなどのその他提出物が、①期限内に提出されている、②課題に即した内容、③指定された分量や様式、④振り返りができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
課題解決プロジェクト企画書の作成は、授業時間内だけでは足りないので、授業外でも行う。［90分］	この授業の核となる課題解決プロジェクト企画書について、①担当教員との質疑応答、②外部スタッフ（マイナビ）からのアドバイスを踏まえたグループ間の相互コメントの側面からフィードバックを行う。

受講生に望むこと	グループワークにおいて、各学生が主体的に参加することを希望する。	教科書・テキスト	随時、資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	授業資料や授業外の課題はグーグルクラスルームから提供・指示する。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	HC300U ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅤ			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	中島　賢介						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は、全学共通科目のうち学部のキャリア教育科目に位置付けられている。保育・教育、行政機関及び一般企業への就職活動の取り組みにあたり、これまでの自分の学びを整理し、自分の特性を正確に把握することが求められる。そのためには、体験活動に対して自己課題をもって臨み、その成果を分析する必要がある。具体的には、地方自治体との連携事業や本学の地域貢献活動、インターンシップの意義や目的、手段、望まれる態度などを十分に把握し設定した上でこれらの活動に参加する。	①これまで培ってきたPDCAサイクルの学びを体験学習に生かすことができる。 ②自分の将来計画に基づいた課題に応じて、自分の資質・能力を向上させることができる。 ③ディスカッションを通して、やりがいのある仕事・よりよい働き方について考察することができる。 ④就職活動に必要な書類作成の準備段階として、働くことを前提とした体験学習を行うことができる。

教授方法	講義・演習・体験学習
履修条件	特になし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	これまでの学びを整理し、今後の授業計画を理解する。	
2	就職活動に関する準備：自己分析の基本、就活スケジュールの立案、就活サイトへの登録	
3	体験学習・フィールドワーク等に関する理解①：保育・教育施設等における体験学習・フィールドワーク等、地方自治体との連携事業や本学の地域貢献活動、インターンシップの目的・意義	
4	体験学習・フィールドワーク等に関する理解②：連携事業、地域貢献活動、インターンシップの参加方法と手段	
5	体験学習・フィールドワーク等に関する理解③：事前打ち合わせと自己課題整理	
6	体験学習・フィールドワーク等の参加①	
7	体験学習・フィールドワーク等の参加②	
8	体験学習・フィールドワーク等の参加③	
9	体験学習・フィールドワーク等の参加④	
10	体験学習・フィールドワーク等の参加⑤	
11	体験学習・フィールドワーク等の参加⑥	
12	体験学習・フィールドワーク等の参加⑦	
13	体験学習・フィールドワーク等の振り返り	
14	体験学習・フィールドワーク等報告会	
15	授業のまとめ、最終課題に関する説明及び質疑応答	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講姿勢	40	①授業・活動に対して積極的な姿勢で臨んでいる。 ②不明な点や疑問点を適宜確認・質問などができる。	体験学習等の参加状況	40	①報告・連絡・相談が徹底されている。 ②PDCAサイクルが定着している。
最終課題	20	今後の自己のキャリア形成に関する内容を、具体的に記述している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①就活サイトの確認［30分］ ②体験学習・フィールドワーク等に関する事前研究［60分］ ③体験学習・フィールドワーク等に関する事後研究［60分］ ④最終課題の作成［60分］	コメントペーパーの内容・質問などについて授業内で回答する。

受講生に望むこと	体験学習・フィールドワーク等については、これまでのキャリアデザインで培った知識や技術を生かすこと。 欠席、遅刻、早退等について必ず担当教員に連絡すること。 「PROGの強化書」を持参すること。	教科書・テキスト	「PROGの強化書」（配付済）
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	体験学習にかかる費用は自己負担とする。

実務経験を活かした授業の概要

高等学校における進路指導の経験や小学校校長としての現任研修の経験をもとに、社会人として自己課題の明確化と、自己課題に対する主体性ある取組みの必要性を具体性を挙げて講義する。

授業科目名	HC300U ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅤ			開講学科	社会	必修・選択	必修
担当教員名	井上　克洋						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業はキャリアデザインⅠ～Ⅳで学んだことを活かして、就職活動に必要な知識やノウハウを身につけ実践力を養う。その1つの方法として、インターンシップに参加する。また会社説明会への参加、企業研究などの準備を行う。講義は主に就職実務を専門とする外部講師によって行われる。	①就職活動の流れを把握する。 ②就職活動に必要な情報を収集することができるようになる。 ③インターンシップに参加し、働く自分を具体的にイメージできるようになる。

教授方法	講義・演習
履修条件	「キャリアデザインⅠ～Ⅳ」を履修済みであることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について理解する	
2	就職活動とは何か：就職活動とインターンシップについて理解する	
3	インターンシップ準備：業界・職種について理解する	
4	ジョブカフェ石川学内説明会参加：就職活動に関する情報を収集する	
5	県のインターンシップフェス参加：インターンシップについての情報を収集する	
6	自己分析はなぜ重要か：社会人基礎力の判定	
7	インターンシップ準備：応募書類について理解する	
8	インターンシップ準備：合同説明会の回り方とインターンシップの探し方について理解する	
9	リクナビインターンシップイベント参加：インターンシップについての情報を収集する	
10	マイナビインターンシップイベント参加：インターンシップについての情報を収集する	
11	インターンシップ準備：参加の心構えと企業訪問マナーについて理解する	
12	筆記試験準備①：WEBテストを体験する	
13	筆記試験準備②：WEBテストを体験する	
14	インターンシップ準備：まとめ	
15	インターンシップ参加：企業のインターンシップに参加する	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	①授業中のワークを達成できたか。 ②講義・演習に対して積極的に参加したか。	インターンシップ、その他就職イベントへの参加	40	インターンシップ、その他就職イベントに参加したか。
提出物	30	①課題に対して適切な内容となっているか。 ②定められた期間内に提出しているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
インターンシップに参加するための準備を授業外でも進めること。指示された課題を行うこと。（60分）	必要に応じて都度フィードバックする。

受講生に望むこと	就職活動に結びつく授業なので、真面目に、且つ積極的に取り組むこと。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	インターンシップ参加については各自実費。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	HC310U ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅥ			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	中島　賢介						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は、全学共通科目のうち学部のキャリア教育科目に位置付けられている。この授業はキャリア教育科目の集大成として、実際の就職活動の流れと並行し、より現実的な就活スキルについて実践的な学びを深める。具体的には、履歴書・エントリーシート等、就職活動で不可欠な書類作成の方法とさまざまな種類の面談方法への対応、就職説明会への参加方法等について、演習やディスカッションを通して理解を深める。	①履歴書・エントリーシート等の就職活動で必要な書類作成について、自分らしさを相手に伝わりやすい表現で作成することができる。 ②様々な面談において、自分の人柄や意欲などを相手に伝わりやすい表現で対応することができる。 ③就職説明会に関する情報を収集し、的確に対応することができる。

教授方法	講義・演習・ディスカッション
履修条件	特になし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要に関する説明。就職活動の流れの把握。	
2	自分が希望する進路の明確化	
3	就職活動に関する書類作成①：履歴書の書き方について理解を深める。	
4	就職活動に関する書類作成②：履歴書に書く内容を考え、表現する。	
5	就職活動に関する書類作成③：エントリーシートの書き方について理解を深める。	
6	就職活動に関する書類作成④：エントリーシートに書く内容を考え、表現する。	
7	面接に対する事前準備①：面接の種類と方法について、理解を深める。	
8	面接に対する事前準備②：リモート模擬個人面接を実施する。	
9	面接に対する事前準備③：対面による模擬個人面接を実施する。	
10	面接に対する事前準備④：グループディスカッションについて理解を深める。	
11	面接に対する事前準備⑤：模擬グループディスカッションを実施する。	
12	就職説明会に対する準備①：就職説明会の種類や開催時期、参加の方法等について理解する。	
13	挨拶、身だしなみ、電話対応、手紙やメールの内容等、ビジネスマナーについて理解する。	
14	就職活動計画の立案：個々の就職活動計画を立案し、実施に向けて検討する。	
15	今後の就職活動を意義あるものとするために、学びの成果を発表する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講姿勢	40	①授業・活動に対して積極的な姿勢で臨んでいる。 ②不明な点や疑問点を適宜確認・質問などができる。	課題への取り組み状況	40	履歴書、エントリーシート、面接などに対して適切に作成・対応できている。
最終課題	20	①ビジネスマナーについての自分の考え ②面接に臨むにあたっての自分の考え ③就職活動に対する自分の決意等			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
履歴書の作成［90分］ エントリーシートの作成［90分］ 面接準備・練習［30分］ グループディスカッションの準備・練習［30分］	履歴書・エントリーシート、面接準備シート、ディスカッションシートについて、適宜助言する。

受講生に望むこと	時事問題、常識問題、基本的なマナーなど、就職に必要な知識と技術について、積極的に学んでほしい。	教科書・テキスト	「PROGの強化書」（配付済）
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

高等学校における進路指導の経験や小学校校長としての現任研修の経験をもとに、社会人として自己課題の明確化と、自己課題に対する主体性ある取組みの必要性を具体性を挙げて講義する。

授業科目名	HC310U ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅥ			開講学科	社会	必修・選択	必修
担当教員名	井上　克洋						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業は「キャリアデザインⅤ」で体験したインターンシップやそのための準備で経験したことを踏まえて、企業研究や履歴書の作成など就職活動の方法を具体的に学習する。	①就職活動に必要な知識やスキルを習得する。 ②社会人に求められている能力がどういうものなのかを理解できるようになる。

教授方法	講義・演習
履修条件	「キャリアデザインⅠ～Ⅴ」を履修済みであることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準についての理解	
2	インターンシップ報告会の発表準備	
3	インターンシップ報告会①	
4	インターンシップ報告会②	
5	インターンシップ報告会③	
6	自己分析と履歴書のたたき台の作成	
7	リクナビインターンシップイベント参加	
8	マイナビインターンシップイベント参加	
9	筆記試験講座	
10	面接（対面・WEB）講座	
11	学内キャリアガイダンスへの参加	
12	学内キャリアガイダンスに関連した課題に取り組む	
13	履歴書のブラッシュアップ	
14	合同企業説明会の歩き方	
15	1年間の振り返りと行動計画の立案	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	①授業中のワークの達成度。 ②講義・演習に対して積極的に参加したか。	発表	40	①発表内容。 ②発表態度。 ③質疑への応答。
提出物	30	①課題に対して適切な内容になっているか。 ②定められた期間内に提出しているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
インターンシップの発表準備を進めること。また就職活動に必要な企業研究や自己分析などを進めること。（60分）	必要に応じて都度フィードバックを行う。

受講生に望むこと	就職活動に直接結びつく授業なので、真面目に且つ積極的に取り組むこと。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	HC160U 情報機器演習A			開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	富岡　和久						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本講義の目的は２つある。第１は、コンピュータを使える能力（コンピュータリテラシー）を高めることである。代表的なアプリケーションであるワープロ、表計算、電子メールの操作方法を習得する。第２は、情報を上手に扱うための基本的な知識や能力（情報リテラシー）を養うことである。このため、情報を選択・加工し、さらにわかりやすい形で表現できるようになることを目指す。	①学内の情報環境を知り、Windows PCとChromebookの基本操作を習得する。 ②電子メールの送受信ができるようになる。 ③情報倫理に関する基本的な知識を身につける。 ④Word（googleドキュメント）の基本操作を習得し、レポートを作成することができるようになる。 ⑤Excel（googleスプレッドシート）の基本操作を習得し、データを加工し適切なグラフ作成ができるようになる。

教授方法	演習形式
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	学内の情報環境を知る。Windows8の基礎操作を習得する。Chromebookの操作に慣れる。 さまざまな文字の入力方法と添付ファイル付きでの電子メールの送受信の正しい知識を身につける。	
2	googleドキュメントで文章を作成し、Classroomに提出する。 googleドライブの共有範囲（stdアカウント同士のみ可能である）を説明する。	
3	Word文書作成①：ビジネス文書の種類・形式を理解し、インデントとタブ、ページレイアウトなどビジネス文書作成に必要な操作方法を習得する。	
4	Word文書作成②：レポートの構成・形式を理解し、Excelで作成した表・グラフの挿入などレポート作成に必要な操作方法を習得する。	
5	Word文書作成③：図形・ワードアート・画像などを使ったちらしの作成方法を習得する。	
6	振り返り Word文章の作成とｇoogleドキュメントの違いを再確認する。	
7	googleスプレッドシートの使い方に関する基本を学ぶ。 Excelとの違いを理解する。	
8	Excel関数①：相対参照と絶対参照との違いを理解し、ランク付け関数の操作方法を習得する。	
9	Excel関数②：条件分岐関数の操作方法を習得する。	
10	Excel関数③：表引き関数の操作方法を習得する。	
11	Excelデータ加工①：データの加工・並べ替え方法を習得する。	
12	Excelデータ加工②：基本的なグラフの作成方法を習得する。	
13	Excel課題：与えられたデータを加工し、適切なグラフ作成を行う。 Excel小テスト： 以後のデータ加工に進むために、これまで学習した関数について小テストで習得の確認を行う。	
14	総合課題①：与えられた課題に対し、Wordでレポートを作成する。	
15	総合課題②：レポートを完成させ、提出する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
電子メール・情報倫理	10	授業で学んだ知識を習得しているか。	Excel関数小テスト／課題	35	授業で学んだ関数が正しく利用できるか。(30%)／適切なデータの加工・グラフ作成ができるか。(5%)
総合課題	25	序論・本論・結論で構成されているか。わかりやすい文章で表現し、Wordで体裁を整えることができるか。	授業参加態度	30	提出物などにより授業への取組み姿勢を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①パソコンの操作は慣れることが重要である。毎回の授業内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。 ②14回目の授業で、総合課題の説明を行う。15回目の授業を提出期限とする。授業時間内だけでは時間が不足するため、授業外の時間も利用してしっかり取組むこと。 上記について、合計30時間分の授業外学習として随時指示するのでそれにしたがうこと。	原則、課題を提出したよく週に返却。 また、課題提出回の授業で使用することもある。

受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなし、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。	教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応』　第2版　noa出版　2017年 ISBN 978-4908434662 『情報倫理ハンドブック 2022年度版』 noa出版 2022年
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	HC160U 情報機器演習A			開講学科	社会	必修・選択	必修
担当教員名	井上　克洋						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業は、全学共通科目であるキャリア教育科目のひとつである。現代社会においては、職種・業種に関係なくあらゆる場面で文章をまとめたり、作表を行う能力が欠かせない。本コースにおいては、代表的なワープロ及び表計算ソフトであるMicrosoft Word, Excelの基本操作を習得するとともに、より効果的な資料作成のための基本操作を習得する。さらに、情報機器演習Bで学んだプレゼンテーションソフトとの連携活用スキルを習得し、自己のプレゼンテーション力さらに向上させる。	①Word, Excelの基本操作を習得する。 ②Word, Excelを使った効果的な資料作成が可能になる。 ③Word, Excel, PowerPointの連携を習得する。

教授方法	演習方式
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	Word１～イントロダクション	
2	Word２～ビジネス文書のポイントを押さえる	
3	Word３～Wordをつかった表の作成	
4	Word４～ワードアート、図の作成	
5	Word５～文書設定、アウトライン、脚注他	
6	Word６～復習と練習問題	
7	Excel１～Excelの基本	
8	Excel２～関数１	
9	Excel３～関数２、練習問題	
10	Excel４～グラフの作成	
11	Excel５～データベースの活用	
12	Excel６～ピポットテーブル	
13	Excel７～表示形式と関数の応用	
14	Excel,Word, Excel, PowerPointの連携	
15	振り返りと練習問題	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題提出	80	期限内に提出されているか、問に対して正しく答えているか	意欲・態度	20	演習に積極的に参加しているか、講義で学んだ技術等を理解し使いこなしているか

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
演習の後には必ずPCを使って30分ほど復習をすること。	課題提出後の次の演習時に総評、場合によっては個別にコメントを行う。

受講生に望むこと	PCスキルを上げるには「慣れ」が必要なので、PCに触れる機会をできるだけ増やすこと。	教科書・テキスト	noa出版『リファレンス動画付き!実践ドリルで学ぶOffice活用術』、第2版（ワークアカデミー、2019年）。ISBN-10 ： 4908434344 ISBN-13 ： 978-4908434341
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	HC170U 情報機器演習B			開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	富岡　和久						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
現代社会においては、職種・業種に関係なくあらゆる場面で、自分の考えや思いを相手に伝えるプレゼンテーション力が不可欠である。「情報機器演習A」に引き続き、代表的なアプリケーションであるプレゼンテーションや画像・音声・動画編集加工ソフトの基本的操作を習得する。さらに、Excelで作成したグラフを活用したプレゼンテーションの実施と相互評価により、自己のプレゼンテーション力を客観的に把握し向上させることを目的とする。この授業は、全学共通であるキャリア教育科目の1つである。	①googleスプレッドシートの基本操作を習得する。 ②PowerPointの基本操作を習得する。 ③プレゼンテーションにおける効果的な資料について理解し、そのような資料を作成して発表できるようになる。 ④どのようなプレゼンテーションが相手に伝わるのかを理解し、プレゼンテーション力を高める。 ⑤簡単なマルチメディア作品の制作ができるようになる。

教授方法	演習
履修条件	「情報機器演習A」の履修済みが望ましい。（単位未修得可）

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	プレゼンテーションとは：プレゼンテーションとは何かを知り、その必要性を理解する。	
2	googleスプレッドシート基本操作：簡単なプレゼンスライドを作成し、基本操作を習得する。	
3	PowerPoint基本操作：簡単なプレゼンスライドを作成し、基本操作を習得する。	
4	PowerPointプレゼンの内容と流れ：目的・聞き手・伝えたい内容とそれを伝えるためのストーリーを作る。	
5	PowerPointプレゼン資料作成：ストーリーに合わせた効果的なスライドを作成する。	
6	PowerPoint発表原稿準備：ノート機能を利用して発表用の原稿を作成する。	
7	PowerPointリハーサル：グループ内で発表することにより、PowerPointの操作と時間配分を確認し、人前での発表に慣れる。	
8	PowerPoint描画：図形描画を使い、簡単な絵を掛けるようになる。 前半の振り返りとして到達確認試験を行う。	
9	PowerPointプレゼンの実施と相互評価①：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。	
10	PowerPointプレゼンの実施と相互評価②：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。	
11	PowerPointプレゼンの実施と相互評価③：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。	
12	スライドショーを利用した作品の制作①画像・音声・動画ファイルの編集加工：画像・音声・動画ファイルについて、基本的な編集加工方法を習得する。	
13	スライドショーを利用した作品の制作②：オリジナルのテーマを設定し、資料の読み込みと追加資料の検索及びテーマの確定を行う。	
14	スライドショーを利用した作品の制作③：マルチメディア作品を作る。	
15	スライドショーを利用した作品の相互評価：他の受講者の作品から、多様な工夫の仕方を知る。相互評価によって、自分の作品の改善点を発見する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
達成度試験	10	授業中に学習した技術を用いて、指示に従いスライドの作成が自分だけでできる。	プレゼンテーション	35	伝えたい内容が明確で、分かりやすいストーリーか。スライドが分かりやすい表現で、効果的な使用か。はっきりと大きな声で、聴き手を見て、発表したか。
最終課題	25	テーマに沿った作品であるか。画像・動画ファイルの切替えのタイミングに適切か。	演習問題	30	授業中に複数回、演習問題を課す。設問に沿って作業がなされているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①練習問題について、教員の指示なしでも完成できるようにする。 ②練習問題について、教員の指示なしでも完成できるようにする。 ③スライドのプレゼンテーションがスムースに行えるように練習する。 ④スライドショーを利用した作品が、教員の指導なしに作成できる。 ⑤パソコンの操作は慣れることが重要である。特にキーボードからの日本語入力の速度が課題完成に大きく影響するので、入力速度の向上のための練習を行う。 これら①～⑤について合計30時間分の授業外学習として随時指示するのでそれにしたがうこと。	原則、課題を提出したよく週に返却。 また、課題提出回の授業で使用することもある。

受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなし、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。	教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶOffice活用術　2013対応（第2版）』noa出版　2017年
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	HC170U 情報機器演習B			開講学科	社会	必修・選択	必修
担当教員名	井上　克洋						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業は、全学共通科目であるキャリア教育科目のひとつである。現代社会においては、職種・業種に関係なくあらゆる場面で自分の考えや思いを相手に伝えるプレゼンテーション能力が欠かせない。本コースにおいては、代表的なプレゼンテーションソフトであるMicrosoft PowerPointの基本操作を習得するとともに、より効果的なプレゼンテーション資料作成のための基本操作を習得する。さらに、受講者によるプレゼンテーションの実施と相互評価により、自己のプレゼンテーション力を客観的に把握し、向上させることを目的とする。	①情報倫理に関する基本的な知識を身につける。 ②PowerPointの基本操作を習得する。 ③効果的なプレゼンテーションについて理解するとともに、そのような資料を作成し発表できるようになる。 ④どのようなプレゼンテーションが相手に伝わるのかを理解し、プレゼンテーション力を高める。

教授方法	演習方式
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	全15回の講義の説明及び情報倫理テスト１	
2	メールの送受信、パワーポイントの機能と特徴、情報倫理テスト２	
3	ファイルの共有、見やすいスライドの作り方（パワーポイント作成の基本）	
4	魅力的なスライドの仕上げ方１（表・グラフ・アニメーション基本他）	
5	魅力的なスライドの仕上げ方２（トリミング、レタッチ、背景削除、動画挿入他）	
6	アニメーション応用、配布資料の印刷	
7	練習問題	
8	プレゼンテーションを学ぶ	
9	グループ発表の内容検討～テーマはSDGｓ	
10	グループ発表	
11	グループ発表の振り返り、練習問題	
12	個人発表の内容の検討とスライド作成	
13	個人発表１	
14	個人発表２	
15	全体の振り返りとスライド資料の作成	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
プレゼンテーション	80	伝えたい内容が明確か、スライドがわかりやすい表現で習得したスキルを効果的に利用しているか、はっきりと聞こえる声で、聴き手を見て発表したか、時間内で発表できたか	提出物	10	期日までに提出されているか、求められた
意欲態度	10	授業及び課題に積極的に取り組んでいたか			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
演習の後には必ずPCを使って30分ほど復習をすること。	課題提出後の次の演習時に総評、場合によっては個別にコメントを行う。

受講生に望むこと	PCスキルを上げるには「慣れ」が必要なので、PCに触れる機会をできるだけ増やすこと。	教科書・テキスト	noa出版『リファレンス動画付き!実践ドリルで学ぶOffice活用術』、第2版（ワークアカデミー、2019年）。noa出版『情報倫理ハンドブック』（ワークアカデミー）。ISBN-10 ： 4908434344 ISBN-13 ： 978-4908434341
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EK100U 基礎ｾﾞﾐⅠ			開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	川真田　早苗						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
１年次の基礎ゼミでは、大学での基本的な学びの姿勢、知的探究の方法の修得を目指す。具体的には、基礎ゼミⅠにおいて、テキストを参考にしながら、ノートテイキング、レポート作成、文献の調べ方や文章の要約といったスタディスキルズを学び、大学での授業内容理解に必要な力を身につける。 大学では「自ら学ぶ」という自主的、主体的姿勢が求められるので、授業を通して、大学生としての学びを主体的に進めていく積極的な姿勢を体感し修得していく。また授業内でのディスカッションを通して、コミュニケーション能力を磨くことも目指す。	①大学での学び方について理解している。 ②図書館やインターネット等を利用した情報収集の方法を習得する。 ③討議に積極的に関わろうとする。 ④レポートの書き方を理解している。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の進め方や履修登録の確認を行う。（後半）ゼミごとに自己紹介を行い、係を決める。	
2	図書館利用オリエンテーション：情報収集の仕方を具体的に学ぶ。（テキスト第５章に該当）	
3	図書館で借りた絵本の紹介文を書く。	
4	スタディ・スキルズとは？：自己の目標設定、大学での学びについて考える。（テキスト第１章に該当）	
5	ノートテイキングのスキル：ノートテイキングの方法について学び、理解する。（テキスト第２章に該当）	
6	レポートと感想文の違い、対比思考を活用し論理的な文章を書く方法を知る。（テキスト第８章に該当）	
7	レポートの構成を理解する。（テキスト第８章に該当）	
8	テキストを読み、要約する方法を理解する。（テキスト第３章に該当）	
9	テキストを読み、要約する。（テキスト第４章に該当）	
10	情報収集、文献調査、情報の整理の仕方について学び、理解する。（テキスト第６．７章に該当）	
11	提示された文章を読み要約する。	
12	第11回で読んだ文章をもとに、自分の考えをレポートにまとめ、発表する。	
13	第11回で作成したレポートを修正する。	
14	教員が提示した文章を要約し、自分の考えをレポートにまとめる。提出期限はClassroomで一週間後とする。	
15	後期の履修登録、履修モデルの選択等の説明を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	50	意欲的に参加：50点、概ね参加：30点 無関心・意欲的でない：10点 を目安に、積極的な姿勢を評価する。	レポート	50	基礎ゼミⅠで指導した基本スキルを用いてレポートを作成しているかどうかを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①大学での自主的・主体的学びを修得するため、各教員から提示される課題遂行の際は、積極的に図書館やインターネット等を利用し、情報収集とスタディ・スキルズに則ったまとめ方を目指す。［60分］ ②授業の各回に示されているテキストの章を予め読んで、ゼミに臨むこと。［20分］	①質問は、授業中以外でもメールで受け付ける。メールアドレスは予め受講生に知らせておく。 ②毎回授業の初めに、前時の授業における振り返りを行い、質問や意見に対するコメントを行う。

受講生に望むこと	少人数のグループに分かれて討議を行うため、授業には遅刻せず、積極的に仲間の話を聞き、かつ自分の意見も述べるように努めてほしい。また、提示された課題に対しては、責任をもって期日までに仕上げ提出すること。ゼミ運営上妨げになるような行為は慎むこと。	教科書・テキスト	『知へのステップ』（第5版）学習技術研究会/編著 くろしお出版　2019年　ISBN：978-4-87424-789-1
指定図書／参考書等	なし（授業中に適宜資料を配付する）	その他・特記事項	Classroomを用いた課題等の提示・提出を基本とする。 毎時間chromebookを活用するので持参すること。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EK110U 基礎ｾﾞﾐⅡ			開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	川真田　早苗						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
基礎ゼミⅡでは、基礎ゼミⅠで会得した主体的な学びの姿勢を土台に、より実践的に学習し、レポートの型を活用した表現能力の向上を図る。 具体的には、自分の研究テーマに沿って各自が発表し合い、ディスカッションを行う中で、互いの学びを共有すると共に、より多面的な見方・考え方を身につける。また、自己の研究目的を明確化し、将来設計との関連性を意識しつつ、プロゼミの学びへと繋げていく。	①討議に積極的に参加し、話し合いによって深い学びを創り上げていこうとしている。 ②研究のための文献や資料を自分なりに収集することができるようになる。 ③自分の「問い」を立てることができるようになる。 ④レポートの書き方を理解し、研究内容を表現することができるようになる。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	前半（合同）：成績等に関する指導、履修の確認 後半(各ゼミ)：ゼミ代表・宗教委員の選出、自己紹介など	
2	研究とは何かについて理解する。	
3	レポートの構成を理解する。	
4	論理的な文章を接続語を使って書く。	
5	帰納的展開､演繹的展開を使って論理的な文章を書く。	
6	引用の仕方を理解する。	
7	パラグラフライティングを理解する。	
8	「問い」の種類と立て方を理解する。	
9	「問い」を立てる。	
10	レポートを作成する。	
11	ゼミ内におけるレポート発表（1）：一人１０分の持ち時間で質疑応答を含む。	
12	ゼミ内におけるレポート発表（2）：一人１０分の持ち時間で質疑応答を含む。	
13	ゼミ内におけるレポート発表（3）：一人１０分の持ち時間で質疑応答を含む。	
14	ゼミ内におけるレポート発表（4）：一人１０分の持ち時間で質疑応答を含む。	
15	２年次コース履修に関する説明(各コース代表教員)	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	50	意欲的に参加・発言 50 点 概ね参加 30 点 無関心・意欲がない 10 点 を目安に、積極的な姿勢を評価する。	レポート	50	①問いと結論が対応しているか。 ②適切に引用ができているか。 ③事実と意見を区別して書けているか。 ④参考文献が3本以上示されているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各自レポート作成のための「問い」を立て準備を進めていくので、授業外において積極的に図書館やインターネットなどを利用して、オリジナルな報告を目指す。そのためには日頃から「子ども」や「教育」への関心を持ってニュースなどに触れること。［各30分］ ②レポート作成や資料の準備など、発表期日までに余裕をもって取り組む。［120分］ ③学内の環境（ILCやLLCなど）を有効に活用し、レポート作成ができるように準備する。［60分］	研究の進行状況把握し、他者の研究の進め方等も参考にして自分の学びを深めていくように指導する。

受講生に望むこと	主体的、対話的で深い学びを実現するために、情報の活用はもちろんのこと、オフィスアワーなどを利用して教員からアドバイスを受けるようにしてほしい。授業中は、メンバーの報告や発言に対して積極的に応答し、議論の活性化に積極的に寄与することを望む。	教科書・テキスト	『知へのステップ』（第5版）学習技術研究会/編著　くろしお出版　2019年　ISBN：978-4-87424-789-1 （※基礎ゼミⅠから引き続き使用）
指定図書／参考書等	なし（授業中に適宜資料を配付する）	その他・特記事項	Classroomを用いた課題等の提示・提出を基本とする。 chromebookは授業で活用するので持参すること。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EK200U ﾌﾟﾛｾﾞﾐA	開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	福江　厚啓・中野　聡・齊藤　英俊・髙村　真希　（代表教員　福江　厚啓）				
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
プロゼミは、3年次より始まる専門ゼミの前段階として位置づけられている。基礎ゼミで培ったレポート作成やディスカッション能力等の技能を高め、より専門性を志向した展開を行っていく。	①ゼミ運営に積極的に協力し、学びを深めていくことができる。 ②専門ゼミで必要とされる、議論する力、分析する力、文献を読み解く力、自分なりの意見をまとめる力を身につける。

教授方法	各ゼミによる演習
履修条件	「基礎ゼミ」を履修済の者または「基礎ゼミ」履修中の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ゼミごとに授業概要、授業計画、成績評価方法、事前事後学習などの説明や自己紹介を行い、各ゼミの運営に関する説明と成績指導を行う。	各担当教員
2	各ゼミにおいて演習を行う。	各担当教員
3	各ゼミにおいて演習を行う。	各担当教員
4	各ゼミにおいて演習を行う。	各担当教員
5	各ゼミにおいて演習を行う。	各担当教員
6	各ゼミにおいて演習を行う。	各担当教員
7	各ゼミにおいて演習を行う。	各担当教員
8	各ゼミにおいて演習を行う。	各担当教員
9	各ゼミにおいて演習を行う。	各担当教員
10	各ゼミにおいて演習を行う。	各担当教員
11	各ゼミにおいて演習を行う。	各担当教員
12	ゼミ内における発表Ⅰ：各ゼミ内で学生が発表を行う。	各担当教員
13	ゼミ内における発表Ⅱ：各ゼミ内で学生が発表を行う。	各担当教員
14	ゼミ内における発表Ⅲ：各ゼミ内で学生が発表を行う。	各担当教員
15	前半：2年次後期の履修登録等についての説明（合同）　後半：各ゼミのまとめ	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	30	意欲的に参加30点、概ね参加15点、意欲的でない5点を基準とする。	レジュメの作成と発表	30	①わかりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。 ②聴き手が理解しやすい発表となっているか。
レポート	40	要点をおさえて、概要と意見を分けた文になっているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①ゼミ担当者が指定・推薦する文献の講読など［90分］ ②各自選択した研究テーマについて積極的に研究を進め、オリジナルなレポートを準備すること。［60分］	テーマ設定やレポート作成についての質問には適宜対応する。

受講生に望むこと	プロゼミでの学びが3年次からの専門ゼミへとつながっていくので、自ら学ぶ姿勢を持って参加すること。	教科書・テキスト	ゼミ担当教員の指示に従う。
指定図書／参考書等	ゼミ担当教員の指示に従う。／ゼミ担当教員の指示に従う。	その他・特記事項	不明な点はゼミ担当教員に問い合わせること。 課題はClassroomに投稿し、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EK210U ﾌﾟﾛｾﾞﾐB			開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	福江　厚啓・中野　聡・虫明　淑子・松本　理沙　（代表教員　福江　厚啓）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
プロゼミAに引き続き、自己課題を明確に持って自分の興味関心のある分野を深めていくなかで、専門ゼミでのテーマを絞りこめるよう専門性を追求していく。	①ゼミ運営に協力的にかかわることができる。 ②専門ゼミで必要とされる、課題を設定する力、討論する力、分析する力、文脈を読み解く力、自分なりの意見をまとめる力が身につく。

教授方法	各ゼミごとによる演習
履修条件	「プロゼミA」を履修した者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	前半：実習にかかわる成績についての指導（合同）　後半：ゼミ内での自己紹介　各ゼミ運営についての説明　成績指導	全員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
11	来年度所属を希望する専門ゼミの担当教員を訪問し、専門ゼミ選択に見通しをもつことができるようにする。	各担当教員
12	ゼミ内における発表Ⅰ	各担当教員
13	ゼミ内における発表Ⅱ	各担当教員
14	ゼミ内における発表Ⅲ	各担当教員
15	前半：3年次の履修登録、専門ゼミ・卒業研究についての説明（合同）　後半：各ゼミのまとめ	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	①研究テーマに熱心に取り組んでいる。 ②ディスカッション等では、人の意見を聞きつつ、自分の意見をしっかりと述べることができる。	レポート	40	①文章構成が適切か。 ②事実と自分の考えをと区別して書いているか。 ③意見の根拠が明示されているか。 ④分かりやすい文章であるか。
レジュメの作成と発表	30	①分かりやすくポイントをまとめた資料を作成している。 ②時間内で聞き手に分かりやすく発表している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①学内外の講座・セミナーへの参加、フィールドワーク、ゼミ担当者が指定・推薦する文献の講読など。［60分］ ②各自選択した研究テーマについて積極的に研究を進め、オリジナルなレポートの準備をする。［60分］	テーマ設定やレポート作成等についての疑問は・質問の申し出にはいつでも対応する。

受講生に望むこと	ゼミ内で各自の研究計画に関する情報交換を積極的に行い、視野を広めつつ自分が興味関心をもつ分野についての専門性を深めて、3年次から始まる専門ゼミに臨む。	教科書・テキスト	各ゼミごとに教員の指示に従うこと。
指定図書／参考書等	各ゼミごとに教員の指示に従うこと。／各ゼミごとに教員の指示に従うこと。	その他・特記事項	ゼミ単位で指導を行うので、不明な点は自分の所属するゼミ教員に問い合わせること。 課題はClassroomに投稿し、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EK300U 専門ｾﾞﾐⅠ			開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	齊藤　英俊・伊藤　雄二・川真田　早苗・田邊　圭子・中島　賢介・中野　聡・宮浦　国江・虫明　淑子・村井　万寿夫・永山　亮一・福江　厚啓・髙村　真希・谷　昌代・松本　理沙・向出　圭吾・武田　恵美（代表教員　齊藤　英俊）						
標準履修年次	3年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
基礎ゼミ・プロゼミで身につけた学習及び研究方法を土台として、各自が関心をもつ研究テーマをより深く考察するために、選択したゼミ担当教員のもとで、学習及び研究を進める。 具体的には、各ゼミで示されるゼミプランに従い、専門分野に関する文献購読、ディスカッションを中心に理解に努める。 その後、ゼミ担当教員のもとに、各自の研究テーマに沿って文献・資料調査、データの収集等を行い、ゼミレポート（8000字程度：該当年度の１月下旬締切）の完成を目指す。 ※SDGsターゲット4.1,4.7,17.17関連科目	①ゼミプランに従って専門分野に関する多くの文献に触れている。 ②各自が設定した研究テーマに沿って文献・資料検索、データ収集等を行うことができる。 ③ゼミレポートの作成を通して、研究テーマをより深く理解し、文章化することができる。 ④グループディスカッションを通して、教員や他のゼミ学生の考えも理解しながら自分の知見を広げる。

教授方法	ゼミごとに指導教員の指示のもと演習形式で行う。
履修条件	基礎ゼミⅠ・Ⅱ、プロゼミＡ・Ｂを履修し、単位を修得していること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	（前半）ゼミ運営についてのオリエンテーションを行う。 （後半）各ゼミ内での自己紹介、ゼミの進め方等ゼミプランの説明を行う。	各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
15	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
16	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
28	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員

授　業　計　画		
実施回	授業内容・目標	担当教員
29	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
30	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員

成績評価方法と基準					
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業 参加態度	50	①ディスカッションへの積極的な参加をしているか。 ②文献等の調査を積極的に行っているか。 ③意欲的に研究テーマ等に取り組み学ぼうとしているか。	レポート	50	①指定された文字数、書式等が守られているか。 ②内容（テーマ設定、論旨の根拠、意見等）が適切か。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
積極的に図書館等を利用するなど、専門分野に関する文献を多く読む。［60分］ 詳細は各ゼミの担当教員の指導に従う。	ゼミごとに随時行う。

受講生に望むこと	①「専門ゼミⅠ・Ⅱの登録と卒業研究について」の資料を熟読すること。 ②研究テーマに主体的に取り組んでほしい。	教科書・テキスト	各ゼミの担当教員の指示に従う。
指定図書／参考書等	各ゼミの担当教員の指示に従う。	その他・特記事項	不明な点は各ゼミの担当教員に問い合わせるようにしてください。

実務経験を活かした授業の概要
なし

授業科目名	EK305U 専門ｾﾞﾐⅡ			開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	川真田　早苗・伊藤　雄二・田邊　圭子・中島　賢介・中野　聡・宮浦　国江・虫明　淑子・村井　万寿夫・齊藤　英俊・永山　亮一・福江　厚啓・髙村　真希・谷　昌代・松本　理沙・向出　圭吾・武田　恵美（代表教員　川真田　早苗）						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
基礎ゼミ・プロゼミで身につけた学習及び研究方法を土台として、各自が関心をもつ研究テーマをより深く考察するために、選択したゼミ担当教員のもとで、学習及び研究を進める。 具体的には、各ゼミで示されるゼミプランに従い、専門分野に関する文献購読、ディスカッションを中心に理解に努める。 その後、ゼミ担当教員のもとに、各自の研究テーマに沿って文献・資料調査、データの収集等を行い、ゼミレポート（8000字程度：該当年度の１月下旬締切）の完成を目指す。 ※SDGsターゲット4.1,4.7,17.17関連科目	①ゼミプランに従って専門分野に関する多くの文献に触れている。 ②各自が設定した研究テーマに沿って文献・資料検索、データ収集等を行うことができる。 ③ゼミレポートの作成を通して、研究テーマをより深く理解し、文章化することができる。 ④グループディスカッションを通して、教員や他のゼミ学生の考えも理解しながら自分の知見を広げる。

教授方法	ゼミごとに指導教員の指示のもと演習形式で行う。
履修条件	基礎ゼミⅠ・Ⅱ、プロゼミＡ・Ｂ、専門ゼミⅠを履修し、単位を修得していること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	前半）ゼミ運営についてのオリエンテーションを行う。 （後半）各ゼミ内での自己紹介、ゼミの進め方等ゼミプランの説明を行う。	各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
15	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
16	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
28	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員

授　業　計　画		
実施回	授業内容・目標	担当教員
29	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
30	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業 参加態度	50	①ディスカッションへの積極的な参加をしているか。 ②文献等の調査を積極的に行っているか。 ③意欲的に研究テーマ等に取り組み学ぼうとしているか。	レポート	50	①指定された文字数、書式等が守られているか。 ②内容（テーマ設定、論旨の根拠、意見等）が適切か。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
積極的に図書館等を利用するなど、専門分野に関する文献を多く読む。［60分］ 詳細は各ゼミの担当教員の指導に従う。	ゼミごとに随時行う。

受講生に望むこと	①Google classroomに添付した「専門ゼミⅡと卒業研究について」の資料を熟読すること。 ②研究テーマに主体的に取り組んでほしい。	**教科書・テキスト**	各ゼミの担当教員の指示に従う。
指定図書／参考書等	各ゼミの担当教員の指示に従う。	**その他・特記事項**	不明な点は各ゼミの担当教員に問い合わせるようにしてください。 Classroomを用いて課題等を提示・提出することを基本とします。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EK360U 卒業研究			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	川真田　早苗・伊藤　雄二・田邊　圭子・中島　賢介・中野　聡・宮浦　国江・虫明　淑子・村井　万寿夫・齊藤　英俊・永山　亮一・福江　厚啓・髙村　真希・谷　昌代・松本　理沙・向出　圭吾・武田　恵美（代表教員　川真田　早苗）						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
４年間の学びの集大成として、学習内容を論理的・体系的にまとめ、実社会において科学的・論理的視点から物事を捉えることができるようにする。指導方法としては、担当教員の専門分野に分かれ、個別指導のもとに展開し、卒業研究または卒業作品（作品と副研究）としてまとめる。	①各自が設定したテーマに沿って、文献・資料検索やデータ収集などを行うことができる。 ②卒業研究や卒業作品（作品と副研究）の作成を通して、設定したテーマをより深く理解し、文章化することができる。 ③学習内容を論理的・体系的にまとめ、効果的に発表することができる。

教授方法	ゼミごとに指導教員の指導のもと各自の研究課題をまとめる
履修条件	「専門ゼミⅠ」を履修し、単位を修得済みの者。３年次終了時点で累積GPA2.5以上を確保していること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	卒業研究の運営についてオリエンテーションを行う。	各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
15	ゼミごとに前期のゼミ活動を総括する。	各担当教員
16	ゼミごとに後期のゼミ運営のオリエンテーションなどを行う。	各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
22	ゼミ内中間発表を行う。	各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
28	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員

授　業　計　画		
実施回	授業内容・目標	担当教員
29	ゼミ内で、卒業研究発表会のリハーサルを行う。	全員
30	卒業研究発表会で発表を行う。	各担当教員

成績評価方法と基準					
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	10	担当教員の指示に従い、ゼミ内における役割を意識して行動している。	卒業研究の作成	70	計画的に卒業研究を作成し、作成要領に従って期日内に提出している。
卒業研究の発表	20	卒業研究発表会において、卒業研究の内容を効果的に発表している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
設定したテーマに沿って、綿密な研究計画を立てた上で、調査研究・文献研究を行い、テーマをより深く理解することができるように準備する［90分］	課題については、授業の冒頭部にコメントを付して返却

受講生に望むこと	４年間の学びの集大成であるので、個別指導をしっかり受け止め、納得のいく卒業研究を作成してください。	教科書・テキスト	ゼミの指定による
指定図書／参考書等	なし／ゼミの指定による	その他・特記事項	①卒業研究の規定文字数は24000字以上(図表等を含む)とする。作品を提出する場合は、研究論文に作品を添えて提出する。卒業研究の提出は当該年度の期限までに大学事務室教務係とする。この場合の副研究論文は16000字以上とする。専門ゼミⅡとともに卒業研究を履修した場合は、卒業研究の作成により専門ゼミⅡレポートの作成は不要とする。 ②Classroomを用いて課題等を提示・提出することを基本とする。

実務経験を活かした授業の概要
なし

授業科目名	EK120U 地域社会と子ども			開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	向出　圭吾・伊藤　雄二・中野　聡・福江　厚啓・髙村　真希　（代表教員　向出　圭吾）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は学科必修の科目であり、各免許資格取得に必要な学びを行うための入門科目である。学生は教育者・保育者としての実践力の基礎を身につけるために、いつもは地域の子どもとのかかわり（小学校参観、認定こども園を含む幼稚園参観・保育所参観又は中学高校参観）を体験するが、状況により、それぞれの発達段階に応じた子ども理解の講義を中心とした内容になる可能性もある。 学生は課題意識をもってレポートに取り組むことを希望する。そして作成したレポートを発表かつ聞くことによって、他者の気づきから自己の学びを深める。	①講義と参観事前レポートを通して参観先の概要を把握し、ねらいをもって参観に臨むことができる。 ②参観した内容を客観的に記録し、そこから見えてくるものを順序立てて記述することができる。 ③それぞれの発達段階に応じた子ども理解の講義を通して、自分なりの考えをまとめ、レポートを作成することができる。 ④ディスカッションを通してコミュニケーション能力を養う。 ⑤それぞれの発達段階の全体発表を聞いて、他者の気づきから自己の学びを深めることができる。

教授方法	講義、ディスカッション、発表
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、学外体験活動時の諸注意、参観マナー等について理解する。	中野・福江 向出・髙村
2	児童期の子ども理解：児童期の発達の特徴、小学校の学習課程を理解し、模擬授業のビデオ視聴を通して、小学校教諭と児童との関わり方を考える。事前レポートを作成する。	中野・福江 向出・髙村
3	学外活動体験①　小学校参観：各自のねらいに沿って指定の小学校の参観を行う。	中野・福江 向出・髙村
4	学外活動体験②　小学校参観：各自のねらいに沿って指定の小学校の参観を行う。事後レポートを作成する。	中野・福江 向出・髙村
5	グループディスカッション：各自作成したレポートをもとに、参観先の小学校や児童期の特徴、気づきについて話し合う。	中野・福江 向出・髙村
6	小学校の講義、参観、ディスカッションを通して課題レポートとして作成する。	中野・福江 向出・髙村
7	幼児期の子ども理解：幼稚園や幼稚園教諭の役割、年齢ごとの発達や遊びの特性について理解する。事前レポートを作成する。	中野・福江 向出・髙村
8	学外体験活動②　認定こども園を含む幼稚園参観：各自のねらいに沿って指定の幼稚園の参観を行う。	中野・福江 向出・髙村
9	学外体験活動②　認定こども園を含む幼稚園参観：各自のねらいに沿って指定の幼稚園の参観を行う。事後レポートを作成する。	中野・福江 向出・髙村
10	グループディスカッション：各自作成したレポートをもとに、参観先の幼稚園や幼児期の特徴、気づきについて話し合う。	中野・福江 向出・髙村
11	幼稚園の講義、参観、ディスカッションを通して課題レポートとして作成する。	中野・福江 向出・髙村
12	乳幼児期の子ども理解：乳幼児期の子どもの発達理解と保育施設（保育所・こども園）が果たす役割について。又は、中学・高校の子ども理解：中学・高校の生徒理解と英語教育の現状について理解する。どちらか一方の事前レポートを作成する。	全員
13	学外活動体験③　認定こども園を含む保育所参観又は中学高校参観：各自のねらいに沿って指定の保育所又は中学・高校（英語）の参観を行う。	全員
14	学外活動体験③　認定こども園を含む保育所参観又は中学高校参観：各自のねらいに沿って指定の保育所又は中学・高校（英語）の参観を行う。どちらか一方の事後レポートを作成する。	全員
15	グループディスカッション：各自作成したレポートをもとに、参観先の保育所又は中学・高校の特徴、気づきについて話し合う。保育所又は中学・高校の講義、参観、ディスカッションを通してどちらか一方の課題レポートとして作成する。	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業 参加態度	45	①講義において、積極的、意欲的に授業に参加し、ねらいをもって参観に臨んでいるか。 ②ディスカッションに積極的、意欲的に参加しているか。	事前事後を含む課題レポート	45	①各課題レポート：15点×3 ②指定の様式で作成しているか。 ③自分の気づき、考えを記述しているか。
最終試験レポート	10	全体発表を聞いて、他者の気づきから自己の学びを深めて記述しているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各講義終了後、それぞれ指定された期日までに事前及び事後レポートを作成する。[60分×3] ②課題レポートの見直し改善を行い、学びを深める。[60分×3]	①事後レポートを基にグループ内で振り返る。 ②課題レポートの見直し改善を行う。 ③試験として全体発表を聞いて、最終レポートを課す。

受講生に望むこと	積極的、意欲的に授業に参加する。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／ 『小学校学習指導要領』文部科学省　東洋館出版社　2018年　ISBN:9784491034607 『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館　2018年　ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館　2018年　ISBN:9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年　ISBN:9784577814499	その他・特記事項	課題レポートは、期日までに指定された方法で提出すること。

実務経験を活かした授業の概要

向出：幼稚園現場とのパイプ役となり、幼稚園現場での参観を行い、遊びや生活についてのグループディスカッションを行っている。
中野：小中学校の経験を生かして、今日的課題を発見し対処方法について考えて、自分の言葉で語るように指導している。
伊藤：中学校教員の経験をもとに、中学校の現場で起きた問題をテーマにしてグループディスカッションを行っている。また、授業参観のための事前・事後指導を行っている。
髙村：保育士としての経験をもとに、保育施設（主に保育所）とはどういった施設であるのか、保育者の役割とその重要性についてを説明している。また乳幼児が保育施設においてどのように生活しているのかについても説明し、事前事後の検討会をしている。

授業科目名	EK130U 教育学概論			開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
教育学について基礎的な事柄を理解するため、教育の理念、歴史、思想をテーマとする。そして、教育の理念にはどのようなものがあるか、教育の歴史や思想において教育の理念がどのように現れてきたか西洋、中国、日本の教育史を概観し、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ変遷してきたのかなどについて学ぶ。SDGsの観点からは、過去に義務教育の無償制が唱えられ、現在においては公立の高等学校においても無償となっていることを学ぶ。【4.1】 ※SDGsターゲット4.1関連科目	①教育学とは何か：教育学の諸概念並びに教育の本質及び教育の目標を理解するとともに、教育を成り立たせている要素（子供・教員・家庭・学校など）とそれらの相互関係を理解している。 ②教育の歴史と制度：学校の登場以前から家族と社会によって子供の教育が行われてきた歴史と近代教育制度の成立と学校教育の展開を理解している。 ③現代の教育課題：現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。 ④教育の思想：家庭や子供に関わる教育の思想、学校や学習に関わる教育の思想、代表的な教育家の思想を理解している。 ⑤我が国における教育の無償化の歴史的背景を理解し、現代の教育について考えることができる。

教授方法	講義
履修条件	保育士資格、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状(英語)、高等学校教諭一種免許状(英語)の取得を希望する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	教育学の諸概念：「教育」の概念と子供観（教育の意味や歴史を概観するとともに子供観の類型を知る。）	
2	教育の本質と教育の目標：人間と教育（人間の本質と教育、人間の本能と教育について理解する。）	
3	教育を成り立たせる要素①：発達と教育（ピアジェの認知発達段階論と脳の発達理論から考察する。）	
4	教育を成り立たせる要素②：社会と人間（教育の場）（子供の発達に伴う教育の場としての家庭、学校、地域とそれらの関係について理解する。）	
5	教育を成り立たせる要素③：社会と人間に関する思想・理論（教育と社会の関係についてルソーの考え方をはじめとした諸理論について知る。）	
6	教育の歴史①：西洋における教育学の歴史（時代区分ごとに西洋における教育史を概観して基礎的な知識を身に付ける。）	
7	教育の歴史②：中国における教育学の歴史（古代文明の発祥地としての中国の教育史を概観し、日本に与えた影響について考える。）	
8	教育の歴史③：日本における教育学の歴史（時代区分ごとに日本における教育史を概観して基礎的な知識を身に付ける。）	
9	教育の歴史④：教育を受ける権利の思想（西洋と日本の近代における教育を受ける権利の思想及び現代の日本の教育の権利について理解する。）	
10	近代教育制度の成立と展開：教育の平等と無償性（西洋と日本における教育の平等と無償性について考える。）	
11	現代社会における教育の課題：教育条件の整備（教育条件の整備に関し戦後の教育改革及び教員の地位について理解する。）	
12	教育の理念：人間（個人）の尊厳（日本国憲法や教育基本法をもとに家庭や学校における子供の成長と教育について考える。）	
13	教育の思想①：市民の育成と平和の創造（世界や日本の平和教育思想を概観するとともに、学校における平和教育の実践を知る。）	
14	教育の思想②：代表的な教育家の思想（デューイ、ペスタロッチ、フレーベル、モンテッソーリなどの思想を知る。）	
15	学習のまとめ：期末レポート作成（テーマと作成の留意点をもとに作成する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小レポート	35	教育学の歴史（西洋、中国、日本）に関して理解している。	授業態度	15	積極的に授業に臨んでいる。
定期試験	50	教育学についての知識・理解を有している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業は章・節ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。［30分］ ②各回の授業で配付するワークシート内のミニッツコメントにコメントする。［20分］ ③教育の理念、歴史、思想など、教育学に関し、インターネット検索して調べる。［20分］	①小レポートについての質問に応じる。 ②第15回授業時に定期試験の観点を示す。

受講生に望むこと	どんな観点でもよいので、教育または教育学に興味・関心をもって授業に臨んでください。	教科書・テキスト	『教育学概論 第2版（教師教育テキストシリーズ）』，三輪定宣著，学文社，2019年出版，ISBN978-4-7620-2878-6
指定図書／参考書等	『保育所保育指針』，厚生労働省，2017年告示，『幼稚園教育要領』，文部科学省，2017年告示，『小学校学習指導要領』，文部科学省，2017年告示，『中学校学習指導要領』，文部科学省，2017年告示／『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』，内閣府・文部科学省・厚生労働省，2017年告示	その他・特記事項	小レポート課題はClassroomに投稿して提出してください。

実務経験を活かした授業の概要

・教育の原理や方法について、実際の小学校や中学校の授業の様子を取材し、写真やビデオを学生に提示し、感想を持たせたり全体発表したりしている。
・教育の評価について、学校現場から指導要録や通知表などのサンプルを提供してもらい、それを提示して理解できるようにしている。

授業科目名	EK140U 教職論			開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	中島　賢介・虫明　淑子　（代表教員　中島　賢介）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭の免許状取得に関わる科目で、教師という仕事の概観をつかみ、自らの適性を問う。教職の意義及び教員の今日的役割、それを実現するための職務内容の実際を知り、教職に対する適性について考え、教師としての意義と自覚を形成する。子どもとしての体験から形成されている教職観、あるいはメディアを通じて形成されている一般的教職観がそれぞれの内にあるだろう。本科目では、それぞれのもつ教職観を、社会が求める今日的教職観へと変容させることが目指される。教師に求められる資質能力、社会性・人間性、指導力、職務内容、家庭や地域との連携のあり方、学校間連携によって一人一人の学びと育ちをつなぐことなどについて考える。	1幼・小・中・高の校種を超えて教職の意義と専門性について理解する。 2教員の職務と服務について理解する。 3教師をめぐる現状と課題について知る。 4教師に求められる資質能力について理解し、自らの進路として教職を選択することの可否を考える。

教授方法	講義とワークを組み合わせた方法を採用する。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	これからの時代を生きる子どもにとっての教師のあり方について理解する。	虫明
2	教育の専門職としての社会的意義、資格・要件、役割・職務内容、専門性等について理解する。	虫明
3	子どもの主体的で多様な学びを生み出すための教職者としてあるべき姿について考える。	虫明
4	現代の教育に求められる「資質・能力」とは何かについて理解する。	虫明
5	幼児教育から学校教育へ：幼児教育がなぜ教育の原点であると言われるのか。その理由について考える。	虫明
6	教員としての職務の全体像　校務分掌上の職務の全容と各人が分担する分掌を理解する。	中島
7	研修の必要性と教員研修制度　研修の意義や重要性等を法規定を通して理解する。	中島
8	教員の義務と身分保障　服務上の義務と身分上の義務、待遇等を法規定を通して理解する。	中島
9	チーム学校の組織と指導体制　共通理解の下で対応する事例と、その指導体制を理解する。	中島
10	公教育の理念と学習指導要領　公教育の理念等を、学習指導要領の記載を通して理解する。	中島
11	教育制度関係法規の理解　教育法規の記載を通して、我が国の教育制度を理解する。	中島
12	わが国の教育制度と課題　現代教育制度が抱える課題を知り、その改善方針を理解する。	中島
13	地域連携と特色ある学校づくり　地域連携の重要性を知り、必要な手法を理解する。	中島
14	学校の危機管理と安全教育　安全管理の重要性と、必要な具体的取り組みを理解する。	中島
15	これまでの学びを踏まえて、改めて教師の使命について考える。	中島

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度・授業参加状況	50	将来教職に就こうとする者としてふさわしい姿勢で授業に臨んでいる。	課題レポート	50	授業における気付き・発見・学びや討議のまとめと考察（授業内のワーク、自分に対する省察を含む）

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各授業回での理解に必要な用語・法令等についての事前調べや事後確認をミニレポートにまとめる。［30分～60分程度］ ②園行事や学校公開週間など、保育者・教育者の姿を見ることのできる機会を逃さない。［適宜］	当日提出、あるいは授業外課題としてのミニレポートに記される履修者の興味・関心・疑問を次回の授業に反映させる。

受講生に望むこと	自身が取得を希望する資格・免許・に対応する年齢の子どもだけでなく、乳児から青年までの幅広い年齢層の生活と環境に興味を持つこと。夏休みや春休みの現場体験（幼稚園・放課後等児童クラブその他）を経験していることが望ましい。	教科書・テキスト	『「天才」は学校で育たない』ポプラ新書　汐見稔幸　2017年　ISBN978-4591155844 『教師の資質』朝日新書　諸富祥彦　2014年　ISBN978-4-02-273518-8
指定図書／参考書等	なし／ 『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館　2018年　ISBN：9784577814475 『小学校学習指導要領　総則編』文部科学省　東洋館出版社 『中学校学習指導要領　総則編』文部科学省　東山書房 『高等学校学習指導要領　総則編』文部科学省　東洋館出版社 『現代の教職論　アクティベート教育学02』　佐久間亜紀・佐伯胖　ミネルヴァ書房　ISBN：978-4‐623-08536-1	その他・特記事項	各回の授業回に幼児期（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）を中心に虫明、義務教育及び高等学校における教育を中心に中島が担当して講義し、適宜グループ討議する。授業外課題として現場訪問や子どもとも関わりが課せられることがある。

実務経験を活かした授業の概要

虫明：教職者とはどうあるべきかについて、幼稚園教諭、管理職、園内研修指導助言者、園や地域における子育て支援者、発達障害のある子ども及び保護者への支援者等の経験によって得られた実践知をもとに解説する。

授業科目名	EK142U 保育者論			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	ポーター　倫子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
本講義では、保育職の意義、保育者の役割・資質能力・職務内容等について基礎知識を身に付ける。また多文化、貧困、配慮を要する子どもの増加、子育て支援など、新しい保育動向を視野に入れ、今日の保育事情に対応できる保育者の養成を目的に講義を行う。さらに保育者という仕事を選択した場合、どのように自分の専門性を高め、問題解決方法を探り、レジリエンスを培っていったらよいのかについて学ぶことができるように進めていく。 ※SDGsターゲット4.2関連科目	①保育者としての役割や責務について理解する。 ②今日の保育、社会事情の変化に対応に応じた保育者像について理解する。 ③今後の保育者のあるべき姿、自分の保育者としての使命を意識化する。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、授業の概要説明、子どもの目から見る保育者	
2	保育者に求められる資質について考える	
3	幼稚園教諭と保育所保育士の仕事と役割を把握する	
4	児童福祉施設における保育士の仕事と役割を把握する	
5	保育者の制度的位置づけ―免許と資格について理解する	
6	日本の保育者のあゆみについて学ぶ	
7	質の高い保育について学ぶ	
8	保育者の資質向上とキャリア形成について学ぶ	
9	保育における職員間の連携。協同について理解する	
10	子育て支援と保育者の役割について学ぶ	
11	配慮を要する子どもへの理解と対応について学ぶ	
12	貧困・多文化共生と保育者の役割について考える	
13	保育者のライフコースを考える	
14	諸外国の保育制度との比較により、日本の保育者の特徴を知る	
15	まとめ、よりよい保育者像を目指して	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
平常点（学習意欲、履修態度、予習復習状況、等）	30	出席、授業の参加態度、リフレクションペーパー、など	課題（ミニレポート）	20	ルーブリックに基づいて評価。ルーブリックは授業期間中に提示する。
ポートフォリオ	30	ルーブリックに基づいて評価。ルーブリックは授業の1，2週目に提示する。	期末試験	20	授業内容を十分に理解できているかどうかを把握するために、学期末に行う。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前に教科書の指定部分を読む。[30分] ②授業中に仕上げることができなかったプリントやリフレクションペーパーは、数日以内に仕上げておく。[20分] ③プリントやリフレクションペーパーは、ファイルに順番に保存し、最後にポートフォリオとして提出する。 ④試験の準備として、キーワード集を作成する。[20分]	①全ての提出物は、締め切り日から１－２週間以内に採点・コメントを付けて返却する。 ②試験は、1週間以内に採点して返却する。

受講生に望むこと	教室内での私語、スマートフォンの使用などは、避けてください。やむを得ない事情で欠席する場合は、他の受講生に授業内容を聞いたり、ノートを借りるなどして、対応してください。	教科書・テキスト	『新時代の保育双書　今に生きる保育者論　第４版』 秋田喜代美（編）2020　みらい　ISBN:9784860154868
指定図書／参考書等	①幼稚園教育要領概要　文部科学省　2018フレーベル館； ②保育所保育指針解説　厚生労働省　2018フレーベル館； ③幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　内閣府　文部科学省　厚生労働省　2018フレーベル館	その他・特記事項	受講生の興味・理解度に沿って内容を変更する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EK151U 特別支援教育論			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	谷　昌代・村井　万寿夫・ポーター　倫子・田中　早苗　（代表教員　谷　昌代）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）・准学校心理士				

授業の概要	授業の到達目標
本科目では講義、グループディスカッションを含むワークによって自身の育ちの過程での体験・ボランティア等で体験したエピソード、ビデオ映像を含む事例に対して「なぜ？」と考えることを積み重ね、「見えにくい障害」や「障害ではない特別の支援のニーズ」について知ることで、「異なる者」を受け入れる寛容性を育みつつ、子どもの姿から学ぼうとする志向性が個々の支援の方法を見出させるものであることを知る。保育者・教師が陥りがちな障害に対する誤解と不適切な関わり、マニュアル的な対応の危険性について知り、個々の場面での対応を導く「その人理解」には、乳幼児期から成人までの長いスパンでの俯瞰的な視座と園・学校といった集団生活の場と合わせて家族等での姿までを観る総合的視座が重要であることを理解する。SDGsの観点からは、母国語や貧困の問題等が子どもの育ちと学びにもたらす困難について考える。【12.C】 ※SDGsターゲット4.5,12.c関連科目	①通常学級にも在籍している特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒について知る。 ②発達障害者支援法によって国が障害として支援の対象とするに至った発達障害をめぐる今日的状況を知り、専門家のみならず全ての人が支援の担い手であることを理解している。 ③発達障害児・者が乳幼児期から成人までの成長の過程で体験する困難、生き辛さを知る。 ④合理的配慮の概念について理解し、自閉症スペクトラム障害・注意欠陥多動性障害・学習障害を中心に学校における具体的な配慮と支援について個別支援計画を考えることができる。 ⑤特別な支援を必要とする児・者と共に生活する親や家族、更に保育者・教師が陥りやすい心情や状況について知り、家族支援やピアサポートについて理解している。 ⑥特別支援教育の制度の実際を知り、学校・家庭・地域の空間的な広がりの中で、幼小・小中・中高の接続によって時間を超えて理解をつなげ、自立に向けて育ちをつなぐことの重要性を理解している。⑦障害だけでなく、母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児・児童・生徒がいることを理解し、育ちと学びにおける困難や必要な支援について理解している。

教授方法	講義・個人ワーク・グループワーク
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	視覚障害・聴覚障害・病弱等を含む様々な障害や発達障害という見えにくい障害に起因する生き辛さ、困難さについて考える。	谷
2	自閉症スペクトラム障害を中心に発達障害をもつ子どもの集団生活について家庭生活との違いから考え、園・学校と家庭との連携の意味を考える。	谷
3	特別支援に関する教育課程の枠組みを踏まえ、発達障害児等の事例を分析し、個別指導計画及び支援計画について考える。	谷
4	学校における合理的配慮と支援の方法：就学時の引継ぎの事例から、支援における学校間連携について考える。	谷
5	特別支援教育の歴史と現行の支援制度への展開から、学習指導要領がとらえる障害に対する今日的な見方を理解する。	村井
6	母国語や貧困の問題等が育ちと学びにもたらす困難と二次障害について知り、特別の教育的ニーズに対する保育者・教師による支援について考える。	村井
7	自閉症スペクトラム障害①：コミュニケーションの障害とは何か、語用論について理解する。	ポーター
8	自閉症スペクトラム障害②：興味の偏りと発達のでこぼこ（凸凹）がもたらす困難について考える。	ポーター
9	注意欠陥多動性障害：その生活と学習における困難を知り、クラスに及ぼす影響とその結果として当事者にもたらされる自己イメージの問題について考える。	田中
10	「支援しているつもり」のことは当事者の学びを育む支援となっているだろうか？大人にとって「都合がいい」ことを目標にしていないだろうか、考える。	田中
11	学習障害：生活と学習における困難を知り、クラスに及ぼす影響とその結果として当事者にもたらされる自己イメージの問題について考える。通級による指導及び自立活動に向けた指導と関連付けて考える。	田中
12	二次障害：過剰適応からのウツと不登校問題を中心に考える。さらに、当事者の自立支援について考えていく。	田中
13	自閉症スペクトラム障害を中心に発達障害をもつ子どもの親や家族が陥りやすい心情・状況を理解し、家族支援とピアサポートについて考える。	ポーター
14	障害に対する気づきと受容：発達障害者支援法誕生までの経緯や診断をめぐる現状から、保育・教育現場における家族と当事者の障害受容の支援について考える。	ポーター
15	インクルーシブ教育は、障害を持つ子どもたちのための教育理念ではない。多様性が受け入れられ、異なるものが共にあることで生み出される豊かさを全ての子どもたちとその周りの人々が享受する教育理念であることを理解する。	谷

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	60	①用語・基本的概念の理解 ②事例・エピソードからの読み取り ③配慮・支援についての理解	ミニレポート 課題等（研究ノート）	20	①課題レポートは適切な資料によって調べている。背景や理由を考え、自分なりに理解につなげていること。②各講義で配布された資料、ワークシート等が研究ノートとして丁寧に綴られている。
授業内ワーク（授業への参加態度）	20	毎回の応答シートに授業への関心、質問、深まり等、自分なりの考えを記している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・授業において、ミニレポートや授業内ワークを配布していく。配布物は各自でまとめ『研究ノート』として綴りファイルしておくこと。 ①障害、発達、言葉、コミュニケーションに関する用語、基本概念について調べる。 ②支援に関わる法律や制度について調べる。 ③配布資料から障害をめぐる諸問題について読み取り、自分なりの考えをまとめる。 [30～60分程度]	ミニレポートや授業内ワークに記された関心・質問に次回以降の授業内容で対応する。

受講生に望むこと	①課題が提示された場合、適切な参考資料に基づいて作成し、丁寧に仕上げてください。 ②返却されたミニレポートは授業で得る理解を受けて適宜補完し、自身の理解の深まりに反映させてください。 ③障害をもつ子どもやその家族の個人情報を扱う授業となるので、授業で得た情報の取り扱いには十分に注意してください。	教科書・テキスト	適宜　資料配布
指定図書／参考書等	なし　／『特別支援教育』松浪健四郎　藤田主一　三好仁司　監修 齋藤雅英　宇部弘子　他編集　2021年　中山書店 ISBN978- 4 - 521 - 74890 - 0C3037 『よくわかる障害児保育』尾崎康子・小林真　他編　2010年　ミネルヴァ書房 ISBN978- 4-623-05703-0C3336 他	その他・特記事項	・授業外課題であるミニレポート及び授業内配布資料、ワークシート等は、各自ファイル等に綴り管理すること。欠席時の配布物等を取りに来て、自己学習することを勧める。尚、授業ファイル（研究ノート）については評価の対象となる。 ・授業または課題をclassroomに投稿し、参加、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

谷：保育の現場で関わってきた気になる子どもたちの姿や発達障害児の事例を紹介し、当該児の見え方や感じ方、援助について考え、多様な子どもたちと実践的に関わっていくための理解を深める。
村井：特別支援学校や特別支援学級の教員と交流し、特別な支援を必要とする児童生徒の視聴覚教材や情報機器の活用事例について紹介している。

授業科目名	EK220U 発達心理学			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	齊藤　英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）・准学校心理士・認定心理士				

授業の概要	授業の到達目標
人間がどのような発達過程をたどるかを理解することは、保育や教育に携わるうえで重要な視点である。本講義では、発達心理学の具体的成果をもとに、乳幼児期から青年期を中心に、人間の心理的発達のしくみについて学ぶ。	①発達心理学の諸理論に関する基礎知識を答えられる。 ②生涯における心身の発達について答えられる。 ③各年齢期において達成されるべき発達課題を答えられる。 ④発達心理学の知見を踏まえ、乳幼児期から青年期の子どもに対する基本的な関わりについて考察できる。

教授方法	講義を中心にワークなどを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問なのか。発達心理学を学ぶ意義を理解する。	
2	「発達」を考える①：人の発達において、各発達段階で達成しておくことが望まれる「発達課題」について理解する。また、発達課題と教育との関連について考える。	
3	「発達」を考える②：「発達を決めるのは遺伝か環境か」、「年をとるのは衰退か成熟か」などの疑問をもとに、人の「発達」について考える。	
4	胎児期～乳児期①：お腹のなかにいる赤ちゃんに意識はあるのだろうか。生後間もない赤ちゃんはただ泣いているだけだろうか。胎児や新生児の発達と有能さについて理解する。	
5	胎児期～乳児期②：赤ちゃんはどのように外界と関わっているか。乳児期の情動、認知、言語の発達について考える。	
6	胎児期～乳児期③：対人関係の基盤となるものは何か。情緒的な絆である「愛着（アタッチメント）」について考える。	
7	幼児期①：「ぼく・わたし」はいつ成立するか。子どもの言語発達や自己概念の成立について考える。	
8	幼児期②：なぜ子どもにとって「遊び」は重要なのか。「象徴機能」や社会性の発達を通して考える。	
9	幼児期③：子どもはどのように「賢く」なっていくか。幼児期における認知発達について考える。	
10	児童期①：子どもの対人関係はどう変わっていくか。友人関係の展開を中心に、学童期の子どもが抱えやすい問題について考える。	
11	児童期②：物事の善し悪しや思いやりはどのように育つか。学童期の子どもの「道徳性」や「向社会性」の発達について考える。	
12	児童期③：子どもはどのように物事を捉え、思考していくのだろうか。児童期の認知発達について考える。	
13	青年期：青年期における身体と心の変化、周囲との関係の変化について考える。また、「自分らしさ」とは何だろうか。青年期の重要な発達課題とされる「自我同一性（アイデンティティ）」について考える。	
14	成人期・老年期：家庭を持ち親になることの意味、老いや病がもたらすもの、死を目前にした人間について考える。	
15	「発達障害」の理解と対応：発達障害は親のしつけや本人の性格が原因ではない。では、発達障害とは何だろうか。発達障害など非定型発達の基礎的な知識や考え方について理解し、適切な関わりを考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
各回の授業レポート	30	講義内容に対する意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。	ブックレポート	20	発達心理学に関連する文献の概要をまとめ、内容について論理的に考察されているかが評価基準となる。
定期試験	50	発達心理学の諸理論、発達課題、子どもに対する適切な関わりなど、授業で取り上げる内容の知識が獲得されていることが評価基準となる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の該当する箇所を読んおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、発達心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分]　③発達心理学の下位領域・関連領域である「乳幼児心理学」「児童心理学」「青年心理学」「発達障害」などの参考書を用いて、知識を深める。[60分]	①毎回の授業レポートについては、対面授業時に内容に関する振り返りを行います。 ②定期試験については、希望者に次学期に内容に関してコメントなど対応します。

受講生に望むこと	授業の内容が今後の自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的に受講することを望みます。	教科書・テキスト	坂上裕子・山口智子・林 創 ・中間玲子（2014）．問いからはじめる発達心理学 有斐閣　ISBN:978-4641150133
指定図書／参考書等	なし／本郷一夫・飯島典子編（2019）．保育の心理学　建帛社　ISBN：978-4767950914、若尾良徳・岡部康成(2010)．発達心理学で読み解く保育エピソード　北樹出版　ISBN：978-4779302510、岡本祐子・深瀬裕子編(2013)．エピソードでつかむ生涯発達心理学　ミネルヴァ書房 2013年　ISBN: 978-4623065318、伊藤亜矢子編(2011)．エピソードでつかむ児童心理学　ミネルヴァ書房　ISBN:978-4623058259	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例をもとに発達課題などのテーマと関連づけて紹介し、子どもへの関わり方について検討する時間を設けている。

授業科目名	EK230U 教育心理学			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	齊藤　英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）・准学校心理士・認定心理士				

授業の概要	授業の到達目標
教育心理学における主要な領域（発達、学習、評価、集団・適応）について講義する。本講義では、教育活動について心理学の視点から理解を深め、効果的な学びを促すにはどうすればよいかについて考える。	①子どもの心身の発達過程を答えられる。 ②心理的発達の特徴を踏まえた上で、学習過程で生じる心理的メカニズムについて答えられる。 ③主体的な学習を支える集団づくりと集団への適応に関して正しい知識を答えられる。 ④教育活動の評価の意義および役割を答えられる。

教授方法	講義を中心にワークなども取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション：教育心理学は、どのような学問なのか。教育心理学の主な領域である「発達」「学習」「評価」「集団・適応」の概要と、教育心理学の研究法を理解する。	
2	発達と教育「発達における教育の役割」：ピアジェやヴィゴツキーの発達理論を通して発達における教育の役割を考える。	
3	学習①「学習理論①」：学びはどのようにして生じるか。条件づけ理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。	
4	学習②「学習理論②」：学びはどのようにして生じるか。学習に関する様々な理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。	
5	学習③「学習と教授理論」：どのような教え方が効果的だろうか。さまざまな教授理論を比較しながら各教授法の特徴を考える。	
6	学習④「動機づけ」：やる気はどこから生じるか。動機づけに関する研究を通して、学ぶ意欲について考える。	
7	学習⑤「記憶」：学びの基礎になる記憶の理論を学ぶ。記憶に関する研究成果を紹介し、学習においてどのように活用できるか考える。	
8	学習⑥「学習指導と個人差」：すべての子どもに同じ教え方でよいだろうか。教授方法と個人差との関係を通して、学習指導について考える。	
9	評価①「パーソナリティ」：パーソナリティ（性格）とは何だろうか。パーソナリティに関する様々な理論を学び、パーソナリティを理解することについて考える。	
10	評価②「知能」：知能とは何だろうか、どのように測定できるだろうか。知能に関する様々な理論と測定方法を学び、「知能が高い（低い）」とはどのようなことか考える。	
11	評価③「教育評価」：教育評価とは何か、誰が誰の何を評価するのだろうか。教育評価の意義を理解し、教育における評価の役割を考える。	
12	集団・適応①「学級集団」：学級は単なる個人の集まりだろうか。集団心理や成員間の相互作用などを通して、学級集団について考える。	
13	集団・適応②「不登校・いじめ」：不登校やいじめの問題を通して、学校や学級集団への適応を考える。	
14	集団・適応③「発達障害・精神障害」：発達障害や精神障害を抱えた子どもの学校や学級集団への適応を考える。	
15	集団・適応④「学校カウンセリング」：学校や家庭において、子どもの心の問題にどのように取り組んでいくことができるだろうか。学校現場での心理支援活動について考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
各回の授業レポート	30	講義内容に対する感想や意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。	ブックレポート	20	教育心理学に関連する文献の概要をまとめ、内容について論理的に考察されているかが評価基準となる。
定期試験	50	教育心理学の主要な内容（発達、学習、評価、集団・適応）に関する基礎知識が獲得されていることが評価基準となる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の該当する箇所を読んでおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、教育心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分]	①各回の授業レポートについては、対面授業時に内容に関する振り返りを行います。 ②定期試験については、希望者に次学期に内容に関してコメントなど対応します。

受講生に望むこと	授業の内容が自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的な受講態度を望みます。	教科書・テキスト	石津憲一郎 ・下田芳幸 ・ 横田晋務（2022）．教育・学校心理学 サイエンス社　ISBN: 978-4781915272
指定図書／参考書等	なし/服部環・外山美樹編（2013）．スタンダード教育心理学　サイエンス社　ISBN: 978-4781913254、大村彰道編(1996)．教育心理学Ⅰ　東京大学出版会　ISBN: 978-4130520720、下山晴彦編(1998)．教育心理学Ⅱ　東京大学出版会　ISBN: 978-4130520744、藤田哲也編（2007）．絶対役立つ教育心理学［第２版］ミネルヴァ書房　ISBN：978-4623091638、水野浩久・串崎真志編（2019）．教育・学校心理学　ミネルヴァ書房　ISBN:978-4623086078、橋本創一・ 三浦巧也・ 渡邉貴裕・ 尾高邦生・堂山亞希・熊谷亮・田口禎子・大伴潔編(2020)．キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育　福村出版　ISBN:978-4571121401	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例（いじめや不登校など）をもとに、子どもへの関わり方や解決策について検討する時間を設けている。

授業科目名	EK350U ｷﾘｽﾄ教と教育（Ａコース）			開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	楠本　史郎・中島　賢介　（代表教員　楠本　史郎）						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
キリスト教世界では旧・新約聖書の人間観に基づき、子どもは神に創造され、愛される尊い人格として重んじられる。その人格を養い育むために、キリスト教保育・教育は重要な役割を担ってきた。その努力と経験、知見の上に、近代の保育・教育理論は立てられている。本講義では、キリスト教保育・教育の基礎である旧・新約聖書の人間観に立ち返り、子どもの人格の重要性を確認する。その上で、「一人ひとりが輝き、ともに響きあう」キリスト教保育のあり方、またそれに続くキリスト教小学校教育との連携のあり方、それぞれの基本を、子どもの発達段階を確認しながら学び、考える。さらに、キリスト教保育・教育の具体的な展開を、礼拝および聖話、聖劇ページェント、音楽・賛美歌、自然環境など、各領域で体験・実践する。キリスト教保育の特徴である賛美歌を理解して歌い、祈りを作成し祈る。 ※SDGsターゲット4.1,4.2関連科目	・保育・教育の展開の基礎に、キリスト教、とくに聖書の人間観があること、その重要性を理解する。 ・保育・教育史におけるキリスト教保育・教育の位置と特徴、意義を理解する。 ・キリスト教保育・教育の実際に触れ、その根底にある子ども観と、一人ひとりの子どもへの基本的な関わり方、また集団形成の視点を知る。 ・礼拝のお話を作り、子どもに語ること、子どもとともに祈ること、幼児賛美歌・こども賛美歌を理解して歌い、伴奏すること、聖劇を作り演じること、神の創造の業である自然環境に親しみ、それを保育・教育に活かすことを経験し、その準備、実行、振り返りの流れを理解する。 ・子どもの発達段階を理解し、キリスト教保育の役割と小学校教育への接続の課題を知る。 ・幼児、初等・中等教育者となる意味と喜びを理解し、意欲を持つ。

教授方法	毎回配布するレジュメに基づく講義、グループによる活動と発表、学外保育者・教育者との交流、聖話および聖劇の制作・発表、自然体験などによる。
履修条件	キリスト教関連科目、および教育に関する基本科目の履修済が望ましい（単位未修得も可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス　授業予定、祈りと賛美歌伴奏についての説明など。近代教育史におけるキリスト教保育・教育の位置と意義を学び、理解する。オーベルラン、ペスタロッチ、フレーベルの保育・教育思想におけるキリスト教の基盤を理解する。	楠本・中島
2	現代教育史におけるキリスト教保育・教育の位置と意義を学び、理解する。モンテッソーリ、倉橋惣三、フランシナE.ポーター、南信子の保育思想におけるキリスト教の基礎を理解する。	楠本・中島
3	キリスト教保育・教育の基盤である聖書の人間観および、それに基づくキリスト教的発達観を理解する。創世記第１章・第２章、マルコ10章など。なぜ、この一人が大切なのかを聖書から学び、「自己肯定感」について考える。	楠本・中島
4	キリスト教保育の実際について、現場の保育者の話を通して保育実践から、キリスト教と保育の関係を理解する。「キリスト教保育の喜び」を主題にシンポジウムを行い、交流し、保育の喜びと課題を分かち合う。	楠本・中島・キリスト教園教諭
5	前回の保育現場からの報告をもとに、「一人ひとりが輝き、ともに響きあう」キリスト教保育の要点を振り返り、重要な点を確認し、理解する。子ども同士の衝突やトラブル、保護者への対応などの基本について、課題を整理する。	楠本・中島
6	キリスト教初等教育の実際について、北陸学院小学校教諭から、「キリスト教小学校教育の喜び」という主題で話を聞く。その教育実践から、キリスト教と初等教育の関係を理解する。交流し、教育の喜びと課題を分かち合う。保育と小学校教育の相違と継続について考え、課題を整理する。	楠本・中島・北陸学院小学校教諭
7	前回までの保育・教育現場からの報告をもとに、キリスト教保育と小学校教育の連携について理解する。小学校入学までに育っていることが望ましい子どもの姿とは何か。幼児から青年期までの発達段階全体を踏まえて、幼児教育の役割を確認し、小学校との連携の実際を学ぶ。	楠本・中島
8	キリスト教保育における礼拝。聖書のお話（聖話）を作る。指定された聖書の物語の読み方、理解の仕方、礼拝におけるお話の作り方、話し方などを理解する。平和、性、安全・健康、国際理解などなどの主題も意識しながら。各自でお話を作ってみる。	楠本・中島
9	キリスト教保育における礼拝　聖書のお話を実際に語ってみて、保育における礼拝の意味と重要性、またその課題を理解する。良かった点と課題を評価し、分かち合う。その上で修正を加え、お話し集を作成する。	楠本・中島
10	幼稚園の降誕劇を視聴し、聖劇作成の要点を理解する。聖書の物語の読み方、理解の仕方、台本の作り方、演じ方などを理解する。グループごと、選んだ聖書の物語を題材に、聖劇台本を作り始める。	楠本・中島
11	子どもと一緒に歌う賛美歌を取り上げ、それぞれの歌の背景、信仰、歌う意味について、実際に歌いながら学ぶ。キリスト教保育における礼拝と、賛美の位置を知り、子どもの賛美と歌を支える保育者の役割を知る。	楠本・中島
12	グループによる聖劇の発表を行う。良かった点と課題を評価し合い、分かち合う。その上で修正を加え、劇台本集を作成する。	楠本・中島
13	キリスト教保育にとって、自然は神が創造し、人間に与えられた重要な環境であり、保育・教育の重要な要素である。その自然に実際に触れる。保育・教育の素材を探し、どんな自然物をどう使うことができるか、考え、体験する。	楠本・中島
14	自然環境から素材を選び、保育・教育に生かすために、どのような方法があるか、経験し、学ぶ。自然体験レポートを作成し、提出する。	楠本・中島
15	キリスト教保育・教育についての小テストと、キリスト教保育・教育についての振り返りとまとめ。	楠本・中島

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加度	20	講義での発言、グループ活動への参加、発表、お祈りや賛美歌伴奏の積極性	提出物	30	祈りの原稿、聖話の原稿、聖劇の台本などの作成と出来栄え
毎回のミニレポート	25	その講義で学んだことの理解度	小テスト	25	キリスト教保育・教育についての理解度

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①前回授業のレジュメ・資料を振り返り、本シラバスにより次回内容を確認した上で、次の授業に臨む。［15分］ ②提出物（聖話原稿、聖劇台本、自然観察レポートなど）を作成し、提出する。［60分］ ③奏楽練習、祈りの作成など、授業に臨む準備をする。［30分］	毎回の授業で、前回の授業内容の振り返りと、シートに基づき、必要なコメントをする。

受講生に望むこと	①受け身ではなく、主体的に授業に参加すること（賛美歌伴奏、お祈り、グループ活動など）。 ②旧・新約聖書、賛美歌集を持参すること。 ③遅刻や欠席をせず、グループによる、お話しや劇の作成作業に進んで参加すること。	教科書・テキスト	『新共同訳聖書』日本聖書協会、『讃美歌21』日本基督教団出版局
指定図書／参考書等	参考書／『キリスト教保育』2007年　聖公会出版、ISBN978-4-88274-181-7C3037、『新キリスト教保育指針』2011年　キリスト教保育連盟、「キリスト教保育」誌　キリスト教保育連盟、各種絵本など。	その他・特記事項	①通常授業時間以外に、野外実践を２コマ続けて行う。適切な服装で必ず参加すること。 ②北陸学院第一幼稚園など、キリスト教園の保育や礼拝に自主的に参加し、キリスト教保育の実際に触れることが望ましい。

実務経験を活かした授業の概要

楠本：牧師として聖書・キリスト教研究の成果を、幼稚園園長・宗教教諭師としての経験を実例として挙げつつ、キリスト教人間観・歴史観・教育観について講義し、学生にレスポンスペーパー記入を義務付け、それに応える形で授業を進めている。
中島：小学校における勤務経験をもとに、北陸学院小学校でのキリスト教育の経験を授業内で紹介し、協議する。

授業科目名	EK350U ｷﾘｽﾄ教と教育（Ｂ・Ｃコース）			開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	楠本　史郎・中島　賢介　（代表教員　楠本　史郎）						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
キリスト教世界では旧・新約聖書の人間観に基づき、子どもは神に創造され、愛される尊い人格として重んじられる。その人格を養い育むために、キリスト教保育・教育は重要な役割を担ってきた。その努力と経験、知見の上に、近代の保育・教育理論は立てられている。本講義では、キリスト教保育・教育の基礎である旧・新約聖書の人間観に立ち返り、子どもの人格の重要性を確認する。その上で、「一人ひとりが輝き、ともに響きあう」キリスト教保育、それに続くキリスト教初等、中等教育の基本と、相互の関係と連携を、子どもの発達段階を確認しながら学び、考える。さらに、キリスト教保育・教育の具体的な展開を、礼拝および聖話、聖劇ページェント、音楽、自然環境など、各領域で体験・実践する。キリスト教保育・教育の特徴である賛美歌を理解して歌い、祈りつつ進める。 ※SDGsターゲット4.1,4.2関連科目	・保育・教育の展開の基礎に、キリスト教、とくに聖書の人間観があること、その重要性を理解する。 ・保育・教育史におけるキリスト教保育・教育の位置と特徴、意義を理解する。 ・キリスト教保育・教育の実際に触れ、その根底にある子ども観と、一人ひとりの子どもへの基本的な関わり方、また集団形成の視点を知る。 ・礼拝のお話を作り、子どもに語ること、子どもとともに祈ること、こども賛美歌や賛美歌を理解して歌うこと、聖劇を作り演じること、神の創造の業である自然環境に親しみ、それを保育・教育に活かすことを経験し、その準備、実行、振り返りの流れを理解する。 ・子どもの発達段階を理解し、キリスト教保育・教育の役割と初等・中等教育への接続の課題を知る。 ・幼児、初等・中等教育者となる意味と喜びを理解し、学ぶ意欲を持つ。

教授方法	毎回配布するレジュメに基づく講義、グループによる活動と発表、学外保育者・教育者との交流、聖話および聖劇の制作・発表、自然体験などによる。
履修条件	キリスト教関連科目、および教育に関する基本科目の履修済が望ましい（単位未修得も可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス　授業予定、祈りの作成と賛美歌合唱についての説明など。近代教育史におけるキリスト教保育・教育の位置と意義を学び、理解する。オーベルラン、ペスタロッチ、フレーベルなどの保育・教育思想におけるキリスト教的基盤を理解する。	楠本・中島
2	キリスト教保育・教育の基盤である聖書の人間観および、それに基づくキリスト教的発達観を理解する。創世記第１章・第２章、マルコ10章など。なぜ、この一人が大切なのかを聖書から学び、「自己肯定感」について考える。	楠本・中島
3	キリスト教保育の実際について、「キリスト教保育の喜び」を主題に、現場の保育者から話を聞き、その保育実践から、保育の喜びと課題を知る。キリスト教と保育の関係を理解する。キリスト教保育が、以後の初等・中等教育の基盤であることを理解する。	楠本・中島・キリスト教園園長・教諭
4	前回の保育現場からの報告をもとに、「一人ひとりが輝き、ともに響きあう」キリスト教保育の要点を振り返り、重要な点を確認し、理解する。小学校入学以前の子どもの姿を知り、子ども同士の衝突やトラブル、保護者への対応などの基本について、課題を整理する。	楠本・中島
5	キリスト教初等教育の実際について、北陸学院小学校教諭から、「キリスト教小学校教育の喜び」という主題で話を聞く。その教育実践から、キリスト教と初等教育の関係を理解する。交流し、教育の喜びと課題を分かち合う。保育と小学校教育の相違と継続について考え、課題を整理する。	楠本・中島・北陸学院小学校教諭
6	前回の小学校教育の現場からの報告をもとに、キリスト教初等教育の特徴、および保育と小学校教育の連携について理解する。小学校入学までに育っていることが望ましい子どもの姿とは何か。幼児から青年期までの発達段階全体を踏まえて、幼児教育の役割を確認し、小学校との連携の実際を学ぶ。	楠本・中島
7	キリスト教中等教育の実際について、北陸学院中学・高校教諭経験者から、「キリスト教中等教育の喜び」という主題で話を聞く。その教育実践から、キリスト教と中等教育の関係を理解する。交流し、教育の喜びと課題を分かち合う。保育や小学校教育との相違と継続について考え、課題を整理する。	楠本・中島・北陸学院中学高校教諭
8	前回の中等教育の現場からの報告をもとに、キリスト教中等教育の特徴、および保育・小学校教育と中等教育との連携について理解する。幼児から青年期までの発達段階全体を踏まえて、幼児・初等教育の役割を確認し、中学・高校キリスト教教育との連携の実際を学ぶ。	楠本・中島
9	キリスト教教育における礼拝。聖書のお話（聖話）を作る。指定された聖書の物語の読み方、理解の仕方、礼拝におけるお話の作り方、話し方などを理解する。平和、性、安全・健康、国際理解などの主題も意識しながら。各自でお話を作ってみる。	楠本・中島
10	キリスト教小学校・中学高校における礼拝　聖書のお話を実際に語ってみて、キリスト教教育における礼拝の意味と重要性、またその課題を理解する。良かった点と課題を評価し、分かち合う。お話し集を作成する。	楠本・中島
11	幼稚園や小学校の降誕劇を視聴し、聖劇作成の要点を理解する。聖書の物語の読み方、理解の仕方、台本の作り方、演じ方などを理解する。グループごと、選んだ聖書の物語を題材に、聖劇台本を作成する。	楠本・中島
12	グループによる聖劇の発表を行う。良かった点と課題を評価し合い、分かち合う。その上で修正を加え、劇台本集を作成する。	楠本・中島
13	キリスト教保育・教育にとって、自然は、神が創造し、人間に与えられた主要な環境であり、保育・教育の重要な要素である。その自然に実際に触れ、関わる。保育・教育の素材を探し、どんな自然物をどう使うことができるか、考え、体験する。	楠本・中島
14	自然環境から素材を選び、保育・教育に生かすために、どのような方法があるか、経験し、学ぶ。自然体験レポートを作成し、提出する。	楠本・中島
15	キリスト教保育・教育についての小テストと、キリスト教保育・教育についての振り返りとまとめ。	楠本・中島

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度	20	講義での発言、グループ活動、発表、お祈りや賛美歌への参加の積極性	提出物	30	評価基準：　お祈りの原稿、聖話の原稿、聖劇の台本などの作成と出来栄え
毎回のミニレポート	25	その講義で学んだことの理解度	小テスト	25	キリスト教保育・教育についての理解度

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①前回授業のレジュメ・資料を振り返り、本シラバスにより次回内容を確認した上で、次の授業に臨む。［15分］ ②提出物（聖話原稿、聖劇台本、自然観察レポートなど）を作成し、提出する。［60分］ ③奏楽練習、お祈りの作成など、授業に臨む準備をする［30分］	毎回の授業で、前回の授業内容の振り返りと、シートに基づき、必要なコメントをする。

受講生に望むこと	①受け身ではなく、主体的に授業に参加すること（賛美歌伴奏、お祈り、グループ活動など） ②旧・新約聖書、賛美歌集を持参すること ③遅刻や欠席をせず、グループによる、お話しや劇の作成作業に進んで参加すること。	教科書・テキスト	『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』日本聖書協会、『讃美歌21』日本基督教団出版局
指定図書／参考書等	参考書／『キリスト教保育』2007年　聖公会出版、ISBN978-4-88274-181-7C3037、『新キリスト教保育指針』2011年　キリスト教保育連盟、「キリスト教保育」誌　キリスト教保育連盟、各種絵本など	その他・特記事項	①通常授業時間以外に、野外実践を２コマ続けて行う。適切な服装で必ず参加すること。 ②北陸学院第一幼稚園や小学校、同中学・高校などの保育や教育現場、また礼拝に自主的に参加・見学し、キリスト教保育・教育の実際に触れることが望ましい。

実務経験を活かした授業の概要

楠本：牧師として聖書・キリスト教研究の成果を、幼稚園園長・宗教教諭師としての経験を実例として挙げつつ、キリスト教人間観・歴史観・教育観について講義し、学生にレスポンスペーパー記入を義務付け、それに応える形で授業を進めている。
中島：小学校における勤務経験をもとに、北陸学院小学校でのキリスト教育の経験を授業内で紹介し、協議する。

授業科目名	EK240U 初歩文献講読			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目では子どもを中心に置く。子どもの行動を観察することは易しい。行動として見て取ることができるからである。しかし、頭の中で何を考えているか、つまり、思考を把握することは難しい。さらに、思考を伸ばすことはもっと難しい。そこで、『子どものものの考え方』の文献を購読し、子どものものの考え方を発達に従って理解する。そして、子どもへのかかわり方について自分なりの考えを持つ。	①子どもの考え方に興味・関心を持っている。 ②文献を購読して「知ったこと」「驚いたこと」「これからの子どもとのかかわりに生かせること」の観点から三色ボールペンで書き込むことができる。 ③毎回の授業の割当て個所（節）を読んで感想を持つことができる。 ④子どもの考え方について「知ったこと」「驚いたこと」「これからの子どもとのかかわりに生かせること」の観点から議論に参加することができる。

教授方法	演習・講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	はじめに:子どもの思考を知ることはなぜ大切かについて知る／文献購読する意識を高め、今後の意欲をClassroomに投稿する。	
2	思考とはどういうことか①：思考の意味について知る／読後のレポートを書く。（課題の解決と提出）	
3	思考とはどういうことか②：思考の種類について知る／読後にClassroom（ドキュメント共有）で議論する。	
4	思考とはどういうことか③：思考のはかり方について知る／読後のレポートを書く。（課題の解決と提出）	
5	子どもの思考はどのように発達するか①：発達するとはどういうことかについて知る／読後にClassroom（ドキュメント共有）で議論する。	
6	子どもの思考はどのように発達するか②：思考の発達のすじみちについて知る／読後にClassroom（ドキュメント共有）で議論する。	
7	子どもの思考はどのように発達するか③：論理的思考の生まれるまでについて知る／読後のレポートを書く。（課題の解決と提出）	
8	子どもの思考の「わくぐみ」はどうつくられるか①：「いくつ」「何番目」という思考について知る／読後にClassroom（ドキュメント共有）で議論する。	
9	子どもの思考の「わくぐみ」はどうつくられるか②：「どれほど」「どれだけ」という思考について知る／読後のレポートを書く。（課題の解決と提出）	
10	子どもの思考の「わくぐみ」はどうつくられるか③：「どんな大きさ」「どんな形」という思考について知る／読後にClassroom（ドキュメント共有）で議論する。。	
11	子どもの思考の「わくぐみ」はどうつくられるか④：「いつ」「何歳」という思考について知る／読後のレポートを書く。（課題の解決と提出）	
12	子どもの思考の「わくぐみ」はどうつくられるか⑤：「たまたま」「おそらく」という思考について知る／読後にClassroom（ドキュメント共有）で議論する。	
13	子どもの思考の「わくぐみ」はどうつくられるか⑥：「なぜ」「どうして」という思考について知る／読後のレポートを書く。（課題の解決と提出）	
14	子どもの科学的思考をどう育てるか①：科学的思考の指導について知る／読後にClassroom（ドキュメント共有）で議論する。	
15	子どもの科学的思考をどう育てるか②：社会科的思考の指導について知る／読後のレポートを書く。（課題の解決と提出）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	35	読後レポートを書いて提出している。（7回分）	議論への参加	40	全体議論（Classroomドキュメント共有）に進んで参加している。（8回分）
文献の読み方	25	無料配付する三色ボールペンを用いて、感想を３つに分けて書いている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業の範囲（節）を事前に読み、該当ページ（行）にメモをする。メモの際、３色ボールペンを用いて、感想を３つ（「知ったこと」「驚いたこと」「これからの子どもとのかかわりに生かせること」に分けて記す。［60分］ ②分けて記した中から「感想」のもとにしたい箇所にメモ書きする。［30分］	各自の購読箇所（節）のレポートに対して授業時にコメントする。

受講生に望むこと	子どもの考え方が少しずつ分かってくると、子どもとかかわることがもっと楽しくなります。子どものことをもっと知りたいと思う気持ちを大事にして受講してください。	教科書・テキスト	『子どものものの考え方』，波多野完治・滝沢武久著，岩波新書490，1963年出版，ISBN4-00-412121-3　※絶版になっているため授業担当者が用意し頒布する。
指定図書／参考書等	なし／『子どもの認識と感情』，波多野完治著，岩波新書939，1975年出版，ISBN:4004121221	その他・特記事項	テキストを読んでの感想をClassroomに投稿してください。

実務経験を活かした授業の概要

「子どものものの考え方」について、現在の小学校で使っている教科書を学生に示しながら、子どもの科学的思考の発達の段階について考えさせている。

授業科目名	EK160U 日本国憲法			開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	土屋　仁美						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
憲法が自分たちの生活にどのように関わっているのかについて、実際に裁判となった事案や社会で議論されている事柄などをもとに学習します。現代社会を生きるうえで基盤となる憲法学的な視点や考察力を身につけることを目的とします。	①憲法の役割と機能を理解する。 ②憲法の基本的な知識や論点を理解する。 ③個人情報のデータ化、性的マイノリティ、子どもの貧困といった身近にある問題に対して、憲法学的な観点から考察する力を身につける。

教授方法	講義毎にレジュメと資料を配布します。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	憲法とは何か？：憲法の基礎知識について学びます。（授業の進め方と成績評価の方法について説明した後に、法と道徳の違い、法律と憲法の違い、日本国憲法の特徴について理解する。）	
2	日本国憲法がめざすもの：日本国憲法の基本原理について学びます。（日本国憲法の基本原理(基本的人権の尊重、国民主権、平和主義)とその関係性について理解する。）	
3	平和に生きる：平和主義、国際貢献について学びます。（前文と第9条から、平和主義と国際貢献、自衛隊について理解する。）	
4	「個」性のために：個人の尊重、憲法上の権利について学びます。（基本的人権総論として、人権の類型、享有主体、適用範囲について理解する。）	
5	データ化された個人情報：プライバシーの権利について学びます。（個人情報のデータ化に伴う問題点について、プライバシーの権利から理解する。）	
6	自分のことは自分で決める：自己決定権について学びます。（医療分野の患者の意思について、自己決定権の観点から理解する。）	
7	すぐそばにある差別：法の下の平等、不合理な差別について学びます。（性的マイノリティに関わる裁判例をもとに、法の下の平等について理解する。）	
8	なぜ差別は起きるのか？：「無意識の差別」について考える。（第7回の授業内容に基づき、具体的な出来事を通して憲法学的な考察力を向上させる。）	
9	胸の内にあるもの：思想・良心の自由について学びます。（日の丸・君が代の強制の問題について、思想・良心の自由の観点から理解する。）	
10	信じていてもいなくても：信教の自由について学びます。（信教の自由、政教分離の原則について理解する。）	
11	インターネットで広がる表現空間：表現の自由について学びます。（表現の自由の意義、内容とその限界について理解する。）	
12	表現の自由がなくなったら？：表現の自由の重要性について考える。（第11回の授業内容に基づき、具体的な出来事を通して憲法学的な考察力を向上させる。）	
13	規制緩和の表と裏：職業選択の自由について学びます。（経済的自由に対する規制目的と審査基準について理解する。）	
14	どうする？　子どもの貧困：生存権について学びます。（社会権の原則的な権利である生存権について、子どもの貧困の観点から理解する。）	
15	教えること、いじめのこと：教育を受ける権利について学びます。（教育を受ける権利の内容と「いじめ」について理解する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	25	授業内容の基本的な知識や論点の理解度についての評価します。	小レポート	5	具体的な出来事を通して憲法学的な考察力について評価します(第8、12回)。
期末テスト	70	憲法の基本的な知識や論点の理解度について評価します。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習として、教科書の該当箇所を事前に読んで、授業に臨むことが望まれます。［20分］ 教科書の該当箇所は、第1回目の授業時で指示します。事後学習として、その日のうちに配布プリント・資料をもとに復習しましょう。［30分］	小テストの解説は次回の講義時に行います。

受講生に望むこと	日ごろから時事問題に関心を持ちましょう。 授業内容に関連する出来事については、授業内で積極的に取り上げます。自身の生活とのつながりを意識しましょう。	教科書・テキスト	『基本的人権の事件簿――憲法の世界へ』、第6版、棟居快行・松井茂記・赤坂正浩・笹田栄司・常本照樹・市川正人著、有斐閣、2019年、ISBN 978-4-641-28147-9
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	状況の変化及び受講生の学修状況により、講義内容及び成績評価方法を変更する場合があります。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EK270U 異文化間ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ論			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	茶谷　丹午						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
異文化コミュニケーションには他者理解が必要である。自己の視点に依存することなく、他者の視点や考えを理解することで、ものの見方と捉え方の多様性を知ることができる。普遍的真実を求めることと平行して、個別に対する理解をいかに深めるか、またその理解の困難がどこにあるかを考えるのがこの授業の目的である。	・異文化コミュニケーションを学ぶ意義・重要性を理解する ・言葉のさまざまな側面を深く理解することにより、異文化と自文化の共通性と差異を再考する。 ・文化的背景の異なる人々の共生を身近な問題として考えることができる。

教授方法	講義、ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：異文化コミュニケーションをいかに学ぶか	
2	ことばによるコミュニケーション①：言語と文化の関係について基礎知識を身につける	
3	ことばによるコミュニケーション②：ことばの含み、コミュニケーション・スタイルについて理解を深める	
4	ことばによるコミュニケーション③：ポライトネスについての理解を深める	
5	ことばのないメッセージ①：ノンバーバル・コミュニケーションについての理解を深める	
6	ことばのないメッセージ②：身体動作、ジェスチャー、アイコンタクトについての理解を深める	
7	ことばのないメッセージ③：アサーティブ・コミュニケーションについての理解を深める	
8	常識と固定観念①：美徳、価値観に関する知識を習得する	
9	常識と固定観念②：ステレオ・タイプ、クリティカル・シンキングについての理解を深める	
10	常識と固定観念③：差別について考えるための知識を身につける	
11	異文化受容①：カルチャーショック、異文化受容における５つの段階についての知識を得る	
12	異文化受容②：メタ認知、自己開示についての理解を深める	
13	異文化受容③：国際化、グローバル化についてディスカッションを行うことで異文化理解についての理解を深める	
14	発表（プレゼンテーション）と総評　①	
15	発表（プレゼンテーション）と総評　②	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題レポート	50	1500字程度のレポートを課す。テーマ、書き方、締め切り等は授業で指示する。	プレゼンテーション	30	異文化コミュニケーションについて関心のあることをまとめて発表してもらう。レジュメを用意すること。詳細は授業でお知らせする。
授業取組状況	20	授業内に行う課題やディスカッションに積極的に取り組んでいるか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前に配布した資料を読み予習をしておくこと。[30分] ②授業後、毎回復習を行うこと。[30分]	提出されたレポートは、次回以降の授業で返却する。

受講生に望むこと	異文化に対する自らの関心に従って積極的に研究・調査をしてほしい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EK280U 児童文学			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	中島　賢介						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義は、明治期以降の日本における児童文学を、定義、諸分野、歴史的流れといった視点から概観する。また、作品を輪読したり、精読したりすることでそれらが持つ特性や魅力について考察し、日本児童文学史上における位置づけと意義を明らかにする。また、受講生同士が毎回のブックトークを通して児童文学をより身近に感じ親しむ。なお、授業の中で児童文学とキリスト教との関連についても触れる。 ※SDGsターゲット4.1～4.c関連科目	①明治以降の児童文学の流れを理解し、分かりやすく説明ができる。 ②児童文学作品に対する調査研究の方法を修得する。 ③児童文学作品の持つ特徴や作品価値について、分かりやすく説明ができる。

教授方法	講義およびブックトーク
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要、成績評価方法などの悦明を行った上で、児童文学の定義について理解する。	
2	「子ども観」をキーワードに、ヨーロッパにおける児童文学と日本の児童文学の歴史を概観する。	
3	「神話・伝説・民話」をキーワードに、伝承文芸の特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。	
4	「偉人だけが偉いのか」を主題として、歴史物語の特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。	
5	「行って帰る」構図を中心に、冒険物語の特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。	
6	「小さい子を対象にした作品は短いほうがよいのか」という主張を中心に、幼年童話の特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。	
7	「少年少女にとっての家族・学校」をキーワードに、少年少女小説の特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。	
8	「動物は観るものなのか、飼うものなのか、食べるものなのか」を主題として、動物物語の特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。	
9	「戦争児童文学はなぜ反戦児童文学ではないのか」を主題として、戦争児童文学の特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。	
10	「絵本の発祥は西洋か、日本か」を主題として、絵本の歴史を理解し、代表的な作品を読み解く。	
11	「ここのファンタジーと向こうのファンタジー」を主題として、ファンタジーの特徴を理解し、代表的作品を読み解く。	
12	「わらべうた、唱歌、童謡はどう違うのか」を主題として、童謡の特徴を理解し、代表的作品を読み解く。	
13	「『君たちはどう生きるか』が漫画化された、アニメ化された」を主題として、漫画及びアニメーションの特徴を理解し、原作、漫画、アニメ作品を比較検討する。	
14	「大人に利用される児童文学」を主題として、児童文学や教科書が社会的問題に利用された事例や危険性について理解する。	
15	全体のまとめ、課題作成のためのアドバイス	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	20	授業内容理解に努め、各回のコメントペーパーや課題に取り組んでいる。	ブックトーク	30	各自で設定したテーマに従って児童文学作品を複数冊紹介する。
最終課題	50	ブックトークで紹介した作品について、それぞれが持つ特徴や魅力についてレポートにまとめる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
指定された箇所及び作品を読む［90分］ 担当回までにブックトークの準備を行う。［60分］	課題やコメントペーパーについて、事後にコメントし、レポート作成へのアドバイスを行う。

受講生に望むこと	子どものために書かれた作品は幅広く奥深い。作品は通読するだけでなく、自分なりに課題意識をもって読むこと。	教科書・テキスト	『アプローチ児童文学』関口安義編　翰林書房　2019年 ISBN：978-4877372576
指定図書／参考書等	なし／『児童文学の教科書』川端有子　玉川大学出版部　2013年 ISBN：978-4472404634 『児童文学論』リリアン・H・スミス　岩波現代文庫　2016年 ISBN：978-4006022822	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EK290U 郷土の文学を楽しむ			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	中島　賢介						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
石川県は、金沢の三文豪をはじめ散文韻文ともに数多くの作家を輩出している。本講義では、小説やエッセイのみならず、短歌・俳句・川柳・自由詩なども紹介しながら「郷土の文学の楽しみ方」を提案する。ただ、担当教員が地元ゆかりの文学作品を紹介するだけでなく、受講生が金沢市内の文学館・博物館や文学碑を巡るフィールドワーク、朗読会への参加、調査研究や創作発表を通して体験的に郷土の文学を学び、より身近に感じる。 ※SDGsターゲット4.7,6.1～6.b,14.1～14.c,15.1～15.c関連科目	①石川県ゆかりの作家や作品について理解し、わかりやすく説明することができる。 ②フィールドワークによって、テーマに沿って金沢市内の文学館や博物館を巡り、作品や作家をより身近に感じることができる。 ③自分の深めたい作品作家について研究し、その成果を効果的にプレゼンテーションすることができる。

教授方法	プリントを使用した講義、フィールドワーク、朗読会、研究発表会
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要、成績評価方法などの説明を行った上で、受動的態度から能動的態度をもって文学に関わる楽しさについて考える。	
2	江戸期以前の文学：歌枕として親しまれて、さまざまな古典文学に登場する北陸の地について理解する。	
3	江戸期の文学：松尾芭蕉、加賀千代女、勧進帳などを取り上げ、近世文学に登場する北陸の地について理解する。	
4	金沢の三文豪①：泉鏡花の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
5	金沢の三文豪②：徳田秋声の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
6	金沢の三文豪③：室生犀星の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
7	加賀の作家と作品①：加賀出身ゆかりの作家の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
8	加賀の作家と作品②：加賀出身ゆかりの詩人の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
9	能登の作家と作品①：能登出身ゆかりの作家の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
10	能登の作家と作品②：能登出身ゆかりの詩人の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
11	金沢の作家と作品①：金沢出身ゆかりの作家の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
12	金沢の作家と作品②：金沢出身ゆかりの作家の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
13	北陸学院の作家と作品：北陸学院ゆかりの作家詩人の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
14	詩の朗読会：自作の詩を持ち寄り、朗読会を開く。	
15	研究発表会：これまでの学びをさらに発展させ、各自が研究成果を発表する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	30	講義内容、感想や考察などをコメントペーパーにまとめる。	朗読会	30	自作の短編・詩の創作と朗読を行う。
研究発表会	40	研究した内容について、独自の手法で成果を報告する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回、指定された作品箇所を読み、内容を把握する。［30分］ 各自、半日から一日をかけて金沢市内の文学館・博物館・文学碑を巡るフィールドワークを行う。［180分～240分］	毎回の冒頭に、前回提出されたコメントペーパーの内容を紹介しコメントする。

受講生に望むこと	この機会に郷土の文学に触れてほしい。他学科生の履修も歓迎する。 フィールドワークにかかる費用（交通費、入館料など）は実費とする。	教科書・テキスト	なし。適宜プリントを配布する。
指定図書／参考書等	なし／『ミリアニア　石川の近代文学』金沢近代文芸研究会編　能登印刷出版　2001年　ISBN：978-4890103898	その他・特記事項	金沢の三文豪を始め、郷土作家の作品は、「青空文庫」（https://www.aozora.gr.jp）でも読むことができる。 新型コロナウイルス感染状況によっては、フィールドワーク、朗読会、研究発表会を中止し、代替授業にすることがある。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ES201U 英語学概論			開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この講義は中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)の「教科及び教科の指導法に関する科目」の内、「英語学」の必修科目である。 言語を学ぶとはどういうことか、英語ということばの輪郭と背景を身近なところから考え、ことばのもつさまざまな側面のうち、歴史的変化、音声、語彙、基本的な文構造、意味についての基礎を学ぶ。	・英語コミュニケーション能力を育成する英語教員に必要な英語学についての基本的知識を身につける。 ・英語という言語の発音・発音とスペリングの関係・形態論・変化などについて基礎知識を身につける。

教授方法	講義
履修条件	①中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)取得希望者、②小学校教諭一種免許状取得希望者、③高校英語までの基本的理解ができていること(英検準2級相当以上)が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：「英語学」を学ぶとはどういうことかを知る	
2	ことばの起源と語族について概観する	
3	人間のことばの特質と言語研究の概要を英語を中心に学ぶ	
4	英語の発音とスペリングの仕組み、記述方法、法則性を理解する	
5	英語の歴史と関連させて英語の語彙の多様性を知る	
6	英語の歴史に沿って発音･語彙・文法の変化や標準英語の成立を知る	
7	英語のバリエーション、第二言語としての英語、外国語としての英語について、現在の英語をめぐる状況とともに知る	
8	言語音についての基本を知る	
9	音声言語としての英語の特徴を知る	
10	単語ができる仕組みを理解する	
11	形態論と形態素、語形成について、実例とともに理解を深める	
12	英語の文の基本的な構造を理解する	
13	ことばの意味について英語の例に基づいて理解する	
14	語の間の意味関係や意味拡張について知る	
15	全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度･理解度、毎回の課題	40	質問をする、言語資料を示す等、講義内容に対して積極的に取り組んでいるか。毎回課題とともに講義終了時に書いて提出するリフレクションの内容。	定期試験	60	講義内容の理解度

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
･日常的に英語学習を行い、さまざまな英語の実例に触れておくこと。 ･テキストの該当部分を予習する。同様の実例を収集しておく。［50分］ ･講義内容に照らし、日本語と対照してみる。また関連する英語学関係の書籍を読む。［40分］	返却時に行う

受講生に望むこと	・日常的に英語に触れ(聞く・話す･読む・書く)、英語に親しむ。 ・日頃から英語･日本語を問わず「ことば」に関心を持つと良い。	教科書・テキスト	『はじめての英語学<改訂版>』　長谷川瑞穂編著　大井京子他著　2014年　研究社 ISBN: 978-4327401658 ・他に必要な教材は適宜配布する
指定図書／参考書等	開講時に指示する	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ES301U 英語学			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この講義は中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)の「教科及び教科の指導法に関する科目」の内、「英語学」の選択科目である。(子ども教育学科Cコースの学生にとっては必修科目である。) 「英語学概論」で学んだことを基礎に、ことばのもつさまざまな側面のうち、英語の形態素、文構造、意味にいての理解を深めると同時に、コミュニケーション場面における言語の特徴や、ことばと認知/社会/文化との関係について言語使用の観点から学ぶ。	・英語コミュニケーション能力を育成する英語教員に必要な、さまざまな側面からの英語学的知見を身につける。 ・英語という言語の統語論・意味論・語用論・社会と言語の関係・文化と言語の関係を理解する。 ・講義の中で学んだことを踏まえて、日本の英語教育と今日の英語について概観し、今後の方向性や課題について考えることができる。

教授方法	講義
履修条件	①中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)取得希望者、②小学校教諭一種免許状取得希望者、③「英語学概論」を履修済みが望ましい

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	英語の語の成り立ち、語形成について実例とともに理解を深める	
2	英語の文構造、文の内部構造について、分析的に理解する	
3	認知と関連させた文法研究について知る	
4	メタファ、メトニミなど意味拡張について理解する	
5	ことばの意味に見られる主観性について理解する	
6	ことばの意味とコンテクストについて考える	
7	まとまりのある文章とはどのようなものか理解する	
8	文章中の情報構造を理解する	
9	ことばのやりとりにおけるルールがあることを理解し、実例で確認する	
10	協調の原理と関連性理論について理解する	
11	コミュニケーションの民俗誌を概観する	
12	ことばと文化の関係を英語を例に考える	
13	ことばと社会の関係について、具体例を挙げながら考える	
14	言語習得と外国語学習について理解する	
15	全体のまとめと日本における英語教育についての展望	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度・理解度、毎回の課題	30	質問をする、言語資料を示す等、講義内容に対して積極的に取り組んでいるか。毎回課題とともに講義終了時に書いて提出するリフレクションの内容。	定期試験	70	講義内容の理解度

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・日常的に英語学習を行い、さまざまな英語の実例に触れておくこと。 ・テキストの該当部分を予習する。同様の実例を収集しておく。［50分］ ・講義内容に照らし、日本語と対照してみる。また関連する英語学関係の書籍を読む。［40分］	返却時に行う

受講生に望むこと	・日常的に英語に触れ(聞く・話す・読む・書く)、英語に親しむ。 ・日頃から英語・日本語を問わず「ことば」に関心を持つと良い。	教科書・テキスト	『はじめての英語学<改訂版>』　長谷川瑞穂編著　大井京子他著　2014年　研究社 ISBN: 978-4327401658 ・他に必要な教材は適宜配布する
指定図書／参考書等	開講時に指示する	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ES210U 英語音声学Ⅰ			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この講義は中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)の「教科及び教科の指導法に関する科目」の内、「英語学」の必修科目である。 音声言語としての英語の特徴を理解し、コミュニケーションに必要な英語音声の基礎を理論と実践で学ぶ。	・英語コミュニケーション能力を育成する英語教員に必要な英語音声学についての基本的知識を身につける。 ・日本語とは異なる英語のリズム､音体系について理解する。 ・英語の子音を中心に、調音点・調音法に留意しながら正しい発音のしかたを理解し発音できるようにする。

教授方法	講義と演習
履修条件	①中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)取得希望者、②小学校教諭一種免許状取得希望者、③高校英語までの基本的理解ができていること(英検準2級相当以上)が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション:「音声学」ではどのようなことを学ぶのかを知る　英語らしい発音(音とリズム)を日本語と比較する	
2	調音器官とは何かを知り、体験的に理解する	
3	調音点にはどのようなものがあるかを知り、体験的に理解する	
4	調音法にはどのようなものがあるかを知り、体験的に理解する	
5	破裂音(1) 破裂音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテクストの中で発音する	
6	破裂音(2) 前回の理解を踏まえて、日英語対照の観点から注意すべき発音を体験的に学ぶ	
7	摩擦音(1) 摩擦音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテクストの中で発音する	
8	摩擦音(2)　前回の理解を踏まえて、日英語対照の観点から注意すべき発音を体験的に学ぶ	
9	破擦音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテクストの中で発音する	
10	鼻音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテクストの中で発音する	
11	側音の仕組みを知り、単音として及びコンテクストの中で発音する	
12	接近音(1) 接近音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテクストの中で発音する	
13	接近音(2) 前回の理解を踏まえて、日英語対照の観点から注意すべき発音を体験的に学ぶ	
14	英語の母音体系について概観する	
15	全体のまとめ　日本語との違いに留意して英語らしい発音で英文を読む	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	30	単元の理解度	音声実技	20	講義で学んだことが実際の英語発音として実現できているか
定期試験	50	講義内容の理解度			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
･テキスト該当箇所を予習してくる。その課に出てくる語句で未知語があれば、辞書で調べ、意味を理解しておく。［40分］ ･付属音声教材を聞いて何度も練習し、モデル音声に近づける努力をする。その際、最後にはテキストを見ないで、聞いた音声をシャドウイングできるようにする。［50分］	返却時に行う

受講生に望むこと	･常日頃から英語に接し(聞く･話す･読む･書く)、英語力の維持･向上に努める。	教科書・テキスト	①『アメリカ英語の発音教本〈四訂版〉American English Pronunciation: A Drill Book』津田塾大学英語英文学科編　2021年　研究社　ISBN: 978-4327401764 ②他に必要な教材は適宜配布する
指定図書／参考書等	なし／『A Course in Phonetics 6版』　Peter Ladeforged, Keith Johnson著. 2010年.　センゲージ　ISBN: 978-1428231276	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ES310U 英語音声学Ⅱ			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この講義は中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)の「教科及び教科の指導法に関する科目」の内、「英語学」の必修科目である。 英語音声学Ⅰに引き続き、音声言語としての英語の特徴を理解し、コミュニケーションに必要な英語音声の基礎を理論と実践で学ぶ。	・英語音声学Ⅰに引き続き、英語コミュニケーション能力を育成する英語教員に必要な英語音声学についての基本的知識を身につける。 ・英語の母音を中心に、正しい発音のしかたを理解し発音できるようにする。 ・語強勢やイントネーションなど英語のプロソディについて基礎知識を身につける。 ・「英語音声学Ⅰ」「英語音声学Ⅱ」で学んだことを踏まえて、平易な英文を英語らしい発音で読むことができる。

教授方法	講義と演習
履修条件	①中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)取得希望者、②小学校教諭一種免許状取得希望者、③高校英語までの基本的理解ができていること(英検準2級相当以上)が望ましい。④「英語音声学Ⅰ」を履修していること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	「英語音声学Ⅰ」で学んだ子音、接近音､母音の中での中で特に注意すべき発音を確認する	
2	前母音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテクストの中で発音する	
3	後母音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテクストの中で発音する	
4	中母音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテクストの中で発音する	
5	二重母音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテクストの中で発音する	
6	語強勢と句強勢について学び、ストレス・パタンに注意して発音する	
7	音節とは何かを学び、英語の音節構造を具体例の発音とともに理解する	
8	機能語と内容語の区別を知り、文強勢にどのような影響するかを発音練習を通じて理解する	
9	強形と弱形について学び、リズムに注意した発音練習を通じて理解する	
10	連結とは何かを学び、実例を発音しながら仕組みを理解する	
11	脱落とは何かを学び、実例を発音しながら仕組みを理解する	
12	同化とは何かを学び、実例を発音しながら仕組みを理解する	
13	イントネーションの基本を学び、適切な音調で発音する	
14	イントネーションの機能と意味について、実際に発音しながら理解を深める	
15	まとめ　プロゾディの重要性を確認し、英語らしい発音に留意して英文を読み、自己の発音についての課題を把握する	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	20	単元の理解度	音声実技	30	講義で学んだことが実際の英語発音として実現できているか
定期試験	50	講義内容の理解度			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
･テキスト該当箇所を予習してくる。その課に出てくる語句で未知語があれば、辞書で調べ、意味を理解しておく［40分］。 ･付属音声教材を聞いて何度も練習し、モデル音声に近づける努力をする。その際、最後にはテキストを見ないで、聞いた音声をシャドウイングできるようにする［50分］。	返却時に行う

受講生に望むこと	･常日頃から英語に接し(聞く･話す･読む･書く)、英語力の維持･向上に努める。	教科書・テキスト	①『アメリカ英語の発音教本〈四訂版〉American English Pronunciation: A Drill Book』津田塾大学英語英文学科編　2021年　研究社　ISBN: 978-4327401764 ②他に必要な教材は適宜配布する
指定図書／参考書等	なし/『A Course in Phonetics 6版』　Peter Ladeforged, Keith Johnson著. 2010年.　センゲージ　ISBN: 978-1428231276	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ES220U 言語教育のための英文法Ⅰ			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	伊藤　雄二						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
文法とはコミュニケーションを取るために、当該言語使用者間で共有されている言語の規則である。授業では、ねらいとする文法項目を特定の場面で情報を正しく理解・発信するためにどのように用いるべきかを学び、その知識を言語教育にどう活かすかを考える。	①英語科教員が英語指導で必要とされる文法事項を単なる知識ではなく自然な文脈の中で使用できるようになること。（具体的にはCEFR B1～B2(実用英語技能検定2級～1級)程度の力を習得する。） ②中学生や高校生にとって理解しやすい文法の説明方法の基礎を習得する。

教授方法	受講者の中学・高校での学習歴を確認しながら未習得な項目に焦点を当て、できるだけ口頭作業を取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価方法を説明し、英語教育における文法指導の功罪について説明し、望ましい文法指導のあり方をディスカッションする。 現在形にはどのような種類があり、単純現在形とはどう違うのかを理解し、適切な場面や文脈で単純現在形や現在進行形の文を用いることができるようになる。	
2	単純現在形と現在進行形の文構造の違いを理解し、「動作動詞」と「状態動詞」の区別ができるようになること。また、その区別を意識しながら、適切な場面や文脈で現在進行形の文を用いることができるようになる。	
3	単純現在形と現在進行形の意味的な違いを理解し、aspect（相）の概念を把握できるようになる。また、英語には「進行相」と「完了相」があることを説明する。	
4	単純現在形と現在進行形で用いられる動詞の違いを理解し、それぞれの場面に応じて単純現在形と現在進行形のいずれかを、適切な場面や文脈で用いることができるようになる。	
5	過去形にはどのような種類があり、単純過去形とはどう違うのかを理解し、適切な場面や文脈で単純現在形の文を用いることができるようになる。規則動詞と不規則動詞を振り返り、単純過去形の疑問文や否定文を適切な場面や文脈で用いることができるようになる。	
6	動作動詞や状態動詞の概念を振り返り、単純過去形と過去進行形の違いを理解し、過去進行形を適切な場面や文脈で用いることができるようになること。	
7	現在形における現在完了形の位置づけを理解し、時間的な意味の特徴を確認しながら、適切な場面や文脈で用いることができるようになること。ここでも aspect(相)の概念を振り返り、英語特有の表現方法を知る。	
8	現在完了形と過去形との違いを理解する。特に現在完了形は過去形ではないことを再確認し、「現在と何らかの関係」があることを理解する。just, already, yet などとともに、適切な場面や文脈で現在完了形を用いることができるようになる。	
9	現在完了形と過去形との違いを教科書の図を用いて、時間的な意味の違いを把握できるように説明する。また、「過去の時を指定する語句」と現在完了形が共起しないことを理解し、適切な場面や文脈で用いることができるようになる。	
10	現在完了形と現在完了進行形との違いを教科書のイラストを用いて、時間的な意味の違いを把握できるように説明する。ここでも、「動作動詞」と「状態動詞」の違いを意識しながら、適切な場面や文脈で現在完了進行形を用いることができるようになる。	
11	現在完了進行形と単純現在完了形との違いを教科書のイラストを用いて、動作の完了や継続を意識しながら意味を理解できるように説明する。ここでも、「動作動詞」と「状態動詞」の違いを意識しながら、know, like , believe などの例外を理解する。	
12	現在完了形とHow long～？の共起関係を理解し、 過去形とWhen ¯?の共起関係との違いを理解する。また、それぞれを適切な場面や文脈で用いることができるようになる。	
13	過去形と過去完了形の違いを理解し、特に後者の「基準点」の概念を把握できるようになる。また、時間的な意味の違いを時間軸の中で理解できるようになる。また、それぞれを適切な場面や文脈で用いることができるようになる。	
14	過去完了形と過去完了進行形との違いを教科書のイラストを用いて、時間的な意味の違いを把握できるように説明する。ここでも、「動作動詞」と「状態動詞」の違いを意識しながら、適切な場面や文脈で過去完了進行形を用いることができるようになる。	
15	全体のまとめを行い、教師という教える立場で文法の功罪をデスカッションし、後期「言語教育のための英文法Ⅱ」へのモチベーションを高める。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
毎回の小テスト	30	毎回の授業内容を理解できているか。	試験	50	基本的な英文法の知識を習得しているか。
授業参加状況	20	文法理解のためのアイデア提供やそれに対する意見・質問を発しているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回の授業内容に該当する、教科書の関連ページに目を通してから授業に臨んで下さい。[30分] ②予習・家庭学習課題を指定し、その中から次回の小テストを出題しますので必ず準備すること。[60分]	①小テストや試験の結果については、問題ごとにその出題の意図や定着度について授業中にコメントする。 小テストの前に質問タイムを設けるので積極的に質問すること。

受講生に望むこと	①教科書の例文や、授業中に提示した例文は少なくても５回は声に出して繰り返しましょう。 最後は、英文を見ないでボソボソとでもよいので言ってみましょう。	教科書・テキスト	『マーフィのケンブリッジ英文法（中級編）』第４版 Raymond Murphy著　ケンブリッジ大学出版　2021 ISBN:978-4889969467
指定図書／参考書等	なし／『中学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省　開隆堂出版　2018 ISBN-13: 978-4304051692 、『高等学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省　開隆堂出版　2019 ISBN-13: 978-4304051784	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

中学・高等学校の教員の経験をもとに、現場で実際に起きた生徒のつまづき（特に文法）とその対応策を大学の授業に生かしている。また、文法用語を極力使用せずにわかりやすい説明を心掛けている。

授業科目名	ES320U 言語教育のための英文法Ⅱ			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	伊藤　雄二						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
文法とはコミュニケーションを取るために、当該言語使用者間で共有されている言語の規則である。授業では、ねらいとする文法項目を特定の場面で情報を正しく理解・発信するためにどのように用いるべきか学び、その知識を言語教育にどう活かすかを考える。	①英語科教員が英語指導で必要とされる文法事項を単なる知識ではなく自然な文脈の中で使用できるようになること。（具体的にはCEFR B1～B2(実用英語技能検定2級～1級)程度の力を習得する。） ②中学生や高校生にとって理解しやすい文法の説明方法の基礎を習得する。

教授方法	受講者の中学・高校での学習歴を確認しながら未習得な項目に焦点を当て、できるだけ口頭作業を取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価方法を説明し、英語教育における文法指導の功罪について説明し、望ましい文法指導のあり方をディスカッションする。 英語で未来を表す表現にはどのような種類があり、現在進行形と単純現在形では、どのような未来を表すかを説明し、適切な場面や文脈で単純現在形や現在進行形の文を未来を表す表現として用いることができるようになる。	
2	現在進行形とbe going to を用いた未来表現の違いを理解し、is going to と was going to の違いを考える。その際、「確実に予想できる未来」の概念を把握できるようになる。また、その概念を意識しながら、適切な場面や文脈で be going to を用いることができるようになる。	
3	法助動詞will（1）:動詞によって表される状態や出来事に対する話し手・書き手の態度を示す働きがあることを理解し、will 以外にどのような法助動詞があるか考える。また、will には提案、承諾、要請、約束、依頼などの状況で用いられることを理解し、状況を判断しながら、will を用いることができるようになる。	
4	法助動詞will（2）:法助動詞として未来を予測する働きがあることを理解する。will と I expect, I'm sure, I think, I guess, I wonder などとの共起関係では、文全体に「丁寧さ」が加味されることを意識しながらwill を用いることができるようになる。	
5	will と be going to：この二つの未来表現の違いは話し手が何かを決心する時点の違いにあることを説明する。その説明を基に例文を黙読しながら意味の違いや話し手の心の様子を察してみる。また、長文の中でwill や be going to の違いが確認できるようになる。	
6	will be ¯ing と will have done：この二つの未来表現の違いは未来の一時点における動作の始まりや完結を表すことにあることを説明する。その説明を基に例文を見ながら意味の違いや話し手の心の様子を察してみる。また、長文の中でwill be ing やwill have done の意味や場面の違いが確認できるようになる。	
7	時や条件を表す副詞節内の時制：時を表すwhen節内ではwill を用いないことを説明し、その理由を考えてみる。また、時を表す副詞節には、他にどのような例があるかを考えてみる。同様に条件節内でも同じことが起こることを確認する。以上のことを踏まえ、when, as soos, as, if などを英文に用いることができるようになる。	
8	法助動詞can：can の過去形のcould はその意味が必ずしも過去形にならないことを説明し、be able to や manage to との関係を理解する。また、could と「知覚や思考に関する動詞」共起関係及びcouldn't を用いた否定文の用法を理解し、それぞれを英文に用いることができるようになる。	
9	could do と could have done：ここではまず初めに、過去形には「時間的な過去」と「心理的な過去」の二つの用法があることを説明する。後者の意味から、can, may, might, could の順で話し手の話の内容の可能性が低くなることを説明する。また、could do の過去はcould have done の形になることを理解する。	
10	必然性や推量を表すmust：must には過去形がないことを確認し、必然性や推量の意味を表す場合の過去は、must have done の形をとることを説明する。また、可能性の意味を表すcan't とcouldn't の違いを考えながら、それぞれを英文に用いることができるようになる。	
11	法助動詞may：may の過去形might の意味が過去形にならないことを説明する。ここでも 過去形には「時間的な過去」と「心理的な過去」の二つの用法があることを説明し、can, may, might, could の順で話し手の話の内容の可能性が低くなることを復習する。	
12	may と might：推量の意味を表すmay の過去は may have done, また might の過去はmight have done になることを説明する。また、may とmight には大きな意味的な違いがないことを理解する。	
13	shall とshould：shall と should の関係、should とought to の違いを説明する。その説明から、must, will, ought to, should, can, may, might, could の順で話し手の話の内容の可能性が低くなることを復習する。	
14	仮定法過去：過去形の二つの用法を振り返り、「時間的な過去」と「心理的な過去」の概念を把握できるようになる。また、仮定法過去では、現実には起こりえないことを想像するということを説明し、実際に仮定法過去の英文を用いることができるようになる。	
15	仮定法過去完了：仮定法過去を復習し、ここでは事実とは異なる「過去の出来事」に焦点を当てることを説明する。仮定法過去完了を用いた文構造や意味について、教科書の例文を通して確認し、実際に用いることができるようになる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
毎回の小テスト	40	毎回の授業内容を理解できているか。	試験	40	基本的な英文法の知識を習得しているか。
授業参加状況	20	文法理解のためのアイデア提供やそれに対する意見・質問を発しているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回の授業内容に該当する、教科書の関連ページに目を通してから授業に臨んで下さい。[30分] ②予習・家庭学習課題を指定し、その中から次回の小テストを出題しますので必ず準備すること。[60分]	①小テストや試験の結果については、問題ごとにその出題の意図や定着度について授業中にコメントする。 小テストの前に質問タイムを設けるので積極的に質問すること。

受講生に望むこと	①教科書の例文や、授業中に提示した例文は少なくても５回は声に出して繰り返しましょう。 最後は、英文を見ないでボソボソとでもよいので言ってみましょう。	教科書・テキスト	『マーフィのケンブリッジ英文法（中級編）』第４版 Raymond Murphy著　ケンブリッジ大学出版　2021 ISBN:978-4889969467
指定図書／参考書等	なし／『中学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省　開隆堂出版　2018 ISBN-13: 978-4304051692 、『高等学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省　開隆堂出版　2019 ISBN-13: 978-4304051784	その他・特記事項	①前期「言語教育のための英文法Ⅰ」よりも進度が早くなるので計画的に予習を心がけること。 ②Classroomを用いて課題を提示することがある。

実務経験を活かした授業の概要

中学・高等学校の教員の経験をもとに、現場で実際に起きた生徒のつまづき（特に文法）とその対応策を大学の授業に生かしている。また、学生自身の文法力をメタ認知させるよう心掛けている。

授業科目名	ES231U 英語文学Ⅰ			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	木梨　由利						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
英米において英語で書かれた文学作品を、文学史の中で、あるいは個別に捉えることで、英語による表現への理解を深めると共に、英語が使われている地域の文化について理解し、中学校及び高等学校における外国語科の授業に生かすことができる。	１）文学を論じる時に使用されている様々な英語表現について理解している。時代によって言語の用いかたや意味が変化してきたことも併せて理解する。 ２）文化や歴史など、多様な文学作品が生まれた背景を広い視野を持って理解している。 ３）イギリスおよびアメリカで、英語を用いて書かれた代表的な文学作品について理解している。

教授方法	基本的には講義科目となりますが、時に受講者に質問をしたり、作品への解釈を求めるなど、受講者の発言を促しつつ進めます。
履修条件	中学または高等学校の英語教諭免許の取得を希望する者、または、英語や英文学の学習に関して同程度の意欲を持つ者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業に関するガイダンス。イギリスという国のなりたち と、古英語の文学が現れる頃までについて理解する。	
2	古英語・中英語の文学の時代（11世紀頃～14世紀末）からルネサンス期の半ばまでの代表的などを通して、中英語が近代英語に変化していく過程をも理解する。	
3	シェイクスピアの時代（16世紀～17世紀初頭）を中心に　それ以前の演劇の発生過程や、シェイクスピアの同時代人の詩や演劇についても理解する。	
4	ジェイムズ王の時代からドライデンの時代へ（17世紀初期～後期）　ミルトンなど、清教徒革命や王政復古など動乱の時代に生きた作家たちの人生にも着目したい。	
5	ポープの時代からジョンソンの時代へ（18世紀）　理性や秩序が重んじられた時代であるが、次第にロマン主義の萌芽も見いだされるようになることにも注目する。	
6	小説の始まりと発展（18世紀中期～19世紀初期）小説というジャンルの創始者であるリチャードソンたち4人の作家と女性作家の登場について理解する。	
7	ロマン主義時代（18世紀末～19世紀中期）と、19世紀後期の詩と散文。　ワーズワースの詩などを実際に読む。	
8	ヴィクトリア時代(1837-1901)の小説。「小説の世紀」とも呼ばれる19世紀に活躍した、ディケンズ、ブロンテ姉妹、G．エリオット、ハーディなどの作品について理解する。	
9	20世紀初頭の文学　コンラッド、ジョイス、ウルフなどに焦点を当てる。その後の作家については、流れとして若干触れる。	
10	アメリカ植民地時代の文学（17～18世紀）　エドワーズやフランクリンなどを中心に、ピューリタニズムやヤンキーイズムなど、アメリカ文学の特性を理解する。	
11	独立から南北戦争の時代(18世紀後期～19世紀後期）まで　アメリカ独自の文学が育ち始める時代の、主として散文を、その背景との関係において理解する。アーヴィング、クーパー、エマソンなど。	
12	アメリカ文学の開花期（19世紀中期）ともいうべき時期における詩や小説。　ポー、ホーソン、ホイットマンなどについて、代表的な作品の一端に触れつつ、理解する。	
13	リアリズムの時代（19世紀後期～20世紀初頭）について。　トウェインやジェイムズなどの文学について理解する。	
14	リアリズムの時代にのおいて、自然主義の作家とされるクレイン、ドライサーなどの作品について学習する。	
15	第一次世界大戦以後の文学（1920年代と30年代）について。　フィッツジェラルド、ヘミングウェイ、フォークナーなどの文学の一端を知る。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	50	授業の内容を正確に理解しているか、また、理解したことを自分の言葉で表現できているか。	小テスト（毎週または隔週で実施）	30	前回の授業で出てきた人名や作品名、文学用語などを、指示された言語で、正確に書けるか。
授業中での貢献度	20	授業中に発言などを求められた時、それに的確に応え、他の受講者をも利することができるか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業では、テキストにある情報を取捨選択し、時には情報の追加もするので、テキスやや配布資料に事前に目を通すことが必須である。［120分以上］ ②また、小テストでは、前回の授業で話したことから出題するので、テストの準備も含め、学習したことを整理しておくことが必要である。［60分以上］	小テストやその他の課題は次回の対面の授業時に返却します。期末試験については、次学期の適当な機会を探します。

受講生に望むこと	限られた時間の中で、それぞれの作品について深く語ることは不可能であるので、自分で作品を実際に読んでみるなど、主体的、積極的に勉強に取り組んでいただきたい。そうすれば、理解度も楽しみも増すはずです。	教科書・テキスト	『イギリス文学史』　川崎寿彦著　成美堂　1991年　ISBN13:978-4791934034　『アメリカ文学史』　西田実著　成美堂　1991年　ISBN13: 978-4791934003 随時プリントを配布します。
指定図書／参考書等	なし/『20世紀英語文学辞典』　上田和夫・渡辺利雄編著　研究社　2005年　ISBN -13: 978-47674900663　『英語文学事典』　木下卓・高田賢一　他　編著　ミネルヴァ書房　2007年　ISBN-13 :978-4623041299 その他については授業で紹介します。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ES331U 英語文学Ⅱ			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	木梨　由利						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
主として子どもや青少年を中心とする英文学作品を精読し、英文を正確に理解できることが最初の一歩となる。その上で、テーマや技法、作者の意図などについて、ディスカッションを通じて理解を深めていく。評論や文学辞典なども活用し、単なる思い付きではない、根拠のある議論を進めることができるようにする。同時に、作品の背景となっている英米の社会や文化、歴史などについての認識を深めていく。このようなプロセスを通じて、英語の総合的な力を養うとともに、人間や人間の心理に対する理解を深め、自分の「読み」を表現する力も養成する。	英語文学Ⅰで学んだ知識・理解を土台として、本講義では英語で書かれた文学作品の講読とディスカッションを通じて、英語による表現への理解を深め、運用能力の向上を図り、同時に、文学の鑑賞眼を養う。英検でいえば、2級から準1級程度の難度の英語が苦労せずに読め、また、自分の「読み方」を、英語で紹介できるようになる。また、英語が使われている地域の文化について理解し、中学校及び高等学校における外国語科の授業に生かすことができる。

教授方法	作品を読んで、表現や内容について教師や他の受講生と意見を交換したり、時には受講生に教師の役をやってもらう演習方式です。
履修条件	中学校または高等学校の教諭の資格を取得できるための学力や意欲を備えていること。また、英語文学Ⅰを取得済みであることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業についてのガイダンス。導入として、ジャーナリズムの英語などと比較して。文学の英語とはどういうものか、どのような読み方をするのが適当か考える。	
2	事前にスキャン（辞書などを用いず、ざっと読むこと）をしてもらっておいたイギリスの作品（A)の、登場人物や物語の設定などについてクラスで話し合うことによって理解を深める。	
3	作品（A）を事前に精読、クラスでは、前半の内容や表現について発表したり、受講者同士が話し合うことによって表現や内容について正確に理解する。	
4	作品（A）の後半の内容や表現について、クラスで発表したり、受講者同士が話し合うことによって表現や内容について正確に理解する。	
5	作品（A）の特徴（構成、人物造形、描写、語り方など）についての議論。作者や作品の背景についても考察し、作者の意図を考える。	
6	アメリカの短篇小説（B）の講読と鑑賞。事前に作品をおおまかに読んでその枠組みを読み取り、クラスで議論する。	
7	作品（B）を事前に精読、クラスでは、前半の内容や表現について発表したり、受講者同士が話し合うことによって表現や内容について正確に理解する。	
8	作品（B）の後半について理解したことをクラスで発表したり、受講者同士が話し合うことによって表現や内容について正確に理解する。	
9	作品（B）の特徴（構成、人物造形、描写、語り方など）についての議論。作者や作品の背景についても考察し、作者の意図を考える。	
10	作品（C）をおおまかに読んでおいて、読み取ったことをクラスで議論する。	
11	作品（C）を事前に精読しておいて、前半の内容や表現について、クラスで発表したり、受講者同士が話し合うことによって正確に理解する。	
12	作品（C）の後半の内容や表現について、クラスで発表したり、受講者同士が話し合うことによって正確に理解する。	
13	作品（C）について、作品の特徴（構成、人物造形、描写、語り方など）についての議論。作者や作品の背景についても考察し、作者の意図を考える。	
14	三作品の内容や特徴を改めて比較考察した上で、もっとも気になる作品とその理由などをそれぞれクラスで発表する。	
15	全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	50	語彙や文法が正しく理解ができているか。また、作品の理解の仕方に説得力があるか。	提出物や発言の内容	30	課題に積極的に、真剣に向きい、自分の意図を的確に伝えられているか。
小テスト	20	英語の表現について正しい理解がなされているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
作品を自分で講読したり、作者について調べ、レポートにまとめたり、クラスで発表をしてもらうことになります。辞書を丹念に引くことが必須で、最低2時間の予習は必要。②作品中の表現を自分で使えるものにしたり、ディスカッションの後に問題点を整理するために、毎回1時間程度の復習も必要と考えていただきたい。	小テストやレポートなどについては次回の授業、もしくはオンラインででコメントを添えて返却します。その他、疑問や議論に対してその都度、解答やコメントを示します。

受講生に望むこと	必ずしも日常的でない英語表現に出会って、必要と判断された場合、辞書を引くことを厭わないこと。インターネットの記事などに安易に頼らず、然るべき文学事典や批評書を使えること。理詰めで考えるだけでなく、フィクションを楽しめる柔軟な考え方を持てることが望ましい。	教科書・テキスト	プリントを配布します。最初はイギリスの短篇小説家、キャサリン・マンスフィールドの作品から読み始めます。
指定図書／参考書等	なし/『20世紀英語文学辞典』　上田和夫・渡辺利雄編著　研究社 2005年　ISBN 4-7674-9066-9　『英語文学事典』 木下卓・高田賢一他編著　ミネルヴァ書房　2007年　ISBN 978-4-623-04129-9 その他については授業で紹介する。	その他・特記事項	辞書は必ず持参してください。 演習形式であるし、作品の長さ、難易度の違いによって、必ずしも計画通りには行かないことも予想できます。二作目以降で取り上げる作品、進度などについては、受講者と相談をしながら柔軟に進めて行きます。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ES241U 英語圏の児童文学			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	木梨　由利						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
小学校での外国語活動や英語教育を経て、中学校での本格的な英語を学び始める際にスムーズな導入になるように、中学校英語教員として知るべきこととして、児童文学における発生と発展の歴史を学ぶ。また、代表的な作品を、実際に英語または日本語で講読し、個々の作品について、歴史的・文化的背景を知り、また、作者の実人生とのかかわりの中で理解を深める。	児童文学のの歴史や個々の作品について、単に知識として吸収するのみならず、実際に作品を読み、それに関する意見を発表できるようになる。文学を理解し、発表するという能動的な学びを通して、「子どもを読者対象とした狭義の児童文学」という概念を超えて、最終的には、児童文学とは何か、その特質は何なのかについて理解し、考えたことを表現できることが目標である。

教授方法	児童文学の大まかな歴史はスライドを用いての講義形式となるが、作品を実際に知っている受講者があれば、読後感等を発表してくれるのは歓迎したい。また、歴史を知るだけではなく、実際に作品の一部を英語、または日本語の翻訳で読む。また、各自、作品を1作読み、その作品を他の受講者に紹介するという形で、プレゼンテーションをしてもらう。講義の理解度をはかるための小テストも随時実施する。
履修条件	原文講読も含むので、一定レベルの英語力を有することが要件となる。また、英語文学Ｉを履修済みであることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業に関するガイダンス　児童観の変遷による「児童文学」の誕生について。	
2	19世紀半ば頃までのイギリスの児童文学（『ロビンソン・クルーソー』『シェイクスピア物語』、『クリスマス・キャロル』など）について理解し、また、一部を読む。	
3	19世紀後半のイギリスの児童文学（『不思議の国のアリス』、『北風のうしろの国』、『宝島』など）について理解し、また、一部を読む。	
4	20世紀前半のイギリスの児童文学（『砂の妖精』、『風にのってきたメアリー・ポピンズ』、『クマのプーさん』など）について理解し、また、一部を読む。	
5	20世紀半ば頃のイギリスの児童文学（『ホビットの冒険』、『ライオンと魔女』、『グリーン・ノウの子どもたち』など）について理解し、また、一部を講読する。	
6	20世紀後半のイギリスの児童文学（『トムは真夜中の庭で』、『黄金の羅針盤』、『ハリーポッターと賢者の石』など）について理解し、また、一部を読む。	
7	19世紀半ばまでのアメリカの児童文学（『モヒカン族の最後』、『スケッチ・ブック』、『アンクル・トムの小屋』など）につて理解し、また、一部を読む。	
8	19世紀後半のアメリカの児童文学（『若草物語』、『トム・ソーヤーの冒険』、『小公子』など）について理解し、また、一部を読む。	
9	20世紀前半のアメリカの児童文学（『オズの魔法使い』、『大草原の小さな家』、『小鹿物語』など）について理解し、また、一部を読む。	
10	20世紀後半のアメリカの児童文学（『クローディアの秘密』、『影との戦い』、『テラビシアにかける橋』など）について理解し、作品の一部を読む。	
11	カナダの文学　（『私が知っている野生動物』、『赤毛のアン』、『パパの最後の贈り物』など）について理解し、また、一部を読む。	
12	ニュージーランド・オーストラリアの文学　（『青さぎ牧場』、『燃えるアッシュ・ロード』、『目覚めれば魔女』など）について理解し、また一部を読む。	
13	これまでの振り返りとプレゼンテーションの準備	
14	受講者によるプレゼンテーション及びプレゼンテーションに基づく質疑応答（第1回）	
15	受講者によるプレゼンテーション及びプレゼンテーションに基づく質疑応答（第2回）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
プレゼンテーション	30	発表と、そのために作成したハンドアウトに説得力があるか。	提出物	30	作品をよく理解し、かつ、そのことを自分の言葉できちんと表現できているか。
小テスト	20	知識が正確に定着しているか。	授業への参加状況	20	授業に積極的に取り組む姿勢が見られるか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義を十分に理解するためには、配布するプリントを事前に読んでおくことが必要です。［60分程度］ また、講義で触れられたことを整理する時間［最低60分］や、プレゼンテーションのために作品そのものを読んでいただくので、そのための時間も必要です。	小テストやワークシートは次回の授業、またはオンラインでで返却します。プレゼンテーションについてのコメントは当日、または後日オンラインなどで致します。

受講生に望むこと	子どもや子どもの本が好きであること。できるだけ多くの作品を読み、楽しみ、作品や作者のメッセージについても考えるように努めてほしい。なるべく英語で読めば、英語での表現力も身につきます。	教科書・テキスト	プリントを使用します。
指定図書／参考書等	なし/『たのしく読める英米児童文学』　本多英明・桂宥子・小峰和子編著　ミネルヴァ書房、2000年　ISBN 4-623-03156-X 『オックスフォード　世界児童文学百科』ハンフリー・カーペンター／マリ・プリチャード著　神宮輝夫監訳　原書房、1999年　ISBN 4-562-03104-2 その他はクラスで指示。	その他・特記事項	授業時には辞書を持参のこと。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ES250U ｺﾐｭﾆｶﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭA			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	伊藤　雄二						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
世界の若者のインタビューを基にした教材を用いて、毎回1つのテーマを取り上げ、リスニング・リーディングで内容を理解し、インタラクティブ・アクティビティを通じて自分の考えをスピーキング、ライティングで表現する。また、絵やプレゼン・ソフトを活用し物語や説明文ををわかりやすく導入・展開する技能を身に付ける。	①様々なトピックについてリスニング、スピーキングを中心とした活動を通じて内容理解・得た情報・表現を用いて、簡潔に自分の考えを英語で話したり書いたりできるようになる。 聞き手を意識した話し方を身に付け、英語で自問自答したり、即興で説明したり、質問したりできるようになる。

教授方法	リスニングコンプリヘンション・プレゼンテーション・ストーリーテリング
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方・小テストの進め方 英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成の意味を理解し、自らのモチベーションを高める今後の学習計画を展望できる	
2	アメリカの大学生の「休暇」に関する考え方を英語で聞き、理解したことに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる 日本の昔話（桃太郎）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて説明できるようになる（話の切り出し方）	
3	ニュージーランドの大学生の「子供の時の経験」を英語で聞き、理解したことに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる 日本の昔話（桃太郎）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて説明できるようになる（話の切り出し方と展開方法）	
4	ブラジルの大学生の「余暇」に関する考え方を英語で聞き理解し、理解したことに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる 日本の昔話（桃太郎）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて説明できるようになる（話の切り出し方と展開方法、自問自答）	
5	スコットランドの大学生の「食べ物や飲み物」に関する考え方を英語で聞き、理解したことに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる 日本の昔話（桃太郎）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて説明できるようになる（話の切り出し方と展開方法、自問自答、及び即興による話の続け方）	
6	オーストラリアの大学生の「旅行」に関する考え方を英語で聞き、理解したことに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる 日本の昔話（桃太郎）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて説明できるようになる（話の切り出し方と展開方法、自問自答、即興による話の続け方、及び質疑応答）	
7	北アイルランドの大学生の「教育」に関する考え方を英語で聞き、理解したことに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる 日本の昔話（かぐや姫）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて説明できるようになる（話の切り出し方と展開方法、及び即興による話の続け方）	
8	イタリアの大学生の「ファッション」に関する考え方を英語で聞き、理解したことに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる 日本の昔話（かぐや姫）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて説明できるようになる（話の切り出し方と展開方法、自問自答、及び即興による話の続け方）	
9	日本の大学生の「海外生活」に関する考え方を英語で聞き、理解したことに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる 日本の昔話（かぐや姫）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて説明できるようになる（即興による話の続け方、聞き手とのインターラクション）	
10	ウェールズの大学生の「職業観」に関する考え方を英語で聞き、理解したことに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる 日本の昔話（かぐや姫）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて説明できるようになる（即興による話の続け方、聞き手とのインターラクション・質疑応答）	
11	アメリカの大学生の「健康」に関する考え方を英語で聞き、理解したことに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる 日本の昔話（かぐや姫）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて説明できるようになる（即興による話の続け方、聞き手とのインターラクション・質疑応答）	
12	中国の大学生の「社会変化」に関する考え方を英語で聞き、理解したことに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる プレゼンソフトを用いて、英語の自己紹介ができるようになる（personal history について）	
13	イギリスの大学生の「学生生活」に関する考え方を英語で聞き、理解したことに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる プレゼンソフトを用いて、英語の自己紹介ができるようになる（personal historyと hobbyについて）	
14	アメリカの大学生の「芸術」に関する考え方を英語で聞き、理解したことに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる プレゼンソフトを用いて、英語の自己紹介ができるようになる（personal historyと hobbyとpersonalityについて）	
15	サウジアラビアの大学生の「ショッピング」に関する考え方を英語で聞き、理解したことに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる プレゼンソフトを用いて、英語の自己紹介ができるようになる（personal historyと hobbyとpersonalityとfuture dream及び質疑応答 について）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
ストーリーテリング	40	学習したトピックについて4技能を統合的に身に付けているか。	小テスト	40	各回のトピックスについて4技能を統合的に身に付けているか。
プレゼンテーション	20	4技能を統合的に活用してプレゼンテーションができるか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
各回の授業の復習［30分］ 次時の小テストの準備［60分］	随時行う

受講生に望むこと	①積極的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとすること。 また、そのための練習方法を身に付けること。	教科書・テキスト	『World Interviews: Improving Listening and Speaking Skills』 Miles Craven著　成美堂 2006 ISBN 978-4-7919-4587-0
指定図書／参考書等	なし/『Presentations to Go』　Noboru Matsuoka, Hiroko Miyake, Takashi Tachino著　センゲージ ラーニング株式会社　2013年　ISBN: 978-4-86312-264-2	その他・特記事項	①この授業では、人前で英語を話すことに慣れ、即興性を生かしたコミュニケーション力を養成する。 ②Classroomを用いて課題を提示することがある。

実務経験を活かした授業の概要

中学・高等学校の教員の経験をもとに、現場で実際に起きた生徒のつまづき（特に発表活動）とその対応策を大学の授業に生かしている。また、プレゼン用ソフトを用いた、発表活動を取り入れている。

授業科目名	ES340U ｺﾐｭﾆｶﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭB			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、「コミュニカティブ・イングリッシュA」に続いて、中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)取得を目指す者が英語教員として必要な高度な英語運用力を習得するための必修科目である。Bでは、毎回、身近で興味深いテーマについてリスニング・リーディングを通じて賛否両論を知り、様々な練習問題を通じて理解を深めた後、自分の考えをスピーキング・ライティングで表現する。基本、授業はすべて英語で行う。	・様々なテーマについての賛否をリスニング・リーディングを通じて内容理解できる。 ・得た情報・表現を用いて簡潔に自分の考えをスピーキング・ライティングにより発信できる。 ・得た情報・表現だけでなく、新たな情報を加えて、自分の主張に説得力を持たせて発信できる。

教授方法	演習
履修条件	①基本的には中学/高校英語教免、小学校教免取得を目指す者、②すべて英語で行う授業に見合う英語力を有する者③「コミュニカティブ・イングリッシュA」を履修した者(単位未修得可)が望ましい

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション・アイスブレーキング	
2	Unit 1: 大学生の住生活をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
3	Unit 2: 学生の勉強場所をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
4	Unit 3: 高校の制服をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる	
5	Unit 4: 成人式をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
6	Unit 5: コンビニエンスストアをテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
7	Unit 6:元号をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
8	Unit 7: ポイントカードをテーマに4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
9	Unit 8: スマートフォンのタイプやマナーをテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
10	Units 9-10: 旅行・海外研修をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
11	Units 11-12: 観光・異文化をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
12	Units 13-14: 季節行事をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
13	Units 15-16: 海外の慣習・お祭りをテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
14	最新科学技術をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
15	これまでのテーマから1つを選びプレゼンテーション	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度	25	授業の中でテーマについての発言など貢献ができているか	英文エッセイ	25	学んだテーマについて正しい英語で論理的に組み立てたエッセイが書けているか
プレゼンテーション	10	自分が設定したテーマについて、新しい情報や自分の考えを加えて英語プレゼンテーションができているか	テスト	40	授業で学んだ様々なテーマについて内容や表現を理解し、自分のことばとして使えるか

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回授業で扱う課題の英文を読み、すべてに解答を記入した上で授業に臨む。［45分］ ②毎回宿題の英文エッセイを仕上げ、指定日までに提出する。［45分］ ③スピーチやプレゼンテーションの回は、各自原稿、スライド、発音など準備をする。［60分］	毎回課題の英文エッセイについては、次回に添削して返却。 スピーチ、プレゼンについては、授業内で相互評価、自己評価とともに教員からコメントをする。

受講生に望むこと	・毎回、異なるテーマについて英文を読み、聞き、それを土台にしてスピーキング、ライティングで表現することを着実に積み重ねていこう。授業中は、細かい文法にこだわるより、自身の意見を英語で声に出すことが大事なので、そのためにも予習は十分して話す内容を用意してくること。 ・英英辞書、英和/和英辞書必携。	教科書・テキスト	Johnathan Lynch・倭文光太郎著　『Two Sides of Every Discussion 2』2020年　成美堂　ISBN: 9784791972104 その他ディスカッションを深めるために必要な資料は適宜配布する
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ES260U 英語科教育法Ⅰ			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得しようとする者にとって必修科目である。英語教育の目的と目標を明確にし、英語教師として必要な英語教育についての基礎知識を学ぶ科目である。これは今日小学校教諭にも求められる知識である。また、これまで学習してきた「英語」について、教える立場から捉える第一歩であり、広く外国語を学ぶことの意義や日本の英語教育、英語教師の役割等について考える。(子ども教育学科Ｃコース、Ｂコース必修科目)	①英語教育の目的、特に今日のグローバル化時代における英語教育の目的を理解する。 ②コミュニケーション能力の育成とはどのようなことかを理解する。 ③日本の外国語教育の歴史を学習指導要領の変遷を含めて振り返るとともに、学習指導要領のめざすものについて理解する。 ④英語教師に求められる資質・知識・技能について理解する。 ⑤主な英語教授法について実演も行いながら理解する。

教授方法	講義、ディスカッション、発表
履修条件	中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)取得を目指す者、小学校教諭一種免許状取得を目指す者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション　教育実習で必要とされる知識・技能・態度について知る	
2	自分の受けてきた英語教育をふりかえる(英語教育目的論と教師論の導入)	
3	国際化時代の英語の役割(目的について考える)	
4	国際化時代の英語の役割と世界の英語教育、DVD等メディア教材、電子黒板、インターネットを活用した指導	
5	コミュニケーション能力の育成について	
6	日本の英語教育をふりかえる(1)　外国語との接触から1980年代まで	
7	日本の英語教育をふりかえる(2)　グローバル化とコミュニケーションの時代の英語教育	
8	学習指導要領(1):これまでの学習指導要領をたどる	
9	学習指導要領(2):現在の学習指導要領がめざすもの	
10	学習指導要領(3):英語教員に求められていることを考える	
11	主な英語教授法(1):文法訳読法等	
12	主な英語教授法(2):直接的口頭重視指導法	
13	主な英語教授法(3):コミュニカティブ教授法	
14	教授法・ICTを含む指導技術の変遷（LLからCALL、NBLTまで)と今後の展望をもとに今日求められている英語教師論について考える	
15	まとめ　今日求められている英語教育について	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況・ディスカッション	20	関連資料にあたるなど積極的に英語教育について知識を得た上で授業に積極的に取り組んでいるか	課題、発表	30	課題を指示に従って仕上げ､発表できているか
期末テスト	50	「英語科教育法I」で学んだことが正しく理解し、自分のことばで表現できているか			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①次回授業内容について下調べをして関連資料にあたる［50分］ ②課題がある時には、関連図書にあたるなどして課題をまとめる。［40分］ ③中学英語教員に求められる英語運用力をつけるため毎日英語多読図書、リスニングなど英語学習を進める。［30分］	課題にはコメントを付して返却し、注目すべきものについては授業中にも全体ディスカッションの中で取り上げる。

受講生に望むこと	中学/高校英語教員を目指す学生は、絶えず自身の英語力を高める努力を続けること。 英語教育にとって何が重要かを絶えず考えたり、良い実践に触れる機会を作る。	教科書・テキスト	・高梨庸雄・高橋正夫著．2012．『新・英語教育学概論[改訂版]』．東京: 金星堂.ISBN:978-4764739475 ・『中学校学習指導要領科解説　外国語編』．2018.文部科学省．開隆堂出版．ISBN: 978-4304051692
指定図書／参考書等	なし／中学校英語教科書(図書館所蔵)。学習指導要領、その他については開講時に指示する。・『高等学校学習指導要領(平成30年告知)解説英語編』2019．文部科学省.開隆堂出版．ISBN:978-4304051784	その他・特記事項	代替授業の場合にはClassroomを用いて課題を提示します

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ES265U 英語科教育法Ⅱ			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	伊藤　雄二						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
英語科教育法Iに引き続き、英語コミュニケーション能力の育成に必要な知識と技能を学ぶ。小テーマにより、15～20分程度の模擬授業を実践しながら指導法や指導技術を習得する。 ※SDGsターゲット4.1,4.7,4.c関連科目	①英語科教育法Ⅰで学んだ知識をもとに、学習指導要領の目標とする英語指導に必要な知識と技能を身につける。 　聞き手や学習者を意識した、理解しやすい英語の話し方や導入方法を身に付け、実践できる。 ③英語授業の指導手順を理解し、それぞれの段階でどのような指導法・指導技術があるかを考えられるようになる。

教授方法	講義・演習・模擬授業・ディスカッション
履修条件	中学校・高等学校の英語教員免許取得希望者で英語科教育法Ⅰを履修済みであることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方と評価方法を説明する。英語科教育法Iを踏まえ、各自に不足している英語教師としての資質をディスカッションを通して、客観的に把握することができる。	
2	一斉授業型の一般的な英語授業の指導手順を理解し、中学校と高等学校の違いを理解する。また、それぞれのタイプの指導の留意点を理解する。指導手順としての、warm-upの具体例を挙げ、留意点を述べることができる。また、模擬授業に取り入れることができる。	
3	英語授業における「復習」の目的と具体例を理解する。また、特に「聞くこと・話すことの領域に関するもの」の具体例を挙げ、その目的や留意点を述べることができる。また、模擬授業に取り入れることができる。	
4	英語授業における「復習」の「読むことの領域に関するもの」の具体例を挙げ、その目的や留意点を述べることができる。また、模擬授業に取り入れることができる。	
5	英語授業における「復習」の「書くことの領域に関するもの」の具体例を挙げ、その目的や留意点を述べることができる。また、模擬授業に「書くこと」を取り入れるにはどのような配慮が必要かを考えてみる。	
6	一般的に、授業における「新教材の導入」には帰納法と演繹法の二種類があることを説明し、英語授業への具体的な応用例を説明する。日本の英語教育では、前者を優先してきたことを説明し、現在は後者も見直されている経緯に触れる。英語授業の帰納法と演繹法の具体例を挙げることができる。	
7	英語授業における「新教材の導入」には二種類あることを説明し、H.E. Palmer とC.C.Fries の導入法を紹介する。それぞれの目的や留意点を比較しながら、述べることができる。	
8	英語の授業における「文法・文構造の導入」について、模擬授業（１）を行う。この際、板書計画を綿密に立てることが授業成功への近道であることを説明する。また、特に英語授業では教師の話す英語のaccuracy が大切なことを理解する。	
9	英語の授業における「文法・文構造の導入」について、模擬授業（２）を行う。この際、板書計画を綿密に立てることが授業成功への近道であることを説明する。また、特に英語授業では教師と生徒のインターラクション が大切なことを理解する。	
10	英語の授業における「題材の導入」について、模擬授業（１）を行う。この際、板書計画を綿密に立てることが授業成功への近道であることを説明する。また、特に英語授業では生徒の話す英語のfluency が大切なことを理解できる。	
11	英語の授業における「題材の導入」について、模擬授業（２）を行う。この際、板書計画を綿密に立てることが授業成功への近道であることを説明する。また、特に英語授業では教師と生徒のインターラクション が大切なことを理解する。	
12	英語授業の指導手順をskill-getting とskill-using の観点から再検討してみる。また、英語の口頭練習としてのパタン・プラクティスの功罪を理解し、近年の外国語教育の有力な考え方を理解する。	
13	英語のテキスト用いた発展練習についてその具体例を説明し、それぞれの留意点を話し合う。また、発展練習としてのコミュニケーション活動には「タスク性」が必要であることを理解する。	
14	英語の授業におけるデジタル機器を用いた「文法・文構造の導入」及び「題材の導入」について考える。アナログ式の授業との違いや留意点を話し合い、学校現場への応用を考える。	
15	英語授業の指導手順を整理し、生徒の発達段階や学習レベルに応じて、どのような指導手順や指導法を用いるかを中学校と高等学校別に考え・整理し発表できる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
毎回の小テスト	30	各単元の予習を前提に小テストを行うので、基本的な内容を理解しているか。	レポート	40	中学校の英語授業の録画を視聴し、その良さや改善点を指摘できる
模擬授業と授業参加状況	30	模擬授業後のディスカッションに積極的に参加しているか。他の学生の模擬授業の際に学んだ知識を自分の模擬授業に活用しているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
中学校・高校の授業を積極的に参観すること。［60分］ （例）金沢大学附属中学校教育研究発表会（11月開催予定） 　　金沢大学附属高等学校高校教育研究協議会（11月開催予定） 　　石川県英語教育協議会(IPELEC)各月開催予定	返却時に行う

受講生に望むこと	①実際に授業を参観して、「授業を観る目を養う」こと。 ②講習会や研究に参加して、積極的に意見を発すること。	教科書・テキスト	『新・英語教育学概論[改訂版]』　高梨庸雄他著　金星堂　2011　ISBN 978-4-7647-3947-5
指定図書／参考書等	なし／中学校英語教科書、『高等学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省　開隆堂 ISBN:未定、『中学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省 開隆堂 2018　ISBN 978-4-304-05169-2『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』文部科学省 開隆堂 2018　ISBN-13: 978-4-304-05168-5	その他・特記事項	Classroomを用いて課題を提示することがある。

実務経験を活かした授業の概要

中学校教員の経験をもとに、中学校の現場で実際に行った授業を再現し、学生の模擬授業の一助としている。

授業科目名	ES350U 英語科教育法Ⅲ			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	伊藤　雄二						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、中学校教諭一種免許状（英語）、高等学校一種免許状（英語）を取得しようとする者にとっての必修科目である。「英語科教育法Ⅰ」及び「英語科教育法Ⅱ」で学んだ理論や知識を踏まえ、教育実習に必要な指導力や実践力を身につけるために教材研究と模擬授業、相互評価、省察を行う。 また、英語で書かれた文献を読み、外国語教育の専門性を理解し、日本の英語教育の歴史を概観する。 ※SDGsターゲット4.1,4.7,4.c関連科目	①英語で書かれた文献を読み、外国語教育の専門性を理解し、教育実習への新たな意欲を高めること。 ②中学・高等学校の英語科教科書を用いて、ICTを活用しながら、復習や新教材の導入の指導計画を板書計画とともに作成できること。 ③他者の（模擬）授業等を観察し、その良さや改善点を客観的に述べることができること。

教授方法	講義・発表・模擬授業・ディスカッション・省察
履修条件	中学校教諭一種免許状（英語）、高等学校一種免許状（英語）取得を目指す者。英語科教育法Ⅰ及び英語科教育法Ⅱを履修済みであることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方と評価方法を説明する。英語科教育法Ⅰ及び英語科教育法Ⅱで学んだことを振り返り、教育実習に向けて本授業で学ぶことを概観する。Harold E. Palmer の 著書English Through Actions についての発表方法を理解する。	
2	Harold E. Palmer の 著書 English Through Actions について(1)：著者の外国語教育の考え方を理解し、壮大な教授計画の一部に触れる。また、当時の外国語教育の考え方や傾向を理解し、現在のものと比較することができる。	
3	Harold E. Palmer の 著書 English Through Actions について（2）：著者の外国語教育の専門性に関する考え方を理解し、専門家としての自覚を高める。また、英語教師が陥りやすい失敗例から今後目指すべき英語教師像をイメージ化することができる。	
4	Harold E. Palmer の 著書 English Through Actions について(3)：著者の「運用言語」に関する考え方を理解し、運用言語を習慣化するためお四段階を学ぶ。また、各段階を実際の授業の場面に当てはめ、その連続性と緻密さを実感できる。	
5	Harold E. Palmer の 著書 English Through Actions について（4）：著者の外国語教育の考え方を理解し、壮大な教授計画の一部に触れる。また、当時の日本の英語教育事情を理解し現在のものと比較できるようになる。	
6	Harold E. Palmer の 著書 English Through Actions について（5）：著者の外国語教育の専門性に関する考え方を理解し、専門家としての自覚を高める。また、著者の言う、「一箱ののマッチ」で30分話すとはどういうことなのかを予測する。	
7	Harold E. Palmer の 著書 English Through Actions について（6）：著者の外国語教育の専門性に関する考え方を理解し、専門家としての自覚を高める。また、英語教師が陥りやすい失敗例とギリシャ神話の例え話をイメージ化することができる。	
8	English Through Actions 第5段落までを翻訳して提出する。英文を意訳して話の筋が通るように工夫しながら翻訳する。	
9	English Through Actions 第6～10段落までを翻訳して提出する。英文を意訳して話の筋が通るように工夫しながら翻訳する。	
10	中学・高等学校用の教科書を用いた50分間の模擬授業の準備と説明：warm-up、 復習、新出事項の導入、展開、発展、まとめのすべての指導手順を計画し、模擬授業を行う。また、他者の模擬授業を観察し、その良さや改善点を客観的に述べることができる。	
11	中学校1～３年生用の教材を用いた50分間の模擬授業（1－1）：warm-up、 復習、新出事項の導入、展開、発展、まとめのすべての指導手順を計画し、模擬授業を行う。また、他者の模擬授業を観察し、その良さや改善点を客観的に述べることができる。	
12	中学校1～３年生用の教材を用いた50分間の模擬授業（1－2）：warm-up、 復習、新出事項の導入、展開、発展、まとめのすべての指導手順を計画し、模擬授業を行う。また、他者の模擬授業を観察し、その良さや改善点を客観的に述べることができる。	
13	高校１～３年生用の教材を用いた50分間の模擬授業（2-1）：warm-up、 復習、新出事項の導入、展開、発展、まとめのすべての指導手順を計画し、模擬授業を行う。また、他者の模擬授業を観察し、その良さや改善点を客観的に述べることができる。。	
14	高校１～３年生用の教材を用いた50分間の模擬授業（2-2）：warm-up、 復習、新出事項の導入、展開、発展、まとめのすべての指導手順を計画し、模擬授業を行う。また、他者の模擬授業を観察し、その良さや改善点を客観的に述べることができる。	
15	全体のまとめ：授業の到達目標①～③を達成できたかどうか自己評価してみる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題提出	40	課題の完成度	模擬授業	40	実際の授業をイメージしながら模擬授業を計画・運営できるか。
授業参加状況	20	グループワークやディスカッションに積極的に参加し意見を述べているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
中学校・高等学校の英語授業を積極的に参観すること。［60分］ （例）金沢大学附属中学校教育研究発表会（11月開催予定） 金沢大学附属高等学校教育研究発表会（11月開催予定） 石川県英語教育協議会（IPELEC）（隔月、詳細は授業で説明する）	模擬授業の感想などは次時にまとめて振り返る。

受講生に望むこと	英検準1級以上を受験すること。	教科書・テキスト	『新・英語教育学概論[改訂版]』高梨庸雄・高橋正夫著　金星堂　2011年　ISBN:978-4764739475
指定図書／参考書等	なし／『English Through Actions』　H. E. Palmer著　開拓社　1925年　ISBN:758900876 C3082 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　外国語編』文部科学省　開隆堂　2018年　ISBN:978-4304051692 『高等学校学習指導要領解説　外国語編・英語編（平成30年7月）平成30年告示』文部科学省　開隆堂　2019年　ISBN:978-4304051784	その他・特記事項	Classroomを用いて課題等を提示することがある。

実務経験を活かした授業の概要

・中学校・高校の現場で実際に行った授業を再現し、学生の模擬授業の一助としている。
・中学校・高校の現場で実際に起きた問題をテーマにグループディスカッションを行っている。

授業科目名	ES355U 英語科教育法Ⅳ			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は中学校及び高等学校教諭一種免許状（英語）を取得しようとする者にとっての必修科目であり、英語科教育法Ⅰ～Ⅲで学んだ知識を基に、またプレ実習や教育実習の経験を基に、さらなる指導技術の向上を目指す。並行して、授業を行うのに必要な英語運用力の向上や、英語教育分野の文献講読によって読解力の向上を目指す。	①英語科教育法Ⅰ～Ⅲで学んだ理論や知識、及び、中学校で教育実習またはプレ実習を経験した者は、その際に課題に感じたことを振り返り、英語の指導力を習得する。 ②他者の授業を参観・視聴することにより授業を観る目を養い、ディスカッションを通して指導技術を習得する。 ③授業を行うのに必要な英語力を身につける。

教授方法	講義、演習、模擬授業、ディスカッション
履修条件	中学校/高校教員免許（英語）を取得希望の者。英検2級を取得していて、英検準1級以上を取得しようとする者が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業のねらいとクラスルールを知る	
2	プレ実習や教育実習で自分の課題と感じたことを発表し合い、どのような解決策があるかをディスカッションし、結果を共有し合う	
3	英語教育者論　英語教師養成の現状を知り、国の政策としての英語教育を展望する	
4	文法・語彙・音声の指導法を知り、自分ならばどのように用いるかを考える	
5	異文化理解とコミュニケーションの指導法を知り、自分ならばどのように用いるかを考える	
6	4技能を伸ばす活動及び評価と測定について学び、自分ならばどのように用いるかを考える	
7	授業運営　さまざまな学習形態やALTとのティームティーチングのあり方を学び、自分ならばどのように用いるかを考える	
8	模擬授業　中学1年生の言語材料を用いて指導案を作成し、実施する	
9	模擬授業　中学２年生の言語材料を用いて指導案を作成し、実施する	
10	模擬授業　中学３年生の言語材料を用いて指導案を作成し、実施する	
11	模擬授業　高校1年生の言語材料を用いて指導案を作成し、実施する	
12	模擬授業　高校2年生、3年生の言語材料を用いて指導案を作成し、実施する	
13	過去5回の模擬授業を基に相互評価し、特に苦手な活動等を明確にし、次時のミニ模擬授業につなげる	
14	ミニ模擬授業　特に苦手に感じた活動を取り上げ、その活動を実践する	
15	まとめ　プレ実習や教育実習後の授業を通して、自分の教師としての資質や課題を客観的にとらえ、今後どのような努力をしていくべきかを考える	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	グループワークやディスカッションに積極的に参加し意見を述べているか。	模擬授業	30	適切な教材研究に基づいて、目標に合った指導案を作成し、板書計画も含め十分な準備・練習をした上で模擬授業ができているか。適切な自己評価･相互評価ができているか。
小テスト・課題	20	授業を行うのに必要な英語力が身についているか。	最終課題	20	指示に従って記述し、期日までに提出したか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
中学校・高等学校の授業を積極的に参観すること［60分］ （例）金沢大学附属中学校教育研究発表会（11月開催予定） 金沢大学附属高等学校高校教育研究協議会（11月開催予定）	返却時に行う

受講生に望むこと	英検準1級以上を受験すること	教科書・テキスト	・中学校学習指導要領解説　外国語編．2018．文部科学省．　ISBN:9784304051692 ・高等学校学習指導要領(平成30年告知)解説　英語編．2019．文部科学省．ISBN:978-4304051784
指定図書／参考書等	なし／中学校英語検定済教科書(NEW HORIZON English Course 1～3 東京書籍 2016 ISBN 9784487122912など)、高校(英語コミュニケーション)検定済教科書	その他・特記事項	特になし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EL100U ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	マシュー　ボッシュ・エリック　モーニン　（代表教員　マシュー　ボッシュ）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
In this course: 1. We will learn everyday English communication through short dialogues and basic question & answer activities. 2. We will practice English communication through role plays.	The goals of this course are as follows: 1. Learn a series of adaptable everyday conversations and practice interacting in English. 2. Gain confidence in everyday communication in English through role plays.

教授方法	Pair work, individual assignments
履修条件	none

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	Introduction and greetings	各担当教員
2	Hospitality and table manners	各担当教員
3	Hospitality and food	各担当教員
4	Talking about food	各担当教員
5	More talk about food	各担当教員
6	Going out to eat	各担当教員
7	Going out to eat continued	各担当教員
8	Table talk	各担当教員
9	Getting directions	各担当教員
10	Conversations around town	各担当教員
11	Another conversation around town	各担当教員
12	Everyday conversation 1	各担当教員
13	Everyday conversation 2	各担当教員
14	Conversation at home	各担当教員
15	Conversation at work	各担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
Weekly assignments	60	Dialogue assignments and related tasks	Attendance and Effort	40	Class attendance and effort in classroom activities

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1. Review material each week from previous class (50 minutes) 2. Review material from previous lessons (30 minutes)	Feedback will be given as needed following assignments.

受講生に望むこと	Enjoyment of communicating in English	教科書・テキスト	none
指定図書／参考書等	This will be made known in class	その他・特記事項	none

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EL110U ﾌﾟﾗｸﾃｨｶﾙ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	マシュー　ボッシュ・ヴィンセント・レイカー　（代表教員　マシュー　ボッシュ）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
In this course: 1. We will learn English communication through practical conversations and basic question & answer. 2. We will practice English communication through role plays of practical situations.	The goals of this course are as follows: 1. Learn a series of adaptable practical conversations and practice interacting in English. 2. Gain confidence in English communication through role plays.

教授方法	Pair work, individual assignments
履修条件	none

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	Introduction & shopping	各担当教員
2	Buying ice cream	各担当教員
3	Clothes shopping	各担当教員
4	Exchanging an item at a store	各担当教員
5	At the repair shop	各担当教員
6	Travel English	各担当教員
7	Travel English continued	各担当教員
8	Transportation	各担当教員
9	Conversation about commuting	各担当教員
10	Getting things done at work	各担当教員
11	Conversation at the office	各担当教員
12	Buying a gift	各担当教員
13	Giving a gift	各担当教員
14	Making change (money)	各担当教員
15	Getting the wrong change (money)	各担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
Weekly assignments	60	Dialogue assignments and related tasks	Attendance and Effort	40	Class attendance and effort in classroom activities

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1. Review material each week from previous class (50 minutes) 2. Review material from previous lessons (30 minutes)	Feedback will be given as needed following pair work assignments.

受講生に望むこと	Enjoyment of communicating in English	教科書・テキスト	none
指定図書／参考書等	This will be made known in class	その他・特記事項	none

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EL120U ｷｯｽﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭA	開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	木村　ゆかり・キャサリン　シュリーヴズ　（代表教員　木村　ゆかり）				

標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
幼稚園や小学校での具体的な場面を想定した、ペアワーク、グループワークなどの多様な活動を通してコミュニカティブなかたちで英会話力の養成を図り、外国人の子供が入園・入学した場合に子供や保護者とのコミュニケーションが図れることを目指す。また会話力とともにＣＤを用いたリスニング能力の向上、幼稚園や小学校で特に必要性が高いと思われる表現・語彙の習得に努める。	・具体的に幼稚園や小学校の子どもたちに英語を使う場面を想定し、それに対処できる基本的語彙（numbers, colors, body parts, things around us, the alphabet等々）を英語らしい発音で使える。 ・実際に英語で歌やゲームなどができる。 ・自分の選んだ一冊の絵本を、子どもたちとやりとりしながら英語で読み聞かせができる。

教授方法	講義と質疑応答形態を中心に行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション ＆ Favorite picture bookレポート	各担当教員
2	U1 The School Year Begins （新学期・園の人々・園舎）	各担当教員
3	U2 Arrival （登園・家族）	各担当教員
4	U3 Playtime in the Classroom （室内あそび・欠席の連絡）	各担当教員
5	U4 In the Sandbox （外あそび・遊具）	各担当教員
6	U5 In the Playground （園庭・けんか）	各担当教員
7	U1-5 小テスト ＆ 絵本レポート 1	各担当教員
8	U6 Lunchtime （昼食・献立表）	各担当教員
9	U7 Changing Clothes and Story Time （着替え・おはなし）	各担当教員
10	U8 Nap Time （トイレ・お昼寝）	各担当教員
11	U9 Blowing Bubbles （生き物・身体の名称）	各担当教員
12	U10 A Sick Child（感情表現・緊急連絡）	各担当教員
13	U6-10 小テスト ＆ 絵本レポート 2	各担当教員
14	Review of U1-10	各担当教員
15	絵本レポート 3	各担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況など	30	①教員が指示する練習問題に取り組んでいる。 ②授業に積極的に参加している。	小テスト	20	基本的語彙の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。
課題	20	英語絵本のレポートなど、授業内で指定する。	期末テスト	30	授業の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①予習では、指定された単語や表現を事前に辞書で調べ、しっかりと頭に入れておくこと。[20分] ②復習では、単語や例文の音読の練習をすること。[20分]	課題は翌週に返却し、フィードバックを行う。

受講生に望むこと	①ペアワーク、グループワークなど積極的に授業に参加すること。 ②課題の提出期限を守ること。	教科書・テキスト	『新・保育の英語』森田 和子著 2010年　三修社 ISBN:978-4384333992
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EL125U ｷｯｽﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭB			開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	木村　ゆかり						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
「キッズイングリッシュA」に引き続き、幼稚園や小学校での具体的な場面を想定した、ペアワーク、グループワークなどの多様な活動を通してコミュニカティブなかたちで英会話力の養成を図り、外国人の子供が入園・入学した場合に子供や保護者とのコミュニケーションが図れることを目指す。また会話力とともにＣＤを用いたリスニング能力の向上、幼稚園や小学校で特に必要性が高いと思われる表現・語彙の習得に努める。	・「キッズイングリッシュA」で学んだ子どもたちの基本的語彙（numbers, colors, body parts, things around us, animals, family, the alphabet等々）をさらに増やし、英語らしい発音で使える。 ・実際に英語で歌やゲームなどができる。 ・自分の選んだ一冊の絵本を、子どもたちとやりとりしながら英語で読み聞かせができる。

教授方法	講義と質疑応答形態を中心に行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	U11 Preparation for the Sports Day （行事の案内状・電話連絡）	
2	U12 The Sports Day （運動会・動作）	
3	U13 Going for a Walk （散歩（１）・地図）	
4	U14 Discovering Autumn （散歩（２）・交通）	
5	U15 Drawing & Letter Writing （お絵かき・お手紙書き）	
6	U16 Lunchtime （雪の日・工作）	
7	U11-15 小テスト	
8	U17 Leaving for Home （降園・お知らせ）	
9	映画鑑賞（外国の子育て事情について学ぶ）　&　絵本レポート 1	
10	U18 School Diary （連絡帳・乳児室）	
11	U19 Bean-Throwing Day （家庭調査書・園行事（１））	
12	U20 With Thanks for a Wonderful School Year （園だより・園行事（２））	
13	映画鑑賞（外国の子育て事情について学ぶ）	
14	絵本レポート ２	
15	Review of U11-20	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況など	30	ペアワークやグループワークなど、授業への積極的な参加を評価する。	小テスト	20	基本的語彙の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。
課題	20	英語絵本のレポート、英文の連絡帳やお便りの作成、英語絵本読み聞かせ発表など、授業内で指定する。	期末テスト	30	授業の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①予習では、指定された単語や表現を事前に辞書で調べ、しっかりと頭に入れておくこと。[20分] ②復習では、単語や例文の音読の練習をすること。[20分]	課題は翌週に返却し、フィードバックを行う。

受講生に望むこと	①ペアワークやグループワークなど、積極的に授業に参加すること。 ②課題の提出期限を守ること。	教科書・テキスト	『新・保育の英語』森田 和子著 2010年　三修社 ISBN:978-4384333992 （キッズ・イングリッシュＡと同じ）
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EL130U ｼﾝﾌﾟﾙ･ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭA			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	中野　聡・茶谷　丹午　(代表教員　中野　聡)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目では、これからの社会で子どもの保育・教育に関わる際に基本的な英語によるコミュニケーションが図れるようその基礎を養成する。リスニング、スピーキング　リーディング、ライティングと4技能統合型のさまざまな活動を行い、平易な英語を使いながら英文法(ことばの仕組)の基礎を固め、各ユニットのトピック・テーマについて自分の考え・意見を発信できることを目指す。	①自分のこと、身近な話題について、平易な英語で相手に伝えたり、相手の話していることが理解できる。 ②自分のこと、身近な話題について、平易な英語を用いて書いて発信することができる。 ③平易な英語を運用するのに必要な英文法の基礎を身につける。

教授方法	演習(ペアワーク、グループワーク、role-play、発表、プロジェクト)
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション:クラスルール・教員紹介・学生自己紹介・授業の進め方等	各担当教員
2	Unit 1: はじめまして　Warm-up、 pair work、Reading、 文型	各担当教員
3	Unit 1: はじめまして Listening、 Assignment確認、Wriging & Speaking	各担当教員
4	Unit 2: レシピを見よう　Warm-up、 pair work、Reading、 自動詞と他動詞	各担当教員
5	Unit 2: レシピを見よう　 Listening、 Assignment確認、Wriging & Speaking	各担当教員
6	Unit 3: いつも何しているの?　Warm-up, pair work、Reading、現在形と頻度	各担当教員
7	Unit 3: いつも何しているの?　Listening、 Assignment確認、Wriging & Speaking	各担当教員
8	Unit 4: 何を持って行きますか?　Warm-up、pair work、Reading、名詞と代名詞	各担当教員
9	Unit 4: 何を持って行きますか?　Listening、 Assignment確認、Wriging & Speaking	各担当教員
10	Unit 5: あなたの理想の部屋は?　Warm-up、pair work、Reading、前置詞	各担当教員
11	Unit 5: あなたの理想の部屋は?　Listening、 Assignment確認、Wriging & Speaking	各担当教員
12	Unit 6: 目指そう!　健康生活　Warm-up、pair work、Reading、助動詞	各担当教員
13	Unit 6: 目指そう健康生活　Listening、 Assignment確認、Wriging & Speaking	各担当教員
14	Unit 7: 旅に出よう　Warm-up、pair work、Reading、不定詞と動名詞	各担当教員
15	Unit 7: 旅に出よう　Listening、 Assignment確認、Wriging & Speaking	各担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題・授業取組状況	30	①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか。	発表・表現	40	基本文型の暗記、英作文などで学んだことが定着しているか。
小テスト	30	各UNITで学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
① 授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題(Assignmentを含む)の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ② 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。	小テスト返却時など、随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	JACET教材開発研究会.2015年.『English Locomotion参加して学ぶ総合英語』.成美堂.ISBN: 9784791933839
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	Classroomを用いて課題等を提示することがある。

実務経験を活かした授業の概要

中野：小中学校での経験を生かして4技能統合型の様々な活動を通して総合的なコミュニケーション能力を効果的に育成するための指導をしている。

授業科目名	EL135U ｼﾝﾌﾟﾙ･ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭB			開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	中野　聡・茶谷　丹午　(代表教員　中野　聡)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、「シンプル・イングリッシュA」に引き続き、これからの社会で子どもの保育・教育に関わる際に基本的な英語によるコミュニケーションが図れるようその基礎を養成する。リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングと4技能統合型のさまざまな活動を行い、英語を使いながら英文法(ことばの仕組)の基礎を固め、各ユニットのトピック・テーマについて自分の考え・意見を発信できることを目指す。	①身近な話題について、明快な英語で相手に伝えたり、相手の話していることが理解できる。 ②自分のこと、身近な話題について、適切な英語を用いて書いて発信することができる。 ③英語でコミュニケーションを図るのに必要な英文法の基礎を身につける。

教授方法	演習(ペアワーク、グループワーク、role-play、発表、プロジェクト)
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション　クラスルール・授業の進め方・課題等の確認 Unit 8: パーティを開こう!　Warm-up、 pair work、Reading、 現在分詞	各担当教員
2	Unit 8: パーティを開こう! Listening、 Assignment確認、Wriging & Speaking	各担当教員
3	Unit 9: 割れた窓?　Warm-up、 pair work、Reading、 過去分詞	各担当教員
4	Unit 9: 割れた窓?　Listening、 Assignment確認、Wriging & Speaking	各担当教員
5	Unit 10: スポーツをしよう　Warm-up、 pair work、Reading、 現在完了形	各担当教員
6	Unit 10: スポーツをしよう　Listening、 Assignment確認、Wriging & Speaking	各担当教員
7	Unit 11: フリマでお買い物　Warm-up、 pair work、Reading、 形容詞と比較	各担当教員
8	Unit 11: フリマでお買い物　Listening、 Assignment確認、Wriging & Speaking	各担当教員
9	Unit 12: レポートの提出　Warm-up、 pair work、Reading、 関係代名詞	各担当教員
10	Unit 12: レポートの提出　 Listening、 Assignment確認、Wriging & Speaking	各担当教員
11	Unit 13: どこに住んでいるの?　Warm-up、 pair work、Reading、 「それは」と訳さないIt	各担当教員
12	Unit 13: どこに住んでいるの?　Listening、 Assignment確認、Wriging & Speaking	各担当教員
13	Unit 14: 宝くじが当たったらなあ　Warm-up、 pair work、Reading、 仮定法	各担当教員
14	Unit 14: 宝くじが当たったらなあ　Listening、 Assignment確認、Wriging & Speaking	各担当教員
15	Unit 15:Review Test、これまで学んだトピックから一つを選びスピーチ	各担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題・授業取組状況	30	①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか。	発表・表現	40	基本文型の暗記、英作文などで学んだことが生かせているか。
小テスト	30	各UNITで学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
① 授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題(Assignmentを含む)の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 ② 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。	小テスト返却時など、随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	JACET教材開発研究会.2015年.『English Locomotion参加して学ぶ総合英語』.成美堂.ISBN: 9784791933839 ※シンプル・イングリッシュＡと同じ
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	Classroomを用いて課題等を提示することがある。

実務経験を活かした授業の概要

中野：小中学校での経験を生かして4技能統合型の様々な活動を通して総合的なコミュニケーション能力を効果的に育成するための指導をしている。

授業科目名	EL200U ｽﾋﾟｰﾁ&ﾄﾞﾗﾏ			開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	アンソニー　ダガン						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、人前で英語を話せるようになるためのスキルを学ぶ。テキストのToday's Menu, Warm-Up, Presentation Skills, Language focus, Practice Activitiesのタスクをしながら、各Unitの終わりのProjectで少しずつ人前での発表に備えていき、第8回、第14・15回にはクラスの前でのパワーポイントを使用した発表を行う。このように実際に使いながら確かな英語力を育てていく。	・人前で自分の考えや調べたことを英語でもはっきりと伝えようとする。 ・相手に伝えるための英語表現だけでなく、視線、ジェスチャなどノンバーバルな要素にも気を配ることができる。 ・課題のスピーチやミニドラマなどを個人で、またクラスメートと協力して準備し、発表をする。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	クラス・イントロダクション(概要、授業の進め方、クラスルール、自己紹介など)	
2	Unit 1: Getting Started さまざまな活動の後、自己紹介をする	
3	Unit 2: Voice　活動を通して、聞き手に伝わりやすい声の出し方を学ぶ	
4	Unit 3: Gestures 活動を通して、ジェスチャーの効果的な使い方を学ぶ	
5	Unit 4: Q & A Skills 人前で話した後の質疑応答について学ぶ	
6	Unit 5: Visualsと並行して、有名なスピーチなどを視聴し、感想を述べ合う	
7	Unit 6: Rehearsalこれまで学んだことを振り返りながら、スピーチの練習をする	
8	Unit 7: On Stage スピーチと相互評価	
9	Extra Skill Unit 1: Group Brainstorming ミニドラマ発表に向けてグループ活動 内容について	
10	Extra Skill Unit 2: Group Outline, Phrases ミニドラマ発表に向けてグループ活動 流れ、表現など	
11	Extra Skill Unit 3: Group Script　ミニドラマ発表に向けてグループ活動 内容の確定	
12	Extra Skill Unit 4: Group Practice ミニドラマ発表に向けてグループ活動 練習	
13	Extra Skill Unit 5: Group Rehearsal ミニドラマ発表に向けてグループ活動 リハーサル	
14	Group Mini-Drama　グループ・ミニドラマ発表	
15	Group Mini-Drama　グループ・ミニドラマ発表予備日、振り返り	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	・毎回の授業に予習して臨んでいるか ・授業のさまざまな活動に積極的に取り組んでいるか	グループ・ミニドラマ	40	・グループで協力してミニドラマを準備、練習、発表したか ・ミニドラマの内容・発表・相互評価
スピーチ	30	・スピーチに向けての準備、練習に自主的に取り組んだか ・スピーチの内容・発表・相互評価			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・次回授業に向けて予習、発言準備など[40分] ・スピーチに向けての準備、原稿、発音練習など[60分] ・グループでのミニドラマに向けての準備、原稿、練習など[70分]	随時

受講生に望むこと	・毎回、次回のための課題が出るので準備して授業の臨む。 ・恥ずかしがらずに、元気に取り組み、大きな声ではっきりと英語を話そう。	教科書・テキスト	Tomoko Sugihashi, Mark Christianson & Kota Ohata. Effective Presentation Skills for Beginners. 2015年.朝日出版社. ISBN: 9784255155661 他に必要な教材は適宜配布
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	スピーチ、ミニドラマの形態や内容については教員の指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EL205U ｴｸｽﾃﾝｼﾌﾞ・ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	本間　千重子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目では、平易な英語で書かれた文章や物語を読み多読・速読読解力を習得する。教科書各単元のテーマの背景知識に関心をもつ。多読用図書から、自分の関心や英語力に応じて自身で選択した本の読書感想記録をつけていく。	①英文を直読直解のやり方で内容を理解することに慣れる。 ②多読用図書から自分の関心や英語力に合わせて読む本を選択できる。 ③読んだ本について、タイトル・レベル・ページ数・評価・感想を記録し、目標累計ページ数を達成する。 ④読書感想を英語で紹介する。

教授方法	教科書各単元を学習、読書記録の確認、プレゼンテーションを取り入れる。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：教科書、授業概要、ねらい、進め方、成績評価について説明する。(多読リーディングについて知る) Unit 1 The Dog Walker(209 words)：(各単元の読解速度WMPを記録する)	
2	Unit 2 An Interview with a Paramedic(218 words)：(pre-reading活動から内容を予測して読む)	
3	Unit 3 The Video Game Tester：not all Fun and Games(251 words)：(ゲームテスターという仕事の大変さを読み取る)	
4	Unit 4 The Trainee Chef (221 words)：(リスニングでテーマ内容の理解度を確認する) 多読記録：多読記録シート提出のためのまとめ	
5	Unit 5 Working on an Oil Platform (227 words)：(石油産業に従事する仕事について知る) 多読記録:多読記録シート提出①	
6	Unit 6 The Hippopotamus：Dangerous on Land and in the Water(209 words)：(動物の生態について読みとる)	
7	Unit 7 Amazing Travelers：Animal Migration (277 words)：(アフリカにおける動物の大移動についての英単語を知る) Unit 8 The Animal of the Camargue (219 words)：(南仏に生息する動物について読みとる)	
8	Unit 9 Just a Piece of Seaweed? The Leafy Sea Dragon(215 words)：(海に生息する珍しい生き物と環境問題について読みとる) Unit 10 Racing Across Snow and Ice(257 words)：(アラスカの過酷な犬ぞりレースについて読みとる)	
9	Unit 11 Learning a Musical Instrument (221 words)：(楽器演奏とその効果について読みとる) Unit 12 How to Make a Glass Orchestra (160 words)：(映画の字幕英語学習について知る) 多読記録：多読記録提出のためのまとめ	
10	Unit 13 Rock School (227 words)：(スラッシュリーディングについて知る) Unit 14 An Ancient Musical Instrument (213 words)：(パラグラフリーディングと読む速度について知る) 多読記録：多読記録シート提出②	
11	Unit 15 Music Therapy：Making People Feel Better(209 words)：(論理的関係を示す品詞に注目しながら英文を読みとる) Unit 16 On Vacation in Guatemala (204 words)：(中南米グアテマラのマヤ遺跡について読みとる)	
12	Unit 17 The Maldives：a Country in Danger (253 words)：(モルディブほか海面上昇による危機に直面する国々の現状について知る) Unit 18 The Maori (232 words)：(ニュージーランドのマオリについて読みとる)	
13	Unit 19 Russia：the Largest Country (235 words)：(ロシアはどのような国なのかイメージしながら読解をすすめる) Unit 20 Monaco：a Tiny Country (249 words)：(読んだ内容のサマリーを書いてみる) 多読記録：多読記録シート提出のためのまとめ	
14	Unit 1～Unit 20 WPM記録シートチェック (読解速読時間を自己評価する) 多読記録：多読記録シート提出③	
15	発表：プレゼンテーション(多読記録を参考に関心をもった本、お薦めしたい本とその理由、心に残った英語表現を紹介する)	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	毎回の授業に予習して臨み、授業中積極的に取り組む姿勢。	小テスト	20	教科書学習内容確認小テストを行う。
多読図書及び読書記録	40	選択図書の読解と読書記録及び目標累計語数達席度を確認する。	発表	10	選択図書の中で関心をもった本の内容及び英語表現をプレゼンテーションする。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①教科書の授業単元の学習内容に目を通しておくこと。指定された項目について事前に調べておくこと(20分) ②多読図書を選択し読書記録をつける(20分) ③発表の企画案をたて準備する(20分)	①小テストは、実施後回収採点した上でコメントし返却する。 ②多読図書及び読書記録は、読書記録シートに適宜記録の上提出指示日に提出する。 ③発表は、実施後クラスコメントをまとめ配布する。

受講生に望むこと	①適切なレベルの本を選択し読み進める。 ②図書館の多読用図書を借りる際、丁寧に扱い、貸出・返却ルールを守る。	教科書・テキスト	『Break Away 1 最新速読演習-基礎編-』Gillian Flaherty他著 成美堂 2017年 ISBN978-4-7919-6021-7
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EL210U ﾄﾗﾍﾞﾙ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭA			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	本間　千重子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、海外旅行(outbound)へのアプローチとして主に聞き取りを中心に英語運用能力の習得を目指す。この授業の目的は、実際の場面を想定し、聞くことに加えて話すことを通して旅行する際に役に立つと思われる一連の場面を設定した実用英語表現を学習する。(1)旅行英語にふれる。 (2)ケーススタディ(旅行および業務の実際）について学習する。	①海外旅行をする際に想定される旅行英語及び英語表現を習得する。 ②聞き取りを強化し、日本語と英語二か国語が瞬時にinput及びoutputなるよう体験する。

教授方法	教科書各単元を学習の上、ロールプレイ・プレゼンテーションを取り入れる。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：教科書、授業の内容、進め方、成績評価について説明、興味がある国々や都市をとりあげながら、旅と英語（他言語）の関わりについて考察する。（異文化と英語の必要性を理解する）	
2	Unit 1 In-Flight Announcement：機内アナウンスを聞き取る。機内で用いる用語を学ぶ。（機内で実際に使用される語いを覚える）	
3	Unit 2 At Immigration and Customs：入国審査と税関で係とのやりとりを聞き取る。（入国時の動作をシュミレーションし受け答えができるように練習する）	
4	Unit 3 Getting to a Hotel：到着空港より宿泊ホテルへ移動する際の行き方や手段についての表現を学ぶ。（交通アクセスを尋ねる表現を練習する） ロールプレイ①	
5	Unit 4 Checking into a Hotel：宿泊ホテルでのチェックイン及び部屋のタイプなどを聞き取る(ホテルの案内を読む練習をする）	
6	Unit 5 Checking in without a Reservation：事前予約なしでホテル宿泊の交渉をする内容を聞き取る。（シンプル英語で表現する方法を学ぶ）	
7	Unit 6 At a Restaurant：レストランの予約・メニューのオーダーについて聞き取る。（料理法、食材についての語いを学ぶ） ロールプレイ②	
8	Unit 7 Taking the Subway：公共交通機関を利用して目的地へ行く方法を聞き取る。（英語版地下鉄マップを読む練習をする）	
9	Unit 8 At a Fast-Food Restaurant：ファストフード店で注文する内容を聞き取る。（ハンバーガーショップでの会話を練習する）	
10	Unit 9 Hotel Service：ホテルでハウスキーピングを利用する表現を学ぶ。（コンセルジュなどホテルを利用する際の表現を練習する） ロールプレイ③	
11	Unit 10 Booking a Tour：現地で観光ツアーに申し込む表現を聞き取る。（英文パンフレットを読む練習をする）	
12	Unit 11 Health Care：薬局・病院など医療機関での表現を聞き取る。（医療に関連した語いを学ぶ）	
13	Unit 12 Shopping：靴屋・デパートで好みのものお勧めのものを尋ねる表現を聞き取る。（買物に関連した表現を学ぶ）& Unit 13 Making Complaints：ホテル・レストランのサービスについての表現を聞き取る。（クレームを伝える表現を練習する）	
14	プレゼンテーション：デスティネーション研究（海外旅行の目的地についてリサーチと発表を行う）	
15	Unit 14：Dealing with Problems & Unit 15 At the Airport：旅行中に想定されるトラブルについて学習する。（空港・ホテルなどで遭遇するトラブルについて知る）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	毎回の授業に予習して臨み、授業中積極的に取り組む姿勢。	小テスト	20	教科書学習内容確認小テストを行う。
課題	20	毎回の授業予習指定項目の確認を行う。	発表	30	英語で発信する運用力がついているか評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①教科書の授業単元の学習内容に目を通しておくこと。指定された項目について事前に調べておくこと(20分) ②英語科目や他言語科目の学びやメディア媒体を利用し世界情勢・観光情報など知識を得ること(20分) ③ 学習内容の英語表現を復習する。(10分)	①課題は、授業内で口頭でコメントする。 ②小テストは実施後回収、採点した上でコメントし返却する。 ③発表は、実施後内容について意見交換したことをまとめ配布する。

受講生に望むこと	旅に関する知識や情報を得るために、国内外のことに積極的に関心をもつようにする。	教科書・テキスト	『Travel English at Your Fingertips』島田拓司・Bill Benfield著 成美堂 2020年 ISBN 978-4-7919-7185-5
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EL220U ﾄﾗﾍﾞﾙ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭB			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	本間　千重子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、国内外の観光地について地理・交通・名物料理・旅行全般に関する観光英語の基礎を習得する。毎時1つのテーマ(国、都市)を扱い、英語での聞き取り、読み取り学習を行う。国内外の旅行で遭遇する事柄や英語表現を学ぶとともに、日本の観光地や世界の国々の文化事情、旅行業務(inbound, outbound)の実際について考察する。	①観光英語の語いや基礎知識を習得する。 ②聞き取りや英文の理解力を強化し、英語での応答力を習得する。 ③興味がある国や都市の観光地についてリサーチを行い、旅の醍醐味を体感する。

教授方法	教科書各単元を学習の上、ロールプレイ・プレゼンテーションを取り入れる。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス: 教科書、授業の内容、進め方、成績評価について説明、興味がある国々や都市をとりあげながら、旅と英語（他言語）の関わりについて考察する。（異文化と英語の必要性を理解する）	
2	Unit 1 Hokkaido, Japan: 英日・日英、語いチェック、英文パンフレットの内容を確認する。(key wordを聞きとる練習を行う)	
3	Unit 2 Kyoto, Japan: e-mailの内容を読みとる。(寺院・神社など日本文化事象に関する英語表現を学ぶ)	
4	Unit 3 Yufuin, Japan: e-mailで返事を出す英文表現を学ぶ。(英文e-mailの形式と英文表現を練習する)	
5	Unit 4 Okinawa, Japan: レストランの案内を読み内容を理解する。(郷土料理について英語で紹介する) ロールプレイ①(inbound)	
6	Unit 5 Ｓingapore: ホームページの空港ガイド、英語案内を読む。(スリーレターコード、出入国カードの記入を練習する)	
7	Unit 6 Bali, Indonesia: ツアーパンフレットを読み、エコツーリズムについて学ぶ。(英語パンフレットを読む練習をする)	
8	Unit 7 Sydney, Australia: クルーズの広告内容を読み、主な見所を知る。(南半球の地と事象について学ぶ)	
9	Unit 8 Hawaii, the USA: ”Aloha State” ハワイの紹介文を聞きとる。(火山など自然に関する英単語を学ぶ) ロールプレイ②(outbound)	
10	Unit 9 London, the UK: 公共交通機関について簡単な紹介を聞きとる。(英文レジュメの書き方を学ぶ)	
11	Unit 10 France: クレームの内容を読みとる。(フランスの地方文化について知る。旅行中で遭遇するクレーム事例を知る)	
12	Unit 11 Museum in Europe: 世界有数の博物館や美術館についてリサーチする。(有名な作品や展示物、作家について学ぶ)	
13	Unit 12 & Unit 13 New York & Boston, the USA: Broadwayミュージカルについての英文を聞きとる。ボストンの歴史・見所について知る。(日英・英日大きな数字の聞きとり書きとりを練習する)	
14	Unit 14 & Unit 15 Canada & Rio de Janeiro, Brazil: ツアーパンフレットを読む練習をする。(受動態表現を用いた婉曲的表現を使う)	
15	プレゼンテーション: inboundまたはoutboundいずれかオリジナルツアーを企画し発表する。(旅を提供する側にたちおすすめ旅行プランを考案する)	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	30	毎回の授業に予習して臨み、授業中積極的に取り組む姿勢。	小テスト	20	教科書学習内容確認小テストを行う。
課題	20	毎回の授業予習指定項目の確認を行う。	発表	30	英語で発信する運用力がついているか評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①教科書の授業単元の学習内容に目を通しておくこと。指定された項目について事前に調べておくこと(20分) ②英語科目や他言語科目の学びやメデイア媒体を利用し、世界情勢・観光情報など知識を得ること(20分) ③学習内容の英語表現を復習する(10分)	①課題は、授業内で口頭でコメントする。 ②小テストは、実施後回収、採点した上でコメントし返却する。 ③発表は、実施後内容について意見交換したことをまとめ配布する。

受講生に望むこと	旅に関する知識や情報を得るために、国内外のことに関心をもつようにする。	教科書・テキスト	『English for Tourism 101一から学ぶ観光英語の基礎～日本から世界へ～』津田昌子他著 南雲堂 2014年 ISBN978-4-523-17760-9
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EL225U ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	本間　千重子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、アカデミック、ビジネスなどの分野で必要とされるプレゼンテーションの基本を学ぶ。①プレゼンテーションの定義、構造、必要なスキル ②情報型、説得提案型各々4つのタイプ別プレゼンテーションの方法を具体例とともに学ぶ。学んだことを活かしながら実際にプレゼンテーションを行い相互評価することで客観的視点を養う。	①効果的なプレゼンテーションとその基本構造が理解できる。 ②テーマや目的によってより効果的なパターンを選択することができる。 ③自分の考えやリサーチした内容を英語で聴衆に伝えられるようになる。 ④ライティング・スピーキング力を高めることができる。

教授方法	教科書各単元を学習の上、スピーチ及びプレゼンテーションを取り入れる。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：教科書、授業概要、ねらい、進め方、成績評価について説明する。 Unit 1 Presentation Structure：プレゼンテーションの構造を学ぶ。（プレゼンテーションとは何かを考える）	
2	Unit 2 Presentation Skills：話の展開を明確にするポイントを学ぶ。（Body Languageについて考える）	
3	Unit 3 Preparing for Your Presentation：情報収集と情報倫理について知る。（参考文献リストのスタイルについて紹介する）	
4	Unit 4 How to Arrange a Presentation Setting：視覚情報の提示の仕方について確認する。（プレゼンテーションのタイプと備品について考える）	
5	発表①：スピーチを実施する。（起承結の型でショートスピーチを試みる）	
6	Unit 5 Type 1 列挙型プレゼンテーションについて学ぶ。（テーマに該当する事柄を順序よく説明する） Unit 6 Type 2 Classification：分類型プレゼンテーションを学ぶ。（共通点を整理し分かりやすく提示する）	
7	Unit 7 Type 3 Process：プロセス型プレゼンテーション（手順にそって説明する）	
8	Unit 8 Type 4 Investigation：調査型プレゼンテーション（調査研究の成果を分かりやすく伝える）	
9	発表② Unit 9 Giving Your Presentation：報告型プレゼンテーションの実践（Type1～4のまとめを行う）	
10	Unit 10 Type 5 Persuasion：説得型プレゼンテーション(企画案や提案を分かりやすく伝える)	
11	Unit 11 Type 6 Problem and Solution：問題解決型プレゼンテーション(問題に対する解決策を論理的に説明する)	
12	Unit 12 Type 7 Cause and Effect：原因・結果型プレゼンテーション（物事の因果関係を説明する）	
13	Unit 13 Type 8 Comparison and Content 比較対照型プレゼンテーション（類似する物事の共通点と相違点・利点と欠点を述べる）	
14	発表③ Unit 14 Giving Your Presentation 説得型・提案型プレゼンテーションの実践（Type 5～8 まとめを行う）	
15	発表の振り返りと総まとめを行う。（プレゼンテーションbefore・after自己評価を行う）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	40	毎回の授業に予習して臨み、授業中積極的に取り組む姿勢。	小テスト	20	教科書学習内容確認小テストを行う。
プレゼンテーション	30	プレゼンテーションの基本・構成を習得した上で準備・内容を整え、聴衆に伝えるプレゼンテーションを行う。	相互評価	10	聞き手としてプレゼンテーション発表を項目に従い評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①教科書の授業単元の学習内容に目を通しておくこと。指定された項目について事前に調べておくこと(20分) ②プレゼンテーション課題のリサーチ、資料収集、英文原稿作成、ビジュアルエイド作成(90分)	①小テストは、実施後回収採点した上でコメントし返却する。 ②プレゼンテーション実施後口頭でコメントし、クラスコメント（相互評価)をまとめ配布する。

受講生に望むこと	①授業を通してプレゼンテーションの基本を学習する。 ②発表までの作業過程を一つずつ積み重ねていき自信をもち発表できる力をつけていくよう心がける。 ③教科書提示Web動画、音声をストリーミング再生可能できるので積極的に利用する。	教科書・テキスト	『Winning Presentations 8 Types of Successful Presentation 』Akira Morita他著 成美堂 2018年 ISBN 978-4-7919-3424-9
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EL310U ﾑｰﾋﾞｰ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭA			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	マシュー　ボッシュ						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
In this course: 1. We will practice English by talking about movies. 2. We will learn short dialogues from movies.	The goals of the course are as follows: 1. Gain ability to communicate in English through studying movies. 2. Practice dialogues from movies and acquire a wide range of English vocabulary and phrases directly from films. 3. Learn methods of studying English from films.

教授方法	Pair work, individual assignments
履修条件	A desire to learn English

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	Introduction to Movie English. Begin first movie and read dialogue from script	
2	Setting and story of first movie and practice one side of dialogue	
3	Continue first movie and practice other half of dialogue	
4	Summary of first movie and full dialogue	
5	Introduction to second movie. Begin second movie and read dialogue from script	
6	Setting and story of second movie and practice one side of dialogue	
7	Continue second movie and practice other half of dialogue	
8	Summary of second movie and full dialogue	
9	Introduction to third movie. Begin third movie and read dialogue from script	
10	Setting and story of third movie and practice one side of dialogue	
11	Continue third movie and practice other half of dialogue	
12	Summary of third movie and full dialogue	
13	Introduction to fourth movie. Begin fourth movie	
14	Setting and story of fourth movie	
15	Summary of fourth movie	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
Weekly Assignments	60	Weekly assignments for listening, speaking, reading, and writing.	Effort and Attendance	40	Effort in classroom activities and class attendance

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1. Review material each week from previous class (50 minutes) 2. Review material from previous lessons (30 minutes)	Feedback will be given as needed following pair work.

受講生に望むこと	Enjoyment of communicating in English	教科書・テキスト	none
指定図書／参考書等	This will be made known in class	その他・特記事項	none

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EL320U ﾑｰﾋﾞｰ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭB			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	マシュー　ボッシュ						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
In this course: 1. We will practice English by talking about movies. 2. We will learn short dialogues from movies. 3. We will build on what was learned in Movie English A.	The goals of the course are as follows: 1. Building on what was learned in Movie English A, gain ability to communicate in English through studying movies. 2. Practice dialogues from movies and acquire a wide range of English vocabulary and phrases directly from films. 3. Learn methods of studying English from films.

教授方法	Pair work, individual assignments
履修条件	A desire to learn English

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	Introduction to fifth movie: Begin fifth movie and read dialogue from script	
2	Setting and story of fifth movie and practice one side of dialogue	
3	Continue fifth movie and practice other half of dialogue	
4	Summary of fifth movie and full dialogue	
5	Introduction to sixth movie. Begin sixth movie and read dialogue from script	
6	Setting and story of sixth movie and practice one side of dialogue	
7	Continue sixth movie and practice other half of dialogue	
8	Summary of sixth movie and full dialogue	
9	Introduction to seventh movie and read dialogue from script	
10	Setting and story of seventh movie and practice one side of dialogue	
11	Continue seventh movie and practice other half of dialogue	
12	Summary of seventh movie and full dialogue	
13	Introduction to eighth movie. Begin eighth movie	
14	Setting and story of eighth movie	
15	Summary of eighth movie	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
Weekly assignments	60	Weekly assignments for listening, speaking, reading, and writing	Effort and attendance	40	Effort in classroom activities and class attendance

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1. Review material each week from previous class (50 minutes) 2. Review material from previous lessons (30 minutes)	Feedback will be given as needed following pair work.

受講生に望むこと	Enjoyment of communicating in English	教科書・テキスト	none
指定図書／参考書等	This will be made known in class	その他・特記事項	This course builds on EL310U Movie English A

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EL230U ﾋﾞｼﾞﾈｽ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭA			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	本間　千重子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目では、教科書前半(Getting Started...Search & Explain) 電話応対、ビジネスレター、e-mail文、受付、製品仕様などビジネスの場で用いられる英語表現を習得する。情報社会における発信力を養っていくために英語で伝えることを意識することに加え発話力を身につけていく。TOEIC対策練習を実施する。	①ビジネスの場で必要なコミュニケーション力をつける。 ②ビジネスの現場を想定し基礎的な対応力を習得する。 ③英語でスピーチ及びプレゼンテーションのコツをつかむ。

教授方法	教科書各単元を学習の上、ロールプレイ・プレゼンテーションを取り入れる。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス: 教科書、授業概要、ねらい、進め方、成績評価について説明する。(多岐にわたるビジネス英語について理解する)	
2	Chapter 1 Telephone 1: 電話を受ける、取次、不在対応についての表現を学ぶ。(英日大きな桁の数字を聞き取り書く練習をする)	
3	Chapter 2 Business Email: Eメール文の定型表現、定型フォーマットについて学ぶ。(簡単なe-mail文を書く)	
4	Chapter 3 Telephone 2: 電話メッセージの正確な聞き取り練習を行う。(聞き取り確認のためのスペリングを練習する)	
5	Chapter 4 Business Letter: ビジネスレター文の定型表現、定型フォーマットについて学ぶ。(レター文書を書く)	
6	Chapter 5 At the Reception Desk: 社内受付での応対についての表現を学ぶ。(場面想定練習をする)	
7	Chapter 6 Corporate Website: 企業の顔であるウェブサイトの情報分類について知る。(R&Dなど分類例を確認する)	
8	発表①：場面を設定しロールプレイをおこなう。(前半まとめ)TOEIC対策練習: リスニング(Pre-Testで集中力を養う)	
9	Chapter 7 Company Profile: 企業概要についての英語表現を学ぶ。(アクセントに留意し発話練習を行う)	
10	Chapter 8 Product Advertisements: 企業の広告文(キャッチコピー)を読む。(キャッチコピーをリサーチし比較表現を用いて製品を紹介する)	
11	Chapter 9 Your Job: 自分が関わる業務内容を英語で説明する。(英語版名刺を作成し初対面の挨拶を練習する)	
12	Chapter 10 Product Specification: 製品の仕様書についての表現を学ぶ。(頭文字、略語、単位の表し方を確認する)	
13	Chapter 11 Business Plan: 企業の組織、事業計画、企業戦略についての語いを学ぶ。(音の連結に留意しながら聞き取る)	
14	発表②:プレゼンテーション(自社製品の販売促進や企画開発など発表する)。TOEIC対策練習: リーディング(Pre-Testで読解練習を行う。)	
15	Chapter 12 Operating Instructions 操作方法などについての英語表現を学ぶ。(ビジネス英語についてのまとめを行う)	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	毎回の授業に予習して臨み、授業中積極的に取り組む姿勢。	小テスト	20	教科書学習内容確認小テストを行う。
課題	20	毎回の授業予習指定項目の確認を行う。	発表	30	英語で発信する運用力がついているか評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①教科書の授業単元の学習内容に目を通しておくこと。指定された項目について事前に調べておくこと(20分) ②聞き取りの力をつけるために教科書音声ファイルを利用しリスニングを強化する(20分) ③発表の企画案をたて準備する(20分)	①課題は、授業内で口頭でコメントする。 ②小テストは、実施後回収採点した上でコメントし返却する。 ③発表は、実施後クラスコメントをまとめ配布する。

受講生に望むこと	①ビジネスに関する知識や情報を得られる機会は多い。積極的にクラス内外で情報を得るよう心がける。 ②日英いずれの言語でも論理的に自分の考えを述べることができるよう学習する。 ③自分の目標を設定し語学関係の検定にチャレンジ自己研鑽を積む。	教科書・テキスト	『Getting Global ! Engineer Your Future with English 将来のキャリアに活かす大学生のためのコミュニケーション英語』辻本智子著 金星堂 2017年 ISBN978-4-7647-4007-5
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EL240U ﾋﾞｼﾞﾈｽ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭB			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	本間　千重子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目では、教科書後半(Read and Explore, Research and Presentation)時事英語、英字新聞、標識、論文、会議などの多岐にわたるビジネス英語に関する事柄を学び、英語力を強化していく。TOEIC対策練習を実施する。	①ビジネスの場で必要なコミュニケーション力をつける。 ②ビジネスの現場を想定し、基礎から応用へと対応力を習得する。 ③英語でのスピーチやプレゼンテーションを通して発話力をつける。

教授方法	教科書各単元を学習の上、ロールプレイ・プレゼンテーションを取り入れる。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：教科書、授業概要、ねらい、進め方、成績評価について説明する。(多岐にわたるビジネス英語について理解する)	
2	Chapter 13 Talking about the News：時事的な話題をとりあげる。(意見を述べる際同意や反対を表する話し方を学ぶ)	
3	Chapter 14 Science News：英字新聞の記事の構成を知り英文の話法や表現の特徴を読みとる。(英字新聞の記事を読む)	
4	Chapter 15 Tourist Information：クライアントを観光地へ同行案内する場面を練習する。(案内したい観光地と行程を作成する)	
5	Chapter 16 Safety Signs：英語標識についての表現を学ぶ。(いろいろな標識事例による表現を知る)	
6	Chapter 17 Dinner Talk：レストランでの会食とメニューの選択についての語いを学ぶ。(和食メニューを英語で紹介する)	
7	発表①：場面を設定しロールプレイを行う。(前半のまとめ) TOEIC対策練習：語いの選択(Part5形式の問題練習する)	
8	Chapter 18 Abstracts：英語論文抄録について学ぶ。(アブストラクトについて知る)	
9	Chapter 19 Preparation for Meetings：会議を円滑に進める基本的な英語表現を学ぶ。(ゲストスピーカーとの事前打ち合わせについて練習する)	
10	Chapter 20 Data and Graphs：データーやグラフについての基本語いを学ぶ。(グラフの解説文を読む)	
11	Chapter 21 Presentation 1：プレゼンテーションの際に役立つ表現を学ぶ。(スピーチ原稿を作成する)	
12	Chapter 22 Presentation 2：プレゼンテーションで用いるスライドの説明を練習する。(特許出願のスライド例を参照する)	
13	発表②：プレゼンテーション(新入社員リクルートのための英語スピーチを行う)。TOEIC対策練習：Part5～Part7形式の読解問題練習を行う)	
14	Chapter 23 Various Requests：依頼に対応する英語表現を学ぶ。(英文shadowing発声練習をする)	
15	Chapter 24 Patent Description：特許申請の流れを知る。(後期のまとめを行う)	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	毎回の授業に予習して臨み、授業中積極的に取り組む姿勢。	小テスト	20	教科書学習内容確認小テストを行う。
課題	20	毎回の授業予習指定項目の確認を行う。	発表	30	英語で発信する運用力がついているか評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①教科書の授業単元の学習内容に目を通しておくこと。指定された項目について事前に調べておくこと(20分) ②聞き取りの力をつけるために教科書音声ファイルを利用しリスニングを強化する(20分) ③発表の企画案をたて準備する(20分)	①課題は、授業内で口頭でコメントする。 ②小テストは、実施後回収採点した上でコメントし返却する。 ③発表は、実施後クラスコメントをまとめ配布する。

受講生に望むこと	①ビジネスに関する知識や情報を得られる機会は多い、積極的にクラス内外で情報を得るよう心がける。 ②日英いずれの言語でも論理的に自分の考えを述べることができるよう学習する。 ③自分の目標を設定し語学関係の検定にチャレンジ自己研鑽を積む。	教科書・テキスト	『Getting Global ! Engineer Your Future with English 将来のキャリアに活かす大学生のためのコミュニケーション英語』辻本智子著　金星堂 2017年 ISBN978-4-7647-4007-5
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EL350U ｲﾝﾃﾝｼﾌﾞ・ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	中野　聡						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
ある程度の長さのある英文を、トップダウン読み、ボトムアップ読みの両方向から正確に読み取る力を高めることを目的とする。 そのために、教科書にある英文を読むことを通して、英文の読み取り方法を理解する。そして、より多くの英文を読むことで、英文読みとりの方法をより多く自分のものとして身に付けていく。できるだけ、素早く内容理解できる力も身に付けることも目指す。 ※SDGsターゲット5.5,5.c,13.1,15.2関連科目	①未知語類推の方法を身に付ける。 ②つなぎ言葉、語句等の繰り返し、並行構文などを手掛かりに文の展開を理解し、未知のパラグラフを予想しながら読み進めることができる。 ③新聞記事などの題材では、既習の単語等から、内容が類推できるようなスキーマを活性化させることができる。 ④事実と意見の部分から構成される英文の場合、事実と意見の部分を区別して、理解することができる。 ⑤「心的辞書（レンタルレキシコン）」を豊かにする。

教授方法	講義・演習
履修条件	英語力が、ＳＴＥＰ準2級以上であることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	Unit１ Check Your Level　現在のリーディング力を診断する	
2	Unit２ Experience Pre-Reading Activities　英文の内容を予測する	
3	Unit３ Identifying the Main Idea〈1〉メインアイディアを理解する〈1〉	
4	Unit４ Identifying the Main Idea〈2〉 メインアイディアを理解する〈2〉	
5	Unit５ Identifying the Main Idea〈3〉メインアイディアを理解する〈3〉	
6	Unit６ Understanding Supporting Details　詳細情報を理解する	
7	Unit７ Using Signal Words to Predict Ideas〈1〉シグナルワードを理解する〈1〉	
8	Unit８ Using Signal Words to Predict Ideas〈2〉シグナルワードを理解する〈2〉	
9	Unit９ Using Reference Words to Follow Ideas〈1〉指示語を理解する〈1〉	
10	Unit10 Using Reference Words to Follow Ideas〈2〉指示語を理解する〈2〉	
11	Unit11 Paragraph Organization 〈1〉Comparison and Contrast パラグラフ構造〈1〉「比較」と「対照」を学ぶ	
12	Unit12 Paragraph Organization 〈2〉Cause and Effect パラグラフ構造〈2〉「原因」と「結果」を学ぶ	
13	Unit13 Paragraph Organization 〈3〉Time Order and Process パラグラフ構造〈3〉「時間順序」を学ぶ	
14	Unit14 Paragraph Organization 〈4〉Problem Solution パラグラフ構造〈4〉「問題解決」を学ぶ	
15	Unit17 Reading Numbers: Tables and Graphs　表やグラフの数値を読み取るUnit20 Assess Your Achievement　現在の英語力を再診断する	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業 参加態度	30	意欲的に参加・発言 30点 概ね参加 15点 無関心・意欲がない ５点 を目安に、積極的な姿勢を評価する。	ポートフォリオ	30	授業で学んだ英文と授業以外で興味ある分野の英文を読み、身に付けたい関連語彙や英語表現について記録する。(My Dictionary)
小テスト	40	前時の学習内容に関する復習の小テストを行う。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①予習として、教科書を読み、わからない単語については、調べておく。また、天声人語を読み解くので、事前にわからない単語については調べ内容把握をしておく。〔50分〕 ②復習として、授業で読んだ教材をもう一度読み、身に付けたい単語や表現についてポートフォリオ（My Dictionary）にまとめる。〔20分〕 ③興味ある分野の英文を読み、身に付けたい、単語や表現についてポートフォリオ（My Dictionary）にまとめる。〔30分〕	小テスト結果、理解が難しかった部分については解説をする。 ポートフォリオ（My Dictionary）にまとめた身に付けたい表現については、確認し良いものについて紹介し、より良くするためのアドバイスをする。

受講生に望むこと	①授業で読める文章量は限られているので、意識して自分の興味ある分野の英文にたくさん触れる習慣を身に付けると、授業の学んだ文章の読み方が身に付くと心得てほしい。 ②解説者となった時は、正しく音読し、構文を説明するなどして英文を分かりやすく説明してほしい。	教科書・テキスト	『Reader's Ark Basic Setting Out on a Voyage』（初版）卯城裕司他著　金星堂　2019年　ISBN：978-4-7647-3884-3
指定図書／参考書等	・参考資料は、授業を進めながら紹介する。 ・英和辞典（紙、電子どちらでも）を毎回持参する。	その他・特記事項	・自分が身に付けたい単語や文をポートフォリオとしてファイリングしていくためにルーズリーフノートを準備する。詳しくは、最初の授業で説明する。 ・Classroomを用いて課題等を提示することがある。

実務経験を活かした授業の概要

中学校での経験を生かして、精読を中心としながらもある程度の分量を継続的に読んでいくこと、読み取った文の中で自分のものとしたい表現についてポートフォリオにしていく指導をしている。

授業科目名	EL360U ｴｯｾｲ･ﾗｲﾃｨﾝｸﾞ			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	中野　聡						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
わかりやすく伝えるためには、正確な英文を書くこと、文と文とのつながりを意識してパラグラフを作ること、いくつかのパラグラフから構成される文章の組立て（構造）を意識する。 ４技能を使った練習とよい英文を読むことによって文章の組立て方を学ぶ。また、教科書を通して、様々なテーマについて自分自身の考えを明確にして英語の文章を書く力を高める。英語の基本的なパラグラフ構成を学び，論理的な英文を書けるようになる。	①教科書テキストや天声人語を読んで、よい文章の構造の組立てについて理解する。 ②４技能を使った練習を通して正しい英文、つながりのあるパラグラフを書くことができる。 ③あるテーマについて、自分の考えを構造の組立てを意識して複数のパラグラフで、わかりやすく書くことができる。 ④与えられたテーマでパラグラフを書き、他者からの批評や、自発的見直しによって、より良いものに仕上げることができる。 ⑤「心的辞書（レンタルレキシコン）」を豊かにする。

教授方法	講義・演習
履修条件	英語力が、ＳＴＥＰ準2級以上であることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	Chapter１ What Is a Paragraph?　パラグラフとは何か	
2	Chapter２ Narration　出来事を語る	
3	Chapter３ Process　手続き・手順を説明する	
4	Chapter４ Description of Feelings　感情を描写する	
5	Chapter５ Description of People　人を描写する	
6	Chapter６ Description of Places & Locations　場所を描写する	
7	Chapter７ Definition　人物や物事を定義する	
8	Chapter８ Comparison　& Contrast　比較と対照	
9	Chapter９ Cause & Effect　原因と結果	
10	Chapter10 Problems & Solutions 問題と解決策	
11	Chapter11 Your Opinion- Agree　賛成意見を述べる	
12	Chapter12 Your Opinion- Disagree　反対意見を述べる	
13	Chapter13 Data Analysis　データ分析	
14	Chapter14 Email Writing 英文Eメール・英文レター	
15	Writingについてまとめ　良いパラグラフ構造の組み立てとは？	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業 参加態度	20	意欲的に参加・発言 20点 概ね参加 15点 無関心・意欲がない ５点 を目安に、積極的な姿勢を評価する。	ポートフォリオ	20	授業で学んだ英文と授業以外で興味ある分野の英文を読み、身に付けたい関連語彙や英語表現について記録する。(My Dictionary)
小テスト	30	前時の学習内容に関する復習の小テストを行う。	作文	30	指示したテーマについてエッセイを書く。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①予習として、教科書を読み、問題を解いておく。また、毎回天声人語を読み解くので、事前にわからない単語については調べておく。〔60分〕 ②復習として、授業で読んだ教科書や天声人語、基本構文150をもう一度読み、身に付けたい単語や表現についてポートフォリオ（My Dictionary）にまとめる。〔20分〕 ③復習として、与えられたテーマについて英語で作文する。〔40分〕	小テスト結果、理解が難しい部分については解説をする。 ポートフォリオ（My Dictionary）にまとめた身に付けたい表現については、確認し良いものについて紹介し、より良くするためのアドバイスをする。 エッセイについて、難しかったところは具体に基づいて解説する。

受講生に望むこと	①日本語の文章と同じように、英語で文章を書くのにも時間がかかるが、毎回書くことで力が付く。一方、よい英文をたくさん読んで、自分の作文に取り入れたい文例を自分の手元に蓄積してほしい。 　解説者となった時は、正しく音読し、構文を説明するなどして英文を分かりやすく説明してほしい。	教科書・テキスト	『Smart Writing -Active Approach to Paragraph Writing』（初版）仲谷都他著　成美堂　2020年 ISBN：978-4-7919-6032-3
指定図書／参考書等	参考資料は、授業を進めながら紹介する。 英和辞典、和英辞典（紙、電子どちらでも）を毎回持参する。	その他・特記事項	・自分が身に付けたい、自分の作文に取り入れたい単語や文例をファイリングしていくためにルーズリーフノートを準備する。 ・Classroomを用いて課題等を提示することがある。

実務経験を活かした授業の概要

中学校での経験を生かして、パラグラフも意識した構成ができりるように指導する。また、学生自身が自分の作品を読み返す、あるいはクラスメイトと読み合う機会を設けることで、自ら間違いやすいところを意識して、改善できるように指導していく。

授業科目名	EL370U ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	マシュー　ボッシュ						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
In this course: 1. We will build vocabulary by studying a number of different Bible passages. 2. We will take a CLIL (Content and Language Integrated Learning) approach.	The goals of this course are as follows: 1. Learn new English vocabulary by reading the Bible. 2. Improve in the four skills (listening, speaking, reading, and writing) through class activities. 3. Gain confidence in the use of English.

教授方法	Individual assignments
履修条件	none

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	Introduction to course	
2	Overview of Bible part 1 and select passage	
3	Overview of Bible part 2 and select passage	
4	Books of the Bible part 1 and select passage	
5	Books of the Bible part 2 and select passage	
6	Select Bible passage study	
7	Select Bible passage study	
8	Parables part 1 and select passage study	
9	Parables part 2 and select passage study	
10	Review and select Bible passage study	
11	Review and select Bible passage study	
12	Select Bible passage study	
13	Select Bible passage study	
14	Review of course part 1	
15	Review of course part 2	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
Weekly Assignments	60	Weekly reading assignments for English Bible study	Attendance and Effort	40	Class attendance and effort in classroom activities

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1. Review material each week from previous class (50 minutes) 2. Review material from previous lessons (30 minutes)	Feedback will be given as needed following assignments.

受講生に望むこと	An interest in the Bible	教科書・テキスト	none
指定図書／参考書等	This will be made known in class.	その他・特記事項	none

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EE210U 理科			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	川真田　早苗						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
小学校学習指導要領における理科の目標及び各領域、各学年の内容、系統性について理解するとともに、具体的な授業場面を例示し、どのような観察・実験を行うのか、どのように評価するのかについても考えていく。 ※SDGsターゲット11.5関連科目	1）小学校学習指導要領における理科の目標及び主な内容を理解する。 2）理科の各領域、各学年の学習内容・観察・実験等についての指導上の留意点について理解する。 3）理科の学習評価の考え方を理解する。 4）理科の背景となる物理・科学・生物・地学等とのつながりを理解し、教材研究に活用しようとする。 5）　理科における自然災害の取り扱いについて理解する。

教授方法	講義と演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	理科を学ぶ意義、本授業の到達目標・評価方法について理解する。	
2	理科の目標及び内容構成について理解する。	
3	A物質・エネルギー（1）「粒子の保存性」について理解する。	
4	A物質・エネルギー（2）「粒子の存在」について理解する。	
5	A物質・エネルギー（3）「粒子の結合」について理解する。	
6	A物質・エネルギー（4）「粒子のもつエネルギー」について理解する。	
7	A物質・エネルギー（5）「エネルギーの保存と変換」について理解する。	
8	A物質・エネルギー（6）「エネルギーの捉え方」について理解する。	
9	A物質・エネルギー（7）「エネルギーの保存と変換」について理解する。	
10	B生命・地球（1）「生物の連続性」について理解する。	
11	B生命・地球（2）「生物の外部の構造と機能」について理解する。	
12	B生命・地球（3）「生物の内部の構造と機能」について理解する。	
13	B生命・地球（4）「地球の内部と地表面の様子」及び自然災害の取り扱いについて理解する。	
14	B生命・地球（5）「地球の大気と水の循環」及び自然災害の取り扱いについて理解する。	
15	B生命・地球（6）「地球と天体の運動」について理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	70	課題内容に応じたレポートを書くことができたかを評価する。	授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業に関連する教科書の内容を予習する。(30分) レポート作成のため、授業内容を復習する。(30分)	レポートの評価及び解説を行う。

受講生に望むこと	資質・能力の育成を目指す理科授業を実現するために、理科の目標及び内容の系統性等を理解してほしい。	教科書・テキスト	「小学校学習指導要領解説　理科編」文部科学省2017 ISBN978-4491034638
指定図書／参考書等	授業中に適宜資料を配布する。	その他・特記事項	Classroomを用いた課題等の提示・提出を基本とする。

実務経験を活かした授業の概要

小学校における勤務経験及び平成29年小学校学習指導要領理科執筆の経験をもとに、小学校学習指導要領理科の目標の構造及び内容について体系的に取り上げ、理解を深めている。

授業科目名	EE200U 社会			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	福江　厚啓						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
自分が学習者として受けてきた社会科の授業を振り返ることに始まり、世界の抱える諸課題を踏まえた小学校社会科についての基礎的な知識と認識を身につける。 「社会的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通して，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」を育成するとは、具体的にどういうことかについて、知識と理解を深める。 ※SDGsターゲット4.1,4.7関連科目	①小学校における社会科教育の目標と内容を理解している。 ②子どもたちが教科内容を理解、習得する授業のあり方を自ら授業づくりやグループ協議に参加することを通し、理解している。 ③社会科授業をつくっていく上で必要な事柄を自分の言葉でまとめることができる。

教授方法	講義・演習、グループ協議
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。	
2	社会科って何だろう？：「学びの履歴」の振り返りから、小学校社会科の内容と課題について理解する。	
3	社会系教科の成立と歴史的変遷について理解する。	
4	社会科と生活科・総合的な学習等との関連について理解する。	
5	社会科を取り巻く現代の諸課題について理解する。	
6	小学校社会科の授業構成と展開例　3学年①「地域の生産や販売に携わっている人々」から	
7	小学校社会科の授業構成と展開例　3学年②「古くから続くくらし（道具・年中行事・先人）」から	
8	小学校社会科の授業構成と展開例　4学年①「地域の人々の健康な生活や良好な生活環境を守るための諸活動」から	
9	小学校社会科の授業構成と展開例　4学年②「地域の人々の安全を守るための諸活動」から	
10	小学校社会科の授業構成と展開例　5学年①「我が国の国土の様子と国民生活」から	
11	小学校社会科の授業構成と展開例　5学年②「我が国の食料生産・工業・情報産業などの様子と国民生活」から	
12	小学校社会科の授業構成と展開例　6学年①「我が国の歴史上の主な事象」から	
13	小学校社会科の授業構成と展開例　6学年②「我が国の政治の働き、憲法の考え方、国際社会における役割」から	
14	社会科における子どもの内面理解のあり方について理解する。	
15	まとめ：「子どもが主体的に学ぶ社会科学習の創造」について話し合う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート1（中間）	30	講義１～５までの授業から、社会科授業をつくっていく上で必要な事柄をまとめることができる。	レポート2（最終）	30	講義全体を通し、社会科授業をつくっていく上で必要な事柄をまとめることができる。
協議への参加	20	担当教員による模擬授業やグループディスカッションに積極的に参加している。	講義ごとの対話カード	20	毎回の講義の終わりに、疑問や意見、感想等を「対話カード」に書き、提出する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
現場における社会科の実践（研究授業、実践記録）から、積極的に学んでほしい。 ［60分］	対話カードの内容は、次時の講義の冒頭で紹介したい。 レポートは、2週間程度を目安に、コメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	普段から社会の動向や時事問題、歴史等の社会事象に関心をもち、問題意識をもって学ぶ姿勢を大切にしてほしい。	教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説社会編』文部科学省、日本文教出版、2018年、978-4536590099
指定図書／参考書等	授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	課題は必要に応じてClassroomに投稿し、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

小学校教諭の経験をもとに、小学校における実践を紹介し、グループ討議等に利用。また、大学生版アレンジとして演習を行っている。

授業科目名	EE215U 家庭			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	金丸　洋子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
『小学校学習指導要領解説家庭編』をもとに、小学校家庭科の果たすべき役割や指導内容について学習する。指導内容に関る基礎的基本的な知識の理解や技能を習得することを目的とする。家庭科は実践的態度を育てることも教科のねらいであり特徴である。本授業を通して、日常生活における自立や家庭・社会の一員としての自分自身の生活を振り返り、現状や課題について考える機会とする。	①教科の目標や各領域の基礎的・基本的知識を理解する。 ②調理や布を使った製作の基礎的技能を習得する。 ③子どもの家庭生活についての現状と課題について理解する。 ④持続可能な社会に向けて、家庭生活や社会生活の課題に気付き、実践的な態度に結び付けることができる。

教授方法	講義　演習　実習　ビデオ視聴
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業についてのガイダンス。教科「家庭科」の変遷から「家庭科」の目的や社会変化との関係について考える。	
2	結婚・家族・家庭生活の在り方について考えを深める。生活や家庭・地域における各自の課題を考える。	
3	子どもの家庭生活の現状と課題を基に、小学校家庭科の目標と内容構成について理解する。	
4	A領域　「家族・家庭生活」を構成している４項目と指導内容の理解を深める。	
5	A領域「家族・家庭生活」：実習　手作りおやつと家族の団らんについて、体験活動を通して理解を深める。	
6	B領域「衣食住の生活」：食事の役割や栄養を考えた食事についての理解を深める。	
7	B領域「衣食住の生活」：　伝統的な日常食の献立作成と調理実習計画を立案する。	
8	B領域「衣食住の生活」：調理の基礎知識や技能の習得、調理器具の安全で衛生的な取り扱いについて理解し取扱いできる。	
9	B領域「衣食住の生活」：実習　「調理の基礎」について実習を通して体験的に学び、知識や技能を習得する。	
10	B領域「衣食住の生活」：衣服の着用と手入れについて知識及び技能を習得する。「布を布を用いた製作」の計画を立案できる。	
11	B領域「衣食住の生活」：実習 手縫いやミシンの使い方の知識や技能、用具の安全な取り扱いについて体験的に学び習得する。	
12	B領域「衣食住の生活」：実習 布を用いた作品の製作目標や計画にそって作品を製作することができる。	
13	B領域「衣食住の生活」：実習 作品を仕上げ、基礎的・基本的な知識や技能を習得する。製作過程を振り返り反省評価できる。	
14	B領域「衣食住の生活」：エネルギー問題や生活環境に課題意識をもって、快適な住まい方の基礎的な知識・方法を考えることができる。	
15	C領域「身近な消費生活と環境」：家庭や地域生活における課題と実践の発表を通して、SDGsの生活の在り方を考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習や製作物	50	・積極的、主体的に実習に参加し工夫がみられるか。 ・製作計画や提出期限を遵守しているか。 ・基礎的基本的技能が習得できているか。	プレゼンテーション	20	家庭生活や社会生活からの問題意識を基に、テーマを説得し、説得力のある内容か。実践的な態度が養われているか。
小課題	30	ミニレポートは自分の考えを書くことができるか。 ミニテストは理解しているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習：次時の課題について予習したり、準備や試行して授業に臨んでください。［30分］ 事後学習：事後レポートや理解度評価テストを提出してください。製作計画に基づき課外で仕上げてください。［30分］	事後レポートにはコメントをつけて返却します。 製作物を評価し返却します。再提出を求める場合があります。

受講生に望むこと	「家庭科」は日々の生活の科目であり、「生活の基本」の教科 と言えます。しかし、現代社会では、家庭や「衣・食・住」の生活に、課題が多い。社会の変遷との関係や家庭科の基礎・基本を学ぶ中で「考える・できる・教える」力をつけてほしいと願っています。	教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説家庭編』文部科学省 東洋館 2018年　ISBN 978-4-491-03466-9 『家庭科の基本』流田直監修　学研教育みらい　2020年 ISBN-9784058011102
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	実習費徴収 製作物材料費は個人負担

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EE306U 国語科指導法（書写を含む）			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	金丸　洋子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
国語科学習指導の特質や現状、指導のための基礎的知識や技術を学ぶ。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の言語活動を通して、知識や技能、資質・能力の育成を図る指導を行うための授業力を、講義やグループ討議、模擬授業などを通して学ぶ。	①国語科教育の実践的指導にあたっての基礎的知識を理解している。 ②発達段階や系統性を踏まえて国語科学習指導計画を立案できる。 ③模擬授業を通して国語科の実践的な指導技術を習得している。 ④子ども・指導者両者の立場から授業を評価できる。

教授方法	講義　演習　授業参観　グループ討論
履修条件	「国語」を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要説明。小学校時代の国語の授業を振り返り、学習者としての体験から学ぶことができる。	
2	「小学校国語教師」の役割と務めを理解し、国語教師としての学びの必要性と意欲を高める。	
3	指導事項や言語活動例が教科書教材にどのように具現化なされているか調べ、教材開発・教材研究について理解を深める。	
4	「話すこと」・「聞くこと」に関する学習指導の在り方の研究	
5	「書くこと」に関する学習指導の在り方の研究	
6	「読むこと」に関する学習指導の在り方の研究	
7	「言葉の特徴や使い方、情報の扱い方」に関する学習指導の在り方の研究	
8	演習　書写（硬筆・毛筆）に関する学習指導について体験的に学び、書写に関する事項を理解する。	
9	指導計画と国語学習指導案の基本的な書き方を通して、授業展開をイメージできる。	
10	模擬授業の実施と評価・協議①	
11	模擬授業の実施と評価・協議②	
12	模擬授業の実施と評価・協議③	
13	模擬授業の実施と評価　協議④	
14	模擬授業の実施と評価　協議⑤	
15	まとめ　「めざす国語の授業」「めざす子どもの学びの姿」	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
学習指導案	40	十分な教材研究がなされている。単元の目標達成や本時の目標達成を明確にした学習指導案がつくられている。	模擬授業の実施	40	十分な事前準備がなされている。ねらい達成のための授業展開ができている。授業者・児童双方の立場を理解した行動や関わりがなされている。客観的な高め合う相互評価をしている。
課題	20	授業力における自分の課題を理解している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習　教材研究や模擬授業の指導案を作成する。[90分] ②事後学習・授業で学んだことや各自の課題についてレポートを作成する。[30分]	・課題には、個別にコメントや評価を入れフィードバックする。 ・毎回授業の初めに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。

受講生に望むこと	「国語」で学んだ国語科の目標と内容を想起してほしい。模擬授業で授業力をつけるためにも、事前事後学習や教材研究にしっかり取り組んでもらいたい。子どもの立場に立って授業案を考え、指導を試みることが大切である。自分の課題や目標をみつけて授業力向上に励んでほしい。	教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説　国語編』文部科学省　東洋館　2018年　INBN：9784491034621
指定図書／参考書等	なし/『言語活動の充実に関する指導事例集』～思考力、判断力、表現力の育成に向けて～【小学校版】文部科学省　教育出版　2011年 ISBN978-4-316-300290-0 小学校国語学習指導書1年～6年　光村図書出版株式会社 ISBN978-4-89528-850-7～978-4-89528-861-3	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EE311U 算数科指導法			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	川真田　早苗						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
算数科の学習指導に関して小学校教員として必要な基礎的な能力を育成するために、小学校算数科の目標や指導内容、教材研究や指導計画、学習評価・学習指導法等について実践的に学習していく。	1）算数科の指導方法や目標、内容、評価等に関する基本的な事項を理解する。 2）算数科の教材研究や学習指導案の作成等について知り、授業実践に活かそうとする。 3）算数科に関する児童の実態及び学習指導についての考えを深める。

教授方法	講義と演習
履修条件	「算数」を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要、授業の進め方、成績評価の方法を知る。 算数教育の意義、目標、内容について理解する。	
2	主体的・対話的で深い学びを目指す算数教育について理解する。	
3	日本の算数教育の歴史について理解する。	
4	授業の構成、学習指導案を立てる意義、評価の仕方について理解する。	
5	「A 数と計算」の学習指導案を立案し､指導法について理解する。	
6	「B 図形」の学習指導案を立案し､指導法について理解する。	
7	「C 測定」「C 変化と関係」の学習指導案を立案し､指導法について理解する。	
8	「D データの活用」の学習指導案を立案し､指導法について理解する。	
9	個人で模擬授業を計画し指導案を作成する。また，模擬授業のテーマによりグループを編成する。	
10	グループで模擬授業を計画し指導案を修正する。	
11	グループによる模擬授業を実施し､協議する。	
12	グループによる模擬授業を実施し､協議する。	
13	グループによる模擬授業を実施し､協議する。	
14	グループによる模擬授業を実施し､協議する。	
15	算数教育における今日的課題について理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	40	課題内容に応じたレポートを書くことができたかを評価する。	模擬授業	40	教材研究を行い、模擬授業を行うことができたかを評価する。
授業参加態度	20	授業への取り組み姿勢を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業に関連する教科書の内容を予習する。(30分) 授業で示す課題に取り組み、次回の授業の開始時に提出する。(60分)	レポートは、評価し授業においてフィードバックする。

受講生に望むこと	小学校の教員として、子供たちに算数科の学習を計画・実践するとき、どのようなことに留意しなければならないかについて具体的に理解してほしい。	教科書・テキスト	「小学校学習指導要領解説　算数編」文部科学省2017 ISBN978-4536590105
指定図書／参考書等	なし。授業中に適宜資料を配布する。	その他・特記事項	Classroomを用いた課題等の提示・提出を基本とする。

実務経験を活かした授業の概要

小学校における勤務経験及び算数教育研究校での研究主任の経験をもとに、小学校学習指導要領算数科の目標・内容と関連付けた実践を例示・説明している。これをもとに､学生には､教材研究、指導案作成､模擬授業を行わせている。

授業科目名	EE316U 理科指導法			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	川真田　早苗						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
理科の学習指導に関して小学校教員として必要な基礎的な能力を育成するために、小学校理科の目標や指導内容、教材研究や指導計画、学習評価・学習指導法等について実践的に学習していく。 ※SDGsターゲット11.5関連科目	1)理科の指導方法や目標、内容、評価等に関する基本的な事項を理解する。 2)理科の教材研究や学習指導案の作成等について知り、授業実践に活かそうとする。 3)理科に関する児童の実態及び学習指導についての考えを深める。 4)理科で自然災害をどう教えるかを理解する。

教授方法	講義と演習
履修条件	「理科」を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要、授業の進め方、成績評価の方法を知る。理科教育の意義について理解する。	
2	理科の目標の構造、指導内容とその概観、授業改善の視点について理解する。	
3	理科で何をどのように学ばせるのかについて、4つの領域から考える。	
4	資質・能力を育成する授業づくりについて理解する。	
5	授業の方法、授業の進め方、問題解決の授業、ＩＣＴ機器の活用、学習評価・評定について理解する。	
6	実験と観察、基本的な実験器具の使い方、試薬の扱い方、理科室の整備と管理について理解する。	
7	学習指導要領と学習指導案の関連について理解する。	
8	問題解決の活動を具体化する学習指導案の作成方法について理解する。	
9	学習指導案作成の方法を理解する。	
10	模擬授業で実施する学習指導案の作成及び授業準備をする。	
11	模擬授業を実施し，授業のねらいが達成できたかどうかについて協議する。	
12	模擬授業を実施し，授業のねらいが達成できたかどうかについて協議する。	
13	模擬授業を実施し，授業のねらいが達成できたかどうかについて協議する。	
14	模擬授業を実施し，授業のねらいが達成できたかどうかについて協議する。	
15	理科で自然災害をどう教えるかを理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	40	課題内容に応じたレポートを書くことができたかを評価する。	模擬授業	40	教材研究を行い、模擬授業を行うことができたかを評価する。
授業参加態度	20	授業への取り組み姿勢を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業に関連する教科書の内容を予習する。(30分) 授業で示す課題に取り組み、次回の授業の開始時に提出する。(30分)	レポートは評価し､評価内容は授業で活用する。

受講生に望むこと	小学校の教員として、子供たちに理科の学習を仕組むときに、どのようなことに留意しなければならないかについて具体的に理解してほしい。	教科書・テキスト	「知識とスキルがアップする小学校教員と教育学部生のための理科授業の理論と実践」講談社　2021 ISBN　9784065229446
指定図書／参考書等	「小学校学習指導要領解説　理科編」文部科学省2017　ISBN978-4491034638	その他・特記事項	Classroomを用いた課題等の提示・提出を基本とする。

実務経験を活かした授業の概要

小学校における勤務経験及び平成29年小学校学習指導要領理科執筆の経験をもとに､小学校学習指導要領理科の目標・内容と関連付けた実践を例示・説明している。これをもとに､学生には､教材研究、指導案作成､模擬授業を行わせている。

授業科目名	EE301U 社会科指導法			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	福江　厚啓						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
学習指導要領「社会科」の教科目標には、「社会的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通して，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」を育成する、とある。小学校3年生から 6 年生まで、それぞれの発達の段階に応じた社会科の学習指導を行うために必要な技能を身につけることを目指し、実践的に学んでいく。	①小学校社会科の目標、意義、内容、指導法、評価について理解を深め、授業実践のための基礎的知識および技能を身に付ける。 ②社会科の主な指導内容・方法を選択し、学習指導計画案の作成や模擬授業を通じて、その特色や問題点などについて実践的に理解を深める。

教授方法	講義および教材研究、単元計画・指導案の作成の課題、模擬授業など
履修条件	基礎となる「社会」を履修済であることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。	
2	小学校社会科における教科の本質について理解する。	
3	社会科指導のあり方（教材研究、指導計画立案）を理解する。	
4	社会科指導のあり方（授業展開、評価）を理解する。	
5	社会科授業の様々な方法論について理解する。	
6	3，4 学年における社会科教育の目標と内容を理解する。	
7	5，6 学年における社会科教育の目標と内容を理解する。	
8	社会科授業3，4 学年の指導計画の作成を理解する。	
9	社会科授業5，6 学年の指導計画の作成を理解する。（社会科学習指導案①の提出）	
10	学生による模擬授業の実施と反省、評価①（3学年）	
11	学生による模擬授業の実施と反省、評価②（3,4学年）	
12	学生による模擬授業の実施と反省、評価③（4学年）	
13	学生による模擬授業の実施と反省、評価④（5学年）	
14	学生による模擬授業の実施と反省、評価⑤（6学年）	
15	全体ふりかえり、まとめ、社会科学習指導案②（修正版）の提出	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
学習指導計画案	25	模擬授業実施のための学習指導計画案を作成する。その際、十分に教材研究をし、創意工夫をおこなっている。	模擬授業	30	授業づくりに積極的に参加することができる。
修正指導案・期末レポート	25	模擬授業や担当教員による助言を踏まえ、修正版指導案を提出する。また、授業づくりについての学びを簡潔にまとめることができる。	講義ごとの対話カード	20	毎回の講義の終わりに、疑問や意見、感想等を「対話カード」に書き、提出する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
単元計画・指導案の作成、模擬授業の準備のため、授業時間外に積極的に教材研究を行う。［60分］ 金沢市近郊の小学校あるいは母校等において、学習支援に積極的に参加する。［60分以上］	学習指導計画案は、初回に提出されたものに担当教員が指導助言を行い、いったん返却する。模擬授業等を踏まえて修正を行ったものを期末に再提出するものとする。2週間程度を目安に、コメントをつけて返却する。 対話カードの内容は、次時の講義の冒頭で紹介したい。

受講生に望むこと	社会科実践に興味をもって教材研究を進めたり、仲間とともに授業をつくったりすることを大切にしてほしい。	教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説社会編』文部科学省、日本文教出版、2018年、978-4536590099
指定図書／参考書等	授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	課題はClassroomに投稿し、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

小学校教諭の経験をもとに、小学校における実践を例示し、教材研究、指導案作成の手がかりとしている。

授業科目名	EE321U 生活科指導法			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	福江　厚啓						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
戦前戦後の日本における生活科教育思想の系譜、小学校低学年における社会科・理科の廃止と生活科新設の経緯、授業づくりの諸課題等についての理解を深める。 1、2 年生の発達の段階に応じた生活科の授業づくりや適切な支援を行うために必要な技能を身に付けることを目指し、実践的に学んでいく。	①生活科の目標、意義、内容、指導法、評価について理解を深め、授業実践のための基礎的知識および技能を身に付ける。 ②生活科の主な指導内容・方法を選択し、学習指導計画案の作成や模擬授業を通じて、その特色や問題点などについて実践的に理解を深める。

教授方法	講義および教材研究、単元計画・指導案の作成の課題、模擬授業など
履修条件	基礎となる「生活」を履修済であることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。	
2	生活科新設の経緯と生活科教育思想の系譜について理解する。	
3	教材研究、指導計画立案について理解する。	
4	授業展開、評価について理解する。	
5	生活科授業づくりにおける「気付き」について理解する。	
6	生活科の目標と内容を理解する。	
7	生活科学習指導計画の作成について理解する。	
8	指導計画の作成、質問教室（生活科学習指導案①の提出）	
9	学生による模擬授業の実施と反省、評価①（1学年）	
10	学生による模擬授業の実施と反省、評価②（1学年）	
11	学生による模擬授業の実施と反省、評価③（1学年）	
12	学生による模擬授業の実施と反省、評価④（2学年）	
13	学生による模擬授業の実施と反省、評価⑤（2学年）	
14	学生による模擬授業の実施と反省、評価⑥（2学年）	
15	模擬授業全体を通じての全体振り返り、まとめ。生活科学習指導案②（修正版）の提出	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
学習指導計画案	25	模擬授業実施のための学習指導計画案を作成する。その際、十分に教材研究をし、創意工夫を行っている。	模擬授業	30	授業づくりに積極的に参加することができる。
修正指導案・期末レポート	25	模擬授業や担当教員による助言を踏まえ、修正版指導案を提出する。また、授業づくりについての学びを簡潔にまとめることができる。	講義ごとの対話カード	20	毎回の講義の終わりに、疑問や意見、感想等を「対話カード」に書き、提出する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
三小牛山周辺の自然に興味を持ち、生物や暮らしについて学ぶ。[20分] 単元計画・指導案の作成、模擬授業の準備のため、授業時間外に積極的に教材研究を行う。[60分] 金沢市近郊の小学校、あるいは母校等の学習支援に積極的に参加する。[60分以上]	学習指導計画案は、初回に提出されたものに担当教員が指導助言を行い、いったん返却する。模擬授業等を踏まえて修正を行ったものを期末に再提出するものとする。2週間程度を目安に、コメントをつけて返却する。 対話カードの内容は、次時の講義の冒頭で紹介したい。

受講生に望むこと	生活科実践に興味をもって教材研究を進めたり、仲間とともに授業をつくったりすることを大切にしてほしい。	教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説 生活編』文部科学省、東洋館出版社，2018年、978-4491034645
指定図書／参考書等	授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	・課題はClassroomに投稿し、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

小学校教諭の経験をもとに、小学校における実践を例示し、教材研究、指導案作成の手がかりとしている。

授業科目名	EE326U 図画工作指導法			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	鷲山　靖						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
1．カリキュラムにおける位置付け ①この科目は資格取得に必要な科目である。 ②この科目は「図画工作」に連接する科目である。 ③この科目は保育内容の表現に関する科目と関連がある。 2．授業のねらい ①図画工作科教育の理念と歴史を学び、図画工作を教える信念を持つ。 ②図画工作科の学習指導の基本的技術を習得する。 3．授業の進め方 ①テーマごとに講義・作品制作・評価・鑑賞・ノート作成を行う。 ②期末に基礎知識・技能に関する筆記試験を行う。	①図画工作科の教育理念及びその歴史を理解している。 ②図画工作科授業の計画・実践に関する基本的な知識・技能を習得している。 ③図画工作科授業の評価に関する基本的な知識・技能を習得している。

教授方法	スライドによる講義の他、教科書検討・口頭発表・グループ学習による演習を行い、期末の筆記試験により基礎知識の理解を深める。
履修条件	「図画工作」を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の計画、到達目標、成績評価の方法、事前・事後学習を理解する。 基礎知識①：図画工作科の教育理念とその歴史を理解する。	
2	基礎知識②：図画工作科の授業時数・目標・内容・配慮事項について、学習指導要領と学校教育法施行規則を検討し理解する。	
3	基礎知識③：図画工作科の表現・鑑賞指導の共通事項について、学習指導要領及び図画工作科教科書を検討し理解する。	
4	基礎知識④：図画工作科が主に取り扱う材料・用具とその安全な使い方および表現技法について、図画工作科教科書を検討しを理解する。	
5	基礎知識⑤：児童の描画の発達過程について、図画工作科教科書及び関係資料を検討し理解する。	
6	基礎知識⑥：図画工作科における題材の系統性や道徳・環境問題・人権尊重・国際理解・文化の伝承や文化遺産の尊重との関連について、 図画工作科教科書を検討し理解する。	
7	基礎知識⑦：図画工作科授業の成立要件と図画工作科題材の特性について理解する。	
8	授業構想・演習①：図画工作科の年間指導計画の要点・立案方法について、演習を通じて理解・習得する。	
9	授業構想・演習②：図画工作科の学習指導案の要点・立案方法について、演習を通じて理解・習得する。	
10	授業構想・演習③：図画工作科における指導言とその要点を理解する。	
11	授業構想・演習④：図画工作科における発問・説明の要点・方法について理解する。	
12	授業構想・演習⑤：図画工作科における発問・説明の要点・方法について、発表（個人）・相互評価形式による演習を通じて理解・習得する。	
13	授業構想・演習⑥：図画工作科における学習評価の理論と方法を理解する。	
14	授業構想・演習⑦：図画工作科題材の評価規準の要点・作成方法について、演習（グループ）を通じて理解・習得する。	
15	授業構想・演習⑧：図画工作科題材の評価規準に基づく学習評価・評定の要点・方法について、演習（グループ）を通じて理解・習得する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講姿勢	40	①疑問点やよく理解できないことを質問している。 ②講義内容とともに自分の考えをノートしている。 ③ミニッツペーパーや小課題に取り組み、提出している。	定期試験	60	図画工作科教育の視野を広げ、その理論・授業方法を理解することができた。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業内容に対する自分の考えや意見、気付きをノートに書き留める。［10分］ ②教科書・テキストを読み直し、授業に関係なく各自読み進む。［30分］	課題（演習）の成果は，担当教員による評価（口頭）に加えて、受講者による相互評価（口頭）を行う。

受講生に望むこと	①スライド進行が早いと感じたら、その事を遠慮なく担当教員に伝えること。 ②考えたこと、思ったことなど気付きをどんどんノートしておくことを勧めます。	教科書・テキスト	①『図画工作１・２上～５・６下』（令和2年度）日本文教出版 ②『小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　図画工作編』日本文教出版 2018年　ISBN9784536590112 ③『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 図画工作』 東洋館出版社　2020年
指定図書／参考書等	なし／授業時に随時紹介する	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EE331U 音楽科指導法			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	武田　恵美						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
小学校学習指導要領「音楽」の教科目標には、「表現及び鑑賞の活動を通して,音楽的な見方・考え方を働かせ,生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。」とある。第１学年から第６学年まで、それぞれの発達の段階に応じた音楽科の学習指導を行うために必要な技能を身に付けることを目指し、実践的に学んでいく。	①小学校音楽科の目標、内容、指導法、評価について理解を深め、授業実践のための基礎的な知識及び技能を身に付ける。 ②音楽科の主な指導内容・方法を選択し、学習指導計画案の作成や模擬授業を通じて、その特色や問題点などについて実践的に理解を深める。

教授方法	講義と演習
履修条件	「音楽」を履修している者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業計画、到達目標、成績評価の方法等について、シラバスを通して理解する。小学校音楽科における教科の本質について理解する。 教材研究Ⅰ：共通教材（低学年）の歌唱・ピアノ伴奏について学ぶ。	
2	音楽科の「目標」と「各学年の目標」、「内容」の構成を理解する。 教材研究Ⅱ：共通教材（低学年）の歌唱・ピアノ伴奏を習得する。	
3	音楽科の「内容」について理解する。 教材研究Ⅲ：共通教材（中学年）の歌唱・ピアノ伴奏について学ぶ。	
4	音楽科の「指導計画の作成と内容の取扱い」について理解する。 教材研究Ⅳ：共通教材（中学年）の歌唱・ピアノ伴奏を習得する。	
5	音楽科の「評価」について理解する。 教材研究Ⅴ：共通教材（高学年）の歌唱・ピアノ伴奏について学ぶ。	
6	教材研究Ⅵ：共通教材（高学年）の歌唱・ピアノ伴奏を習得する。 Ａ表現（１）歌唱の指導法と教材について学ぶ。	
7	Ａ表現（２）器楽の指導法と教材について学ぶ。 Ａ表現（３）音楽づくりの指導法と教材について学ぶ。	
8	Ｂ鑑賞の指導法と教材について学ぶ。 学習指導案について理解する。	
9	学習指導案の作成及び修正。学習指導案の提出①。	
10	学生による模擬授業Ⅰ：実施と評価・反省。	
11	学生による模擬授業Ⅲ：実施と評価・反省。	
12	学生による模擬授業Ⅲ：実施と評価・反省。	
13	学生による模擬授業Ⅳ：実施と評価・反省。	
14	学生による模擬授業Ⅴ：実施と評価・反省。	
15	学生による模擬授業Ⅵ：実施と評価・反省。 全体の振り返りとまとめ、学習指導案の提出②。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	授業への取り組み姿勢。	模擬授業	20	模擬授業の内容。
学習指導計画案①、②	40	①模擬授業実施のための学習指導計画案作成において十分に教材研究をし、創意工夫して作成されているか。 ②模擬授業や担当教員による助言を踏まえて、修正版学習指導計画案が作成されているか。	課題の取り組み	20	課題に対しての取り組みと内容。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①音楽の基礎的な技術を高めるための課題を出しますので、積極的に取り組んで下さい。［50分］ ②講義内容について自身で振り返り、疑問点や不明点を調べて下さい。［20分］ ③学習指導計画案作成において、基本的な要件を漏れなく記載することができるように多くの学習指導計画に当たって下さい。［20分］	コメント又は個別指導をします。

受講生に望むこと	①毎授業で出される課題に積極的に取り組んで下さい。 ②歌うことと、ピアノを演奏することを継続的に学習して下さい。	教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説　音楽編』東洋館出版社、2018年、ISBN978-4-49103-465-2／『小学校 音楽科教育法 2022年改訂版』有本真紀・阪井恵・津田正之編著、教育芸術社 、2021年、ISBN978-4-87788-969-2／プリント
指定図書／参考書等	なし／『保育者、教員をめざす人のための 初級ピアノ・テクニック速習ステップス』木許隆監修、音楽之友社、2015年、ISBN978-4-276-82073-9／『音楽の基礎 改訂版』木許隆監修、圭文社、2018年、ISBN978-4-87446-066-5／『Basic and Variations』、木許隆, 武田恵美, 長井典子編著、圭文社、2022年3月出版予定 ISBN978-4-87446-067-2	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EE336U 家庭科指導法			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	荒井　紀子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
家庭科は、子どもに、現在の暮らしを見つめさせ、さらに将来の生活をどうつくるかを考えさせ、生活力を身につけさせる教科である。ここで扱う「生活」は、自分や家族など人に関わる内容と、衣食住、消費、環境など暮らしの営みに関わる内容からなり、各内容は密接につながっている。本授業では、生活の様々な側面をとりあげながら、子どもの生活自立を促し、暮らしへの興味や関心を高めることのできる家庭科の授業について、SDGsとの関連にも注目しながら、理論と実践の両面から学んでいく。講義の前半では、主に、文献や視聴覚資料を用いて、家庭科の歴史やカリキュラムの内容、諸外国の家庭科などについて理論的な理解を深める。後半は、具体的な授業づくりの方法について、授業計画から授業の準備と実践、省察まで、グループ活動も取り入れながら体験的に学んでいく。 ※SDGsターゲット1.3,2.1,3.7,4.7,5.1,5.5,11.1,11.7,12.3,12.8,13.1,14.1,15.1関連科目	①家庭科教育の歴史や教科の目標・内容についての基礎的理解を深める。 ②児童の生活力を高める学習の構造やカリキュラムについて認識を深める。 ③児童の意欲を引き出す学習方法を習得し授業づくりの力をつける。

教授方法	講義、視聴覚教材や文献にもとづくディスカッション、模擬授業などのグループ活動、これらを組み合わせて行う
履修条件	「家庭」を履修していることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション（学校教育で育みたい力と家庭科との関係について、受講生自身が学んできた家庭科の授業を振り返りながら考える）	
2	家庭科教育とは何か（小学校の家庭科教諭、名取弘文先生の授業実践を読み、生徒の自発性や意欲を引き出す家庭科の特性や可能性について考える）	
3	家庭科の歴史と男女共修（1947 年誕生の家庭科の60年の歴史を概観し、時代背景との関係を考える。また家庭科の男女共修の実現の経緯とプロセスについて理解する）	
4	家庭科の目標・内容とSDGsとの関連（学習指導要領の目標、内容や資質・能力、深い学びについてに理解するとともに、SDGsと家庭科との関連について検討する）	
5	諸外国の家庭科（米国、ヨーロッパ、アジアの家庭科教育について、カリキュラムや学習内容・方法を各国の教科書や資料、写真をもとに検討する）	
6	家庭科における探究的な学びとカリキュラム（１）（三国清三氏の食の授業の動画をもとに、地域の食材と自らの五感を生かした食の学習について検討する）	
7	家庭科における探究的な学びとカリキュラム（２）（子供の自発性や生活自立力を育む家庭科のカリキュラムの構造について理解し、その理論を用いて、前回の三国清三氏の食の授業を分析する）	
8	家庭科における探究的な学びとカリキュラム（３）（消費者学習の動画をみて、子どもの探究を促すジグゾー型の授業の構造を理解し、その効果について検討する）	
9	授業を読む（１）（テキストに掲載されたSDGsに関わる家族や食の授業実践を読み、その長所と改善点について検討する）	
10	授業を読む（２）（テキストに掲載されたSDGsに関わる消費や住居などの授業を読み検討すると共に、各自の授業案を作成する）	
11	模擬授業（１）授業計画を立てる（各自の授業案をもとに、グループごとに授業テーマを確定し、授業の構想をたてる）	
12	模擬授業（２）細案を完成させ、模擬授業の準備を行う（細案に関わる資料や教材、教具を作成する）	
13	模擬授業（３）授業の実施（前半）（グループごとに実施し、生徒役と教師役の両方を体験する）	
14	模擬授業（４）授業の実施（後半）	
15	各グループの模擬授業についての省察と、講義全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
個人作成の授業案と実践	20	授業構想がしっかりたてられているか、教材教具が適切に準備されているか、授業実践の子どもへの問いかけは適切か。	課題レポート	30	課題に求められていることを理解し、それを発展させているか、実習や調査を適切に行っているか、まとめ方や表現は適切か。
定期試験	50	講義全体に関する各自の省察の中身を問う。具体的には、本講義で学んだことを理解しているか、それぞれの問いに対して、自分の言葉でしっかり考察できているかをみる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
8回の授業が終わった時点で、授業計画に必要な教材研究の一環として、食生活と衣生活に関わる実践的な問題解決の課題を出す。［180分程度］	講義期間中に出した課題については、簡単なコメントをつけて返却するとともに、授業でもその中身をクラスで紹介し、学生の授業計画の作成等の参考となるよう配慮する。

受講生に望むこと	受講前に教科書の「はじめに」「目次」と、関心のあるところに目を通しておいて下さい。	教科書・テキスト	『SDGsと家庭科カリキュラム・デザイン』教育図書㈱、2020年 ISBN：9784877304355
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EE341U 体育科指導法			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	田邊　圭子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
学習指導要領に示された体育科教育の目標や内容を理解する。実践的指導のための基礎的知識と技能を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用し、各領域の特質に応じた学習活動を行うことができるように工夫することについても学ぶ。	小学校体育科における各運動領域の特性を理解し、体育授業に必要な技能と発達段階や系統性を踏まえた具体的な指導法や授業設計を身に付ける。

教授方法	対面授業による講義、教材研究、模擬授業、グループディスカッション
履修条件	「体育」を履修中もしくは履修済みであることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	学校教育における体育の意義について理解する。	
2	小学校学習指導要領における運動領域と保健領域の関連について理解する。	
3	体育の授業づくりと指導法について理解する。	
4	「体つくり運動」の特性と学習指導要領の理解を踏まえた指導案を作成する。〔タブレット（スマートフォン）やデジタルカメラなどのICT 機器を活用して動き方を確認し、どのようなポイントを意識して運動を行うと動きが高まるのかを見付け、それを生かした運動を工夫する指導計画を含む〕	
5	「体つくり運動」の模擬授業及び授業づくりと指導法について理解する。	
6	「器械運動」の特性と学習指導要領の理解を踏まえた指導案を作成する。（ICT 機器を活用して、動きのポイントと自己や仲間の動きを照らし合わせ、技のできばえや次の課題を確認するなど、自己の課題を見付ける指導計画を含む）	
7	「器械運動」の模擬授業及び授業づくりと指導法について理解する。	
8	「陸上運動」の特性と学習指導要領の理解を踏まえた指導案を作成する。（走ったり跳んだりする運動の様子をICT機器を活用して確認し、動きのポイントと照らし合わせて自己の課題を見付ける指導計画を含む。）	
9	「陸上運動」の模擬授業及び授業づくりと指導法について理解する。	
10	「水泳」の特性と学習指導要領の理解を踏まえた指導法について理解する。（ICT 機器を活用して、課題や解決のための動きのポイントを仲間と確認し、自己の課題に応じた練習の仕方を選ぶことの指導計画を含む）	
11	「ボール運動」の特性と学習指導要領の理解を踏まえた指導案を作成する。（自己や仲間が行っていた動き方の工夫を、動作や言葉絵図、ICT 機器を用いて他者に伝える指導計画を含む）	
12	「ボール運動」の模擬授業及び授業づくりと指導法について理解する。	
13	「表現運動」の特性と学習指導要領の理解を踏まえた指導案を作成する（タブレットやデジタルカメラなどのICT 機器を活用して自己の表現の様子を確認し、次の課題を確認するなど、自己の課題を見付ける指導計画を含む）と共に、「表現運動」の模擬授業及び授業づくりと指導法について理解する。	
14	「保健」の内容と学習指導要領の理解を踏まえた指導案を作成し、授業づくりと指導法について理解する。	
15	「運動の楽しさや喜びを味わえる体育授業と指導」について考えを深め、まとめる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢	模擬授業の発表内容	20	①模擬授業に向けた丁寧な準備がされているか。 ②運動に関する正しい指導が行われたか。 ③運動が得意な児童だけでなく苦手な児童への配慮がなされたか
指導案の内容	30	①十分な教材研究がなされているか。 ②異なる能力の児童の姿を想定しているか。 ③安全への配慮が考えられているか	レポート・試験	20	「体育」について自分の考えを論理的に述べることができているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①ニュースや新聞で報じられている運動や健康に関する情報に接し、様々な角度から考える［60分］ ②授業中に配布した資料を読む［30分］ ③指導案及びレポートの作成［60分］ 小学校低学年体育、文部科学省‐You Tube 小学校中学年体育、文部科学省‐You Tube 小学校高学年体育、文部科学省‐You Tube	指導案はコメントを付記して返却する。 レポート・試験は授業の理解度の確認に用い、必要な場合は個人指導を行う。

受講生に望むこと	「運動が得意だから体育が教えられる」、「運動が苦手だから体育は教えられない」と考えないでください。体育は単に運動技術を高めるためでなく、能力差のある子供達が一緒に運動することを通して学びあう科目です。体育の楽しさを教えるためには、運動に関する正しい知識と指導法に加え、授業内容の工夫が必要です。自分自身のこれまでの経験は大切ですが、それが全てとは考えないでください。	教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説　体育編』、文部科学省、2017年、ISBN:9784491034676 『すべての子どもが必ずできる　体育の基本』、髙橋健夫他　著、学研教育みらい、2010年、ISBN:978-4-05-404531-6 その他授業中に適宜資料を配布する
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	模擬授業は、運動できる服装に着替え、体育館履きに履き替えて受講すること。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EE346U 英語科指導法			開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	中野　聡						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
前年度開講した「英語」での学びを基盤に、小学校外国語活動及び外国語科指導（以下「小学校英語教育」）に必要な基礎的な知識を学ぶ。具体的には、小学校外国語教育の背景や諸外国の状況、英語指導に関わる理論（言語習得、教授法、到達目標と指導計画、授業の構想、評価の在り方）などを学ぶ。一方、模擬授業を通じて具体的な指導技術（指導案作成、題材やコミュニケーション活動設定、教材研究、パフォーマンス評価、英語での語りかけ、Small Talk、絵本の読み聞かせ、ALTとの協働等）への理解を深め、身につける。 小学英語教育は、中・高等学校の外国語科との連携・協力を常に意識して行うものであることを具体的に体験的に理解する。	①小学校英語教育の変遷、目標、内容について、中・高等学校の外国語科との関連も踏まえて理解する。 ②第二言語習得の特徴を理解した上で、小学校英語教育における音声によるインプットと場面・状況等の設定、及び十分な音声言語経験から文字指導のステップを経ることの重要性を理解する。 ③英語によるコミュニケーション場面で、児童の理解を容易にし、発話を促すような Classroom English、Small Talk、絵本活用などの基本的な指導技術や英語での語りかけを実践を通して身につける。 ④学習到達目標に基づく指導計画の在り方を理解した上で、模擬授業を通じて、学習指導案の作成、教材研究、評価方法、ICTの効果的活用等を身につけ、改善につなげる方法及びティームティーチング指導についても理解する。

教授方法	講義・演習・およびディスカッション
履修条件	①小学校教諭一種免許状取得希望者であること。②英語力がSTEP英検2級相当以上である者が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、クラスルール、シラバスの概要を理解し、達成目標を設定	
2	小学校英語教育の経緯と目的、理念、役割、配慮事項 Ｃlassroom Ｅnglish（1）	
3	言語習得の特徴、音声によるインプットのあり方、意味あるやり取りの重要性（聞く、話す） Ｃlassroom Ｅnglish（2）	
4	外国語学習と第二言語習得習得理論の基礎 Ｃlassroom Ｅnglish（3）	
5	読むこと、書くこと、文字、単語、文の書き方 Ｃlassroom Ｅnglish（4）	
6	さまざまな指導法（CLT,CBI,CLIL,TPR）、指導技術 絵本活用（1）	
7	小・中・高の連携のあり方と小学校の役割 絵本活用（2）	
8	教材研究、年間計画、単元構想、指導案作り 絵本活用　（3）	
9	教材活用、マルチメディアの効果的活用法 絵本活用（4）	
10	評価、ポートフォリオづくり 絵本活用（5）	
11	模擬授業（1）外国語活動 Let's Try!1 指導案作成、準備、実施 手遊び歌・Small Talk(1)	
12	模擬授業　（2）　外国語活動 Let's Try!2 指導案作成、準備、実施 手遊び歌・Small Talk(2)	
13	模擬授業　（3）小学校5年生教科書 指導案作成、準備、実施 手遊び歌・Small Talk(3)	
14	模擬授業　（4）小学校6年生教科書 指導案作成、準備、実施 手遊び歌・Small Talk(4)	
15	まとめ　これまでの学びとこれから取り組むこと 手遊び歌・Small Talk(5)	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
討議、発表等取組	20	積極的に授業の活動に取り組むことができるか。 指導方法について関連資料を読む、発言するなど、積極的な理解に務めているか。	小テスト	30	①前時までに学んだ英語教育に関わることが定着しているか。 ②語彙や文法を理解し、定着しているか。 ③使用する場面や機能が理解できるか。
パフォーマンス　模擬授業、絵本読み聞かせなど	30	①授業案に基づいて、模擬授業をすることができるか。 ②Classroom English、絵本の読み聞かせなど子どもの状況を意識しながら、正しい英語で語りかけることができるか。	指導案	20	授業の目標達成のために、教材分析をし、授業計画を作成することができるか。　練習を通して、よりよい授業にするために指導案の改善ができるか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①教科書等について予習をして臨むこと。（30分） ②学習したことについて復習して、知識を整理して自分の言葉で説明することができること。（30分） ③Classroom English や絵本の読み聞かせなど英語らしい音調で生き生きと語りかけることができること。（15分） ④小学校での外国語活動・外国語科の授業をビデオ等も含めてできるだけ多く参観すること。（50分）	返却時に行う

受講生に望むこと	①小学校に外国語活動、外国語科が行われていることを踏まえて、積極的に取り組んでほしい。 ②小学校で英語教育が行われることについて、何を大切にすべきなのか、どのような世の中の動きがあるのか意識してほしい。 ③優れた実践から多くのことを吸収して、まずは模倣するところから始めてほしい。	教科書・テキスト	①『新編小学校英語教育法入門』樋口忠彦(代表)編著　研究社　2017年　ISBN 978-4-327-41098-8 ②『Let's Try!1』文部科学省　2018年　ISBN: 978-4487258703)『Let's Try! 2』 文部科学省　2018年　(ISBN: 978-4487258710) ③『Let's Try! 1 指導編』 文部科学省　2018年(ISBN978-4-487-259700)『Let's Try! 2 指導編』文部科学省　2018年　(ISBN: 978-4-487-259717) ④『NEW HORIZON Elementary English Course 5』東京書籍.2019年　ISBN:978-4487105854 ⑤『NEW HORIZON Elementary English Course 6』東京書籍.2019年　ISBN:978-4487105878 ⑥『Picture Dictionary NEW HORIZON』東京書籍.2019年　ISBN978-4487105861 ⑦適宜配布されるプリント
指定図書／参考書等	なし/①『小学校英語内容論入門』樋口忠彦(代表)他編. 2019年.研究社. ISBN: 978-4327410995 『Baby Bear, Baby Bear, What Do You See?』Henry Holt and Company　2007年 ISBN：　9781250766076 ③『GOOD NIGHT, GORILLA』 Puffin Books　2000年　ISBN:9780698116498 ④『Handa's Surprise』 Walker Books Ltd　2007年　ISBN:9788412163636 ⑤『Ketchup On Your Cornflakes?』Scholastic Ltd　1996年　ISBN:9780439950640 ⑥『No, David! 』The Blue Sky Press Scholastic Inc　1998年　ISBN:9781338299588	その他・特記事項	詳細な内容は、1回目に説明する。

実務経験を活かした授業の概要

小中学校での経験を生かして授業場面の具体を紹介して幼・保・小学校における外国語活動・英語科の授業をするために必要な教科に関する専門事項としての「英語力」「知識」及び「実践的活動」を身に付けるための指導をしている。

授業科目名	EE228U 道徳教育指導論（小中）			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
道徳教育の重要性が叫ばれている。新学習指導要領において道徳の時間が「特別の教科　道徳」になり、「考え、議論する道徳」の授業が求められている。道徳は人間としてどうよりよく生きるか子どもたち一人一人が考え議論しながらそれぞれに自分らしい生き方を目指していくよう育むことが重要である。そこで本科目では、道徳教育とは何か、道徳性はどのように発達するか、道徳教育がどのように行われてきたか、また、どのように行われているかについて考え、議論する授業を目指す。そして、終盤ではいくつかの実際の道徳授業をもとに自分なりの道徳授業について考える。	①道徳教育とは何か：道徳教育の今日的意義と重要性について理解している。 ②心の成長と道徳性の発達：心の成長とはどういうことなのか、道徳の意味内容と道徳性の発達とはどういうことなのかについて理解している。 ③道徳教育の歴史：道徳教育はどのように行われてきたか、歴史的な観点から理解している。 ④現在の道徳教育：現在の道徳教育がどのように行われているか様々な観点から考えることができる。 ⑤多様な道徳授業：多様な道徳授業について具体例をもとに自分なりに考えることができる。

教授方法	講義
履修条件	小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状(英語)の取得を希望する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業の概要と評価方法について知る。）／道徳教育とは何か（道徳教育の本質について考える。）	
2	道徳教育の意義（日本社会に求められる人間像と道徳教育の必要性について資料をもとに考える。）	
3	道徳性の発達（道徳性はどのように発達するかについての理論を知る。）	
4	道徳教育の歴史①（明治時代の道徳教育について資料をもとに考える。）	
5	道徳教育の歴史②（大正時代、昭和時代戦前までの道徳教育について資料をもとに考える。）	
6	道徳教育の歴史③（昭和時代戦後の道徳教育について資料をもとに考える。）	
7	特別の教科　道徳①（学校における道徳教育の基本的押さえについて知る。）	
8	特別の教科　道徳②（子どもを主体とした道徳教育について知る。）	
9	特別の教科　道徳の指導過程（道徳の指導過程について学習指導案をもとに考える。）	
10	特別の教科　道徳の指導方法（道徳指導におけるさまざまな方法に資料をもとに知る。）	
11	道徳の授業の実際（小学校の道徳の授業でどのように考え議論する道徳が行われているか知る。）	
12	幼・小・中連携による道徳教育（異年齢の子供同士の交流で育まれる道徳性について考える。）	
13	外国の道徳教育（アメリカ、ドイツ、韓国から１つ選んで資料を読み自分なりに考えて議論する）	
14	多様な道徳授業の探究①（対話を促す道徳授業について資料をもとに考える。）	
15	多様な道徳授業の探究②（デジタル道徳教材の開発と道徳授業について資料や自身の経験から考える）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小レポート	20	道徳教育について自分の考えを持っている。	小テスト	15	道徳教育についての基礎的知識を有している。
授業態度	15	積極的に授業に臨んでいる。	定期試験	50	道徳教育についての知識・理解を有している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業は章・節ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。［30分］ ②各回の授業で配付するワークシート内のミニッツコメントにコメントする。［20分］ ③「特別の教科　道徳」に関し、インターネット検索して調べる。［20分］	①小レポートについての質問に応じる。 ②小テストの結果について解説する。 ③第15回授業時に定期試験の観点を示す。

受講生に望むこと	自己の小学校時代、中学校時代に「どのような道徳の授業があったか」の意識で受講してください。	教科書・テキスト	『自ら学ぶ道徳教育』〔第1版〕，押谷由夫編著，教育情報出版，2021年12月発行，ISBN978-4-909378-40-8
指定図書／参考書等	『小学校学習指導要領解説特別の教科　道徳編』，文部科学省，2017年告示，『中学校学習指導要領解説特別の教科　道徳編』，文部科学省，2017年告示　※小学校、中学校いずれかで可／なし	その他・特記事項	小レポート課題はClassroomに投稿して提出してください。

実務経験を活かした授業の概要

・小学校や中学校の道徳科の授業を動画記録して視聴させて、グループ討議したりレポート作成したりしている。
・デジタル教材活用例についてテキスト内の自己の執筆内容をもとに紹介し、多様な指導法について理解させている。

授業科目名	EE238U 教育課程編成論(特別活動を含む)(小中高)	開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	川真田　早苗・村井　万寿夫 （代表教員　川真田　早苗）				

標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
前半は、社会的背景と明確な法的根拠に基づいた「教育課程」について理解を深めるために、学習指導要領の誕生から改訂の変遷、カリキュラム・マネジメントを踏まえた新しい学習指導要領の目指すところ、教育課程の編成の方法に関して留意すべき事項等について学んでいく。これを受けて後半は、小中高等学校における特別活動に焦点を当て、特別活動の意義・領域、展開の方法について学ぶ。SDGsの観点からは、体育的行事においてジェンダー平等が促進されていることをもとに、学校における男女平等について考える。【5.c】 ※SDGsターゲット5.c関連科目	1)初等・中等教育における教育課程の意義、学習指導要領の内容、役割、改訂の変遷等について理解している。 2) 教育実践に即した教育課程編成の方法を理解している。 3) カリキュラム・マネジメントの意義について理解している。 4) 特別活動の意義・領域、展開の方法について理解している。 5) ジェンダー教育について知り、男女平等について考えることができる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要、授業の進め方、成績評価の方法、教育課程とは	川真田
2	教育課程の法的根拠、学習指導要領の位置づけ、教育課程の類型論	川真田
3	学習指導要領の歴史的変遷① 1947年、1951年、1958年、1968年	川真田
4	学習指導要領の歴史的変遷② 1977年、1989年、1998年、2008年	川真田
5	新しい学習指導要領（2017年）、新しい学習評価のあり方	川真田
6	外国語活動・外国語（小）、特別の教科道徳（小中）、公共（高）	川真田
7	カリキュラム・マネジメント、チーム学校について	川真田
8	インクルーシブ教育について（特別支援教育のあり方）	川真田
9	教育課程と特別活動：教育課程における特別活動の位置づけ（学習指導要領に見る歴史的変遷を知る。）	村井
10	特別活動とは何か①：特別活動の今日的意義と目的論（自己実現等について理解する。）	村井
11	特別活動とは何か②：小中高等学校における特別活動の領域（各活動と内容について理解する。）	村井
12	学級活動・ホーム：小中学校の学級活動と高校のホームルーム活動（内容と展開の方法について理解する。）	村井
13	児童会・生徒会活動：小学校の児童会活動と中高校の生徒会活動（内容と展開の方法について理解する。）	村井
14	学校行事：小中高等学校における学校行事（行事の種類と内容について理解する。）	村井
15	体育的行事におけるジェンダー教育：運動会の種目（種目によって男女別になっていたことについて考える。）	村井

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	50	「教育課程」について、キーワードを中心に記述形式で理解度を評価する。	レポート	40	授業感想及び課題内容に応じたレポートを書くことができたかを評価する。
授業参加態度	10	授業への取り組み姿勢を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
次の授業で取り上げる内容についてテキストを読んで予習する。(60分)	レポートは、採点及び解説を行い返却する。

受講生に望むこと	具体的な授業についての指導法ではなく、教育課程という大きな括りで、初等・中等教育について、俯瞰して見つめなおす機会としてほしい。	教科書・テキスト	なし（授業中に適宜資料を配布する）
指定図書／参考書等	小学校学習指導要領解説特別活動編（平成29年７月　文部科学省） 中学校学習指導要領解説特別活動編（平成29年７月　文部科学省） 高等学校学習指導要領解説特別活動編（平成30年発行予定 文部科学省）	その他・特記事項	課題はClassroomで出すので、解決後Classroomに投稿してください。

実務経験を活かした授業の概要

川真田：の研修主任の経験をもとに、教育課程編成の意義や方法及び江戸後期からこれまでの日本の教育及び学習指導要領の変遷について説明し、平成29年学習指導要領のねらいを実現するためにはどのような教育課程を編成するかについてディスカッションを行っている。
村井：小学校、中学校、高等学校の特別活動について情報収集し、指導計画や活動写真などを提示して理解を促したり、グループ討論したりしている。

授業科目名	EE243U 生徒・進路指導論（小中高）			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
生徒指導は、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動であり、学校種に応じた生徒指導を教師間で進めていくことが求められている。また、学校の教育目標を達成する上で重要な機能を果たすものであり、学習指導と並んで学校教育において重要な意義を持つ。進路指導は、自分の将来の生き方への関心を高め、将来の展望を持たせる教育活動であり、社会的・職業的自己実現を達成していくことに必要な自己実現能力の仲長を目指すものである。そのためには、キャリア教育の観点から小中高校を通じた教育活動が需要である。本科目ではこのようなことを学び、自己の教育者としての考え方を深める。	①生徒指導の意義、役割、目的、機能について理解している。 ③集団指導と個別指導の方法原理について理解している。 ④生徒指導上の今日的課題について考えることができる。 ⑤進路指導とキャリア教育の位置付けについて理解している。 ⑥教育課程と進路指導・キャリア教育について理解している。 ⑦進路決定・キャリア形成の支援について理解している。

教授方法	講義
履修条件	受講までにプレ実習（学習支援員）などで学校現場を体験していることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業内容を通観し評価方法について理解する）／生徒指導の意義と役割（生徒指導の意義や役割、目的、生徒指導の３機能について知り、教育相談との関係を理解する。）	
2	教育課程と生徒指導（生徒指導は各教科、道徳教育、総合的な学習の時間、高校においては総合的な探究の時間、特別活動、すべての教育課程において機能することが求められることを理解する。）	
3	生徒指導の方法（集団指導と個別指導の方法原理について「成長を促す指導」「予防的な指導」「課題解決的な指導」から理解し、学級担任・教科担任の役割や教師間の連携について考える。）	
4	いじめ問題と生徒指導（いじめ問題と生徒指導：いじめの定義と認知件数について知り、社会に影響を与えたいくつかのいじめ事件をもとにケース分類し、ケースごとの対応について考える。）	
5	不登校問題と生徒指導（登校問題と生徒指導：不登校の概念とその変遷について知り、不登校になるきっかけをいくつかに分類し、きっかけの種類ごとの対応について考える。）	
6	インターネット社会における生徒指導（インターネット普及に伴う小中高校生のスマートフォン所持率及びSNS利用の実態や性被害について知るとともに、よりよい対応について考える。）	
7	生徒指導と法（校則について考え、学校教育法における体罰や懲戒、高等学校においては停学・退学などの内容について理解するとともに、生徒指導における法の扱いの難しさを知る。）	
8	チームで取り組む生徒指導（「学級王国」と「学級崩壊」を関連付けて考えながらチームで取り組む生徒指導の重要性について知り、「連携」をキーワードにレポートを作成する。）	
9	進路指導・キャリア教育（進路指導は入学期から卒業期までの教育活動であること、生徒指導はキャリア教育の中に位置付くこと、キャリア教育は小学校から行われていることを理解する。）	
10	教育課程と進路指導・キャリア教育（「基礎的・汎用的能力」における「４領域・８能力」を知り、これがどのような教育活動の中で計画・推進されているか小中学校の事例をもとに考える。）	
11	体験活動を通じた進路指導・キャリア教育（中学校における職場体験が進路指導・キャリア教育であることを知る、自己の経験を振り返りながら、その後の自己実現について考える。）	
12	職業教育（職業教育の定義や職業教育導入の経緯を理解するとともに、職業教育の方法を義務教育と専門高校における教育について俯瞰し、自己の高校選択、大学選択を振り返る。）	
13	進路決定・キャリア形成の支援（進路決定やキャリア形成について「基礎的・汎用的能力」の観点から再整理し、教育活動全体で取り組むキャリア教育の重要性について理解する。）	
14	進路決定・キャリア形成の具体（小学校教師だからこそできる進路決定・キャリア形成の支援、中学校教師だからこそできる進路決定・キャリア形成の支援について具体例をもとに考える。）	
15	学習のまとめ（これまで学んだ内容の要点整理。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
グループ討論	20	積極的に参加したり、議論の深まりに寄与したりしている。	レポート	15	レポート観点をもとに自己の考えを明解に書いてある。
期末試験	50	生徒指導・進路指導（含キャリア教育）についての知識・理解を有している。	授業態度	15	積極的に授業に参加している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業は章ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。[30分] ②各回の授業で配付するワークシート内のミニッツコメントにコメントする。[20分] ③児童生徒が将来就きたい職業について調べる。[30分] ④「小学校キャリア教育の手引き（改訂版）」を読む。[30分]	①レポートについての質問に応じる。 ②グループワークの相互評価の観点について示す。 ③期末試験の観点について第15回授業時に示す。

受講生に望むこと	①学習支援員やボランティア活動などで、できるだけ小中学生と触れ合う機会を持ち、教員がどのように児童生徒と関わっているかを観察してください。 ②毎回の授業で学ぶ内容について、自分が教師だったらの視点で考えるようにしてください。	教科書・テキスト	『生徒指導・進路指導の理論と方法』、会沢信彦・渡部昌平編著、北樹出版、2021年、ISBN978-4-7793-0648-8
指定図書／参考書等	なし／参考資料「小学校キャリア教育の手引き（改訂版）」（文部科学省平成23年5月）、「生徒指導提要」（文部科学省平成22年3月）	その他・特記事項	レポートはClassroomに投稿して提出してください。

実務経験を活かした授業の概要

中学校における不登校について中学校教員や保護者と連携しながら社会的自立のための支援を行っている。

授業科目名	EE363U 教育相談（小中高）			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	松下　健						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
子どもたちを取り巻く諸問題についての実情を把握し、教育相談の目的や意義を学ぶ。また、教育相談における幼児・児童・生徒への関わり方を対象問題別に学ぶとともに、幼児・児童・生徒の理解及び支援のいくつかのアプローチを学び、教育相談について理解を深める。	1)教育現場で遭遇する問題を理解すること。 2)基本的な相談技術を理解すること。 3)多職種の連携・協働を理解すること。 4)科学研究の知識を修得すること。 5)科学研究の技術を修得すること。

教授方法	演習、講義、ディスカッション。
履修条件	教職課程登録者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	教育相談とは：教育相談の目的、意義、方法について考える	
2	子どもの貧困：貧困について理解を深める	
3	自閉症スペクトラム障害：自閉症スペクトラム障害（ASD）の特徴について理解を深める	
4	限局性学習障害：限局性学習障害（LD）の特徴について理解を深める	
5	注意欠如多動性障害：注意欠如多動性障害（AD/HD）の特徴について理解を深める	
6	不登校：不登校について理解を深める	
7	いじめ：いじめについて理解を深める	
8	非行：非行について理解を深める	
9	虐待：虐待について理解を深める	
10	自殺：自殺について理解を深める	
11	統合失調症：統合失調症の特徴について理解を深める	
12	抑うつ障害：うつ病の特徴について理解を深める	
13	カウンセリング的態度：教育相談において求められるカウンセリングの知識と技術を理解する	
14	連携・協働：教育相談において求められる多職種の連携や協働について理解を深める	
15	統括。教育相談の目的、意義、方法について改めて考える	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
リアクションペーパー	30	講義内容について自分の意見や感想を記述すること。講義内容のメモではなく、内容から発展させた自分の考えなどを記述することが求められる。	講義の受講態度	30	グループディスカッションやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
与えられたテーマについて予習し、レジュメを作成すること。[90分] 各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[90分]	講義中に課す小レポートについては返却時に適宜フィードバックする。

受講生に望むこと	各回の学びを通じ、教員として修得することが推奨される科学研究の知識と技術を身に着けることを目指す。毎回相当量の予習と講義における他者との協働が不可欠である。	教科書・テキスト	『絵本とともに学ぶ　発達と教育の心理学』、増田梨花（編著）、晃洋書房、2018年、ISBN:978-4-7710-2932-3
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	受講生の理解度に応じて進度を変更する可能性がある。

実務経験を活かした授業の概要

スクールカウンセラーの実践経験を生かし、障害、疾患、多職種連携、協働、コンサルテーション、心理療法といった心理的対応について教授している。

授業科目名	EC200U 国語			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	中島　賢介・金丸　洋子　（代表教員　中島　賢介）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種				

授業の概要	授業の到達目標
小学校学習指導要領の国語科の目標各項の理解や教育の内容の基礎的な理解を図るとともに、言語活動例の体験的な学びを通して小学校教諭および幼稚園教諭としてふさわしい言語感覚や国語力を高める。	①日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようになること。 ②日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 ③言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。 ④小学校学習指導要領国語を正しく理解し、教育や保育活動に活用することができる。

教授方法	講義、言語活動、グループ活動、フィールドワーク
履修条件	小学校教諭及び幼稚園教諭の教職課程登録者に限る

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要説明、進め方、課題等の説明を聞き、授業への見通しを持つ。	全員
2	学習指導要領改訂の要点及び国語科改訂の要点、国語科の目標について解説などを参考に理解する。	全員
3	「話すこと・聞くこと」領域について　（1）目標について解説などを参考に理解する。	全員
4	「話すこと・聞くこと」領域について　（2）指導事項について解説などを参考に理解する。	全員
5	「話すこと・聞くこと」領域について　（3）言語活動例について、実際に体験することで理解を深める。	全員
6	「書くこと」領域について　（1）目標について解説などを参考に理解する。	全員
7	「書くこと」領域について　（3）言語活動例について、実際に体験することで理解を深める。	全員
8	「書くこと」領域について　（2）指導事項について解説などを参考に理解する。	全員
9	「読むこと」領域について　（1）目標について解説などを参考に理解する。	全員
10	「読むこと」領域について　（2）指導事項について解説などを参考に理解する。	全員
11	「読むこと」領域について　（3）言語活動例について、図書館の持つ機能などを深く理解する。	全員
12	伝統的な言語文化について　（1）映像番組を基にして、伝統的な言語文化について理解を広げる。	全員
13	伝統的な言語文化について　（2）狂言を題材に、体験的な理解を深める。	全員
14	伝統的な言語文化について　（3）俳句や短歌を実際に創作することで理解を深める。	全員
15	伝統的な言語文化について　（4）創作した俳句や短歌を、句会・歌会を実施することで披露し互いに批評する機会を持つ。	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	50	授業内容の基本的な理解や知識を習得しているかを評価する。筆記試験の詳細については授業内で指示する。	事前事後レポート	30	事前にこれから学ぶ事項を整理している。 事後に学んで理解したこと、考えたことなどについて表現している。
言語運用能力・表現力	20	授業内容をもとに言語を運用し、体験的理解につなげている。 言語感覚が鋭く豊かな表現をしている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前課題として、『小学校学習指導要領解説国語編』の特定範囲を読み、レポートにまとめる。[90分] 上記以外の事前・事後学習については、毎回の授業時に具体的に指示する。「マイことわざ集」「マイ歳時記」等の表現活動を伴う準備が主となる。[30分] 小学校国語教科書に紹介されている本の中から10冊を選びブックリストを作る。[120分]	事前授業課題については、提出前に評価のポイントをコメントする。 課題に関する質問には随時回答する。

受講生に望むこと	国語はすべての教科の基礎であり、確固たる土台があってこそ、それぞれの学習活動が展開できることを十分に認識して授業に臨んでほしい。また、学習した内容を小学校や幼稚園でどのように活用するかを考えながら授業に臨んでほしい。	教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説国語編』文部科学省　東洋館出版社　2018　ISBN978-4491034621 『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館　2018　ISBN978-4577814475
指定図書／参考書等	なし／『小学校新学習指導要領ポイント総整理　国語』吉田裕久、水戸部修治編　東洋館出版社　2017　ISBN978-4491033976	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

中島：小学校における勤務経験をもとに、小学校の国語科の授業で取り上げられている事柄について取り上げ、理解を深めている。

授業科目名	EC205U 算数			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	川真田　早苗						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種				

授業の概要	授業の到達目標
小学校学習指導要領における算数科の目標及び各領域、各学年の内容、系統性について理解するとともに、具体的な授業場面において、どのように評価するのかについても考えていく。	1）小学校学習指導要領における算数科の目標及び主な内容を理解する。 2）算数科の各領域、各学年の学習内容と指導上の留意点について理解する。 3）算数科の学習評価の考え方を理解する。 4）算数科の背景となる数学とのつながりを理解し、教材研究に活用しようとする。

教授方法	講義と演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	算数を学ぶ意義を考えるとともに、本授業の到達目標、授業の進め方、成績評価の方法を知る。	
2	算数の目標及び内容構成について理解する。	
3	数と計算領域（1）数の概念と表記、自然数などについて理解する。	
4	数と計算領域（2）数の把握、数の表記について理解する。	
5	数と計算領域（3）たし算、ひき算、かけ算、わり算について理解する。	
6	数と計算領域（4）小数、分数について理解する。	
7	図形領域（1）基本的な平面図形、立体図形、垂直や平行の関係について理解する。	
8	図形領域（2）面積・体積とその公式について理解する。	
9	測定領域（1）量の概念について理解する。	
10	測定領域（2）量の測定について理解する。	
11	変化と関係領域（1）異種の量の割合について理解する。	
12	変化と関係領域（2）関数の考えについて理解する。	
13	データの活用領域（1）統計と確率について理解する。	
14	文章題、問題解決について理解する。	
15	学習評価、数学的活動、数学的な見方・考え方、数学的リテラシーについて理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	70	課題内容に応じたレポートを書くことができたかを評価する。	授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業に関連する教科書の内容を予習する。［30分］ レポート作成のため、授業内容を復習する。［30分］	レポートの評価及び解説は授業時に行う。

受講生に望むこと	小学校の算数科の学習を想起しながら、実際に問題を解いてみたり、教え方を考えたりして、算数を好きになってもらいたい。	教科書・テキスト	「小学校学習指導要領解説　算数編」文部科学省2017 ISBN978-4536590105
指定図書／参考書等	なし／なし 授業中に適宜資料を配布する。	その他・特記事項	Classroomを用いた課題等の提示・提出を基本とする。

実務経験を活かした授業の概要

小学校における勤務経験及び算数教育研究校での研究主任の経験をもとに、小学校学習指導要領算数科の目標の構造及び内容について体系的に取り上げ、理解を深めている。

授業科目名	EC210U 生活			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	福江　厚啓						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種				

授業の概要	授業の到達目標
講義および体験的な活動を通し、生活科の特性・目標・内容等についての基礎的な理解と認識を身に付ける。 また、幼児教育から連なる環境を通した学び、子どもの文脈に沿った学びの重要性について理解を深め、誰も取り残されない豊かな生活科の授業づくりをするうえで必要な感覚と技能を養う。 ※SDGsターゲット4.1,4.7関連科目	①幼児～初期学童期の子どもにとって、生活・環境が大きな学びの可能性をもっていることを理解している。 ②生活科の特性・目標・内容等について理解している。 ③体験と振り返りを通し、子どもが夢中になれる材や学習環境、支援の在り方について、実感をもって理解している。

教授方法	講義・演習、グループ協議
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。	
2	生活科って何だろう？：「学びの履歴」の振り返りから、生活科の意義と特色について理解する。	
3	生活科における学びとは：子どもの文脈と遊び・暮らしについて理解する。	
4	体験編「秋の野山へ出かけよう」①：秋見つけから広がる学びの可能性を考えよう。	
5	体験編「秋の野山へ出かけよう」②：繰り返し活動することの意義を考えよう。	
6	体験編「秋の野山へ出かけよう」③：秋の素材を使っておもちゃ作りをしよう。	
7	体験編「秋の野山へ出かけよう」④：秋の素材を使ったおもちゃで交流しよう。	
8	生活科の実践から①：スタートカリキュラムと幼保小連携の実践例	
9	生活科の実践から②：学校生活に関する実践例	
10	生活科の実践から③：地域生活に関する実践例	
11	生活科の実践から④：飼育・栽培・いのちに関する実践例	
12	生活科の実践から⑤：自分の成長に関する実践例	
13	体験編「自分物語を創ろう」①：自分自身を見つめ、物語を作ろう。	
14	体験編「自分物語を創ろう」②：互いの物語から学ぼう。	
15	まとめ：講義全体を振り返り、まとめをする。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
おもちゃ作り	20	秋の素材を利用して、創意工夫のあるおもちゃを作ることができる。	自分物語	30	自分の幼少期を振り返り、自分らしい表現を選択して簡潔に表すことができる。
レポート	30	講義の内容を理解し、簡潔にまとめることができる。	講義ごとの対話カード	20	毎回の講義の終わりに、疑問や意見、感想等を「対話カード」に書き、提出する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①家族から自分の幼少期の話を聞くなどして、これまでの人生を振り返る。［60分］ ②子どもの遊びやおもちゃ作り等について書籍等で学ぶ。［20分］ ③多様な絵本を読み、子どもの世界に対する理解を深める。［20分］ ④三小牛周辺の四季折々の動植物への興味関心を豊かにする。［20分］	対話カードの内容は、次時の講義の冒頭で紹介したい。 おもちゃ、自分物語については、講義の中で学生同士の交流の中での相互評価も含め、成績評価後速やかに返却する。

受講生に望むこと	生活科は、子ども自身の思いや願いを大切にする学習である。子ども文化を含め、身の回りの様々な事象に興味関心をもち、好奇心を豊かにしてほしい。	教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説 生活編』文部科学省、東洋館出版社、2018年、978-4491034645
指定図書／参考書等	授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	課題は必要に応じてClassroomに投稿し、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

小学校教諭の経験をもとに、小学校における実践を紹介し、グループ討議等に利用。また、大学生版アレンジとして演習を行っている。

授業科目名	EC215U 図画工作			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	鷲山　靖						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種				

授業の概要	授業の到達目標
1．カリキュラムにおける位置付け ①この科目は資格取得に必要な科目である。 ②この科目は「図画工作科教育法」に連接する科目である。 ③この科目は保育内容の表現に関する科目と関連がある。 2．授業のねらい ①造形作品の制作に必要な基礎知識を習得する。 ②造形作品の制作に必要な基礎技能を習得する。 3．授業の進め方 ①テーマごとに講義・作品制作・評価・鑑賞・ノート作成を行う。 ②期末に基礎知識・技能に関する試験を行う。	①基本的な画材・素材・工具の特性を理解している。 ②基本的な画材・素材・工具を用いた基礎的な造形技法を習熟している。 ③自分の感覚や活動を通して、造形要素を捉えることができる。 ④造形要素を基に、自分のイメージをもつことができる。 ⑤図画工作科における造形作品の評価規準・評価基準を理解している。

教授方法	講義後、作品制作・評価・鑑賞による演習を行い、期末の試験により基礎知識・技能を確認する。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の計画、到達目標、成績評価の方法、事前・事後学習を理解する。 えがいて遊ぶ活動＿えがいて遊ぶ活動を通じて、描く楽しみ・面白さの原点を探る。	
2	つくって遊ぶ活動＿つくって遊ぶ活動を通じて、つくる楽しみ・面白さの原点を探る。	
3	絵に表す活動A＿オイルパステルの基本知識を学ぶとともにその基礎的技法を習得する。	
4	絵に表す活動B＿絵の具の基礎知識を学ぶとともにその基礎的技法を習得する。	
5	絵に表す活動C＿版画の基礎知識・技能を学ぶ。	
6	絵に表す活動D＿発想の能力を育成するイラスト作品制作とその作品の相互評価を楽しむ。	
7	絵・工作に表す活動A-1＿発想の能力を育成する造形作品の制作を通じて、基礎的な造形技法を習得する。	
8	絵・工作に表す活動A-2＿発想の能力を育成する造形作品の制作を通じて、基礎的な造形技法を習得する。	
9	絵に表す活動B＿発想の能力を育成する切り絵の作品制作を通じて、基礎的な造形技法を習得する。	
10	立体・工作に表す活動A-1＿評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。	
11	立体・工作に表す活動A-2＿評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。	
12	立体・工作に表す活動A-3＿評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。	
13	立体・工作に表す活動B-1＿評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。	
14	立体・工作に表す活動B-2＿評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。	
15	立体・工作に表す活動B-3＿評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講姿勢	30	①指定ノートへの講義記録、作品制作、スケッチ、クロッキー、お絵かきを行っている。 ②美術室の清掃・整備に取り組んでいる。 ③授業に集中している。	作品の制作状況	30	①課題作品を完成させ、指定ノートに作品もしくは作品画像を記録している。 ②課題作品は作品条件を満たしている。
作品の機能	40	制作作品を事前に通知・説明する機能（性能）レベルによって試験を行い評価する。レベル１（10%），レベル２（20%），レベル３（10%）			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回、授業開始前に指定ノートブックにスケッチ、クロッキー、お絵かきを描く。［10分］ ②指定ノートブックに授業内容の他、授業外の学習内容をノートし、自分専用の図画工作ノートブックを作成する。［30分］	①作品条件にもとづく評価を作品制作中に行う。 ②期末試験時間の前半に作品の合否判定を行い、試験時間の後半において不合格者に対して試験合格者・担当教員が合格にむけた作品改良の支援・指導を行う。

受講生に望むこと	①身の回りの物事を「造形要素を意識して」捉えてみましょう。 ②身の回りの全ての物事に必ずある「何らかの美しさ」を発見することを楽しみましょう。	教科書・テキスト	「トラベラーズノートリフィル無罫」ミドリ
指定図書／参考書等	なし／授業時に随時紹介する	その他・特記事項	作品の材料費を別途、集金する場合があります。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EC220U 音楽			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	武田　恵美						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種				

授業の概要	授業の到達目標
幼稚園教諭や小学校教諭として必要な音楽科教育に関する基礎的知識や技術を養うために、歌唱や器楽の土台となる音楽理論やソルフェージュを学ぶ。音楽の教科書より様々な楽曲を取り上げ、歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞の教材について理解を深める。また、様々な表現形態について学ぶことで、豊かな感性を育む。	①小学校学習指導要領における音楽科の目標及び内容を理解する。 ②音楽科の指導内容について理解する。 ③正しい発声法を理解し、歌うことができるようになる。 ④打楽器・鍵盤楽器・ソプラノリコーダー・和楽器の演奏法、取り扱いについて理解し、演奏できるようになる。

教授方法	講義と演習
履修条件	「音楽表現Ⅰ」「音楽表現Ⅱ」「器楽Ⅰ」を履修していることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業計画、到達目標、成績評価の方法等について、シラバスを通して理解する。 歌唱Ⅰ：低学年の歌唱教材について学び、実践する。	
2	音楽理論Ⅰ：小学校学習指導要領（音楽）の、各学年の〔共通事項〕に示す「音楽を形づくっている要素」について学ぶ。ブレス記号について学ぶ。　歌唱Ⅱ：低学年の歌唱教材の指導内容について学ぶ。	
3	音楽理論Ⅱ：音符、休符について学ぶ。　器楽Ⅰ：低学年の器楽教材について学び、実践する。	
4	音楽理論Ⅲ：音部記号、譜表について学ぶ。　器楽Ⅱ：低学年の器楽教材の指導内容について学ぶ。	
5	音楽理論Ⅳ：変化記号について学ぶ。　音楽づくりⅠ：低学年の音楽づくり教材について学び、実践する。	
6	音楽理論Ⅴ：強弱記号について学ぶ。　音楽づくりⅡ：低学年の音楽づくり教材の指導内容について学ぶ。	
7	音楽理論Ⅵ：拍子記号について学ぶ。　鑑賞Ⅰ：低学年の鑑賞教材について学ぶ。	
8	音楽理論Ⅶ：反復記号について学ぶ。　鑑賞Ⅱ：低学年の鑑賞教材の指導内容について学ぶ。	
9	音楽理論Ⅷ：奏法に関する記号について学ぶ。　歌唱Ⅲ：中・高学年の歌唱教材及びその指導内容について学び、実践する。	
10	音楽理論Ⅸ：速度記号について学ぶ。　器楽Ⅲ：中・高学年の器楽教材及びその指導内容について学び、実践する。	
11	音楽理論Ⅹ：長調と短調について学ぶ。　器楽Ⅳ：ソプラノリコーダーの取扱い、奏法及び指導内容について学び、実践する。	
12	音楽理論Ⅺ：和音について学ぶ。　音楽づくりⅢ：中・高学年の音楽づくり教材及びその指導内容について学び、実践する。	
13	音楽理論Ⅻ：Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅴ７の和音について学ぶ。　鑑賞Ⅲ：中・高学年の鑑賞教材及びその指導内容について学ぶ。	
14	和楽器（和太鼓）の取扱いや奏法について学び、実践する。	
15	和楽器（箏）の取扱いや奏法について学び、実践する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	受講態度、課題への取り組みと内容。（「受講生に望むこと」欄を参照）	コミュニケーションシート	30	提出状況と内容。（①毎回の授業ポイントを押さえまとめられているか。②感想だけに終わらない自らの意見が述べられているか。③自らの課題が設定されているか。）
課題	30	課題に対しての取り組みと内容。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①音楽の基礎的な技術を高めるための課題を出しますので、積極的に取り組んで下さい。［40分］ ②講義内容について自身で振り返り、疑問点や不明点を調べて下さい。［20分］ ③次回授業のための課題について準備をして下さい。［30分］	コメント又は個別指導をします。

受講生に望むこと	①毎授業で出される課題に積極的に取り組んで下さい。 ②個人で行う課題とグループで行う課題がありますので、グループワークはチームワークよく課題に取り組んで下さい。	教科書・テキスト	『小学校 音楽科教育法 2022年改訂版』有本真紀・阪井恵・津田正之編著、教育芸術社 、2021年、ISBN978-4-87788-969-2／『音楽の基礎 改訂版』木許隆監修、圭文社、2018年、ISBN978-4-87446-066-5／『Basic and Variations』、木許隆，武田恵美，長井典子編著、圭文社、2022年3月出版予定　ISBN978-4-87446-067-2／プリント
指定図書／参考書等	なし／『小学校学習指導要領解説　音楽編』東洋館出版社、2018年、ISBN978-4-49103-465-2	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EC225U 体育			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	永山　亮一・田邊　圭子　（代表教員　永山　亮一）						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
平成29年度に告示された新小学校学習指導要領体育編の目標には「心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成することを重視する観点から、運動や健康に関する課題を発見し、その解決を図る主体的・協同的な学習活動を通して、『知識・技能』、『思考力・判断力・表現力』、『学びに向かう力・人間性』を育成すること」とある。この授業では、将来教員となる学生達がこれらのねらいや目標を踏まえ、実践につなげることが出来る内容を自ら習得し、実践的に学んでいくことをねらいとする。小学校の体育を指導していくために、小学校の学習内容として構成されている運動領域を基に、基礎的な実技能力の習得に主眼を置き指導する。	学習指導要領（体育編）の内容を理解し、実技の実践及び指導ができるようになる。

教授方法	スポーツ実技
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス	永山
2	体つくりの運動遊び①　「体ほぐしの運動（遊び）」を実践し、指導上の留意事項などを学習する。	永山
3	体つくりの運動遊び②　「多様な動きをつくる運動遊び」を実践し、指導法などを学習する。	永山
4	機械・器具を使っての運動遊び①　「器械運動①（マット）」を実践し、指導法などを学習する。	永山
5	機械・器具を使っての運動遊び②　「器械運動②（鉄棒）」を実践し、指導法などを学習する。	永山
6	機械・器具を使っての運動遊び③　「器械運動③（跳び箱）」を実践し、指導法などを学習する。	永山
7	走・跳の運動遊び①　「走・跳の運動及び陸上運動①」を実践し、指導法などを学習する。	永山
8	走・跳の運動遊び②　「走・跳の運動及び陸上運動②」を実践し、指導法などを学習する。	永山
9	走・跳の運動遊び③　「走・跳の運動及び陸上運動③」を実践し、指導法などを学習する。	永山
10	ゲーム①　「ボール運動①」を実践し、指導法などを学習する。	永山
11	ゲーム②　「ボール運動②」を実践し、指導法などを学習する。	永山
12	ゲーム③　「ボール運動③」を実践し、指導法などを学習する。	永山
13	水泳①　各種泳法を実践し、指導法などを学習する。（水泳実習における留意事項など理論を中心に。）	田邊・永山
14	水泳②　各種泳法を実践し、指導法などを学習する。（各種泳法など実技を中心に。）	田邊・永山
15	まとめ　これまで学習してきた内容を整理する。	田邊・永山

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加している。 ・他人へ体育実技を指導する上で何が大切なのかを学び取ろうとする姿勢がある。	ミニレポート	20	・指定したフォーマットにて記載されている。 ・指定した課題に対して的確に調べられている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各講義を振り返り、実技内容と学習指導要領の内容をつなげる。[30分] ②各講義を振り返り、できない実技に関しては自主練習を行う。[30分] ③各自の実技実践能力を発達させるとともに、指導する立場となったときのシミュレーションを行い、指導力の向上につなげる。[30分]	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。

受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。 運動のできる服装で参加して下さい。 主に体育館にて行いますので、内履きの運動靴を用意して下さい。 なお、この科目は学習指導要領に則った実技の研修科目です。 学ぶ姿勢、及び教える側としての意識を持って参加して下さい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	参考書：『小学校学習指導要領解説　体育編』文部科学省　東洋館出版社 平成30年2月28日初版　ISBN 978-4-491-03467-6	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EC228U 英語			開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	伊藤　雄二・中野　聡　（代表教員　伊藤　雄二）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では小学校における外国語活動・外国語科の授業実践に必要な実践的英語運用力を、CEFRを参考に各自が目標を立てながら、話し合いや問題練習を通して身に付ける。また、英語に関する背景的な知識の具体例を教科書や発表活動から学びます。	①英語に関する基本的な事柄（音声、語彙、文構造、文法、正書法等）を実際の授業場面を意識しながら身に付ける。 ②第二言語習得に関する基本的な事柄を意識しながら、児童と楽しくコミュニケーション活動ができるようになる。 ③児童文学（絵本、子供向けの歌やチャンツや詩等）の役割を理解し、授業に活かすことができる。 ④異文化理解に関する基本的な事柄を理解し、授業に活かすことができる。

教授方法	英語の4技能に関する演習、ディスカッション、プレゼンテーション
履修条件	保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭（英語）、高等学校教諭（英語）のうち、いずれかの資格・免許を取得予定の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：本授業の進め方と評価方法を説明する。小学校における英語教育の歴史を概観した後に、その意義をディスカッションを通して考える。また、CEFRとは何かを理解する。	
2	Unit 1　Hi, I'm Yuri Tanaka　人に何かを頼むときの英語表現を身に付ける。 発展活動：ティーム・ティーチングで他者と協力・連携しながら英語で自己紹介する方法を知る。	
3	Unit 2　Where Is the Multi-purpose Room？　園内や学校内での案内に関する英語表現を身に付ける。 発展活動：ティーム・ティーチングで他者と協力・連携しながら英語で自己紹介するための準備をする。	
4	Unit 3　Good Morning. How Are You Today?　持ち物や体調を尋ねたり・答えたりする英語表現を身に付ける。発展活動：ティーム・ティーチングで他者と協力・連携しながら、実際に英語で自己紹介ができる。（発表①）	
5	Unit 4　What Color Do You Like?　工作道具や好き嫌いに関する英語表現を身に付ける。 発展活動：英語の手遊び歌・輪唱曲・チャンツなどの背景にある文化的意味と楽しみ方を知る。	
6	Unit 5　There's A Lady Bug on the Leaf　集団活動や教室内にある物の場所を示す英語表現を身に付ける。 発展活動：英語の手遊び歌・輪唱曲・チャンツなどを児童・生徒と楽しむための準備をする。	
7	Unit 6　It's Time to Play Outside　遊具の名前や人に何かを依頼するときの英語表現を身に付ける。 発展活動：英語の手遊び歌・輪唱曲・チャンツなどを児童・生徒と楽しむことができる。（発表②）	
8	Unit 7　She Is Allergic to Eggs　食材や食に関するアレルギーに関する英語表現を身に付ける。 発展活動：スキットや対話文を用いて他者と協力しながら、英語を身に付ける楽しさを知る。	
9	Unit 8　You Should Go to the Bathroom　「する必要がある」ことを伝える英語表現を身に付ける。 発展活動：スキットや対話文を用いて他者と協力しながら、英語を身に付ける準備をする。	
10	Unit 9　We Made Masks Today　園・学校での一日の活動に関する英語表現を身に付けウr。 発展活動：スキットや対話文を用いて他者と協力しながら、英語を身に付けることができる。（発表③）	
11	Unit 10　If It Rains, What Happens?　園や学校における行事についての英語表現を身に付ける。 発展活動：ALTと授業について打ち合わせをする際に必要な英語表現を考える。	
12	Unit 11　What Shall We Do Today?　ALTとの授業の打合せに必要な英語表現を身に付ける。 発展活動：JET及びALTの立場から、授業の打合せに必要な英語表現を再検討する。	
13	Unit 12　I Feel Feverish　病気やけがの症状を伝える英語表現を身に付ける。 発展活動：JET及びALT双方の立場から、英語で授業の打合せをする準備する。	
14	Unit 13　This is Yuri from Cosmos Day Care Center　電話対応や留守番電話に必要な英語表現を身に付ける。 発展活動：JET及びALT双方の立場で、英語を用いて授業の打合せができる。（発表④）	
15	Unit 14　Thank You Very Much for Everything　お礼や感謝を表す英語表現を身に付ける。 発展活動：過去の授業を振り返り、目標の①～④を達成できたかどうかを確認する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	40	英語の語彙、文構造、文法、発音、正書法などを身に付けているか。	発表 ①②③④4回分	40	英語の自己紹介・歌指導、スキット等を相手を意識しながら発表できているか。
発表準備とディスカッション	20	他者の発表に対する評価が適切にできるか。発表のための協力度。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回の小テストの準備を十分にすること。[30分] 英語で話すこと等のパフォーマンスの発表には練習が欠かせません。何とかできればよいのではなく自信をもってできるまで練習すること。[60分]	①小テストについては、次時に返却する際にコメントする。 ②パフォーマンステストについては、終了直後にコメントする。

受講生に望むこと	人前で英語を話すことに慣れ、上手くなるには練習することだということを体感してください。	教科書・テキスト	『Happy English for Childcare』土屋麻衣子著　金星堂　2015　ISBN:978-4764740082
指定図書／参考書等	なし／『小学校英語内容論入門』樋口忠彦他編著　研究社　2019 ISBN: 978-43274100995	その他・特記事項	Classroomを用いて課題等を提示することがある。

実務経験を活かした授業の概要

伊藤：小学校における英語教育の経験を学生に話し、中学・高校との違いを気付かせ、学生自身の小学校で英語を教えるための資質向上に役立てている。
中野：小中学校での経験を生かして授業場面の具体を紹介して幼・保・小学校における外国語活動・英語科の授業をするために必要な教科に関する専門事項としての「英語力」「知識」及び「実践的活動」を身に付けるための指導をしている。

授業科目名	EC230U 教育社会学			開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	竹中　祐二						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
生物としてのヒトが社会の一員としての人間になる過程を理解する上で欠くことのできない、極めて重要な概念が「社会化」であるが、E.デュルケムは方法的社会化・系統的社会化作用として教育を位置付けている。人間にとって、「社会化としての教育」が本質的なものである一方、「制度としての教育」は、時代や文化による影響を色濃く受けるものでもある。この授業では、教育というものの、そもそも、あるいは今、「あるべき姿」というものについて、社会との関わりから捉え直すことを目的とする。	①「近代化」との関わりから、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。 ②時代や文化を超えて普遍的である特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。 ③今日的な特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。 ④教育制度の歴史的変遷や、今日の学校と地域社会や関係機関との連携を踏まえつつ、教育に関わる主体の役割や特徴を、文章によって説明することができる。

教授方法	講義（受講生の要望に応じて、グループディスカッション等のワークを実施する場合もある。）
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：社会学的に考えるということ、および教育を社会学的に捉え直すことについての基本的な視点を提供し、本科目で学ぶ内容と、その意義について整理する。	
2	制度としての教育①：教育内容や教育方法の変遷を学び、それらが社会と深く関わっていることについて学習する。	
3	制度としての教育②：階層再生産のメカニズムといった、近代化の所産と教育のあり方について学習する。	
4	制度としての教育③：主に義務教育課程について、その概要について学ぶと共に、教育をめぐる平等について学習する。	
5	制度としての教育④：高校ならびに大学への進学率上昇と、その背後に潜む諸問題について学習する。	
6	社会における教育者の意義①：重要な他者／一般化された他者としての教育者の役割、あるいはそのオルタナティブについて学習する。	
7	社会における教育者の意義②：今日の子どもの権利をめぐる諸議論に関わって教育が果たすべき役割について考察すると共に、非対称的な関係が構造的にもたらす教育の逆機能についても学習する。	
8	社会における教育者の意義③：子どもにとっての学校が持つ意味を踏まえながら、教師と子どもの関係および学校現場における両者の相互作用について学習する。	
9	日本における教育環境の変遷①：学校現場への理解から、非行・不登校・いじめ問題について学習する。	
10	日本における教育環境の変遷②：トラッキングやメリトクラシーの問題から、日本におけるキャリア教育について学習する。	
11	日本における教育環境の変遷③：特別活動や部活動の検討を通して、教師と子どもそれぞれが今日置かれている教育環境について学習する。	
12	日本における教育環境の変遷④：今日的な課題のうち、マイノリティ教育に対する教育の意義や実践例について考察する。	
13	日本における教育環境の変遷⑤：今日的な課題のうち、ジェンダー教育に対する教育の意義や実践例について考察する。	
14	総括①：社会との関わりから教育を理解するための方法論的基礎知識について学習する。	
15	総括②：本科目を通じて学習した内容について振り返り、専門職をはじめとするそれぞれの立場から社会の中で教育を達成することの意義について再考し、理解を深める。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加度	45	小テスト・小レポートを通して、日常的な授業態度を評価する。	期末レポート	55	授業の到達目標に即して、この授業で学んだ内容を適切にかつ分かり易くまとめられているか評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①該当する教科書の範囲ならびに事前配付資料を読んでおく。[60分] ②授業時に提示された小課題に取り組む。[45分]	・各回の授業でコメントフォームを活用し、そこでの質問は次回に全体共有する。

受講生に望むこと	・この授業は主として講義形式を採り、多種多様な知識と情報の伝達に努める。したがって、どちらかと言えば双方向ではなく一方向的な学習となる。ただし、教育的な関わり・教育実践にあたっては、すなわち良い教育者になるにあたっては、一面的な価値観に固執するようなことがあってはならない。この授業における学びを通して、社会や制度との関わりから自らの価値観を相対化すると共に、その上で自らの主観や態度を大切にする姿勢を身に付けていただきたい。	教科書・テキスト	『現場で使える教育社会学』 中村高康・松岡亮二　ミネルヴァ書房 2021年　ISBN:978-4623092604
指定図書／参考書等	＜参考書＞ 『よくわかる教育社会学』 酒井朗・中村高康・多賀太　ミネルヴァ書房 2012年　ISBN:978-4623062935 『教育の社会学〔新版〕』 苅谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗　有斐閣 2010年　ISBN:978-4641124004	その他・特記事項	・日常的な学習について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。 ・授業実施形態に伴い、筆記試験からレポート課題へ変更する場合がある。 ・授業実施形態に伴い、また受講生のニーズあるいは登録状況に応じて、アクティブラーニングを別の課題に代える場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EC238U 教育の方法・技術(総合的な学習の時間の対応を含む)(幼小中高)	開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	村井　万寿夫				
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
知識・技能を教える授業から、自ら考え判断し表現する学習に変わってきており、評価の方法も多様になっている。この授業観を具体化するためには教育の方法と技術について検討しなければならない。自ら考え判断し表現する授業とはどういったものなのか、幼稚園においては幼児の主体的な活動や幼児期にふさわしい生活とはどういったものなのか、理論や具体的な事例をもとに学んでいく。さらに、様々な情報機器を振り返ったのちに最新の情報機器の活用について検討する。そして、教科や総合的な学習の時間における授業、５領域からの保育活動を構想し、そのための教材を自作する。 SDGsの観点からは、子どもに配慮した施設環境や効果的な学習・保育環境の提供の仕方について学ぶ。【4.a】 ※SDGsターゲット4.a関連科目	①教育方法の歴史的概観をもとにその基礎を整理するとともに実践について理解している。 ②子供・教員・教室・教材など授業・保育を構成する基礎的要件を理解している。 ③総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割を理解している。 ④情報機器を活用した教科・総合的な学習の時間・５領域から学習・保育計画を立てることができる。 ⑤アプリケーションソフトを用いて学習・保育教材を作成することができる。

教授方法	講義・演習
履修条件	幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、中学校・高等学校教諭一種免許状(英語)のいずれか取得希望する者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	教育方法の歴史的概観①（ソクラテスやコメニウスなど７人物の教育方法や理論について概観し、自分の考えを持つ。）	
2	現代における教育方法（デューイ、ブルーナーなど６人物の教育方法や理論について概観し、自分の考えを持つ。）	
3	教育方法の基本原理（系統学習と問題解決学習を比較し、基本的原理について考察する。）	
4	授業理論（直接的な教育手段と間接的な教育手段について理解し、総合的な学習の時間はどれに当てはまるか考える。）	
5	授業とは何か（ガイスラ―の理論をもとに授業の「相互往還作用」について理解し、自分の考えを持つ。）	
6	授業と評価（見える学力と見えない学力について理解するとともに、総合的な学習の時間はどちらの学力か考える。）	
7	授業と視聴覚機器（視聴覚教育の発達と視聴覚メディアの教育活用について整理する。）	
8	視聴覚機器の教育活用の方法（学校や幼稚園でのコンピュータ等の情報機器を活用した教育の方法を調べる。）	
9	放送教育の授業への適用（放送教育の役割を問らえ、NHKのWebサイトで総合的な学習の時間などの教材を閲覧する。）	
10	教材・教具・教科書・教材研究（教材・教具とは何か、また、教科書（含む絵本）とは何かについて考え、教材研究について理解する。）	
11	情報機器を活用した授業（デジタルコンテンツと学習・保育での活用例を知り、自作教材を構想する。）	
12	教材の構想と作成（学習・保育で情報機器を活用するための計画を立て、そのためのフラッシュ型教材を構想して作成にとりかかる。）	
13	教材の作成（学習・保育計画に基づき構想したフラッシュ型教材を作成・完成させ、提出する。）	
14	教育方法と施設・設備（教育方法の多様化と学校や園の施設・設備などの変化について知る。）	
15	学習のまとめと定期試験に向けて（これまで学んだ内容の要点整理）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小レポート	20	教育の方法や技術について理解している。	教材作成	15	フラッシュ型教材の要件に合う教材を作成している。
定期試験	50	教育の方法や技術及び総合的な学習についての知識を有し、自分なりの考えを持っている。	授業態度	15	積極的に授業に臨んでいる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業は章・節ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。［30分］ ②各回の授業で配付するワークシート内のミニッツコメントにコメントする。［20分］ ③幼稚園や小中高等学校の教育方法に関しインターネット検索して調べる。［20分以上］	①小レポートについての質問に応じる。 ②自作したフラッシュ型教材を「要件」の観点から講評する。 ③第15回授業時に定期試験の観点を示す。

受講生に望むこと	幼稚園や小中高等学校において「どのような教育の方法が採られているか」の意識で受講してください。	教科書・テキスト	『教育方法論　改訂版』，谷田貝公昭・林邦雄・成田國英編著，一藝社，2015年出版，ISBN9784863590984
指定図書／参考書等	『幼稚園教育要領』文部科学省2008年告示，『小学校学習指導要領』文部科学省2015年告示／『教育の情報化ビジョン』文部科学省2011年公表	その他・特記事項	小レポートはClassroomに投稿して提出してください。

実務経験を活かした授業の概要

幼稚園・保育園、小学校、中学校の教育方法について取材（写真、動画、資料収集）して提示し、各校種における教育方法の特徴について理解を促したり、レポート作成したりしている。

授業科目名	EC090U 器楽入門			開講学科	子ども教育	必修・選択	自由
担当教員名	武田　恵美						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
保育・教育現場において、「子どもたちと音楽活動をするために」、また「子どもたちの表現力の成長をサポートするために」身に付けておきたい多くの事柄がある。この科目は、旋律楽器（ピアノ）入門のための科目である。授業は、グループレッスンで行う。ピアノ演奏のための基礎的な知識及び技術を習得することをねらいとし、練習曲や弾き歌い曲を通して演奏法について学ぶ。	①ピアノ演奏に必要な基礎知識を習得することによって、読譜ができるようになる。 ②基礎的なピアノの演奏技術を習得し、両手で弾くことができるようになる。 ③発表をする機会を持つことによって、演奏のための準備について考えることができるようになる。

教授方法	講義、演習及び実技指導
履修条件	ピアノ初級者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業計画、到達目標、成績評価方法等について、シラバスを通して理解する。音楽に関する調査を行う。 ピアノを弾く姿勢、座り方、手のかたち等を習得する。楽譜と鍵盤の位置関係を理解する。	
2	音楽理論Ⅰ：楽譜の基礎知識を理解する。指のトレーニングⅠ：２本・3本・4本・5本の指を使った演奏技術を習得する。	
3	音楽理論Ⅱ：音符と休符について理解する。指のトレーニングⅡ：２本・３本・４本・５本の指を使った平行進行の演奏技術を習得する。弾き歌いⅠ：「かえるのがっしょう」の歌唱及びピアノ伴奏を習得する。	
4	音楽理論Ⅲ：拍子について理解する。指のトレーニングⅢ：３度の音程をとる演奏技術、２本の指を広げる演奏技術を習得する。 弾き歌いⅡ：「かえるのがっしょう」の弾き歌いを習得する。	
5	音楽理論Ⅳ：奏法に関する記号について理解する。指のトレーニングⅣ：指をくぐったり、またいだりする演奏技術を習得する。 弾き歌いⅢ：「ロンドン橋」の歌唱及びピアノ伴奏を習得する。	
6	音楽理論Ⅴ：速度記号、強弱記号について理解する。指のトレーニングⅤ：２本の指を寄せる演奏技術、同じ音で指を変える演奏技術を習得する。弾き歌いⅣ：「ロンドン橋」の弾き歌いを習得する。	
7	音楽理論Ⅵ：変化記号について理解する。指のトレーニングⅥ：ハ長調・ト長調の音階について理解し、演奏技術を習得する。弾き歌いⅤ：「こぎつね」の歌唱及びピアノ伴奏を習得する。	
8	音楽理論Ⅶ：低音部記号の読譜練習をする①。指のトレーニングⅥ：ヘ長調の音階について理解し、演奏技術を習得する。半音階の演奏技術を習得する。弾き歌いⅥ：「こぎつね」の弾き歌いを習得する。	
9	音楽理論Ⅷ：低音部記号の読譜練習をする②。指のトレーニングⅦ：ハ長調の重音の演奏技術を習得する。ピアノ曲Ⅰ：STEP1の１曲目を習得する。弾き歌いⅦ：弾き歌い曲を練習する。	
10	指のトレーニングⅧ：様々な伴奏リズムを習得する①。ピアノ曲Ⅱ：STEP1の１曲目を習得する。弾き歌いⅧ：弾き歌い曲を練習する。	
11	指のトレーニングⅨ：様々な伴奏リズムを習得する②。ピアノ曲Ⅲ：STEP1の１曲目、２曲目を習得する。弾き歌いⅨ：弾き歌い曲を練習する。	
12	ピアノ曲Ⅳ：STEP1の１曲目を仕上げ、２曲目を習得する。弾き歌いⅩ：弾き歌い曲を練習する。	
13	ピアノ曲Ⅴ：STEP1の１曲目、２曲目を仕上げる。弾き歌いⅧ：弾き歌い曲を仕上げる。	
14	発表：STEP1の１曲目を発表する。弾き歌い曲を１曲発表する。	
15	発表：STEP1の２曲目を発表する。 「器楽入門」のまとめ、「器楽Ⅰ」の説明をする。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	70	受講態度、課題に対しての取り組みと内容。	発表	30	発表への取り組みと内容。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎授業で出される課題を演奏できるように、毎日練習をしてください。[90分]	コメント又は個人指導をします。

受講生に望むこと	①毎日継続して練習をしてください。 ②毎回出される課題に積極的に取り組んで下さい。	教科書・テキスト	『うたのファンタジー 』木許隆監修・編著、圭文社、 2017年、ISBN978-4-87446-064-1／『保育者、教員をめざす人のための 初級ピアノ・テクニック速習ステップス』木許隆監修、音楽之友社、2015年、ISBN978-4-276-82073-9／『音楽の基礎 改訂版』木許隆監修、圭文社、2018年、ISBN978-4-87446-066-5／『Basic and Variations』、木許隆，武田恵美，長井典子編著、圭文社、2022年3月出版予定　ISBN978-4-87446-067-2／プリント
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EC110U 器楽Ⅰ			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	武田　恵美・加藤　雅子・種池　有美子・南部　順子・福田　真紀　（代表教員　武田　恵美）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
保育・教育現場で必要とされる音楽表現の中で、旋律楽器（ピアノ）を中心に演奏の基礎知識や技術を習得する。授業は、グループレッスンと個人レッスンを並行して行う。グループレッスンではピアノ演奏のための基礎知識を習得することをねらいとし、テキストとプリントを用いて学ぶ。個人レッスンではピアノ演奏に関して個々の技能の向上を目指すことをねらいとし、各自に応じたピアノ曲、リズム曲の演奏、子どものうたの弾き歌いを学ぶ。様々な音楽に触れ、演奏のための豊かな表現力を養う。	①ピアノ演奏のための基礎知識を習得することによって、読譜ができるようになる。 ②様々な音楽に触れて、演奏のための豊かな表現力を習得する。 ③コード伴奏ができるようになる。 ④発表をする機会を持つことによって、演奏のための準備について考えることができるようになる。

教授方法	講義、演習及び実技指導
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業計画、到達目標、成績評価の方法等について理解する。音楽に関する調査を行う。 譜表・音符と休符・音名・拍子について理解する。	武田
2	強弱・速度・奏法に関する音楽用語と記号について理解する。 各自に応じたピアノ曲、リズム曲、子どものうたを読譜する。	武田
3	グループレッスン：ハ長調の音階について理解し、ハ長調の音階と重音を習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅰ、リズム曲Ⅰ、子どものうたⅠ	各担当教員
4	グループレッスン：ハ長調の主要三和音のコードネームを理解し、和音進行の基本を習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅱ、リズム曲Ⅱ、子どものうたⅡ	各担当教員
5	グループレッスン：ト長調の音階について理解し、ト長調の音階と重音を習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅲ、リズム曲Ⅲ、子どものうたⅢ	各担当教員
6	グループレッスン：ト長調の主要三和音のコードネームを理解し、和音進行の基本を習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅳ、リズム曲Ⅳ、子どものうたⅣ	各担当教員
7	グループレッスン：ハ長調・ト長調の和音進行の基本を確認する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅴ、リズム曲Ⅴ、子どものうたⅤ	各担当教員
8	発表Ⅰ	全員
9	グループレッスン：ヘ長調の音階について理解し、ヘ長調の音階と重音を習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅵ、リズム曲Ⅵ、子どものうたⅥ	各担当教員
10	グループレッスン：ヘ長調の主要三和音のコードネームを理解し、和音進行の基本を習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅶ、リズム曲Ⅶ、子どものうたⅦ	各担当教員
11	グループレッスン：ニ長調の音階について理解し、二長調の音階と重音を習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅷ、リズム曲Ⅷ、子どものうたⅧ	各担当教員
12	グループレッスン：ニ長調の主要三和音のコードネームを理解し、和音進行の基本を習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅸ、リズム曲Ⅸ、子どものうたⅨ	各担当教員
13	グループレッスン：ヘ長調・ニ長調の和音進行の基本を確認する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅹ、リズム曲Ⅹ、子どものうたⅩ	各担当教員
14	発表Ⅱ	全員
15	グループレッスン：コードネームによる簡易伴奏の演習。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲XI、リズム曲XI、子どものうたXI	各担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	受講態度、課題への取り組みと内容。（「受講生に望むこと」欄を参照）	発表Ⅰ	30	発表への取り組みと内容。
発表Ⅱ	30	発表への取り組みと内容。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①グループレッスンでは、毎授業で出される課題を演奏できるように、毎日練習をしてください。[30分] ②個人レッスンでは、各自に応じたピアノ曲、リズム曲、子どものうたの弾き歌いを演奏できるように、毎日練習をしてください。[60分] ③発表に向けて計画的に練習し、準備をしてください。	コメント又は個人指導をします。

受講生に望むこと	①毎回出される課題に積極的に取り組んでください。 ②単にピアノを練習するだけではなく、ピアノ曲をＣＤなどで聴き、わからない音楽用語や記号は調べてください。	教科書・テキスト	『うたのファンタジー 』木許隆監修・編著、圭文社、 2017年、ISBN978-4-87446-064-1／『保育者、教員をめざす人のための 初級ピアノ・テクニック速習ステップス』木許隆監修、音楽之友社、2015年、ISBN978-4-276-82073-9／『音楽の基礎 改訂版』木許隆監修、圭文社、2018年、ISBN978-4-87446-066-5／『Basic and Variations』、木許隆，武田恵美，長井典子編著、圭文社、2022年3月出版予定　ISBN978-4-87446-067-2／プリント
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EC245U 器楽Ⅱ	開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	武田　恵美・加藤　雅子・種池　有美子・南部　順子・福田　真紀　（代表教員　武田　恵美）				

標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
「器楽Ⅰ」で身に付けた個々の技能をさらに高める授業である。保育現場や初等教育で用いられている教材等の実践を、ピアノやキーボードで行う。保育現場や小学校の授業で必要とされる弾き歌いや伴奏法等を学び、実践的な知識と技能を身に付けることを目的とする。授業は、グループレッスンと個人レッスンを並行して行う。グループレッスンでは、基礎的なコード伴奏及び様々な伴奏パターンを学び、個人レッスンでは、各コースで必要と考えられる楽曲を中心に学ぶ。	①ピアノ演奏のための基礎知識を習得し、豊かな演奏表現ができるようになる。 ②様々な音楽に触れて、演奏のための豊かな表現力を習得する。 ③コード伴奏ができるようになる。 ④小学校音楽科の歌唱教材や子どものうたの弾き歌いとリズム曲が演奏できるようになる。 ⑥発表をする機会を持つことによって、演奏のための準備について考えることができるようになる。

教授方法	講義、演習及び実技指導
履修条件	「器楽Ⅰ」の単位を修得済みであることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業計画、到達目標、成績評価の方法等について、シラバスを通して理解する。 読譜について楽譜を通して理解する。	武田
2	曲想・奏法に関する用語・記号について楽譜を通して理解する。 各自に応じたピアノ曲・リズム曲。子どものうたを読譜する。	武田
3	グループレッスン：ハ長調のコード伴奏の発展として、様々な伴奏パターンを習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅰ、リズム曲Ⅰ、子どものうたⅠ	各担当教員
4	グループレッスン：ハ長調の子どものうたのコード伴奏付けを習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅱ、リズム曲Ⅱ、子どものうたⅡ	各担当教員
5	グループレッスン：ト長調のコード伴奏の発展として、様々な伴奏パターンを習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅲ、リズム曲Ⅲ、子どものうたⅢ	各担当教員
6	グループレッスン：ト長調の子どものうたのコード伴奏付けを習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅳ、リズム曲Ⅳ、子どものうたⅣ	各担当教員
7	グループレッスン：ハ長調・ト長調の子どものうたのコード伴奏付けを確認する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅴ、リズム曲Ⅴ、子どものうたⅤ	各担当教員
8	発表Ⅰ	全員
9	グループレッスン：ヘ長調のコード伴奏の発展として、様々な伴奏パターンを習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅵ、リズム曲Ⅵ、子どものうたⅥ	各担当教員
10	グループレッスン：ヘ長調の子どものうたのコード伴奏付けを習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅶ、リズム曲Ⅶ、子どものうたⅦ	各担当教員
11	グループレッスン：ニ長調のコード伴奏の発展として、様々な伴奏パターンを習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅷ、リズム曲Ⅷ、子どものうたⅧ	各担当教員
12	グループレッスン：ニ長調の子どものうたのコード伴奏付けを習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅸ、リズム曲Ⅸ、子どものうたⅨ	各担当教員
13	グループレッスン：ニ長調・ヘ長調の子どものうたのコード伴奏付けを確認する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅹ、リズム曲Ⅹ、子どものうたⅩ	各担当教員
14	発表Ⅱ	全員
15	グループレッスン：即興演奏の方法について学ぶ。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲XI、リズム曲XI、子どものうたXI	各担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	受講態度、課題への取り組みと内容。（「受講生に望むこと」欄を参照）	発表Ⅰ	30	発表への取り組みと内容。
発表Ⅱ	30	発表への取り組みと内容。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①グループレッスンでは、毎授業で出される課題を演奏できるように、毎日練習をしてください。[30分] ②個人レッスンでは、各自に応じたピアノ曲、リズム曲、子どものうたの弾き歌いを演奏できるように、毎日練習をしてください。[60分] ③発表に向けて計画的に練習し、準備をしてください。	コメント又は個別指導をします。

受講生に望むこと	①毎回出される課題に積極的に取り組んでください。 ②単にピアノを練習するだけではなく、ピアノ曲をＣＤなどで聴き、わからない音楽用語や記号は調べてください。	教科書・テキスト	『うたのファンタジー 』木許隆監修・編著、圭文社、 2017年、ISBN978-4-87446-064-1／『保育者、教員をめざす人のための 初級ピアノ・テクニック速習ステップス』木許隆監修、音楽之友社、2015年、ISBN978-4-276-82073-9／『音楽の基礎 改訂版』木許隆監修、圭文社、2018年、ISBN978-4-87446-066-5／『Basic and Variations』、木許隆監修・木許隆，武田恵美，長井典子編著、圭文社、2022年3月出版予定　ISBN978-4-87446-067-2／プリント
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EC251U 教育課程論			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	虫明　淑子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
教育課程には２つの役割がある。１つは、教育の目的や目標を達成するために「いつ、何を、どのように」学ぶかを示す「学びの地図」として、もう１つは、2017年改訂『幼稚園教育要領』の「カリキュラム・マネジメント」という用語の意味に含まれる役割としての教育課程を単なる計画として捉えるのではなく、幼児の姿や発達過程、園や地域の実態等に沿った計画に基づく実践とその評価、さらに改善へとつなげるPDCAサイクルを担う役割である。本講義では、これらの２つの役割についての理解を深めながら、学校教育の土台となる幼児教育におけるよりよいカリキュラムのあり方について考える。	①教育課程は幼児教育の基本や園の教育目標の実現のために作成するが、幼児が生活する姿を捉えることと密接に関連していることについて理解する。 ②長期指導計画、短期指導計画の考え方や作成手順について理解する。 ③日々の記録とその振り返りから次の計画につなげるPDCAサイクルの意義について理解する。 ④カリキュラム・マネジメントの重要性について理解する。

教授方法	講義
履修条件	教育実習指導Ⅰ（幼）を履修中であることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業説明とカリキュラムとは何かについて考える。	
2	幼児教育の基本と計画の考え方及び教育課程の意義について理解する。	
3	幼児教育の特質と幼児期に育みたい資質・能力について理解する。	
4	公教育を担う立場である幼児教育における教育課程の役割について理解する。	
5	幼児教育における教育課程の編成の基本的事項について理解する。	
6	教育課程編成の留意事項のポイントと具体的なねらいと内容の組織について理解する。	
7	長期指導計画と短期指導計画作成の基本的な考え方について理解する。	
8	指導計画の作成：幼児の生活する姿の捉え方について考える。	
9	指導計画の作成：具体的なねらいや内容の設定について考える。	
10	幼保連携型認定こども園における教育及び保育の内容並びに子育て支援等に関する全体的な計画について理解する。	
11	カリキュラム・マネジメントの意義と実際：全体像と評価する意味について理解する。	
12	幼稚園教育から小学校教育への円滑な接続について考える。	
13	教育課程と全体的な計画：園運営の明確化及び一体化及びPDCAサイクルの意義について理解する。	
14	国外の様々な幼児教育のあり方を日本の状況と比較し、教育課程を捉え直す。	
15	授業内試験：授業の振り返り	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	出欠・授業態度等	課題	40	課題に対する取り組み方・理解度・要点の把握・適切な分量・丁寧さ・提出状況等
授業内試験	40	授業内容の理解度			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業前に教科書の範囲を予習する［60分］ 前回までの授業内容の復習［30分］	授業内容に関して質問や疑問等がある場合には随時対応する。

受講生に望むこと	教育課程は最初、難しいと感じられると思いますが、理解が進めば、教育課程のない保育はあり得ないと考えられるようになります。分からないところは質問する等、積極的に取り組んでください。	教科書・テキスト	神長美津子・津金美智子・河合優子・塩谷香『乳幼児教育・保育シリーズ　教育課程論』光生館　2018年　ISBN:4332701836 『幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開』文部科学省　チャイルド本社　2021年　ISBN:9784805402993
指定図書／参考書等	『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館　2018年　ISBN：9784577814475 『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館　2018年　ISBN：9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館　2018年　ISBN：9784577814499 ／適宜紹介する。	その他・特記事項	受講者の理解度に合わせ、内容や進め方を変更して行う場合あり。

実務経験を活かした授業の概要

幼稚園教諭、管理職、園内研修指導助言者として複数園のカリキュラム・マネジメントを行って得られた知見、また、子育て支援、発達障害のある子どもや保護者支援による様々な経験に基づく事例を提示する。

授業科目名	EC256U 保育内容総論			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	虫明　淑子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
2017年『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の同時改訂（定）以降、幼児教育を行うすべての施設において質の高い保育を行うことが求められるようになった。幼児教育は人格形成の基礎を培い、小学校以降の学校教育における学習の土台となると言われている。しかしながら、幼児教育における「遊び」はなぜ「学び」になるのか、遊びを通した総合的指導とは何を意味するのか等の幼児教育の特質についての理解は十分でない。本授業では、「環境を通して行う教育」としての遊びや生活の質を向上する保育内容の考え方やよりよいあり方について考える。	①「環境を通して行う教育」「遊びを通した総合的な指導」「子どもの主体性を尊重する保育」等の保育の本質について理解を深める。 ②子どもの実態から子ども主体の遊びを生み出す重要性について理解する。 ③よりよい保育実践のあり方について創造的に考えられるようになる。 ④「遊び」が「学び」となる理由、幼児教育がなぜ小学校教育の学習の土台や人格形成の基礎となるのか説明できるようになる。

教授方法	演習・講義
履修条件	保育内容科目、教育課程論、教育実習Ⅰ（幼）を履修している（履修中を含む。単位修得は問わない）ことを原則とする。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：遊びの原理と保育内容の考え方、特に「環境を通して行う教育」について再考する。	
2	保育の基本と保育内容及び幼児教育における見方・考え方や幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について、具体的事例に基づき考える。	
3	子どもの主体性を尊重する保育とはどのような意味があるのかについて様々な事例から考える。	
4	５領域の視点を踏まえながら生活や遊びを通しての総合的な指導のあり方について考える。	
5	5歳児の保育内容と小学校接続について考える。	
6	家庭との連携や地域の資源を活用した保育のあり方について理解する。	
7	子どもの実態に沿って、モノや人との関わりを深める視点からの教材の工夫について考える。	
8	行事の意味や園行事の望ましいあり方について考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	出欠・授業態度（積極性・姿勢等）	課題	30	理解度・要点の把握・適切な分量・丁寧さ・提出状況等
最終課題	40	授業内容の理解度・要点の把握・応用力・発展力等			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前に予習・必要な準備を行って授業に臨む。［120分］ 事後に復習する。［60分］	質問・疑問等には随時対応する。場合によっては、次回以降の授業内容に反映する。

受講生に望むこと	分からないことや疑問があればすぐに質問する等、積極的な姿勢で受講することを望みます。	教科書・テキスト	大豆生田啓友・北野幸子・砂上史子編著『保育内容総論』（2022年度出版予定）
指定図書／参考書等	『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館　2018年　ISBN：9784577814475 『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館 2018年　ISBN：9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館 2018年　ISBN：9784577814499 ／適宜紹介する。	その他・特記事項	受講者の理解度、質問・疑問・興味・関心に沿って、授業形式や内容を変更して行う場合があります。

実務経験を活かした授業の概要

園のカリキュラム・マネジメント者として、同僚保育者や保護者と協働し、園の保育実践の質をよりよいものに改善してきた保育実践事例とその記録（写真や映像等）また、その際に活用した資料等を提示する。

授業科目名	EC261U 保育内容・環境指導法			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	向出　圭吾						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
幼稚園教育の基本的な考え方、５領域について概要を把握し、子どもの育ちに必要な身近な環境とのかかわりを考えることで領域「環境」のねらい及び内容を理解する。それぞれの内容の事例検討をもとに、身近な場面での具体例をあげ、実際に試したり工夫したりすることで、保育の中での遊びの意義を考える。	①幼児教育の基本的な考え方、５領域を理解している。 ②子どもの育ちに身近な環境がどう影響しているかについて考察できる洞察力を習得している。 ③それぞれの内容の具体例を示すことができる。 ④実際に試したり工夫したりすることで、気づいたことを自分にフィードバックさせる力が身についている。 ⑤生きる力を基礎としての領域「環境」について自分なりの考えをもつことができるようになる。

教授方法	講義、演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	幼稚園教育の基本①：幼稚園教育の基本的な考え方、環境を通しての教育について学ぶ。	
2	幼稚園教育の基本②：５領域の概要について把握し、ねらいと内容の意味を考える。	
3	子どもの育ちと領域「環境」：幼児期の発達の観点から、子どもと環境とのかかわりについて学び、ねらい及び内容を理解する。	
4	子どもにとって身近な環境とは①：子どもがかかわる身近な環境について話し合い、それが育ちにどのような影響を与えているか考える。	
5	子どもにとって身近な環境とは②：事例（ビデオを含む）を通して、身近な環境と子どもの育ちの因果関係を、様々な観点から考察する。	
6	子どもにとって身近な環境とは③：事例（ビデオを含む）を通して、身近な物や道具に興味をもってかかわり、考えたり、試したり工夫して遊ぶ意味を考える。	
7	文字・標識・数量・図形への関心：身近な遊びを通して文字・標識・数量・図形への興味と認識について考える。	
8	身近な自然にかかわる実践①：各学生自身が幼児期に過ごした身近な自然、通学路を改めて散策し、どのような場所であったかを調べる。	
9	身近な自然にかかわる実践②：身近な自然、通学路の環境マップを作成する。	
10	身近な自然にかかわる実践③：各自作成した環境マップから、領域「環境」に関わる場所をピックアップし、それぞれの内容と照らし合わせて、幼児の育ちにどう関係しているのかを考える。	
11	子どもと環境の関わりを捉える視点：子どもの育ちと環境との関わりを捉えるポイントを整理し、領域「環境」のねらい及び内容と指導上の留意点について理解を深める。	
12	自然に親しみ、植物や生き物に触れる。：事例（ビデオを含む）を通して、命あるものとのかかわりにおける子どもの育ちを考える。	
13	身近な物にかかわる実践①：各自、幼児期に作ったことがある手作り玩具を製作してみる。	
14	身近な物にかかわる実践②：身近な素材を使った手作り教材を製作することで、その性質や仕組みに興味関心をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶことの意味を考える。	
15	「生きる力の基礎を培う」という観点での領域「環境」：これまでの実践や事例の考察を踏まえて、生きる力の基礎としての領域「環境」について自分なりの考えをまとめる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業 参加態度	20	各回のテーマに対して様々な観点から積極的に取り組んでいるか。	課題への 取り組み	80	毎回提示する課題に対して期限を守り提出し、内容が適切であるか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・事前に課題を提示する場合は、各自学習を経て課題に取り組むこと。[30分] ・実践の授業では、必要な素材を準備し、教材作りをする。[90分] ・提示される課題について、授業を振り返りながら取り組むこと。[60分]	授業の初めに前回の振り返りを行い、学びを自分にフィードバックさせる力を身につける。

受講生に望むこと	自分がこれまでもっていた幼児期の遊びに対する概念を一度リセットして、一つの遊びの事象にも様々な見方、考え方があることを意識しながら授業に臨むこと。	教科書・テキスト	『新訂・事例で学ぶ保育内容　環境』無藤隆監修　福元真由美編者代表　萌文書林　2018年　ISBN:978-4-89347-258-8 『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年　ISBN:9784577814499
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	classroom等のメール添付にて課題を提示することがある。

実務経験を活かした授業の概要

幼稚園教諭としての勤務経験をもとに、現場での遊びや生活のビデオを活用し、グループディスカッションを行う。自然とのかかわり、自然物を取り入れた遊びなど、実際の現場での実践を取り入れている。

授業科目名	EC321U 環境			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	向出　圭吾						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
「保育内容・環境指導法」での学びと実習での体験を踏まえて、「領域・環境」の内容を深く考察する科目である。保育現場の事例（ビデオを含む）を活用しながら、幼児が身近な環境にかかわることで何を見つけ、考え、それを取り入れようとしているのかを個々及びディスカッションを通して考察する。また、第一幼稚園の園庭の環境から、子どもの遊びの動線を分析したり、地域や文化の視点を取り入れた園外活動にも目を向けて保育の構想を考える。 ※SDGsターゲット4.2関連科目	①各自の実習でのエピソードをピックアップし、ディスカッションを通していろんな読み方があることに気付く。 ②「領域・環境」の視点から保育現場の事例（ビデオを含む）を活用しながら考察することができる。 ③保育現場の事例（ビデオを含む）や第一幼稚園の園庭の環境から遊びの動線の意味を考える。 ④園外活動のねらいや方法を考えることができる。

教授方法	講義、ディスカッション
履修条件	「保育内容・環境指導法」の単位を修得済みであること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：本科目の授業内容と授業の到達目標について具体的に説明することで、明確な意識をもって授業に臨むことができるようになる。子どもの内面を読み取る、考察することについて改めて考える。	
2	事例検討（1）：それぞれ「教育実習Ⅱ（幼）」のエピソードをピックアップして、改めて振り返りを行うとともに、考察した内容を見直ししてみる。	
3	事例検討（2）：各自でピックアップし考察した事例をもとにグループディスカッションを行い、いろんな視点から読みとる方法に気づき、より具体的な考察ができるようになる。	
4	事例検討（3）：それぞれのグループディスカッションを踏まえて、さらに全員でエピソードの読み取りを行い、考察を深めていく。	
5	事例検討（4）：保育現場からの事例（ビデオを含む）をあげ、再びグループディスカッションを行い、それぞれ考察したことを発表、お互いに知ることで、読み取る力を身に付ける。	
6	事例検討（5）：保育現場からの事例（ビデオを含む）から、園庭の環境に焦点をあてて子どもの遊びの動線を分析する。	
7	第一幼稚園での園庭の環境（1）：実際に第一幼稚園に赴き、園庭の環境構成から子どもの遊びの動線を想定する。	
8	第一幼稚園での環境づくり（2）：実際の第一幼稚園の園庭での子どもの遊びのビデオを活用して、それぞれが想定した遊びの動線と比較し分析することで、子どもの遊びの動線の意味を考える。	
9	園外活動の保育計画（1）：園外活動を行う場合の現場や家庭での事前準備等を考える。	
10	園外活動の保育計画（2）：園外活動当日の地域の特性や文化を活かした内容を取り入れた指導計画を立案する。	
11	園外活動の保育計画（3）：それぞれが立案した指導計画をもとにグループディスカッションを行い、いろんな観点から作成した指導計画を知ることで、より具体的な保育の構想を考えることができる。	
12	事例検討（6）：改めて保育現場からの事例（ビデオを含む）から、子どもの内面を読み取る力を確認する。	
13	事例検討（7）：改めて保育現場からの事例（ビデオを含む）を考察することで、自己課題を見つける。	
14	幼児にとっての「領域・環境」について、	
15	幼児にとっての「領域・環境」について、これまでの学びを振り返り「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（幼小接続）と絡めながら考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	・意識をもって授業に臨み、ディスカッションに積極的に参加する。	課題	60	・保育現場での事例の考察や子どもの遊びの動線に対して具体的にレポートに記述することができる。 ・幼児の内面を読み取ることができる。
最終課題	20	・この授業を通して内容を理解し、遊びを読みとる力や作り出す力について、自分の学びをまとめることができるかを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①実習を含む身近な資料からのエピソードの収集[30分] ②エピソードの読み取りの見直し[30分] ③指導計画の立案[90分] ④学びの振り返り[60分]	毎回のディスカッション内及び授業の開始時に前時の振り返りを行う。

受講生に望むこと	授業ごとに完結ではなく、前時の授業との繋がりをもって授業に臨むこと。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館　2018年 ISBN：9784577814475 『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館　2018年ISBN:9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年　ISBN：9784577814499	その他・特記事項	活動内容によって、別日に行われることもあるので注意すること。

実務経験を活かした授業の概要

園外保育のあり方や現場での実践を、実際に第一幼稚園に出向いて、現場で行っている。

授業科目名	EC266U 保育内容・健康指導法			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	田邊　圭子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
幼稚園教育要領に示された幼児教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解する。幼児の健康な心身の発達、基本的生活習慣、安全に関する理解を深めるとともに、子どもの発達を踏まえた適切な援助や指導法、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。指導法においては情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することについても学ぶ。	幼稚園教育要領　領域「健康」のねらいと内容について理解する。幼児の健康に関する知識を習得し理解を深めるとともに、子どもの発達を踏まえた適切な援助や指導法、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

教授方法	対面授業による講義、模擬授業、グループディスカッション、個人によるワーク、外部講師による講義1回（石川県健康福祉部少子化対策監室母子保健・食育グループ）
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	領域「健康」のねらいと内容、内容の取扱いについて理解する。	
2	子どもの身体の特徴と生理的機能の特徴について理解する。	
3	子どもの発達の概要とその援助について理解する。	
4	子どもの運動発達・体力とその援助について理解する。	
5	子どもの遊びとその援助について理解する。	
6	石川県健康福祉部少子化対策監室母子保健・食育グループ職員による講義	
7	子どもの運動（子どもの体のおかしさ）	
8	基本的生活習慣とその指導について理解する（睡眠）	
9	基本的生活習慣とその指導について理解する（食事）	
10	基本的生活習慣とその指導について理解する（共食）	
11	基本的生活習慣とその指導について理解する（好き嫌い）	
12	実際の子ども達の映像から子どもの姿をイメージし、具体的に想定した基本的生活習慣に関する指導案を作成する。	
13	基本的生活習慣に関する模擬保育。振り返りと評価を踏まえた学び合いから、幼児の基本的生活習慣の指導について考える。	
14	幼児の特性と事故について理解する。	
15	保育現場における安全管理の実際について理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小課題	10	基本的な内容を理解しているか。	レポート	30	課題に対して独りよがりな思いに終始することなく、基本的な内容を踏まえて考えを述べているか。
授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢。	模擬授業	30	①健康に関する基本的理解がされているか。 ②模擬授業に向けた丁寧な準備がされていたか。 ③正しい知識が子どもたちに伝えられているか。 ④具体的な子どもの姿を想定しているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①教科書を読み授業に備える[20分] ②授業で配布した資料を読む[20分] ③子どもの健康に関するニュースや新聞記事に目を通し理解を深める[60分]	小テスト及びレポートは理解度の把握に利用し、次週以降の授業の中で振り返りと確認を必要に応じて行う。

受講生に望むこと	子ども達が様々な活動に自ら積極的に取り組み、楽しむためには健康であることが重要です。子ども達の健康に関する基本的な知識を学び、理解するとともに「自分が子どもの前に立ったらどうするか」を常に考えながら受講してください。	教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』、文部科学省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』、厚生労働省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814499 演習　保育内容健康―大人から子どもへつなぐ健康の視点、井狩芳子著、萌文書林、2018年、ISBN：9784893472755
指定図書／参考書等	関連図書や関連記事は授業の中で随時提示またはプリントを配布する。	その他・特記事項	外部講師による講義1回（石川県健康福祉部少子化対策監室母子保健・食育グループ職員による講義）の実施回を変更する場合がある。実施日は事前に連絡する。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EC326U 健康活動			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	田邊　圭子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
健康は子どもの生活の基盤である。未来ある子ども達が生涯にわたって心身ともに健康な生活を築くために私たちは何をすべきだろうか。この授業では、「保育内容・健康指導法」での学びを踏まえ、幼児の健康な心身の発達や安全に関する理解を更に深めるとともに、保育活動として進めていくための方法を実践的に学ぶ。	①乳幼児の心身の健康に関する園と家庭のあり方や連携について理解する。 ②保育現場において、適切な指導・援助の出来る保育者を目指す。

教授方法	対面授業による講義、模擬授業、グループディスカッション、個人によるワーク
履修条件	「保育内容・健康指導法」の単位を修得済みであることが望ましい（単位未修得可）

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	食事と睡眠に関する基本的生活習慣とその指導について理解する。	
2	排泄に関する基本的生活習慣とその指導について理解する。	
3	清潔に関する基本的生活習慣とその指導について理解する。	
4	衣服の着脱に関する基本的生活習慣とその指導について理解する。	
5	子どもの姿をイメージし、具体的に想定した基本的生活習慣に関する指導案を作成する。	
6	基本的生活習慣に関する模擬保育を行う。（模擬保育にはデジタルビデオ等を使用する）	
7	模擬保育で使用したデジタルビデオの映像を用い、模擬保育における気づきとディスカッションを通して基本的生活習慣に関する保育者の支援、家庭との連携について考える。	
8	子どもの遊びと健康について理解する。	
9	子どもの運動遊びと健康・安全について理解する。	
10	実際の子ども達の映像から、子どもの運動遊びの実際と指導について理解するとともに、具体的に想定した運動遊びに関する指導案を作成する。	
11	子どもの運動遊びに関する模擬保育（模擬保育にはデジタルビデオ等を使用する）。振り返りと評価を踏まえた学びあいから、子どもの運動遊びについて考える。また、保育者の役割や家庭との連携についても考える。	
12	保育における安全教育について理解する。	
13	具体的な子どもの姿を想定し、教材やデジタル教材を用いた安全教育に関する指導案を作成する。	
14	安全教育に関する模擬保育、振り返りと評価を踏まえた学びあいから、幼児の安全教育について考える。	
15	子どもの健康について、これまでの学びを振り返るとともに、現代社会における今日の課題を理解し、保育者の役割と家庭との連携や支援、幼小連携について考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
模擬保育	30	①内容を理解しているか ②子ども達にわかりやすく伝える工夫がされているか③子ども達が生活の中で実践できるような工夫がされているか	レポート・課題	30	課題に対して独りよがりな思いに終始することなく、基本的な内容を踏まえて述べられているか。
小課題	10	基本的な内容を理解しているか	授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①教科書を読み、授業に備える[20分] ②授業で配布した資料を読む[20分] ③子どもの健康に関するニュースや新聞記事に目を通し、考えを深める[60分]	小テスト及びレポートは理解度の把握に利用し、次週以降の授業の中で振り返りと確認を行う。

受講生に望むこと	子ども達にとって健康であることは、様々な活動を積極的に取り組み、楽しむために必要なことです。受講生の皆さんには、子ども達が健康な日々を送るために何が必要か考えるとともに、現代社会が抱える様々な問題点に目を向ける姿勢を持っていただきたいです。実習で接した子どもたちの姿や場面を思い出しながら受講していただければ、授業内容の理解が深まると思います。	教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』、文部科学省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』、厚生労働省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年　ISBN:9784577814499 『演習保育内容　健康―大人から子どもへつなぐ健康の視点』、井狩芳子　著、萌文書林、2018年、ISBN978-4-89347-275-5
指定図書／参考書等	関連資料及び関連図書は随時提示またはプリント配布する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EC271U 保育内容・言葉指導法			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	髙村　真希・中島　賢介 （代表教員　髙村　真希）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
乳幼児期は、言葉を獲得していく時期である。保育内容「言葉」の意義について発達や各領域とのつながりを考慮しながら学ぶ。さらに、保育者が子どもの言葉の育ちにどのように関わり、豊かな言葉を育てていくのかを実践を踏まえ、役割と援助について学ぶ。また、指導案を作成し、実践することを通して指導法を体得する。	1. 子どもの言葉の育ちに関心を持つ。 2. 領域「言葉」の意義・ねらい・内容について理解している。 3. 発達段階を踏まえ、領域「言葉」に関する指導案を作成し、実践できる。 4. 領域「言葉」における保育の動向を知り、保育者の役割を理解している。

教授方法	講義と演習（ペアワーク・ディスカッション・視聴覚教材の実演）
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要等の説明（シラバス） 言語機能と領域「言葉」のねらいについて理解する。	中島
2	幼児期（乳児期を含む）における言語獲得のメカニズムについて学ぶ。	中島
3	領域「言葉」の内容と指導上の留意点及び評価について学ぶ。	中島
4	言葉の獲得と保育者の関わり：言葉以前の言葉　0歳児の事例から考える。 言葉が与える影響：言葉の持つ力について考える。	髙村
5	言葉の獲得と保育者の関わり：言葉が出始めたら　1歳児の事例から考える。	髙村
6	言葉の獲得と保育者の関わり：2歳児の事例から考える。	中島
7	言葉の獲得と保育者の関わり：3歳児の事例から考える。	髙村
8	言葉の獲得と保育者の関わり：4.5歳児の事例から考える。	髙村
9	児童文化財の実践的理解（種類とはたらきなど）	髙村
10	絵本の読み聞かせ（読み合い）の指導案を立案する① ：指導計画の立て方について学ぶ。	髙村
11	言葉の獲得と保育者の関わり：言葉の内にある子どもの思いを考える。現代的課題から小学校への接続を考える。	髙村
12	絵本の読み聞かせ（読み合い）の指導案を立案する② ：子どもの姿を予想し、言葉の表現を育む援助や配慮を考える。指導計画立案に関する疑問点を出し合い、共に考える。	髙村
13	視聴覚教材（絵本）を使用しての模擬保育を行う。（事後レポートの配付）	髙村
14	模擬保育の反省・評価等を踏まえて学び合う： 事後レポートをもとにして	髙村
15	試験 「言葉」の総合的理解（今までの振り返り）	髙村

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業の参加態度	30	授業への取り組み態度	指導案の立案と実演・事後レポート	40	指導案の内容と提出状況・実演の様子・事後レポートの内容
試験（第15回：髙村担当回）	15	授業内容を理解できているか。	課題レポート（第1.2.3回：　中島担当回）	15	複数の文献を読んだ上で、自分なりに考察されているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①　毎回、授業後に復習を行う［30分］ ②　子どもの言葉に関する複数の文献を読む［60分×３］ ③「絵本の読み聞かせ」の実践から振り返りを行い、レポートにまとめる［60分］	提出されたレポートや課題を授業内で反映する。 必要に応じて他の学生と課題を見せ合い、他者から学ぶ。

受講生に望むこと	保育者を目指す一人として、授業内での学生一人一人の言葉を大切に受け止める姿勢を持って受講すること。また、本授業は演習科目であるため、積極的な態度を望む。	教科書・テキスト	『新訂　事例から学ぶ保育内容　領域　言葉　』武藤隆監修　萌文書林　2018年　ISBN978-4-89347-259-5 『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館　2018年　ISBN：9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年　ISBN：9784577814499 『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館　2018年　ISBN：9784577814482
指定図書／参考書等	なし/必要に応じて随時提示する。	その他・特記事項	連絡事項はclassroomにて配信する。

実務経験を活かした授業の概要

髙村：保育士としての経験をもとに、乳幼児の言葉の発達について、保育現場での事例（動画）を基に具体的に指導を行っている。また、実際に視聴覚教材を使用しての実践を行い、学生自身が子どもになり体感する機会を設けている。

授業科目名	EC331U 言葉			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	髙村　真希・中島　賢介　（代表教員　髙村　真希）						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
言葉の現代的な課題や具体的な実践内容を考慮しながら、総合的に子どもの言葉をとらえる力を培っていく。生活場面や遊びの実際を通して言葉の面白さや表現の多様性について学びを深める。また、子どもの言葉の発達について保育者の援助・保育教材の実演や環境構成等の視点から学んでいく。	1.言葉の現代的課題を理解し、今日必要とされる保育者の役割と援助を知る。 2.子どもの言葉を育む保育教材について理解し、保育への活用方法を考えることができる。 3.教材実演を通して子どもの言葉を引き出す表現・技術を身につける。

教授方法	講義と演習（グループワーク・視聴覚教材の実演・ディスカッション）
履修条件	「保育内容・言葉指導法」を履修済みであることが望ましい。（単位未修得可）

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要説明　子どもの言葉に関する現代的課題について理解する。（保育内容・言葉指導法の復習）	中島・髙村
2	視聴覚教材が子どもに与える効果について理解する。（絵本・紙芝居・パネルシアター・ペープサート・エプロンシアター）	髙村
3	幼児の思考能力の拡大と物語の成立過程について理解する。 発達段階に応じた教材選びのポイントを理解する（0歳児～5歳児までの年齢ごとの教材選択）	髙村
4	発達段階に応じた視聴覚教材とは、どのような題材・素材・色合い等であるかを考えながら作成する①　※ここから視聴覚教材の作成になっているが、第１回以降から教材の選択や題材の選択について検討しておくこと。	髙村
5	視聴覚教材の指導案作成の際のポイントについて理解する。 自身が作成している視聴覚教材の指導案を立案する①　言葉を育む環境構成や援助・配慮等を多角的に捉える。	髙村
6	発達段階に応じた教材作成について（視聴覚教材の作成②と指導案立案②） 子どもの言葉を引き出す保育者の表現技術について多角的に捉える。	髙村
7	発達段階に応じた教材選びについて(視聴覚教材の作成③と指導案立案③) ※９～11月までに行った教材作成時間としてカウントする。	髙村
8	視聴覚教材を使用しての模擬授業を行う。	髙村
9	視聴覚教材の模擬授業（実演）を終えて：視聴覚教材の実演方法と反省・評価について理解する。	髙村
10	遊びを通して育つ言葉と保育者の関わり：子どもを伸ばす言葉がけについて考える。	髙村
11	感じたことを文字や記号や絵で表す：文字を使うことの喜びと保育者の関わりについて考える。	髙村
12	子どもが感情を表現するための保育者の役割：各実習での自身の経験をもとに、言葉の今日的課題（言葉の育ちに関わる諸問題を）を考える。①	髙村
13	子どもが感情を表現するための保育者の役割：各実習での自身の経験をもとに、言葉の今日的課題（言葉の育ちに関わる諸問題を）を考える。②（発表）	髙村
14	身近な人（他者）との語り合いを通して：自身の言葉に関するエピソード（実体験）を挙げ、自身の経験を語る。 ・会話、対話とはどういった行為であるかを理解する。 ・他者の語り（言語・非言語）から言葉の力を理解する。	髙村
15	振り返りとまとめ：感情や気持ちを表現することと保育者の関わりについて考える。（各実習Ｉや14回を踏まえて考える） ※第14回と連続して行う。	中島・髙村

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	授業に積極的に参加しているか、自分なりの考えを持っているか。	指導案立案と実演	30	立案した指導案を基に模擬保育を行う。子どもの姿を理解しようとし、子どもの目線に合わせた保育活動の工夫が見られるか。
課題（第1.12.13回）	25	課題の内容、提出状況から評価する。	教材作成	15	作成した教材の出来具合を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①子どもの言葉に関する文献を読む［60分］ ②「言葉」が育つことに関する遊びの場面の指導案を立案する［60分］ ③視聴覚教材の作成［180分］	・提出されたレポート課題や応答シートを授業で反映する。 ・必要に応じて他の学生の課題を見せ合う。

受講生に望むこと	保育者を目指す一人として、授業内での一人一人の言葉という表現を大切に受け止める姿勢を持って受講して下さい。また、積極的な態度で臨んで下さい。	教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館　2018年　ISBN：9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館 2018年　ISBN：9784577814499 『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館 2018年　ISBN：9784577814482 『保育者のための言語表現の技術　子どもとひらく児童文化財をもちいた保育実践　第2版』古橋和夫編著　萌文書林　2016年　ISBN：978-4893473493 『新訂　事例から学ぶ保育内容　領域　言葉』武藤隆監修　萌文書林　2018年　ISBN978-4-89347-259-5
指定図書／参考書等	なし/必要に応じて随時提示する。	その他・特記事項	連絡事項はclassroomにて配信する。

実務経験を活かした授業の概要

髙村：保育現場での事例を基にディスカッションし、今後、保育者に求められる資質（子どもの言葉を捉える力と育む力）とは何かをグループ・ペアで討議している。

授業科目名	EC276U 保育内容・人間関係指導法			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	谷　昌代						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
「領域　人間関係」は非認知能力として注目される内容が多く含まれ、幼稚園教育要領の「幼児期に育ってほしい姿」にも具体的な姿が多く示される領域である。本科目では、模擬保育でのロールプレイを通じて「領域・人間関係」に関わる子どもの心の動き、保育者の心の動きを疑似体験し、「領域　人間関係」に関連するテーマと概念について理解を深め、保育者の協働を体験する。振り返りでは、同一場面において異なる多様な感覚や感情、思考が生まれていることに気付き、子どもの遊ぶ姿に学びを読み取る感覚を掴む。更に振り返りで深めた体験から子ども一人一人の姿を予想する力、指導を構想する力を養う。	①幼児の興味、考え方、行動、言葉を丁寧に見て、その意味を考え、指導計画につなげようとする。 ②模擬保育とその振り返りを通して「領域　人間関係」に関わる幼児の実際の生活体験を想像し、幼児の心の動きに沿った教材の活用法を工夫できる。 ③模擬保育とその振り返りを通して「領域　人間関係」に関わる指導の特性を理解し、具体的な保育場面を想定して指導計画を作成することができる。 ④模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点と姿勢を身に付けている。 ⑤乳幼児期の人との関わり、コミュニケーションの発達のポイントを理解している。 ⑥乳幼児をめぐる今日的環境が潜む危険性について理解している。

教授方法	模擬保育・ロールプレイ・討議・発表・講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：「領域　人間関係」の概説。教材準備と指導計画作成を含む模擬保育と授業外活動となる乳幼児の人間関係エピソード収集について、方法と目的を理解する。[模擬保育担当グループの決定]	
2	子どもになって遊ぶ①：自身の心の動きをとらえる。振り返りを通じて同じ場面での遊びにおいて多様な心の動きと行動が発生していることを知る。キーワード：「共に過ごす」	
3	子どもになって遊ぶ②：2人で遊ぶ、3人で遊ぶ、多数で遊ぶ等、状況を変化させ、子どもの遊びにおける他者の存在について考える　キーワード：「友達」「自己発揮」	
4	模擬保育①：「自分で」が起こる遊びを準備し実践する。自己主張・自我について考える。	
5	模擬保育②：「やり遂げようとする気持ち」が起こる遊び。達成感・自信について考える。	
6	模擬保育③：「伝える・気づく」が起こる遊び。自己発揮・自己抑制について考える。	
7	模擬保育④：「協力」が起こる遊び。協同・充実感について考える。	
8	模擬保育⑤：「よいことや悪いことがあることに気づく」遊び。異なる視点について考える。	
9	模擬保育⑥：「思いやり」が生まれる遊び。共感・心の理論について考える。	
10	模擬保育⑦：「ルールをつくる」遊び。道徳性・規範意識について考える。	
11	模擬保育⑧：「共同の」を感じる遊び。公共心について考える。	
12	社会生活における人々との多彩な出会いが地域の幅広い人々に対する「親しみ」をもつようになる活動を指導計画として立案する。乳幼児と地域とのつながりについて考える。	
13	異年齢との関わりが深まる活動を指導計画として立案する。「相手の気持ちを考える」「自分が役に立つ喜び」について考える。	
14	3歳未満児の人間関係のエピソードから、0歳から3歳までの人間関係の発達を知る。	
15	3歳以上児の人間関係のエピソードから、3歳から就学までの人間関係の発達を知る。 まとめ　[授業内　小テスト]	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
模擬保育	40	遊びのプランの作成・遊びの工夫・独創的な教材・遊びの提示と展開	小テスト	30	「領域　人間関係」キーワードと関連する基礎的概念の理解・エピソードからの読み取り・遊びのプランの作成
研究ノート	20	各授業における指導計画からの補完（記録）・テーマに関連する課題の探究・資料として活用しやすい整理の仕方をしているか	エピソード収集	10	エピソードの内容・エピソードの記述記載方法・収集した資料の整理の仕方（丁寧にまとめられているか）

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・キーワードについて保育関連の事典、心理学の辞書で調べること[40分程度] ・模擬保育の実践に向けて計画、教材作り等グループでの事前準備［時間をかけて取り組む］ ・模擬保育の実践後の記録・振り返りを中心に各授業回に設定される課題について[60分程度] ・エピソードの収集[適宜]	提出されたレポート内容を次回（以降）の授業における講義に反映させる。

受講生に望むこと	・子どもになって遊べるスタイルで授業に参加すること。 ・教材の材料となるものを身近に見つけ収集しておくこと。 ・「子どもの目」に関心を持ち、生活で出会う子どもたちの動きや言葉、視線に関心を寄せること。	教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814499 『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814482
指定図書／参考書等	なし／　『遊びづくりの達人になろう！子どもが夢中になってグーンと成長できる　※歳児の遊び55』（5歳児・4歳児・3歳児の全巻） 竹井　史　編著　明治図書出版　2011年 他	その他・特記事項	・授業内容及び課題等をClassroomに投稿し、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

幼稚園教諭、保育教諭の経験をもとに、学生たちが実践する模擬保育を通して学ぶ中で、実際の子どもの姿を事例として紹介していく。

授業科目名	EC336U 人間関係			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	谷　昌代						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の「領域　人間関係」の内容の理解を深める演習科目である。 ①保育実践例（エピソード・クラス便り・連絡帳等より）を取り上げ、その中で子どもの心や他者との関係性の読み取りを中心に考察し、安心、安定した人間関係について考える。②遊びやゲームを体験し、自己の心の動きや他者との感じ方の違いに気付き、幼児の仲間集団における人間関係の捉え方を学ぶ。③遊びやゲームによる人間関係の発達支援や保育における個別支援の在り方を学ぶ。④『森の幼稚園・こども園』や地域の子育て支援の場に参加し子どもの姿からを子どもの思いを捉える。また、保護者の思いに触れ、子育て支援の在り方を考える。 ※SDGsターゲット11.7関連科目	①保育実践資料を通して、子ども達が「人間関係」を育んでいく過程で表す様々な姿を読み取り、どのように受け止めるか、行動の背景や意味を考えることができる。 ②遊びやゲームを通して、自己や他者の行動・心を捉えることができる。 ③「領域　人間関係」に関わるねらいを持った指導計画を考え、そのための環境構成を考えることができる。 ④子ども同士・保育者と子ども・保護者と子ども・地域と子ども等、保育実践における関係性のアセスメント及びプランニング、他機関との連携の持ち方を知る。

教授方法	保育資料を用いた事例検討・子育て支援等フィールドにて参加体験、事例検討・遊び、ゲームの立案、作成、体験・講義
履修条件	「保育内容・人間関係指導法」を履修していることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	現代の人間関係に関わる諸問題：履修者による実習を含む、実体験から人間関係に関わるエピソードを紹介し、今後深めていきたい課題について考えていく。	
2	乳児期の人との関わりの発達について：連絡ノートやエピソードから「愛着形成」を中心に考える。	
3	乳児期の人と関わりの発達について：連絡ノートやエピソードから「共同注意」の獲得により乳児の生活がどのように変わるのか学ぶ。	
4	幼児期前期の人との関わりの発達について：3歳未満児のエピソードから「言葉で伝わること」と「言葉以外の方法で伝わること」について考え、相手を「理解する」ことについて深める。	
5	乳幼児のモノ・ヒト・環境との出会い、関わり方を捉える。［子育て支援参加体験（可能であれば）］	
6	コミュニケーションについて考える。	
7	ノンバーバルでルールのある遊びを遊んでみる。自分の心と周りの人の思いを捉えることの難しさを知る。遊びによって他者についての見え方が異なることを知る。［体験］	
8	ノンバーバルでの遊びを通じて「一緒に遊ぶ」ことの意味を考える。	
9	幼児期後期の人との関わりの発達について：エピソードにより「集団参加」の観点から考える。	
10	幼児期の仲間関係の捉え方について：エピソードにより子どもの「関係性」を読み取る。	
11	環境や素材の変化は子ども達の人間関係に影響をもたらすのか考える。［森の自然体験活動等、参加体験（可能であれば）］	
12	発達障害児の理解：彼らの物の見え方、感じ方、他者との関わり方について理解し、「安心して過ごす」ことについて考える。また、保護者・兄弟支援について園として、保育者としてできることを考える。	
13	特別な配慮が必要な子どもを含んだクラスにおける「人間関係づくり」（1）：生活・自由遊びを中心に	
14	特別な配慮が必要な子どもを含んだクラスにおける「人間関係づくり」（2）：設定による活動を中心に	
15	領域「人間関係」：地域社会・小学校とのつながりを考えて、支え合う関係、連携の在り方を探る。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	①授業内で行われる遊びやゲーム、その他体験活動に対して真剣に準備し取り組むこと。②毎回、討議時間を設けるので、積極的に参加する。	小テスト	30	様々な人間関係に関わる出来事の対応を基本事項、発達に基づいて考えることができる。
提出課題	30	①提出状況　②与えられたテーマに沿って学習が進められていること。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①実習を含む資料や自身の体験から、人間関係に関わるエピソードを収集しておくこと。［30分］ ②「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」の「人間関係」項目について読み、用語の確認をしておくこと。［30分］	・授業内の討議の中でコメントする。

受講生に望むこと	・子どもになって遊べるスタイルで授業に参加すること。 ・教材の材料となるものを身近に見つけ収集しておくこと。 ・「子どもの目」に関心を持ち、生活で出会う子どもたちの動きや言葉、視線に関心を寄せること。	教科書・テキスト	・『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館　2008年 ＩＳＢＮ978―4―577―81245―7 ・『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館 2008年ＩＳＢＮ978－4－577－81242－6 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2015年ＩＳＢＮ978－4－577－81373－7
指定図書／参考書等	なし／なし　（必要に応じて資料等配布する）	その他・特記事項	・個人情報を含む資料を用いるため、充分取り扱い、行動に注意すること。（学外での参加体験等含む） ・一部学外体験の可能性があり、日程調整のため学習内容の順序変動があることを理解いただきたい。 ・課題をClassroomに投稿し、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

ヒトと関わりながら生きていることを幼少期からの学生自身のエピソードや実習記録、保育場面のビデオ分析等を中心に捉え話し合う。また、個・集団・仲間などの捉え方を実際の遊びや体験と通して感じる機会となるよう提供している。

授業科目名	EC281U 保育内容・表現指導法			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	田邊　圭子・向出　圭吾・武田　恵美　（代表教員　田邊　圭子）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
幼稚園教育要領に示された幼児教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。身体表現、音楽表現、造形表現に関する理解を深めるとともに、子どもの発達を踏まえた適切な援助や指導法や具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。指導法においては情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することについても学ぶ。	幼稚園教育要領　領域「表現」のねらいと内容について理解する。幼児の表現に関する知識を習得し理解を深めるとともに、子どもの発達を踏まえた適切な援助や指導法や具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

教授方法	対面授業による講義と演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	身体表現について、領域「表現」との関連から理解する。	田邊
2	イメージと動きについて理解する。	田邊
3	身体表現と音について理解する。	田邊
4	身体表現に関する指導案及び模擬保育から、保育現場における身体表現活動について考える。（ビデオ等情報機器及びデジタル教材の活用を含む）	田邊
5	身体表現に関する振り返りと評価を踏まえた学び合い。	田邊
6	音楽表現とは何か、領域「表現」との関連から理解する。劇遊びにおける音楽の効果について考える。伴奏法Ⅰ：子どもの活動に合わせた即興演奏・物語の内容に合わせた演奏について実践を通して考える。	武田
7	指導案の作成について理解する。創作音楽絵本の作品づくり。伴奏法Ⅱ：様々な伴奏形を実践を通して学ぶ①。	武田
8	創作音楽絵本の作品発表。伴奏法Ⅲ：様々な伴奏形を実践を通して学ぶ②。	武田
9	音楽表現に関する模擬保育及び情報機器を活用した振り返りと評価を踏まえた学び合い①。伴奏法Ⅳ：即興演奏について実践を通して学ぶ①。	武田
10	音楽表現に関する模擬保育及び情報機器を活用した振り返りと評価を踏まえた学び合い②。伴奏法Ⅴ：即興演奏について実践を通して学ぶ②。	武田
11	造形表現について。領域「表現」との関連から理解する。	向出
12	造形表現の理解について（1）小麦粉粘土を使用した造形活動を行う。（造形活動においてはデジタルカメラ等の情報機器の活用を含む）	向出
13	造形表現の理解について（2）布を使用した造形活動を行う。（造形活動においては、ビデオ等の情報機器の活用を含む）	向出
14	造形表現の理解について（3）仕掛け絵本を考える造形活動を行う。（造形活動においては、デジタルカメラ等の情報機器の活用を含む）	向出
15	造形表現に関する振り返りと評価を踏まえた学びについて深める。	向出

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	30	授業への取り組み姿勢	授業で出される課題や発表	50	取り組む姿勢と内容
レポート	20	・授業及び作品創作の感想，身体表現に関するレポート（田邊） ・毎授業におけるコミュニケーションシートへの取り組み（武田） ・課題や作品に対しての自分なりの気づき、学びに関するレポート（向出）			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回の授業後に自身で振り返り、不明点を調べてくる[60分] ②次回授業のための課題について準備する[60分]	・授業最終日に課すレポートは2週間以内にコメントを付記し返却する（田邊・向出） ・コメント又は個別指導をする。（武田）

受講生に望むこと	この授業は3名の教員が各5コマ担当するオムニバス科目です。また、演習科目で系統的に授業が展開します。積極的な授業参加を望みます。	教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』、文部科学省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』、厚生労働省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年　ISBN:9784577814499 『Basic and Variations』、木許隆，武田恵美，長井典子編著、圭文社、2022年3月出版予定　ISBN978-4-87446-067-2
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

向出：幼稚園教諭としての勤務経験をもとに、粘土、劇、しかけ絵本等の教材を用いてなど、実際の現場での実践を取り入れて表現を考える。

授業科目名	EC341U 表現			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	田邊　圭子・向出　圭吾・武田　恵美　（代表教員　田邊　圭子）						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
子どもの表現の多様性と、子どもの表現を総合的に捉える視点を学ぶ。講義に加え、具体的な実践事例を通して創造的な子どもの表現活動を体験し、豊かな感性や表現する力を養う。「保育内容・表現指導法」の学びを踏まえ、子どもの表現を支え育む創造性豊かな保育者としての役割と支援に関する学びを深めていく。	①子どもの身体表現を総合的な表現活動として進めていくための方法について実践を通して習得している。 ②子どもの音楽表現を総合的な表現活動として進めていくための方法について実践を通して習得している。 ③子どもの造形表現を総合的な保育活動として進めていくための方法について実践を通して習得している。 ④子どもの表現を保育活動の中で総合的に捉える方法について実践を通して習得している。 ⑤表現を支える保育者の役割と支援について理解を深める。

教授方法	対面授業による講義と演習
履修条件	『保育内容・表現指導法』の単位を修得済みであることが望ましい（単位未修得可）

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション：今後の授業の流れ、受講方法など。 身体表現授業オリエンテーション：領域「表現」における身体表現について、歴史的経緯を踏まえ理解することを通し、保育における身体表現について考える。	田邊
2	身体表現における動きのリズムについて理解する。	田邊
3	身体表現における動きと空間の関係について理解する。	田邊
4	身体表現作品創りを通して、身体の動きと表現の関係について考える。	田邊
5	身体表現に関する学びの振り返りから、保育現場における身体表現活動について考える。（ビデオ等情報機器及びデジタル教材の活用を含む）	田邊
6	音楽表現とは何か、領域「表現」との関連から理解を深める。子どもの歌唱表現と声域について理解する。伴奏法Ⅰ：基礎的な音楽理論とコード伴奏について理解を深める。	武田
7	身の回りの「音」について考える(情報機器及びデジタル教材の活用を含む）。伴奏法Ⅱ：基礎的なピアノ演奏技術について理解を深め、子どものうたの初見方法を理解する。	武田
8	「表現」を生む保育環境について考える。子どものうた・楽器あそびにおける、表現について考える。伴奏法Ⅲ：様々なリズムについて理解を深め、身体の動きと音楽表現について考える。	武田
9	クリエイティブ音楽ムーブメントについて考える。伴奏法Ⅳ：「ピアノで表現する」ということについて考える。	武田
10	伴奏法Ⅴ：子どものうたの弾き歌い発表。	武田
11	保育における造形表現の意味を考え、遊びと造形表現について理解する。	向出
12	子どもの造形表現の理解（1）：子どもの造形活動の発達とその特徴について考える。	向出
13	子どもの造形表現の理解（2）：子どもの造形作品を取り上げ、子どもの造形表現を理解するとともに保育者の役割についても考える。（ビデオ等の情報機器の活用及びデジタル教材の活用を含む）	向出
14	子どもの造形表現の理解（3）：子どもの絵を描く活動の特徴を理解する。（劇遊びの様子をビデオカメラなどの情報機器の活用を含む）	向出
15	造形表現の学びの振り返りから、保育現場における造形表現を育てる環境について考える。	向出

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	30	授業への取り組み姿勢	授業で出される課題や発表	50	取り組み姿勢と内容
レポート割合	20	・作品創作の感想、身体表現に関するレポート（田邊） ・毎授業におけるコミュニケーションシートへの取り組み（武田） ・課題や作品に対しての自分なりの気づき、学びに関するレポート（向出）			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回の授業後に、自身で振り返り、不明点を調べてくる。[30分] ②次回授業のための課題について準備する。[30分]	・授業最終日に課すレポートは2週間以内にコメントを付記し返却する（田邊、向出） ・コメント又は個別指導をする。（武田）

受講生に望むこと	この授業は３名の教員が５コマずつ担当するオムニバス科目です。演習科目で系統的に授業が展開します。積極的な授業参加を望みます。	教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』、文部科学省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』、厚生労働省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館 2018年　ISBN:9784577814499 『子どもの音楽表現』、石井玲子、保育出版、2018年、ISBN978-4-938795-78-8 『Basic and Variations』、木許隆，武田恵美，長井典子編著、主文社、2022年3月出版予定 ISBN978-4-87446-067-2
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	使用施設の関係により、人数制限を設ける場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

向出：幼稚園教諭としての勤務経験をもとに、影絵や切り絵等の教材を用いるなど、実際の現場での実践を取り入れて表現について考える。

授業科目名	EC345U 幼児理解			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	向出　圭吾・齊藤　英俊・谷　昌代　（代表教員　向出　圭吾）						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
幼児一人ひとりは異なった発達の姿を示す。そのため、幼児期における保育には、一人ひとりの幼児に対する理解が必要である。そこで保育者は、幼児一人ひとりの発達の特性を理解し、幼児が抱える発達の課題に応じた援助を考えることが求められる。 本授業では、これから教育・保育の場に向かうための、子ども一人ひとりの内面を理解する意義について、実践的及び理論的な学びを目指すとともに幼児の保育・教育相談（カウンセリングに関する基礎的事項を含む）の理論及び方法について学ぶ。 課題については、担当教員からそれぞれ提示するので、指定日までにその都度指示された方法で提出する。	①幼児理解の視点を理解している。 ②子どもの姿の事例（ビデオを含む）から客観的に読み取ったり、実際に子どもと関わることで、幼児の動線や心が動くポイントを捉えることができる。 ③幼児理解の方法（アセスメント）を捉えることができる。 ④幼児の保育・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事項を含む）を身に付ける。 ⑤保育を評価することを理解している。

教授方法	講義・演習
履修条件	教育実践研究Ｂを履修していることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	幼児理解の視点について理解する。環境を通して行う教育、発達や学びの連続性の確保、保育を評価するとはどういうことかを捉え、その意義について考える。	向出
2	生活・遊びの実践を通しての幼児理解①：子どもの生活・遊びの姿の事例から子どもの内面を個々に読み取る。	向出
3	生活・遊びの実践を通しての幼児理解②：子どもの生活・遊びの姿の事例から子どもの内面をいくつかのパターンを考えて読み取り分析してみる。	向出
4	生活・遊びの実践を通しての幼児理解③：子どもの生活・遊びの姿の事例から子どもの内面を読み取るとともに、遊びの動線や心が動くポイントについて考える。	向出
5	自身の保育実践のエピソードより考察する。エピソードから読み取れる子どもたちの姿は『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』にどのように繋がるのか考える。	谷
6	保育、教育等の実践場面のエピソードを基に考える。子どもたちとの関わりから保育者、教育者、支援者として、自身に育ってほしい、資質・能力について考える。	谷
7	子どもたちを取り巻く環境の諸問題を理解し、子育てにおける保護者の相談事を知る。親子支援の在り方と今日的課題について学ぶ。	谷
8	子ども主体の保育実践に向けて。安全・危機管理・衛生管理を徹底して守られた環境の中で、子どもたちは本当に主体的に自己発揮できるのだろうか。保育者の思いと子どもの思いにズレがあることに気付く。子どもたちの成育歴を手掛かりに子どもを総合的に理解する。	谷
9	保育・教育相談の視点から幼児期の心理的特徴や課題、支援のあり方について学ぶ。	齊藤・谷
10	幼児期の発達支援におけるカウンセリングの理論や方法の活用について学ぶ。	齊藤
11	子ども理解における保育・教育相談の意義や方法について学ぶ。	齊藤
12	観察法・評定法・面接法・事例研究法など子どもを理解する上での研究法について、事例などを通して実際的に学ぶ。	齊藤
13	幼児理解の方法①：これまでの自分の実習記録のエピソードから生活・遊びのエピソードを取り上げ、改めて見直すことで、子どもの内面や心が動くポイント、子どもの動線について分析することで幼児理解を深め合う。	向出
14	幼児理解の方法②：これまでの自分の実習記録のエピソードから個と集団のエピソードを取り上げ、改めて見直し、子どもの内面や心が動くポイント、子どもの動線について分析することで幼児理解を深め合う。	向出
15	幼児理解の方法③：実際に子どもたちと関わる実践事例（ビデオを含む）を通して、集団としての子どもの内面を読み取り分析してみる。 指導要録や保育の評価及び保幼小の連携について理解する。	向出

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業 参加態度	30	授業への積極的な参加、意欲的な取り組みができているか。	課題 レポート	70	授業内に提示される課題レポートの内容が適切か。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①テキスト等を事前に読んで、課題レポートの作成の参考にする。[50分] ②実習ファイル等でこれまでのエピソードを検証し、改めて自分なりの読み取りを見直しておく。[60分] ③幼児の保育・教育相談（カウンセリングに関する基礎的事項を含む）の理論及び方法について学びの振り返りを行う。[50分]	提出された課題レポートのやり取りを通して、内容についてその都度振り返りを行い、自分の学びとしていく。

受講生に望むこと	現場で働くという自覚と意欲をもって授業に臨むこと。	教科書・テキスト	『幼児理解に基づいた評価』文部科学省　チャイルド本社　2019年 ISBN:4805402830 『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年　ISBN:9784577814499
指定図書／参考書等	なし／ 『子ども理解と援助』高嶋景子・砂上史子・森上史朗編　ミネルヴァ書房　2011年　ISBN:9784623059621 『子ども理解と保育・教育相談』小田豊・秋田喜代美編　みらい　2008年　ISBN:978-4860151430	その他・特記事項	課題がある場合には、Google Classroomを通じて提示することがある。

実務経験を活かした授業の概要

向出：これまでの実習を踏まえて、遊びの実践や他学年への指導を踏まえて幼児を理解する力をつける。
齊藤：経験をもとに、事例などをテーマにしたワークやディスカッションを通して子ども理解における心理的視点について説明している。
谷：子どもを様々な側面から理解するということを事例を通して学ぶ。実際の子どもの関わり場面（実際の保育現場ビデオ）から、学生自身が分析し、子どもを理解することの意味や難しさを知る。

授業科目名	EC350U 子どもの理解と援助			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	ポーター　倫子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
子ども理解は、保育の基本となるものである。本講義では、子ども理解の意義を理解し、それに基づいてどのように発達や学びを支えるのか、そのための環境構成や援助方法について修得できるよう進めていく。また子ども理解の基礎的な方法（観察、記録、ドキュメンテーション）について学ぶ。さらに、子ども理解を基本とし、一人一人の特性や発達課題に応じた援助、配慮を要する子どもへの援助について学ぶ。 ※SDGsターゲット4.a関連科目	①子ども理解を土台として援助を展開する保育者の基本的姿勢とその意義を理解する。 ②観察や記録、ドキュメンテーションなどの子どもの理解の方法を具体的に理解する。 ③子どもの個性や発達特性に応じた援助、特別な配慮を要する子どもへの援助について学ぶ。

教授方法	講義・グループワーク
履修条件	保育士資格取得希望者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、授業の概要説明、保育における子ども理解の意義を知る	
2	子どもに対する共感的理解について学ぶ	
3	子どもを理解する視点について学ぶ　①子どもの集団での育ちを支える	
4	子どもを理解する視点について学ぶ　②子どもの葛藤やつまづきへの援助	
5	子どもを理解する方法を学ぶ　①観察、記録	
6	子どもを理解する方法を学ぶ　②ドキュメンテーション	
7	子ども理解に基づき発達援助(①子どもの個性、発達課題に応じた援助、②配慮を要する子どもへの援助)	
8	全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
平常点（学習意欲、履修態度、予習復習状況、等）	30	授業の参加態度、リフレクションペーパー、など	ポートフォリオ	40	ルーブリックに基づいて評価。ルーブリックは授業の1，2週目に提示する。
期末レポート	30	ルーブリックに基づいて評価。ルーブリックは授業期間中に提示する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前に教科書の指定部分を読み、大切なところや気になったところをメモする。[30分] ②授業中に仕上げることができなかったプリントやリフレクションペーパーは、数日以内に仕上げておく。[30分] 授業前後のメモ、プリントやリフレクションペーパーは、ファイルに順番に保存し、最後にポートフォリオとして提出する。	全ての提出物は、締め切りから1-2週間以内に採点・コメントを付けて返却する。

受講生に望むこと	教室内での私語、スマートフォンの使用などは、避けてください。やむを得ない事情で欠席する場合は、他の受講生に授業内容を聞いたり、ノートを借りるなどして、対応してください。	教科書・テキスト	『よくわかる保育士エクササイズ８　子どもの理解と援助　演習ブック』　的本峰雄　監　2021 ミネルヴァ書房　ISBN： 9784623090679
指定図書／参考書等	なし(授業内で適宜紹介する)	その他・特記事項	受講生の興味・理解度に沿って内容を変更する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EN150U 保育原理			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	虫明　淑子						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
３法令改訂（定）以降、幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園のすべての園において質の高い保育を行うことが求めるようになった。ところで、保育の「質」とは何だろう。本講義は、保育の「質」を探求するための最初のステップである。まず、保育とは何かについて考えるところからスタートし、保育内容、保育の方法、保育計画、子ども理解、子ども主体の保育等の保育における基本的な考え方についての理解を進める。また、子育て支援、特別支援教育、保育の歴史、法律・制度等の様々な視点を加えて保育を総合的に捉えることによって、よりよい保育のあり方について考えられるようにしていく。 ※SDGsターゲット4.2関連科目	①様々な視点から保育を捉えることから、保育における基本的な考え方について理解する。 ②今の保育における現状やその課題を把握し、よりよい保育のあり方について自分なりに考えられるようになる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：「保育」とは何か	
2	「子ども理解」についての本質的意味を知り、それらが保育の根幹となることについて認識する。	
3	保育の誕生とその変遷について理解する。	
4	保育の内容：５領域までの変遷と３法令に提示された「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を考える。	
5	保育の方法：望ましい保育の方法について理解する。	
6	保育の方法と評価と保育の「質」の向上について考える。	
7	健康・安全と保育：子どもの命を守ることへの重責を担う役割について考える。	
8	保育と子育て支援：子育て支援とは何か、子育て支援が必要とされる背景、保育の場で行われる子育て支援について理解する。	
9	保育の歴史に学ぶ：海外の保育思想と日本における遊びを中心とする保育の成立とその展開について考える。	
10	保育者の専門性と資質向上：保育の専門性の特質と省察的実践者としてのあり方について考える。	
11	学校や地域との連携のあり方について考える。	
12	保育に関する法律と制度について理解する。	
13	多様な子どもへの理解と保育：特別な配慮を要する子ども、外国籍や貧困家庭の子どもの理解等について理解する。	
14	これからの保育の課題と展望：保育のよりよいあり方や改善策について考える。	
15	授業内試験：これまでの振り返り	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	出欠・授業態度・積極的姿勢等	課題	40	提出状況・理解度・内容・取り組み方等
授業内試験	40	授業内容の理解度			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業前に教科書の範囲を読み、事前準備をする〔60分〕 授業後の復習〔30分〕	授業内試験に出題した内容は解答した後に解説を加えて定着を図る。

受講生に望むこと	積極的姿勢	教科書・テキスト	汐見稔幸・無藤隆・大豆生田啓友『アクティベート保育学①保育原理』ミネルヴァ書房，2019年 ISBN:9784623084333
指定図書／参考書等	『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館　2018年　ISBN：9784577814475 『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館 2018年　ISBN：9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館 2018年　ISBN：9784577814499 ／授業内で適宜紹介する	その他・特記事項	受講者の理解度に合わせ、内容や進度を変更して行う場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

幼稚園教諭としての保育経験、カリキュラム・マネジメント者及び保育指導助言者としての経験、園や地域における子育て支援活動や発達障害のある子ども及び保護者に対する支援活動の経験、医療施設におけるLD児の学習支援者としての経験等によって得られた様々な事例を提示する。

授業科目名	EN251U 子ども家庭福祉論Ⅰ			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	松本　理沙						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
子ども家庭福祉の変遷、歴史、児童憲章、児童の権利宣言、子どもの権利条約などの基本理念を学ぶ。児童家庭の生活実態とそれを取り巻く社会情勢を理解する。また児童福祉法の理念を理解し、子どもにとって最善の利益とは何か、子どもの権利保障の体系、子ども家庭福祉制度、親権と子どもの権利擁護とは何かを学び、児童福祉施設の基本的機能、子ども家庭福祉の現代的課題を明確にする。少子高齢社会における、社会環境・家族構造の大きな変化をふまえ、児童・家庭分野にかかわる社会問題を考察する目標:家族・家庭とは何か、家族・家庭の定義と社会制度としての家族・家庭における子ども観を把握する。少子化の進行、子育て環境を巡る現状、家族の変容と社会的要因を考察し家族・家庭機能の変化、子ども家庭福祉のニーズを理解する。	①現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解している。 ②子ども家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解している。 ③子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解している。 ④子ども家庭福祉の現状と課題について理解している。 ⑤子ども家庭福祉の動向と展望について理解している。

教授方法	講義を中心に展開するが、提示課題によるグループディスカッションも含む。
履修条件	「社会福祉」を履修済であること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	子ども家庭福祉の理念と概念：子ども家庭福祉の学び方、児童という対象の特徴、「児童の最善の利益」と「子ども家庭福祉」ほか	
2	子ども家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向：子ども家庭福祉の歴史的展開、支援対象の多様化、社会的支援　ほか	
3	子どもの人権擁護：子どもの人権擁護の歴史、児童の権利に関する条約、子どもの人権擁護と現代社会における課題　ほか	
4	子ども家庭福祉の制度と実施体制：子ども家庭福祉の法制度、法制定・改正の流れ、子ども家庭福祉における実施体制と専門職　ほか	
5	子ども家庭福祉の施設と専門職：児童福祉施設の種類、子ども家庭福祉の専門職、措置制度から契約制度への移り変わり　ほか	
6	少子化と地域子育て支援：少子高齢社会の到来、子ども・子育て支援制度の概要、子育て支援の拡充に向けて　ほか	
7	母子保健と子どもの健全育成：母子保健の意義、児童健全育成の意義、母子保健サービスの動向　ほか	
8	多様な保育ニーズへの対応：多様な保育ニーズに対応するためのしくみ、教育・保育施設、障害児支援の現状　ほか	
9	子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止：子ども虐待の定義と概要、子ども虐待防止、子ども虐待・ＤＶ防止のために　ほか	
10	貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応：子育て世帯の貧困、子どもの貧困対策、包括的な社会を生み出す要としての保育所　ほか	
11	社会的養護：社会的養護とは、これからの社会的養護、新生児期から社会的養護を必要とする赤ちゃんのために　ほか	
12	障害のある子どもへの対応：障害児の福祉、障害児支援の背景、障害児支援のチームアプローチモデル　ほか	
13	少年非行等への対応：少年非行の状況、非行相談と施設入所との関係、感化院の誕生　ほか	
14	次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進：次世代育成支援としての子ども家庭福祉、子ども・子育て支援制度の課題、認定こども園と「幼保連携」という考え方　ほか	
15	地域における連携・協働とネットワーク：「連携・協働」はなぜ必要か、保育の実践場面における「連携・協働」、子ども虐待防止にかかわる法制度の動向から読み解く「連携・協働」の重要性　ほか	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	60	講義内容の全体像がまとめられている。感想だけに終わらず、意見が述べられている。自らの課題が設定されている。	リアクションペーパー	40	毎回の講義内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらず、意見が述べられている。自らの課題が設定されている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
子ども家庭福祉に関する文献やメディア報道などを調べ、その要因・課題について意見をまとめる。［60分］	必要に応じて、レポートやリアクションペーパーに対して教員からコメントする。

受講生に望むこと	本科目は、子ども家庭福祉の基本となる内容で、保育・教育において根幹をなす。同時期（2年前期）に受講する「保育実習指導Ⅰ（施設）」の内容とも関連づけて理解する必要がある。	教科書・テキスト	『子ども家庭福祉　子ども・家族・社会をどうとらえるか』　垣内国光・岩田美香・板倉香子・新藤こずえ編　生活書院　2020年　ISBN：978-4-86500-121-1　C0036
指定図書／参考書等	なし／『MINERVAはじめて学ぶ子どもの福祉①　子ども家庭福祉』伊藤嘉余子・澁谷昌史編　ミネルヴァ書房　2017年　ISBN：9784623079261	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EN301U 子ども家庭福祉論Ⅱ			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	松本　理沙						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
近年、ヤングケアラーが社会問題として取り上げられている。ヤングケアラーとは、「家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている、18歳未満の子ども」と定義される。ある日本の調査によると、高校生の約20人に1人がヤングケアラーに該当するとされている。本講義では、ヤングケアラー支援の現状と課題について、特に事例検討を通して理解を深めていく。	①ヤングケアラー支援の現状と課題について理解する。 ②事例検討を通して、ヤングケアラーの子どもが置かれた状況を理解する。 ③当事者及び支援者による支援のあり方について理解する。

教授方法	配付資料を用いる。演習の要素を取り入れた講義となる。
履修条件	「子ども家庭福祉論Ⅰ」を履修済であること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	子ども家庭福祉におけるヤングケアラーの位置づけ、「ケア」の捉え方	
2	日本及び世界におけるヤングケアラー支援の現状と課題	
3	ヤングケアラーに関する事例検討①難病の親をケアする子ども	
4	ヤングケアラーに関する事例検討②統合失調症の親をケアする子ども	
5	ヤングケアラーに関する事例検討③うつの親をケアする子ども	
6	ヤングケアラーに関する事例検討④アルコール依存症の親をケアする子ども	
7	ヤングケアラーに関する事例検討⑤若年性認知症の親をケアする子ども	
8	ヤングケアラーに関する事例検討⑥聞こえない親をケアする聞こえる子ども	
9	ヤングケアラーに関する事例検討⑦外国籍の親をケアする子ども	
10	ヤングケアラーに関する事例検討⑧認知症の祖父母をケアする子ども	
11	ヤングケアラーに関する事例検討⑨障害のある兄弟姉妹をケアする子ども（きょうだい児・きょうだい）（1）	
12	ヤングケアラーに関する事例検討⑩障害のある兄弟姉妹をケアする子ども（きょうだい児・きょうだい）（2）	
13	当事者による支援のあり方について考える①セルフヘルプ・グループ、ピアサポート	
14	当事者による支援のあり方について考える②当事者研究	
15	ヤングケアラー支援の実践・啓発のあり方について考える	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
最終レポート	60	講義内容の全体像がまとめられている。感想だけに終わらず、意見が述べられている。自らの課題が設定されている。	リアクションペーパー	40	毎回の講義内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらず、意見が述べられている。自らの課題が設定されている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の振り返りを行う［30分］ ②ヤングケアラーに関するメディア報道等があれば都度確認し、その内容に対する自分の意見をまとめる［30分］	最終レポートやリアクションペーパーに対して、可能な限りコメントする。

受講生に望むこと	①ヤングケアラー支援の現状と課題について理解する。 ②事例検討を通して、ヤングケアラーの子どもが置かれた状況を理解する。 ③当事者及び支援者による支援のあり方について理解する。	教科書・テキスト	『子ども・若者ケアラーの声からはじまる　ヤングケアラー支援の課題』斎藤真緒・濱島淑恵・松本理沙・京都市ユースサービス協会編　クリエイツかもがわ　2022年 ISBN:978-4-86342-325-1　C0036
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EN155U 社会福祉			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	岡田　文貴						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
保育所に限らず、児童養護施設や児童相談所、あるいは障害児施設などの児童福祉施設など、保育士の勤務先は多様に存在します。また児童福祉制度は、社会福祉制度の１つとして位置づけられています。保育士は、障害福祉領域や公的扶助の領域との連携が必要となる可能性もあります。幅広い知識は、保育士としての仕事を質的に向上させます。この科目では、保育者に必要な社会福祉の基礎知識を学習します。	①保育の知識が、保育所以外の児童福祉分野の仕事に役立てることができることを理解します。 ②子育ての悩みや深刻な事情などで、児童に対し必要な保護及び援助が確保されていない場合、社会福祉制度を活用することが有効であることを理解します。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	社会福祉の理念と歴史的変遷：社会福祉とは何か、そしてそれがどのような理念で実践され、人々の生活や生命への介入を果たしているかを学びます。	
2	子ども家庭支援と社会福祉：家庭を支援していくことの重要性について学び、実際の仕事を通して子ども家庭支援について考えます。	
3	社会福祉の制度と法体系：日本の社会福祉法制度の体系を整理し、制度・法律の種類について基礎知識を身につけ、保育にかかわるうえで知っておくべき主要な社会福祉制度・法律のポイントを理解します。	
4	社会福祉行政と実施機関、社会福祉施設等：福祉事務所や児童相談所などの相談機関、社会福祉の財政、社会福祉施設など、行政機関がどのような制度を整備しているのかを理解します。	
5	社会福祉の専門職：社会福祉の資格の定義や役割・機能等を、根拠となる法律から理解します。そして、地域における多職種および地域住民との連携・協働の動向について理解します。	
6	社会保障制度及び関連制度の概要：誰を「対象」とし、どのような「分野」があり、いかなる「方法」で私たちの暮らしを守っているのか。そして「子育て世帯」がなぜ貧困に陥ってしまうのか、その背景を考えます。	
7	相談援助の理論：保育士が子どもの家族とかかわる際に用いる相談援助の理論について、①その成り立ち　②理論の発展過程 ③現場実践での留意点、そして人の行動や取り巻く環境の多様性について理解します。	
8	相談援助の意義と機能：専門的な意味での「相談援助」とは何か、その意義と機能から理解を深めます。	
9	相談援助の対象と家庭：①子ども、保護者、地域といった対象に応じた関わり。②相談援助の課程について段階を追って解説。 ③援助者としての態度、そして援助者として意識していきたい視点について理解します。	
10	相談援助の方法と技術：①相談援助の視点、②人と環境との接点、環境や社会資源へのはたらきかけ、③保育現場において保育者が相談援助の方法と技術を用いた支援を行うことの強みなどについて考えます。	
11	社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ：利用者保護にかかわる制度に関して、その背景や法的根拠等を学ぶとともに、実際のしくみについて学びます。	
12	少子高齢化社会における子育て支援：少子化の現状を確認したうえで、これまでの少子化対策の展開と少子化対策における保育所の役割について学びます。	
13	共生社会の実現と障害者施策：①障害のとらえ方と障害者の現状、②共生社会の実現に向けた障害者施策、③「インクルージョン」とそのなかで保育士に期待される役割について学びます。	
14	在宅福祉・地域福祉の推進：①地域福祉という考え方やその実践方法を学ぶ、②子ども、保護者や地域住民、隣接諸領域の専門職に対する保育士の関わり方を理解します。	
15	諸外国の社会福祉の動向：福祉国家としての先進諸国がどのような現状にあるのかを学びます。そのために、福祉国家とは何かについても理解します。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
ワークシートの取り組み状況	60	ワークシート未提出の場合－８点。遅刻・早退は－３点。提出物の遅れは減点。欠席してもワークシートは提出してください。	レポート	40	レポートの内容が、テキストや講義資料の内容を理解した上で作成されているかどうかで評価します。５回実施します。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
●２回目以降の授業に関しては、前もってワークシート及び資料を渡します。渡した資料には図表が縮小し貼り付けられています。出典は示してありますので、厚生労働省や石川県等のホームページで確認してください。[60分] ●１回の授業で１つの講を終了する予定です。テキストとワークシートに取り組み、資料を読み、自己学習に取り組んでください。[60分]	①ワークシート未提出は－８点です。遅刻や早退は－３点。ワークシートの未提出や遅延は減点します。欠席してもワークシートは提出してください。 ②レポートは５回実施します。１回のレポートを８点で評価します。評価のポイントに留意し作成してください。 ③レポートのフィードバックは、授業においてよく書けたレポートを参考にして解説します。

受講生に望むこと	①授業の前にテキストを読み、ワークシートに取り組み、前もって渡す資料を読んでください。 ②理解できない社会福祉の専門用語に関しては、社会福祉用語辞典等で理解するように努めてください。	教科書・テキスト	『新基本保育シリーズ④　社会福祉』松原康雄　圷　洋一　金子　充　編集　中央法規　2019年 ISBN：978－4－8058－5784－７
指定図書／参考書等	●新・基本保育シリーズ　別冊2020、別冊2021、別冊2022。 この他は、授業や資料の中で提示します。	その他・特記事項	授業中は、他者と会話などせず、静かに座っていてください。

実務経験を活かした授業の概要

社会福祉事業における勤務経験を活かし、社会福祉従事者に必要な価値観・態度・知識・情報・技術などについて説明し、これらの知識は保育分野でも有効であることを伝えている。

授業科目名	EN306U 家庭支援の心理学			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤　英俊						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
生涯発達に関する知識を習得し、人の発達を捉える視点を身につける。また、発達初期の経験の重要性、発達の各時期における家族・家庭の意義や機能について理解を深め、子育て家庭の社会的状況やその課題、子どもの精神保健の現状とその課題について学ぶ。	①生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性や発達課題等について理解する。 ②子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 ③家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもを包括的に捉える視点を習得する。 ④子どもの精神保健とその課題について理解する。

教授方法	講義を中心にワークやディスカッションなどを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	生涯発達①：生涯発達とは何かについて理解する。	
2	生涯発達②：乳児期から学童期前期の発達について理解する。	
3	生涯発達③：学童後期から青年期の発達の特徴について理解する。	
4	生涯発達④：成人期・老年期における発達の特徴を理解する。	
5	子育て①：子育てを取り巻く社会的状況を理解する。	
6	子育て②：子育ての経験と親としての育ちについて理解する。	
7	家族・家庭①：家族・家庭の意義とその機能について、家族システムや家族の発達から理解する。	
8	家族・家庭②：家族の問題について家族システムから理解し、支援の方法を考える。	
9	家族・家庭③：多様な家庭形態について把握し、援助の方法を考える。	
10	家族・家庭④：特別な配慮を必要とする家庭への支援を考える①：虐待などにおけるトラウマケアについて。	
11	家族・家庭⑤：特別な配慮を必要とする家庭への支援を考える②：特別な配慮を必要とする家庭への支援を考える②：保育者・支援者としての傾聴について。	
12	家族・家庭⑥：特別な配慮を必要とする家庭への支援を考える③：配慮・支援をする際に必要なことについて。	
13	子どもの精神保健①：子どもの心の健康への支援について、精神分析の視点から考える。	
14	子どもの精神保健②：子どもの心の健康への支援について、認知行動療法の視点から考える。	
15	子どもの精神保健③：子どもの心の健康への支援について、ストレスマネジメントの視点から考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
各回の授業レポート	30	講義内容に対する感想や意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。	課題レポート	30	授業内容をもとに、課題テーマについて自らの意見や考察が行われているかどうかを評価する。
最終レポート	40	「家庭支援の心理学」の基礎知識が獲得されている。 「家庭支援の心理学」のテーマについて論理的考察がされている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の該当する箇所を読んでおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、家族心理学など家庭支援の心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分]	①各回の授業レポートについては、次回の授業時に内容に関する振り返りを行います。 ②課題レポートや最終レポートについては、希望者に授業内や次学期に内容に関してコメントなど対応します。

受講生に望むこと	授業の内容が自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的な受講態度を望みます。	教科書・テキスト	青木久代編(2019)．子ども家庭支援の心理学　みらい　ISBN:978-4860154820
指定図書／参考書等	なし/本郷一夫・神谷哲司編（2019）．子ども家庭支援の心理学　建帛社　ISBN:978-4767950921、沼山博・三浦主博編(2020)．子どもとかかわる人のための心理学　萌文書林　ISBN:978-4893473691、中釜洋子・ 野末武義・布柴靖枝 ・ 無藤清子編(2019)．家族心理学　第2版　有斐閣　ISBN:978-4641184466、中釜洋子（2001）．いま家族援助が求められるとき　垣内出版　ISBN:978-4773401431、団士郎(2013)．対人援助職のための家族理解入門　中央法規出版　ISBN:978-4805838600、柏木恵子・平木典子（2009）．家族の心はいま　東京大学出版会　ISBN:978-4130111249	その他・特記事項	1回程度ゲスト講師をお招きする場合がある。 Google Classroomを通じて課題などを提示する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

心理実践の経験をもとに、事例などをテーマにしたワークやディスカッションを通して家族の理解や家族支援について心理的視点から説明している。

授業科目名	EN255U 社会的養護			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	側垣　二也						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
現代は、家庭基盤が脆弱化し児童虐待問題が象徴するように多様で複雑な児童と家族の問題が生じている。そのため社会全体の養育支援体制の構築、児童養護施設や里親のような代替養育支援が欠かせないものとなっている。そのような子どもと家庭を援助し支援する社会の枠組みを社会的養護と呼ぶ。 そこで本講義では、保育所、こども園だけでなく児童養護施設等の生活型施設において職種として必要とされる保育士に求められる知識と資質を得るために、社会的養護の歴史と意義、子どもの権利と子ども理解、今日の児童と家庭の現状と要養護ニーズ、そして保育士の倫理などついて学び理解する。	1　現代社会における社会的養護の意義と歴史 2　子どもの権利の理解とその支援のあり方 3　現代社会の子どもと家庭で起きる問題 4　社会的養護の制度と体系 5　施設養護と家庭養護の役割と目的と実際 6　社会的養護(制度) の課題と展望　　……以上を学ぶ

教授方法	パワーポイントなど視聴覚教材を用い、講義内容がわかりやすく伝わるように工夫をする。課題レポートの提出を求め、主体的な学びとなるように進め、学生の疑問に適切に応える。
履修条件	特になし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	現代における社会的養護の意義　1　ーなぜ保育士は学ぶのか	
2	現代における社会的養護の意義　2　ー理念と概念	
3	社会的養護の歴史　ーそのはじまりと発展そして先駆者	
4	子どもの人権と社会的養護　ー子どもの権利保障と支援の視点	
5	社会的養護の基本原則と保育士の倫理	
6	社会的養護の実施体系　1　ー　制度と法体系	
7	社会的養護の実施体系　2　ー　社会的、公的仕組み	
8	社会的養護の実施体系　3　ー　要養護の現状と対象となる子どもと家庭	
9	社会的養護の実施体系　4　ー　家庭養護と施設養護の役割	
10	社会的養護の実施体系　5　ー　専門職	
11	社会的養護の内容　ー　子ども個別理解と支援方法	
12	社会的養護支援の実際　1　ー　ビデオ視聴「家族の再生」視聴	
13	社会的養護支援の実際　2　ー　施設養護の支援のあり方	
14	社会的養護支援の実際　3　ー　家庭養護の支援	
15	社会的養護の課題とビジョン	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業姿勢	60	熱心に臨み、講義に対する質問、発言的確性。	レポート提出	40	提出期限が守れたか。課題の考察が適切であるか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
社会的養護は社会の子どもと家庭の出来事と密接に関連している。したがって、マスコミなどの情報に関心を示し、現代社会の子どもと家庭の問題は何か、そのニーズはどこにあるかに関心を持ち、情報収集を行う。現代の子どもと家庭の問題を課題にしたレポート提出も授業の過程で求める。	ビデオ視聴の視聴レポート、その他課題レポート提出を求める。その課題についてまた学生からの質問等を解説し回答する。

受講生に望むこと	社会的養護は社会の子どもと家庭の出来事と密接に関連している。したがって、マスコミなどの情報に関心を示し、現代社会の子どもと家庭の問題は何か、その支援ニーズはどこにあるかに関心を持ち、情報収集を行いましょう。そのことが授業内容の理解につながります。努力しましょう。	教科書・テキスト	「最新保育士養成講座第5巻『社会的養護と障害児保育』」全国社会福祉協議会・最新保育士養成講座総括編纂員会編　2019　ISBM:978-4-7935-4
指定図書／参考書等	参考図書　「社会的養護シリーズ2『施設養護とその内容』」庄司順一・鈴木力・宮嶋清　福村出版　2011　ISBM:978-4-571-42511-0	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

児童養護施設における自身の勤務経験を踏まえつつ、現代社会にある児童と家庭の問題、課題について講義を行っている。

授業科目名	EN260U 社会的養護内容			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	松本　理沙						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
社会的養護について理解を深めることを主な内容とする。家庭に代わる養育の場としての児童養護施設、乳児院、児童自立支援施設、児童心理治療施設、母子生活支援施設等における具体的な養護内容を理解する。こうした施設入所に至った要因としての児童虐待や家族問題の背景に焦点をあて、現代の社会的養護の課題を明確化するとともに、子どもの権利擁護という視点から「家族再統合」（家庭復帰や家族関係の再構築）のあり方等について理解する。	①社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について具体的に理解している。 ②施設養護及び他の社会的養護の実際について理解している。 ③個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援方法、自立支援等の内容について具体的に理解している。 ④社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法論と及び技術について理解している。 ⑤社会的養護を通して家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉、司法福祉などについて理解している。

教授方法	ケースを読み込み、そのケースについて、提示課題によるグループディスカッションを中心とした演習とする。
履修条件	「子ども家庭福祉論Ⅰ」及び「社会的養護」を履修済であること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	子どもの権利擁護：子どもの権利擁護の基本、子どもの権利擁護の質の向上を図るために　ほか	
2	社会的養護における子どもの理解：子どもの理解を深めていくためには、子どもの理解の仕方と子どもの背景　ほか	
3	社会的養護の内容①日常生活支援：日常生活支援とは、日常生活の特徴　ほか	
4	社会的養護の内容②心理的支援：心理的支援とは、社会的養護における養育者支援の基本　ほか	
5	社会的養護の内容③自立支援：社会的養護の子どもの退所後の進路の状況、自立支援に必要な視点　ほか	
6	施設養護の生活特性および実際①乳児院等：施設養護の生活特性と対象者、乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設における今後の課題　ほか	
7	施設養護の生活特性および実際②障害児施設等：児童心理治療施設、新たな視点　ほか	
8	家庭養護の生活特性および実際：家庭養護とは、養子縁組　ほか	
9	アセスメントと個別支援計画の作成：アセスメントと個別支援計画、自立についての理解を深める　ほか	
10	記録および自己評価：記録の意義と役割、利用者の個人情報の保護・守秘義務と記録　ほか	
11	社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践：社会的養護における保育の専門性、実践力をつける学びの方法　ほか	
12	社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践：相談援助（ソーシャルワーク）の定義、相手の立場や感情に寄り添うこと　ほか	
13	社会的養護におけるソーシャルワーク（知識・技術とその応用）：「ソーシャルワーク」における支援、エコマップの概要　ほか	
14	社会的養護における家庭支援：「家庭を支援する」とはどういうことか　ほか	
15	今後の社会的養護の課題と展望：社会的養護の大転換の背景、社会的養護の展望　ほか	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	60	講義内容がまとめられている。感想だけに終わらず、意見が述べられている。自らの課題が設定されている。	リアクションペーパー	40	毎回の演習内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらず、意見が述べられている。自らの課題が設定されている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「子ども家庭福祉論Ⅰ」「社会的養護」で学んだ内容を整理し、授業に備える。 ②授業内容の振り返りを行う。	必要に応じて、リアクションペーパーやレポートにコメントする。

受講生に望むこと	現代の家族問題から社会的養護の抱える問題を自ら発見する姿勢を望む。積極的なディスカッションへの参加と能動的な学びを期待する。	教科書・テキスト	『MINERVAはじめて学ぶ子どもの福祉⑥　社会的養護内容』伊藤嘉余子・小池由佳編　ミネルヴァ書房　2017年　ISBN：9784623079551
指定図書／参考書等	なし／『社会的養護Ⅱ　新・基本保育シリーズ⑱』公益財団法人児童育成協会監修　中央法規　2019年　ISBN：978-4-8058-5798-4	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EN266U 子どもの保健			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	津田　朗子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
子ども個々の育ちを理解し、適切な環境を整え支援することは、保育専門職の重要な役割である。子どもの保健では、子どもの発達の特徴や現代社会における課題をふまえ、乳幼児期に多く見られる健康問題や子どもを取り巻く環境について考え、その健全な発達が保障されるよう、健康問題の予防・早期発見や子ども・家族への支援方法、他職種との連携・協働など、保育専門職としての適切な対応について学ぶ。	①子どもの身体発育や生理機能の特徴を理解している。 ②子どもの疾病とその予防法、及び適切な対応について理解している。 ③子どもの精神保健とその課題等について理解している。 ④子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解している。 ⑤保育現場における事故防止、安全対策・危機管理と、組織的対応について理解している。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：子どもを取り巻く環境の変化と子どもの健康 オリエンテーション、近年の子どもを取り巻く環境の変化をふまえ、子どもの発達保障における課題について考える	
2	子どもの健康と保健の意義、地域における保健活動	
3	子どもの発達・発育と保健①：発達の原則と特徴　アタッチメントとこころの発達	
4	子どもの発達・発育と保健②：身体発育の評価　運動機能の発達と評価	
5	子どもの発達・発育と保健③：生理機能の特徴（呼吸・循環・体温調節） 子どもの生体リズム発達とと生活習慣	
6	子どもの発達・発育と保健④：摂食・消化機能、排せつ、水分代謝、免疫など 子どもの栄養と食習慣の確立（授乳・離乳）、歯と口の健康（むし歯）	
7	感染症とその予防、予防接種	
8	アレルギーのある子どもとその対応	
9	その他の子どもの病気（先天性疾患含む）	
10	子どもの病気と健康状態の観察（アセスメント）、体調不良時の対応	
11	小児救急、事故予防	
12	発育・発達の把握と健診（発達診断とアセスメント）、保護者との情報共有と親支援（GW）	
13	障害のある子どもへの理解と対応	
14	子ども虐待とその予防：虐待の現状、虐待が子どもに与える影響、虐待予防と子育て支援	
15	まとめ：子どもの健やかな育ちを保障するために（多様な支援の展開と関連機関との連携・協働）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題	60	期間内に6回実施。講義内容の理解を確認する。	課題レポート	40	基本的知識の理解のもとに、さらに自主的に資料を調べ、自分の考えを述べられる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義終了時に、次回の講義内容に関連した資料または情報を提示するので、熟読し頭づくりをしておくこと[30分]。	課題は個別には返却しないが、理解度の把握に活用し、次回講義の中で全体にコメントすることによりフィードバックする。

受講生に望むこと	真摯な態度で授業に臨むこと	教科書・テキスト	「子どもの保健　第1版」 遠藤郁夫編　株式会社学建書院　2019年 (ISBN: 978-4-7624-0889-2)
指定図書／参考書等	『子どもって・・ね』木村留美子著　エイデル研究所　ISBN4-87168-393-1／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EN311U 子どもの健康			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	北川　節子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
保育の基礎は健康と安全です。保育所など子どもの生活を支援する施設においては、子どもが健康・安全に過ごすことができる環境が重要です。そのため子どもの身近にいて直接、保育をする保育士等は、健康と安全に対する理解を深め、確かな知識と技術をもって保育をする必要があります。ここでは２年次に学んだ「子どもの保健」を基に、保育所等における健康・安全の活動や管理について具体的に学びます。 ※SDGsターゲット3.3,3.4,3.6関連科目	①保育における保健的観点を踏まえた保育環境や生活支援について理解する。 ②保育における衛生管理、事故対策、災害対策の方法を具体的に理解する。 ③子どもの体調不良時の対応について理解する。 ④保育における感染症対策について具体的に理解する。 ⑤子どもの健康や安全の管理にかかわる、組織的取り組みや保健活動の計画及び評価について理解する。

教授方法	講義及び演習
履修条件	「子どもの保健」が履修済み、又は履修中であること

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	保育における健康と安全の位置づけを理解する。 保育施設における保健的環境の現状と課題を理解する。 健康保持・増進を観点とした子どもの生活習慣の支援について理解する。	
2	保育における健康管理の重要性と方法を理解する。 乳幼児の身体計測・バイタルサインの測定を体験する。	
3	保育施設の健康な環境について理解する。 保育施設における衛生管理の方法を具体的に学ぶ。 衛生管理の基本となる消毒について理解する。	
4	保育施設における健康観察と体調不良児への対応方法を学ぶ。 乳幼児の一次救急処置の方法を学ぶ。	
5	乳幼児に起こりやすい病気やけがなどに対する応急処置の方法を具体的に学ぶ。	
6	乳幼児の一次救命処置、異物除去の方法を習得する。演習	日赤指導員
7	保育施設における事故の現状と、事故防止の方法を学ぶ。 重大事故事例を分析し、事故発生の要因を考える。	
8	保育施設における事故発生時の対応を具体的に学ぶ。 事例をもとに事故発生時の対応を検討する。	
9	事故発生時の対応をロールプレイし、危機管理の重要性を理解する。演習	
10	保育施設における危機管理の重要性を学ぶ。 災害発生時の保育施設での対応を検討し、災害の備えについて理解する。	
11	保育施設における感染症対策の具体的な方法と乳幼児の疾病時の支援体制を理解する。	
12	正しい手洗いの方法を習得する。 保育施設におけるおう吐時の対応について具体的に学ぶ。演習	
13	保育施設における与薬の方法、エピペンの使い方を具体的に学ぶ。	
14	園児への保健的対応を発達段階別に考える。 保育施設における個別の配慮が必要な子に対する保健的対応を学ぶ。	
15	保育施設における健康・安全を守るための職員間の連携・協働と地域・家庭との連携について学ぶ。 保健安全計画を考え、計画の必要性と保育計画との連動性を理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
予習レポート	30%	教科書・資料を読み、的確に解答しているか。	課題レポート	70%	課題について的確に解答しているか。正しい日本語でわかりやすく記入されているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①予習レポート：教科書、資料の指定された範囲を読み、質問について解答しましょう。（30分） ②課題レポート：レポートや問題の解答を行います。これを通して授業内容をより深く理解するようにしましょう。（30～90分） ③レポートの提出はgoogle classroomから行います。提出日時に遅れた場合は０点になります。	予習レポート・課題レポート等の内容はクラス全体をまとめて、google classroomから皆さんにフィードバックします。

受講生に望むこと	①予習や課題レポート等を行うことにより授業がより理解できるようになります。毎回、丁寧に取り組むことを期待します。 ②演習・実習は実際の場面を想定して行います。積極的に取り組みましょう。	教科書・テキスト	①「子どもの健康と安全」遠藤郁夫／三宅捷太編　学建書院　2021年５月第１版第2刷　978-4-7624-0890-8 ②「保育所保育指針解説」フレーベル館　2018年　978-4-577-81448-2
指定図書／参考書等	①「保育所における感染症多作ガイドライン　2018年改訂版」　厚生労働省 2021（令和3）年８月一部改訂 ②「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」【事故防止のための取組み】～施設・事業者向け～　平成28年3月 ③「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」【事故発生時の対応】～施設・事業者、地方自治体共通～　平成28年3月	その他・特記事項	特になし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EN315U 子どもの食と栄養			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	田中　弘美・俵　万里子・三田　陽子　（代表教員　田中　弘美）						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
子どもの食生活は、生涯にわたる心身の健康と生活の基礎となる。保育所は通う子どもが一日の大半を過ごす場である。毎日の食事や食育活動を通して、子どもの健やかな成長を助け、食への興味関心を高めるために重要な役割を担っている。本授業では、保育所等における食生活支援に必要な食に関する基礎知識、食育、食物アレルギー対応について講義と実習を通して学ぶ。	1.健康と食生活のかかわりから望ましい食生活の意義を理解している。特に小児期の食事が生涯にわたる健康につながることを理解している。 2.栄養に関する基本的知識を得ている。 3.乳幼児期の食事について、望ましい形態や量、取り扱い上の留意点を理解している。 4.食物アレルギーへの対応の要点を理解している。 5.家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解している。 6.保育所における食育の意義及び計画･評価の方法を理解している。

教授方法	講義、実習
履修条件	2年次までに開講された保育士に関する科目を履修済みであることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	子どもの健康と食生活の意義①：食生活と健康のかかわりや子どもの心身の発育・発達と栄養について学習する。（子どもの食生活が成長や健康に大きく関わることを理解する。）	田中
2	子どもの健康と食生活の意義②：子どもの食生活の現状と課題について学習する。（子どもの食生活について問題意識を持てるようになる。）	田中
3	実習①調乳：調乳の操作（無菌操作法）の要点を学習する。（調乳の操作及び冷凍母乳の扱い方を理解する。）	俵
4	実習②離乳食の進め方：離乳初期の調理形態や食事量の目安、調理や取り扱う上での留意点を学習する。（離乳初期の調理形態や食事量の目安を理解する。出来上がった離乳食を適切に扱うことができるようになる。）	俵
5	栄養に関する基礎知識①：栄養の概念と栄養素の消化・吸収のしくみについて学習する。（食事と栄養素の関係を理解している。食べたものが体の中にどのように取り込まれ、どのようにはたらくのかを理解する。）	三田
6	栄養に関する基礎知識②：栄養素とそのはたらきについて学習する。（食品に含まれる主な栄養素とそのはたらきを理解する。）	三田
7	実習③離乳食の進め方：離乳中期の調理形態や食事量の目安、調理や取り扱う上での留意点を学習する。（離乳中期の調理形態や食事量の目安を理解する。出来上がった離乳食を適切に扱うことができるようになる。）	俵
8	実習④離乳食の進め方：離乳後期の調理形態や食事量の目安、調理や取り扱う上での留意点を学習する。（離乳後期の調理形態や食事量の目安を理解する。出来上がった離乳食を適切に扱うことができるようになる。）	俵
9	栄養に関する基礎知識③：栄養に関する様々な制度のうち、献立作成に関わる制度や基準について学習する。（栄養管理は『日本人の食事摂取基準』に準ずることをはじめ調理法や衛生管理など、献立作成には様々な工夫が必要であることを理解する。）	田中
10	家庭や児童福祉施設における食事と栄養：家庭、児童福祉施設それぞれの食事と栄養について学習し、配慮や支援の方法を理解する。（それぞれの食事と栄養について理解する。配慮や支援の方法にどのようなものがあるか理解する。）	田中
11	実習⑤幼児期の食事：幼児期の咀嚼や食べ方の機能の発達について学習し、食事の形態や食環境への配慮について考える。（幼児期に適した食事の形態や食環境などの配慮と支援方法を理解する。）	俵
12	実習⑥幼児期の食事：幼児期の食事や間食などの適量、組み合わせ、与え方を学習する。（幼児期の正しい食生活のあり方を理解する。）	俵
13	食育の基本と内容①：食育の意義、保育所における食育の位置づけについて学習する。（食育の意義を理解する。保育所の食育に関する指針や目標を理解する。）	三田
14	食育の基本と内容②：食育の計画や評価、環境づくり、保護者支援・地域支援について学習する。（食育の計画と評価の方法を理解する。子どものみならず保護者や地域に向けた食育の必要性について理解する。）	三田
15	実習⑦食物アレルギーへの対応：食物アレルギーの子どもに対し安全に食事を提供するために必要な食品の選択や提供方法について理解する。（食物アレルギーの子どもに対し、安全に食事を提供するための要点を理解する。）	俵

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート（講義）	40	指定の書式を用い、期日までに提出する。要点を理解しているかを評価する。	レポート（実習）	50	指定の書式を用い、調理のポイント、盛り付け図、振り返り、感想を記載する。期日までに提出する。
授業参加状況	10	必要なものを準備し、クラスルールやマナーを守って積極的に参加している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
（講義）シラバスに準じて教科書に目を通し予習して授業に臨んで下さい。[20分] 課題レポートは復習をしながら取り組んでください。[20分] （実習）実習レポートは、実習で配布されたプリントやその他の資料も参考にしながら、じっくり取り組んで下さい。［60分］	レポートは確認の上返却します。返却されたレポートは保管しておいて下さい。

受講生に望むこと	①授業を通して子どもの食事と健康だけでなく、自分自身や周りの人の食事と健康について興味関心を高めていって下さい。 ②調理実習はグループの仲間と協力しながら積極的に取り組んで下さい。 ③私語やスマートフォンの使用、実習室使用上のルールを守らないなどの受講態度が、注意喚起によって改められず授業に重大な悪影響を与えていると認められた場合、退出などの措置をとることがあります。	教科書・テキスト	子どもの食と栄養 第2版　保育現場で活かせる食の基本　太田百合子、堤ちはる編著　羊土社　2020年　ISBN 978-4-7581-0911-6
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	別途調理実習費が必要となります。開講までに教材室を通して納めて下さい。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EN320U 家庭支援論			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	松本　理沙						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
子育てと家族・家庭に焦点をあて、子どもが育つ場所としての位置づけを理解する。そのうえで、家族・家庭の動向について、急速な少子高齢化による家族の危機的状況に対する支援方法を理解する。そうした社会環境の中、子育て意識の変化、子育ての困難、負担感、不安感をいだく家庭を支援する「子育て支援機能」が保育所の重要な機能であることを学ぶ。保育所の中心的機能の位置づけられた家庭支援の具体的な展開、保育所の社会的責任を確認し、子育て家庭支援の政策動向を学ぶ。また、特別なニーズを持つ家庭である「育てにくさや障害のある子ども」、「乳幼児虐待対応」、「ひとり親家庭」、「ステップファミリー」、「異文化家族」などへの具体的支援方法を理解する。地方自治体における子育て支援施策の実践例を理解する。	①家庭の意義とその機能について理解している。 ②子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解している。 ③子育て家庭の支援体制について理解している。 ④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解している。 ⑤保育ソーシャルワークの基礎を理解している。

教授方法	講義及び提示課題によるグループディスカッション
履修条件	「子ども家庭福祉論Ⅰ」を履修済であること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	子ども家庭支援の意義と必要性：子ども家庭支援の意義、少子化社会対策と子育て支援、子育て支援の意義を高めるポイント　ほか	
2	子ども家庭支援の目的と機能：児童福祉法改正と子ども家庭支援の制度化、子ども家庭支援の機能、保育士等がめざす「子ども家庭支援」とは　ほか	
3	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進：子育て支援・次世代育成支援の背景、子ども・子育て関連３法の成立過程、地方版子ども・子育て会議　ほか	
4	子育て家庭の福祉を図るための社会資源：社会資源とは何か、事例を通した社会資源との連携の理解、社会資源活用の現状・課題・展望　ほか	
5	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義：　保育所保育指針が謳う「子育て支援」、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における子育ての支援　ほか	
6	子どもの育ちの喜びの共有：学生のレポートから考える、子どもの育ちの喜びを共有するためのツール、ある園長の想い　ほか	
7	保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援：地域の子育て家庭を取り巻く環境、保育所を利用している保護者に対する支援、近年の子ども家庭支援の動向　ほか	
8	保育士に求められる基本的態度：保育士と保護者との信頼関係とは、受容的かかわり、保護者と保育士との間に生まれる力動的な相互作用　ほか	
9	家庭の状況に応じた支援：家庭の状況に応じた支援とは、家庭の状況に応じた支援を行ううえで保育者に求められる姿勢、継続的な支援が必要な場合　ほか	
10	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力：子ども家庭支援と地域の資源の活用、社会資源の活用と実際、地域に必要とされる保育者のあり方と専門性の向上　ほか	
11	子ども家庭支援の内容と対象：さまざまな子ども家庭支援の対象（子ども・保護者・地域）、子ども家庭支援の形態、相談援助技術を活用した子ども家庭支援　ほか	
12	保育所等を利用する子どもの家庭への支援：保育所等が行う子ども家庭支援への期待、家庭がかかえる生活課題と保育所等の役割、事例を通した子ども家庭支援の理解　ほか	
13	地域の子育て家庭への支援：地域の子育て家庭への支援者の姿勢、事例を通した理解　ほか	
14	要保護児童およびその家庭に対する支援：要保護児童の全体像、要保護児童とその家庭に対する支援の枠組み、親子関係再構築支援　ほか	
15	子育て支援に関する課題と展望：子育て支援ニーズの多様化、連携機関の多様化、子育て支援プログラムの導入による支援　ほか	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	60	講義内容の全体像がまとめられている。感想だけに終わらず、意見が述べられている。自らの課題が設定されている。	リアクションペーパー	40	毎回の講義内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらず、意見が述べられている。自らの課題が設定されている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業終了後に自身で振り返りを行う［60分］ ②次回授業のための予習、課題に取り組む［30分］	必要に応じて、レポートやリアクションペーパーにコメントする。

受講生に望むこと	自らが保育や教育現場等において、家族支援を行うことを想定し、講義に臨んでもらいたい。	教科書・テキスト	『よくわかる子ども家庭支援論』橋本真紀・鶴宏史編　ミネルヴァ書房　2021年　ISBN:9784623092017
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EN275U 乳児保育Ⅰ			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	谷　昌代						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
乳児期は、人間形成の基礎ができる重要な時期である。 乳児保育の意義や目的、役割を理解し、成長や発達の特性を理解する。また、低年齢児の発育、発達を踏まえた援助や関わりについて学び、乳児保育が担う社会的意味及び保育現場における乳児保育の課題について討議し考察する。 ※SDGsターゲット3.7,4.2関連科目	①乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解している。 ②保育所・乳児院等の多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解している。 ③3未満児の発達を踏まえた保育の内容と運営体制について考えることができる。 ④乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解している。

教授方法	講義・ワーク（個人・グループ）
履修条件	保育士資格取得希望者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション ・赤ちゃんの不思議、赤ちゃんの親になるということは人や家庭にどのような変化をもたらすのか考える。 ・乳児とは何か。乳児保育はなぜ必要なのかを知る。	
2	乳児保育の理念と概念 ・乳児保育の理念と目標について学ぶ。「三つの視点」から述べられる「ねらい」により、この時期に育てたいことについて考え、「特定の他者」の重要性を知る。	
3	乳児保育の歴史について ・日本の乳児保育の始まり ・諸外国における保育、幼児教育の現状と諸施設の機能等について学ぶ。	
4	乳児保育における基本的な知識・技術に基づく援助や関わり（1） ゼロ歳児（生後6か月未満児）：身体・運動的発達の特徴・生活リズム（睡眠・食事・排泄）・遊びをとらえる。	
5	乳児保育における基本的な知識・技術に基づく援助や関わり（2） ゼロ歳児（生後6か月以上）から1歳3か月未満児：発達と保育内容を考える。言葉の発達に注目して、やりとりの中で育つ言葉・この時期の大人の役割について考える。	
6	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容（1） 1歳児（1歳3か月から2歳未満児）：生活リズム（睡眠・食事・排泄・着脱）をとらえる。 自我の育ち「イヤ」「ジブンデ」表現・他者との関係性・イメージする力の育ちに注目して。	
7	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容（2） 2歳児とは：生活リズム（食事・生活習慣の確立に向けて）をとらえる。意欲の発達に注目して。 言葉の発達「考えることの始まり」・遊びの豊かさ・他者関係「まねっこ」「仲良し」について理解する。	
8	保育所・認定こども園における乳児保育（1） ・保育所、認定こども園、各施設について機能や保育体制等について知る。 ・乳児保育の物的環境や人的環境について考える。	
9	保育所・認定こども園における乳児保育（2） ・保育所、認定こども園における乳幼児の生活の流れについて考える。	
10	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容（3） 戸外遊び、自然遊びの事例から発達をとらえ、環境について考える。安全、衛生面の考慮と見守りについて考える。	
11	乳児保育における配慮事項 保育における配慮、特別な配慮が必要な子どもへの支援について考える。	
12	乳児院、家庭的保育事業、その他乳児保育が行われている保育施設の位置づけや内容を知る。	
13	保護者とのパートナーシップ：乳児保育における保護者支援について考える。保護者と共に子どもの育ちを喜び支えるために必要となる連携のあり方を考える。	
14	乳児保育における保育士等の関わりについて：子どもの行為の意味を理解しようとし、適切な関わりについて考える。また、職員間の連携、地域の関係機関との連携について学ぶ。	
15	乳児保育の現状と課題：乳児保育の実践における課題点、子育て家庭に対する支援、支援をめぐる社会的状況の課題点について考え、多様な保育、支援の場があることを知る。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加態度	30	授業に対して積極的に参加し、グループワーク等に協働的に取り組む姿勢。	課題	40	乳児保育について適切な資料を活用して調べ、丁寧にまとめられていること。
試験	30	乳児保育についての基本的な理解を問うもの。授業内で学んだことや自分で学習したことを含め総合的に理解していること。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・自分の出生に関する資料（母子手帳・保育所等の成長記録等）を見たり、自身のことを知る人たちに乳幼児期のことを尋ねたりして成長過程を知る。[60分] ・乳児を対象とした歌遊びやふれあい遊びについて考え、学んでおく。[120分]	前回授業について振り返り、補足、助言を適宜行う。また、課題については授業内にて学びを共有していく。

受講生に望むこと	・保育者を目指す学生として、乳児期を保育の原点として捉えて学んでほしい。 ・授業で学ぶ乳幼児の姿に心を動かし、イメージしながら受講してほしい。	教科書・テキスト	・『保育所保育指針解説書』厚生労働省編　フレーベル館　（2018年）ISBN978‐4‐577‐81448―2 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府　文部科学省　厚生労働省　ISBN978-4-577-81449-9
指定図書／参考書等	なし／なし（必要な資料は随時配布する。また、薦めたい良書については授業内にて紹介する。）	その他・特記事項	・本科目は保育士資格取得に関わる内容である。「子どもの保健」「保育者論」等の授業と関連づけながら乳幼児期の保育について学びを深めていきたい。 ・授業内容及び課題等をClassroomに投稿し、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

保育教諭、子育て支援の経験をもとに、乳児保育の意義や役割について現代の課題と共に歴史的背景と照らし合わせて伝えていく。乳児の発達や生活の捉え方をビデオ映像や保育事例を通して伝え、乳児期の人と関わりの質について考えていく。

授業科目名	EN325U 乳児保育Ⅱ			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	髙村　真希						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
乳児（３歳未満児）は、一人では生きられず、身近な大人に支え見守ってもらうことを通して、生活習慣を獲得していく。そのため、保育者は３歳未満児の発育・発達過程を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方と具体的な支援の仕方を理解する必要がある。ここでは、乳児保育Ⅰの知識を基に、乳児（３歳未満児）の「基本的生活習慣の獲得と支援」や「子どもの生活や遊びを支える環境」を学ぶ。また、個々（集団）に適した援助を行うための指導計画の作成と評価について学ぶ。 ※SDGsターゲット3.2関連科目	1.3歳未満児の発育・発達過程を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2.3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について具体的に理解する。 3.乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4.乳児保育における計画の作成（個別・集団等）や評価について、具体的に理解する。

教授方法	講義・演習
履修条件	乳児保育Ⅰを履修済みであること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業ガイダンス　保育における「乳児保育」の重要性（意義・目的）について理解する。（乳児保育Ⅰ：講義の復習）	
2	3歳未満児の基本的生活習慣の獲得と自立支援について理解する：生活リズム（睡眠のリズム）をつかみ援助することと、排泄の自立支援について理解する。	
3	3歳未満児の基本的生活習慣の獲得と自立支援について理解する：乳幼児の食べる機能の発達と自立支援を理解する。	
4	3歳未満児の基本的生活習慣の獲得と自立支援について理解する：抱き方とおむつ交換の方法を習得する。「実習」	
5	3歳未満児の基本的生活習慣の獲得と自立支援について理解する：清潔（手洗い、うがい）・衣服・靴の自立支援を理解する。	
6	子どもの心身の健康と安全、情緒の安定を図るための配慮： 子どもの健康・安全に関する事故や事件からその要因と防止策を考える。	
7	3歳未満児の基本的生活習慣の獲得と自立支援について理解する：調乳と授乳の方法を習得する。「実習」	
8	3歳未満児の基本的生活習慣の獲得と自立支援について理解する：①沐浴と衣服の交換の方法を習得する。「実習」	
9	3歳未満児の基本的生活習慣の獲得と自立支援について理解する：②沐浴と衣服の交換の方法を習得する。「実習」	
10	子どもの主体性を尊重した生活と遊びの展開について理解する。： ①積極的・意欲的だけでなく、拒否する権利を受け止めた関わりと環境について考える。	
11	子どもの主体性を尊重した生活と遊びの展開について理解する。： ②子ども同士の関わりとその環境について考える。	
12	個別的な指導計画と集団の指導計画について：ICTを活用してのドキュメンテーションの作成を行う。	
13	個別的な指導計画と集団の指導計画について：ドキュメンテーションを基に計画を見直しや評価を行う。	
14	環境の変化や移行に対する配慮：人的・物的・空間的環境から考える。	
15	動画（実際の乳児の保育の場面）を視聴し、子どもの体験と学びの援助を考える。（まとめ）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度（代替への取り組み）	30	①講義・実習への取り組み姿勢 ②代替授業への取り組み姿勢	演習レポート	40	第3.5.6.7.8.10の演習についての支援方法や注意点が理解されているか。丁寧でわかりやすく記載されているか。
試験	30	基本的な知識を理解しているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回、授業後に復習を行う【30分】 ②ドキュメンテーションの作成を行う【90分】 ③乳児保育に関する資料を読む【60分】	・提出されたレポート課題を授業で反映する。 ・必要に応じて他の学生の課題を見せ合う。

受講生に望むこと	授業内容を考え、服装や容姿を整えて参加する。	教科書・テキスト	『見る・考える・創りだす乳児保育１・２―養成校と保育室をつなぐ理論と実践』　茶々保育園グループ社会福祉法人あすみ福祉会編　萌文書林　2019年　ISBN978-4-8934-7321-9
指定図書／参考書等	なし/必要に応じて随時提示する。	その他・特記事項	連絡事項はClassroomで配信する。

実務経験を活かした授業の概要

保育現場での経験や保育現場から提供いただいた動画を基に、子どもの生活と遊びを支える環境について、具体的な実践事例を提示し紹介する。また，その動画をもとに検討を行っている。

授業科目名	EN280U 障がい児保育			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	徳田　茂						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
障害の有無に関わりなくすべての人々が共生する、インクルーシブ社会の実現のためには、障害のある子とない子が共に活動し育ち合う、インクルーシブ保育がとても重要である。この授業では、新しい障害概念を理解したうえで、障害のある子の育ちの援助について、理論的側面と実践的側面から理解を深められるようにしたい。さらに、障害児の家族への援助、インクルーシブ保育の実際についても理解を深められるようにしたい。	①障害者権利条約や改正障害者基本法、障害者差別解消法などをベースとして、新しい障害概念を理解する。 ②障害のある子を一人の子どもとして捉えることの大切さを学び、その子とのよりよい関わり方について理解する。 ③障害のある子の育ちの援助の実際について理解する。 ④障害のある子の家族の心理とその援助について理解する。 ⑤障害のある子とない子が共に育ち合う、インクルーシブ保育の重要性とその実際について理解する。

教授方法	講義とテーマごとの学生の発表、グループ討論と発表
履修条件	保育士資格取得希望者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：調べて発表するテーマの分担をする。 障害とは何か（1）自分と障害児の関わりについて振り返る。	
2	障害とは何か（2）：障害者権利条約や障害者基本法等をもとに、新しい障害者概念を理解する。	
3	障害とは何か（3）：さまざまな障害について学ぶ。	
4	その子自身を理解することの大切さ：障害児をひとくくりにせず、一人ひとりの子どもについて理解することの大切さを学び、一人の子をよく理解するための方法を学ぶ。	
5	障害児保育とコミュニケーション（1）：子どもの育ちの援助には、よりよいコミュニケーションが不可欠である。障害児との関わりにおいては非言語的コミュニケーションがとりわけ重要である。そのことを念頭にコミュニケーションについて学ぶ。	
6	障害児保育とコミュニケーション（2）：さまざまな障害のある子のコミュニケーションの特徴を理解する。	
7	障害児保育と遊び（１）どの子にとっても遊びは育ちの源である。障害児ノ遊びと育ちについて、特に運動面に焦点をあてて学ぶ。遊びの中での援助の実践についても学ぶ。	
8	障害児保育と遊び（２）：障害児の遊びと育ちについて、手の動きや認知・社会性等の面に焦点をあてて学ぶ。保育者としての援助のあり方についても学ぶ。	
9	見通しをもって実践する：子どもの育ちの援助における見通し・仮説ー実践ー検証の重要性と、その実際について学ぶ。	
10	生活習慣獲得の援助：障害児が生活習慣を獲得していくために必要な援助の実際について学ぶ。	
11	親の思いを聴き、共に生きる（1）：実際の例にふれながら障害児の親の心理について理解を深める。	
12	親の思いを聴き、共に生きる（2）：障害児の親への援助の実際と親の心理の変容について学ぶ。	
13	インクルーシブ保育を目指して（1）：インクルージョンの理念を理解し、障害のある子とない子が共に育つ保育の重要性について学ぶ。	
14	インクルーシブ保育を目指して（2）：インクルーシブ保育の実際にと課題について学ぶ。	
15	よりよい保育者となるために：障害のある子を含め、さまざまな子どもの育ちを援助する保育者として、ぜひ身につけていきたい資質などについて学ぶ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期間中の小レポート	20	テーマについて、的確な調べと分かりやすい発表ができたかどうかをみる。	期末試験	80	各設問について正しく理解し、分かりやすくまとめられているかどうかをみる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・事前に渡されたプリントを読んで予習しておく（30分） ・それぞれ与えられたテーマについて調べる(1時間)（調べた内容を授業で発表する） ・事後学習としてその日のテーマについて振り返る(30分)	・各時間ごとに疑問・質問を提出してもらい、次の時間の冒頭にそれぞれの質問に答える。 ・テーマについての発表後、発表内容について口頭でフィードバックする。

受講生に望むこと	・新しい障害概念をよく理解して下さい。そのうえで、障害児を一人の大切な子どもとして受け止めるための基本的な人間観や保育観を身につけて下さい。 ・障害のある子の一人ひとりの特性や課題をよく理解しその育ちを援助するための方法等について理解を深めて下さい。 ・障害のある子の家族についての心理やその人たちへの援助について理解を深めて下さい。 ・障害のある子とない子のインクルーシブ保育の意義や課題について理解を深めて下さい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	指定図書：『共に生き、共に育つ』徳田茂（ミネルヴァ書房）2019年 ISBN：978－4－623－08775－4 『知行とともに』徳田茂（川島書店）1994年 ISBN：7610－0542－4／参考書：『ソーシャルインクルージョンのための障害児保育』堀智晴他（ミネルヴァ書房）2014年 ISBN：978－4－623－07057－2	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

障害のある子どもの育ちの援助についてより理解を深められるよう、障害児福祉施設における自身の勤務経験をもとに、事例を取り入れ、講義を行っている。

授業科目名	EN331U 子育てと支援			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	ポーター　倫子						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
他の先進国と比較し、日本の母親は子育てに自信がなく、育児不安を感じている場合が多いことが指摘されている。また経済的困難、ひとり親、待機児童の問題、児童虐待の増加等から、支援を必要としている保護者がますます増えている。本講義では、保育士が専門性を生かして子育て支援を行うために必要となる基礎的な知識や考え方について学ぶ。時間の許す限り、実践的なことに役立つよう、事例や社会の動向に関する内容も取り入れる。	①保育士が子ども家庭支援を行う理由と意義を把握し、保育の専門性を生かした子育て支援の基礎を理解する。 ②子育て支援展開の基本的なノウハウを理解することで、個別ケースに応じて対応できることを技能を習得する。 ③事例を通して、多様な支援ニーズを抱える子ども及び家庭に対する支援の内容、方法、技術を具体的に理解する。

教授方法	講義・グループワーク・ディスカッション・ロールプレイ
履修条件	

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、子育て支援の社会的背景	
2	保育士が行う子育て支援とは	
3	子どもの権利と子育て支援	
4	保育の専門性を生かした子育て支援	
5	子育て支援の展開　①支援のためのアセスメントと計画	
6	子育て支援の展開　②関係機関との連携・協働	
7	子育て支援の実際　①計画、記録	
8	子育て支援の実際　②評価、カンファレンス	
9	子育て支援の実際　③保護者との信頼関係の構築	
10	子育て支援の実際　④保護者への共感的理解とエンパワメント	
11	子育て支援の実際　　社会資源の活用	
12	障害のある子ども及びその家庭に対する支援	
13	育児不安のある保護者への支援	
14	多様な支援ニーズを抱える家庭への理解と支援	
15	まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
平常点（学習意欲、履修態度、予習復習状況、等）	30	授業の参加態度、リフレクションペーパー、ロールプレイングへの参加等	ミニレポート(2-3回)	40	新聞記事、育児雑誌、ソーシャルメディア等をツールに、子育て支援について考えてもらう。ルーブリックは授業期間中に提示する。
到達度テスト(2回)	30	授業内容を十分に理解できているかどうかを把握するために、授業の前半回と後半回にそれぞれ1回ずつ小テストを実施する。前半回のテストは、授業の進行状況に応じては、持ち帰りテストになる場合がある。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前に教科書の指定部分を読む。[30分] ②授業中に仕上げることができなかったプリントやリフレクションペーパーは、数日以内に仕上げておく。[30分] ③試験の準備として、キーワード集を作成する。[30分] ④普段より、子育てをテーマとした新聞記事や広告に目を通す。	①全ての提出物は、締め切り日から１－２週間以内に採点・コメントを付けて返却する。 ②試験は、1週間以内に採点して返却する。

受講生に望むこと	教室内での私語、スマートフォンの使用などは、避けてください。やむを得ない事情で欠席する場合は、他の受講生に授業内容を聞いたり、ノートを借りるなどして、対応してください。	教科書・テキスト	『学ぶ・わかる・みえる　シリーズ 保育と現代社会 演習・保育と子育て支援』　2019　小原 敏郎・橋本 好市・三浦 主博 編　ISBN: 9784860154905
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	受講生の興味・理解度に沿って内容を変更する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EN160U 音楽表現Ⅰ			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	武田　恵美・福田　真紀　（代表教員　武田　恵美）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
子どもたちが発達段階に応じて音や音楽に親しみ関心を持つ環境を設定できるように、保育者として必要な基本的知識と技能を身に付ける。特に、子どもの生活やあそびと密接に関わる歌やリズムあそびを取り入れ、保育者自身が音や表現活動を楽しみ、保育現場で実践できるようにする。様々な楽器に触れて演奏する他に鑑賞を通して豊かな感性を養う。	①楽譜を見て歌うことができるようになる。 ②範唱ができるようになる。 ③「表現する」ということについて理解する。 ④乳幼児期の発達と音楽表現について理解する。 ⑤音楽と身体表現について実践を通して理解する。 ⑥課題を発表する機会を持つことによって、歌うことや演奏のための準備について考えることができるようになる。

教授方法	講義と演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業計画、到達目標、成績評価の方法等について、シラバスを通して理解する。子どものうたⅠ：「季節」に関する子どものうたを知り、習得する。読譜トレーニングⅠ：楽譜の読み方について、基礎的な知識を習得する。	武田
2	「音楽表現」とは何かについて、意見を共有し合い考える。子どものうたⅡ：「行事」に関する子どものうたを知り、習得する。読譜トレーニングⅡ：楽譜の読み方について、子どものうたを用いて学ぶ。音楽コミュニケーションⅠ：「音」について、音探しの実践を通して考える。	武田
3	「三法令」の流れについて学ぶ。子どものうたⅢ：「生活」に関する子どものうたを知り、習得する。読譜トレーニングⅢ：音符と休符について理解する。音楽コミュニケーションⅡ：「自然の音」を感じる活動について、実践を通して考える。	武田
4	「幼稚園教育要領」の変遷から領域（表現）について考える。子どものうたⅣ：「動物・植物」に関する子どものうたを知り、習得する。読譜トレーニングⅣ：ト音譜表とヘ音譜表の読み方について学ぶ。音楽コミュニケーションⅢ：うたや動きを伴うあそびについて、実践を通して考える。	武田
5	「保育所保育指針」の変遷から領域（表現）について考える。子どものうたⅤ：「あそび」に関する子どものうたを知り、習得する。読譜トレーニングⅤ：子どものうたを用いた実践を通して、読譜を習得する。音楽コミュニケーションⅣ：手・指の動きを伴うあそびうたを実践する。	武田
6	「幼児教育において育みたい資質・能力」について理解する。子どものうたⅥ：教育・保育現場で子どもとうたいたい「子どものうた」を発表する。読譜トレーニングⅥ：器楽合奏の楽譜を用いて、読譜を実践する。	武田
7	歌うことを中心とした音楽活動Ⅰ：歌うための準備体操、正しい姿勢、呼吸法について実践を通して学ぶ。	福田
8	歌うことを中心とした音楽活動Ⅱ：語感を生かす発音と発声について実践を通して学ぶ。喉声の矯正方法について学ぶ。	福田
9	歌うことを中心とした音楽活動Ⅲ：正しい音程で歌うための練習方法を学ぶ。四部合唱の実践を通して、声によるハーモニーを感じ取る。子どものうたの発表。	福田
10	領域「表現」の「ねらい」、「内容」、「内容の取扱い」（音楽に関する項目）について理解する。子どものうたⅦ：弾き歌いについて学ぶ。「ロンドン橋」のうた・ピアノ伴奏練習。楽器を用いた表現活動Ⅰ：パンプードラムとリズム楽器の特徴と奏法について実践を通して学ぶ。	武田
11	子どもの５つの音楽的表現活動から「うたう活動」について、子どもの発達段階と共に理解する。子どものうたⅧ：「ロンドン橋」の弾き歌い練習。楽器を用いた表現活動Ⅱ：パンプードラムとリズム楽器を用いた合奏のパート練習方法について、実践を通して学ぶ。	武田
12	子どもの５つの音楽的表現活動から「きく活動」について、子どもの発達段階と共に理解する。子どものうたⅨ：「ロンドン橋」の弾き歌い発表。楽器を用いた表現活動Ⅲ：パンプードラムとリズム楽器を用いた合奏の練習方法について、実践を通して学ぶ。	武田
13	子どもの５つの音楽的表現活動から「ひく活動」について、子どもの発達段階と共に理解する。子どものうたⅩ：「グーチョキパーでなにつくろう」のうた・ピアノ伴奏練習。楽器を用いた表現活動Ⅳ：パンプードラムとリズム楽器を用いた合奏の発表①。	武田
14	子どもの５つの音楽的表現活動から「うごく活動」について、子どもの発達段階と共に理解する。子どものうたⅪ：「グーチョキパーでなにつくろう」の弾き歌い練習。楽器を用いた表現活動Ⅴ：パンプードラムとリズム楽器の演奏表現方法について、実践を通して学ぶ。	武田
15	子どもの５つの音楽的表現活動から「つくる活動」について、子どもの発達段階と共に理解する。子どものうたⅫ：「グーチョキパーでなにつくろう」の弾き歌い発表。楽器を用いた表現活動Ⅵ：パンプードラムとリズム楽器を用いた合奏の発表②及び評価と振り返り。	武田

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	受講態度、課題への取り組みと内容。（「受講生に望むこと」欄を参照）	小テスト	40	各回の講義・演習内容について理解しているか。小テストの内容、形態等の詳細は授業内に提示する。
コミュニケーションシート	30	提出状況と内容。（①毎回の授業ポイントを押さえまとめられているか。②感想だけに終わらない自らの意見が述べられているか。③自らの課題が設定されているか。）			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義内容について自身で振り返り、疑問点や不明点を調べて下さい。[30分] ②次回授業のための課題について準備して下さい。[60分]	コメント又は個別指導をします。

受講生に望むこと	①毎授業で出される課題に積極的に取り組んで下さい。 ②個人で行う課題とグループで行う課題がありますので、グループワークはチームワークよく課題に取り組んで下さい。	教科書・テキスト	『楽しい音楽表現』高御堂愛子・植田光子・木許隆監修・編著、圭文社、2017年、ISBN978-4-87446-067-2／『うたのファンタジー 』木許隆監修・編著、圭文社、 2017年、ISBN978-4-87446-064-1／『音楽の基礎 改訂版』木許隆監修、圭文社、2018年、ISBN978-4-87446-066-5／『Basic and Variations』、木許隆，武田恵美，長井典子編著、圭文社、2022年3月出版予定　ISBN978-4-87446-067-2／プリント
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EN165U 音楽表現Ⅱ			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	武田　恵美・福田　真紀　（代表教員　武田　恵美）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
「音楽表現Ⅰ」で学んだ内容をより深めるために、日本の幼児音楽教育の歴史と変遷について理解し、歌唱や楽器を用いた様々な表現技能を身に付ける。また、あそびから生まれる様々な表現に着目し、子どもの表現活動を支援するための知識・技能及び表現力を身に付ける。	①楽譜を見て歌うことができるようになる。 ②範唱ができるようになる。 ③歌うことや楽器演奏のための様々な表現技術を習得する。 ④歌唱表現活動や楽器を用いた表現活動の方法を理解する。 ⑤課題を発表する機会を持つことによって、歌うことや演奏のための準備について考えることができるようになる。

教授方法	講義と演習
履修条件	「音楽表現Ⅰ」の単位を修得済の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業計画、到達目標、成績評価の方法等について、シラバスを通して理解する。「音楽表現Ⅰ」の振り返り。	武田
2	子どもにとっての「あそび」、あそびのおもしろさについて考える。リズムⅠ：リズムあそびについて学び、実践する。楽器を用いた表現活動Ⅰ：無音程打楽器の奏法について学ぶ。	武田
3	日本の幼児音楽教育の歴史と変遷について理解する。様々なあそびと子どもの育ちについて理解する。リズムⅡ：リズムあそびの実践。楽器を用いた表現活動Ⅱ：無音程打楽器を用いた合奏の実践。	武田
4	生活や遊びの中での歌唱表現、わらべうたあそびについて考える。あそびうたⅠ：わらべうたの実践。楽器を用いた表現活動Ⅲ：有音程打楽器の奏法について学ぶ。	武田
5	手あそび・指あそびの必要性について考える。リズムⅢ：ピアノを用いた様々なリズム活動について学ぶ。あそびうたⅡ：手あそび・指あそびの実践。楽器を用いた表現活動Ⅳ：子どもの楽器を使った合奏の実践①。	武田
6	保育者に必要とされる歌唱表現力について考える。リズムⅣ：ピアノを用いた様々なリズム活動の実践。あそびうたⅢ：わらべうた・手あそび・うたあそびの発表。楽器を用いた表現活動Ⅴ：子どもの楽器を使った合奏の実践②。	武田
7	歌うことを中心とした表現活動Ⅰ：鼻腔共鳴について実践を通して理解する。高音のスムーズな出し方について実践を通して学ぶ。	福田
8	歌うことを中心とした表現活動Ⅱ：歌声と話し声の違いについて理解し、声の響きの作り方や声を前へ飛ばす方法について実践を通して学ぶ。	福田
9	歌うことを中心とした表現活動Ⅲ：子どものうたの発表と指導。様々な子どものうたを習得する。	福田
10	歌唱表現活動の「ねらい」、教材選択における留意点について考える。リズムⅤ：体を使ったリズム活動の実践。	武田
11	保育の場におけるピアノの役割について考える。歌唱表現活動の指導案について学ぶ。	武田
12	歌唱表現活動の指導案を作成する。	武田
13	歌唱表現活動の実践Ⅰ：模擬保育の実践と振り返り。	武田
14	歌唱表現活動の実践Ⅱ：模擬保育の実践と振り返り。まとめ。	武田
15	器楽合奏の指導について実践を通して考える。指揮法について学ぶ。「音楽表現Ⅱ」のまとめ。	武田

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	受講態度、課題への取り組みと内容。（「受講生に望むこと」欄を参照）	小テスト	40	各回の講義・演習内容について理解しているか。小テストの内容、形態等の詳細は授業内に提示する。
コミュニケーションシート	30	提出状況と内容。（①毎回の授業ポイントを押さえまとめられているか。②感想だけに終わらない自らの意見が述べられているか。③自らの課題が設定されているか。）			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義内容について自身で振り返り、疑問点や不明点を調べて下さい。[30分] ②次回授業のための課題について準備して下さい。[60分]	コメント又は個別指導をします。

受講生に望むこと	①毎授業で出される課題に積極的に取り組んで下さい。 ②個人で行う課題とグループで行う課題がありますので、グループワークはチームワークよく課題に取り組んで下さい。	教科書・テキスト	『楽しい音楽表現』高御堂愛子・植田光子・木許隆監修・編著、圭文社、2017年、ISBN978-4-87446-067-2／『うたのファンタジー 』木許隆監修・編著、圭文社、2017年、ISBN978-4-87446-064-1／『Basic and Variations』、木許隆，武田恵美，長井典子編著、圭文社、2022年3月出版予定　ISBN978-4-87446-067-2／プリント
指定図書／参考書等	なし／『音楽の基礎 改訂版』木許隆監修、圭文社、2018年、ISBN978-4-87446-066-5	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EN290U 身体表現			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	田邊　圭子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
子どもの発達と運動機能や身体表現に関する内容を理解したうえで、身体表現活動や運動遊びの実践に必要な基礎的技能を身につける。また、子ども達と共に楽しく明るい健康な生活を営むための内容と方法について学ぶ。	①自ら積極的に身体を動かすことができるようになる。 ②子どものための身体表現や身体運動を理解する。 ③からだの動きや表現を創り出すことができるようになる。

教授方法	対面授業による演習
履修条件	保育士資格取得希望者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業概要説明：授業の進め方、成績評価の方法について説明。 「身体表現」について考える。	
2	基本のステップ：ウォーキング、スキップ等、基本のステップの習得。 体操：ラジオ体操第１を通して、動きとリズムについて学ぶとともに、身体の様々な部位を大きく動かせるようにする。	
3	身体表現１：様々な人の様子を表現することを通して、身体表現の可能性を理解する。 子どものための体操１：子どものための体操について理解する。	
4	身体表現２：自然物を表現することを通して、身体表現の可能性を理解する。 子どものための体操２：絵本に描かれた体操を通して、言葉と体操の関係を理解する。	
5	身体表現３：静物を表現することを通して、身体表現の可能性を理解する。 子どものための体操３：子どものための体操を通して、音楽と体操の関係を理解する。	
6	身体表現４：自由な身体の表現について考える。 子どものための体操４：子どものための体操絵本を創作する。	
7	身体表現５：身体表現における動きのリズムについて考える。 子どものための体操５：子どものための体操絵本の発表と鑑賞を通して、自由なイメージから動きを創ることについて考える。	
8	身体表現６：身体表現における空間構成について考える。 子どものための体操６：子どものための体操を創作する。	
9	身体表現７：身体表現における作品構成について考える。 子どものための体操７：子どものために創った体操の発表と鑑賞を通して、子どものための体操について考える。	
10	指導法：１～９回の授業で経験した内容を通して、指導者に必要な身体の動きについて考えるとともに、指導法と留意点について考える。	
11	ボールを用いた運動遊び：ボールを用いた運動遊びを経験し、ボール遊びの特性を理解する。	
12	縄跳びを用いた運動遊び：縄跳びを用いた運動遊びを経験し、縄跳び遊びの特性を理解する。	
13	身近な材料を用いた運動遊び：新聞紙等身近な材料を用いた遊びを経験し、素材の特性を生かした運動づくりを理解する。	
14	マット、跳び箱、平均台を用いた運動遊び：マット、跳び箱、平均台を用いた運動遊びを経験し、マット、跳び箱と平均台遊びの特性を理解する。	
15	運動遊びにおける安全管理：様々な運動を、安全に楽しむための留意点と安全管理について理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	50	授業への取り組み姿勢、課題の提出	実技試験	30	①課題を理解しているか ②課題に対して一生懸命取り組んでいるか ③課題に対する個人の技能・完成度
レポート	20	授業内容と経験を踏まえるとともに、子どもの姿を想像しながら自分の考えを述べているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
子どもの運動に関する情報に興味を持つ ①ニュースや新聞で報じられている、子どもの運動に関する情報に接する［60分］ ②子ども達の明るく元気な姿や活動を導くために何が必要か考えてみる［60分］	レポートは理解度の把握に利用し、授業の中で振り返りと確認を行う。

受講生に望むこと	子ども達が明るく元気に伸び伸びと遊ぶために、自分はいかにあるべきか、何をすべきなのかを考えながら受講してください。積極的な授業参加をのぞみます。	教科書・テキスト	授業中に適宜資料を配布する
指定図書／参考書等	授業を進める中で随時提示またはプリント配布する。	その他・特記事項	運動できる服装に着替え、体育館履きに履き替えて受講すること。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EN285U 児童文化			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	山下　のぞみ						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
伝承の遊びとおはなしに親しみ、それらが子どもの様々な発達といかに関わっているかを考える。さらに、子どもに手渡す際の留意点を探る。また、課題としておはなしを覚えて語ることを経験する。	①わらべ唄で遊ぶ体験を通して、それぞれのわらべ唄を覚えている。 ②子どもの発達段階に応じてどのわらべ唄がふさわしいかを知っている。 ③わらべ唄の音楽的特徴を理解している。 ④昔話の特徴を理解している。 ⑤子どもの発達に応じた、おはなしを選ぶことができるようになる。 ⑥ストーリーテリングを体験することによって、お話を聞くことの楽しさを知る。 ⑦ストーリーテリングを実際に経験している。 （他の学生のおはなしを聞き、おはなしを覚える練習をする。）

教授方法	実際に身体を動かしてわらべ唄を体験する。（体験が難しい場合は、DVDを視聴する） 伝承のおはなしである昔話を、語り伝えられたと同じように、耳だけで聞く体験をする。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	わらべ唄とは何か：わらべ唄にはどのような特徴があるか考えたい。地域性、旋律やリズムの特徴について、口伝えであることが深く関わっていることを認識する。	
2	わらべ唄と子どもの成長との関わり：わらべ唄を楽しむ条件として、子どもの身体的・言語的・社会的発達が重要であることを知る。	
3	言語発達とわらべ唄：わらべ唄には、日本語の拍感・リズム感・発音また地域のイントネーションがそのまま入っており、母語の獲得時期にくりかえしうたってやることが子どもの言語発達にとって重要であると知る。	
4	運動機能・空間認知の発達とわらべ唄：新生児から学童期まで、子どもの運動発達を粗大運動と微細運動の面からとらえ、どのようなわらべ唄遊びを取り入れられるか考える。	
5	伝統行事の中でのわらべ唄：日本人が行ってきた祭り、年中行事の中で、特に子どもが関わってきた行事に注目し、その中で伝承されてきたわらべ唄を紹介する。	
6	音楽としてのわらべ唄：子どもの音楽的能力の発達とそれに沿った大人の働きかけについて考える。月齢に応じて育てていきたい能力（リズム感・聴感）を意識した課業を考える。	
7	わらべ唄を課業に取り入れるための留意点：わらべ唄遊びを楽しむには、仲間関係や運動発達が大きく関わることをふまえ、一人一人の子どもをよく観て子どもたちに沿った課業案を立てることが大切だと認識する。	
8	昔話とは何か（昔話の分類）：神話、民話、伝説、昔話といった用語を整理し、昔話を定義する。その上で、昔話には語りの特徴が見出されることを知る。	
9	昔話とは何か　（昔話の語り口　1）：昔話の文芸学的研究に基づき、語りの特徴（一次元性、孤立性、平面性）について例をあげて解説する。	
10	昔話とは何か　（昔話の語り口　2）：引き続き、昔話の語りの特徴（固定性、極端性、抽象的様式）について例をあげて解説する。	
11	昔話とは何か　（昔話の残酷性）：なぜ、昔話は残酷だといわれているのか、伝承であるがゆえに残る刑罰と、語り口の面から考察する。	
12	昔話とは何か　（昔話に込められたメッセージ）：昔話には民衆の人間観・世界観・人生観が込められている。特に子どもに向けて語られた昔話にみられる、主人公の成長する姿について読み解いていきたい。	
13	おはなしに道具を取り入れるための留意点：子どもたちは、自分でも作って遊べる人形や、大人が演じてみせてくれる人形、自分自身も演ずることのできる人形を通して、さらにおはなしの世界を深く体験できる。その際のいくつかの留意点を考える。フェルトを使った動物の人形の製作方法を確認する。	
14	即興のおはなしと大人のための練習：昔話の語りの特徴を復習し、子どもが好むおはなしのパターンと結末を整理して、目の前の子どもたちを主人公にしたおはなしを即興で作れるよう練習する。	
15	子どもにとっての文学とは：子どもたちがその発達に応じて求めるおはなしについて知る。また、おはなしを楽しむ中で様々な関係を追体験したり消化したりできることを知る。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題の発表	50	子どもと一緒に楽しみたい詩を、自分が設定した月齢に応じて選んで、発表できているか。おはなしをきちんと覚えて、語れているか。	授業参加態度	30	演習で、わらべ唄を積極的に覚えようと努めているか、他の学生の発表から学ぼうとしているかを重視する。また、授業内での質問に対しての発言も考慮する。
試験	20	授業内容についてどれだけ理解しているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
ストーリーテリングの発表はグループで行うため、その分担や練習などを各グループで行ってもらいます。[1ケ月以上、各自覚えられるまで] 各自、子どもの月齢を設定した上で詩を選んで朗読してもらいます。事前に詩集を読み、発表する詩を準備して、授業にのぞんで下さい。[90分以上]	①発表の際にコメントします。 ②評価やコメント等に対しての疑問・質問の申し出にはいつでも対応します。

受講生に望むこと	演習形式の授業のため、積極的な参加と出席が望まれます。動きやすい服装で参加してください。	教科書・テキスト	『わらべうたと子どもの育ち』 木村はるみ著　エイデル研究所　2019年 ISBN：9784871686334 ※教科書は授業時に販売します
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	EN295U 絵本論			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	山下　のぞみ						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
様々な絵本を取り上げ、その特徴を探る。また、その絵本を、いつ、どのような子どもたちに手渡せばよいかを考えたい。さらに、絵本論を読み解き、絵本を評価する視点を学ぶ。	①絵本を読んでもらう体験を通し、絵本とは読んでもらうものとの認識を得る。 ②絵本の絵を読むとはどういうことか体験する。 ③月齢や発達段階に応じてどのような絵本がふさわしいかを知る。 ④子どもの興味と絵本の関わりを知る。 ⑤現在の絵本の多様性を知る。

教授方法	講義とグループディスカッション、さらにグループによる発表も行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	絵本とは：本としての絵本そのものだけでなく、保育者としての視点で、子どもの絵本体験を深めるための絵本とは？という面から、絵本を選んで解説する。	
2	ファーストブックとしての絵本：子どもとのやりとりの道具の一つとしての絵本のあり方について考える。	
3	赤ちゃん絵本からストーリー性のある絵本へ：言葉体験と物語展開について考える。	
4	ストーリー性のある絵本：子どもの心の解放、物語の結末などの視点から、読み継がれてきた絵本を考察する。	
5	昔話絵本：エウゲーニー・M・ラチョフ、フェリクス・ホフマン、マーシャ・ブラウン、赤羽末吉、田島征彦、佐藤忠良の作品について解説する。	
6	絵本の変遷：「子ども」の概念の誕生から、絵本がどのような変遷をたどったか、ナンセンス絵本までを解説する。	
7	詩・ことばあそびの絵本：谷川俊太郎、まどみちおの作品について解説する。	
8	イラストレーターによる絵本：レオ・レオニ、エリック・カール、イエラ・マリの作品について解説する。	
9	乗り物絵本・写真絵本：縦書きから、横書きへと絵本が変わる際の、乗り物絵本について解説する。『ふゆめがっしょうだん』、『はるにれ』、『イエペはぼうしがだいすき』、『こいぬがうまれるよ』、『みず』を解説する。	
10	絵本論から学ぶ①　モーリス・センダック：『かいじゅうたちのいるところ』の作者センダックによる絵本論を読み解く。松居直：絵本の編集者による絵本論を読み解く。	
11	絵本論から学ぶ②　松岡享子：『昔話絵本を考える』を参考に、昔話を絵本にすることについてグリム童話「七羽のカラス」を例に考察する。グループで昔ばなし絵本について発表する。	
12	絵本の絵を読むとは：林明子の作品を取り上げ、絵本の絵を読むとはどういうことか、子どもの視点で体験してみる。	
13	読み聞かせに向く絵本とは：遠目にも絵が見やすいか否かだけでなく、集団で読むことで楽しみの幅が広がる絵本体験について考察する。行事を描いた作品も取り上げる。	
14	読み手として絵本から学ぶこと：子どもに絵本を読むことで、絵本が教えてくれることについて考える。	
15	読者の広がりと絵本の可能性：今、絵本は作者の表現法の一つとしてみなされ、読者を子どもだけに限定しないものも多数見受けられる。 そのような絵本を取り上げ、考察する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	40	授業で取り上げた絵本の、適応年齢、どのような子どもたちに読んであげたいかなどの視点を入れた絵本リストを作成して提出してもらいます。	グループ発表	40	グループごとに、昔話絵本を４～５冊選び、伝承されてきた昔話との違いや、絵の違いについて検討し発表してもらいます。グループごとにレポートも提出してもらいます。
授業参加態度	20	授業の中で読み聞かせをしてもらいます。授業への取り組み、他の学生の読み聞かせを聞く姿勢や評価してもらった感想も提出してもらいます。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①グループごとの発表では、図書館で絵本を選び、レポートを作成してもらいます。（発表の準備）[1～2週間かけて取り組む] ②授業中に取り上げた絵本のリストを作成してもらいます。[授業修了までに絵本論などを読んで作成する]	①発表の際にコメントします。 ②絵本リストについては、次学期初めまでに、コメントを付けて返却します。

受講生に望むこと	講義中に紹介した絵本を図書館で借りるなど、手に取ってじっくりと読んでみるようにして下さい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ED100U 心理学概論A			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	加藤　仁						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				

授業の概要	授業の到達目標
心理学の基礎知識を学び、人間のもつ様々な心理的機能について理解することを目的に、「心理学の定義・歴史」から、「基礎心理学・応用心理学」までの全般的・基礎的な事項を概説する。講義を通じて科学としての心理学について学習し、客観的かつ実証可能な手法で人の心を解明するという心理学の考え方に触れることで、以降の学びにつなげていく。	1．心理学の成り立ちについて学び，歴史の中での心理学および諸科学の発展についての知識を身につける。 2．人の心の基本的な仕組みおよび働きについて学び，自分自身の体験や身の回りの出来事を心理学の基礎理論から理解できるようになる。

教授方法	講義形式で行う。自分自身の体験や身の回りの出来事について心理学の基礎理論に基づいて考える機会も作る。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	心理学とは？：心理学の成り立ち・歴史について学ぶ。	
2	目は心の一部である：知覚心理学について理解する。	
3	心は見えないが行動は見える：学習心理学について理解する。	
4	ヒトの心の特徴：進化心理学について理解する。	
5	心は脳のどこにあるのか：神経心理学について理解する。	
6	それぞれの人にそれぞれの心：個人差心理学について理解する。	
7	心は機械で置き換えられるのか：認知心理学について理解する。	
8	ヒトは白紙で生まれてくるのか：発達心理学について理解する。	
9	勉強は本当に必要なのか：教育心理学について理解する。	
10	感情はどのような役割を果たすか：感情心理学について理解する。	
11	いい人？悪い人？：社会心理学について理解する。	
12	なんだかイヤな気持ち：ストレスと心の病気について理解する。	
13	発達の偏りと多様性：発達障害について理解する。	
14	心の問題へのアプローチ：心理的アセスメントと心理学的支援について理解する。	
15	心理学の展開：心理学とその応用領域について理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート試験	70	試験の範囲や出題形式、配点等については、授業内で周知する。	振り返りシート	30	毎回の授業後に記入する、授業への取り組みの振り返りおよびコメントを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回、授業後に欠かさず復習する習慣をつける。また、次回に行う内容に関して、教科書に該当部分がある場合には目を通しておくこと。その他、配布資料や参考書、授業で紹介する文献を用いて予習・復習を自発的に行うこと。［30分程度］	振り返りシートを通じてあがった意見や質問を取り上げ、授業時に全体に向けてフィードバックする。 定期試験は次学期はじめに内容に関するコメントを全体にするとともに、希望者に対して個別にフィードバックを行う。

受講生に望むこと	初めて学ぶ内容であること・非常に多岐にわたるテーマを扱うことから、授業に参加するだけでは消化しきれない可能性があるので、教科書や配布資料も活用しながら知識の定着に努めてほしい。	教科書・テキスト	『ゼロからはじめる心理学・入門』金沢創・市川寛子・作田由衣子（著）有斐閣，2015年，ISBN-13：978-4641150225／同時に、教員が作成した資料も配布する。
指定図書／参考書等	なし／『心理学 新版』無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治（著）有斐閣，2018年，ISBN-13：978-4641053861	その他・特記事項	授業中にWebサイト等を利用して意見聴取・全体へのフィードバックを行う。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ED105U 心理学概論B			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	松尾　藍						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、子ども教育学科の心理学・教育科学科目であり、心理学を学ぶ体系として位置づけられる。本科目では、心理学の基礎的な知識を身につけることを目的に、知覚、認知、学習、記憶、感情、動機づけ、発達、社会など「基礎心理学」全般を概説する。本科目のねらいは、人間一般に共通する心のはたらきと行動を科学的に理解することである。	①心理学という学問の成り立ちや性質を理解できる。 ②知覚、認知、学習、動機づけ、言語、思考、人格、社会、感情、発達など、人の基本的な心の仕組みやはたらきを理解できる。

教授方法	講義を中心に、一部ワークを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：心理学とは、どのような学問だろうか。科学的心理学の成立とその歴史について概説する。	
2	見る・聞く・感じる心：人が感覚器官を通して、どのように外の世界を知覚しているのかを理解する。	
3	心と脳：心の活動と脳の活動との関係について、生理心理学の視点から学習する。	
4	認知する心：人が外界から受け取った情報をどのように処理しているのかを理解する。	
5	覚える心・忘れる心：記憶のメカニズムや知識の構造を理解する。	
6	学ぶ心（１）：条件づけを学び、人や動物の行動の成り立ちを理解する。	
7	学ぶ心（２）：観察学習、模倣学習を中心に、人間特有の学習の仕組みについて理解する。	
8	やる気の心理：動機づけや欲求についての理論を学び、人の行動を引き起こす原因を理解する。	
9	考える心（１）：人がどのように問題解決を行っているかを理解する。	
10	考える心（２）：人がどのように概念や言語を獲得し、用いているかを理解する。	
11	その人らしさの心理：パーソナリティとは何かを学び、その形成に関わる要因を理解する。	
12	他者を知る心：人が身の回りの他者や集団をどのように認知しているかを理解する。	
13	喜怒哀楽の心：感情の基礎的理論を学習し、感情とは何かを理解する。	
14	発達する心：生涯発達の視点から、人が生まれてから死に至るまでの心身の変化について理解する。	
15	まとめ：講義全体の振り返りとともに、基礎心理学の展開について説明する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	60	講義内容に関する筆記テストを行い、内容の理解度を評価する。	提出物	40	振り返りシートなど、各授業回の提出物の提出状況とその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習：教科書（各回の授業内容に該当する箇所）をあらかじめ読み、内容の理解に努めると共に、疑問点をまとめておく。[30分/回] ②事後学習：授業で配布する資料等を活用し、授業内容を復習する。[60分/回] ③授業テーマと関連する本を１冊以上読む。[期間を通して合計38時間]	各授業回の提出物については、次回授業の冒頭に講評やフィードバックを行う。

受講生に望むこと	本科目で扱う内容は、一般的な「心理学」のイメージとは異なるかもしれないが、いずれも目には見えない「心」を「科学的に」理解するための先人たちの努力の賜物であり、人間理解につながるものである。本科目を通して、人間とはどんな生き物であるかを考えてみてほしい。	教科書・テキスト	『グラフィック心理学』北尾倫彦・中島　実・井上　毅・石王敦子　著　サイエンス社　1997年　ISBN：978-4-7819-0825-0
指定図書／参考書等	指定図書なし。 参考書については、授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ED110U 臨床心理学概論			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	松下　健						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				

授業の概要	授業の到達目標
臨床心理学は心理学の様々な知見を対人援助に用いることを目的とした、応用的な分野の一つである。その内容は多岐にわたるため、本講義では対象、査定方法、心理療法のモデル、心理療法の理論、心理療法の技法、心理師（心理士）が活躍する現場に焦点を当てて学習する。臨床心理学では人を理解することが重要であるため、技法や検査を体験することで自己や他者の特徴について理解を深める機会と、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて人とのコミュニケーションの取り方について考える機会を設ける。	1)臨床心理学の成り立ちを説明できるようになること。 2)臨床心理学の代表的な理論を説明できるようになること。 3)臨床心理学の対象を説明できるようになること。 4)心理アセスメントを説明できるようになること。 5)臨床心理学の技法を説明できるようになること。 6)公認心理師が活躍する現場を説明できるようになること。

教授方法	講義、演習
履修条件	公認心理師、認定心理士、社会福祉士または対人援助職を目指す者、教職課程登録者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	臨床心理学の定義と歴史：臨床心理学とは何か、その定義と歴史を理解する。	
2	学校臨床心理学（不登校、いじめ、発達）：学校について臨床心理学的観点から理解する。	
3	発達障害：臨床心理学の対象のひとつである発達障害について、どのような特徴があるかを理解する。	
4	統合失調症：臨床心理学の対象のひとつである統合失調症について、どのような特徴があるかを理解する。	
5	双極性障害、抑うつ障害、不安障害：臨床心理学の対象である双極性障害、抑うつ障害、不安障害について、どのような特徴があるかを理解する。	
6	異常と正常、治療モデルと成長モデル：臨床心理学では異常と正常をどのように考えるのか、また、対象の変化をどのようなモデルに沿って考えるのかを理解する。	
7	心理査定（面接法、観察法）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、面接法と観察法に焦点を当てて理解する。	
8	心理査定（投影法）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、検査法の中でも投影法に焦点を当てて理解する。	
9	心理査定（知能検査、作業検査、質問紙）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、検査法の中でも知能検査、作業検査、質問紙に焦点を当てて理解する。	
10	心理面接（受理面接・終結、マイクロカウンセリング）：臨床心理学の面接はどのように行われるのか、面接の開始、面接の終了、面接の技法を理解する。	
11	精神分析の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論の一つである精神分析について、その歴史、精神分析理論の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。	
12	人間性心理学の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論の一つである人間性心理学について、その歴史、人間性心理学理論の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。	
13	行動療法・認知療法の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論である行動療法・認知療法について、その歴史、行動療法・認知療法の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。	
14	遊戯療法、家族療法、森田療法、内観、臨床動作法、自律訓練法：臨床心理学において頻繁に利用される様々な心理療法について理解する。	
15	心理師（心理士）が働く現場（医療、教育、福祉）：臨床心理学を対人援助に実際に利用している心理師（心理士）がどのような現場で活躍しているのかを理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
リアクションペーパー	30	講義内容について自分の考えを記述すること。講義のメモではなく、内容から発展させた自分の考えを記述することが求められる。	講義の受講態度	30	グループディスカッションやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義内容に関連する内容について、参考図書をはじめとする臨床心理学に関連する学術的な書籍や論文を読み、知識や理解を深める予習が求められる。[90分] 内容の理解や知識の定着のために復習を積極的に行うことが求められる。[30分] グループでプレゼンテーションを行う際には講義以外にも仲間と打ち合わせや発表の準備を行う必要性が生じる場合がある。[90分]	講義中に課す小レポートについては返却時に適宜フィードバックする。

受講生に望むこと	公認心理師および認定心理士に関連する科目である。国家資格を目指す者に照準を合わせるため、相応の受講態度と結果が求められる。	教科書・テキスト	なし。 適宜資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし/園田雅代・無藤清子（2011）『臨床心理学とは何だろうか:基本を学び、考える』新曜社　ISBN:9784788512269、岩壁茂・福島哲夫・伊藤絵美　（2013）『臨床心理学入門 ： 多様なアプローチを越境する』 有斐閣　ISBN：9784641220034	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

公認心理師、臨床心理士として、医療、教育、産業、そして福祉の４領域における実践経験をもとに、疾患、障害、対応方法の講義を行う

授業科目名	ED221U 心理学統計法			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	松尾　藍						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、子ども教育学科の心理学・教育科学科目であり、心理学（特に心理統計学）を学ぶ体系として位置づけられる。統計学は人の行動や心のはたらきだけでなく、社会のさまざまな事象を理解するための有益なツールである。近年は、ビジネスの現場においても統計学の知識や分析手法を習得していることが求められる。本科目では、統計学の基本的な考え方と活用方法を身につけることを目指す。	①統計に関する基礎的な知識および心理学で用いられる統計手法を理解して適切に使用できる。 ②統計に関する基礎的な知識を用いて数量データを集計し、正確に読み解くことができる。 ③データに対して適切な分析手法を選択して実施するスキルを身につけている。

教授方法	講義を中心に実習も取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：心理学統計法とは何か、本科目を学ぶ意義について考える。	
2	記述統計の基礎：データとは何かを学び、度数分布表などデータの図表化について理解する。	
3	代表値：データの分布の特徴を中心傾向から表現する。	
4	散布度：データの分布の特徴をデータの散らばりから表現する。	
5	相関と相関係数：２つの変数が関連している度合いを表現する。	
6	クロス集計表と連関係数：クロス集計表のつくりかた、２つの変数が関連している度合いを示すもう一つの指標を学ぶ。	
7	母集団と標本：母集団と標本の関係、標本抽出について知り、統計的推測の基本を学ぶ。	
8	さまざまな分布（１）：正規分布をはじめとするさまざまな理論分布を学ぶ。	
9	さまざまな分布（２）：標本分布について学ぶ。	
10	推定・信頼区間：点推定と区間推定の方法を学ぶ。	
11	統計的検定（１）：統計的検定はどのような考え方にもとづいて行われているのかを学ぶ。	
12	統計的検定（２）：有意水準、両側検定と片側検定など、統計的仮説検定に関わる概念を学ぶ。	
13	統計的検定（３）：1つの平均値の検定を例に統計的仮説検定の手順とその実際を学ぶ。	
14	カイ二乗検定：クロス集計などで得られた度数を分析する方法を身につける。	
15	まとめ：講義全体の振り返りとともに、日常生活における身近な統計活用事例を考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	60	講義内容に関する筆記テストを行い、内容の理解度を評価する。	提出物	40	振り返りシートなど、各授業回の提出物の提出状況とその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習：教科書（各回の授業内容に該当する箇所）をあらかじめ読み、内容の理解に努めると共に、疑問点をまとめておく。[30分/回] ②事後学習：授業で配布する資料等を活用し、授業内容を復習する。[60分/回] ③その他、テレビや新聞、雑誌、インターネット、商業広告等、日常生活の中にある統計情報に積極的に触れ、そこで示されているデータを、授業内容と照らし合わせて適切に読み取るように習慣づける。	各授業回の提出物については、次回授業の冒頭に講評やフィードバックを行う。

受講生に望むこと	「世の中には３つの嘘がある、嘘、まっかな嘘、そして統計」こんな言葉があるように、私たちは、しばしば数字に惑わされる。データサイエンスが重視される現代社会を生き抜くために、本科目で解説する基礎的な統計リテラシーをしっかりと身につけてほしい。	教科書・テキスト	『よくわかる心理統計』山田　剛史・村井　潤一郎 著 ミネルヴァ書房　2004年　ISBN：9784623039999
指定図書／参考書等	指定図書なし。 参考書については、授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ED231U 心理学実験Ⅰ			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	加藤　仁・松下　健　(代表教員　加藤　仁)						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				

授業の概要	授業の到達目標
心理学研究を進める上で，必要とされる各種実験手法について，その基礎的知識獲得から実施までを，実習をとおして学びます。各実験後に実験レポートを作成してもらいます。	①実験計画の方法に習熟している。 ②実験器具の取り扱いを習得している。 ③実験で得られたデータの分析方法に習熟している。 ④実験レポートを的確に書くことができる。

教授方法	グループで各実験種目を実施する。その後，実験について解説を行い，データの分析，レポートの作成を行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方の説明を行う。心理学実験についての基礎的な知識を説明する。	加藤・松下
2	面接場面における面談者と来談者の言語行動：面接場面の観察から言語行動を分析する手法の解説。	松下
3	ミューラー・リヤー錯視（長さの錯視）：錯視の実験実習を行う。	加藤
4	「ミューラー・リヤー錯視（長さの錯視）」　レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説，分析の実施方法，レポートの書き方の指導を行う。	加藤
5	P-Fスタディ：投影法による心理の理解という観点から実習を行う。	松下
6	「P-Fスタディ」　レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説，分析の実施方法，レポートの書き方の指導を行う。	松下
7	触二点閾：皮膚感覚のありようを理解するための実験実習を行う。	加藤
8	「触二点閾」　レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説，分析の実施方法，レポートの書き方の指導を行う。	加藤
9	SD法：SD法の実験の実習を行う。	松下
10	「SD法」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説，分析の実施方法，レポートの書き方の指導を行う。	松下
11	鏡映描写：鏡に映された図形を見ながら，その図形を描くという課題に取り組む。	加藤
12	「鏡映描写」　レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説，分析の実施方法，レポートの書き方の指導を行う。	加藤
13	パーソナル・スペース：パーソナル・スペースの心理的効果についての実験の実習を行う。	加藤
14	「パーソナル・スペース」　レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説，分析の実施方法，レポートの書き方の指導を行う。	加藤
15	実験を含む，心理学の研究法について振り返る	松下

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実験レポート	90	各種目で提出されたレポートの内容により評価を行う（計 7 本）。レポートとして重要な点は授業内に提示する。	授業参加態度	10	実験とデータ処理に取り組む姿勢等の参加態度をみる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①多様な種目が用意されているので，種目ごとに自分でその分野のテキストや先行研究を当たり，知識を深める。［90分］ ②各実験とも，実験レポートを作成し，次回の授業の時に提出する。［90分］ ③添削されたレポートによって復習する。［30分］	提出された実験レポートを添削した上で返却する。

受講生に望むこと	評価はレポートにより行われるが，実験実習であるため，すべての回に出席・参加することが原則となる。また，授業時以外に自分で調べ，レポートを書き進めることで実験レポートを書く力が身につくので，授業への積極的な態度が求められる。他の講義や自習により統計学について十分修得しておくこと。	教科書・テキスト	『心理学実験法・レポートの書き方』　西口利文・松浦均（編）　ナカニシヤ出版　2008年　ISBN 978-4-77-950237-8
指定図書／参考書等	なし/『実践心理データ解析―問題の発想・データ処理・論文の作成―改訂版』 田中敏　新曜社　2006年　ISBN 978-4-78-851012-8　その他種目ごとに適宜授業内にて提示することがある。	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する。

実務経験を活かした授業の概要

松下：実務に活用できる行動科学の基本的な発想，研究法，分析法，古典的な研究，成果のまとめ方を演習により学ぶ

授業科目名	ED251U 心理学実験Ⅱ			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	加藤　仁・齊藤　英俊・松尾　藍　（代表教員　加藤　仁）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				

授業の概要	授業の到達目標
本実習は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。「心理学実験実習Ⅰ」に引き続き、心理学研究を進めるうえで必要とされる実験手法と実験計画の方法を、実習を通して学ぶ。本実習は、基礎的なものからやや応用的なものまで多様な手法を含んだ実習内容となっている。実験の枠組みの理解とともに実験器具の取り扱いの習得も目指す。	①実験計画の方法を理解する。 ②実験器具の取り扱いを習得する。 ③実験で得られたデータの分析方法を習得する。 ④実験レポートの書き方に習熟する。

教授方法	グループで各実験種目を実施する。その後，実験について解説を行い，データの分析，レポートの作成を行う。
履修条件	心理学実験実習Ⅰの履修済みが望ましい（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方の説明を行う。心理学実験についての基礎的な知識を確認する。	加藤・齊藤・松尾
2	一対比較法：一対比較法の実験の実習を行う。	加藤
3	「一対比較法」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説，分析の実施方法，レポートの書き方の指導を行う。	加藤
4	単語記憶の再生：単語の記憶と系列位置効果に関する実験の実習を行う。	松尾
5	「単語記憶の再生」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説，分析の実施方法，レポートの書き方の指導を行う。	松尾
6	Y-G性格検査：投影法による心理の理解という観点から実習を行う。	齊藤
7	「Y-G性格検査」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説，分析の実施方法，レポートの書き方の指導を行う。	齊藤
8	自己制御：自己制御の実験の実習を行うことで，実験操作の考え方について理解する。	加藤
9	「自己制御」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説，分析の実施方法，レポートの書き方の指導を行う。	加藤
10	顔面フィードバック：表情からの顔面フィードバックプロセスに関する実験の実習を行う。	松尾
11	「顔面フィードバック」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説，仮説の立て方，分析の実施方法，レポートの書き方の指導を行う。	松尾
12	社会的態度：社会的態度を測定するための手法を用いた実験の実習を行う。	齊藤
13	「社会的態度」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説，分析の実施方法，レポートの書き方の指導を行う。	齊藤
14	ストループ効果：ストループ効果のありようを理解するための実験の実習を行う。	加藤
15	「ストループ効果」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説，分析の実施方法，レポートの書き方の指導を行う。	加藤

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業内レポート	90	各種目で提出されたレポートの内容により評価を行う（計 7 本）。レポートとして重要な点は授業内に提示する。	実習への参加度	10	実験を行うにあたって担当者の指示を理解し，着実に実行されているかをみる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①種目ごとにテキストや配布されたプリントをよく読み，実験内容の理解を深める。［45分］ ②各実験種目のレポートを作成する。［120分］ ②各種目で適用された分析方法を復習する。［30分］ ③返却されたレポートを見直し、修正する。［30分］	各種目についてのレポートは，添削終了後返却し，コメントを行う。

受講生に望むこと	評価はレポートにより行われるが，実験実習であるため全ての回に出席・参加することが原則となる。また，授業時以外に自分で調べ，レポートを書き進めることで実験レポートを書く力が身につくので，授業への積極的な参加態度が求められる。	教科書・テキスト	『心理学実験法・レポートの書き方』 西口利文・松浦均（編） ナカニシヤ出版 2008年 ISBN 978-4-7795-0237-8
指定図書／参考書等	なし／種目ごとに適宜授業内に提示する。	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ED226U 心理学研究法			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	松尾　藍						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、子ども教育学科の心理学・教育科学科目であり、心理学を学ぶ体系に位置づけられる。心理学は、目には見えない「心」を扱う学問分野である。そのような「心」を科学的に理解するためには、適切な方法論が必要不可欠である。本科目では、直接観察できない心のはたらきに科学的にアプローチするための心理学の方法論を概説する。そのうえで、受講生には実際に研究計画の立案に取り組んでもらう。	①心理学における実証的研究法、具体的には実験法と観察法を中心とした量的・質的研究の基礎知識を習得する。 ②データを用いた実証的な思考方法を身につける。 ③研究倫理を理解し、実践することができる。

教授方法	講義を中心に実習を取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：「心理学研究法」を学ぶ意義について考える。	
2	科学と実証：実証するとはどういうことか、因果関係と相関関係の違いを学ぶ。	
3	実証の２つの手続き：実験法と観察法のそれぞれの特徴や違いを概観する。	
4	実験法（１）：実験法の基本的な考え方について学ぶ。	
5	実験法（２）：原因をどのように作り出すか、独立変数の操作を学ぶ。	
6	実験法（３）：結果をどのように取り出すか、従属変数の測定を学ぶ。	
7	実験法（４）：原因を見誤らないために、剰余変数の統制を学ぶ。	
8	実験法（５）：質問紙実験やフィールド実験など、様々な実験法を学ぶ。	
9	中間テストとその解説：第１～８回の内容の理解度を問うテストを実施するとともに、前半の内容を振り返る。	
10	観察法（１）：観察法の基本的な考えについて学ぶ。	
11	観察法（２）：観察による心理学的研究を行う際の留意点について学ぶ。	
12	研究倫理：心理学研究に特有の倫理問題を学び、心理学研究に必要な倫理的配慮を理解する。	
13	研究計画の立て方　研究計画を実際に立てる際の手法と留意点について学ぶ。	
14	研究計画の実際（１）：具体的に研究計画を考える実践にとりくみ、これまでに学んだ内容を振り返る。	
15	研究計画の実際（２）：具体的な研究計画をまとめる実践をおこない、これまでに学んだ内容を振り返る。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	40	第14～15回で立てた研究計画をレポートにまとめて提出を求める。レポートに授業で学んだ内容が反映されているかを評価する。	中間テスト	40	講義前半で学んだ内容に関する筆記テストを行い、内容の理解度を評価する。
提出物	20	振り返りシートなど、各授業回の提出物の提出状況とその内容を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習：教科書（各回の授業内容に該当する箇所）をあらかじめ読み、内容の理解に努めると共に、疑問点をまとめておく。[30分/回] ②事後学習：授業で配布する資料等を活用し、授業内容を復習する。[60分/回] ③その他：「心理学研究」など学術雑誌に掲載されている心理学の実証研究論文を、授業内容と照らし合わせながら１本以上読む。[期間を通して合計38時間]	各授業回の提出物については、次回授業の冒頭に講評やフィードバックを行う。中間テストについては、テスト終了後に解説を行う。

受講生に望むこと	自分の興味ある事がらを研究として調べるためには、研究法を正しく理解する必要がある。研究のためには何をする必要があるのか、何をしてはいけないのかを考えながら講義に臨んでほしい。	教科書・テキスト	『心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし 補訂版』高野陽太郎・岡隆 編　有斐閣　2017年　ISBN 978-4-641-22086-7
指定図書／参考書等	指定図書なし。 参考書については、授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ED246U 心理的ｱｾｽﾒﾝﾄ			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	松下　健						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				

授業の概要	授業の到達目標
心理アセスメントの理論、方法、倫理について学ぶ。実際に心理検査（知能検査・質問紙法・投影法等）を体験しながら、実施方法、結果の分析、解釈などアセスメントの実施方法について学習し、得られた検査結果から具体的な支援計画を作成する方法までを修得する。アセスメントを通して状態を把握する力を身につけ、支援計画を作成するスキルも高めていく機会とする。	1)心理的アセスメントの目的と倫理を説明できるようになること。 2)心理的アセスメントの観点と展開を説明できるようになること。 3)心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）を説明できるようになること。 4)心理測定の信頼性と妥当性を説明できるようになること。 5)心理検査を実施、採点、解釈できるようになること。 6)心理アセスメントの適切な記録と報告をできるようになること。

教授方法	講義、演習
履修条件	公認心理師または認定心理士を目指し、かつ統計法および心理学研究法に習熟した者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	心理アセスメントとは何か：心理アセスメントの目的、方法（面接、観察、検査）、倫理	
2	心理測定の基礎、データの尺度水準、分布、代表値、正規分布と確率、標準得点	
3	心理測定の信頼性と妥当性	
4	心理アセスメントと統計解析	
5	質問紙検査、STAIの理論と実施、解釈と所見作成（適切な記録と報告）	
6	性格検査、TEGの理論と実施	
7	性格検査、TEGの解釈と所見作成（適切な記録と報告）	
8	描画法、投映法、バウムテストの理論と実施	
9	描画法、投映法、バウムテストの解釈と所見作成（適切な記録と報告）	
10	知能検査、WAIS-Ⅲ（言語性検査1回目）	
11	知能検査、WAIS-Ⅲ（言語性検査2回目）	
12	知能検査、WAIS-Ⅲ（動作性検査1回目）	
13	知能検査、WAIS-Ⅲ（動作性検査2回目）	
14	知能検査、WAIS-Ⅲ（結果の解釈と所見作成）	
15	総括、心理アセスメントの観点および展開	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	30	講義中の演習や課題に従事すること、積極的に質問、発言すること、他者の発表や意見を聴くこと	課題と発表	30	出された課題を行うこと、小レポートを作成すること、必要に応じて発表すること
期末レポート	40	レポートを書式通りに作成し、期日を守り提出すること			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
心理アセスメントの演習を行うために、心理検査の実施方法を予習して修得すること。[120分] 心理アセスメントの所見を宿題として作成すること。[120分]	講義中に課す小レポートについては返却時に適宜フィードバックする。

受講生に望むこと	公認心理師および認定心理士に関連する科目である。国家資格を目指す者に照準を合わせるため、負担の大きい科目であることを理解し履修すること。	教科書・テキスト	『心理検査の実施の初歩　心理学基礎演習5』　願興寺礼子・吉住隆弘（編）ナカニシヤ出版　2011年 ISBN-13:9784779503870
指定図書／参考書等	なし/『心理テスト―理論と実践の架け橋―』　ホーガン、T．P．（著）繁桝算男・椎名久美子・石垣琢麿（共訳）　培風館　2010年　ISBN-13:978-4563052041	その他・特記事項	・心理アセスメントの演習は他者とペアあるいはグループを作り実施する。予習を行わない場合は他者に迷惑をかけることになるので、大きな減点になる。

実務経験を活かした授業の概要

公認心理師、臨床心理士として、医療、教育、産業、そして福祉の４領域における実践経験をもとに、実践を想定して心理アセスメントの演習を行う

授業科目名	ED256U 人格心理学（感情・人格心理学A）			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤　英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				

授業の概要	授業の到達目標
人間の心理や行動には個人差が存在する。そのような個人差が生まれるメカニズムに関連しているものの1つとして人格（＝性格、パーソナリティ）があげられる。本講義では、心理学の知見を通して人格を捉えるための多様な観点を概観し、人間理解に向けた１つの基本的知識・視点を身につけることを目指す。	①人格を理解するための諸理論を説明できる。 ②人格を測定する方法と、測定における問題点を答えられる。 ③人格の形成過程について説明できる。 ④人格心理学の科学的知見をもとに、人間のパーソナリティについて幅広い視野から考えることができる。

教授方法	講義を中心に性格検査などワークを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション：人格（性格、パーソナリティ）とは何か。人の内面の特徴とされるパーソナリティとはどのようなものか概説する。	
2	類型論：人格をとらえる視点の一つである「類型論」をとりあげ、性格をタイプに分けることの利点と欠点について考える。	
3	精神分析的人格論①：フロイトの精神分析的人格論をとりあげ、人の内面構造に関する理論を学ぶ。	
4	精神分析的人格論②：ユングのパーソナリティ論をとりあげ、人の内面構造に関する理論を学ぶ。	
5	特性論①　その考え方：人格をとらえる視点の一つである「特性論」をとりあげ、人をいくつかの特性からとらえることの利点と欠点を考える。	
6	特性論②　Big Five：パーソナリティは 5 つの主要な性格因子で構成されるとする「Big Five モデル」を学ぶ。	
7	状況論：状況要因や環境要因を重視した「状況論」について学び、人格における状況の影響について考える。	
8	相互作用論：人‐状況論争を経て誕生した「相互作用論」をとりあげ、近年の性格研究の動向について学ぶ。	
10	物語論：物語論（ナラティブ）の視点から人格について考える。	
11	人格の測定と研究法：人格はどのように測定することができるか考える。方法論（質問紙法、投影法、観察法、面接法）を理解し、研究方法について学ぶ。	
12	人格の発達①：一度つくられた人格が変わることはあるか、また人格の成熟とは何かについて考える。	
13	人格の発達②：遺伝や家庭をはじめとする環境が、どの程度、人格の形成に影響しているかを考える。	
14	人間関係と人格：「対人魅力」に関する研究成果をもとに、相手に好かれる性格とはどういったものかについて考える。	
14	文化と人格：東洋と西洋、日本と米国など、異なった文化環境は人格の形成にどういった影響を及ぼしうるかについて考える。	
15	人格の病理：人格における病理にはどのようなものがあるか、またそれらへの対応や治療について考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
各回の授業レポート	30	講義内容に対する意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。	課題レポート	20	授業内容をもとに、課題テーマについて自らの意見や考察が行われているかどうかを評価基準とする。
定期試験	50	「人格心理学」の基礎知識が獲得されている。 「人格心理学」のテーマについて、実証的研究の知見を踏まえて論理的考察がされている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスを読み、授業内容について参考書などで予習をしておくこと。[30分] ②授業の後に各回の講義内容について、関連図書などを用いて復習しておくこと。[40分] ③普段自分が、自分の性格や他人の性格をどのようにとらえているのか意識して生活してみること。 ④授業内で習った理論に基づいて、自分の性格や他人の性格を分析してみること。	①授業レポートについては、対面授業時に振り返りの時間をもちます。 ②課題レポートや定期試験については、希望者に授業内や次学期に内容に関してコメントなど対応します。

受講生に望むこと	性格は身近なものであり、講義内容と自分の性格など自分自身とを結びつけながら受講してほしい。	教科書・テキスト	適宜プリントを配布する。
指定図書／参考書等	なし/詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊（2003）．性格心理学への招待［改訂版］　サイエンス社　ISBN:978-4781910444、榎本博明・安藤寿康・堀毛一也（2009）．パーソナリティ心理学　有斐閣　ISBN:978-4641123779、鈴木公啓編(2012)．パーソナリティ心理学概論　ナカニシヤ出版　ISBN:978-4779506383	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ED306U 社会・集団・家族心理学			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	松尾　藍						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、子ども教育学科の心理学・教育科学科目であり、心理学を学ぶ体系に位置づけられる。人は人との関わりの中で、互いに影響を与え合って生きている。本科目では、こうした「社会的存在」としての人間を理解することを目的に、社会心理学の代表的な理論を概説する。人間の行動を個人と状況との相互作用の産物として捉える社会心理学の視点を身に着けることで、身近な出来事や社会現象を科学的に理解できるようになると期待される。	①社会心理学の基礎知識を習得する。 ②対人関係ならびに集団における人の意識および行動についての心の過程を理解できる。 ③人の態度および行動との関わりを理解できる。 ④家族、集団、文化が個人に及ぼす影響を理解できる。

教授方法	講義を中心に、一部ワークを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：社会心理学とは何か、この科目を学ぶ意義を考える。	
2	対人認知：人の印象がどのように作られるのかを学習し、その印象に基づく他者への理解は正確であるかを考える。	
3	社会的推論：人は物事の原因をどのように推論し、その際どのような間違いを起こしやすいのかを理解する。	
4	態度：態度がどのように決定されるかを学び、人には認知的一貫性を求める基本的性質があることを理解する。	
5	説得：人に命令されるとやりたくなくなるのはなぜか？　説得と態度変容のプロセスを理解する。	
6	社会的自己：他者との関わりのなかで揺れ動く自己について理解する。	
7	対人行動：なぜ人は助け合い傷つけ合うのか、援助行動や攻撃行動のしくみを理解する。	
8	対人関係（１）：関係の成立から、発展、維持、崩壊まで、対人関係のしくみを理解する。	
9	対人関係（２）：家族に焦点を絞り、その特徴や機能について理解する。	
10	コミュニケーション：非言語的コミュニケーションを学び，心地よいコミュニケーションのあり方を考える。	
11	集団と個人（１）：他者の存在が個人にどのような影響を及ぼすのかを理解する。	
12	集団と個人（２）：多くの社会問題や迷惑行為に共通する「社会的ジレンマ」を理解する。	
13	健康と幸福：幸福や健康を支える人間関係を理解するとともに、SNS利用が健康や幸福に及ぼす影響を考える。	
14	文化と人間：文化的自己観を紹介し、心と文化には相互構成的な関係があることを理解する。	
15	まとめ：講義全体の総括を行い、社会的環境を生きる社会的存在としての自分自身を振り返る。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	60	講義内容に関する筆記テストを行い、内容の理解度を評価する。	提出物	40	振り返りシートなど、各授業回の提出物の提出状況とその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習：教科書（各回の授業内容に該当する箇所）をあらかじめ読み、内容の理解に努めると共に、疑問点をまとめておく。[30分/回] ②事後学習：授業で配布する資料等を活用し、授業内容を復習する。また、授業内容を自身の経験や社会問題、社会現象などと照らし合わせながら、ノートにまとめるなどして理解を深める。[60分/回] ③その他，日ごろから新聞やテレビなどの報道に触れ，社会で起こっている出来事に関心をもつ。授業テーマと関連する本を１冊以上読む。[期間を通して合計38時間]	各授業回の提出物については、次回授業の冒頭に講評やフィードバックを行う。

受講生に望むこと	社会は心に影響を及ぼし、そうして影響を受けた心もまた社会に影響を及ぼしていく。こうした心と社会との相互構成的な関係を念頭におき、授業内容と日常生活との接点を見つけ、自分と社会との関わりについて興味・関心を広げてほしい。	教科書・テキスト	『グラフィック社会心理学 第2版』池上知子・遠藤由美 著　サイエンス社　2008年　ISBN：978-4-7819-1191-5
指定図書／参考書等	指定図書なし。 参考書については、授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ED311U 産業・組織心理学			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	松尾　藍						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、子ども教育学科の心理学・教育科学科目であり、心理学を学ぶ体系に位置づけられる。産業・組織心理学は、企業や公的機関など、組織で働く人の心のはたらきと行動を明らかにする学問である。AIの活用やテレワークの導入など働く現場は変化を続け、多様な働き方が求められる今、そこに生きる人間を理解することはこれからますます重要となる。本科目では、産業・組織心理学の代表的な理論を紹介する。	①産業・組織心理学の基礎知識を習得する。 ②組織における人の行動を、心理学の視点から理解できる。 ③職場やキャリア形成に関する問題と必要な支援を理解できる。

教授方法	講義を中心に、一部ワークを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：産業・組織心理学とは何か、この科目を学ぶ意義を考える。	
2	人的資源管理：「雇用」「能力開発」「人事評価」など、働く人の個性や能力を活かす仕組みを理解する。	
3	ワーク・モチベーション：職場における「やる気」はどのように作られ、どのように維持されるのかを理解する。	
4	職場集団のダイナミクス（1）：職場集団の特性について理解する。	
5	職場集団のダイナミクス（2）：チームワークの意義を理解し、優れたチームワークに必要な条件を考える。	
6	職場のコミュニケーション（1）：職場に特有のコミュニケーションの性質や機能を理解し、効果的なコミュニケーションについて考える。	
7	職場のコミュニケーション（2）：集団での意思決定が必要な場面における、人の心の働きを理解する。	
8	職場の人間関係：職場の人間関係の特徴と、そこで生じる対人的葛藤について理解する。	
9	リーダーシップ：代表的なリーダーシップ理論を学習し、優れたリーダーシップのあり方について考える。	
10	消費者行動：消費者がモノやサービスを購入利用するプロセスの特徴を理解する。	
11	職場のメンタルヘルス（1）：　ストレスに関する基本的な概念を学習したうえで、働く人に特有のストレスを理解する。	
12	職場のメンタルヘルス（2）：　ストレスと上手に付き合っていく方法や対処について、個人と組織の双方の視点から理解する。	
13	作業管理・安全管理：仕事の能率や生産性に関わる「作業管理」と、労働災害や産業事故の防止対策に関わる「安全管理」について、理論と実践方法を紹介する。	
14	キャリア発達：キャリア発達に関する主要な理論を学習し、自身が歩んできた道を振り返る。	
15	まとめ：講義全体の振り返りとともに、将来へ向けて、主体的に歩む自身のキャリアを考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	60	講義内容に関する筆記テストを行い、内容の理解度を評価する。	提出物	40	振り返りシートなど、各授業回の提出物の提出状況とその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習：教科書（各回の授業内容に該当する箇所）をあらかじめ読み、内容の理解に努めると共に、疑問点をまとめておく。[30分/回] ②事後学習：授業で配布する資料等を活用し、授業内容を復習する。また、授業内容を自身の経験や社会問題、社会現象などと照らし合わせながら、ノートにまとめるなどして理解を深める。[60分/回] ③その他、日ごろから新聞やテレビなどの報道に触れ、社会で起こっている出来事に関心をもつ。授業テーマと関連する本を１冊以上読む。[期間を通して合計38時間]	各授業回の提出物については、次回授業の冒頭に講評やフィードバックを行う。

受講生に望むこと	産業・組織心理学は、組織で働く人を研究対象としているが、大学生にとっても、アルバイトやサークルといった組織での体験と関連づけて理解することが可能である。授業内容と日常生活との間に接点を見つけ、本科目で学んだ内容を、自身の就職活動やキャリアプランニングに活かしてほしい。	教科書・テキスト	『はじめて学ぶ産業・組織心理学』柳澤さおり・田原直美 編　白桃書房　2015年　ISBN:9784561256557
指定図書／参考書等	指定図書なし。 参考書については、授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ED316U 知覚・認知心理学			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	松尾　藍						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、子ども教育学科の心理学・教育科学科目であり、心理学を学ぶ体系に位置づけられる。知覚・認知心理学は、人が自分自身や自分をとりまく環境について、どのように知覚し処理しているのかを探る学問である。知覚・認知心理学の代表的な理論を学ぶことにより、「人間とはどのような生き物であるか」を知るための、はじめの1歩となることが期待される。	①知覚心理学および認知心理学の基礎知識を習得する。 ②人の感覚・知覚のメカニズムとその障害について理解できる。 ③人の認知・思考のメカニズムとその障害について理解できる。

教授方法	講義を中心に、一部ワークを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：知覚心理学、認知心理学とは何を明らかにする学問なのか、この科目を学ぶ意義を考える。	
2	感覚の基礎：人はどのように周囲の環境から情報を取り入れているのか、感覚の種類と構造について学ぶ。	
3	知覚の基礎：閾や順応など、知覚の基本的特性について学ぶ。	
4	視覚：視覚の基本的なはたらき、運動知覚、奥行き知覚、幾何学的錯視などについて学ぶ。	
5	聴覚：聴覚の基本的なはたらき、音源定位、知覚的補完などについて学ぶ。	
6	様々な感覚：体性感覚や自己受容感覚について、基本的なはたらきを学ぶ。	
7	対象認知：人の知覚、認知の対象は様々であり、物体や顔、絵画、さらには時間まで、様々な対象の知覚、認知を学ぶ。	
8	感覚・知覚の障害：視覚障害、聴覚障害など知覚における障害を学ぶ。	
9	認知の基本特性：情報処理システムとしての人間像を学び、その処理の二方向性を理解する。	
10	記憶（１）：基本的な記憶のメカニズムや知識の構造について学ぶ。	
11	記憶（２）：日常生活の中で経験する出来事の記憶に焦点を絞り、人の記憶が正確であるかを考える。	
12	注意：注意の特徴や種類、注意のはたらきや基本的なしくみについて学ぶ。	
13	思考：推論の特徴、確率判断の特徴やその影響について学ぶ。	
14	認知・思考の障害：認知や思考の障害にはどのようなものがあるのか、神経心理学の知見から学習する。	
15	まとめ：講義全体を振り返るとともに、授業内容と日常生活との接点を考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	60	講義内容に関する筆記テストを行い、内容の理解度を評価する。	提出物	40	振り返りシートなど、各授業回の提出物の提出状況とその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習：各回の事前配布資料をあらかじめ読み、内容の理解に努めると共に、疑問点をまとめておく。[30分/回] ②事後学習：授業で配布する資料等を活用し、授業内容を復習する。また、授業内容を自身の経験と照らし合わせながら、ノートにまとめるなどして理解を深める。[60分/回] ③授業テーマと関連する本を１冊以上読む。[期間を通して合計38時間]	各授業回の提出物については、次回授業の冒頭に講評やフィードバックを行う。

受講生に望むこと	知覚・認知心理学が扱う内容は、日ごろの生活では意識されずに「当たり前」に行われる心のはたらきである。この「当たり前」がなぜ、どのように成立するのか、本当に「当たり前」なのか、それが成立しなくなるとどうなるのかを意識しながら、講義に臨んでほしい。	教科書・テキスト	使用しない。資料を配布する。
指定図書／参考書等	指定図書なし。 参考書については、授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ED321U 感情心理学（感情・人格心理学B）	開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤　英俊・松尾　藍　（代表教員　齊藤　英俊）				
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士		

授業の概要	授業の到達目標
本講義は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。感情とは日常から私たちの生活を彩るものであり、誰しもが経験するものである。その一方で、それがどのようなものであるのかということはなかなかとらえ難いものである。心理学という科学の視点からそれがいかに捉えられるか。また、感情には疾患と診断される部分もあり、その機序と支援の方法を含め、「感情」について全体的に理解することを目指す。	①感情に関する理論及び感情喚起の機序について説明できる。 ②感情が行動に及ぼす影響について説明できる。 ③幸福感や対人不安などの個別の感情についてどのような研究があり、どのようなメカニズムで経験されるかを理解できる。 ④感情の病理について理解し、どのような支援を行うことができるかを考えられる。

教授方法	講義を中心にワークなどを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション　感情心理学とは何を明らかにしようとする学問なのか、この科目を学ぶ意義を考える。	松尾
2	感情とは何か　感情の基礎的な事項を説明し、感情の役割や機能について考える。	松尾
3	感情の理論　感情が生じる仕組みについて、古典的理論を中心に説明する。	松尾
4	感情の生物学的基礎　感情の生物学的基盤である脳と身体について、基礎的な神経生理学的理論を紹介する。	松尾
5	感情がもたらす影響　感情が認知や行動に及ぼす影響を説明する。また、行動経済学の知見を紹介し、人々の生活における理性と感情の役割を考える。	松尾
6	社会を支える感情　人間関係や集団の機能の維持に関わる感情について、進化心理学の視点を交えて説明する。	松尾
7	健康を支える感情　心身の健康を増進させる感情のはたらきを説明する。また、幸福感や畏怖などポジティブ感情の研究を紹介する。	松尾
8	感情の調整　感情が生じる仕組みについて現在主流の２つの理論を説明し、感情とうまく付き合っていくにはどうしたら良いかを考える。	松尾
9	感情の発達　感情について発達の観点から考える。	齊藤
10	精神疾患に関連する感情①　不安：不安感情が行動に与える影響や不安に関連する精神疾患について理解を深め、支援の方法を考える。	齊藤
11	精神疾患に関連する感情②　抑うつ：抑うつ感情が行動に与える影響や抑うつに関連する精神疾患について理解を深め、支援の方法を考える。	齊藤
12	精神疾患に関連する感情③　恐怖：恐怖感情が行動に与える影響や恐怖感情と精神疾患について理解を深め、支援の方法を考える。	齊藤
13	感情の病理への心理的アプローチ①　精神分析的心理療法：精神分析の視点から感情の病理のメカニズムや心理的支援について考える。	齊藤
14	感情の病理への心理的アプローチ②　フォーカシングの視点から感情の病理のメカニズムやその理論について理解を深める。	齊藤
15	感情の病理への心理的アプローチ③　エモーション・フォーカスト・セラピーなどの近年の感情の病理への心理的アプローチの視点から感情の病理のメカニズムやその理論について理解を深める。	齊藤

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	講義の理解がどの程度できているかで評価を行う。	講義への参加態度	30	講義への参加態度と振り返りの内容から評価を行う。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義の際に配布される資料や紹介された文献を読んで、予習復習を行う。［45分］ ②講義で学んだ内容を自分自身や他者の作品（小説、映画、漫画など）にあてはめて具体的に理解する。［30分］	各回での振り返り・リアクションシートの内容について、授業の中でフィードバックを行う。

受講生に望むこと	「授業の概要」でも述べたように、日常経験するものでありながら、科学的・理論的に理解しようとするとそこには困難が多いのが「感情」である。自分自身のみの視点だけでなく、広い視野でとらえられるように励んでもらいたい。	教科書・テキスト	特に指定しない。適宜資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／講義の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ED326U 心理学的支援法			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	加藤　仁						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				

授業の概要	授業の到達目標
「代表的な心理療法の基礎知識」のみならず，「コミュニケーションの技法」、「訪問・地域支援」、「プライバシーへの配慮」、「支援者への支援」、「心の健康教育」等の心理学的支援にまつわる様々なトピックについて、事例に基づくディスカッションやロールプレイ等を交えながら体験的に学習する。第15回では全体を振り返り、個別の支援だけが心理学的支援ではなく包括的な視点に立って適切なアプローチを想定するための考え方についても学習する。	様々な心理学的支援の技法に触れることで学派にとらわれない心理学的支援法の理解を深めること、体験的な学習を通じて心理学的支援の在り方を自ら考え、クライエントやクライエントを支える周囲の人々にとってより適切な支援の方法を考えられるようになることを目標とする。

教授方法	講義形式で行う。必要に応じてペアワーク・グループディスカッションを通じた体験的な学習、ビデオ視聴も行う
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	心理学的支援とは？：心理学的支援の概念とあり方について概観し、全体像を理解する。	
2	カウンセリング：カウンセリングの基本的な概念、カウンセリングマインド、カウンセリングのプロセス、カウンセリングに伴う問題について理解する。	
3	コミュニケーションの技法：良好な人間関係を築き信頼関係を醸成するための関わりを学ぶ。	
4	精神分析的心理療法：精神分析の基礎的な考え方および治療同盟・転移／逆転移・治療抵抗など心理療法の重要な概念について理解する。	
5	行動療法・行動分析：行動療法の成り立ちと理論、現代の行動療法的アプローチについて理解する。	
6	認知療法・認知行動療法：認知療法の考え方、認知行動療法の現在について理解する。	
7	パーソンセンタードアプローチ：様々な人間性心理学的アプローチの技法とその考え方について理解する。	
8	集団精神療法：集団精神療法をはじめとしたグループアプローチの技法とその考え方について理解する。	
9	家族療法：システムズアプローチの考え方と治療プロセスについて理解する。	
10	芸術療法・遊戯療法：芸術を利用した表現技法やプレイセラピーについて体験を通じて理解する。	
11	訪問による支援や地域支援：コミュニティアプローチ、アウトリーチの考え方について理解する。	
12	関係者への支援：援助者への援助の方法とコンサルテーションの在り方について理解する。	
13	心の健康教育：ストレスマネジメントや予防教育について、その実践例の体験を通じて理解する。	
14	プライバシーへの配慮：心理学的支援に伴うプライバシーの問題と倫理的配慮のあり方について理解する。	
15	心理学的支援の包括的視点：様々な支援法を概観し、問題に対してエビデンスに基づく包括的な視点をもってアプローチすることの重要性について振り返る。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	60	期末レポートのテーマや出題形式、配点等については、授業内で周知する。	振り返りシート	40	毎回の授業後に記入する、授業への取り組みの振り返りおよびコメントを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業内でペア・グループワーク等を実施した場合には、各種心理学的支援に関して自らがどのように感じたか、あるいはどのような場合に効用が発揮されるかを振り返って考えながら授業に臨むこと。その他、配布資料や参考書、授業で紹介する文献を用いて予習・復習を自発的に行うこと。［30分程度］	振り返りシートを通じてあがった意見や質問を取り上げ、授業時に全体に向けてフィードバックする。 期末レポートは次学期はじめに内容に関するコメントを全体にするとともに、希望者に対して個別にフィードバックを行う。

受講生に望むこと	実際にカウンセリングや心理療法で用いる技法を学ぶ実践的な授業であるため、ペアワークやグループワークがある場合は積極的に参加するとともに、授業内での質問や発言を求める。	教科書・テキスト	教科書は特に定めず、教員が作成した資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／『心理療法ハンドブック』乾吉佑・氏原寛・亀口憲治他（編）創元社，2005年，ISBN-13：978-4422113265	その他・特記事項	授業中にWebサイト等を利用して意見聴取・全体へのフィードバックを行う。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ED327U 学校心理学（教育・学校心理学）			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	上農　肇						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				

授業の概要	授業の到達目標
教育現場における諸問題についてその実情を学び、問題状況の解決を援助する「心理教育的援助サービス」の実践を支える学校心理学の理論と方法について解説する。教育現場における種々の心理社会的課題とその支援の実際について例を挙げて解説する。	①教育現場において生じる問題とその背景を説明できる。 ②教育現場における心理社会的課題及び必要な支援を説明できる。

教授方法	講義を中心とするが、エクササイズやワーク、ディスカッションを取り入れる。
履修条件	認定心理士を目指す者が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（教育・学校心理学を概観し、実際の教育現場での様々な課題について知る）	
2	教育現場での心理教育的援助サービスの実践とそのための援助者（ヘルパー）を理解する。	
3	子どもをめぐる課題①（不登校）の実情とその支援について理解する。	
4	子どもをめぐる課題②（いじめ）の実情とその支援について理解する。	
5	子どもをめぐる課題③（発達障害）の実情とその支援について理解する。	
6	子どもをめぐる課題④（ネット・ゲーム依存）の実情とその支援について理解する。	
7	子どもをめぐる課題⑤（精神疾患・非行・その他）の実情とその支援について理解する。	
8	教師・学校をめぐる課題（教師のバーンアウト・危機介入・その他）の実情とその支援について理解する。	
9	家庭・地域をめぐる課題（児童虐待・貧困・その他）の実情とその支援について理解する。	
10	心理教育的援助サービスの方法①（アセスメント）について理解する。	
11	心理教育的援助サービスの方法②（カウンセリング）について理解する。	
12	心理教育的援助サービスの方法③（コンサルテーション・コーディネーション）について理解する。	
13	学校心理学を支える心理学的基盤（発達心理学、教育心理学、臨床心理学等）について理解する。	
14	学校心理学を支える学校教育的基盤（学校組織と教育制度、教育関連法規等）について理解する。	
15	まとめ（教育現場での諸問題について概観し、専門的ヘルパーとして教育現場にかかわる場合の義務と役割について考える ）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート課題	60	指定したテーマについてのレポートを提出する。	授業時課題	30	各実施回の振り返りシートの提出と内容について評価する。
授業への参加態度	10	授業中のエクササイズやワーク、ディスカッションへの取り組み方を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[90分]	提出されたレポートは、評価を行い返却する。

受講生に望むこと	認定心理士に関連する科目である。資格を目指す者に照準を合わせるため、講義内容を理解するための相応の受講態度を求める。	教科書・テキスト	『学校心理学ハンドブック［第2版］チーム学校の充実をめざして』　日本学校心理学会編　教育出版　2016 ISBN978-4-316-80312-8
指定図書／参考書等	なし/『生徒指導提要』　文部科学省　教育図書　2010 ISBN978-4-87730-274-0	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ED336U 障害者・障害児心理学			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	加藤　仁						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				

授業の概要	授業の到達目標
現代の様々な障害について、その原因・頻度・治療・リハビリテーションに関わる基本的知識や利用できる社会資源について概観し、障害および障害児／者に対する理解を深める。また、障害児／者が社会の中でよりよく生きることを支援する姿勢を身につけるために、ペア・グループワークやロールプレイ等のアクティブラーニングを通じた体験的学習を行う。	1．身体障害、知的障害および精神障害など障害に関する知識を身につけ、障害児／者への理解を深める。 2．障害児／者を取り巻く心理社会的課題と支援について学習し、適切な支援の心構えを身につける。

教授方法	講義形式で行う。必要に応じてペアワーク・グループディスカッションやビデオ視聴を行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション／障害とは？:国際社会における障害概念の捉えられ方とその変遷について理解する。	
2	障害と心理学：障害と心理学との関連について、障害に対するイメージや人々の意識の傾向を理解する。	
3	身体障害：視覚・聴覚・言語・内部障害や肢体不自由などの身体障害について理解する。	
4	知的障害：知的障害の定義と判定基準、アセスメントの方法について理解する。	
5	精神障害：不安症関連の障害、うつ病関連の障害、精神病性障害など主要な精神障害について理解する。	
6	行動・情緒障害：発達プロセスでみられる行動障害、情緒障害について概観し、その支援について理解する。	
7	発達障害（1）：自閉症スペクトラム障害：発達障害の概念、診断基準の変遷を概観し、自閉症スペクトラム障害の基本的な概念と支援について理解する。	
8	発達障害（2）注意欠如・多動性障害、局限性学習障害：注意欠如・多動性障害、局限性学習障害の基本的な概念と支援について理解する。	
9	障害児の支援（1）：応用行動分析：応用行動分析の概念および基本的な考え方と障害児への支援について理解する。	
10	障害児の支援（2）：ペアレントトレーニング：応用行動分析の考え方に基づいた、障害児の保護者への支援方法について理解する。	
11	障害受容のプロセス／障害の理解：障害受容過程における反応とそれに応じた心理学的支援について理解する。	
12	保健・医療における課題と支援：認知行動療法などの治療法と心理的アセスメントについて理解する。	
13	福祉・教育における課題と支援：障害者福祉施設、特別支援教育や通級指導など幼稚園・学校における支援について理解する。	
14	保護者や家族の理解と支援：障害児／者の保護者および家族への支援のあり方について理解する。	
15	コミュニティ支援／障害児・者支援のこれから：障害児／者を取り巻く環境へのアプローチとこれからの支援について考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	60	期末レポートのテーマや出題形式、配点等については、授業内で周知する。	振り返りシート	40	毎回の授業後に記入する、授業への取り組みの振り返りおよびコメントを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回取り扱うテーマについて、自身の日常的な経験を振り返り、障害について自分なりの考えをもっておくこと。また、配布資料や参考書、授業で紹介する文献を用いて予習・復習を自発的に行うこと。［30分程度］	振り返りシートを通じてあがった意見や質問を取り上げ、授業時に全体に向けてフィードバックする。 期末レポートは次学期はじめに内容に関するコメントを全体にするとともに、希望者に対して個別にフィードバックを行う。

受講生に望むこと	本授業では、障害に関する基本的な知識だけでなくその支援の視点を身につけることを目的としている。障害を取り巻く問題について積極的に考え、自分なりの考えをもつ姿勢を求める。	教科書・テキスト	教科書は特に定めず、教員が作成した資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／『障害者心理学』太田信夫（監修）北大路書房，2017年，ISBN-13：978-4762829840	その他・特記事項	授業中にWebサイト等を利用して意見聴取・全体へのフィードバックを行う。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ED331U 心理演習			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤　英俊・松下　健　(代表教員　齊藤　英俊)						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
心理面接の流れ、構造、理論、技法、アセスメント、法的義務、倫理について学習する。これまでに学習した心理学の講義内容を基にさらに理解を深め、演習を通じて技術を修得する。	1)心理面接の流れ、構造、理論、技法、アセスメント、法的義務、倫理を説明できること。 2)心理面接に必要な技術を修得すること。

教授方法	演習、講義。
履修条件	心理学教員が合議の上、履修を認めた者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション：心理職における心理面接の役割	松下・齊藤
2	心理面接の特徴（治療構造など他の面接との共通点や相違点）	齊藤・松下
3	心理面接の開始（初回面接、受理面接）と終了（終結、中断など）	松下・齊藤
4	多職種連携および地域連携	松下・齊藤
5	基本的な傾聴スキル	齊藤・松下
6	心理面接の基礎（マイクロカウンセリング）	齊藤・松下
7	精神分析的心理療法における心理面接	齊藤・松下
8	精神分析的心理療法の心理面接のプロセス	齊藤・松下
9	クライアント中心療法の心理面接	齊藤・松下
10	フォーカシング指向心理療法の心理面接	齊藤・松下
11	行動療法の心理面接	松下・齊藤
12	認知行動療法における心理面接	松下・齊藤
13	認知行動療法の心理面接のプロセス	松下・齊藤
14	その他の心理療法（風景構成法）の心理面接	松下・齊藤
15	心理面接の効果と課題	松下・齊藤

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小レポート	30	講義において小レポートを課す。講義内容を踏まえ、自己の意見を論理的に記述すること。	講義参加態度	30	グループワークやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
与えられたテーマについて予習すること。[60分] 各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[60分] 学んだ内容を修得するよう練習すること。[60分]	小レポートは返却時にフィードバックする。期末レポートについては、次学期始めに適宜フィードバックする。

受講生に望むこと	公認心理師を目指す上で心理実習と同等の重要性を持つ科目である。努力の量ではなく結果を求められることを理解したうえで履修すること。	教科書・テキスト	講義開始時に適当なテキストが出版されている場合は、テキストを指定する可能性がある。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	・履修者数に制限のある科目である。心理学教員が合議の上、履修を認めた者のみ受講できる。学業成績と生活態度が優れ、かつ適性のある者のみ履修が認められる。 ・Google Classroomを通じて課題などを提示する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

齊藤：践の経験をもとに、事例などをテーマにしたワークやディスカッションを通して心理面接の演習を行う。
松下：公認心理師、臨床心理士として、医療、教育、産業、そして福祉の４領域における実践経験をもとに、実践を想定して面接の演習を行う

授業科目名	ED341U 選択音楽			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	武田　恵美						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
「音楽」及び「音楽表現Ⅰ,Ⅱ」で身に付けた知識や技術をさらに高める授業である。歌唱や器楽の土台となる音楽理論や様々な楽器の奏法、指揮法についても学ぶ。また、保育現場や小学校の授業で必要とされる歌唱教材の弾き歌いや伴奏法等を学び、実践的な知識と技術を身に付けることを目的とする。	①様々な楽器の取り扱い方法や奏法を理解する。 ②基礎的な音楽理論の理解を深める。 ③子どものうたや歌唱教材の弾き歌いができるようになる。 ④様々な演奏形態のアンサンブル指導ができるようになる。

教授方法	講義と演習
履修条件	「音楽表現Ⅰ」「音楽表現Ⅱ」「器楽Ⅰ」「音楽」「音楽科教育法」または「保育内容・表現指導法」を履修していることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業計画、到達目標、成績評価の方法等について、シラバスを通して理解する。音楽に関する調査を行う。 視唱・視奏Ⅰ：子どものうた・歌唱曲を視唱・視奏する。	
2	楽典Ⅰ：楽譜の基礎知識を深める。アンサンブルⅠ：有音程打楽器の取扱い及び奏法を学び、実践する。視唱・視奏Ⅱ：子どものうた・歌唱曲を視唱する。	
3	楽典Ⅱ：音名について理解を深める。アンサンブルⅡ：無音程打楽器の取扱い及び奏法を学び、実践する。視唱・視奏Ⅲ：ピアノテクニック曲を視奏する。	
4	楽典Ⅲ：拍子とリズムについて理解を深める。アンサンブルⅢ：器楽アンサンブルを実践する。視唱・視奏Ⅳ：器楽曲を階名唱、視奏する。	
5	楽典Ⅳ：強弱記号について理解を深める。アンサンブルⅣ：イングリッシュハンドベルの取扱い及び奏法を学び、実践する。	
6	楽典Ⅴ：奏法に関する記号について理解を深める。アンサンブルⅤ：イングリッシュハンドベルの奏法を学び、楽曲を練習する。指揮法Ⅰ：４拍子・２拍子の指揮法を習得する。	
7	楽典Ⅵ：様々な楽語について理解を深める。アンサンブルⅥ：イングリッシュハンドベル楽曲を練習する。指揮法Ⅱ：３拍子の指揮法を習得する。	
8	楽典Ⅶ：音程と長音階・短音階について理解を深める。アンサンブルⅦ：イングリッシュハンドベル楽曲を発表する。	
9	楽典Ⅷ：調性について理解を深める。アンサンブルⅧ：アンサンブル楽曲について意見交換する。視唱・視奏Ⅴ：子どものうた・歌唱曲を視唱及びピアノテクニック曲を視奏する。	
10	楽典Ⅸ：和音について理解を深める。アンサンブルⅨ：アンサンブル楽曲の楽曲分析をする。視唱・視奏Ⅵ：子どものうた・歌唱曲を視唱及びピアノテクニック曲を視奏する。	
11	楽典Ⅹ：コードネームについて理解を深める①。アンサンブルⅩ：アンサンブル楽曲の練習①。視唱・視奏Ⅶ：子どものうた・歌唱曲の発表。	
12	楽典Ⅺ：コードネームについて理解を深める②。アンサンブルⅪ：アンサンブル楽曲の練習②。視唱・視奏Ⅷ：様々なリズム伴奏を視奏する①。	
13	楽典Ⅻ：即興演奏について学ぶ。アンサンブルⅫ：アンサンブル楽曲の練習③。視唱・視奏Ⅸ：様々なリズム伴奏を視奏する②。	
14	アンサンブルⅩⅢ：アンサンブル楽曲の練習④。発表及び講評。視唱・視奏Ⅹ：即興演奏の例題を視奏する。	
15	アンサンブルⅩⅣ：アンサンブル楽曲を発表する。視唱・視奏Ⅺ：即興演奏を発表する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	受講態度、課題への取り組みと内容。（「受講生に望むこと」欄を参照）	発表	40	発表への取り組みと内容。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義内容について自身で振り返り、疑問点や不明点を調べて下さい。[30分] ②次回授業のための課題について準備をして下さい。[60分]	コメント又は個別指導をします。

受講生に望むこと	①毎授業で出される課題に積極的に取り組んで下さい。 ②個人で行う課題とグループで行う課題がありますので、グループワークはチームワークよく課題に取り組んで下さい。	教科書・テキスト	『幼児のうた楽譜集』小林美実編、東京書籍 、2014年、ISBN978-4-487-71121-5／『楽しい音楽表現』高御堂愛子・植田光子・木許隆監修・編著、圭文社、2017年、ISBN978-4-87446-067-2／『Basic and Variations』、木許隆, 武田恵美, 長井典子編著、圭文社、2022年3月出版予定　ISBN978-4-87446-067-2／プリント
指定図書／参考書等	なし／『うたのファンタジー 』木許隆監修・編著、圭文社、2017年、ISBN978-4-87446-064-1／『保育者、教員をめざす人のための 初級ピアノ・テクニック速習ステップス』木許隆監修、音楽之友社、2015年、ISBN978-4-276-82073-9／『音楽の基礎 改訂版』木許隆監修、圭文社、2018年、ISBN978-4-87446-066-5	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ED351U 教育史			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
教育の歴史を通して過去の様々な思想や出来事について知るとともに、現代の教育にどのように反映されているか考える。このことは未来の教育について考えることにもつながる。本科目はこのような視点で、先に西洋における教育史について学ぶ。次に日本における教育史について学ぶ。これによって、日本の教育はヨーロッパやアメリカの影響を受けながら現代に至っていることが分かる。さらにAI時代における子どもの非認知能力の高め方について考える。	①西洋の教育史：古代ギリシャから現代までの西洋の教育史について理解している。 ②日本の教育史①：江戸期から大正期までの日本の教育史について理解している。 ③日本の教育史②：現代の日本の教育の現状をもとに未来の教育について自分なりに考えることができる。

教授方法	講義
履修条件	幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状（英語）の取得を希望する者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業内容を概観し評価方法について理解する。）／古代ギリシャ・ルネサンス期の教育者（ソクラテスやコメニウスの教育思想について知る。）	
2	近代国家の形成と教育学（ロックの紳士教育論やルソーの消極教育について知る。）	
3	近代教育学の確立（ペスタロッチのメトーデ、ヘルバルトの四段階教授、フレーベルの恩物について知る。）	
4	社会と教育／労働と教育（デュルケームの「社会科学育」を中心に考える。／ケルシェンシュタイナーの労作学校、クルプスカヤの総合技術教育について考える）	
5	新教育運動の成立と展開①（エレン・ケイの児童の世紀、デューイの経験主義教育論について考える。）	
6	新教育運動の成立と展開②（モンテッソーリの感覚教育について考える。）精神科学的教育学の潮流（ボルノウの実存哲学について考える。）	
7	現代における教育の思想（ブルーナーの動機付け、イリイチの脱学校論などについて知る。）	
8	日本の社会の成り立ちと人間形成（日本における近世社会の成り立ちと多様化する教育機関について知る。）	
9	日本の近世の教育思想と教育家（貝原益軒のメディア活用、広瀬淡窓のの能力主義、吉田松陰の情熱と感化の教育思想について知る。）	
10	明治期の教育思想（明治期の福沢諭吉の教育思想について知るとともに「学問のすゝめ」の意義について考える。）	
11	国民教育制度と国家主義路線（明治期の国民教育制度や教育における国家主義について考える。）	
12	大正新教育の思想と実践①（及川平治の教授法改革、木下竹次の学習原理の探究について知る。）	
13	大正新教育の思想と実践②（沢柳政太郎の実際的教育学、小原国芳の全人教育論について知る。）	
14	現代の教育（無着成恭の山びこ学校、中曽根康弘の臨時教育審議会答申内容から現代の教育について考える。）	
15	学習のまとめ（西洋教育史に登場した人物、日本教育史に登場した人物を各複数選んでその関係を含めて説明するとともに自分の考えを入れて期末レポートを作成する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小レポート	35	西洋教育史と日本教育史の特徴を理解している。	学修成果物	30	西洋教育史と日本教育史の人物年表を丁寧に整理して書いてある。
授業態度	15	積極的に授業に臨んでいる。	期末レポート	20	レポートの要件に基づいて作成してある。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業は章ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。［30分］ ②事前に読んだ範囲の人物の教育における業績などをまとめておく（小レポート）。	①小レポートについての質問に応じる。 ②人物年表の整理の仕方について例示して解説する。 ③第15回授業時にそれまでの授業の取り組みについて評価する。

受講生に望むこと	過去の教育史が現在の教育につながっていることを意識して受講してください。	教科書・テキスト	『教育の歴史と思想』石村華代・軽部勝一郎編著、2013年、ミネルヴァ書房、2,500円＋税、ISBN978-4-623-06584-4
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	小レポート課題はClassroomに投稿して提出してください。

実務経験を活かした授業の概要

教育史に見られる教育方法の不易なものについて小学校の教員と議論し、媒体は異なっても教え方には共通性があり、現代のメディアを活用する際のヒントにしている。

授業科目名	ED356U 子どもと法			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	松本　理沙						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
子どもに関する教育・福祉などの各種法規･法令を理解し、その具体的運用の課題、留意点、法律の読み方などを学ぶ。	子ども教育・福祉の理念の理解からはじめ、そこに存在する各種課題の気づきと、子どもを取り巻く環境についてその課題を明らかにする。

教授方法	講義及び演習
履修条件	特になし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	児童福祉法の基本理念を学び、その精神や権利擁護のあり方を理解する。	
2	児童福祉法に定められた各種制度政策にかかる具体的内容を学ぶ。	
3	児童福祉にかかる児童福祉法施行令、児童福祉施設の設備運営に関する基準を学ぶ。	
4	児童虐待防止法の内容を理解し、具体的運用に関する学びを深める。	
5	子ども家庭福祉の関連法律及び児童福祉行財政とその機関、市町村との関係を学ぶ。	
6	児童虐待対応と法律の運用について学ぶ。	
7	児童相談所、家庭裁判所等の機関における法律の運用について学ぶ。	
8	「幼稚園教育要領」の内容を読み解き、教育・保育の理解を深める。	
9	「保育所保育指針」の内容を読み解き、教育・保育の理解を深める。	
10	「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の内容を読み解き、教育・保育の理解を深める。	
11	教育法規とは：教育法規の基礎をなす日本国憲法と教育基本法の内容及び両者の関係について理解する。	
12	学校に関する法規：学校教育に関する法規をもとに学校の種類と目的・目標、学校の設置・管理について理解するとともに、学級編成上の課題について知る。	
13	著作権法と学校教育：著作権法について知るとともに学校教育における著作物の使用上の留意点について理解し、複製利用に関するいくつかの参考事例をもとに討論する。	
14	子どもに関する法規：学校教育上の就学義務の履行、懲戒・体罰、入学・卒業など学校教育上の権利義務について理解し、懲戒・体罰に関するいくつかの参考事例をもとに討論する。	
15	学習のまとめ：「子どもと法」について学んだ内容について振り返り、子どもを取り巻く環境に関する課題や改善点等について自己の考えをまとめる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	60	講義内容の全体像がまとめられている。感想だけに終わらず、意見が述べられている。自らの課題が設定されている。	リアクションペーパー	40	毎回の講義内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらず、意見が述べられている。自らの課題が設定されている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
教育・保育行政にかかる時事問題や課題などについて調べ、自分の意見をまとめる。［30分］	必要に応じて、レポートやリアクションペーパーにコメントする。

受講生に望むこと	子どもに関する法律の学びとは、条文内容を探究的に読み解くことである。法律条文などの背景にある、問題・課題を見いだし、その探求が専門科目群の学び深まりとなっていく。	教科書・テキスト	テキストを使用せず、配付資料等を用いた講義となる。
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ED371U 教育学文献講読A1			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	齊藤　英俊						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
児童精神医学の視点から子どもの「こころ」について書かれた文献を読む。子どもと関わる上で知っておきたいことや発達障害などを通して子どもが育つ上でのむずかしさ、また、子どもを育てる側のむずかしさや社会に出ていくことのむずかしさといった大きく４つの内容の検討を通して、子どもの育ちや子どもを育てる側の思いについて考察してみたい。	①レジュメを作成し、文献の要点を整理し発表することができる。 ②子どもの育ちについて理解している。 ③子どもの発達や子どもを育てる側の思いについて、自分なりの意見を持てるようになる。

教授方法	参加者によるレジュメ作成および発表、ディスカッションを中心に進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	第1章「＜こころ＞をどうとらえるか」	
2	第4章「「精神発達」をどう捉えるか」	
3	第5章「ピアジェの発達理論」	
4	第6章「フロイトの発達理論」	
5	第7章「精神発達の道筋」	
6	第8章「「共有」の発達としての精神発達」	
7	第9章「発達障害とは何か」	
8	第10章「発達障害における体験世界」	
9	第11章「関係発達のおくれにどう支援するか」	
10	第12章「部分的な発達のおくれ」	
11	第13章「子育てをめぐる課題」	
12	第14章「子育て困難の第一グループ」	
13	第15章「子育て困難の第二グループ」	
14	第16章「児童期～思春期をめぐる課題」	
15	第17章「その他の精神医学的な問題」	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加態度	30	ディスカッションでの発言等を評価する。	担当回の発表	40	レジュメの完成度、補足的に調べた内容、発表内容を評価する。
最終レポート	30	文献の内容を踏まえて、子どもの育ちや育てる側の思いについて自らの意見や考察をまとめられているかどうかを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前に各回でとりあげる該当する箇所を読んでおく。[30分] ②発表に向けて、担当個所を読んでレジュメを作成する。必要に応じて、参考書等により補足情報を調べる。[50分]	最終レポートについては、希望者に内容に関するコメントを配布します。

受講生に望むこと	受動的な態度での受講ではなく、積極的な授業参加を期待します。	教科書・テキスト	滝川一廣（2017）．子どものための精神医学　医学書院 ISBN: 978-4260030373
指定図書／参考書等	なし／授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	受講者の人数や理解度に応じて、授業の内容や進め方を修正する場合があります。 Google Classroomを通じて課題などを提示する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ED381U 教育学文献講読B1			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	虫明　淑子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本年度は「保育者の専門性とは何か」をテーマとし、日本の幼児教育・保育学及び心理学分野に多大な影響を与え続ける津守真の理論、実践、思想に学び、保育者の専門性について具体的に検討していくことを目的とする。後半部分は、日本の幼児教育の祖である倉橋惣三の文献から、望ましい幼児教育者としての姿勢について考察する。	①文献内容を整理して要約し、自らの考えを他者に説明する。 ②他者の意見を取り入れながら、自分の考えを再考していく。 ③保育者の専門性について新たに得られた知見を言語化する。 ④保育者の専門性に関する課題について、問いを立てて論じる。

教授方法	演習・討論
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：文献紹介と授業の進め方について	
2	第１章「保育の中に身をおいて」第１～３節からの検討	
3	第１章「保育の中に身をおいて」第４～７節からの検討	
4	第２章「普通の日々：子どもの思いを追って」第１～５節からの検討	
5	第３節「「いま」を充実させる」第１～４節からの検討	
6	第３節「「いま」を充実させる」第５～８節からの検討	
7	第４章「保育の中で発達を考える」第１～３節からの検討	
8	第４章「保育の中で発達を考える」第４～６節からの検討	
9	第４章「保育の中で発達を考える」第７～９節からの検討	
10	第５章「願いや悩みを表現する遊び」からの検討	
11	第６章「保育の地と身体の惰性」第１～４節からの検討	
12	第６章「保育の地と身体の惰性」第５～６節からの検討	
13	第６章「保育の地と身体の惰性」第７～９節からの検討	
14	倉橋惣三「育ての心」の検討	
15	授業のまとめ：保育者の専門性に関する課題について、問いを立てて論じる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業態度	60	文献を事前に読んでいるか。課題意識をもって参加しているか。自ら考えたことを積極的に表出しているか等	レポート・課題・発表等	40	保育者の専門性についての適切な理解が深まっているか、問いを立て論じているか等

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
文献範囲は丁寧に読み、自らの考えをもって討論に参加する準備をする〔60分〕 教科書以外の先行研究（論文）や資料を読む〔90分〕 担当者は討論の範囲を要約する〔120分〕 文献や論文は繰り返して読み、再考する〔60分〕	質問には随時対応する。討論に対するフィードバックは毎回行う。

受講生に望むこと	保育実践を学問的に学びたい学生を希望する。	教科書・テキスト	『保育者の地平―私的体験から普遍に向けて保育者の地平』津守真　ミネルヴァ書房　1997年　ISBN： 978-4623027422
指定図書／参考書等	『育ての心〈上〉』倉橋惣三　フレーベル館　2008年　ISBN ： 978-4577803172 『育ての心〈下〉』倉橋惣三　フレーベル館　2008年　ISBN: 978-4577803189 ／適宜指示する	その他・特記事項	参加者の理解度や疑問点、関心等によって内容や進度を変更して行う場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

幼稚園教諭、管理職、親支援、発達障害支援施設における学習支援員等によって得られた知見を活用し、様々なジャンルの文献に触れ、それぞれの専門性を学ぶ機会にする。

授業科目名	ED393U 教育実践研究A			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	福江　厚啓・金丸　洋子・中野　聡・戸田　教一　（代表教員　福江　厚啓）						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
小学校の学級担任教師には学級の子どもたちをまとめ、学級成員が一丸となって目標に向けて取り組んでいくように導いていく力量、すなわち学級経営力を必要とする。学級が一つにまとまることにより学級生活が豊かになるとともに教科等の学習指導に好影響を及ぼす。そこで、どのように学級経営を行ったらよいか、小学校の教師経験をもつ教員がそれぞれの視点から話題を提供し、学生が自らの理想とする学級経営像をもつことができるようにする。担任が変われば学級経営が変わると言われるように、担任によって学級経営は異なる。各回の授業を通し、各担当教員とともに理想とする学級経営について考えることができるようにしたい。	①学級経営とはなにかについて知る。 ②学級担任はどのようなことを願っているか、自己の小学校時代の経験をもとにしながら考えることができる。 ③学級経営が担任によって異なることを各教員の学級経営方針から理解している。 ④学級経営上の危機管理について事例をもとに考えることができる。 ⑤各回の授業内容をもとに、自分なりの理想の『学級経営』をはっきりさせ、具体的な場面対応について表現することができる。

教授方法	講義
履修条件	小学校一種免許状を取得予定で小学校教員を志望する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業内容を概観し評価方法について理解する。）／学級経営とは（学級経営の大切さを知る。）	福江
2	学級の組織づくり（児童一人一人が生かされる組織について考える。）	戸田
3	学級経営の基礎（「学び合う授業」と「学級づくり」について考える。）	金丸
4	教育実習・学習支援ボランティアを通しての学びや課題について考える。	金丸
5	思いを出せる学級（子どもが安心して思いを出せる学級づくりについて考える。）	福江
6	話を聞ける学級(子どもが互いに聞き合いのできる学級づくりについて考える。）	福江
7	深く考える学級(子どもが物事を深く考える学級づくりについて考える。）	福江
8	学級経営の危機管理１（子どもたちが言うことをきかないとき：通常のクラスでの子どもの課題について考える。）	中野
9	学級経営の危機管理２（クラスでイジメが発生したとき：特別な場合の子どもの課題について考える。）	中野
10	学級経営の危機管理３（モンスターペアレントに出会ったとき：保護者対応での課題について考える。）	中野
11	めざす教師像（教師になりたい自分と教師になるということについて考える。）	金丸
12	めざす学級経営１（自分の目指す学級経営について意見を出し合い考える。）	金丸
13	めざす学級経営２（めざす学級経営を具体化し、留意点について考える。）	金丸
14	めざす学級経営３（めざす学級経営の具体像について実際に見学し、実証的に考える。）	金丸
15	学習のまとめ（学習の振り返りと「私の『学級づくり』アイデア」についてレポートを作成する。）	福江

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	100	講義内容を理解し自分なりの考えを持っている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
学校ボランティア等で小学校に行った際、配属学級の学級経営について観察、記録するようにする。	各教員から適宜レポートを課す。

受講生に望むこと	各回の授業を受けながら「自分だったら」と教師や子どもの立場に立ち自分事として考えることができるようにしてください。	教科書・テキスト	なし（各回適宜資料を配付する。）
指定図書／参考書等	なし／『子どもの力を引き出す学級担任　クラスをきちんとまとめるコツ！』寶迫芳人著、2012年出版、ナツメ社、ISBN 978-4-8163-5184-6 『教師の資質』諸富祥彦著、2013年出版 朝日新書 ISBN 978-4-02-273518-8	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

福江：小学校教諭の経験をもとに、小学校における「学級づくり」の好事例を紹介し、授業づくり、学級づくりのヒントにしている。
中野：小中学校での経験を生かして模擬授業指導案の作成と実践を通して、教師として必要な資質・能力、学び続ける姿勢を身に付けるための指導をしている。

授業科目名	ED396U 教育実践研究B			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	虫明　淑子						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本授業は、日本の幼児教育の先駆者及び開拓者が提唱する思想や理論に学ぶことや国内外における優れた教育実践事例を検討すること等から、保育実践の専門性の１つである「保育をみる目」を養うことを目的とする。受講者には研究的に学ぶ姿勢が求めていく。本授業での学びや姿勢等を自ら積極的に定着させることによって、将来、幼児教育実践者として、地域の幼児教育の質向上に寄与してほしい。	①日本の幼児教育における今日的課題を自らの問題として受け止め、改善に向けるための実践力を身に付けるために主体的探求的に学ぶ。 ②幼児教育者となる上での自己課題を明確にし、改善に向けようとする。

教授方法	講義・演習
履修条件	幼稚園教育実習を履修し、将来、幼児教育実践者として保育現場に従事することが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	これまでの学びを振り返る：幼児教育に関してこれまでにどのようなことを学んできたか、今後どの部分を特に学び直したいか、具体的に考える。	
2	園では一体子どもの何を伸ばせばよいのかについて検討する。	
3	園の空間・時間という場及び園の環境の意義について考える。	
4	幼児教育の原則についての理解を深め、それらについて検討する。	
5	プロジェクト・アプローチの広がりとプロジェクト活動の中心は何かについて考える。	
6	フィールドベースのプロジェクト活動における学びの芽生えと遊びの中に成り立つ学びについて考える。	
7	幼児教育における「質」とはなにか、特に、プロセスの質を向上することの意義について考える。（その１）	
8	幼児教育における「質」とはなにか、特に、プロセスの質を向上することの意義について考える。（その２）	
9	幼小接続課題と幼児期にふさわしい教育について検討する。	
10	幼児教育者としての成長過程ー初任者にとっての保育のあり方について考える。	
11	幼児教育者としての成長過程ー反省的実践と熟達性について考える。	
12	実践的研究者のあり方ー研究的実践者としての記述（記録）の意義について考える。	
13	国内外における先進的幼児教育実践事例から検討する。（その１）	
14	国内外における先進的幼児教育実践事例から検討する。（その２）	
15	授業のまとめ：日本の幼児教育における今日的課題と課題に対する改善のあり方について考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	50	出欠、事前準備の内容、積極的態度を含む幼児教育者に期待される姿勢等	課題・レポート	50	取り組み方（理解度、工夫、問いの立て方、考察の仕方、目の付け所、正確さ、丁寧さ等）

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業に関連する事柄について事前に調べて必要なものを準備する〔120分〕 事後に配布した資料や授業ノートの内容の復習〔60分〕 文献や論文を読んで考えをまとめる〔180分〕 復習〔30分〕	疑問や質問等については随時対応する。

受講生に望むこと	積極的、研究的に謙虚な姿勢で学ぶこと。 様々な文献を読むこと。	教科書・テキスト	『幼児教育の原則ー保育内容を徹底的に考える』無藤隆　ミネルヴァ書房　2009年　ISBN：　978-4623055388
指定図書／参考書等	『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館　2018年 ISBN：9784577814475／適宜紹介する。	その他・特記事項	受講者の関心や理解度等に応じ、内容や日程を随時変更して行う場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

幼稚園教諭、管理職、園内研修指導助言者として複数園において保育実践や園におけるカリキュラム・マネジメントを行ってきた経験によって得られた知見を提示する。その他、園や地域における子育て支援活動や発達障害のある子ども及び保護者への支援活動による実務経験の他、実践研究を論文化した経験や園の保育の質向上を図るマネジメント実践者の経験も活用する。

授業科目名	ET201U 教育実習指導Ⅰ(幼)			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	虫明　淑子・向出　圭吾　(代表教員　虫明　淑子)						
標準履修年次	2年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
教育実習Ⅰ（幼）にかかわる事前・事後の実習指導である。教育実習Ⅰ（幼）と次年度の教育実習Ⅱ（幼）を行う実習の流れの意味を理解しつつ、現場で学ぶ力を養う。	①幼稚園教育及び幼稚園実習の実際、意義について理解する。 ②園の教育理念・方針を把握し、実習生としての心構えを身に付ける。 ③子どもの姿を見取ることや記録の重要性について理解する。 ④実習を行う場合の手順と計画の仕方について理解する。 ⑤実習園と必要な連絡協議をすることができる。 ⑥記録を省察することによる実践の改善の重要性を学ぶことから、自身の課題を明確にする。

教授方法	講義・発表
履修条件	保育原理・教育課程論及び保育内容の各科目を履修済あるいは履修中であることを原則とする。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：幼稚園教育実習ノートの作成について	全員
2	教育及び幼稚園実習の目的、実習生としての心構えとともに幼稚園の教師を目指す者として求められる姿勢について学ぶ。	全員
3	実際の幼稚園の生活や安全上の配慮等の基本的重要事項について学ぶ。	全員
4	幼稚園実習の実際について具体的に理解する。	全員
5	事前訪問の見通しや実践課題の設定等、実習に向けて必要となる事項について理解する。	全員
6	事前訪問や実習に向けての準備をする。	全員
7	幼児の姿をどのようにとらえるか―日常の保育における目の前の幼児の姿の見取り方、教師のねらい等について理解する。	全員
8	実習日誌の書き方等、様々な記録の取り方について理解する。	全員
9	指導実習（部分実習）を行う観点から具体的なイメージもって指導計画を考える。	全員
10	指導案作成と実際の保育とを結び付けて考える。	全員
11	実践を自身で省察し、翌日の保育の改善に努める保育者の姿勢と重要性について理解する。	全員
12	実習園と大学への提出物の内容と期限等を確認し、自身の実習の具体的な流れと今後の実習指導について理解する。	全員
13	直前指導により幼稚園実習に関する最終確認をする。	全員
14	教育実習Ⅰ（幼）の振り返り：実習ファイルの提出、自己評価と今後の課題の明確化	全員
15	実習報告と教育実習Ⅱ（幼）への展望と改善	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	授業内容にある幼稚園教師に求められる姿勢にふさわしい態度で主体的に参加しているかどうか。	レポート・提出物・ノート等	40	課題への取り組み方（理解度、疑問点の克服、工夫、丁寧さ等）
事後課題	20	自己を省察し、自身の改善につなげられているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
質問や疑問点、不明点等について事前に調べる〔30分〕 復習する〔30分〕	必要に応じて個別に面談の時間を設ける。

受講生に望むこと	幼稚園教師としてふさわしい姿勢で受講すること。	教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2018年　ISBN：9784577814475 『幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開』文部科学省　チャイルド本社　2021年 ISBN:9784805402993
指定図書／参考書等	なし／適宜、紹介する。	その他・特記事項	授業計画については日程及び内容を変更して行う場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

虫明：幼稚園にて養成校の学生を受け入れ実習指導を行った経験から、園の実態、環境、指導の重点、１日の生活等の理解、担当学年の発達段階に即した適切な指導計画の立案、それに基づく保育実践、記録による省察、改善の流れが捉えられるようにする。また、教師として望ましい姿勢についても適宜伝える。
向出：幼稚園教諭としての勤務経験をもとに、幼稚園での子どもの生活や遊びを、実際の遊びの模擬保育を通して行っている。

授業科目名	ET301U 教育実習指導Ⅱ(幼)			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	向出　圭吾・虫明　淑子　(代表教員　向出　圭吾)						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
「教育実習Ⅱ（幼）」にかかわる事前・事後の実習指導で、「教育実習Ⅰ（幼）」の単位を修得した学生のみ本科目を履修する。本科目では、まず第一幼稚園及び扇が丘幼稚園での保育観察をもとに、子どもの内面を読み取る力を養うことに重点を置く。次に環境図を利用した記録の取り方、第３者にわかる記録の書き方を指導するとともに、環境図を利用した遊びの指導計画の作成を通して“ねらい”（予想される幼児の学びの内容）を明確にもつ意味を考える。また一日実習の指導計画について考える。実習後は自己評価と実習報告会を通じて自らの現場での姿を振り返り、保育者としての自己課題を明らかにする。	①保育観察を通して、子どもの内面を読み取ることができる。 ②環境図を利用した要領を得た記録を書くことができる。 ③環境図を利用した遊びの指導計画を作成することができる。 ④幼稚園教育要領が示す保育内容を理解し“ねらい”を設定することができる。 ⑤作成した指導計画を模擬実践することができる。 ⑥子どもの内面の読み取り方や遊びの実践について、わかりやすく伝えるための工夫をすることができる。

教授方法	実践・少人数によるグループワーク・グループ協議
履修条件	「教育実習指導Ⅰ（幼）」、「教育実習Ⅰ（幼）」の単位を修得済みであること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	今期の教育実習指導Ⅱ（幼）の流れについて説明する。	全員
2	子どもの内面を読み取り方、それを記述する方法について考える。	全員
3	第一幼稚園・扇が丘幼稚園での保育観察の実践から（１）：拾い出した子どものエピソードやつぶやきをもとにグループワークを行い、エピソードのポイントや記述方法について協議する。	全員
4	第一幼稚園・扇が丘幼稚園での保育観察の実践から（２）：再び拾い出した子どものエピソードやつぶやきをもとにグループワークを行い、エピソードのポイントや記述方法について協議を深め理解する。	全員
5	第一幼稚園・扇が丘幼稚園での保育観察の実践から（３）：拾い出した子どものエピソードやつぶやきをもとにグループワークを行い、子どもの内面の読み取り方について協議する。	全員
6	第一幼稚園・扇が丘幼稚園での保育観察の実践から（４）：再び拾い出した子どものエピソードやつぶやきをもとにグループワークを行い、子どもの内面の読み取り方について協議を深め理解する。	全員
7	遊びの指導計画の作成（１）：各自、事前訪問をもとに考えてきた遊びのプランについて、その“ねらい”の意味を考える。	全員
8	遊びの指導計画の作成（２）：“ねらい”を明確にし、環境図を利用した遊びの指導計画の作成し、教材製作に取り組む。	全員
9	遊びの指導計画の作成（３）：教材製作を行いながら、遊びの指導計画の見直し、改善を行う。	全員
10	遊びの指導計画の作成（４）：製作した教材を使い、模擬実践を行う。その後、さらに見直し、改善を行う。	全員
11	一日実習の指導計画作成：各自作成してきた一日実習の指導計画についてグループワークを行い、補完し合う。	全員
12	子どもの内面の読み取り、記録のポイント、記述の仕方、指導計画の作成等について改めて確認する。	全員
13	直前指導を行うことで、実習に臨む姿勢を改めて自覚し、事後レポートや実習評価についても理解する。	全員
14	幼稚園教育実習Ⅱの振り返りを行い、実習報告会に向けて発表の形式、テーマを設定する。	全員
15	実習報告会：実習を通しての自分たちの学びを、ポイントを絞りわかりやすく伝えるような工夫をして報告を行う。	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	保育観察やグループワーク・協議に積極的に参加しているか。	課題1	30	保育観察での幼児のエピソードやつぶやきを記録し読み取ることができているか。
課題2	30	環境図を利用した遊びの指導計画を、見通しを持った子どもの姿やねらいを明確にして作成できているか。	事後課題	20	実習後の振り返りで得た自己課題をもとに、子どもの内面の読み取り方や遊びの実践について、わかりやすく伝えるための工夫をすることができているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①第一幼稚園や扇が丘幼稚園での保育観察の実践［各60分］ ②教材研究をふまえた教材製作［90分］ ③教材や指導計画の見直し、改善［60分］ ④遊びのプラン、遊びの指導計画、一日実習指導計画の作成［各90分］ ④実習園訪問［60分］ ⑤報告会の準備［60分］	適宜授業内でコメントする。

受講生に望むこと	①保育できるスタイルで授業に臨むこと。	教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館 2018年　ISBN：9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館 2018年　ISBN：9784577814499
指定図書／参考書等	なし／適宜紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

虫明：幼稚園にて養成校の学生を受け入れ実習指導を行った経験から、園の実態、環境、指導の重点、１日の生活等の理解、担当学年の発達段階に即した適切な指導計画の立案、それに基づく保育実践、記録による省察、改善の流れが捉えられるようにする。また、保育者としての姿勢についても適宜伝える。
向出：幼稚園教諭としての勤務経験をもとに、遊びの指導計画の立案に重点を置き、実践、見直し、改善のPDCAサイクルがしっかりできるように、現場でのやり方を取り入れている。

授業科目名	ET206U 教育実習Ⅰ(幼)			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	虫明　淑子・向出　圭吾　(代表教員　虫明　淑子)						
標準履修年次	2年	開講時期	通年	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
教育実習Ⅰ（幼）にかかわる事前・事後の実習指導である。教育実習Ⅰ（幼）と次年度の教育実習Ⅱ（幼）を行う実習の流れの意味を理解しつつ、現場で学ぶ力を養う。	①幼稚園教育及び幼稚園実習の実際、意義について理解する。 ②園の教育理念・方針を把握し、実習生としての心構えを身に付ける。 ③子どもの姿の見取ることや記録の重要性について理解する。 ④実習を行う場合の手順と計画の仕方について理解する。 ⑤実習園と必要な連絡協議をすることができる。 ⑥記録を省察することによる実践の改善の重要性を学ぶことから、自身の課題を明確にする。

教授方法	講義・発表
履修条件	保育原理・教育課程論及び保育内容の各科目を履修済あるいは履修中であることを原則とする。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：幼稚園教育実習ノートの作成	全員
2	教育及び幼稚園実習の目的、実習生としての心構えとともに幼稚園の教師を目指す者として求められる姿勢について学ぶ。	全員
3	実際の幼稚園の生活や安全上の配慮等の基本的重要事項について学ぶ。	全員
4	幼稚園実習の実際について具体的に理解する。	全員
5	事前訪問の見通しや実践課題の設定等、実習に向けて必要となる事項について理解する。	全員
6	事前訪問や実習に向けての準備をする。	全員
7	幼児の姿をどのようにとらえるか―日常の保育における目の前の幼児の姿の見取り方、教師のねらい等について理解する。	全員
8	実習日誌の書き方等、様々な記録の取り方について理解する。	全員
9	指導実習（部分実習）を行う観点から具体的なイメージもって指導計画を考える。	全員
10	指導案作成と実際の保育とを結び付けて考える。	全員
11	実践を自身で省察し、翌日の保育の改善に努める保育者の姿勢と重要性について理解する。	全員
12	実習園と大学への提出物の内容と期限等を確認し、自身の実習の具体的な流れと今後の実習指導について理解する。	全員
13	直前指導により幼稚園実習に関する最終確認をする。	全員
14	教育実習Ⅰ（幼）の振り返り：実習ファイルの提出、自己評価と今後の課題の明確化	全員
15	実習報告と教育実習Ⅱ（幼）への展望と改善	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	授業内容にある幼稚園教師に求められる姿勢にふさわしい態度で主体的に参加しているかどうか。	レポート・提出物・ノート等	40	課題への取り組み方（理解度、疑問点の克服、工夫、丁寧さ等）
事後課題	20	自己を省察し、自身の改善につなげられているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
質問や疑問点、不明点等について事前に調べる〔30分〕 復習する〔30分〕	必要に応じて個別に面談の時間を設ける。

受講生に望むこと	幼稚園教師としてふさわしい姿勢で受講すること。	教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2018年　ISBN：9784577814475 『幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開』文部科学省　チャイルド本社　2021年 ISBN:9784805402993
指定図書／参考書等	なし／適宜紹介する。	その他・特記事項	授業計画については日程及び内容を変更して行う場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ET306U 教育実習Ⅱ(幼)			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	向出　圭吾・虫明　淑子　（代表教員　向出　圭吾）						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
幼稚園教員免許取得のために教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則において定められている教育実習で、本学ではⅠとⅡに分けて行い、「教育実習Ⅰ（幼）」（10日間）と「教育実習Ⅱ（幼）」（10日間）は原則として北陸３県の同一幼稚園で行う。「教育実習Ⅰ（幼）」等で得た実習園の保育に対する理解の上に、子どもの内面の読み取りを重視しながら、遊びの指導計画を作成し実践に用いる自分らしい教材を用意する。必要な素材等の準備とあわせて、子どもと応答的に関わる自身の姿のイメージを持って毎日の実践に臨む。実践を通じて必要な保育技能を向上させるとともに、実践を通じて幼稚園教育への関心を深め、現場における保育者としての研究課題を見出す。	①実習園の保育について理解を深めて実習を準備する。 ②実習前に用意した指導計画・教材を、実習中に観察、実践、協議によって見直し、改善することができる。 ③実習園の教師の一員として、教職員の動きから状況を読み取り、適宜、教職員に確認、報告して行動する。 ④個々の子どもに対し、内面を読み取り自分なりの理解に基づいて意図的に関わる。 ⑤毎日の実習記録では環境図を利用し、ポイントを絞って記述することができる。 ⑥一日実習の指導計画を協議の経て時間を掛けて作成し、実習の集大成の実践とすることができる。

教授方法	実習を通じて、実習園の保育と教師から学ぶ。また本学教員による巡回指導や、実習期間に設ける実習指導での討議を受けての自己省察を通じて学ぶ。
履修条件	「教育実習指導Ⅰ（幼）」、「教育実習Ⅰ（幼）」の単位を修得済みであること。「教育実習指導Ⅱ（幼）」を履修し、本学の定める実習履修条件を満たしていること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	1.実習園の教育方針を理解し、保育における子どもの内面を読み取り、意図的に関わることで学びを深める。	
	2.子どもの姿に応じて、指導計画を見直し、教材を改善する。または新たに指導計画を立案、教材の製作をする。	
	3.子どもの姿、子ども同士の関わり、教師との関わり等をポイントを絞って記録し、実習協議をすることで考察を深める。	
	4.実習園の教師の姿に学び、自らの保育技能の向上を図る。	
	5.一日実習を通して、これまでの自分の保育への姿勢を振り返り、保育者としての自己課題を明確にする。	
	6.幼稚園現場での生活を通して、社会人としての自分、保育者としての自分について洞察する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習園による評価	70	評価項目として実習園が評定したものを科目としての基準で数値化する。	実習ファイル	30	①子どもの内面に基づく読み取りが記録されているか。 ②一日実習の指導計画立案から実践、振り返りに至る過程が、適切に学びの実践になっているか。 ③内容に欠落がなく、適切に綴られているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・子どもの内面の読み取りに基づいた記録の作成［90分］ ・実践のために必要な実習計画の立案［90分］ ・指導計画の補完と教材のつくりなおし［60分］ ・事後レポートの作成［90分］	幼稚園教育実習指導Ⅱの事後指導を通じて行う。

受講生に望むこと	①体調管理に責任をもつこと。 ②必要な連絡と報告を実習園、担当教諭、大学の実習担当者、場合によれば大学事務所に対して、速やかに、かつ適切に行うこと。 ③実習で知りえた情報の取り扱いに注意すること。 ④記録と指導計画の参考のために『幼稚園教育要領解説』を常に携帯すること。 ⑤実習時間外の課題は、翌日の実習に支障がないよう時間管理を工夫すること。	教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館 2018年　ISBN：9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館 2018年　ISBN：9784577814499
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	無断欠席・遅刻・早退等が多い、記録や指導計画の未提出や遅延がある場合、実習の継続を認めない。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ET211U 教育実習指導(小)			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	福江　厚啓・川真田　早苗・村井　万寿夫　（代表教員　福江　厚啓）						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、小学校教諭一種免許状取得にあたって必須の科目である。 教育実習を履修するにあたり、必要な知識・技術のみならず、教師としてあるべき態度についても実践的に学ぶ。	①実習の意義を理解し準備や見通しをもち実習校との円滑な関係づくりの知識・理解を深める。 ②小学校について理解を深める。 ③実習中における子どもや先生、学級とのかかわり方や配慮すべきことを理解する。 ④観察実習・参加実習・授業実習について理解し、学習指導案を立案できる。 ⑤実習計画や実習日誌の書き方を習得する。 ⑥実習での学びの整理と反省・自己評価ができる。 ⑦実習報告会を計画・運営・実施することができる。

教授方法	講義、グループ討議、フィールドワーク
履修条件	小学校学習支援ボランティアへ参加済であること。実習要件を満たしていること。各教科指導法が履修済（または履修中）であることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	教育実習とは何か。その意義と教育実習生に求められる姿勢・態度について、学習支援ボランティアの経験を踏まえて理解する。	全員
2	実習までの流れをもとに文部科学省・教育委員会・学校の役割とその関係について理解する。	全員
3	小学校における外国語活動と英語教育のあり方について理解を深める。	全員
4	低、中、高学年　それぞれの発達段階の違いについて理解する。	全員
5	幼・保・小の連携の必要性について理解する。	全員
6	小学校における特別支援教育について理解する。	全員
7	小学校現場の一日の流れを理解する。	全員
8	実習中、教師として子どもや教職員、保護者の方々とどのように接したらよいか、また、留意すべきことについて理解する。	全員
9	学級の児童とのかかわり方で配慮すべきことを理解する。	全員
10	実習日誌の書き方、授業記録の取り方を実例を通して理解する。	全員
11	観察実習・参加実習・授業実習の目的を理解し、観点や方法について十分な計画を立てることができる。（1）	全員
12	観察実習・参加実習・授業実習の目的を理解し、観点や方法について十分な計画を立てることができる。（2）	全員
13	実習校への連絡の取り方や事前オリエンテーションの内容について理解する。	全員
14	実習での学びの整理と反省・自己評価が適切にでき共有できる。（グループ討議）手紙のマナーをもとに礼状を書くことができる。	全員
15	実習報告会を主体的に計画し実習での学びを伝え合うことができる。履修カルテを記入に自己課題を明確にする。	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業態度	50	教育実習に臨む者として相応しい態度で、真剣に学習に取り組んでいたか。	レポート/リフレクションカード等	50	毎授業ごとの内容を正確に把握し理解していたか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・各学校での公開授業に参加する。 ・実習校で学校支援ボランティアに継続的に参加する。 ・日程の変更や事前打ち合わせの日程は後日連絡する。	各授業で出されたレポート等への応答は次の授業で行う。また、適宜質問は受け付ける。

受講生に望むこと	実習校での躓きをなくすため、積極的に学習支援ボランティアに参加すること。	教科書・テキスト	『小学校学習指導要領』文部科学省、東洋館出版社、2018　ISBN 978-4491034607 『小学校教育実習ガイド』石橋裕子他、萌文書林2019 ISBN 978-4-89347-352-3 ※小学校教育実習Ⅱ指定図書／参考書等と兼ねる。
指定図書／参考書等	講義内で適宜紹介する。	その他・特記事項	・実施回については、調整の上変更することがある。 ・第14回・15回は教育実習終了後、日程調整の上行う。 ・課題はClassroomに投稿し、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

福江：小学校教諭としての経験をもとに、小学校における実践（保幼小連携、特別支援等）を紹介し、グループ討議等に利用。授業記録の取り方や研究協議会の持ち方など、現場における授業研究で即戦力となる技術を伝達している。
川真田：教諭としての経験をもとに、児童の発達段階に応じた教員の支援について具体的に伝達している。小学校での教育実習生受け入れ教員としての経験をもとに、教育実習生としての心構え・実習での態度及び教員・児童・保護者に対する対応について具体的に伝達している。
村井：小学校における児童や教師の「一日」を取材し、写真や資料等を学生に提示し、グループ討議したり全体発表したりしている。

授業科目名	ET216U 教育実習Ⅰ(小)			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	福江　厚啓・川真田　早苗・村井　万寿夫　(代表教員　福江　厚啓)						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	4単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
本実習は、金沢市内または金沢市近郊の公立小学校及び北陸学院小学校、または実習生の母校等において実施するものとする。 学校現場におけるあらゆる教育活動を経験し、教師としての自覚と責任、その喜びを実感し、経験を通して実践的理解を深めることとする。	①子どもや他の教師との積極的なコミュニケーションをとることができる。 ②各教科の教材研究や研究授業を通して教師としての基本的な技能とその心構えを身につける。 ③日々の記録を適切に記録することができる。 ④教師としての仕事の魅力や職責に気付く。

教授方法	実習　参観　研究授業　教材研究　個別指導
履修条件	教育実習指導（小）を履修していること

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	配属校の学校長より学校の概要の説明を受け、教育実習期間中の指導計画等を理解する。	
	各学級に入り、授業を参観して学級の実態を知ると同時に、子どもたちや指導教諭との意思疎通を図る。	
	授業を参観し、子どもの実態を知るとともに、休み時間を共有して子どもとの信頼関係を築く。	
	授業を参観し、指導教諭の授業の進め方を学ぶ。また、各教科の学習状況を把握する。	
	授業実習の準備をする。12～15回程度の授業実習を行い、指導教諭の指導を受ける。	
	研究授業の学習指導計画案を作成し、指導教諭の指導を受ける。（本時における目標を明確に、板書計画も準備する）	
	研究授業を実施する。	
	研究授業反省会を通して、担当教諭、管理職その他の教員等から指導を受ける。	
	学校行事の補助を通して学校全体の動きを理解し、それを踏まえて動くことの大切さを知る。	
	学級会活動の計画を立て、子どもの主体的な活動を生み出す工夫をする。	
	クラブ活動や委員会活動を参観し、その運営の方法を知る。	
	他学年（特別支援学級等）の授業も参観し、それぞれの学年、学級に応じた指導のあることを知る。	
	教育実習日誌を整理し、授業の記録、指導された内容を基に自分の課題に気付く。	
	学級運営、生徒指導についてなど実習期間中の疑問点を整理し、指導教諭から指導を受ける。	
	実習期間を振り返り、配属学級への感謝の気持ちを学級お別れ会等で表す準備をする。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
コミュニケーション能力	30	子どもたちや教職員と適切なコミュニケーションがとれていたか。	研究授業	40	教科・領域の本質に基づいた教材研究が充分になされ子どもの把握と指導が適切であったか。
教育実習日誌	30	日々の記録と考察、次時への留意点等が適切に記述されていたか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
各実習校指導教諭等の指導・指示に従う。	実習での反省や改善のための指導は、実習指導における事後指導において行う。実習中担当教員の巡回により、適宜指導する。

受講生に望むこと	小学校教育実習は、実習生だけでなく、配属校においても決して小さな物事ではない。小学校教師を目指す熱意を充分に高め、例え実習生であっても、子どもにとっては一人の教師であること、現場教職員にとっては北陸学院大学の代表として受け止められることを自覚し、実習に臨むようにしてほしい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／『小学校学習指導要領』文部科学省、東洋館出版社、2018 ISBN 978-4491034607 『小学校教育実習ガイド』石橋裕子他、萌文書林2019　ISBN 978-4-89347-352-3 ※小学校教育実習指導・教科書と兼	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ET316U 教育実習Ⅱ(小)			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	福江　厚啓・川真田　早苗・村井　万寿夫　(代表教員　福江　厚啓)						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
本実習は、金沢市内または金沢市近郊の公立小学校及び北陸学院小学校、または実習生の母校等において実施するものとする。 前年度の中学校あるいは高等学校における教育実習を「基礎実習」と位置づけ、小学校におけるあらゆる教育活動を経験し、教師としての自覚と責任、その喜びを実感し、経験を通して実践的理解を深める「応用実習」とする。	①子どもや他の教師との積極的なコミュニケーションをとることができる。 ②各教科の教材研究や研究授業を通して教師としての基本的な技能とその心構えを身につける。 ③日々の記録を適切に記録することができる。 ④教師としての仕事の魅力や職責に気付く。

教授方法	実習　参観　研究授業　教材研究　個別指導
履修条件	教育実習指導(小) を履修していること

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	配属校の学校長より学校の概要の説明を受け、教育実習期間中の指導計画等を理解する。	
	各学級に入り、授業を参観して学級の実態を知ると同時に、子どもたちや指導教諭との意思疎通を図る。	
	授業を参観し、子どもの実態を知るとともに、休み時間を共有して子どもとの信頼関係を築く。	
	授業を参観し、指導教諭の授業の進め方を学ぶ。また、各教科の学習状況を把握する。	
	授業実習の準備をする。12～15回程度の授業実習を行い、指導教諭の指導を受ける。	
	研究授業の学習指導計画案を作成し、指導教諭の指導を受ける。（本時における目標を明確に、板書計画も準備する）	
	研究授業を実施する。	
	研究授業反省会を通して、担当教諭、管理職その他の教員等から指導を受ける。	
	学校行事の補助を通して学校全体の動きを理解し、それを踏まえて動くことの大切さを知る。	
	学級会活動の計画を立て、子どもの主体的な活動を生み出す工夫をする。	
	クラブ活動や委員会活動を参観し、その運営の方法を知る。	
	他学年（特別支援学級等）の授業も参観し、それぞれの学年、学級に応じた指導のあることを知る。	
	教育実習日誌を整理し、授業の記録、指導された内容を基に自分の課題に気付く。	
	学級運営、生徒指導についてなど実習期間中の疑問点を整理し、指導教諭から指導を受ける。	
	実習期間を振り返り、配属学級への感謝の気持ちを学級お別れ会等で表す準備をする。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
コミュニケーション能力	30	子どもたちや教職員と適切なコミュニケーションがとれていたか。	研究授業	40	教科・領域の本質に基づいた教材研究が充分になされ子どもの把握と指導が適切であったか。
教育実習日誌	30	日々の記録と考察、次時への留意点等が適切に記述されていたか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
各実習校指導教諭等の指導・指示に従う。	実習での反省や改善のための指導は、実習指導における事後指導において行う。実習中担当教員の巡回により、適宜指導する。

受講生に望むこと	小学校教育実習は、実習生だけでなく、配属校においても決して小さな物事ではない。他校種志望であっても小学校実習への熱意を充分にもち、実習生も子どもにとっては一人の教師であること、現場教職員にとっては北陸学院大学の代表として受け止められることを自覚し、実習に臨むようにしてほしい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／『小学校学習指導要領』文部科学省、東洋館出版社、2018 ISBN 978-4491034607 『小学校教育実習ガイド』石橋裕子他、萌文書林2019　ISBN 978-4-89347-352-3 ※小学校教育実習指導Ⅱ・教科書と兼	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ET361U 教育実習指導(中高)			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤　雄二						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本授業は、中学・高等学校教育実習のための事前及び事後指導である。1年次における中学・高等学校の英語授業参観や３・４年次におけるプレ実習（中学・高等学校免許取得を第1志望としている者のみ）の経験、及び英語科教育法Ⅰ～Ⅲで学んだ理論や指導技術を統合し、現場で生かす実践力を身につける。また、現場での経験を省察し、さらなる教師としての資質を向上させる。	①教育実習の第1日目から最終日までをシミュレーションしながらイメージ化することができるようになる。 ②一時間の英語の授業を運営するための準備と工夫が手際よくできるようになる。 ③4技能別の指導技術を駆使しながら、英語を用いて英語を教えることができるようになる。 ④自分の授業のみならず、他者のものを観て、客観的に評価しながら授業を向上させることができるようになる。 ⑤教師としての、自分の資質を客観的に考察し、さらに一段上の資質を造り出す努力ができるようになる。

教授方法	講義、ディスカッション、模擬授業
履修条件	中学・高等学校（英語）の教育実習Ⅰを履修する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション・心構え　本授業の到達目標を理解し、教育実習への心構えを新たにし、その責任と現在の自分がなすべき準備を理解する。自分が教壇に立つことをイメージすることができる。	
2	教育実習の意義と目的　４週間の教育実習期間をシュミレーションしながら、英語科教科教育法Ⅰ～Ⅲで学んだことを統合し、教育実習の目的と意義をディスカッションを通して共有する。	
3	教育実習における「観察１」　生徒の登校から下校までの行動を観察することにより、学校全体の生徒指導や学級経営の一端を知ることができることを理解する。	
4	教育実習における「観察２」　学校全体の行事や活動に目を向けることにより、学校が生徒に何を求めているかを知ることができることを理解する。	
5	教育実習における「観察３」　学級担任の学級経営や生徒指導が教科指導等に与える影響を知る。また、中学・高等学校における校務分掌の種類やそれぞれの役割を理解する。	
6	教育実習における観察と参加と実践　学校全体の教育活動で教育実習生が観察・参加・実践できる活動を説明し、実際に自分が関わることが可能な活動を具体的に考えてみる。	
7	生徒指導上の問題解決のために、生徒を個別的に理解したり、共感的に理解したり、発達的に理解したりする指導方法を学ぶ。また、各自の指導法からお互いに相補的な学びができるように指導する。	
8	研究授業　研究授業の意義と目的を考えると同時に、授業研究や授業分析の方法を知る。また、英語の学習指導案を作成し、学習指導案と実際の授業とのギャップを考え、それをどのように補填するかを考える。	
9	教育現場が教育実習生に求める資質を考え、ディスカッションを通して、教師としての自らの課題を理解する。特に英語の教師として、必要な資質をコア・カリキュラム（文部科学省）を通して考えてみる。	
10	英語科の教育実習生に求められる英語力を考え、ディスカッションを通して、英語教師としての自らの課題を知る。特に、英語学、文学、第2言語習得論等の必要性を理解する。	
11	模擬授業　学級活動や学年集会を意識しながら、いじめに対する指導の実際を模擬体験する。生徒指導上の問題（服装・盗難等）解決を意識しながら、生徒への具体的指導を模擬体験する。ディスカッションにより、各自の意識改革をする。	
12	教育実習直前指導（1）：学習指導案や実習日誌の意義や書き方について指導する。また、学生の不安や心配を払拭するため、現時点での疑問点などを意見交換する。	
13	教育実習直前指導（2）：実習校に提出する各種書類の記入や整理。また、守秘義務等の確認と緊急時の際のリスクマネージメントについても意見交換する。	
14	まとめ　本授業を通して学んだことを基に、中学・高等学校教師に求められる資質とは何かを各自が発表する。また、英語教師に求められる資質とは何かを各自が発表する。	
15	中学・高等学校教育実習の報告会　中学・高等学校における教育実習の振り返り、及び来年度、教育実習予定者へのアドバイスと諸注意を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
ディスカッション	30	ディスカッションに積極的に参加し意見交換ができたか	学習指導案作成	20	模擬授業の準備と与えられた課題への考え方
毎回の課題	50	授業内のポイントを把握しているか			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
市内の中学校のホームページを見て学校現場の様子をシミュレーションしてみる。［30分］	返却時に行う。

受講生に望むこと	教育実習では、生徒の前でどういう話をし、どういう反応を求めるのか真摯に考えてほしい。文部科学省のホームページでもよいので中学校や高等学校校の学学習指導要領を一読してほしい。	教科書・テキスト	教科書等は使用せず、授業で資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

・中学校・高校の現場で実際に行った授業を再現し、学生の模擬授業の一助としている。
・中学校・高校の現場で実際に起きた問題をテーマにグループディスカッションを行っている。

授業科目名	ET366U 教育実習Ⅰ(中高)			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤　雄二・宮浦　国江　(代表教員　伊藤　雄二)						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	4単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
教育実習指導(中高）で受けた事前指導に従って、北陸学院中学・高等学校または他の中学・高等学校等での4週間の教育実習を行う。教育の現場での実地体験を通して、教師として必要な知識、教育技術、態度、心構えなどを習得し、教師としてのさらなる資質向上に努める。	①コミュニケーション能力を身につける。対：生徒、教師、保護者 ②学校という組織内の校務を知り、自分の役割に責任を持つことができるようになる。 ③英語教師としての適性を知り、自分に足りない資質を見極めることができる。

教授方法	９月に４週間、教育実習校の担当者から指導を受ける。大学の担当者からの実習巡回指導を受ける。
履修条件	教育実習指導（中高）を履修していること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	各実習校のプログラムに従って、以下の点について意識を持ちながら教育実習を行う。	
	各実習校の指導計画を理解する。わからないことは積極的に質問する。	
	学校教育実践の場において、教育の実態を知ること。大学の講義との違いを省察する。	
	大学で学んだ教科・教職に関する科目の理論・知識・技術を実習を通して実践・展開する。十分に機能しないことを記録する。	
	生徒を指導するために必要な専門的技術や能力を身につける。生徒指導や教科指導について何を身に着けたかを記録する。	
	授業参観、学級活動、放課後の特別活動を通して、生徒理解に努め教育者としての自覚と資質を高める。生徒理解のためには、ほかにどのような機会があるかを考える。	
	中学・高等学校において指導する教科（英語）の他に、その他の教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、学級活動及び学校行事、教育相談、進路指導などの学校教育全般にわたって体験し、理解を深める。	
	英語授業に関して：文法・語彙・音声の指導を実践する。うまく実践できなかったことを再度、試みる。	
	英語授業に関して：英語を用いて授業を運営してみること。十分に運営できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：聞くことに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：話すことに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：読むことに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：書くことに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：教科書の題材を英語で導入することに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：英語の文法を英語で導入することに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。最終日には、英語教師としての自分の資質を客観的に評価してみる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習校での評価	50	実習評価表の各項目	教育実習日誌	40	日々の実践の記録が必要十分に記録されているか
巡回指導担当者の評価	10	提出物や巡回時の取り組み姿勢等			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
実習校の担当教員の指導・助言に従うこと。	教育実習日誌を毎日、指導教員に提出し、指導・助言を受けること。

受講生に望むこと	実習生であっても、ひとたび生徒の前に立てば、彼らはあなたを「教師」とみなします。自覚を持って教育実習に臨んでほしい。	教科書・テキスト	「中学校学習指導要領(平成29年告示）解説 外国語」文部科学省 開隆堂 2018 ISBN 9784304051692 「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編」文部科学省 開隆堂 2019 ISBN:9784304051784
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ET371U 教育実習Ⅱ(中高)			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤　雄二・宮浦　国江　(代表教員　伊藤　雄二)						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
教育実習指導(中高）で受けた事前指導に従って、北陸学院中学・高等学校または他の中学・高等学校等での2週間の教育実習を行う。教育の現場での実地体験を通して、教師として必要な知識、教育技術、態度、心構えなどを習得し、教師としてのさらなる資質向上に努める。	①コミュニケーション能力を身につける。対：生徒、教師、保護者 ②学校という組織内の校務を知り、自分の役割に責任を持つことができるようになる。 ③英語教師としての適性を知り、自分に足りない資質を見極めることができる。

教授方法	９月に２週間、教育実習校の担当者から指導を受ける。大学の担当者からの実習巡回指導を受ける。
履修条件	教育実習指導（中高）を履修していること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	各実習校のプログラムに従って、以下の点について意識を持ちながら教育実習を行う。	
	各実習校の指導計画を理解する。わからないことは積極的に質問する。	
	学校教育実践の場において、教育の実態を知ること。大学の講義との違いを省察する。	
	大学で学んだ教科・教職に関する科目の理論・知識・技術を実習を通して実践・展開する。十分に機能しないことを記録する。	
	生徒を指導するために必要な専門的技術や能力を身につける。生徒指導や教科指導について何を身に着けたかを記録する。	
	授業参観、学級活動、放課後の特別活動を通して、生徒理解に努め教育者としての自覚と資質を高める。生徒理解のためには、ほかにどのような機会があるかを考える。	
	中学・高等学校において指導する教科（英語）の他に、その他の教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、学級活動及び学校行事、教育相談、進路指導などの学校教育全般にわたって体験し、理解を深める。	
	英語授業に関して：文法・語彙・音声の指導を実践する。うまく実践できなかったことを再度、試みる。	
	英語授業に関して：英語を用いて授業を運営してみること。十分に運営できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：聞くことに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：話すことに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：読むことに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：書くことに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：教科書の題材を英語で導入することに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：英語の文法を英語で導入することに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。最終日には、英語教師としての自分の資質を客観的に評価してみる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習校での評価	50	実習評価表の各項目	教育実習日誌	40	日々の実践の記録が必要十分に記録されているか
巡回指導担当者の評価	10	提出物や巡回時の取り組み姿勢等			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
実習校の担当教員の指導・助言に従うこと。	教育実習日誌を毎日、指導教員に提出し、指導・助言を受けること。

受講生に望むこと	実習生であっても、ひとたび生徒の前に立てば、彼らはあなたを「教師」とみなします。自覚を持って教育実習に臨んでほしい。	教科書・テキスト	「中学校学習指導要領(平成29年告示）解説 外国語」文部科学省 開隆堂 2018 ISBN 9784304051692 「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編」文部科学省 開隆堂 2019 ISBN:9784304051784
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ET220U 保育実習指導Ⅰ（施設）			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	松本　理沙・齊藤　英俊　（代表教員　松本　理沙）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では、保育士資格を得るために必要な「保育実習Ⅰ（施設）」を行うための事前指導と事後指導からなっている。事前指導では、保育実習の意義と目的、施設現場に対する理解を深める。具体的には、保育士に求められる倫理綱領をはじめ、実習に臨む基本的姿勢、利用者及び入所児童の自立度、家庭問題などに対応する障害者や子ども理解、実習日誌の記入方法や指導計画の書き方、保育・養育に必要な知識・技能の確認等、実習に向けた準備を行う。事後指導では、実習で体験したことの意味付けと自己評価を行い、これまでの支援のあり方などの省察を行う。それに基づいて自己課題を明確にし、次のステップである「保育実習Ⅲ」（選択）に臨む。	①保育実習（施設）の意義と目的を理解している。 ②実習の内容を理解し、自らの課題を明確にすることができる。 ③実習施設（施設）における利用者及び子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解している。 ④実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解している。 ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができる。

教授方法	講義・演習、ディスカッション、プレゼンテーション、体験学習、事前訪問、実習報告会等
履修条件	「社会福祉」及び「保育原理」の単位を修得済みの者。幼児教育・保育コース以外の学生は履修できない。「子ども家庭福祉論Ⅰ」、「社会的養護」、「保育実習Ⅰ（施設）」を履修中であること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	保育実習の意義　授業概要の説明を行い、保育士の仕事を振り返り、保育士科目における施設実習指導の果たす役割について理解する。	
2	個人票を作成する。施設実習指導の学びの目的について、到達目標を達成するために必要な事項を理解する。	
3	実習施設（社会的養護を必要とする児童のための福祉施設、障害のある子ども・成人のための福祉施設）の種別と概要について理解する。	
4	実習施設の職員構成や職種、役割や連携について学ぶ。福祉施設で勤務する保育士の資質について理解する。	
5	入所・利用している子ども・利用者の特徴や、日常生活、生活環境、人間関係（対家族、対職員、対利用者）について理解する。	
6	実習に向けての心構えと基礎理解について、資料等からの学びの後グループ内でディスカッションを行う。	
7	配属予定の施設（種別）について調べた資料に基づいてグループデディスカッションを行い、実習先に関する理解を深める。	
8	これまで受講してきた授業（子ども家庭福祉論Ⅰ、社会福祉、社会的養護など）の内容を振り返り、実習との関連についてディスカッションする。	
9	実習ファイルおよび作成書類（事前オリエンテーション記録、出勤簿、実習日誌、実習日誌ガイドライン、支援計画、自己評価表、実習のまとめ、誓約書など）を配付し、記入上の説明を行う。	
10	事前オリエンテーションに関する留意事項、オリエンテーション記録作成上の留意事項を学ぶ。	
11	実習計画および実習日誌の意義や作成方法について理解する。特に時系列記述とエピソード記述における留意点について理解する。	
12	実習先施設の養育支援方針、概要を理解する。実習日程・内容など日程を把握する。実習先保育所の保育方針、概要を理解する。実習日程・内容・プレ実習の日程を把握する。	
13	直前指導：施設実習を行う際の留意事項について、グループごとで行う資料等の学びの後、要点などを確認する。実習中における学びについて理解する。これまで行ってきた実習生の事例をあげながら実習上の注意を促す。	
14	実習報告会準備：施設実習の振り返り・施設種別毎のグループでの話し合い、報告会の内容を作成する。	
15	実習報告会：施設実習で学んだことを発表し合い、学びを再確認するとともに、他の実習先での学びを共有する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
施設理解	40	①施設の基本的機能を理解している。②施設保育士の職務や保育を理解している。③実習報告会の内容が充実している。	課題提出	40	①課題を期日までに提出する。②課題内容を理解し、工夫して取り組んでいる。③実習計画を作成することができる。④実習記録の記載方法を正しく理解している
講義への取り組み姿勢	20	演習科目であり、無断欠席、遅刻、受講姿勢などに問題がある場合は減点対象となる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前訪問やホームページを活用して、実習先についての概要をまとめ、レポート作成する。［50分］ ②実習日誌のモデル案にしたがって日誌を書いてみる作業を通し、実習日誌の作成に慣れておく。［50分］ ③実習で求められる日常業務などを遂行できるように、日常の家事作業などを充分に体験しておく。［50分］ ④実習園に限定せず、社会的養護関係施設における学習支援、障害者支援施設・就労支援施設などのボランティアに参加する。［50分］ ⑤実習報告会に向け、実習体験からの省察を行う［240分］	事後指導において、実習内容などの講評を行う。

受講生に望むこと	①施設保育士は社会的養護関係施設や障害者支援施設・就労支援施設の入所者・利用者の人権に直接かかわる業務であることを十分に認識して授業に臨む。事前にテキストを熟読し、演習課題に取り組むことが望ましい。 ②「子ども家庭福祉論Ⅰ」「社会的養護」の授業と関連付けて理解するための復習を行う。	教科書・テキスト	『施設実習　MINERVAはじめて学ぶ保育 11』立花直樹編　ミネルヴァ書房　2019年　ISBN:9784623079728
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	実習に関する科目であり、真摯な受講態度を求める。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ET225U 保育実習Ⅰ（施設）			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	松本　理沙・齊藤　英俊　（代表教員　松本　理沙）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
居住型および通所型の児童福祉施設（保育所を除く）もしくは障害者支援施設において、90時間（約10日間）以上の実習を行う。利用者と生活及び作業などをともにすることで、施設の社会的意義と支援内容、子ども・利用者の理解、保育士の職務や役割、職場内の他職種との連携の理解、施設内で取り組まれている保育や援助技術の理解と実践、保育士の子ども・利用者とのかかわり方、社会人としてのマナーと職業上の倫理を体験的に学ぶ。	①実習施設について理解している。 ②養護の一日の流れを理解し、主体的に参加する。 ③子ども・利用者の観察やかかわりを通して、乳幼児の発達を理解している。 ④支援計画を理解している。 ⑤生活や支援の一部分を担当し、養護技術を習得している。 ⑥職員間の役割分担やチームワークについて理解している。 ⑦施設での生活を通して家庭・地域社会を理解している。 ⑧「子どもの最善の利益」についての配慮を学んでいる。 ⑨保育士としての職業倫理を理解している。 ⑩安全および疾病予防への配慮について理解している。

教授方法	配属施設において、宿泊もしくは通勤による「10日間以上」及び「90時間以上」の実習を行う。
履修条件	「社会福祉」及び「保育原理」の単位を修得済みの者。「保育実習指導Ⅰ(施設)」を履修中であること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	90時間（約10日間）以上の実習において、下記の内容を行う。	
	施設での一日の流れを理解する。	
	施設の役割と機能について理解する。	
	子ども・利用者を観察し、記録する。	
	子ども・利用者の個々の状態に応じた適切な支援やかかわり方について考察し実践する。	
	実習計画に基づき活動し、支援を行う。	
	子ども・利用者の心身の状態に応じた行動に心がける。	
	子ども・利用者の活動と生活の環境を理解する。	
	子ども・利用者の健康管理、安全対策について理解する。	
	支援計画（自立支援計画を含む）について理解する。	
	実習計画に基づき省察し、自己評価を実施する。	
	施設保育士の業務内容を体験的に理解する。	
	職間の役割分担や他職種職員との連携について体験的に理解する。	
	施設の年間計画や行事について理解する。	
	施設保育士の役割と職業倫理について体験的に理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習先の評価	40	実習施設作成の「実習評価表」における項目ごとに評価する	巡回時の担当教員の評価	30	実習巡回担当教員によりヒアリング等面談内容について評価する。
提出物	30	「事前訪問記録」、「実習記録」、「実習のまとめ」、「終了レポート」等の内容評価			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①実習の目標を理解した上で実習に臨むこと。［30分］ ②実習反省会などの機会を用い、担当職員との報告・連絡・相談を徹底すること。教員による実習巡回時のアドバイスなどを踏まえた内容を実習記録に反映する。［50分］	施設実習指導の事後指導において個別に伝達する。

受講生に望むこと	事前に施設での行事参加・体験学習（プレ実習）などを通して施設を体験的に理解する。	教科書・テキスト	『施設実習　MINERVAはじめて学ぶ保育 11』立花直樹編　ミネルヴァ書房　2019年　ISBN:9784623079728
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	実習施設は受講生の配属希望調査を実施した上で実習担当教員が配属する。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ET230U 保育実習指導Ⅰ（保育所）	開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	髙村　真希・向出　圭吾　（代表教員　髙村　真希）				

標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では、保育士資格を得るために必要な保育実習Ⅰ（保育所実習2単位）を行うための事前指導と事後指導からなっている。事前指導では、保育実習の意義と目的、保育現場に対する理解を深める。具体的には保育士に求められる倫理綱領をはじめ、実習に臨む基本姿勢、年齢・発達の段階に応じた子ども理解・実習日誌の記入方法や指導計画の書き方、保育に必要な知識・技能の確認等、実習に向けた準備を行う。事後実習では、実習で体験したことの意味付けと自己評価を行い、これまでの保育観を省察する。それに基づいて自己課題を明確にし、次のステップである保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲに臨む。	①保育実習の意義と目的を理解している。 ②実習の内容を理解し、自らの課題を明確にすることができる。 ③実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解している。 ④実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解している。 ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができる。

教授方法	講義・演習・ディスカッション・プレ実習と事前訪問・実習報告会等
履修条件	幼児教育・保育コース所属の学生以外は履修できない。「保育実習Ⅰ（保育所）」を履修中、「保育実習Ⅰ（施設）」を履修済みまたは、履修中の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：保育実習の意義（1）保育所実習の意義と目的・保育実習の概要・保育士の責務について理解する。	全員
2	保育実習の意義（2）：授業概要の説明を行い、保育士の仕事を振り返り、保育士科目における施設実習指導の果たす役割について理解する。	全員
3	実習の内容（1）：年齢別の発達・保育所の一日の流れを理解する。幼稚園と保育所の違いを理解する。	全員
4	実習の内容（2）：年齢別保育と異年齢保育・統合保育、インクルーシブ保育を理解する。	全員
5	保育実習生として（1）：保育園園長と担当者の講話「保育所の機能・保育士に必要な資質・実習性に望むこと」を聴き、準備に活用する。（日程・テーマは変更する可能性がある）	全員
6	保育実習生として（2）：保育所保育指針について、保育所における子どもの人権と最善の利益について考える。 また、プライバシーの保護と守秘義務、実習生としての心構えを学ぶ。［外部講師を招いてグループワーク］	全員
7	実習における記録（1）:実習日誌の使い分け・記入上の注意・観察・記録・評価についての確認。 実際に記録を作成し、“個と集団”の観点から幼稚園実習との違い・共通点を考える。	全員
8	実習における記録（2）:時系列日誌・エピソード記録の特徴と違いについて。実際に2種類の記録を作成する。	全員
9	実習先保育所について（1）:実習先保育所の保育方針・概要を理解する。	全員
10	実習先保育所について（2）：実習担当クラスの乳幼児の発達・年齢に対応した関わりを考える。	全員
11	教材製作（1）：担当年齢に即した手遊び・絵本・視聴覚教材・手作り教材を準備する。	全員
12	教材製作（2）：担当年齢に即した手遊び・絵本・視聴覚教材・手作り教材を準備し、実演・実践してみる。	全員
13	指導計画の立案と記録：実習先の保育形態・年齢に合わせた指導計画を作成する。また、個別な関わりを中心とした部分実習の指導計画を作成し、実演・実践してみる。［グループワーク］	全員
14	保育所実習Ⅰ事前指導：指導計画の修正・実演。［グループワーク］	全員
15	保育所実習Ⅰ事後学習：保育実習を通しての自己の学びを振り返る。実習報告会に参加し学びについて発表する。（自己評価記入）［グループワーク］	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度（実習報告会内容含む）	50	①実習の目的を明確に理解しているか。②主体的に討議に参加しているか。③保育士の職務や保育を理解しようとしているか。	課題提出	50	①課題を期日までに提出しているか。②課題内容を理解し、工夫して取り組んでいるか。③実習日誌の書き方を理解しているか。④指導計画を作成することできるか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①ホームページ等を活用して、各園の保育方針やねらいについて読み取り、概要をまとめ、レポートを提出する。［30分］ ②実習日誌のモデル案に従って日誌を書いてみる作業を通し、実習日誌の作成に慣れておく。［60分］ ③実習で求められる教材を実演できるように、作製・練習しておく。（手遊び・絵本・視聴覚教材（手作り教材）・季節に合った歌やゲーム・活動・製作など）［90分］ ④身近に見かける乳幼児や親子の姿を気に留めて観察し、記録する。［30分］ ⑤報告会の準備［60分］	個別指導及び授業内での振り返りを行う。また、授業内で記録や指導計画の紹介を行う。

受講生に望むこと	①「幼稚園教育実習Ⅱ」「幼稚園教育実習指導Ⅱ」も同時に履修することが望ましい。 ②保育士が子どもの成長・安全にかかわる仕事であることを十分に認識して授業に臨むこと。 ③事前にテキストを熟読し、演習課題に取り組むことが望ましい。 ④「社会的養護内容」「乳児保育」「子どもの食と栄養」の授業と関連づけて理解するように努めること。	教科書・テキスト	・『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館　2018年　ISBN:9784577814482 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年　ISBN:9784577814499
指定図書／参考書等	なし／必要に応じて授業内で配付する。	その他・特記事項	・無断欠席・遅刻・早退が多い、記録や指導計画が未提出の場合は、実習を認めない。

実務経験を活かした授業の概要

髙村：保育所実習Ⅰへ向けて、乳幼児の発達や保育所の日常を振り返り、保育所とはどのような施設であるのか、保育者に求められる力をグループで討議している。また、一人一人を丁寧に見つめる視点について、保育現場の動画や写真を基に考える機会を設けている。
向出：保育所実習Ⅰへ向けて、認定こども園になりつつある現場の状況を鑑み、幼稚園教諭としての勤務経験をもとに、幼児教育の視点も取り入れながら、乳幼児の内面を読み取る指導を行う。

授業科目名	ET235U 保育実習Ⅰ（保育所）			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	髙村　真希・向出　圭吾　（代表教員　髙村　真希）						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
保育実習指導Ⅰで受けた事前指導に従って、配属先の保育所で90時間の実習（約11日間）を行う。大学が依頼した実習先に、通勤の事情を考慮して一保育所に1名または2名の実習生を配属する。実習Ⅰは、主に3歳未満児のクラスで行い、観察実習から入り、参加、部分実習までを行う。実習は授業で学んだ知識を実践する場であり、毎日の実習内容と気づきを指定の書式に記録し、指導保育士の助言を受ける。	①保育所の役割や機能を具体的に理解している。 ②観察や子どもとのかかわりを通して、子どもへの理解を深める。 ③大学の授業で習った内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学び、考察することができる。 ④保育の計画、観察、記録及び自己評価について、具体的に理解している。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学び、説明できる。

教授方法	配属施設において「10日～11日間」及び「90時間以上」の実習を行い、実習担当保育者から学ぶ。
履修条件	幼稚園教育実習指導Ⅰ及び幼稚園教育実習Ⅰの単位を修得済（中）の者。また、保育実習指導Ⅰ（保育所）を履修し、本学の定める実習履修条件を満たしていること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	90時間（約11日間）の実習において、観察、参加、部分実習の段階を踏んで、次の1～5の内容を行う。	
	1. 保育所の役割や機能を学ぶ。	
	2. 子どもを理解する。（子どもの発達過程・生活の流れ・子どもへの援助や関わり等を観察と記録し、理解を深める。）	
	3. 保育内容や保育環境を理解する。（子どもの発達過程に応じた保育内容・子どもの生活や遊びと保育環境・子どもの健康と安全について深める。）	
	4. 保育計画立案の上での留意点や観察の視点を具体的に学び、記録する。	
	5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理について考察する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習先の評価	60	実習評価表における項目（実習の態度・実習の内容・実習の記録）ごとに評価する。	提出物（実習日誌・レポート・教材　等）	40	①具体的なねらいを持って計画、実践を行い、適切に記録されているか。 ②前半の実習を見直し、気づきを後半の実習にいかしているか。 ③実習を通して自己理解し、自己課題をまとめているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①『保育所保育指針』を充分に読み込み、保育計画を立てる際に必ず参考にすること。［30分］ ②乳幼児の保育に必要となる表現技術を磨く。［30分］ ③子どもの年齢や発達に応じた歌や手遊び、教材製作などを事前に準備し、いつでもできるようにしておく。［30分］ ④実習日誌や指導計画を期日に遅れないよう作成する。［60分］ ⑤指定された項目に従って、事後レポートを作成し、実習を振り返る。［60分］	実習記録・レポート・指導計画の紹介及び助言指導。 実習における反省や改善は実習指導Ⅱまた、実習Ⅰ事後の面談にて指導する。

受講生に望むこと	①保育実習Ⅰ（保育所）の目標を理解して実習に臨むこと。 ②保育実習Ⅰ（施設）、教育実習ⅠⅡ（幼稚園）でとらえた子どもの姿から、子どもの育ち、学びのつながりを考え臨むこと。 ③乳児に関する科目（子どもと保健・乳児保育Ⅰ・子どもの食と栄養等）を復習しながら受講すること。 ※実習生であっても、子どもにとっては一人の保育者であることを自覚し実習に臨んでほしい。	教科書・テキスト	教科書等は使用せず、授業資料で配付する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	無断欠席・遅刻・早退等が多い、記録や指導計画の未提出や延滞がある場合、実習の継続を認めない。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ET320U 保育実習指導Ⅱ			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	髙村　真希・向出　圭吾　（代表教員　髙村　真希）						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
保育実習指導Ⅰで学んだ知識及び保育実習Ⅰで体得した学びを土台として保育実習Ⅱを行うための、事前指導・事後指導の授業である。 事前指導では、保育実習Ⅰを通して得た学びと自己課題を明確にし、保育実習Ⅱでは保育士の専門性についても理解を深める。保育実習Ⅰと同じ保育所で実習を行うことで、子どもの発達・成長を具体的に把握し、適切な保育・援助を行えるように十分な準備をする。 事後指導では、学びの共有となる実習報告会を行った後、実習園からの評価や授業での振り返りをもとに、履修カルテへの記入を行う。	①保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学んでいる。 ②保育や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を身につけている。 ③保育の観察・記録・自己評価などを踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学んでいる。 ④保育士の専門性と職業倫理について理解している。 ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にしている。 ⑥実習日誌の記入や指導計画の作成を適切に行うことができる。

教授方法	講義・演習・ディスカッション・プレ実習と事前訪問・実習報告会等
履修条件	「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習指導Ⅰ（保育所）」の単位を修得済みの者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	保育実習Ⅰにおける自己課題を整理し、実習Ⅱに向けて準備を行う。	全員
2	子どもの最善の利益を考慮した保育について具合的に理解する。	全員
3	子どもの保育と保護者支援について①：多様な保護者支援のあり方を知る。保護者支援についてレポートを作成する。	全員
4	子どもの保育と保護者支援について②：実習園での状況とレポート作成の視点を話し合う。保護者の求める支援と現実に行っている支援について考え、今後の保護者支援における課題を考える。	全員
5	保育実習日誌について①：時系列・エピソード記録・エピソード記述の視点、書き方を理解して作成する。子どもの姿から背景・文脈などを読み取ることについて考える。	全員
6	保育実習日誌について②：保育所保育指針を参考にし、発達的観点をとらえ、ねらいを明らかにして指導計画を作成する。	全員
7	実習先保育所の事前訪問：プレ実習の日程を確認する。子どもの姿を観察し、教材や各計画の準備に入る。	全員
8	保育所事前訪問記録作成・実習課題の準備を行う。子どもの思いを深く読み取ることについて考える。	全員
9	保育士の専門性と職業倫理について考える。現職保育士の講話を聴き、学びのレポートを作成する。	全員
10	保育実習Ⅰの指導計画を振り返り、保育実習Ⅱの部分実習や一日実習に向け指導計画についての理解を深める。 指導計画案を作成し、提出する。今までの実習を振り返り、自己課題（苦手だった活動・保育技術等）を見直し、実践してくるよう計画に入れる。	全員
11	作成した指導計画を基にグループディスカッションを行い、必要に応じて修正する。また、個々の子どもに応じた関わりあい・関わりについて考える。	全員
12	実習事後学習：実習終了アンケートの作成・実習記録・レポートを基に自己の実習を振り返る。 ［グループワーク］	全員
13	実習事後学習：保育の観察・記録・自己評価に基づく保育の改善について考える。報告会の準備をする。	全員
14	実習報告会に参加し、他の学生と学びを共有する。レポートを作成する。	全員
15	保育士としての自己課題を明確にする。	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	50	①実習の目的を理解しているか。②主体的に討議に参加しているか。③表現技術を身につけ実践しようとしているか。④保育士の職務や専門性について理解しているか。⑤実習報告会に積極的に参加しているか。	課題提出	50	①課題を期日までに提出しているか。②課題内容を理解し教材や指導計画を作成しているか。③日誌の書き方を理解し、書き分けることができているか。④子どもの姿に適した指導計画を作成することができているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①保育実習Ⅰ（学内演習）で課題となった保育技術を磨くよう、家庭において練習や復習を行う。［30分］ ②実習先でのプレ実習に参加し、記録を書く。回数や期間は授業内で指示する。［一日：7時間］ ③子どもの年齢に応じた歌や手遊び、製作、手作り教材による活動など、事前に準備しておくこと。［早めにとりかかり準備する］ ④指導計画案を作成する。［60］ ⑤授業内で出された実習日誌の作成課題をする。［60分］	個別指導及び授業内での振り返りを行う。また、授業内で指導計画の実演紹介を行い、助言する。

受講生に望むこと	①「保育所実習Ⅰ」で気づいた自己課題を意識して、授業に参加すること。 ②保育士に求められる技能や知識、資源を自ら高める努力をすること。 ③「保育内容・健康Ⅱ」「保育内容・人間関係Ⅱ」「保育内容・環境Ⅱ」「保育内容・言葉Ⅱ」「保育内容・表現Ⅱ」「児童家庭福祉論Ⅱ」「家庭支援論」「乳児保育」「社会的養護内容」の授業に関連づけて。理解するよう努めること。 ④子どもの育ち、遊びによる学びが乳児から幼児期、学童期と繋がりを持っていることを意識して子どもの姿をとらえてほしい。	教科書・テキスト	・『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館　2018年　ISBN:9784577814482 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年　ISBN:9784577814499
指定図書／参考書等	なし／必要に応じて授業内で配付する。	その他・特記事項	無断欠席・遅刻・早退が多い、記録や指導計画等の課題が未提出の場合は、実習を認めない。

実務経験を活かした授業の概要

高村：保育所実習Ⅱへ向けて、保育現場の現代的課題を再整理し、指導案を立てる中で実践からの学びをグループで討議し、意識を高めている。また、一人一人の発達を踏まえた関わり、保育現場の動画や写真を基に考える機会を設けている。
向出：保育所実習Ⅱへ向けて、保育現場で学びをさらに深めるために、発達に即した指導計画の立案について実践、見直し、改善のPDCAサイクルがしっかりできるように、現場でのやり方を取り入れている。

授業科目名	ET325U 保育実習Ⅱ（保育所）	開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	髙村　真希・向出　圭吾　（代表教員　髙村　真希）				

標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
保育実習Ⅰで学んだ内容を土台として、さらに保育士としての知識・技術を実践的に学ぶための実習である。原則として、保育実習Ⅰと同じ保育所で90時間の実習を行う。観察・参加実習・部分実習と段階を踏んで、一日実習までを行う。毎日の実習は日々のねらいをもって臨み、実習後は指定の書式で記録し、指導保育士の助言を受ける。	①保育所の役割や機能について、実践を通して理解を深める。 ②子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 ③大学の授業で習った内容や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学んでいる。 ④保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価について、実際に取り組み、理解を深める。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解している。 ⑥保育士としての自己の課題を明確化できる。

教授方法	配属施設において「10～11日間」及び「90時間以上」の実習を行い、実習担当保育者から学ぶ。
履修条件	「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習指導Ⅰ（保育所）」の単位を修得済みであること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	90時間（約11日間）の実習において、観察・参加・部分実習の段階を踏み、一日実習を行うことを通し、次の1～6を実践的に学ぶ。	
1	保育所の役割と機能を学ぶ。（養護と一体となって行われる保育、保育所の社会的役割と責任について）	
2	観察に基づく保育理解（子どもの心身の状態や活動の記録、保育士などの動きや実践の観察、保育所の生活の流れや展開の把握）	
3	子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携について学ぶ。（環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解、入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援、地域社会との連携について）	
4	指導計画の作成・実践・観察・記録・評価（保育課題に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育過程の理解）	
5	保育士の業務と職業倫理について理解する。（多様な保育の展開と保育士の業務）	
6	保育士としての自己課題を明確にする。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習先の評価	60	実習評価表における項目（実習の態度・実習の内容・実習の記録・保育の専門性の観点）ごとに評価する。	提出物（実習日誌・指導計画・レポート・教材）	40	①具体的なねらいをもって計画、実践を行い、適切に記録しているか。 ②担当年齢に適した指導計画・教材を作成し、実践しているか。 ③実習での学びを振り返りレポートを作成しているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①保育所実習Ⅰの自己課題に基づき、自分に不足している表現技術を磨く。［30分］ ②実習先でのプレ実習に積極的に参加する。［一日：7時間］ ③子どもの年齢や発達に応じた歌や手遊び、製作、教材などを事前に準備しておく。［30分］レパートリーを増やしておくこと。 ④実習日誌や指導計画を期日に遅れずに作成する。［60分］ ⑤その他、実習先保育所の指示に従って必要な準備を行う。［30分］	実習における振り返りは実習Ⅱ事後の面談にて伝達する。

受講生に望むこと	①保育所実習Ⅱの目標を理解して実習に臨むこと。 ②保育実習Ⅱでとらえた子どもの姿から、子どもの育ち、学びのつながりを考え臨むこと。 ※実習生であっても、子どもにとっては一人の保育者であることを自覚し実習に臨んでほしい。	教科書・テキスト	教科書等は使用せず、授業資料で配付する。
指定図書／参考書等	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814499 『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814482	その他・特記事項	・無断欠席・遅刻・早退等が多い、記録や指導計画の延滞がある場合、実習の継続を認めない。 ・連絡事項はclassroomにて配信する。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ET330U 保育実習指導Ⅲ			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	松本　理沙・齊藤　英俊　（代表教員　松本　理沙）						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
「保育実習Ⅰ(施設)」を基礎におき、施設理解を深めるために、自らの課題を考察する。作成した実習テーマ、実習計画、ねらい、課題について指導を受け、また実習に入ってから指導者より受けるスーパービジョンの性格、内容などを理解する。実習終了後の事後学習により、評価できる点、反省点などを整理することにより、専門職としてのあり方を考察する。	①保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学んでいる。 ②実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培っている。 ③保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 ④保育士の専門性と職業倫理について理解している。 ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確化できる。

教授方法	演習形式により、児童福祉施設や障害者福祉施設の実際について、教員よりの講義、ワークシート作成、各機関におけるフィールドワーク、グループディスカッションなどにより課題を明らかにする。
履修条件	「保育実習指導Ⅰ(施設)」、「保育実習Ⅰ(施設)」の単位を修得済みであること。原則、児童福祉施設・障害者福祉施設への就職を指向する学生であること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	本学で学ぶ児童福祉関連の各科目と実習の関係を理解する。ボランティアと実習の違い、体験学習と実習の違い、配属実習を行う意味を理解する。	
2	施設や利用者（家族を含む）の、地域や社会との関係理解を深め、施設の機能としての地域社会への働きかけ、地域貢献のあり方を理解する。	
3	子ども・利用者の入所経路（特に、児童相談所・福祉事務所の果たしている役割など）や入所理由など社会的背景を学び、その中で施設の果たしている役割、機能を理解する。	
4	関係機関の役割、施設との関係について深く考察し、関係機関資料の収集方法や課題などを理解する。	
5	子ども・利用者のケーススタディ（ケースの背景を理解し、子ども・利用者の課題に対する支援法及び援助技術の検討）を行う。これをもとにして、子ども・利用者の支援のあり方を学ぶ。	
6	保育士が実践するソーシャルワークについて学ぶ。施設を利用している子ども・利用者の抱える問題にかかわる家庭的、社会的状況を知り、ソーシャルワーク援助技術についての理解やソーシャルワーカーとの連携を理解する。	
7	実習予定施設における体験学習を行い、実習前に施設機能、利用者の状況、実習生として学ぶべき要点を考察する。	
8	実習に臨むに際しての学習計画、実習計画を策定し、それに伴う必要事項を理解する。実習前の事前学習として利用者に関するニーズ、機能を明確にする。	
9	公文書としての実習記録の意味、まとめ方を考察する。逐次記録の作成方法、事実記録（要約）文と感想文及び考察文の書き分け。	
10	事前訪問を行い、施設構造、機能、サービス内容、利用者の特徴、活動状況などを正確に理解し、事前訪問記録を作成する。	
11	事前訪問で学んだことの報告を行なう。他の学生が訪問した施設の現状を学び、再度疑問点、課題などを整理する。	
12	保育士･支援員の支援について、その必要性と支援内容を対比して実習で何をどのように学ぼうとしているのかなどの課題確認を行う。	
13	ディスカッションを行う。実習内容の疑問、ジレンマ、評価できた点などを相互に、自由に語り、聴いて内容を共有する。そこから学ぶべき点、自らの実習と対比させて実習について自己評価を行う。	
14	多様な実習体験内容を事後学習により、経験知として積み上げる意義や方法を理解する。実習において未解決であった課題を共有し、事後学習の取り組みの中で解決方法を探究する。	
15	事後報告会に参加し、自らの実習と対比させて考察する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
講義参加姿勢	50	①実習の目的を明確に理解している。 ②主体的に討議に参加している。 ③保育士の職務や保育を理解しようとしている。 ④実習報告会に積極的に参加している。	課題提出	50	①課題を期日までに提出する。 ②課題内容を理解して、工夫して取り組んでいる。 ③実習記録の書き方を理解している。 ④指導計画を適切に作成することができる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①原則、「保育実習Ⅰ(施設)」での実習施設とは異なった種別の施設で実習する。そのため、実習施設などにて体験学習としてのボランティア等の活動などから、実習テーマを明確にすること。施設実習先は社会的養護関係施設、障害者支援施設など多岐にわたるため、各自の実習施設の目的・機能についてまとめる。［240分］ ②実習報告会に向けて、各施設が有する課題及び問題解決の方法を考察する。［120分］	事後指導において、実習内容などの講評を行う。

受講生に望むこと	実習施設は多岐にわたっているため、保育実習Ⅰ（施設）での内容が経験知として積み上がらない場合がある。保育実習Ⅲ（施設）はより専門性が求められるハードな実習であり、自分の実習配属先施設の情報、テーマに関する先行研究、文献、他のメディアなどを通じて収集する努力が求められる。	教科書・テキスト	テキストは使用せず、講義時に資料配付を行う。
指定図書／参考書等	なし／『施設実習　MINERVAはじめて学ぶ保育 11』立花直樹編　ミネルヴァ書房　2019年　ISBN:9784623079728	その他・特記事項	実習に関する科目であり、真摯な受講態度を求める。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ET335U 保育実習Ⅲ（施設）	開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	松本　理沙・齊藤　英俊　（代表教員　松本　理沙）				

標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
実習期間として設定した12月上旬から中旬に、約10日間（90時間）の「施設実習」を行う。 実習施設は大学より実習を依頼した原則北陸三県における児童福祉施設（保育所以外）、その他社会福祉施設にて実習する。	児童福祉施設（保育所以外）、その他社会福祉施設において実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。また、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。

教授方法	児童福祉施設（保育所以外）、その他社会福祉施設にて実習を行うとともに実習指導担当職員、および担当教員による巡回指導を受ける。
履修条件	「保育実習指導Ⅰ(施設)」、「保育実習Ⅰ(施設)」の単位を修得済みであること、及び「保育実習指導Ⅲ」を履修中であること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	90時間(約10日間)の実習において、下記の内容を行う。	
2	施設種別の理解、提供されているサービス内容を把握し、職員の役割、業務内容と専門性を理解する。	
3	実習施設にて実践されている保育・養護などの支援体制、技術を理解する。	
4	実習施設の地域における位置づけや地域との関係を理解する。	
5	生活場面における指導のあり方、子どもとの関係性を理解する。	
6	入所児童及び家族と職員のコミュニケーションについて理解する。	
7	実習施設の日中活動から、その意義などを理解する。	
8	自立支援計画の概要、記入などについて職員の方より指導を受ける。	
9	養護(養育)実践におけるPDCAサイクルの具体的展開を理解する。	
10	行事及び活動などの計画を考察し、自らプランを立ててみる。	
11	実習記録の記載について、事実経過の描写・解釈の書き分け及び解釈理由を考察する。	
12	実習前の自らの施設観と実習後半の違いを考察する。	
13	実習のふり返りを行い、基幹的職員、実習指導担当者による反省会から自らの問題点などを考察する。	
14	実習担当者のスーパービジョンの内容を考察し、自己評価を行う。	
15	実習を通じて学んだことより、児童福祉施設等のありかた、将来像を考察する。実習報告会に参加・発表する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習先の評価	40	実習施設作成の「実習評価表」における項目ごとに評価する。	巡回担当教員評価	30	巡回時の担当教員によりヒアリング等面談内容について評価する。
提出物	30	「事前訪問記録」、「実習記録」、「実習のまとめ」、「終了レポート」等の内容評価。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①実習の目標を理解した上で実習に臨むこと。［30分］ ②実習反省会などの機会を用い、担当職員との報告・連絡・相談を徹底すること。教員による実習巡回時のアドバイスなどを踏まえた内容を実習記録に反映する。［50分］	事後指導において、実習内容などの講評を行う。

受講生に望むこと	「保育実習Ⅲ」では、施設の持つ専門機能を理解し、社会的役割、使命という視点から考察することが求められる。また、職員の専門性である、個々の職員が有する資質・能力、職種として求められる最低限の知識とは何か、について理解を求める。施設機能は未分化の部分（日常性が表出していて、その背景にある専門性が見えにくい）が多くあるが、体系的に施設理解が出来るような努力が求められる。「経験」としての実習であり、個人と環境を取り巻く相互作用であることを意識する。	教科書・テキスト	テキストは使用せず、配付資料などを用いる。
指定図書／参考書等	なし／『施設実習　MINERVAはじめて学ぶ保育 11』立花直樹編　ミネルヴァ書房　2019年　ISBN:9784623079728	その他・特記事項	実習施設は受講生の配属希望調査を実施した上で実習担当教員が配属する。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ET386U 教職実践演習(幼小中高・保)			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤　雄二・村井　万寿夫・虫明　淑子・齊藤　英俊・福江　厚啓・髙村　真希・谷　昌代・向出　圭吾　(代表教員　伊藤　雄二)						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要

１年次から学修してきた「幼児・子ども教育」についての総括的な科目が本科目です。特に、保育・教育実習を終えることにより、保育の現場・幼稚園・小学校・中学校・高校の教職課程の全課程（本科目を除く）を履修したことになります。そのため、これまで（３年半）の学修で保育士・教育者としての力がどの程度身に付いたかを演習によって確かめます。その過程で、自分に足りない力や伸ばすべき力を明確にしていきます。さらに、その力をどうやって身に付けていくか演習などを通して考えていきます。このように、保育士・教育者として必要な力について継続的、かつ、実践的に取り組んでいくようにします。

※SDGsターゲット4.1,4.7,4.c関連科目

授業の到達目標

①保育実習・教育実習を振り返りながら、自己のどのような力が発揮できたか明確にすることができる。
②保育の現場・幼稚園・小学校・中学校・高校の教職課程における学びを履修カルテによって振り返ることができる。
③自己が身に付けるべき力についてボランティア活動や学校訪問などを通して実践的に取り組んでいくことができる。
④必要な力（幼児・子ども理解力、環境構成力、対人関係能力、学習指導力、自己啓発力など）をどのように高めていくかについて考えることができる。
⑤保育者・教育者を目指す上で必要な力としてどんな力があるか知る。

教授方法	演習
履修条件	保育士資格取得・教員免許状取得に必要な教育実習を含む全科目（本科目を除く）の単位を修得し、保育士資格取得・教員免許状取得見込みであること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の概要・目的・評価方法を知る／教育実習の振り返り：保育実習・教育実習ノートをもとに、必要だと感じた保育士・教師としての資質を考えてみる。	全員
2	実習ノートをもとに実習中に発揮できた力を洗い出し、その到達度について考えてみる。	全員
3	保育者・教育者を目指す上で求められる力にはどんなものがあるか、その力をどのように高めていくかについてレポート（レポート①）を作成する。	全員
4	作成したレポートをもとに、保育士・教師としての資質・到達度・課題と解決方法について、グループ別に発表する。	全員
5	カリキュラムマップの計画と作成：履歴カルテによる学びのふり返りとカリキュラムマップ作成の見通しを持つ。そして、どのように構造的に表すか計画し、作成する。	全員
6	カリキュラムマップの完成と発表：おおかた作成してあるカリキュラムマップに「自己の課題」を補足して完成させる。そして、グループ内でお互いに発表し、相互評価する。	全員
7	自己の課題の達成状況：カリキュラムマップをもとに「自己の課題」についての達成状況をレポートするためのルーブリックを参照しつつ、レポート（レポート②）を作成する。	全員
8	全体学修：作成したレポート①または②の内容についての発表会（代表学生）。	全員
9	教育現場への参加：保育の現場・幼稚園、小学校、中学校・高校における今日的課題について各自で整理する。※ボランティア活動や学習サポーター活動に代替することも可。	全員
10	今日的課題の探究１：深めたい今日的課題：前回整理した内容を紹介しながら、今後、討論を深めていきたいことを明確にし各自で調べてレポート（レポート③）を作成する。	全員
11	今日的課題の探究２：前時に各自で調べたことをもとに校種別グループで討論する。校種混合による新たなグループをつくり、レポート内容を紹介し合う。	全員
12	教育実習の経験やカリキュラムマップや今日的課題とその解決方法をもとに、「付けたい力」を考えてみる。	全員
13	4年間の集大成として、過去のレポートをもとに、「付けたい力」をまとめレポート（レポート④）を作成する。	全員
14	作成したレポートをもとに、グループ別に発表する。	全員
15	全体学修：作成したレポート③または④の内容についての発表会（代表学生）。	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート①②③④の4回分	60	課題に即して書いている。	全体学修メモ（2回分）	20	発表者の内容を理解しているか。
授業態度	20	ディスカッション等に積極的に参加しているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）

①各年次の「履修カルテ」に必要事項を記入し、自己の課題を見出す。［30分］
②「実習ファイル」（保・幼・小・中・高）の記入内容を確認し、「できたこと」「できなかったこと」を明確にする。［30分］
③カリキュラムマップを完成させるために自己の時間を見つけて取り組む。［60分］
④学外学習（保・幼・小・中・高訪問など）には事前に学習課題を設定して臨み、事後に課題整理する。［60分］

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

各担当の教員が講義中に指示する「レポート①②③④」に取り組み、期限までに担当教員に提出してください。※「カリキュラムマップ」は栄光祭の際、子ども教育学科ブースで展示する予定です。

受講生に望むこと	教育者を目指して保育士資格・教員免許状の取得に頑張ってきたのですから、最後まで意欲的、主体的に授業に臨んでください。	教科書・テキスト	なし（資料は適宜配付します。）
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	・「実習ファイル」（保・幼・小・中），「履修カルテ」，『学生要覧2019』を携行して臨んでください。 ・レポート課題はClassroomに投稿・提出してもらうことがある。

実務経験を活かした授業の概要

伊藤：小中高における指導経験を活かし、学生が深めたいと思う今日的課題に対するアドバイスを行い、足りない資質を発見できるよう支援している。
虫明：幼稚園のカリキュラム・マネジメント者としての実践経験から、なぜ幼児教育が小学校以降の学習の基盤となるか等について具体的事例を挙げ、説明している。
村井：実際の小学校の教師に、「小学校教師に求めらること」の観点から聞き取りし、それをもとに学生の指導に役立てている。
福江：幼稚園、小学校それぞれの現場経験から、より実践的なアドバイスをおこなっている。
向出：幼稚園教諭としての勤務経験をもとに、図書館での絵本の実践や幼保グループによる現場での今日的課題等のディスカッションを行い、現場に出向く準備をする。
髙村：保育士としての経験をもとに、保育現場で求められている力や現代的課題を追求し、グループによるディスカッションを行っている。また、4年間の学びの中でうまれた保育観を深める機会を設けている。
谷：乳幼児を取り巻く環境、子育て支援等保育、教育についての諸問題に学生自身が課題意識を持ち、仲間との活動や討議を重ね学びを深めていく機会を提供する。その中で多様な考えに触れ、自身の子ども観や保育観への気付きとなることに期待したい。

授業科目名	ET340U 介護等体験			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
高齢者施設や児童施設などの社会福祉施設において５日間、特別支援学校において２日間の介護等体験活動を行う。体験に入る前に事前指導を行い、体験後には事後指導に行う。このように、事前指導＋7日間の介護体験＋事後指導のセットによる授業が本科目の概要である。事前指導には、介護等体験に係る書類等の説明と作成を含む。なお、書類は大学が一括して石川県社会福祉協議会や石川県教育委員会に提出する。	①教職をめざす学生にとって介護等体験がなぜ必要なのか理解している。 ②ノーマライゼーションの理念について理解している。 ③高齢の人や障がいがある子どもへの接し方について考えながら体験することができる。 ④体験によって何を学んだか、自己の考え方がどう変わったかを整理して書くことができる。

教授方法	講義（事前・事後）、体験（5日間＋2日間）
履修条件	3年次生までに必要な教員免許状取得のための科目を履修していること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業概要をもとに学びの見通しを持つとともに介護等体験の意義と手続きについて理解する。	
2	人間の障がいの理解：ノーマライゼーションの理念について理解するとともに介護等体験で出会う障がいについて知る。	
3	社会福祉についての理解：社会福祉の理念（基本的人権と社会福祉）や内容（児童福祉、高齢者福祉、障がい者福祉）について理解する。	
4	特別支援教育についての理解：特別支援教育の基本的な考え方（インクルーシブ教育）や教育内容（教育課程など）について理解する。	
5	体験活動の実際①：福祉施設における活動中の注意点について理解するとともに、『介護等体験日誌』の記録の仕方を理解する。	
6	福祉施設での介護等体験①：施設利用者の１日の生活に寄り添う。【体験１日目】	
7	福祉施設での介護等体験②：施設利用者に必要で、自己ができる介護、援助、補助などを見つける。【体験２日目】	
8	福祉施設での介護等体験③：自己ができる介護、援助、補助などを行う。【体験３日目】	
9	福祉施設での介護等体験④：自己ができる介護、援助、補助などを繰り返したり、新たに見つける意識をもって臨む。【体験４日目】	
10	福祉施設での介護等体験⑤：自己の経験や学びをもとに感謝の気持ちを持って施設利用者と会話するようにする。【体験５日目】	
11	福祉施設での介護等体験の振り返り：５日間を振り返り、何を学んだか、自己の考え方がどう変わったかを整理して書く。（介護等体験報告書A）	
12	体験活動の実際②：特別支援学校における活動中の注意点について理解するとともに、『介護等体験日誌』の記録の仕方を理解する。	
13	特別支援学校での体験①：児童生徒の１日の学校生活に寄り添い、自分がどんな支援・援助ができるか考えながら接する。【体験１日目】	
14	特別支援学校での体験②：１日目の体験で気付いたり考えたりしたことをもとに、２日目はどのように関わっていくか考えて接する。【体験２日目】	
15	特別支援学校での介護等体験の振り返り：２日間を振り返り、何を学んだか、自己の考え方がどう変わったかを整理して書く。（介護等体験報告書B）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
介護等体験日誌	50	福祉施設及び特別支援学校での体験内容を丁寧に記載するとともに、どのような学びがあったのかを明確に書いてある。	介護等体験報告書AB	20	福祉施設及び特別支援学校の体験終了後、規定の書式で報告書を書いてある。
小レポート	15	福祉施設や特別支援学校の事前調査結果及び講義内容の感想を分かりやすく書いてある。	授業態度	15	積極的に授業に参加している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①第１回目の授業後に課す「ノーマライゼーションとは何か」について自己で調べて第２回目に授業に臨む。（事前学習） ②第３回目の授業後に課す「インクルーシブ教育と何か」について自己で調べて第４回の授業に臨む。（事前学習） ③７日間の体験中、その日の体験が終わったら毎回、『介護等体験日誌』を書く。（事後学習） ④体験終了後１週間以内に『介護等体験報告書』を提出する。（事後学習）	①小レポート課題の取り組みについてコメントする。 ②福祉施設及び特別支援学校での体験報告書にコメントする。

受講生に望むこと	①教職をめざす学生にとって介護等体験がなぜ必要なのか理解した上で実際の体験に臨むことができるようにしてください。 ②高齢の人や障がいがある子どもへの接し方について考え、機会があるときには積極的に交流できるようにしてください。 ③ノーマライゼーションの考え方を理解し、今後の生き方の中でそれを大切にしていこうとする意識を持ってください。	教科書・テキスト	『介護等体験安心ハンドブック』，庄司和史著，学事出版，2018年版，1650円 ISBN978-4-7619-2477-5
指定図書／参考書等	『介護等体験ハンドブック』，現代教師養成研究会編，大修館書店，2014年版，1320円，『介護等体験ガイドブック　フィリア』，全国特別支援学校校長会編著，2014年版，ジ アース教育新社／なし	その他・特記事項	課題はClassroomに投稿して提出してください。

実務経験を活かした授業の概要

特別支援学校を訪問したりして介護等体験を行うために必要な連携体制づくりを行うとともに、指導計画や施設・設備について提示し、理解させている。

授業科目名	SK100U 基礎ｾﾞﾐⅠ			開講学科	社会	必修・選択	必修
担当教員名	松下　健・小林　正史・田中　純一・矢澤　励太・竹中　祐二・加藤　仁　（代表教員　松下　健）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
大学生としての基本的な学びの姿勢および知的探求の方法を修得することを目的とする。具体的には、①ノートテイキングの基本的技術、②文章読解力の強化と文章作成能力の育成による要約力の強化、③図書資料などをはじめとする情報の収集方法と整理活用術、④レポート作成の基本的事項を修得する。また、ゼミ内での共同作業やディスカッションを通じて人間関係のあり方やコミュニケーションについても学ぶ。	①大学で学ぶために必要なスキルを身につけ、それを実践することができる。 ②学びに必要な情報の収集方法を知り集めることができる。 ③ポイントを正確に読み取ることができる。 ④書かれた内容を概要と意見に分けてまとめることができる。 ⑤学び合えるディスカッション方法を身につけ互いに学び合う姿勢を身につける。

教授方法	演習：毎回レジュメを作り、発表・ディスカッションをする形式で進める。
履修条件	社会学科１年生または社会学科の学生で再履修となった者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	期首オリエンテーション	全員
2	第5章　大学図書館における情報収集	全員
3	テキスト第１章　スタディスキルズとは：大学での学びに必要な事項を学び、長期目標を立てた上で、それを実現するための今学期の目標を立てる。	全員
4	第2章　ノート・テイキング	各担当教員
5	テキスト第3章　リーディングの基本スキル(1)：テキストを読むとはどういうことかを学ぶ。	全員
6	フレッシュマン・セミナーにおける学科別協議の準備	各担当教員
7	テキスト第3章　リーディングの基本スキル(2)：二度読み方式について学ぶ。	各担当教員
8	第4章　より深いリーディングのために	各担当教員
9	第1回発表：指定された課題についてレポートを作成し、発表する。	各担当教員
10	第8章　アカデミック・ライティングの基本スキル	各担当教員
11	第9章　効果的なアカデミック・ライティングのために	各担当教員
12	第11章　プレゼンテーションの基本スキル	各担当教員
13	第12章　わかりやすいプレゼンテーションのために	各担当教員
14	第2回発表：指定された課題についてレポートを作成し、発表する。	各担当教員
15	期末オリエンテーション	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	60	①指定した書式・字数・枚数にならっている。 ②ポイントを押さえ、概要と意見を分けた文章になっている。	レジュメ作成とレポート発表	20	①分かりやすくポイントをまとめたレジュメ（含ノート・テイキング練習課題） ②第9回に提出する進捗状況レポート ③聞き手が理解しやすい発表
授業参加態度	20	①ディスカッションへの積極的な参加をしている。 ②人の意見を聞きつつ、自分の意見をきちんと述べている。 ③課題にまじめに取り組んでいる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①基礎ゼミⅠで学んだ事柄・スキルを他の授業でも活かすこと。 ②図書館やインターネットなど様々な文献・情報により視野を広め、知識を増やすと共に、集めたものは整理しておくこと。 ③学内外での学びは「社会学」の対象の1つと捉え、分析的に観察し、気づいたことはノートにメモしておくこと。 …上記①～③を踏まえつつ、 ・レポートのためにリサーチを重ね、執筆に取り組むこと。［60分］ ・学んだことはその日のうちに復習すること。［30分］	個々の教員の指導に従うこと。

受講生に望むこと	基礎ゼミⅠは大学の学びの最も土台となる科目である。これからの4年間を有意義に過ごすか否かがかかっていると言っても過言ではない。大学およびそれ以降の社会で必要なスキルを中心に学ぶので、この授業で学んだスキルが身につくよう積極的に授業に臨むこと。	教科書・テキスト	『知へのステップ』（第5版）学習技術研究会/編著　くろしお出版　2019年　ISBN：978-4-87424-789-1
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	課題提出日、発表日などに欠席することは評価に大きくかかわるので注意すること（なお、配慮される欠席理由については学生要覧を参照すること）。 不明な点は自分の所属するゼミ担当教員に問い合わせをすること。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SK105U 基礎ｾﾞﾐⅡ			開講学科	社会	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太・小林　正史・田引　俊和・俵　希實・井上　克洋・松下　健・松尾　藍　（代表教員　矢澤　励太）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
大学生としての主体的・自主的な学びの姿勢および知的探求の方法を習得することを目的とする。具体的には、①文献・データの検索と整理、②レポートの文章作成（前期からの継続と発展）、③プレゼンテーションのしかた、④ディスカッションのしかた（11月の「オータム・セミナー」でのグループ討論を念頭）に重点をおいて学ぶ。テーマに沿ったレポートを作成し、発表する。	①大学で学ぶために必要なスキルを身につけ、それを実践することができる。 ②文献の調べ方とデータの検索方法を身につける。 ③レポートの書き方を身につける。 ④プレゼンテーションのスキルを身につける。 ⑤新しいアイディアを生み出すためのグループ・ディスカッションのスキルを身につける。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	全体オリエンテーション：授業概要を理解する。	全教員
2	テキスト第6章　インターネットによる情報収集：レポート作成のために必要な情報をインターネットで収集する方法を習得する。	全教員
3	レポート課題の選定	各担当教員
4	テキスト第7章　情報の整理：レポート作成に用いる文献の整理方法と文献リストの作成方法を習得する。	各担当教員
5	レポートの構想発表	各担当教員
6	テキスト第8章　アカデミックライティングの基本スキル：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める。	各担当教員
7	グループ・ディスカッション：オータムセミナーのグループ討論を念頭に置いてディスカッションスキルを学ぶ。	各担当教員
8	オータムセミナーグループ討議のふりかえり	全教員
9	テキスト第9章　効果的なアカデミックライティングのために：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める。	各担当教員
10	テキスト第11章　プレゼンテーションの基本スキル：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める。各ゼミ必要に応じてレポート中間発表	各担当教員
11	レポート中間発表	各担当教員
12	テキスト第12章　わかりやすいプレゼンテーションのために：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める。レポート内容の発表準備	各担当教員
13	レポート内容の発表準備　各ゼミ必要に応じてレポート最終発表	各担当教員
14	レポート最終発表	各担当教員
15	履修指導、プロゼミ説明会、学期末授業評価アンケート	全教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	60	①指定された書式・字数・枚数になっているか。②ポイントを押さえ、事実・データと意見を分けた文になっているか。	授業参加態度	20	①ディスカッションに積極的に参加したか。②人の意見を聞きつつ、自分の意見をきちんと述べているか。③課題にまじめに取り組んでいるか。
レジュメ作成と発表	20	①わかりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。②聞き手が理解しやすい発表となっているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業で指定された課題を事前に行う。[30分以上] ②レポート作成のための文献・情報の収集と整理を十分に行う。[30分以上] ③レポートの中間発表でのコメントを踏まえて、必要な文献等を読み、内容を改訂する。必要に応じて調査なども行う。 ④図書館やインターネットなどさまざまな文献・情報により視野を広め、知識を増やすとともに、集めたものは整理しておく。 ⑤学内外の学びは社会学の対象の一つととらえ、観察して気づいた点をメモする習慣をつける。	ゼミ・グループ活動、レポート、パワーポイントなど必要に応じて対応する。また、成績評価等の疑問・質問等には随時応じる。

受講生に望むこと	「基礎ゼミⅡ」は、「基礎ゼミⅠ」とともに大学の学びの土台となる科目である。大学およびそれ以降の社会で必要なスキルを中心に学ぶので、学んだスキルが身につくよう積極的に授業にのぞむこと。	教科書・テキスト	『知へのステップ』（第5版）学習技術研究会/編著　くろしお出版　2019年　ISBN：978-4-87424-789-1
指定図書／参考書等	指定図書　なし/参考図書　『大学生のためのリサーチリテラシー入門』山田剛史・林創　ミネルヴァ書店　2011年　ISBN：978-4-623-06045-0	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SK200U ﾌﾟﾛｾﾞﾐA			開講学科	社会	必修・選択	必修
担当教員名	小林　正史・俵　希實・真砂　良則・矢澤　励太・若山　将実・松下　健　（代表教員　小林　正史）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
1年次では、大学での学習に必要な基本的技術や作法（これをアカデミック・ スキルという）を基礎ゼミⅠ・Ⅱにおいて学んできた。2 年次では、3年生から始まる専門ゼミの予行演習の位置づけとして設定されているプロゼミにおいて、自分の興味関心のある分野を選び、それを専門とする教員の指導の下にやや専門性の高い内容について学ぶ。	①指定テキストの内容を理解する。 ②指定テキストの担当部分のレジュメを作成できる。 ③自分が担当する部分について、レジュメにもとづき発表できる。 ④他者の発表を聞いて、自分の考えをもちディスカッションに参加できる。 ⑤プロゼミにおいて学んだ内容についてレポートにまとめることができる。

教授方法	ゼミごとによる演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ゼミ内での自己紹介、各ゼミのゼミ運営についての説明など。	各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
14	プロゼミ A の活動のまとめ（ゼミごとに半期のゼミ活動を総括する）	各担当教員
15	後期科目の履修指導、プロゼミB選択についての説明、その他諸連絡（合同）	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	40	①ゼミ内で指定した書式・文字数・枚数になっているか。 ②ポイントを押さえ、概要と意見を分けた文になっているか。	レジュメ作成と発表	30	①分かりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。 ②聞き手が理解しやすい発表となっているか。
ゼミへの参加態度と意欲	30	①ディスカッションへの積極的な参加をしているか。 ②人の意見を聞きつつ、自分の意見をきちんと述べているか。 ③課題にまじめに取り組み学ぼうとする姿勢があるか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
ゼミごとに求められる内容が異なるので、自分の所属するゼミの担当教員の指導に従うこと。 ゼミで指定されたテキスト、参考図書、資料等をよく読み考えをまとめる。[週平均90分以上] 日頃から新聞を読み、社会の事象を意識するように努める。	各担当教員から説明する。

受講生に望むこと	プロゼミでの学びが 3 年次からの専門ゼミの学びへとつながっていくので、指導教員の指示にしたがって指導を受けるのはもちろんのこと、自ら学ぶという強い意欲と授業への積極的な参加態度を望みます。	教科書・テキスト	ゼミごとに教員の指示にしたがうこと。
指定図書／参考書等	ゼミごとに教員の指示にしたがうこと。	その他・特記事項	ゼミ単位で指導を行うので、不明な点は自分の所属するゼミ教員に問い合わせること。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SK205U ﾌﾟﾛｾﾞﾐB	開講学科	社会	必修・選択	必修
担当教員名	田中　純一・田引　俊和・井上　克洋・竹中　祐二・若杉　亮平・加藤　仁・松尾　藍　（代表教員　田中　純一）				
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
1年次では、大学の学習に必要な基本的技術や作法（これをアカデミック・スキルという）を基礎ゼミⅠ・Ⅱにおいて学んできた。2年次では、3年生から始まる専門ゼミの予行演習の位置づけとして設定されているプロゼミにおいて、自分の興味・関心のある分野を選び、それを専門とする教員の指導の下に、やや専門性の高い内容について学んでいく。	①指定テキストの内容を理解する。 ②指定テキストの担当部分のレジュメを作成する。 ③自分が担当する部分について、レジュメに基づき発表する。 ④他者の発表を聞いて自分の考えを持ち、ディスカッションに参加する。 ⑤プロゼミにおいて学んだ内容について、レポートにまとめることができる。

教授方法	各ゼミごとの演習
履修条件	「プロゼミA」を履修した者（単位未修得可）

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	前半：成績についての指導（合同） 後半：ゼミ内での自己紹介・各ゼミ運営についての説明、履修・成績指導	全員
2	各ゼミ担当教員の指導に従う。	各担当教員
3	各ゼミ担当教員の指導に従う。	各担当教員
4	各ゼミ担当教員の指導に従う。	各担当教員
5	各ゼミ担当教員の指導に従う。	各担当教員
6	各ゼミ担当教員の指導に従う。	各担当教員
7	各ゼミ担当教員の指導に従う。	各担当教員
8	オータムセミナーについての説明・テーマに沿ったディスカッションと発表	全員
9	各ゼミ担当教員の指導に従う。	各担当教員
10	各ゼミ担当教員の指導に従う。	各担当教員
11	各ゼミ担当教員の指導に従う。	各担当教員
12	各ゼミ担当教員の指導に従う。	各担当教員
13	各ゼミ担当教員の指導に従う。	各担当教員
14	4年生卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会に参加し、簡単なレポートにまとめる（※特記事項参照）	全員
15	3年次前期履修説明・指導・専門ゼミⅠについての説明、その他連絡事項（合同）	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
ゼミへの参加姿勢	30	①議論への積極的な参加をしているか。 ②人の意見を聞きつつ、自分の意見をきちんと述べているか。 ③課題にまじめに取り組み学ぼうとする姿勢があるか。	レジュメの作成と発表	30	①わかりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。 ②聞き手が理解しやすい発表となっているか。
レポート	40	①ゼミ内で指定した書式・字数・枚数にならっているか。 ②ポイントを押さえ、概要と意見を分けた文章になっているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①学内外の講座・セミナーへの参加、フィールドワーク、ゼミ担当者が指定・推薦する文献の購読など。 ②各自選択した研究テーマについて積極的に研究を進め、レポートの準備をすること。 上記①・②を踏まえつつ、 ・講義に関するレジュメを事前に配布するので必ず目を通しておくこと[30分] ・学んだことはその日のうちに復習すること[30分]	各担当教員の指導に従う。

受講生に望むこと	プロゼミでの学びが3年次からの専門ゼミの学びへとつながっていくので、指導教員の指示・指導に従って学びを深めるのはもちろんのこと、自ら学ぶという強い意欲と授業への積極的な参加が望まれる。	教科書・テキスト	各担当教員の指導に従う。
指定図書／参考書等	各担当教員の指導に従う。	その他・特記事項	卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会については、2月の試験期間後に行われる。具体的な日程等については別途案内する。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SK110U 社会学ﾘﾚｰ講義			開講学科	社会	必修・選択	必修
担当教員名	若山　将実・楠本　史郎・小林　正史・田中　純一・田引　俊和・俵　希實・真砂　良則・矢澤　励太・井上　克洋・竹中　祐二・松下　健・若杉　亮平・加藤　仁・松尾　藍　(代表教員　若山　将実)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
社会学科で学んでいくにあたり、この学科で学ぶことができる研究領域や分野について理解することを目的に、社会学科の専任教員が順番に、毎回自分の専門分野の内容についてわかりやすく講義する。これによって学生は、社会学、および関連領域の中から興味ある分野や自分が研究したいテーマを見つけ、２年次のプロゼミ選択の際の判断材料とする。	①社会学科で学ぶにあたり、強い好奇心をもって各分野の初歩を学び、向上心を高める。 ②講義で扱う各分野の内容を理解する。 ③各回の講義で学んだことを整理し、レポートにまとめることができる。

教授方法	社会学科専任教員によるオムニバス講義。
履修条件	特になし。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション：社会学科での学びの目的、および本授業の目的と進め方を理解する。課題レポート評価基準「ルーブリック」の説明。Google Classroom 設定クラス参加手続。	若山
2	自然災害からの復旧・復興過程における社会的課題について「人間の復興」の視点から考える。	田中
3	「社会病理学」の成り立ちを振り返り、「社会病理」とは何かという問いに向き合うことを通じ、「社会学」の世界への理解を深め、また、私達が生きる「社会」それ自体の在り方への理解を深める。	竹中
4	「多文化共生」をテーマとし，社会学的思考，社会調査結果を用いて，社会のあり方について考える。	俵
5	文化間比較という人類学の方法に基づいて、日本の伝統的食文化の諸特徴を意味を検討する。	小林
6	情報学とは何かを考えるため「情報とは何か」という根本的な問いを取り上げる。情報に関わる歴史的な議論を踏まえ，情報メディア論への基本的な理解を目的とする。	若杉
7	国政や地元石川県の政治の時事問題を1つ取り上げ、その政治の時事問題がなぜ生じたのかを、政治学的なアプローチによって検討していく。	若山
8	社会経済史とはどういう分野の学問か、江戸期長崎出島の日蘭貿易を事例に考える。アナール学派、人口史、グローバルヒストリーなど新しい歴史学について学習する。	井上
9	宗教と社会の関係を見る方法論の概略を、K.MarxとM.Weberを比較して学ぶ。宗教的確信と使命感が行政を動かす力となった例を見る。宗教と社会の連関を知る。	楠本
10	キリスト教が抽象的・思弁的な営みなのではなく、日常生活や社会と深く結びついた営みであることを慣用表現や日本に定着している行事等の具体例を通じて発見する。	矢澤
11	障害概念の基礎的理解、心の不調や発達障害などがある人たちについて正しく理解するとともに、互いを認め合える共生社会・ノーマライゼーション理念について学ぶ。	田引
12	超高齢社会を迎え、介護問題をはじめ高齢者をめぐる福祉ニーズは拡大化、多様化してきている。このような動向を踏まえ、高齢者福祉の意義やあり方について考える。	真砂
13	カウンセリングや心理検査など，心理学の研究知見を対人援助に応用する臨床心理学について学ぶ。	松下
14	「パーソナリティ」の心理学：ダークトライアドと呼ばれる3つのパーソナリティについて，事例を通じて理解を深めるとともに，人間関係・自分自身の人付き合いについても考える。	加藤
15	人は他者との関わりなしには生きられない。こうした「社会的存在」としての人への理解を深めるとともに、私たちが誰かを近く感じたり遠く感じたりする心のはたらきを、社会心理学の視点から説明する。	松尾

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	90	①各回の授業担当者ごとに出される課題レポートの提出（全14回分のレポート提出） ②レポート内容（評価基準は、第1回講義のレポート課題評価基準「ルーブリック」および下記「授業外における学習」欄を参照）	受講態度	10	授業への積極的な取り組み姿勢

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義で学んだことを整理・復習する。［30分以上］ ②講義中に紹介された図書や資料については講義後各自で読む、調べる。［30分以上］ ③講義によっては事前に関連する資料を配布するので熟読すること。 ④こころと体の健康、高齢社会などについて、社会のニュースを意識し、考えをまとめる（福祉分野）。 ⑤以下の評価基準に留意しレポートを作成すること。分量、文体の統一、漢字とかなの使い分け方針の一貫性、誤字・脱字、文頭と文末の対応、一文の長さ、段落の一字下げの有無等。	提出されたレポートについては、別途、総評をする。

受講生に望むこと	授業は、教員と学生双方の意欲と態度によって成り立つので、学生の皆さんには積極的な授業への参加態度（教員の問いかけに答えるなど）を望みます。	教科書・テキスト	各回の担当者がレジュメ・資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／各回の担当者の指示に従うこと。	その他・特記事項	①各回の担当者による課題レポートの提出期日は厳守すること。期限後の提出は、いかなる理由があっても受理しない。 ②レポートは、Google Classroom を通じて、翌週の月曜日13：00までに提出。なお、個別に指示があった場合は、それに従う。 ③指定された日にはChromebookを持参。

実務経験を活かした授業の概要

楠本：牧師として聖書・キリスト教研究の成果を、幼稚園園長・宗教教誨師としての経験を実例として挙げつつ、キリスト教人間観・歴史観・教育観について講義し、学生にレスポンスペーパー記入を義務付け、それに応える形で授業を進めている。
真砂：高齢者福祉について、各種委員会等（施設職員研修、介護老人福祉施設第三者委員等）の経験をもとに具体例をあげて講義している。

授業科目名	SK115U 社会学概論A			開講学科	社会	必修・選択	必修
担当教員名	俵　希實						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では社会学の基本的な理論と概念、そして社会学の基本的な考え方を理解し、現代社会の捉え方を学ぶ。授業では、具体的に社会問題や人々の生活を取り上げ、社会学の視点から解説する。それらを踏まえて社会学とはどのような学問であるのか、どのように社会に貢献しているのかについて考える。	①社会学の基本的な理論と概念について理解する。 ②社会学の基本的な考え方ができるようになる。 ③現代社会が直面する問題を社会学の理論や概念を用いて説明することができるようになる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。	
2	社会学とはどのような学問なのか①：社会学が対象としている「社会」とは何か、社会と人間との関わりについて考える。	
3	社会学とはどのような学問なのか②：他の社会科学との違いから社会学を捉える。社会学における「前近代」「近代」「脱近代」ついて理解する。	
4	【人と社会の関係を捉える】 行為論①：行為と行動の違い、行為の種類、行為の４類型について理解する。	
5	行為論②：準拠集団、社会規範について理解する。	
6	行為論③：社会化、個人主義、パーソナリティについて理解する。	
7	相互作用論①：地位と役割、役割の分類、役割葛藤、役割演技、ダブルコンティンジェンシーについて理解する。	
8	相互作用論②：予言の自己成就について理解する。	
9	【現代社会への理解を深める】 集団論①：集団とは何かを学び、その上で個人と集団との関係、社会と集団との関係を理解する。	
10	集団論②：内集団と外集団、集団の諸類型について学ぶ。	
11	集団論③：最も大規模な機能集団である官僚制組織の特徴やその組織の構成員に与える影響について理解する。	
12	【生活を理解する】 家族と社会：社会の基礎集団である家族について理解する。	
13	生活と社会：男女共同参画社会に着目して生活時間について考える。	
14	【社会問題を理解する】 発表①：現代社会の諸問題を取り上げ、それについて社会学の観点から分析し、発表する。	
15	発表②：現代社会の諸問題を取り上げ、それについて社会学の観点から分析し、発表する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	60	授業内容について理解しているか。	提出物	30	①課題に対して適切な内容になっているか。 ②定められた期間内に提出しているか。 ③定められた分量になっているか。
発表	10	講義内容との関連で、的確な発表ができているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
発表の準備は授業外で行うこと。授業中に配布するレジュメを事後に確認し、復習すること。講義内容にとどまらず、様々な情報を通じて、現代社会のあり方、諸問題の背景と原因について自己学習すること。[45分]	発表に対してコメントする。 提出された課題について、授業中にコメントする，もしくは書面でコメントを提示する。

受講生に望むこと	意欲的態度を持って授業に参加してください。	教科書・テキスト	レジュメを配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SK120U 社会学概論B			開講学科	社会	必修・選択	選択必修
担当教員名	竹中　祐二						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は社会学科の基幹科目である。社会（集団）に適応して生きていくための思考と行為についての基本的事項、社会学の対象分野や分析方法について講義すると同時に、皆と共に考えていきたい。そうすることで、自立的人間として成長していく基礎力を養成したいと考える。公務員等の試験にも多く出題される内容を含んだ科目なので、幅広く講義する予定である。	①社会学の基本的な理論・概念を、具体的な事例に当てはめて、文章化して説明することができる。 ②現代社会を様々な切り口から理解し、特に自ら問題関心を持つ領域や現象について、これまで何が議論の対象になってきたか、そして今日の社会でなにがどのように問題になっているのか、文章化して説明することができる。 ③自らの問題関心や意見に沿って、他者との意見交換や共有を積極的に行うことができる。

教授方法	講義・グループディスカッション
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：社会学とはどういった学問であるのか、何を学ぶことができるのかといったことについて理解する。	
2	社会集団論：一般的な社会集団を例に挙げながら、自己と他者、個人と社会の関係について理解する。	
3	集合行動論：組織・集団という明示化された枠組みを超えた領域における人間行動について、社会というフィルターを通して理解する。	
4	地域社会・都市：生活圏としての地域社会・都市が人々にとって持つ意味を理解すると共に、地域社会・都市をめぐるマクロな変動について理解する。	
5	個人・家族：親密圏としての家族が個人にとって持つ意味を理解すると共に、マクロ社会の変化に伴って家族が持つ意味を再考し、理解する。	
6	ジェンダー論：自己と他者の関係構築や家族の構成といった論点の応用から、現代社会におけるセクシャリティ・ジェンダー問題について理解する。	
7	社会病理現象：時代や文化によって異なる社会病理現象について理解すると共に、病理性を規定する社会という存在そのものについても理解する。	
8	逸脱行動論：逸脱行動と社会病理現象の異同について理解すると共に、代表的な逸脱行動論についても理解する。	
9	医療・看護と社会：「医療・看護」を切り口に感情社会学や臨床社会学について学ぶと共に、現代社会論から価値の変容についても理解する。	
10	少子・高齢化と福祉政策：少子・高齢化現象をマクロな視点から理解し、それらをめぐる福祉政策実践についても理解する。	
11	消費社会論：消費行動の変容を切り口に、マクロ社会の変動と共に自己と他者の関係性の変容についても理解する。	
12	リスク社会論：大規模災害や食中毒事件等の問題を素材としながら、リスク社会論について理解する。	
13	情報社会論：情報技術の発達によってもたらされた現代の情報社会が成立した過程を理解すると共に、それが人々に与えた影響について社会学的観点から理解する。	
14	国際化と多文化共生：情報といった形の無いものだけではなく、実際のヒトとモノの流動性が高まった現代社会のあり様を理解し、それによって我々が直面しなければならない問題・課題について考える。	
15	グループディスカッション：これまでの学習内容を踏まえて、「社会」とは何か、「社会学」とは何か、「社会学的思考様式」とはどういったものであるのかについて、他者との意見交換や共有を通して、自らの考えを深める。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加度	20	日常的な授業態度を評価する。	グループディスカッション	20	グループディスカッション時の積極的な参加態度等を評価する。
レポート	60	授業の到達目標に即して、この授業で学んだ内容を適切に分かり易くまとめられているか評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業で学習した社会学理論や社会学的視点、社会学用語について、様々な具体的事例に応用して説明できるように、社会学のテキストや事典を活用して復習し、文章化する練習をする。[45分] ②各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]	・各回の授業でコメントフォームを活用し、そこでの質問は次回に全体共有する。

受講生に望むこと	・日頃から社会の様々な事柄に対してアンテナを張り巡らせ、疑問を持つことが望ましい。 ・問題意識を高めること、多様な視点・観点から捉え直すことによって社会学的な思考様式の獲得は大いに進むと思われるが、自分が興味を持っている事柄について考えることをその入り口とするところから始めていただきたい。	教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）
指定図書／参考書等	＜参考書＞ 『社会学がわかる事典　―　読みこなし使いこなし活用自在』 森下伸也　日本実業出版社　2000年＜ISBN:978-4534031730＞ 『社会学入門』 盛山和夫・金明秀・佐藤哲彦・難波功士編　ミネルヴァ書房　2017年＜ISBN:978-4623079117＞ 『社会学用語図鑑』 田中正人（編著）・香月孝史　プレジデント社　2019年＜ISBN:978-4833423113＞	その他・特記事項	・日常的な学習やグループ作業について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。 ・アクティブラーニングとしてグループディスカッションの実施を予定しているが、個別あるいは全体の状況に応じて、別の課題に代える場合がある。 ・コミュニティ文化学科科目「現代社会の基礎知識」と合同開講である。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SK125U 社会調査論			開講学科	社会	必修・選択	必修
担当教員名	俵　希實						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会調査士・社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
社会学の基礎的な知識と関連させながら、学問の方法としての社会調査法を学ぶ。経験的社会学研究の方法論として、社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を解説する。社会調査の種類・目的、実例、社会調査の倫理、社会調査の歴史等についての基礎知識を学び、これからの社会調査のあり方について考える。社会調査の方法の概要について、社会調査の全体像と個別作業との結びつきを実際例から把握する。以上によって、社会学を自ら学んでいく基礎を確立することを目指す。	①社会学の基礎的知識、特に経験的社会学の成果について説明できるようになる。 ②社会調査の意義、目的、種類、歴史について説明できるようになる。 ③現代の社会環境のなかで社会調査を実施する際の、気をつけるべきポイントを理解する。 ④社会調査の全体像と、個別作業の結びつきについて理解する。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。	
2	社会学の見取り図（理論社会学と経験社会学）と社会調査の位置について理解する。	
3	社会調査の定義と目的、歴史について知り、意義を構築する。	
4	調査倫理、統計法と個人情報保護、そして統計リテラシーについて知識を習得する。	
5	社会調査（質的調査）の種類と実際例を学ぶ。	
6	社会調査（量的調査）のプロセスの全体像を把握する。	
7	社会学の理論と、リサーチクエスチョン、そして問題発見の仕方について理解し、実践的に考察する。	
8	社会調査（量的調査）の実際例を学び、その意義について考え、理解する。	
9	調査課題の設定について実践的に検討する。	
10	様々な実査の方法の長所と短所について理解する。	
11	調査票の構成について理解する。	
12	質問文の作成と、社会学で使われてきた尺度について、具体例に基づいて理解する。	
13	サンプリングの概念について学び、調査対象者を決めるということの意味を理解する。	
14	サンプリングの実際の場面を模擬的に経験し、ポイントを理解する。	
15	調査の実施（郵送法）の具体的な手続きと注意点を理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
提出物	30	①課題に対して適切な内容になっているか。 ②定められた期間内に提出しているか。	期末試験	70	各回の講義内容について理解しているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①教科書の該当範囲を事前に読んで、疑問点を考えてくる。 ②配布資料を事後に確認し、復習を行う。[60分]	課題についての解説を授業中に行う。

受講生に望むこと	①講義内容に関して疑問点があれば、積極的に質問してください。 ②社会学と社会調査の結びつきについて、常に念頭におくようにしてください。	教科書・テキスト	『入門・社会調査法』（第4版）轟亮・杉野勇・平沢和司　編 法律文化社　2021年 ISBN：978-4-589-04141-8
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのA科目に準拠している。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SK130U 社会調査法			開講学科	社会	必修・選択	選択必修
担当教員名	俵　希實						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会調査士				

授業の概要	授業の到達目標
社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく基本的な知識と具体的な方法を学ぶ。 構想・計画→準備→実査→データの入力と点検→分析→報告という社会調査（量的調査）の全過程について順を追って解説する。 実際に、リサーチ・クエスチョンを立てたり、質問文を作成したりすることで理解を深める。	①社会調査（量的調査）の全過程についての基礎知識を習得する。 ②量的調査に係る実施作業のイメージをつかむことができるようになる。 ③他の人がおこなった調査データや分析結果を適切に読みとることができるようになる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。	
2	社会調査のデザイン（1）：問いを立てる。仮説を構成する。	
3	社会調査のデザイン（2）：誰を対象にするのかを考える。	
4	実査の方法：量的調査における方法の選択について学ぶ。	
5	調査票の作成（1）：調査票の構成と質問の作成手順について学ぶ。	
6	調査票の作成（2）：質問文の形式、質問の作成および配置に関する留意点について学ぶ。	
7	サンプリング：ランダムサンプリングがなぜ必要なのか、標本抽出枠とカバレッジ誤差、実行可能性や利便性への配慮、層化抽出、非標本誤差について理解する。	
8	調査の実施：郵送法実査と個別面接法実査の具体的な手順と注意点について理解する。	
9	データの電子ファイル化（1）：データ構造化の流れについて理解する。	
10	データの電子ファイル化（2）：エディティングとコーディングについて学ぶ。	
11	データの電子ファイル化（3）：データ入力とデータクリーニングについて学ぶ。	
12	データの基礎的集計（1）：変数の種類、質的変数の要約、量的変数の要約（代表値）について学ぶ。	
13	データの基礎的集計（2）：量的変数の要約（散布度）について学ぶ。	
14	変数間の関連：相関係数とクロス表の作成について学ぶ。	
15	調査倫理とデータの管理：調査のフィナーレであるデータ管理と、社会調査のすべてのプロセスにかかわる調査倫理について理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	70	授業内容を理解しているか。	提出物	30	①適切な回答を記述しているか。 ②指定された期日に提出しているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習としてテキストの該当箇所を読んでくること。事後学習として授業中に配布されたレジュメを確認すること。ワークシートを指示されたところまで仕上げること。[60分]	課題についての解説を授業中に行う。

受講生に望むこと	粘り強く学習してください。 授業で得た知識を他の授業や授業外でも活用するようにしてください。	教科書・テキスト	『入門・社会調査法』（第4版）轟亮・杉野勇・平沢和司　編 法律文化社　2021年 ISBN：978-4-589-04141-8
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムの B科目に準拠している。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SK135U 統計ﾃﾞｰﾀの読み方			開講学科	社会	必修・選択	必修
担当教員名	若山　将実・小林　正史・加藤　仁　（代表教員　若山　将実）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会調査士				

授業の概要	授業の到達目標
社会の様々な現象を理解する上で、官庁統計・資料に代表される統計データや調査資料を利用する機会は近年ますます多くなってきています。この授業の目的は、官庁統計・資料や、それを利用した調査報告・研究論文が読めるようになるための基本的知識を学習することにあります。具体的には、（1）単純集計、度数分布、代表値、クロス集計などの記述統計データの読み方や算出方法、（2）様々なグラフの読み方やその作成方法、（3）相関係数などの基礎的統計手法や相関関係と因果関係の違い、（4）質的データの読み方と分析のための利用法について学習します。	①単純集計、度数分布、代表値、そしてクロス集計などの記述統計データの読み方や算出方法を習得する。 ②グラフの読み方や特性、さらに作成の仕方について習得する。 ③質的データの読み方と基本的なまとめ方について習得する。 ④日常生活の様々な側面で利用されている統計データの利用のされ方の正誤を判別できるようになる。

教授方法	基本的に講義形式による授業となりますが、可能な限りExcelやSPSSなどの統計ソフトを利用した実習を行います。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：授業の進め方と成績評価の方法について説明した後、統計データとは何か、社会調査法とは何か、そしてなぜ社会調査法を学ぶ必要があるのかについて考えます。（統計データの読み方や社会調査法を学ぶ意義を理解する。）	各担当教員
2	分析とは何か：統計データを「分析する」意味について考えます。（理論・仮説に基づく分析の意味を理解する。）	各担当教員
3	データの特徴：データにはどのような特徴があるのか、変数と尺度という言葉を用いながら説明します。（統計データの特徴について理解する。）	各担当教員
4	単純集計：世論調査等の統計データを単純に集計し、それを一覧表にまとめた度数分布表とヒストグラムについて説明した後、っその作成法の実習を行います。（度数分布表とヒストグラムについて理解し、それらを作成できるようになる。）	各担当教員
5	記述統計Ⅰ：データの中心的傾向を見る指標として平均、中央値、そして最頻値について説明した後、それらの算出法の実習を行います。（記述統計データからデータの中心的傾向を把握できるようになる。）	各担当教員
6	記述統計Ⅱ：データのばらつきの大きさを測る指標として範囲、分散、そして標準偏差について説明した後、それらの算出法の実習を行います。（記述統計データからデータのばらつきの大きさを把握できるようになる。）	各担当教員
7	クロス集計Ⅰ：二種類のデータの関係を捉える方法として、クロス集計表について説明します。（クロス集計表から 2 つのデータの関係を捉えることができるようになる。）	各担当教員
8	クロス集計Ⅱ：世論調査データを使用したクロス集計表を作成する実習を行います。（クロス集計表を作成することで、世論調査における 2つの回答の関係性を推測できるようになる。）	各担当教員
9	相関Ⅰ：二つのデータの直線的な関係を捉える方法として、相関の考え方と相関係数について説明します。（相関関係の基本的な考え方と、それを表す相関係数の算出法について理解する。）	各担当教員
10	相関Ⅱ：二つのデータの関連性を見極める上で理解しておく必要のある相関関係と因果関係の違いや、擬似相関について説明します。（二つのデータの関連性を見極めることの難しさを理解する。）	各担当教員
11	相関Ⅲ：実際の統計データを利用し、統計ソフトを使った散布図の描き方や相関係数の算出法などの実習を行います。（散布図の作成法や相関係数の算出法を実習することで、二つのデータの関連性の有無を自身で判断できるようになる。）	各担当教員
12	質的データの読み方Ⅰ：質的調査と呼ばれる研究法について説明した後、観察調査の諸類型やまとめ方について紹介します。（質的調査法と量的調査法の違いを理解する。そして観察調査の種類やまとめ方を理解する。）	各担当教員
13	質的データの読み方Ⅱ：インタビュー調査とその手順について説明し、実際にインタビュー番組を見ながらインタビュー調査の有用性について考えます。（インタビュー調査の意義を理解する。）	各担当教員
14	質的データの読み方Ⅲ：ドキュメントの諸類型について説明した後、ドキュメント分析の方法を紹介し、その意義について考えます。（ドキュメントを分析することの意義を理解する。）	各担当教員
15	全体のまとめ	各担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小課題（毎回）	40	毎回の授業内容を理解できているか。	到達度テスト	30	授業内容を充分に理解できているか確認するために、授業の後半回で実施する。
期末レポート	30	ポイントを押さえた読みやすいレポートを書くことができているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業で使用するレジュメ（資料）は、Google Classroom等を通じて配布するので必ず目を通しておいてください。[30分] ②毎回の講義後に統計データの読み方に関する練習問題を小課題として出すので、期日までに提出してください。[50分]	①毎回の小課題およびそれに付属するリアクションシートは、場合によっては採点およびコメントを付けるなどして適切な時期に返却します。 ②到達度確認テストやレポートは、可能であれば振り返りの機会を設けることを検討します。

受講生に望むこと	①統計データは、日常生活のあらゆる側面で使われています。日頃からそうした統計データの利用のされ方に注目するようにしてください。 ②教室内での私語やスマートフォンの使用など、特定の学生による受講態度が講義に重大な悪影響を与えていることが度々認められた場合、その学生に対しては退室等の厳しい処置を取ることがあります。	教科書・テキスト	特に用いません。レジュメ（自作テキスト）を通じて配布します。
指定図書／参考書等	なし／『社会調査の基礎―社会調査士 A･B･C･D 科目対応』篠原清夫・清水 強志・榎本環・大矢根淳著　弘文堂　2010 年　ISBN-13: 978-4335551338.『データはウソをつく：科学的な社会調査の方法』谷岡一郎　ちくまプリマー新書　2007 年 ISBN-13: 978-4480687593.『入門・社会調査法　2 ステップで基礎から学ぶ』第3版　轟亮・杉野勇（編）法律文化社　2017年　ISBN-13: 978-4589034892.	その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのC 科目「基本的な資料とデータの分析に関する科目」に準拠しています。また、毎回の授業では、Google Classroomを使用して授業内容についてのアンケートや学生からの質問受付を随時実施します。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SK210U 質的研究法			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	俵　希實						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会調査士				

授業の概要	授業の到達目標
社会調査法における質的なアプローチを学ぶ。質的調査の歴史、考え方、特徴、仮説と理論についての説明、さらに事例を示しつつ、さまざまな質的データの収集方法や分析方法についての解説を行う。研究目的に適合した調査手法の選び方、調査設計の仕方、実査の進め方、調査結果の解釈の仕方を学ぶ。そして、学んだことをもとに調査案を考えたり、実査を行ったりしながら、実践的な知識とノウハウを習得する。	①質的研究法の基本的な考え方を理解する。 ②質的研究法を用いた研究事例について、分析手法の選択および研究手続きの妥当性が判断できるようになる。 ③質的調査を行うための実践的な知識および技術を習得する。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。	
2	イントロダクション：自分の日常生活を再発見することから質的調査のイメージをつかむ。	
3	質的調査の歴史と考え方：これまでの質的調査の歴史はどのように展開されてきたのか。調査を実際に進める中で生みだされてきた考え方について学習する。	
4	質的調査の特徴・魅力・難しさ：質的調査と量的調査の違い、質的調査と量的調査の関係、質的調査の難しさと魅力を理解する。	
5	仮説と理論：仮説とは何か、理論とは何か、基本的なことを理解する。	
6	リサーチ・クエスチョンを考える：リサーチ・クエスチョンの導き方を学ぶとともに、実際に考えてみることで理解を深める。	
7	観察法①：事例をもとに観察法の進め方を理解する。	
8	観察法②：観察法を用いた調査案を考える。	
9	参与観察法①：事例をもとに参与観察法の進め方を理解する。	
10	参与観察法②：参与観察法を用いた調査案を考える。	
11	インタビュー法①：事例１をもとにインタビュー法の進め方を理解する。	
12	インタビュー法②：インタビュー法を用いた調査案を考える。	
13	文化資料分析法①：事例をもとに文化資料分析法の進め方を理解する。	
14	調査倫理：社会的行為としての社会調査であることを理解する。	
15	文化資料分析法②：実際に文化資料分析法を用いた調査を行い、その結果を発表する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	60	授業内容について理解しているか。	発表	10	①課題に対して適切な内容となっているか。 ②論理的な構成となっているか。 ③聴衆にとってわかりやすい発表となっているか。
提出物	30	①課題に対して適切な内容になっているか。 ②定められた期間内に提出しているか。 ③指定された字数になっているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
調査課題を出すので、個々人で計画し、それに従って調査を実施、その結果をまとめ、パワーポイントでの発表の準備を行うこと。事前学習として、テキストの該当箇所を読んでくること。事後学習として、授業中に配布したレジュメの内容を確認し、復習すること。［60分］	発表に対してコメントする。提出された課題については、授業中にコメントする，もしくは書面でコメントを提示する。

受講生に望むこと	授業で得た知識やスキルを他の授業や授業以外でも活用するようにしてください。	教科書・テキスト	工藤保典・宮垣 元・寺岡伸悟編『質的調査の方法―都市・文化・メディアの感じ方』法律文化社，2016年　ISBN 978‐4‐589‐03805‐0
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する 社会調査士資格取得カリキュラムの F科目に準拠している。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	S0100U ﾃﾞｰﾀ処理基礎			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	若山　将実						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
ビッグデータなどが簡単に入手できるようになった現在、社会の様々な現象を理解する上でデータを適切に処理することのできる能力は社会でますます求められるようになっています。この授業の目的は、大学で社会調査を学んでいく前に求められるデータ分析に関する基本的な知識を学習することにあります。具体的には、データを実証的に分析する際に求められる方法論や分析を行うに際して求められるデータの基本的な見かた等をグループで学んでいきます。	①データを実証的に分析する方法論を習得する。 ②グラフの読み方や特性、さらに作成の仕方の基本について習得する。 ③日常生活の様々な側面で利用されている統計データの利用のされ方の正誤を判別できるようになる。

教授方法	講義と演習によって進められます。
履修条件	社会学科の学生（基本的に1、2年生）のみ履修可

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：授業の進め方と成績評価の方法について説明した後、データ分析を学ぶ意義について検討します。（データ分析を学ぶ意義を理解する。）	
2	データとは何か①：データの定義や基本構造を説明します。（データの定義や基本構造を理解する）	
3	データとは何か②：実際のデータを自分で作成したり、探してみることでデータの定義や基本構造について学びます。	
4	変数の中心を把握する：変数の平均的な傾向を確認する平均値、中央値、最頻値について学びます。（変数の中心を把握する方法を理解する）	
5	変数のばらつきを把握する：変数のばらつきを確認する範囲、分位数、分散、標準偏差について学びます。（変数のばらつきを把握する方法を理解する）	
6	実証分析の基礎①：社会現象をデータによって明らかにするとはどういうことか。実証分析の枠組みについて説明します。	
7	実証分析の基礎②：因果関係の解明を目的とする理論とは何か、仮説とは何かについて説明します。（理論と仮説の意味を理解する）	
8	実証分析の基礎③：社会現象を事例としていくつか取り上げ、それがなぜ生じたのか、各自で仮説を立てて考えてみることで、理論や仮説について学びます。	
9	クロス集計表分析①：二つの変数の関係を分析するクロス集計表分析について学びます。（クロス集計表分析の基礎を理解・習得する）	
10	クロス集計表分析②：Excelを使ったクロス集計表分析の方法について学びます。	
11	相関分析①：二つの変数の双方向の関係を分析する相関分析について学びます。（相関分析の基礎を理解・習得する）	
12	相関分析②：Excelを使った相関分析の方法について学びます。	
13	レポート課題の提示：社会問題をテーマに課題を提示します。受講者は、実証的な方法論に基づいて個人でこの課題に取り組んでいきます。	
14	個人学習：提示されたレポート課題に個人で取り組みます。	
15	まとめ：授業全体のふりかえりとして、データ処理を行うにあたって注意すべき点について説明します。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	60	ポイントを押さえた読みやすいレポートを書くことができているか。	各回の課題	40	毎回の内容を理解できているかをみる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業で使用する資料は、Google Classroomから提供するので事前に必ず目を通しておいてください。[30分] ②毎回の講義後に統計データの読み方に関する課題をGoogle Classroomから出すので、期日までに提出してください。[50分]	①毎回課題については、適切な時期にGoogle Classroomから返却します。 ②期末レポートについては、可能な限り次学期初めに内容に関するコメントを配布することを検討します。

受講生に望むこと	①統計データは、日常生活のあらゆる側面で使われています。日頃からそうした統計データの利用のされ方に注目するようにしてください。 ②教室内での私語やスマホの使用など、特定の学生による受講態度が講義に重大な悪影響を与えていることが度々認められた場合、その学生に対しては退室等の厳しい処置を取ることがあります。	教科書・テキスト	特に用いません。授業資料（自作テキスト）を配布します。
指定図書／参考書等	なし／『社会調査のウソ：リサーチリテラシーのすすめ』　谷岡一郎著　2000年　文春新書　ISBN: 4-16-660110-5. 『データはウソをつく：科学的な社会調査の方法』　谷岡一郎著　2007年　ちくまプリマ―新書　ISBN: 978-4-480-68759-3. 『原因を推論する：政治分析方法論のすすめ』　久米郁男著　2013年　有斐閣　ISBN: 978-4-641-14907-6.	その他・特記事項	授業資料や授業の感想や疑問を記入するリアクションシートなどは、Google Classroomから提供します。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	S0201U 心理学統計法			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	松尾　藍						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・社会調査士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、社会学科の基本・共通科目であり、心理学（特に心理統計学）を学ぶ体系として位置づけられる。統計学は人の行動や心のはたらきだけでなく、社会のさまざまな事象を理解するための有益なツールである。近年は、ビジネスの現場においても統計学の知識や分析手法を習得していることが求められる。本科目では、統計学の基本的な考え方と活用方法を身につけることを目指す。	①統計に関する基礎的な知識および心理学で用いられる統計手法を理解して適切に使用できる。 ②統計に関する基礎的な知識を用いて数量データを集計し、正確に読み解くことができる。 ③データに対して適切な分析手法を選択して実施するスキルを身につけている。

教授方法	講義を中心に実習も取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：心理学統計法とは何か、本科目を学ぶ意義について考える。	
2	記述統計の基礎：データとは何かを学び、度数分布表などデータの図表化について理解する。	
3	代表値：データの分布の特徴を中心傾向から表現する。	
4	散布度：データの分布の特徴をデータの散らばりから表現する。	
5	相関と相関係数：２つの変数が関連している度合いを表現する。	
6	クロス集計表と連関係数：クロス集計表のつくりかた、２つの変数が関連している度合いを示すもう一つの指標を学ぶ。	
7	母集団と標本：母集団と標本の関係、標本抽出について知り、統計的推測の基本を学ぶ。	
8	さまざまな分布（１）：正規分布をはじめとするさまざまな理論分布を学ぶ。	
9	さまざまな分布（２）：標本分布について学ぶ。	
10	推定・信頼区間：点推定と区間推定の方法を学ぶ。	
11	統計的検定（１）：統計的検定はどのような考え方にもとづいて行われているのかを学ぶ。	
12	統計的検定（２）：有意水準、両側検定と片側検定など、統計的仮説検定に関わる概念を学ぶ。	
13	統計的検定（３）：1つの平均値の検定を例に統計的仮説検定の手順とその実際を学ぶ。	
14	カイ二乗検定：クロス集計などで得られた度数を分析する方法を身につける。	
15	まとめ：講義全体の振り返りとともに、日常生活における身近な統計活用事例を考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	60	講義内容に関する筆記テストを行い、内容の理解度を評価する。	提出物	40	振り返りシートなど、各授業回の提出物の提出状況とその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習：教科書（各回の授業内容に該当する箇所）をあらかじめ読み、内容の理解に努めると共に、疑問点をまとめておく。[30分/回] ②事後学習：授業で配布する資料等を活用し、授業内容を復習する。[60分/回] ③その他、テレビや新聞、雑誌、インターネット、商業広告等、日常生活の中にある統計情報に積極的に触れ、そこで示されているデータを、授業内容と照らし合わせて適切に読み取るように習慣づける。	各授業回の提出物については、次回授業の冒頭に講評やフィードバックを行う。

受講生に望むこと	「世の中には３つの嘘がある、嘘、まっかな嘘、そして統計」こんな言葉があるように、私たちは、しばしば数字に惑わされる。データサイエンスが重視される現代社会を生き抜くために、本科目で解説する基礎的な統計リテラシーをしっかりと身につけてほしい。	教科書・テキスト	『よくわかる心理統計』山田　剛史・村井　潤一郎 著 ミネルヴァ書房　2004年　ISBN：9784623039999
指定図書／参考書等	指定図書なし。 参考書については、授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	本科目は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのD科目に準拠しています。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	S0205U 社会学理論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	田邊　浩						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
多くの人々は社会のことをそのようにあるのは「当たり前だ」と思っており、その中で生きています。けれども、よく考えてみると、「当たり前だ」と思っていることの中にも、不思議なことはいっぱいあります。実はわたしたちが生きている社会はたまたまそのような社会としてあるだけで、決して「当たり前」のものではないし、必然でもないのです。でも、ふだん生活している時にはそのことにはなかなか気づきません。社会を違った目で見るための有効な道具が社会学の理論です。理論を使えば、さまざまな社会現象がバッサリと切れて、社会の出来事がスッキリみえてきます。社会学理論はやや抽象的で、その意味で多少難しいですが、それらを理解することができれば、これほど頼りになる道具はありません。みなさんにも、社会学理論の切れ味を確かめてみてほしいと思います。	①社会的行為、コミュニケーション、地位と役割、社会制度、社会システムと社会構造など、社会学理論の基礎的な概念を理解する。 ②デュルケーム、ヴェーバー、ジンメルなど、社会学を確立した古典的理論を理解する。 ③ハーバーマスやルーマン、ギデンズ、ブルデューなど、近年影響力のある社会学理論を理解する。 ④これらをつうじて、社会を理解するための道具として、社会学理論を使えるようになる。 ⑤社会学理論を通じて、自分自身や自分のまわり、日常生活について、理解を深める。 ⑥社会学理論を通じて、私たちがいま生きている社会（モダニティ）を理解する。

教授方法	講義形式で行いますが、講義中にみなさんの意見を求めることがあります。パワーポイントを使用します。
履修条件	社会学概論Aないし社会学概論Bを履修済みであることが望ましい（社会学の基礎知識がないと、理解がやや難しいかもしれません）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	社会とは何か：社会学は「社会」に関する学問です。では、社会とは何でしょうか。社会という言葉を知らない人はいないでしょうが、社会とは何かという問いに答えることは、難しいことです。社会学理論の出発点として、社会とは何かという問題について考えます。	
2	近代社会と社会学：社会学の研究対象である近代社会とはいかなる社会であるのか。社会学はどのように誕生したのか，社会学はどのような役割を担っているのかなど、社会学を学ぶことの意義について考えます。	
3	社会学の古典（1）：E. デュルケームの社会学：社会学という学問の基礎を確立したのは3人の社会学者ですが，そのうちの一人デュルケームは，社会は個人の外に実在し、個人を拘束するようなものだと考えました。そうした彼の社会学的方法について考察します。	
4	社会学の古典（2）M. ヴェーバーの社会学：ヴェーバーはデュルケームと並ぶ重要人物です。ヴェーバーは社会は実在するものではなく、個人の社会的行為からなっていると考えました。デュルケームと対比しながら、ヴェーバーの理論について紹介します。	
5	社会学の古典（3）G. ジンメルの社会学：G. ジンメルは、社会学の研究対象は、人と人、人と集団、集団と集団の「相互作用」にあると考えました。ジンメルはそれら相互作用の形式について考察しました。こうした「形式社会学」について検討します.	
6	社会的行為とはなにか：社会学理論の基礎概念は行為です。人びとのふるまいを表す言葉として、行動という言葉もありますが、行為はこれとどう区別されるのか、行為が社会学の中でなぜ中核概念となるのか、行為にはどのようなタイプがあるのかについて考察します。	
7	地位と役割：私たちはさまざまな集団に所属しています。そして、その集団の中では、ある地位が与えられ、その地位とセットになった役割を遂行するのにふさわしい行為をすることが求められます。この地位と役割の概念について理解を深めます。	
8	社会システムと社会構造：社会システムと社会構造は、社会学理論において、きわめて重要な役割を担う概念です。これらの概念を理解することなくしては、社会学を研究することはおぼつきません。具体例を交えながら、それらの概念を理解します。	
9	機能主義の社会学：機能主義は社会学理論においてきわめて大きな影響力をもったアプローチです。その代表的存在はT. パーソンズですが、機能主義はその名のとおり、社会システムの「機能」ということに注目するのがその特徴です。機能主義の考え方を理解します。	
10	意味学派の理論：機能主義社会学に対抗して、人間が「意味」をやりとりする、そしてそのことによって社会が成り立っていることに注目するさまざまな理論が現れました。現象学的社会学、象徴的相互作用論、エスノメソドロジーといった理論について紹介します。	
11	J. ハーバーマスのコミュニケーション的行為理論：ハーバーマスは相互行為の中でもとくにコミュニケーション的行為に注目して、独自の理論を作り上げました。人びとのコミュニケーションによる合意が社会を成り立たせているという意味について考えます。	
12	N.ルーマンの社会システム理論：パーソンズの遺産を受け継ぎながらも、それを批判的に消化して、さらに大胆に社会システム理論を革新した、ルーマンのオートポイエティック・システム理論について検討します。	
13	P. ブルデューの実践の理論：ブルデューは、行為と構造がハビトゥスによって媒介されていると考えました。ハビトゥスとは、人びとの慣習的行動を生み出す基盤になるような、ある種の性向の体系です。ハビトゥスとはなにかを中心に検討します。	
14	A.ギデンズの構造化理論：ギデンズは、行為と構造が相互に規定しあう関係にあると考えました。構造によって私たちの行為は拘束されている。けれども、構造によって私たちの行為は可能にもなっているということです。このことに意味について考えます。	
15	再び、社会学の理論とは：14回までの授業を振り返りながら、社会学をするうえでいかに理論というものが必要なものであるのか、大切なものであるのかを再確認します。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
学期末レポート	40	論述式のレポートです。 ①基礎的な知識を習得していることが明確であること。 ②矛盾がなく、論理的であること。 ③自分なりの視点で構成されていること。	小レポート	60	毎回、リアクション・ペーパーを配布し、受講して考えたこと、疑問に思ったことを記述してもらいます。自分なりの考えが含まれていることを重視します。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①自分で考えてみることが大切です。講義で学んだことを自分の身の回りを例にして具体的に考えてみましょう。［20分］ ②毎回の講義で学んだことがテキストのどの部分に書かれているかを指示します。講義の後で、指示された部分のテキストを丁寧に読んでみましょう。［60分］ ③テキスト、参考書以外の文献も適宜紹介します。それらを図書館などで探し、実際に手にとってみましょう。［100分］	リアクション・ペーパーに関して、参考になる質問や意見を次回の講義開始時に取り上げて、それらに対してコメントする。

受講生に望むこと	①講義中に受講者のみなさんに質問することがあります。正解があるような質問ではないので、あなたの考えを臆することなく回答してください。 ②パワーポイントに映し出されたことをすべてノートする必要などありません。重要なポイントのみ、きちんとノートを取りましょう。 ②著しく講義の進行の妨げになるような行為がある場合、退室してもらうなどの処置をすることがあります。	教科書・テキスト	『テキスト社会学』星野潔・杉浦郁子著 2007年 学文社 ISBN-13:978-4762016721
指定図書／参考書等	なし/『社会学ベーシックス 2 社会の構造と変動』井上俊・伊藤公雄編 2008年 世界思想社 ISBN-13: 978-4-7907-1349-4	その他・特記事項	・理論というと難しいように思うかもしれませんが、講義内容はなるべくわかりやすく、噛み砕いてお話しするようにいたします。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	S0210U 家族社会学			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	俵　希實						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
現代の社会変動の中で、家族の形態と社会的機能、および個々人にとっての家族の意味は大きく変わってきた。過去および現在における日本の家族に関する様々な現象を取り上げ、その実態とメカニズムを解説する。さらに、家族社会学の基本的な概念や理論をふまえながら、現代社会における家族の諸相について考える。授業の前半は受講生による発表、後半は講義を行う。	①家族社会学に関する基本的な用語や概念を理解する。 ②現代日本における家族の動向を知る。 ③家族について、常識にとらわれない見方・考え方ができるようになる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。	
2	家族社会学の基礎（1）：家族の類型について学ぶ。	
3	家族社会学の基礎（2）：家族の機能について学ぶ。	
4	主婦の誕生：近代化と女性の主婦化について理解する。	
5	家事の誕生：家事とは何かを「主婦論争」から考える。	
6	結婚の動向(1)：恋愛結婚、婚姻率、離婚率、初婚年齢、未婚率についてのデータを読む。	
7	結婚の動向(2)：結婚への志向、収入と結婚についてのデータを読む。	
8	少子化：戦後の合計特殊出生率の推移から少子化の変遷を捉える。	
9	近代化と子どもの数の減少(1)：産業構造の変化と子どもの価値について理解する。	
10	近代化と子どもの数の減少(2)：「子ども」の概念の誕生と子どもの価値について理解する。	
11	母の誕生：「母親」という役割について考える。	
12	核家族化：人口学的特殊性から考える。	
13	高齢化社会と家族(1)：実態と見通しについて理解する。	
14	高齢化社会と家族(2)：家制度の崩壊による家族の変容について考える。	
15	多様化する家族：個人単位の社会への変容について考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
発表	10	①テーマ選択は適切か。 ②論理的な構成となっているか。	提出物	30	①指定された期日に提出しているか。 ②指定された書式にしたがっているか。 ③自分の意見を書くことができているか。
期末試験	60	授業内容について理解しているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
個人発表を課すので、テーマを決め、それについて調べ、発表準備を行うこと。配布資料を事後に確認し、復習を行うこと。[60分]	各発表に対してコメントする。

受講生に望むこと	授業に関連するニュース等に関心を持ち、それについて考えるようにしてください。 授業中の討議では、積極的に発言するように心がけてください。	教科書・テキスト	レジュメを配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	S0215U 都市社会学			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	俵　希實						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
現代社会は、一般に総都市化社会といわれる。社会学は、都市に住む人々の社会関係や生活様式の変化―都市化―を説明する。この講義では、都市化がコミュニティに及ぼす影響に関する研究を中心に取りあげ、背景となる都市そのものの変化に目を配りながら、学説史的に理解するとともに、近年のグローバル化にともなう都市の変容について考える。	①都市社会学の基本的な概念を説明することができるようになる。 ②「都市化とコミュニティ」「都市化と人間関係」について説明することができるようになる。 ③自分たちが住んでいる実際の場（多くは都市社会）を、客観的に観察することができるようになる。 ④より快適な都市社会を創造するための基礎的な分析を行うことができるようになる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。	
2	村落的環境から都市的環境へ：村落的環境における生活様式から都市的環境における生活様式への変化を理解する。	
3	都市的環境の出現とシカゴ学派：アメリカの都市シカゴの発展と都市社会学の原型をつくったシカゴ学派との関連について理解する。	
4	シカゴ・モノグラフ：シカゴ学派の具体的な研究に触れ、シカゴ学派の研究課題や研究方法を理解する。	
5	都市の空間構造：E.W.バージェスの同心円地帯論と、都市の空間構造の生成過程を論じたR.E.パークの人間生態学について理解する。	
6	同心円地帯論への批判：E.W.バージェスとは異なる主張を展開している社会文化生態学について学び、空間構造をもたらす「要因」についての考察を深める。	
7	生活様式としてのアーバニズム：L.ワースのアーバニズム論について理解する。	
8	アーバニズム論への批判：L.ワースとは異なる主張が展開されている研究について学ぶ。	
9	コミュニティ喪失論とコミュニティ存続論：都市の人間関係をめぐる議論を整理し、考察する。	
10	コミュニティ解放論：都市の人間関係をめぐる議論において新しい視点を含んだB.ウェルマンのコミュニティ解放論について学ぶ。	
11	アーバニズムの下位文化理論：都市の人間関係をめぐる議論においてシカゴ学派の主張を修正したC・S・フィッシャーの都市下位文化理論について学ぶ。	
12	日本における下位文化理論の検証：C・S・フィッシャーの都市下位文化理論を用いた複数の社会調査の結果を比較する。	
13	日本型コミュニティの形成：日本におけるコミュニティ喪失論、コミュニティ存続論、そして社会目標としてのコミュニティについて理解する。	
14	グローバル化と都市再編：都市コミュニティ論と外国籍居住者研究について理解する。	
15	コミュニティ論再考：現代社会に対応した新しいコミュニティとはどのようなコミュニティかを考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
提出物	40	①課題に対して適切な内容になっているか。 ②定められた期間内に提出しているか。 ③指定された字数になっているか。	期末レポート	60	①課題に対して適切な内容となっているか。 ②定められた期限内に提出しているか。 ③指定された書式、字数にしたがっているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習については、授業中に発言を求めた際、適切な意見を述べることができるよう、日ごろから都市環境についての情報をメディア等からキャッチしておくこと。事後学習については、講義内容についてポイントを整理すること。専門用語は授業中に説明するが、事典等で調べること。[60分]	提出された課題について、授業中にコメントする，もしくは書面でコメントを提示する。

受講生に望むこと	集団や行為など、「社会学概論A」での基礎的知識を理解し、社会で生じている諸事象を客観的に把握・分析しようとする意欲をもって、講義に参加してください。	教科書・テキスト	レジュメを配布する。
指定図書／参考書等	講義の中で紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	S0220U 環境社会学			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	田中　純一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この講義は、日常生活の身近な環境問題等を事例に、被害・加害構造論、社会的ジレンマ論などの分析視角から、問題発生のメカニズム、被害の特性、問題解決に向けたアクターの諸機能、法制度等について学ぶ。 ※SDGsターゲット3.6,11.4,11.a,12.8,15.1,15.5関連科目	①環境問題がもたらす派生的被害について説明できる。 ②環境社会学の基本的な分析アプローチについて説明できる。

教授方法	講義及びテーマに基づくディスカッション。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス	
2	環境社会学の分析アプローチ（1）　被害論、加害・原因論について理解する。	
3	環境社会学の分析アプローチ（2）　解決論について理解する。	
4	環境保護の歴史的変遷（1）　欧米の環境思想の変遷から自然と人間との関係について理解する。	
5	環境保護の歴史的変遷（2）　欧米の環境思想の変遷から自然と人間との関係について理解する。	
6	環境保護の歴史的変遷（3）　日本の環境思想の変遷から自然と人間との関係について理解する。	
7	環境保護の歴史的変遷（4）　日本の環境思想の変遷から自然と人間との関係について理解する。	
8	海は誰のものか（1）　入浜権について理解する。	
9	海は誰のものか（2）　公共信託理論から自然と人間との関係性について理解する。	
10	野生生物との共存　　獣害問題を事例に、里山保全と野生生物との関係について理解する。	
11	アメニティとは何か　　運動論、政策論の立場からアメニティ論について理解する。	
12	社会的ジレンマ　　ごみ・リサイクルの取り組みを事例に、社会的ジレンマのメカニズムについて理解する。	
13	交通政策とまちづくり　我が国の交通政策と欧米の交通政策とを比較し問題点を明らかにするとともに、住民参加のまちづくりの意義について理解する。	
14	歴史的文化的環境とは何か　　歴史的文化的環境概念を通し、持続可能な地域社会について理解する。	
15	まとめと総括	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
講義参加態度	10	講義への積極的参加	レポート	25	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考がなされている
小テスト	15	講義の理解度	期末試験	50	講義内容を理解し、要求されたレベルの論考がなされている

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①適宜資料を配布するので事前に目を通し内容を理解する［30分以上］ ②適宜小テストを実施するので、事前に復習し内容を理解する［30分以上］	小テストを講義時間内に適宜実施する。

受講生に望むこと	時事問題や環境問題に関心を持ち、ニュースや新聞をチェックする。 あらゆる事象や考え方を相対化して捉える視点を持つ。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし/講義時に適宜紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	S0105U 文化人類学			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	小林　正史						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
米を核とした日本の伝統的食文化（和食）の形成過程について、調理民族誌の文化間比較と考古学資料の分析を組み合わせて説明する。その過程で、単系的進化論（複雑な技術ほど優れており、シンプルな技術ほどクオリティが低い）の問題点を克服し、伝統的（手作り）技術の優れた面を理解する。	①日本の伝統的食文化の特徴を理解する。 ②日本の伝統的食文化（和食）が成立した背景を理解する。 ③日本文化の諸特徴が形作られた過程を理解することにより、各文化の特徴は地域の環境と深く関連していることを理解する。

教授方法	講義、屋外での調理実験
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要、和食の成立過程のあらすじ	
2	中国の食文化：　中国と比べた際の和食の特徴を理解する。	
3	韓国の食文化：　韓国と比べた際の和食の特徴を理解する。	
4	東南アジアの食文化（オカズ調理と食べ方の関連）：　東南アジア民族誌と比べた際の和食の食べ方の特徴を理解する。	
5	東南アジアのオカズ調理：　東南アジア民族誌と比べた際の和食のオカズ調理の特徴を理解する。	
6	日本と南アジアのカレー比較：　南アジアと比べた際の和食の特徴を理解する。	
7	炊飯民族誌の比較：　炊飯方法、オカズ調理方法、飲食方法が相互に関連していることを理解する。	
8	中間テスト：　文化間比較からみた和食の特徴についての理解度を確認する。	
9	和食の成立の歴史：　東南アジア民族誌と共通性が強い初期稲作民の食文化から、和食が成立する中世までの流れを理解する。	
10	弥生時代の調理方法と食べ方：　炊飯とオカズ調理が明瞭に分化していたことを理解する。	
11	古墳時代における湯取り法炊飯の茹で時間短縮化：　湯取り法炊飯の中で茹で時間短縮化が進行することから、米品種の粘り気度が徐々に高まったことを理解する。	
12	炊くから蒸すへの主食調理の転換、オカズ調理の転換：　古墳時代中期において主食のウルチ米の調理方法が転換したことを理解する。	
13	米蒸し調理の民族誌：　古代の約500年間においてウルチ米をあえて蒸した理由を理解する	
14	中世における和食の特徴の成立とその変容	
15	和食の成立過程のまとめ　期末テストの説明	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	10	積極的に授業に参加している。	提出課題	30	授業中のワークや課題リーディングの提出物が適切に作成されているか。
テスト	60	中間テストと期末テストにおける内容の理解度			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
課題リーディングなどを授業外で行うこと［平均45分］	テスト後、講義内に振り返りを行う。

受講生に望むこと	講義においても積極的な参加と質疑応答を望む。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	授業中に指示する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	S0110U 現代社会と福祉Ⅰ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
社会福祉の原理をめぐる思想・哲学の考え方として人間の尊厳、社会正義、平和主義等について理解する。社会福祉の理論の基本的な考え方について理解する。社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解する。社会問題と社会構造の関係の視点から、貧困や孤立、偏見と差別、社会的排除など現代の社会問題について理解する。福祉政策を捉える基本的な視点として、概念や理念を理解するとともに、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程を結びつけて理解する。	①社会福祉の原理について理解できる。 ②社会福祉の歴史について理解できる。 ③社会福祉の思想・哲学・理論について理解できる。 ④社会問題と社会構造について理解できる。 ⑤福祉政策の基本的な視点について理解できる。 ⑥福祉政策におけるニーズと資源について理解できる。

教授方法	講義およびワークシートによる課題。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	社会福祉の原理を学ぶ視点、社会福祉の歴史（社会福祉の歴史を学ぶ視点）について理解する。	
2	社会福祉の歴史（欧米の社会福祉の歴史：生成期から発展期）について理解する。	
3	社会福祉の歴史（欧米の社会福祉の歴史:成熟期から転換期）について理解する。	
4	社会福祉の歴史（日本の社会福祉の歴史:萌芽期から成熟前期）について理解する。	
5	社会福祉の歴史（日本の社会福祉の歴史:成熟後期から転換期）について理解する。	
6	社会福祉の思想・哲学・理論（社会福祉の思想・哲学）について理解する。	
7	社会福祉の思想・哲学・理論（社会福祉の理論）について理解する。	
8	社会福祉の思想・哲学・理論（社会福祉の論点、社会福祉の対象とニーズ）について理解する。	
9	社会問題と社会構造（現代社会における社会問題）について、理解する。	
10	社会問題と社会構造（社会問題の構造的背景）について理解する。	
11	福祉政策の基本的な視点（福祉政策とは何か）について理解する。	
12	福祉政策の基本的な視点（福祉政策において重要な概念・理念）について理解する。	
13	福祉政策におけるニーズと資源（ニーズ）について理解する。	
14	福祉政策におけるニーズと資源（資源）について理解する。	
15	全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
テスト	80	・授業内容についてどれだけ理解しているか。	提出物	20	・ワークシート等の提出物（授業内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスで各回の授業内容を確認し、テキストの該当箇所を読んでおく。[30分以上] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持てたことや疑問点に関して、自分で調べて理解を深める。[30分以上] ③日頃から社会福祉や社会保障等の問題に関心をもち、新聞・ニュース等に触れる。	毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、授業やオンラインによりフィードバックを行う。

受講生に望むこと	受け身ではなく能動的な姿勢（疑問をもつ、考える、発言する等）で臨んでほしい。	教科書・テキスト	『社会福祉の原理と政策』　日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編　　中央法規 2021年　ISBN:978-4-8058-8234-4
指定図書／参考書等	なし／授業において紹介	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

社会福祉について、各種委員会等（契約締結審査会、権利擁護センター委員等）の委員の経験をもとに具体例をあげて講義している。

授業科目名	S0115U 現代社会と福祉Ⅱ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
福祉政策の構成要素とその役割・機能について理解する。政策決定、実施、評価など福祉政策の過程について理解する。福祉政策の動向と課題を踏まえた上で関連施策（保健医療政策、教育政策、住宅政策、労働政策など）や包括的支援（地域包括ケアシステム等）について理解する。福祉政策の実施体制の中核を担う福祉サービスの供給部門と供給過程、及び利用過程について理解する。福祉政策の国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性について理解する。	①社会福祉の構成要素と過程について理解できる。 ②福祉政策の動向と課題について理解できる。 ③福祉政策と関連政策について理解できる。 ④福祉サービスの供給と利用の過程について理解できる。 ⑤福祉政策の国際比較について理解できる。 ⑥これからの社会福祉について理解できる。

教授方法	講義およびワークシートによる課題。
履修条件	現代社会と福祉Ⅰの単位の修得済が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	福祉政策の構成要素と過程（福祉政策の構成要素）について理解する。	
2	福祉政策の構成要素と過程（福祉政策の過程と評価）について理解する。	
3	福祉政策の動向と課題（福祉政策と包括的支援の現状）について理解する。	
4	福祉政策の動向と課題（福祉政策と包括的支援の課題）について理解する。	
5	福祉政策と関連施策（保健医療政策）について理解する。	
6	福祉政策と関連施策（教育政策、住宅政策）について理解する。	
7	福祉政策と関連施策（労働政策、災害政策）について理解する。	
8	福祉サービスの供給と利用の過程（福祉供給部門）について理解する。	
9	福祉サービスの供給と利用の過程（福祉供給過程）について理解する。	
10	福祉サービスの供給と利用の過程（福祉利用過程）について理解する。	
11	福祉政策の国際比較（国際比較の視点と方法、福祉政策の動向：欧米）について理解する。	
12	福祉政策の国際比較（国際比較の視点と方法、福祉政策の動向：東アジア、福祉政策の新しい潮流と課題）について理解する。	
13	これからの社会福祉（出発点、到達点）について理解する。	
14	これからの社会福祉（展望）について理解する。	
15	全体のまとめ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
テスト	80	・授業内容についてどれだけ理解しているか。	提出物	20	・ワークシート等の提出物（授業内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスで各回の授業内容を確認し、テキストの該当箇所を読んでおく。[30分以上] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持てたことや疑問点に関して、自分で調べて理解を深める。[30分以上] ③日頃から社会福祉や社会保障等の問題に関心をもち、新聞・ニュース等に触れる。	毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、授業やオンラインによりフィードバックを行う。

受講生に望むこと	①授業の前にシラバスで各回の授業内容を確認し、テキストの該当箇所を読んでおく。[30以上] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心をもてたことや疑問点に関して、自分で調べて理解を深める。[30以上] ③日頃から社会福祉や社会保障等の問題に関心をもち、新聞・ニュース等に触れる。	教科書・テキスト	『社会福祉の原理と政策』日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編　中央法規　2021年 ISBN:978-4-8058-8234-4
指定図書／参考書等	なし／授業において紹介	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

社会福祉について、各種委員会等（契約締結審査会、権利擁護センター委員等）の委員の経験をもとに具体例をあげて講義している。

授業科目名	S0120U 心理学概論A			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	加藤　仁						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師・社会福祉士・スクール（学校）・ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
心理学の基礎知識を学び、人間のもつ様々な心理的機能について理解することを目的に、「心理学の定義・歴史」から、「基礎心理学・応用心理学」までの全般的・基礎的な事項を概説する。講義を通じて科学としての心理学について学習し、客観的かつ実証可能な手法で人の心を解明するという心理学の考え方に触れることで、以降の学びにつなげていく。	1．心理学の成り立ちについて学び，歴史の中での心理学および諸科学の発展についての知識を身につける。 2．人の心の基本的な仕組みおよび働きについて学び，自分自身の体験や身の回りの出来事を心理学の基礎理論から理解できるようになる。

教授方法	講義形式で行う。自分自身の体験や身の回りの出来事について心理学の基礎理論に基づいて考える機会も作る。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	心理学とは？：心理学の成り立ち・歴史について学ぶ。	
2	目は心の一部である：知覚心理学について理解する。	
3	心は見えないが行動は見える：学習心理学について理解する。	
4	ヒトの心の特徴：進化心理学について理解する。	
5	心は脳のどこにあるのか：神経心理学について理解する。	
6	それぞれの人にそれぞれの心：個人差心理学について理解する。	
7	心は機械で置き換えられるのか：認知心理学について理解する。	
8	ヒトは白紙で生まれてくるのか：発達心理学について理解する。	
9	勉強は本当に必要なのか：教育心理学について理解する。	
10	感情はどのような役割を果たすか：感情心理学について理解する。	
11	いい人？悪い人？：社会心理学について理解する。	
12	なんだかイヤな気持ち：ストレスと心の病気について理解する。	
13	発達の偏りと多様性：発達障害について理解する。	
14	心の問題へのアプローチ：心理的アセスメントと心理学的支援について理解する。	
15	心理学の展開：心理学とその応用領域について理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート試験	70	試験の範囲や出題形式、配点等については、授業内で周知する。	振り返りシート	30	毎回の授業後に記入する、授業への取り組みの振り返りおよびコメントを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回、授業後に欠かさず復習する習慣をつける。また、次回に行う内容に関して、教科書に該当部分がある場合には目を通しておくこと。その他、配布資料や参考書、授業で紹介する文献を用いて予習・復習を自発的に行うこと。［30分程度］	振り返りシートを通じてあがった意見や質問を取り上げ、授業時に全体に向けてフィードバックする。 定期試験は次学期はじめに内容に関するコメントを全体にするとともに、希望者に対して個別にフィードバックを行う。

受講生に望むこと	初めて学ぶ内容であること・非常に多岐にわたるテーマを扱うことから、授業に参加するだけでは消化しきれない可能性があるので、教科書や配布資料も活用しながら知識の定着に努めてほしい。	教科書・テキスト	『ゼロからはじめる心理学・入門』金沢創・市川寛子・作田由衣子（著）有斐閣，2015年，ISBN-13：978-4641150225／同時に、教員が作成した資料も配布する。
指定図書／参考書等	なし／『心理学 新版』無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治（著）有斐閣，2018年，ISBN-13：978-4641053861	その他・特記事項	授業中にWebサイト等を利用して意見聴取・全体へのフィードバックを行う。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	S0125U 心理学概論B			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	松尾　藍						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、社会学科の基本・共通科目であり、心理学を学ぶ体系として位置づけられる。本科目では、心理学の基礎的な知識を身につけることを目的に、知覚、認知、学習、記憶、感情、動機づけ、発達、社会など「基礎心理学」全般を概説する。本科目のねらいは、人間一般に共通する心のはたらきと行動を科学的に理解することである。	①心理学という学問の成り立ちや性質を理解できる。 ②知覚、認知、学習、動機づけ、言語、思考、人格、社会、感情、発達など、人の基本的な心の仕組みやはたらきを理解できる。

教授方法	講義を中心に、一部ワークを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：心理学とは、どのような学問だろうか。科学的心理学の成立とその歴史について概説する。	
2	見る・聞く・感じる心：人が感覚器官を通して、どのように外の世界を知覚しているのかを理解する。	
3	心と脳：心の活動と脳の活動との関係について、生理心理学の視点から学習する。	
4	認知する心：人が外界から受け取った情報をどのように処理しているのかを理解する。	
5	覚える心・忘れる心：記憶のメカニズムや知識の構造を理解する。	
6	学ぶ心（１）：条件づけを学び、人や動物の行動の成り立ちを理解する。	
7	学ぶ心（２）：観察学習、模倣学習を中心に、人間特有の学習の仕組みについて理解する。	
8	やる気の心理：動機づけや欲求についての理論を学び、人の行動を引き起こす原因を理解する。	
9	考える心（１）：人がどのように問題解決を行っているかを理解する。	
10	考える心（２）：人がどのように概念や言語を獲得し、用いているかを理解する。	
11	その人らしさの心理：パーソナリティとは何かを学び、その形成に関わる要因を理解する。	
12	他者を知る心：人が身の回りの他者や集団をどのように認知しているかを理解する。	
13	喜怒哀楽の心：感情の基礎的理論を学習し、感情とは何かを理解する。	
14	発達する心：生涯発達の視点から、人が生まれてから死に至るまでの心身の変化について理解する。	
15	まとめ：講義全体の振り返りとともに、基礎心理学の展開について説明する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	60	講義内容に関する筆記テストを行い、内容の理解度を評価する。	提出物	40	振り返りシートなど、各授業回の提出物の提出状況とその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習：教科書（各回の授業内容に該当する箇所）をあらかじめ読み、内容の理解に努めると共に、疑問点をまとめておく。[30分/回] ②事後学習：授業で配布する資料等を活用し、授業内容を復習する。[60分/回] ③授業テーマと関連する本を１冊以上読む。[期間を通して合計38時間]	各授業回の提出物については、次回授業の冒頭に講評やフィードバックを行う。

受講生に望むこと	本科目で扱う内容は、一般的な「心理学」のイメージとは異なるかもしれないが、いずれも目には見えない「心」を「科学的に」理解するための先人たちの努力の賜物であり、人間理解につながるものである。本科目を通して、人間とはどんな生き物であるかを考えてみてほしい。	教科書・テキスト	『グラフィック心理学』北尾倫彦・中島　実・井上　毅・石王敦子　著　サイエンス社　1997年　ISBN：978-4-7819-0825-0
指定図書／参考書等	指定図書なし。 参考書については、授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SC200U 宗教と社会			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	楠本　史郎						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
旧・新約聖書は、古代から現代に至るまでキリスト教社会の形成に大きな影響を与えてきた。近代以降、キリスト教社会の法や制度はグローバル化し、世界全体に及んでいる。宗教と社会との関係を見る方法論を整理しつつ、聖書が科学技術や法制度の発展に与えた影響を歴史的に追う。その上で、聖書翻訳の歴史が職業観に及ぼした積極的影響と、「らい」観に与えた否定的影響を考察する。さらに宗教的理念が社会を変えたケースとして、米国におけるM.L.Kingによる人種差別撤廃の戦いを取り上げ、検討する。 ※SDGsターゲット8.5,16.3関連科目	宗教がたんに、個人に安心立命を与えるだけではなく、社会を形成する上で、重要な役割を担っていることを理解し、複数の社会科学方法論の特徴と方向性を比較することができる。 そのなかでもとくにキリスト教社会においては、聖書解釈という形で宗教が社会に影響を及ぼすことを、聖書箇所からその実際の影響までを辿り、把握することができる。 その場合、宗教が社会に対して、積極的もしくは否定的な効果をもたらすことを、歴史的・客観的に把握し、宗教理解の重要性と社会との関係を予測する。

教授方法	毎回配布するレジュメに基づく講義、および講義内容から示された主題について考え、話し合い、その内容をミニレポートにまとめ、毎回提出する形で進める。
履修条件	「キリスト教概論Ⅰ」および「キリスト教概論Ⅱ」を履修していることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	序論　大塚久雄『社会科学の方法』から、K.MarxとM.Weberそれぞれの方法論を学び、本講義の方法論を確定する。社会科学が社会現象をどのような方法で取り扱うのか、上部構造と下部構造とに着目して理解する。	
2	宗教と科学技術　宗教は非科学的か。聖書の自然観と科学の芽生えとの関係を科学史的に概観し、科学技術成立に対する宗教の影響と役割を確認する。一神論が自然科学的思考を生んだ歴史的経緯を理解し、宗教と科学技術との基本的な関係を理解する。	
3	宗教と法　1）旧約律法の意味、2）新約における律法と福音との関係を知り、3）福音から律法へと展開する過程を追う。社会制度・法への宗教の影響の基本的枠組みを確認する。旧約律法がイスラエル共同体の形成原理となったことを理解し、宗教が社会形成を担うことを理解する。	
4	聖書翻訳と職業観①　古代から中世の聖書解釈と職業観の変遷を辿る。中世までの職業観の歴史的変遷、およびそのなかで聖書の職業観に対する理解がどう変化したかを理解する。	
5	聖書翻訳と職業観②　宗教改革による職業観の転換（1）としてM.Lutherの改革の画期性と限界を知る。ルターの聖書翻訳が当時の社会、とくに職業観に与えた影響を確認し、自らの職業観を問う。	
6	聖書翻訳と職業観③　宗教改革による職業観の転換（2）としてJ.Calvinによる改革の社会的影響を学ぶ。ピューリタニズムの職業観を理解し、現代の職業観と比較する。	
7	聖書翻訳と職業観④　18世紀以後のピューリタン職業思想の世俗化の経緯を追う。宗教改革期と近代産業革命期以後の職業観の相違と継続性を理解し、労働の意味を問う。	
8	聖書翻訳と職業観⑤　明治期以降の「和魂洋才」思想を検討し、現代日本の問題を確認する。職業観と使命Missionについて考える。近代以降の日本の職業観の特徴と問題性を理解し、自分が働く意味を考える。	
9	小テスト１。聖書翻訳と「らい」①　「らい」史の概要を理解し、その差別の問題性を知る。ハンセン病について、また「らい」史の概略およびその差別的問題性を理解する。	
10	聖書翻訳と「らい」②　旧約におけるツァラアトがハンセン病を意味したのか。これを「らい病」と翻訳したことが妥当であったのか検討する。旧約のツァラアトがハンセン病を意味しないことを理解し、かつての聖書翻訳の問題性を確認する。	
11	聖書翻訳と「らい」③　新約におけるレプラがハンセン病であったのか検討し、その翻訳の妥当性を検討する。新約におけるレプラがハンセン病ではないことを確認し、なぜ「らい」と訳されるに至ったかを理解する。	
12	聖書翻訳と「らい」④　聖書翻訳におけるツァラアトとレプラの翻訳史を追い、それらが「らい病」と訳された経緯を確認する。聖書翻訳の重大性を「らい」の例により理解する。	
13	人種差別と宗教①　聖書解釈による人種差別合理化の歴史を確認し、M.L.Kingが登場した歴史的意味を学ぶ。現代米国社会における人種差別問題が聖書解釈によって根拠づけられた経緯を理解する。	
14	人種差別と宗教②　マタイによる福音書５章のイエスの「愛敵の教え」をM.L.Kingがどう解釈し、それに基づき、どう戦ったかを追う。M.L.Kingの差別撤廃運動が聖書解釈のとらえ直しから始まり、さらに公民権運動へと発展し、米国社会に大きな影響を与えたことを理解する。	
15	総論とまとめ　M.L.Kingの戦いについてまとめ、本講義の総括をする。さらに日本社会の課題について考える。聖書の翻訳や解釈が社会を変える可能性を持つことを理解し、現代日本における職業観のあり方、および偏見や差別との戦いについて、聖書の中心的使信は何を語っているか、聴き取る。小テスト２	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度・理解度	30	毎回の講義およびまとめの内容をミニレポートにまとめ、提出。①授業内容を理解している。②それを自分の言葉で掴み、表現している　③疑問や質問など、問題意識を持っている。	レポート	30	『自由への大いなる歩み』を理解し、その宗教思想を要約する。①概要を理解し掴んでいる。②それに対する自分の考えを整理して述べている。
小テスト1	20	宗教、聖書の翻訳が社会に影響を与えたケースを取り上げ、説明し、その問題と課題解決について考えを表現している。	小テスト2	20	翻訳による聖書解釈が人種差別を正当化する場合と、逆に差別を克服しようとする動機づけとなる場合について、それぞれ説明し、問題と課題解決について考えを表現している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義のなかで紹介した参考図書を手に取って内容を見る。〔15分〕 ②前回授業のレジュメを確認し、振り返りを行った上で、次の授業に臨む。〔15分〕 ③M.L.King『自由への大いなる歩み』を読み、概要を把握し、意見をまとめる。〔120分〕	毎回の授業で、前回のミニレポートにコメントを入れて返却し、レポートと小テストについて、必要なコメントをする。

受講生に望むこと	①受け身ではなく、主体的に授業に参加すること ②旧・新約聖書を持参すること ③遅刻や欠席、私語をせず、携帯電話等も鞄にしまい、きちんとした授業態度を確立すること	教科書・テキスト	『新共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会　毎回の授業に持参すること
指定図書／参考書等	参考図書　『自由への大いなる歩み』M.L.King　岩波新書　1959年　ISBN4-00-415003-5。『科学者とキリスト教』渡辺正雄　講談社ブルーバックス　1967年　ISBN978-4-06-132686-6。『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』M.Weber　岩波文庫　1955年　ISBN-00-007091-6-C0336。『社会科学の方法』大塚久雄　岩波新書　1966年　ISBN4-00-411062-9。	その他・特記事項	①毎回の授業ミニレポートを丁寧に記し、提出すること。提出しないと欠席扱いとなる。 ②レポートは必ず指定された期限内に提出すること。 ③小テストを必ず受験すること。

実務経験を活かした授業の概要

牧師として聖書・キリスト教研究の成果を、幼稚園園長・宗教教誨師としての経験を実例として挙げつつ、キリスト教人間観・歴史観・教育観について講義し、学生にレスポンスペーパー記入を義務付け、それに応える形で授業を進めている。

授業科目名	SC215U 多文化共生論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	俵　希實						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
外国籍居住者の増加とともに、「多文化共生」概念が注目されるようになってきた。家族関係、教育など、外国籍居住者の現状と課題を把握し、「多文化共生」と呼ばれる経験、努力が今の日本でどこまでできているかを総括する。また、オーストラリアやアメリカなど多文化主義の考え方を導入している国の歴史や社会的背景を学ぶことから、日本社会における多文化共生の未来に向けての条件と課題を考察する。	①多文化共生の基礎知識を身につけ、意味を理解する。 ②日本における外国籍居住者の現状と課題についてまとめ、考察することができるようになる。 ③多文化共生のパースペクティブを身につけ、異文化に理解を示すことができるようになる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。	
2	グローバライゼーションと多文化共生：「グローバライゼーション」という社会変動と「多文化共生社会」の意味を理解する。	
3	多文化共生のパースペクティブ：多文化共生社会に向けて求められる視点について考える。	
4	アメリカにおける多文化主義：移民社会アメリカの成り立ちについて理解する。	
5	ヨーロッパ諸国における多文化主義：社会的背景とその潮流について理解する。	
6	オーストラリアにおける多文化主義：白豪主義からの転換について理解する。	
7	外国人労働者から住民、市民へ：日本における定住外国人に対する受け入れ施策を検討する。	
8	外国籍居住者たちの文化とホスト社会：母国語が英語圏の居住者とそれ以外の居住者、それぞれについて考える。	
9	外国籍居住者の家族関係と家族問題①：外国籍居住者の家族関係と家族問題をアイデンティティの観点から考える。	
10	外国籍居住者の家族関係と家族問題②：外国籍居住者の家族関係と家族問題を子どもの視点から考える。	
11	外国籍児童生徒への学校教育の実態と課題：文化伝達の観点からマイノリティ児童生徒への学校教育を考える。	
12	多文化共生と言語：外国籍児童生徒の学習環境を知り、外国籍児童生徒が日本語で教育を受ける意義について考える。	
13	外国籍児童生徒の不就学・不登校：「制度の壁・心の壁・言葉の壁」から生じる外国籍児童生徒の「不就学」の構造について考える。	
14	文化の多様性および異文化交流の意義：文化的背景の異なる人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する。	
15	まとめ：共生が進むか、ナショナリズムの反転か、改めて多文化共生社会を考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
提出物	40	①課題に対して適切な内容になっているか。 ②定められた期間内に提出しているか。 ③指定された字数になっているか。	期末レポート	60	①課題に対して適切な内容となっているか。 ②定められた期限内に提出しているか。 ③指定された書式、字数にしたがっているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
普段から日本における外国籍居住者についてのニュースや国際的なニュースに関心を持つこと。事後学習として対面もしくは代替授業で配布されたレジュメを確認すること。専門用語は授業中に説明するが、復習を兼ねて事典等で調べること。[45分]	提出された課題について、授業中にコメントする，もしくは書面でコメントを提示する。

受講生に望むこと	授業で学んだことと社会情勢を常にリンクさせて自分なりの意見を持つように心がけてください。	教科書・テキスト	レジュメを配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	子ども教育学科　中学校教諭一種免許状（英語）　関連科目

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SC220U ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ社会論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	小林　正史						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
グローバル化（地球規模化）とは国や地域の枠を超えて、地球規模で経済・産業・文化の変化が進行する現象を意味する。この講義では人類学の視点（文化間比較）と方法（身近な事象の観察≒フィールドワーク）を用いてグローバル化を検討する。	①社会・文化のグローバル化について理解する。 ②人類学の基本的方法であるフィールドワーク（参与観察）の方法を用いて、身近な事象の観察からグローバル化現象を明らかにする力を身に着ける。 ③人類学の基本である「文化間比較」の視点からグローバル化現象を理解する力を身に着ける.

教授方法	講義
履修条件	特になし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要の説明：グローバル化の特徴を理解する。	
2	グローバル化の歴史（その１）：モノ作りの国際分業の仕組みを理解する。	
3	グローバル化の歴史（その２）：自由貿易主義と保護貿易主義の違いと相互の課題について理解する。	
4	グローバル化の歴史（その３）：中国の経済発展の影響について理解する。	
5	グローバル化とコロナ禍：　新型コロナ禍がグローバル化に与えた影響について理解する。	
6	働き方におけるグローバル化：日本社会の特徴とその変容について理解する。	
7	環境問題、SDGsとグローバル化：環境問題についてグローバル化の視点から理解する。	
8	中間テスト：　前半の内容の理解度を各自で確認する。	
9	グローバル化と産業構造の変化：　ITC化の影響についてグローバル化との関連から理解する。	
10	大学教育におけるグルーバル化の影響：日本の大学のシステムと教育内容がどのように変化してきたかを理解し、各自の大学での学びの意義を考える.	
11	農業のグローバル化：「緑の革命」の功績と問題点を理解する.	
12	農業のグローバル化：農業とモノ作りの違いについて理解する.	
13	食文化のグローバル化：日本に来た外国料理の受け入れ過程について観察し、その背景を考える.グローバル化による日本の食文化の変容過程を理解する.	
14	食文化のグローバル化：海外に進出した日本料理の受け入れ過程について観察し、その背景を考える.	
15	学期末テスト、グローバル化とこれからの自分:グローバル化を念頭において各自の将来像を考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度と授業内ワーク	10	積極的に授業に参加している	小課題	30	授業内ワークと授業外課題を提出する
中間テスト	30	前半の講義内容を的確に理解できている。	期末テスト	30	後半の講義内容を的確に理解できている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
課題リーディングや小レポート課題を授業外で行う［平均45分］	試験後に内容の解説を行う。レポートの一部を授業内で紹介する。

受講生に望むこと	周囲の身近な現象を観察し、グローバル化との関連を考える習慣を身につけることが望まれる。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	授業中に指示する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SC315U 社会病理学			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	竹中　祐二						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、病理や問題とされる諸現象の発生要因や対応等について、社会との関わりから考えていく。また、逆に、病理現象が発生する社会のあり様それ自体を、私達の生活する現代社会とは一体どのようなものかについて、考えていく。	①正常／異常、一般／特殊といった比較対象の設定という、社会病理学的社会観について、自分の言葉で文章化して説明することができる。 ②社会病理現象の相対性について、具体例を交えて、文章化して説明することができる。 ③現代の社会病理現象における具体的な動向について理解し、経時的な変化や今日的な特徴を押さえて、分かり易く文章化して説明することができる。 ④社会病理学に固有の概念や理論について、分かり易く文章化して説明することができる。 ⑤社会病理現象を理解するのに有用な社会学の基本的概念や理論について、具体例を交えて、文章化して説明することができる。 ⑥社会病理現象への介入・実践のあり方について、自分なりの考えや態度を明確にし、分かり易く文章化して説明することができる。

教授方法	講義・グループディスカッション
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：社会学の成り立ちへの理解や、関連領域との比較を通して、社会病理学という研究領域、およびこの授業の意義・目的について理解する。	
2	社会病理学の歴史①：社会有機体説やマルクス主義をはじめとする、初期の社会病理学的視点について学習する。	
3	社会病理学の歴史②：デュルケムの業績を中心に、社会病理学的視点について学習する。	
4	社会病理学の歴史③：シカゴ学派の業績やミルズによる社会病理学批判について学習する。	
5	社会病理学の基本的視座①：社会病理的視点の相対性について学習する。	
6	社会病理学の基本的視座②：主に機能主義について学習する。	
7	社会病理学の基本的視座③：社会病理現象への対応について、逸脱統制の観点から学習する。	
8	社会病理学の基本的視座④：社会病理現象への対応について、実践・介入・臨床の観点から学習する。	
9	社会病理学の基本的視座⑤：社会構築主義について学習する。	
10	小括：この授業が目指す社会学的な理解という点に基づいて、ここまでの学習内容を振り返る。／映像資料の視聴と共にグループディスカッションを行い、社会病理学的視点を共有する。	
11	社会病理学各論①：貧困をめぐる諸論点について、社会病理学的視点から学習する。	
12	社会病理学各論②：親密圏で発生する暴力（虐待・DV等）をめぐる諸論点について、社会病理学的視点から学習する。	
13	社会病理学各論③：いじめ問題をめぐる諸論点について、社会病理学的視点から学習する。	
14	社会病理学各論④：不登校およびひきこもり問題をめぐる諸論点について、社会病理学的視点から学習する。	
15	総括：本科目を通じて学習した内容について振り返り、それぞれにとって「社会病理学」について学ぶ意義を考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加度	20	日常的な授業態度を評価する。	グループディスカッション	20	グループディスカッション時の、運営上の貢献およびテーマに沿った発言などの積極的な参加態度を評価する。
試験	60	授業の到達目標に即して、この授業で学んだ内容を適切に理解しているか評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業で学習した社会病理学の理論や知識について復習し、日常的に新聞等を通して実際の社会との関わりを意識し、知識を応用して文章化することができるように練習する。[60分] ②各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]	①各回の授業でコメントフォームを活用し、そこでの質問は次回に全体共有する。 ②グループワークならびにグループディスカッション時には自己評価シートの提出を求め、必要に応じて個別にコメントを行う。

受講生に望むこと	・この授業は主として講義形式を採り、多種多様な知識と情報の伝達に努める。したがって、どちらかと言えば双方向ではなく一方向的な学習となる。そのため、この授業で獲得した内容を活用して、日常的な学習の中で、あるいはその他の科目の中で、自らの意見や態度をアウトプットする習慣を身に付けていただきたい。	教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）
指定図書／参考書等	＜参考書＞ 『新版　非行と社会病理学理論』 高原正興　三学出版　2011年＜ISBN:978-4921134518＞ 『社会病理学的想像力―「社会問題の社会学」論考』 矢島正見　学文社　2011年＜ISBN:978-4762021374＞ 『社会病理学の足跡と再構成』 朝田佳尚・田中智仁編　学文社　2019年＜ISBN:978-4762029363＞	その他・特記事項	・日常的な学習やグループ作業について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。 ・授業実施形態に伴い、筆記試験からレポート課題へ変更する場合がある。 ・授業実施形態に伴い、また受講生のニーズあるいは登録状況に応じて、アクティブラーニングを別の課題に代える場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SL225U 経済学Ⅰ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	井上　克洋						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義では、経済学に関する基本的な知識やお金の流れ、そして社会経済の仕組について分かりやすく解説していく。内容的には経済学入門であり、高校で経済に関する科目履修がなくても理解できるように進めていく予定である。時々意見交換も行う。	経済学に関する基本的な知識を習得し、新聞や雑誌記事で語られている経済的な事象や議論を凡そ理解できるようになること。

教授方法	講義形式
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	経済学とは：経済と生活との繋がり	
2	市場の原理とは：需要と供給、競争、独占	
3	経済成長とは：国富、GDP、豊かさ	
4	景気循環とは：景気循環の仕組とその社会・生活への影響	
5	景気のコントロール：ケインズ経済学	
6	政治と経済：政官財¯鉄のトライアングル	
7	日本の財政：歳入と歳出、財政問題	
8	小テスト	
9	日本銀行の役割：物価のコントロール	
10	外国為替と国際貿易：為替レートの決定要因と国際貿易の功罪	
11	西洋経済の歴史：産業革命とフォーディズム、そして帝国主義戦争	
12	日本経済の歴史：明治から戦後まで	
13	日本の経済政策１：日本列島改造論から小泉改革へ	
14	日本の経済政策２：アベノミクスとそれから	
15	小テスト	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	80	問いに対する答えが適切で、かつ簡潔明瞭にまとめられているか。	受講態度	20	真剣に講義を聴講したか。与えられた問に対して積極的に意見交換を行ったか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義の後に、よく理解できなかったことや納得できなかったことは必ず復習し（30分）、それでも解決できなければ、どんな些細な内容であっても次回の講義の最初に質問すること。ニュースや新聞等での報道を通して、「今」世界で起こっている事件や出来事に注目し、なぜそのような事件が起こったのか、講義の内容に結びつけて経済学的に説明できないか考察してみる。	課題提出後の講義において、総評と場合によっては個別のコメントを行う。

受講生に望むこと	受講後、その日のうちに1度講義内容について復習しておくこと。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	代替授業日が発生した場合は Classroom を用いて課題を提示する。

実務経験を活かした授業の概要

経済学で語られる基本的な経済現象が、実際の社会や会社、役所、家庭などにどのような影響を与えているのか経験に基づき具体例を挙げて講義を行う。

授業科目名	SL230U 経済学Ⅱ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	井上　克洋						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義では、経済理論を支える経済思想について分かりやすく解説していく。内容的には経済思想史であると同時に経済理論史であり、既存の経済理論がどのような思想や歴史的文脈を背景に誕生してきたかを前後の関係に注意しつつ学んでいく。経済学に関する他科目の履修がなくても理解できるように進めていく予定である。時々意見交換も行う。	近世以降の経済思想の大きな流れを把握すること。また政府が提案する経済政策には、どのような経済思想がその背景にあるのかを分析し、独自の視点で評価できるようになること。

教授方法	講義形式
履修条件	なし（経済学Ⅰの受講が望ましい）

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	経済思想とは：経済思想を学ぶ意味	
2	アダム・スミス以前：重農主義、重金主義、重商主義	
3	アダム・スミスⅠ：倫理と経済学～『道徳感情論』	
4	アダム・スミスⅡ：古典派経済学の誕生～『国富論』	
5	アダム・スミスの継承者たち：リカード、マルサス、ミル	
6	カール・マルクスⅠ：資本主義の矛盾	
7	カール・マルクスⅡ：マルクス経済学～『資本論』	
8	小テスト	
9	新古典派経済学：欲望の数値化、ワルラス、メンガー、ジェボンズ	
10	J.M.ケインズⅠ：政府による市場への介入とマクロ経済の確立	
11	J.M.ケインズⅡ：有効需要の原理と乗数理論	
12	ヨーゼフ・シュンペーター：経営と経済～イノベーション	
13	マネタリズム：フリードマンの思想	
14	ゲーム理論・行動経済学：現代の経済思想	
15	小テスト	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	80	問いに対する答えが適切で、かつ簡潔明瞭にまとめられているか。	受講態度	20	真剣に講義を聴講したか。与えられた問に対して積極的に意見交換を行ったか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義の後に、よく理解できなかったことや納得できなかったことは必ず復習し（30分）、自分で解決できなければ、どんな些細な内容であっても次回の講義の最初に質問すること。ニュースや新聞等での報道を通して、「今」世界で起こっている事件や出来事に注目し、その背景にある経済思想について考察してみる。	課題提出後の講義において、総評と場合によっては個別のコメントを行う。

受講生に望むこと	受講後、その日のうちに1度講義内容について復習しておくこと。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	代替授業日が発生した場合は Classroom を用いて課題を提示する。

実務経験を活かした授業の概要

経済学で語られる基本的な経済現象や思想が、実際の社会や会社、役所、家庭などにどのような影響を与えているのか経験に基づき具体例を挙げて講義を行う。

授業科目名	SL315U 政治学			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	若山　将実						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業の目的は、日本を中心とした民主主義諸国における有権者、政治家、官僚、そして利益団体などの様々な個人・組織の政治行動の特徴、要因、そして影響を考察することにあります。授業では、民主主義国家における有権者、政治家、官僚、そして利益団体などの個人・組織の政治行動に関する理論と実際を学んでいきます。 まず、政治行動に関する政治学の理論について紹介します。そして、政治行動の実際として民主主義諸国の事例を取り上げることで、政治行動の特徴、要因、そして影響について理解できるようになることを目指します。また、最新の政治に関する時事問題についても説明する機会を設けたいと思います。	①個人・組織の政治行動について学ぶことで、社会のなかで政治が果たす役割を理解する。 ②民主主義社会における政治制度が有権者、政治家、官僚そして利益団体などの個人・組織の政治行動に与える影響を理解できるようになる。 ③民主主義社会における将来の有権者の一人として適切に政治へ参加できるようになる。 ④日本や世界の政治に関する時事問題について理解できるようになる。 ⑤日本や世界の政治現象を分析する手法を習得する。

教授方法	授業はパワーポイントなどを使った講義形式を中心に行います。
履修条件	社会学科の学生のみ履修可。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要説明：授業の進め方や成績評価の方法とともに、そもそも「政治」とは何か、そしてそれを対象とする「政治学」とは何かという点について考えます。（政治を学ぶ意味を理解する。）	
2	民主主義とは何か：民主主義について、選挙との関連から考察します。特に、シュンペーターの民主主義理論から現代日本の民主主義の実際について考えます。（民主主義の理論と実際を理解する。）	
3	有権者の投票参加：有権者はなぜ投票するのでしょうか。この疑問について政治学が考えてきた理論を参考にしながら、世界各国の選挙を事例に考えます。（投票参加の理論と実際を理解する。）	
4	有権者の投票行動：有権者による特定の政党・候補者への投票は、どのような動機に基づかれているのかを、政治学理論を紹介しながら考えます。（有権者の投票行動についての理論から、その有権者の多様性を理解する。）	
5	選挙制度：世界各国の様々な選挙制度の特徴について簡単に紹介した後、選挙制度が民主主義体制の安定にどのような影響を与えているのかを考察します。（代表を選ぶための選挙制度が民主主義の安定性に大きな影響を与えていることを理解する。）	
6	政党：現代民主主義に欠かすことのできない政党について考察します。そして選挙制度が政党の数や行動に与える影響について考察します。（日本の政党政治の特徴や問題点について理解する。）	
7	執行府・議会関係：世界各国の執行府と議会制度の特徴について紹介した後、議院内閣制・大統領制・半大統領制等に代表される執行府・議会関係の違いがそのような政治的帰結をもたらすのかを検討する。（本人・代理人関係のパターンが政治的帰結に与える影響を理解する。）	
8	指導者：民主主義国家における執政制度の特徴と影響について説明した後、日本の首相のリーダーシップについていくつかの事例から検討します。（例えば、安倍首相の政権運営が前任時とどのように違うのかについてなど。）	
9	官僚制：世界各国の官僚制の特徴について紹介した後、官僚の自律性の程度が政策の内容にどのような影響を与えているのかを検討します。（国家における官僚制の役割について理解する。）	
10	政策：民主主義国家において政策はどのように作られるのでしょうか。近年における日本の各政権が実行している政策をいくつか取り上げ、その政策が作られる過程について検討します。（政策過程の理論と実際を理解する。）	
11	利益誘導政治：民主主義国家で見られる利益誘導政治について、その特徴、要因、そして影響について検討します。（道路、橋、新幹線、そして原子力発電所などの建設に政治がどのように関わっているかを理解する。）	
12	マスメディア：民主主義国家において、政治家と有権者を繋ぐ媒体としてメディアの果たす役割について政治学の理論から事例を交えつつ検討します。（メディアが政治にどのような影響を与えるのかを理解する。）	
13	政治腐敗：民主主義国家において政治が腐敗すると、社会にどのような影響があるでしょうか。日本における近年の政治腐敗とされる事例について検討することで考えます。（政治腐敗はなぜ起きるのかを理解する。）	
14	2022年参議院議員通常選挙の分析：第13回までの授業内容をふまえながら、2022年7月に実施される参議院議員通常選挙結果の分析を行い、有権者の選択がもたらされた要因について考えます。	
15	まとめと民主主義の未来：授業全体のまとめとともに、2020年以降のコロナ禍を受けて、民主主義国家における政治の姿は今後どのように変容することが予測できるのかについて、e-デモクラシーの可能性などを例に考察していきます。（民主主義の変容の可能性について理解する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験（または、レポート）	60	試験（レポート）形式は主に論述形式を予定している。政治学の理論や実際についてどの程度まで理解して自分のものとしているかどうかを評価の基準とする。	毎回の課題・リアクションシート	40	Google Classroomを通じて提示する授業の理解度を確認する課題や授業に対する感想・質問を書くリアクションシートへの取り組み姿勢。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義で使用するレジュメ（資料）は、直接、またはGoogle Classroomを通じて授業前に配布するので必ず目を通しておいてください。[30分] ②毎日、新聞・ニュース等に目を配り、政治に関する様々なニュースに触れること。毎回の小レポートで今週はどのような政治ニュースに注目したかを記入してもらうことを検討しています。[60分]	毎回の課題およびそれに付属するリアクションシートは、適切な時期に採点およびコメントを付けて返却することを検討します。

受講生に望むこと	①政治は、日々動いています。日頃から可能な限り世界や日本の様々なニュースに目を配るようにしてください。 ②教室内での私語やスマートフォンの使用など、特定の学生による受講態度が講義に重大な悪影響を与えていることが度々認められた場合、その学生に対しては退室等の厳しい処置を取ることがあります。	教科書・テキスト	特に用いません。レジュメ（資料）を毎回直接、またはGoogle Classroomを通じて配布します。
指定図書／参考書等	なし。／『政治行動論：有権者は政治を変えられるのか』飯田健・松林哲也・大村華子共著　有斐閣　2015年　ISBN-13:978-464115-294.『政治学（New Liberal Arts Selection）』久米 郁男・川出良枝・古城 佳子・田中 愛治・真渕 勝共著　補訂版　有斐閣　2011年　ISBN-13: 978-4641053779.『比較政治学』スティーブン・R・リード著　ミネルヴァ書房　2006年　ISBN-13:978-4623044986 .『はじめて出会う政治学―構造改革の向こうに』　北山俊哉・真淵勝・久米郁男共著　有斐閣　第3版　2009年　ISBN-13: 978-4641123687.	その他・特記事項	毎回の授業では、Google Classroomを使用して授業内容についてのアンケートや学生からの質問受付を随時実施します。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SL320U 地域社会政策論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	田中　純一						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この講義では自然災害で被災した住民生活の復旧・復興過程で生じるさまざまな課題を取り上げつつ、課題の発生原因と制度的課題を法制面、政策面から検討し、必要な施策について考える。 ※SDGsターゲット11.b関連科目	①被害の不平等性概念について理解する。 ②被災者支援に係る法律、条令等について内容を理解する。 ③「人間の復興」という考え方について理解する。

教授方法	講義、テーマに基づくディスカッション
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス	
2	我が国の社会変動の特質と課題：超少子高齢社会の特徴、課題について理解する。	
3	超少子高齢社会の特質と社会政策①：人口政策、財政政策について理解する。	
4	超少子高齢社会の特質と社会政策②：社会保障政策、セーフティ・ネットについて理解する。	
5	過疎を生きる：過疎集落の住民の暮らを捉えた映像資料を参照しつつ、集落の維持、住民生活の持続に必要な視点について理解する。	
6	映像研究①　映像資料から過疎集落の暮らしの課題と改善策を考える。	
7	内発的発展とは何か：内発的発展論の主要理論と今日的な意義について理解する。	
8	グループワーク①　与えらえたテーマに基づきグループで協議し発表する。	
9	グループワーク②　与えられたテーマに基づきグループで協議し発表する。	
10	災害と避難行動：災害発生時の避難行動の特徴について理解する。	
11	過疎地における自然災害の発生と復旧・復興の課題：能登半島地震を事例に住宅政策、生活再建制度の課題について理解する。	
12	地区防災計画：地区防災計画の考え方、計画づくりに必要な視点について理解する。	
13	映像研究②　映像資料を参考に住民主体の復興まちづくりに必要な視点について理解する。	
14	個別避難計画：住民一人ひとりに寄り添った避難支援の考え方と計画づくりに必要な視点について理解する。	
15	まとめ・総括	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	10	講義への積極的参加	レポート①	15	講義で学んだ知識などを適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考ができている。
レポート②	25	講義で学んだ知識などを適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考ができている。	期末試験	50	講義内容の理解度

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①配布された資料は、講義前に目を通し内容を理解する[30分以上] ②講義で学んだことはその日のうちに復習するとともに、わからなかった点や関心を持った内容について、他の文献等を参照しながら内容の理解に努めること[30分以上] ③適宜小テストを実施するので、テスト範囲の学習に取り組むこと[30分以上]	小テストを適宜実施する。

受講生に望むこと	時事問題に関心を持ち、積極的に情報収集する。 あらゆる事象や考え方を相対化して捉える視点を持つ。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし/講義時に適宜紹介する。	その他・特記事項	第8～9回は連続開講予定。なおグループワークについては、状況により進め方を変更することがある（講義内で説明する）。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SL105U 経営学入門			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	平岩　英治						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
私たちの生活は、企業およびその経営と密接な関係がある。 身近な事例を通じて、企業に関するさまざまなテーマが、私たちの身の回りに存在していることを理解する。さらに企業行動の基本的な原理と、その社会生活とのかかわりについて学ぶ。授業を通じて、「経営についての視点」を修得することを目的としている。	①授業で設定されたテーマを理解する。 ②授業で学んだキーワードを用いて、テーマの内容を説明できる。 ③授業で学んだ基本的な専門用語を使って、自分の身近な事例を紹介することができる。

教授方法	講義
履修条件	人間総合学部生のみ履修可

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション－生活の中で企業（経営）や社会との関わりを考えてみよう－	
2	会社の一生：会社の誕生から成長、衰退、倒産までを考える	
3	会社はだれのものか：「株式会社」の仕組みについて学ぶ	
4	会社の仕組み：会社はどのような組織があるのか、その構造がどうなっているかを学ぶ	
5	会社で働くこと：労働とそのマネジメント、また労働組合について理解する	
6	会社を動かす（経営戦略１）　：会社のミッション（経営理念）や経営戦略の３つのレベルについて学ぶ	
7	会社を動かす（経営戦略２）　：経営戦略のうち「競争戦略」について理解する	
8	【事例】（ＤＶＤ）コンビニを作った素人たち	
9	ものが売れる仕組み　：身近な事例をもとに、マーケティングの基本について学ぶ	
10	【事例】（ＤＶＤ）ヤマト宅急便の歴史	
11	経済社会の動きと企業経営　：日本経済の歴史をもとに、企業経営との関係について学ぶ	
12	企業の社会的責任（ＣＳＲ）と企業倫理　：企業不祥事の事例から、企業の社会的責任や企業倫理について考える	
13	新しい企業と経営のあり方　：ＮＰＯや近年注目されている社会的企業について学ぶ	
14	グローバル化時代の企業と経営のあり方　：企業のグローバル化とそれに伴う経営課題について学ぶ	
15	まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	60	授業の配布資料から、穴埋めおよび論述問題を出題し、理解度を評価する。	小テスト	30	簡単なキーワード、専門用語のチェックテストを行い、その理解度により評価する。(2回実施)
授業参加態度	10	授業態度を評価対象とする。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回の講義の最初に前回の復習を実施するので、講義前までに配布資料やノートを見直しておくこと。［30分］ ②毎回授業後には、配布資料の内容をもう一度復習しておくこと。[60分]	小テストの結果は、次回の授業で返却するとともに、解説を行う。

受講生に望むこと	教室の中だけが学ぶ場所ではない。普段の生活の中で接する会社や商店、あるいはテレビ・雑誌広告などを通じ、会社の経営について興味・関心を持つことを期待する。	教科書・テキスト	なし(毎回資料を配布する)
指定図書／参考書等	なし／『はじめの一歩　経営学（第２版）』守屋貴司・近藤宏一編著 ミネルヴァ書房　2012年　ISBN978-4-623-06331-4	その他・特記事項	コミュニティ文化学科科目「経営学入門」と合同開講である。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SL200U 社会貢献論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	田中　純一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この講義では災害ボランティアを中心に、行為的主体としてのボランティアの特質、ボランティアの社会的役割・機能、課題等について考える。 ※SDGsターゲット1～17関連科目	①ボランティア行為の社会的意義について、自分のことばで説明できる。 ②受講者自身が地域の社会的課題に関心を持ち、積極的に参加する。

教授方法	講義、講義内プレゼンテーション
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス	
2	自発性とは　　ボランティアの特質としての自発性概念について理解する。	
3	利他性とは　　ボランティアの特質としての利他性概念について理解する。	
4	共同性と公共性　　ボランティアの特質としての共同性概念と公共性概念について理解する。	
5	非営利性とは　　ボランティアの特質としての非営利性概念について理解する。	
6	先駆性・継続性・責任性　　ボランティアの特質としての先駆性概念、継続性概念、責任性概念について理解する。	
7	臨床性とは　　ボランティアの特質としての臨床性概念について理解する。	
8	映像研究：映像資料を参照しつつ、第2～第7回までに学んだ理論的視点を踏まえつつ、課題を批判的に考える。	
9	自助・共助・公助とは　　発災～復旧・復興過程における自助、共助・互助、公助の機能、役割、課題等について理解する。	
10	自然災害とボランティア（1）　　災害フェーズごとのボランティアの役割について理解する。	
11	自然災害とボランティア（2）　　災害フェーズごとのボランティアの役割について理解する。	
12	災害時要支援者支援　災害時における高齢者・障がい者支援について理解する。	
13	事例研究①：国内外の具体的実践事例を通し、社会貢献活動の意義について考察する。	
14	事例研究②：国内外の具体的実践事例を通し、社会貢献活動の意義について考察する。	
15	まとめ・総括	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
講義参加態度	10	講義への積極的参加	講義内プレゼンテーション	20	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの資料作成、プレゼン内容となっている。
レポート	25	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考ができている	期末レポート	45	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考がなされていること

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前配布資料は、次回講義までに目を通し内容を理解する。［30分以上］ ②講義中に紹介した資料や書籍については目を通す。［30分以上］	・第13回、第14回に講義内プレゼンを予定。各受講者のプレゼンテーションに対する講師コメントに加え、他の受講者の意見やコメントを求める。

受講生に望むこと	関心のある分野での社会貢献活動に積極的に取り組む。 あらゆる事象や考え方を相対化して捉える視点を持つ。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし/講義時に適宜紹介する。	その他・特記事項	・これまでにボランティア活動経験がある学生、これからボランティア活動をする意欲のある学生が望ましい。 ・「社会貢献実習」受講希望者が定員を超えた場合、社会貢献論履修者を優先することがある。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SL235U 環境と開発			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	田中　純一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この講義では、国内外で発生する開発問題、環境問題について問題発生の要因を探るだけでなく、問題の背後にある経済社会システムの限界について批判的に検討する。 ※SDGsターゲット1,2,3,5,6,10,11,12関連科目	①エンパワメント、内発的発展、人間開発概念など、講義で取り上げる重要概念について説明できる。 ②「豊かさ」について自分のことばで説明できる。 ③「開発」について自分のことばで説明できる。

教授方法	講義、講義内プレゼンテーション
履修条件	特になし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス	
2	貧困とは　　DAC指標などから貧困概念について理解する。	
3	剥奪としての貧困　　アマルティア・センによる人間の潜在能力概念を中心に潜在能力の剥奪について理解する。	
4	豊かさとは　　消費社会における豊かさ、絶対的貧困、相対的貧困について理解する。	
5	グローバル化と不平等　途上国の現状を理解し不平等の構造について理解する。	
6	近代化と開発（１）　従属理論について理解する。	
7	近代化と開発（２）　世界システム論について理解する。	
8	映像研究①　開発問題をテーマにした映像資料から、グローバルな開発問題の解決策について考える。	
9	相対的剥奪とは　　各種指標を用いて、格差及び貧困が生み出される社会経済構造について理解する。	
10	GNHとは　　GNH（Gross National Happiness）概念を通して、豊かな暮らし、well-beingについて理解する。	
11	持続可能な社会とは　SDG’s概念の基本的な考え方を踏まえつつ、持続可能性を批判的に検討する。	
12	映像研究②　環境・人権問題をテーマにした映像資料から、グローバルな環境問題の現状を捉えつつ、解決策について考える。	
13	世界の水問題　水を巡る国際情勢と日本との関係性について理解する。	
14	公正な貿易とは　　フェアトレードの考え方、社会的意義と限界について理解する。	
15	まとめ・総括	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
講義参加態度	10	講義への積極的参加	小レポート①	15	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考がなされている
小レポート②	25	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考がなされている	期末試験	50	講義で学んだことの理解度

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①適宜資料を配布するので、事前に目を通し内容を理解する［30分以上］ ②適宜小テストを実施するので内容を復習する［30分以上］ ③講義で紹介した書籍等について、目を通し内容を理解する［30分以上］	小テストを講義時間中に適宜実施する。

受講生に望むこと	環境問題、開発問題に関連した新聞記事やニュースを関心をもって見るあらゆる事象や考え方を相対化して捉える視点を持つ。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／講義時に適宜紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SL245U 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	田中　純一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
本講義では、福祉専門職として必要となる地域福祉の知識の習得を目指すとともに理論や方法論について理解を深める。 本科目は社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の【共通】科目であり、国家試験に準じた講義を行う。 ※SDGsターゲット1,3,10関連科目	地域福祉の基本的考え方について理解する。 地域福祉の現状や課題について、自分の考えを述べることができる。

教授方法	講義、講義内プレゼンテーション
履修条件	特になし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題①　　地域社会の概念と理論	
2	地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題②　地域社会の変化，多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズについて理解する。	
3	地域社会の変化と多様化・複雑化した地域課題③　　地域福祉と社会的孤立について理解する。	
4	地域包括ケアシステム　　地域包括ケアシステムの考え方、生活困窮者自立支援の考え方について理解する。	
5	地域福祉ガバナンス　地域福祉ガバナンス、多職種連携について理解する。	
6	地域福祉の基本的な考え方　　地域福祉の概念と理論、　地域福祉の歴史、地域福祉の推進主体について理解する。	
7	地域を基盤としたソーシャルワーク　　ソーシャルワークの概念、コミュニティソーシャルワークとは何かについて理解する。	
8	災害時における総合的・包括的支援体制①　非常時や災害時における法制度について理解する。	
9	災害時における総合的・包括的支援体制②　　包括的支援体制の必要性について、過去の災害を事例にその課題から理解する。	
10	災害時における総合的・包括的支援体制③　　個別避難支援、災害ケースマネジメントについて理解する。	
11	福祉計画の意義と種類①　福祉計画の定義、目的、機能と歴史展開について理解する。	
12	福祉計画の意義と種類②　福祉計画の策定過程と方法について理解する。	
13	福祉行政システム　国、都道府県、市町村の役割について理解する。	
14	福祉における財源　国の財源、地方の財源、保険料財源、民間の財源について理解する。	
15	総括・まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
講義参加態度	10	講義への積極的参加	小テスト	15	講義で学んだことの理解度
レポート	25	講義で学んだ知識などを適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考ができている。	期末試験	50	講義内容の理解度

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義前には指定されたテキストの範囲を熟読し、内容を理解する【30分以上】 ②講義終了後は必要に応じて他の参考書やネットを活用して調べ、理解を定着させる【30分以上】	適宜小テストを実施する。

受講生に望むこと	地域福祉に関連した書籍を積極的に読む	教科書・テキスト	一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 6 地域福祉と包括的支援体制』，中央法規出版 2021. ISBN 978-4-8058-8236-8
指定図書／参考書等	なし/講義時に適宜紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SL115U 児童福祉論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	竹中　祐二						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、歴史的変遷を踏まえた本質的な理解を大切にしながら、児童福祉の制度や実践に関する幅広い知識を学習する。また、児童福祉から子ども家庭福祉への展開、子どもの権利擁護、少子高齢社会における社会環境・家族構造の大きな変化といった現代的課題についても掘り下げて考えていく。	①児童福祉という領域が設定されることの意義や目的について適切に理解し、文章で説明することができる。 ②児童福祉の歴史についてポイントを正しく理解し、文章で説明することができる。 ③児童福祉に関する諸制度の目的と現状について、歴史的経緯と特徴を正しく理解し、文章で説明することができる。 ④児童福祉に関わる様々な組織・機関・主体について理解し、名称を正しく説明することができる。 ⑤児童福祉に関わる現代的な諸問題について、統計等の根拠や現状の政策を基に、現状を文章で説明することができる。 ⑥児童福祉に関する知識を土台として、社会福祉における各領域に応用可能な知識・理念を、文章で説明することができる。 ⑦児童福祉に関する知識を土台として、社会のあり方・社会における連帯のあり方について、自らの考えを文章で説明することができる。

教授方法	講義（一部、映像教材の視聴や個人ワークを採り入れることもある。）
履修条件	学部生のみ

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：「児童福祉」から「子ども家庭福祉」への展開を意識しながら、児童福祉の意義について考え、本科目の意義や目標を整理する。	
2	児童福祉の歴史①：総論的な社会福祉史を踏まえつつ、児童福祉の理念を捉え、その歴史を概観する。	
3	児童福祉の歴史②：児童福祉の主体／客体に注目しながら、我が国における児童福祉の歴史を理解する。	
4	児童福祉の制度①：基本法である児童福祉法を中心に、児童福祉に関わる法制度、ならびに児童福祉に関わる機関・専門職について学ぶ。	
5	児童福祉の制度②：権利擁護をキーワードとしながら、子どもの権利条約について学ぶ。	
6	小括：ここまでの学習内容を範囲とする小テストを実施する。	
7	生育段階に応じた児童福祉①：家庭への支援の意義を意識しながら、母子保健を中心に学ぶ。	
8	生育段階に応じた児童福祉②：子ども・子育て支援新制度や幼保一体化といった新しい問題を押さえつつ、保育制度について学ぶ。	
9	生育段階に応じた児童福祉③：少子化や子育て環境の変化を踏まえつつ、児童の健全育成について学ぶ。	
10	困難を抱えた児童・家庭への支援①：今日の社会情勢を踏まえつつ、ひとり親家庭への支援について学ぶ。	
11	困難を抱えた児童・家庭への支援②：理念や社会的反応の変化を押さえながら、障害・難病のある子どもと家庭への支援について学ぶ。	
12	困難を抱えた児童・家庭への支援③：社会／心理の両側面を意識しながら、非行や情緒障害、発達障害について連続的に学ぶ。	
13	児童福祉と養護①：児童虐待の定義、実際、対策について学ぶ。	
14	児童福祉と養護②：社会的養護サービスについて、社会的意義と制度・実践について学ぶ。	
15	総括：本科目を通じて学習した内容について振り返り、それぞれの立場からの「児童福祉」への関わりについて考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加度	20	日常的な授業態度を評価する。	試験①	20	第1回～第5回の学習内容について、用語や概念、歴史等についての基本的な理解度を確認する筆記試験を行う。
試験②	60	主に第7回～第15回の学習内容について、学習内容を正しく理解した上で、自らの態度・意見を表明することができるような、記述を中心とする筆記試験を行う。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業で学習した児童福祉に関わる用語や概念を正しく理解し、短い文章で説明できるように復習する。[45分] ②各回の授業で学習した児童福祉に関わる用語や概念を、社会福祉全般の中で正しく位置付ける、あるいは他の各論領域と比較することができるように理解を深めるため、書籍や論文を積極的に読み込む。[45分] ③各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]	・各回の授業でコメントフォームを活用し、そこでの質問は次回に全体共有する。

受講生に望むこと	・福祉的支援は決して一面的なものではないので、多様な視点から問題を切り取ることが大切である。そのため、自らの価値観は大切にしつつ、様々な知識と理解を吸収しようとする姿勢を持つことが望ましい。	教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）
指定図書／参考書等	＜参考書＞ 『最新　社会福祉士養成講座３　児童・家庭福祉』 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編　中央法規出版　2021年 ISBN:978-4805882467 ※同種のテキストでも特に問題はないが、法制度の改正に合わせて適宜版が改められ、内容が更新されることに注意が必要である。 ※資格取得に向けたテキスト以外の基本書・概説書を合わせて読み込むことで、価値・理念を掘り下げて理解することが望ましい。	その他・特記事項	・日常的な学習について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。 ・授業実施形態に伴い、筆記試験からレポート課題へ変更する場合がある。 ・授業実施形態に伴い、また受講生のニーズあるいは登録状況に応じて、アクティブラーニングを別の課題に代える場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SL205U 高齢者福祉論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
老いや高齢者の問題は、とかく否定的なイメージでとらえられがちである。確かに、介護問題等は深刻な社会問題ともなっている。しかし一方では、さまざまな形で社会参加し意欲的に暮らしている高齢者や、介護が必要になってもその人らしく生き生きと暮らしている高齢者も見受けられる。授業では、超高齢社会を迎えたわが国において、すべての人が何らかのかたちで関わらざるを得なくなってきた高齢者や老いの問題について、理解を深めていく。さらに、支え合っていく仕組みの問題や豊かな老後等、高齢者福祉のあり方について考えていく。	①高齢者の特性、高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について理解できる。 ②高齢者保健福祉制度の発展過程について理解できる。 ③介護保険制度について、目的と理念、制度の概要等を理解できる。 ④高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解できる。 ⑤介護の概念や対象及びその理念、介護過程、介護の技法、介護予防、終末期ケアのあり方について理解できる。

教授方法	講義およびワークシートによる課題。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業概要の説明。高齢化の進展とその特徴について理解する。	
2	高齢者の特性を理解する。	
3	高齢者の生活実態について理解する。	
4	高齢者を取り巻く環境を理解する。	
5	高齢者福祉施策の変遷について理解する。	
6	老人福祉法について理解する。	
7	介護保険制度：制度創設の背景、仕組みの概要①について理解する。	
8	介護保険制度：仕組みの概要②、現状と課題について理解する。	
9	介護保険等サービス：居宅・予防・地域支援について理解する。	
10	介護保険等サービス：施設サービスについて理解する。	
11	高齢者医療確保法、高齢者の権利擁護について理解する。	
12	高齢者のためのさまざまな環境の整備について理解する。	
13	高齢者の雇用安定と家族の就労上の介護休業支援について理解する。	
14	高齢者と家族を支援する組織と専門職、市民の役割と連携について理解する。	
15	高齢者と家族等への相談援助について理解する。まとめ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
テスト	80	・授業内容についてどれだけ理解しているか。	提出物	20	・ワークシート等の提出物（授業内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスで各回の授業内容を確認し、テキストの該当箇所を読んでおく。[30分以上] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持てたことや疑問点に関して、自分で調べて理解を深める。[30分以上] ③日頃から高齢者福祉や社会保障等の問題に関心をもち、新聞・ニュース等に触れる。	毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、授業やオンラインによりフィードバックを行う。

受講生に望むこと	講義中心の授業となるが、受け身ではなく能動的な姿勢（疑問をもつ、考える、発言する等）で臨んでほしい。	教科書・テキスト	『新・エッセンシャル高齢者福祉論 』 田中康雄編 みらい　2022年　ISBN978-4-86015-564-3
指定図書／参考書等	『令和3年版　高齢社会白書』内閣府編　2021年　ISBN978-4-86579-273-7	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

高齢者福祉について、各種委員会等（施設職員研修、介護老人福祉施設第三者委員等）の経験をもとに具体例をあげて講義している。

授業科目名	SL120U 障害者福祉論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
１．こころの不調や発達障害などを含め、現代社会における障害者福祉の諸問題、支援制度等を正しく理解する。 ２．社会福祉士資格に係るソーシャルワーク実習で必要となる基礎知識の習得、および社会福祉士国家試験に関する知識を身につける。 ３．障害のある人たちの諸問題は社会全体の問題としてとらえ、専門職を目指すもの以外にも理解できる内容を展開する。	１．障害の概念と特性を踏まえ、障害のある人たちとその家族の生活と、これを取り巻く社会環境について理解し、説明できるようにする。 ２．障害者福祉の歴史と障害観の変遷、制度の発展過程について理解し、説明できるようにする。 ３．障害のある人たちに対する法制度と支援の仕組みについて理解し、説明できるようにする。 ４．障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解し、説明できるようにする。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	障害の概念と特性の理解：各法律での障害者の定義、障害種別ごとの特性と支援内容	
2	障害のある人たちの生活実態とこれを取り巻く社会環境と課題：障害のある人たちを取り巻く情勢と暮らしの現状、生活問題と支援ニーズ	
3	障害のある人とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境：障害のある人たちの生活実態、家族の現状と背景、子育てする障害のある人のニーズと支援、家族支援のあり方	
4	障害の概念と特性：国際機能生活分類（ＩＣＦ）の意義と課題、医学モデルと社会モデル	
5	障害者福祉の歴史：障害観の変遷、障害のある人たちに向けられる差別や偏見、優生思想の概要、障害者福祉を支える代表的な理念	
6	障害者福祉の歴史：制度の発展過程、障害者処遇の変遷、社会の背景と障害のある人たちが置かれていた状況の関連、国際社会のなかでの日本の障害者福祉施策の変化	
7	障害者福祉の歴史：当事者による活動の意義、障害当事者・親の会の運動の展開過程、国連障害者政策の歴史と障害者権利条約、障害者基本法改正のポイント	
8	障害のある人たちに対する法制度：法制度の全体像、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法	
9	障害のある人たちに対する法制度と支援の仕組みの理解：精神保健及び精神障害者福祉に関する法律	
10	障害のある人たちに対する法制度と支援の仕組みの理解：児童福祉法、発達障害者支援法	
11	障害のある人たちに対する法制度と支援の仕組みの理解：障害者総合支援法・児童福祉法	
12	障害のある人たちに対する法制度と支援の仕組みの理解：障害者の虐待防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律	
13	障害のある人たちに対する法制度と支援の仕組みの理解：高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、障害者の雇用の促進等に関する法律、国等による障害者就労施設等からの物品等の調達の推進等に関する法律	
14	障害のある人たちと家族等の支援における関係機関と専門職の役割：行政機関、労働機関、教育機関、医療機関、相談支援専門員、ピアサポーター、養護教諭、家族等の役割	
15	障害のある人たちと家族等に対する支援の実際：ソーシャルワーカーの中核的使命と原理、障害領域におけるソーシャルワーカーの配置の現状、期待される役割、多職種連携	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート・授業内確認テスト等	50	レポート評価基準（初回に説明）、授業内容の理解	授業参加状況	50	受講態度、提出物等（課題、授業内の小レポート含む）

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
１．障害のある人たちの社会生活を意識する。 ２．社会における障害者福祉サービスの意味を理解する。 ３．国民福祉の動向、障害者白書等で最新の情報を確認する。 ４．社会福祉士国家資格取得を目指すものはテキストや資料を繰り返し学習する。 ５．社会における障害者福祉に関する事象について考え、まとめる。 ［１～５の全体で60分以上］	小テスト等は内容を解説する。課題やテスト内容、評価に関する疑問・質問等には随時対応する。

受講生に望むこと	こころの不調や発達障害などを含め、障害について正しく理解するとともに、社会全体の問題としても関心を持ってください。	教科書・テキスト	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集、最新社会福祉士養成講座８『障害者福祉』中央法規出版、2021. ISBN:978-4-8058-8238-2 ※旧テキスト（2020年度以前）は使えません。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じて講義内で資料を配布します。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SL240U 社会保障論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	横山　壽一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
社会保障とは何か、現代社会において社会保障が存在している意味や根拠は何か、社会保障は何を保障するのか、どのように保障するのか、どのような機能を持っているのか、どのような歴史をたどってきたのかなど、社会保障全体について考察し、それらを踏まえて医療保険、介護保険、年金制度などの各領域の制度の仕組みや現状、課題について取り上げる. ※SDGsターゲット1.3,3.8関連科目	1，社会保障の理念、機能、歴史、制度内容などについて学び、社会保障の基本的な内容について理解する. 2．社会保障をめぐる現状、問題点、課題について理解する. 3．社会保障と自助・互助との違いを理解する.

教授方法	講義形式
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	社会保障とは何か―定義と意味：社会保障とは何かを誰が、何を、誰に、どのような方法で保障するかという側面から定義し、社会保障という概念の意味を明らかにする.	
2	社会保障の存立根拠―自己責任と社会的責任をめぐって：現代社会における生活原理である自己責任と社会保障の原理である社会的責任との関係から、自己責任を原理とする現代社会で社会保障がなぜ存在するのかを明らかにする.	
3	社会保障の方法―保険的方法を中心に：社会保障の方法として挙げられる保険的方法と公費による方法のうちの保険的方法とは何かを、保険の原理、社会保険と民間保険の違いを通して明らかにする.	
4	社会保障の保障内容―健康で文化的な最低限度の生活とは何か：憲法第25条でうたう「健康で文化的な最低限度の生活」とは何かを健康な生活、文化的な生活、最低限度の生活の具体的な内容の検討を踏まえて明らかにする.	
5	社会保障の機能：社会保障がもつ機能を、最低生活保障機能、所得再分配機能、経済安定機能、社会的安定・国民統合機能の四つの内容から明らかにする.	
6	社会保障の変化・変動：社会保障がどのように変化してきたかを、対象領域、対象者、保障水準、権利性の変化について確認し、変化・変動を引き起こしてきた要因は何かを考える.	
7	社会保障の形成と確立：社会保障がどのように形成され確立されたのか、その歩みを、歴史的源流、起点、確立の三つの指標をもとに、イギリスを中心にした欧米の歴史をたどりながら整理する.	
8	社会保障の歴史的展開―戦前日本：社会保障の形成と確立は、日本ではどのような過程をたどったか、まずは戦前の歩みから、歴史的源流と起点について考察する.	
9	社会保障の歴史的展開―戦後日本：社会保障の形成と確立は、日本ではどのような過程をたどったか、戦前に続き戦後の歩みから、社会保障の確立について考察する.	
10	医療保険制度の仕組み―皆保険体制：日本の医療を特徴づける国民皆保険とは何か、どのような仕組みになっているかを保険者、被保険者、保険給付、保険料の内容を通して明らかにする.	
11	医療保険制度―診療報酬と医療費：医療保険を通じて動くお金に注目し、保険料と窓口負担として国民が支払うお金がどのような過程を経て、最終的に医療機関に届くのかをたどりながら、医療保険の経済的側面を捉える.	
12	介護保険制度の仕組みと課題：介護保険の成立の背景と特徴、制度の仕組みおよび20年の経過を経て明らかになった問題点を整理し、介護の社会化を実現するための制度改革の課題を明らかにする.	
13	年金制度の仕組み―国民年金・厚生年金：年金の概要を整理したうえで、国民年金と厚生年金の具体的仕組みを、老齢年金を中心に明らかにする.	
14	年金制度の仕組み―国民年金と厚生年金における障害年金・遺族年金の具体的な仕組みを、二つの制度の違いに留意しながら明らかにする.	
15	年金財政と年金制度改革：年金財政の内容と変動要因を整理したうえで、財政検証が示した年金財政の将来見通しを取り上げ、年金財政の評価と制度改革の課題について考える.	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
試験	50	社会保障について基本的な理解が出来ているか	コメントペーパー	20	主体的な姿勢で授業を受講できているか
レポート	30	自分の問題意識で社会保障の現状を考えることが出来ているか			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・社会保障や国民生活に関する出来事について情報を集める（30分） ・事前・事後学習に取り組む（30分） ・関心ある社会保障や国民生活の問題について関連する文献・資料を活用して学習する（30分）	・コメントペーパーに書かれた質問は授業で回答する. ・レポートは、コメントを付けて返却する.

受講生に望むこと	・毎日、新聞を読む. ・毎日、最低1時間は本を読む.	教科書・テキスト	テキストは使用せず、毎回配布する資料に基づいて講義を行なう.
指定図書／参考書等	指定図書：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟・編集『社会保障』中央法規出版、2021年　ISBN978-4-8058-8237-5／参考書等は授業でテーマごとに紹介する.	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SL215U 障害者ｽﾎﾟｰﾂ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
1．障害のある人たちのスポーツについて、活動状況の実態と特徴を理解し、障害のある人たちの生涯スポーツに貢献できる基礎知識を身につける。 2．具体的には、それぞれの障害の概念や生活の状況を学ぶとともに、社会的背景や関連諸制度を理解し、本人のみならず家族や支援スタッフなど周囲までを含めてスポーツに対する目的や意義について考える。 3．加えて、人的、経済的、あるいは設備・環境といった障害のある人たちのスポーツに必要なマネジメントの視点を学習する。	1．初級障がい者スポーツ指導員に求められる基本的な知識を学ぶ。 2．障害の基本的内容を理解し、スポーツの導入・支援に必要な基本的知識、技術を身につける。 3．スポーツの実施、支援における健康や安全管理に関する基礎知識を理解し、説明できるようにする。 4．広くスポーツの喜びや楽しさを学ぶとともに、健康を維持、増進する手段としてのスポーツを理解する。 5．障害のある人たちにとってのスポーツの意義や社会的な位置づけを考え、説明できるようにする。地域の障害者スポーツ振興に関する取り組みを理解する。

教授方法	講義（一部演習）
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	障害者スポーツの意義と理念、スポーツ界・社会における意義	
2	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質、障害者スポーツ指導員の役割、ボランティアの基本姿勢、留意点	
3	全国障害者スポーツ大会の概要、歴史、開催の意義・目的、大会で実施される競技	
4	障害者スポーツ推進の取り組み、地域の障害者スポーツ普及・振興の取り組み	
5	障害当事者のスポーツ支援・交流、または障害者スポーツ大会等の運営参加①	
6	障害当事者のスポーツ支援・交流、または障害者スポーツ大会等の運営参加②	
7	障害に応じたスポーツ指導上の留意点と工夫、実施①	
8	障害に応じたスポーツ指導上の留意点と工夫、実施②	
9	障害者スポーツに関する諸施策、障害者福祉施策とその変遷、障害のある人たちの生活と実態	
10	スポーツを実施する際の安全管理、基礎的な対処法	
11	障害の理解とスポーツ（身体障害①）	
12	障害の理解とスポーツ（身体障害②）	
13	障害の理解とスポーツ（知的障害・発達障害）	
14	障害の理解とスポーツ（精神障害）	
15	コミュニケーションスキルの基礎、障害特性に応じたコミュニケーション方法、全体まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート・授業内確認テスト等	50	授業内容の理解、レポート評価基準に基づく（初回に説明）	授業参加状況	50	授業への参加状況、受講態度、提出物等（課題、授業内のレポート含む）

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．障害者スポーツやスポーツボランティアの社会的意義を考える。 2．実際の障害者スポーツ体験、または関係者の体験談等をまとめる。 3．障害者スポーツに関する社会の動向に関心を持ちまとめる。 ［1～3の全体で30分以上］	レポート等は授業内でフィードバック、および解説する。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応する。

受講生に望むこと	1．障害のある人たちのスポーツ活動だけでなく、社会生活にも関心を持ってください。 2．自分自身の健康、生涯スポーツなどにも関心を持ってください。	教科書・テキスト	必要な資料を講義内で配付する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要な資料を講義内で配付します。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SL100U 図書館概論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目であり、現代における図書館の意義と役割について、その法的基盤や国民の知る権利を保障する理念を理解することをねらいとする。図書館種別にそれぞれの制度と機能について、その歴史的展開を含めて理解することを目指す。 また、一般的な教養として図書館を理解してもらうことも目指すため、司書資格取得を希望しない学生の履修を歓迎する。	①図書館の意義・役割について理解する。 ②これまでの図書館の歴史を振り返り、今日における図書館の理念の成立について理解する。 ③公共図書館、大学図書館、学校図書館、専門図書館、国立国会図書館の制度と機能を理解する。 ④図書館類縁機関，図書館関係団体について理解する。 ⑤今日の図書館の課題と今後の展望ついて主体的に考えることができる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	現代社会と図書館（1）図書館とは何か	
2	現代社会と図書館（2）図書館の種類と図書館の役割	
3	現代社会と図書館（3）司書の役割とは何か	
4	図書館の理念（1）図書館の自由	
5	図書館の理念（2）図書館員の倫理綱領	
6	図書館関係法規について	
7	公共図書館の制度と機能（1）図書館法	
8	公共図書館の制度と機能（2）公共図書館の機能	
9	公共図書館の制度と機能（3）管理運営	
10	学校図書館の制度と機能	
11	大学図書館の制度と機能	
12	専門図書館の制度と機能	
13	国立国会図書館の制度と機能	
14	外国の図書館について	
15	図書館関係団体について	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末テスト	50	筆記試験（持ち込み不可）を実施する。図書館に関する基礎的な知識が身についている必要がある。	レポート課題	20	各回授業内容に合わせた小レポートの課題などを行う。授業内容に応じた記述がなされているか評価する。
授業への参加態度	30	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
教科書を指定しているため、教科書を活用した予習復習を授業ごとに最低30分程度は行うこと。 図書館を日常的(できれば毎週1回以上)に活用することを心がける。また、図書館員には幅広い背景知識が求められるため、日頃から様々な領域に関心を持つことを求める。	試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてClassroomなども利用する。

受講生に望むこと	この科目は司書資格取得のための科目である。ただし，図書館に興味がある学生の履修も歓迎する。資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨むこと。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問すること。	教科書・テキスト	『図書館概論　五訂版』塩見昇編著．日本図書館協会，2018．(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3;1) ISBN:978-4-8204-1813-9
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SL220U 情報技術論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
本講義では、情報の表現・伝達方法である文字・画像情報を中心に、記録媒体である情報メディアおよびそれらを取り扱う多様な情報機器の歴史、種類、特性、機能、利用法、等について概説し、様々な情報サービスにおける導入・活用の実例を示しながら解説する。	図書館などの情報サービスにおける情報技術の活用に必要な基礎知識を習得し、多様な実践に対応しうる見識を身につける。コンピュータやネットワーク、インターネットなどの基礎知識を習得する。さらに携帯情報端末や電子資料、電子書籍など多様に進歩する情報技術についての知識を深めていく。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	情報と情報技術　授業の進め方，情報とは何かを考える	
2	情報の表現方法と蓄積媒体	
3	情報技術と情報メディア　その種類と歴史	
4	図書館と記録技術　視聴覚メディアと電子メディア	
5	情報処理技術とコンピュータ	
6	コンピュータの歴史	
7	現代のコンピュータ	
8	コンピュータとソフトウェア	
9	携帯情報端末	
10	図書館サービスと電子資料・電子書籍	
11	データベースとは	
12	コンピュータネットワークとは	
13	インターネットの仕組み	
14	インターネットと検索エンジン	
15	図書館と情報技術 まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末テスト	40	筆記試験（持ち込み不可）を実施する。情報技術に関する基礎的な知識が身についている必要がある。	レポート課題	30	授業内容に合わせた小レポートを出題する。適切に授業内容を理解しまとめているか評価する。
授業参加度	30	授業への参加度，発言などの積極性を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
日常的に情報技術に興味を持ち、ニュースなどで伝えられる情報技術関連の話題に関心を持ってください。 基本的なPCについての知識があることが望ましいため、PCなどを活用することを心がけてください。 配布資料を用いて復習を30分程度は行うこと。	試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてClassroomなども利用する。

受講生に望むこと	この科目は司書資格のための科目であるが、情報技術一般について興味がある学生の履修も歓迎する。司書資格取得を目指す場合は、図書館における情報技術の意味について考えながら受講をすること。	教科書・テキスト	なし（授業内で資料配布）
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SP100U 臨床心理学概論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	松下　健						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
臨床心理学は心理学の様々な知見を対人援助に用いることを目的とした、応用的な分野の一つである。その内容は多岐にわたるため、本講義では対象、査定方法、心理療法のモデル、心理療法の理論、心理療法の技法、心理師（心理士）が活躍する現場に焦点を当てて学習する。臨床心理学では人を理解することが重要であるため、技法や検査を体験することで自己や他者の特徴について理解を深める機会と、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて人とのコミュニケーションの取り方について考える機会を設ける。	1)臨床心理学の成り立ちを説明できるようになること。 2)臨床心理学の代表的な理論を説明できるようになること。 3)臨床心理学の対象を説明できるようになること。 4)心理アセスメントを説明できるようになること。 5)臨床心理学の技法を説明できるようになること。 6)公認心理師が活躍する現場を説明できるようになること。

教授方法	講義、演習
履修条件	公認心理師、認定心理士、社会福祉士または対人援助職を目指す者、教職課程登録者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	臨床心理学の定義と歴史：臨床心理学とは何か、その定義と歴史を理解する。	
2	学校臨床心理学（不登校、いじめ、発達）：学校について臨床心理学的観点から理解する。	
3	発達障害：臨床心理学の対象のひとつである発達障害について、どのような特徴があるかを理解する。	
4	統合失調症：臨床心理学の対象のひとつである統合失調症について、どのような特徴があるかを理解する。	
5	双極性障害、抑うつ障害、不安障害：臨床心理学の対象である双極性障害、抑うつ障害、不安障害について、どのような特徴があるかを理解する。	
6	異常と正常、治療モデルと成長モデル：臨床心理学では異常と正常をどのように考えるのか、また、対象の変化をどのようなモデルに沿って考えるのかを理解する。	
7	心理査定（面接法、観察法）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、面接法と観察法に焦点を当てて理解する。	
8	心理査定（投影法）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、検査法の中でも投影法に焦点を当てて理解する。	
9	心理査定（知能検査、作業検査、質問紙）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、検査法の中でも知能検査、作業検査、質問紙に焦点を当てて理解する。	
10	心理面接（受理面接・終結、マイクロカウンセリング）：臨床心理学の面接はどのように行われるのか、面接の開始、面接の終了、面接の技法を理解する。	
11	精神分析の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論の一つである精神分析について、その歴史、精神分析理論の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。	
12	人間性心理学の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論の一つである人間性心理学について、その歴史、人間性心理学理論の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。	
13	行動療法・認知療法の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論である行動療法・認知療法について、その歴史、行動療法・認知療法の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。	
14	遊戯療法、家族療法、森田療法、内観、臨床動作法、自律訓練法：臨床心理学において頻繁に利用される様々な心理療法について理解する。	
15	心理師（心理士）が働く現場（医療、教育、福祉）：臨床心理学を対人援助に実際に利用している心理師（心理士）がどのような現場で活躍しているのかを理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
リアクションペーパー	30	講義内容について自分の考えを記述すること。講義のメモではなく、内容から発展させた自分の考えを記述することが求められる。	講義の受講態度	30	グループディスカッションやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義内容に関連する内容について、参考図書をはじめとする臨床心理学に関連する学術的な書籍や論文を読み、知識や理解を深める予習が求められる。[90分] 内容の理解や知識の定着のために復習を積極的に行うことが求められる。[30分] グループでプレゼンテーションを行う際には講義以外にも仲間と打ち合わせや発表の準備を行う必要性が生じる場合がある。[90分]	講義中に課す小レポートについては返却時に適宜フィードバックする。

受講生に望むこと	公認心理師および認定心理士に関連する科目である。国家資格を目指す者に照準を合わせるため、相応の受講態度と結果が求められる。	教科書・テキスト	なし。 適宜資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし/園田雅代・無藤清子（2011）『臨床心理学とは何だろうか:基本を学び、考える』新曜社　ISBN:9784788512269、岩壁茂・福島哲夫・伊藤絵美　（2013）『臨床心理学入門 ： 多様なアプローチを越境する』 有斐閣　ISBN：9784641220034	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

公認心理師、臨床心理士として、医療、教育、産業、そして福祉の４領域における実践経験をもとに、疾患、障害、対応方法の講義を行う

授業科目名	SP201U 心理学実験Ⅰ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	加藤　仁・松下　健　（代表教員　加藤　仁）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
心理学研究を進める上で，必要とされる各種実験手法について，その基礎的知識獲得から実施までを，実習をとおして学びます。各実験後に実験レポートを作成してもらいます。	①実験計画の方法に習熟している。 ②実験器具の取り扱いを習得している。 ③実験で得られたデータの分析方法に習熟している。 ④実験レポートを的確に書くことができる。

教授方法	グループで各実験種目を実施する。その後，実験について解説を行い，データの分析，レポートの作成を行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方の説明を行う。心理学実験についての基礎的な知識を説明する。	加藤・松下
2	面接場面における面談者と来談者の言語行動：面接場面の観察から言語行動を分析する手法の解説。	松下
3	ミューラー・リヤー錯視（長さの錯視）：錯視の実験実習を行う。	加藤
4	「ミューラー・リヤー錯視（長さの錯視）」　レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説，分析の実施方法，レポートの書き方の指導を行う。	加藤
5	P-Fスタディ：投影法による心理の理解という観点から実習を行う。	松下
6	「P-Fスタディ」　レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説，分析の実施方法，レポートの書き方の指導を行う。	松下
7	触二点閾：皮膚感覚のありようを理解するための実験実習を行う。	加藤
8	「触二点閾」　レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説，分析の実施方法，レポートの書き方の指導を行う。	加藤
9	SD法：SD法の実験の実習を行う。	松下
10	「SD法」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説，分析の実施方法，レポートの書き方の指導を行う。	松下
11	鏡映描写：鏡に映された図形を見ながら，その図形を描くという課題に取り組む。	加藤
12	「鏡映描写」　レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説，分析の実施方法，レポートの書き方の指導を行う。	加藤
13	パーソナル・スペース：パーソナル・スペースの心理的効果についての実験の実習を行う。	加藤
14	「パーソナル・スペース」　レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説，分析の実施方法，レポートの書き方の指導を行う。	加藤
15	実験を含む，心理学の研究法について振り返る	松下

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実験レポート	90	各種目で提出されたレポートの内容により評価を行う（計 7 本）。レポートとして重要な点は授業内に提示する。	授業参加態度	10	実験とデータ処理に取り組む姿勢等の参加態度をみる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①多様な種目が用意されているので，種目ごとに自分でその分野のテキストや先行研究を当たり，知識を深める。［90分］ ②各実験とも，実験レポートを作成し，次回の授業の時に提出する。［90分］ ③添削されたレポートによって復習する。［30分］	提出された実験レポートを添削した上で返却する。

受講生に望むこと	評価はレポートにより行われるが，実験実習であるため，すべての回に出席・参加することが原則となる。また，授業時以外に自分で調べ，レポートを書き進めることで実験レポートを書く力が身につくので，授業への積極的な態度が求められる。他の講義や自習により統計学について十分修得しておくこと。	教科書・テキスト	『心理学実験法・レポートの書き方』　西口利文・松浦均（編）　ナカニシヤ出版　2008年　ISBN 978-4-77-950237-8
指定図書／参考書等	なし/『実践心理データ解析―問題の発想・データ処理・論文の作成―改訂版』 田中敏　新曜社　2006年　ISBN 978-4-78-851012-8　その他種目ごとに適宜授業内にて提示することがある。	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する。

実務経験を活かした授業の概要

実務に活用できる行動科学の基本的な発想，研究法，分析法，古典的な研究，成果のまとめ方を演習により学ぶ

授業科目名	SP206U 心理学実験Ⅱ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	加藤　仁・齊藤　英俊・松尾　藍　（代表教員　加藤　仁）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
本実習は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。「心理学実験実習Ⅰ」に引き続き、心理学研究を進めるうえで必要とされる実験手法と実験計画の方法を、実習を通して学ぶ。本実習は、基礎的なものからやや応用的なものまで多様な手法を含んだ実習内容となっている。実験の枠組みの理解とともに実験器具の取り扱いの習得も目指す。	①実験計画の方法を理解する。 ②実験器具の取り扱いを習得する。 ③実験で得られたデータの分析方法を習得する。 ④実験レポートの書き方に習熟する。

教授方法	グループで各実験種目を実施する。その後，実験について解説を行い，データの分析，レポートの作成を行う。
履修条件	心理学実験実習Ⅰの履修済みが望ましい（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方の説明を行う。心理学実験についての基礎的な知識を確認する。	加藤・齊藤・松尾
2	一対比較法：一対比較法の実験の実習を行う。	加藤
3	「一対比較法」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説，分析の実施方法，レポートの書き方の指導を行う。	加藤
4	単語記憶の再生：単語の記憶と系列位置効果に関する実験の実習を行う。	松尾
5	「単語記憶の再生」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説，分析の実施方法，レポートの書き方の指導を行う。	松尾
6	Y-G性格検査：投影法による心理の理解という観点から実習を行う。	齊藤
7	「Y-G性格検査」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説，分析の実施方法，レポートの書き方の指導を行う。	齊藤
8	自己制御：自己制御の実験の実習を行うことで，実験操作の考え方について理解する。	加藤
9	「自己制御」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説，分析の実施方法，レポートの書き方の指導を行う。	加藤
10	顔面フィードバック：表情からの顔面フィードバックプロセスに関する実験の実習を行う。	松尾
11	「顔面フィードバック」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説，仮説の立て方，分析の実施方法，レポートの書き方の指導を行う。	松尾
12	社会的態度：社会的態度を測定するための手法を用いた実験の実習を行う。	齊藤
13	「社会的態度」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説，分析の実施方法，レポートの書き方の指導を行う。	齊藤
14	ストループ効果：ストループ効果のありようを理解するための実験の実習を行う。	加藤
15	「ストループ効果」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説，分析の実施方法，レポートの書き方の指導を行う。	加藤

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業内レポート	90	各種目で提出されたレポートの内容により評価を行う（計 7 本）。レポートとして重要な点は授業内に提示する。	実習への参加度	10	実験を行うにあたって担当者の指示を理解し，着実に実行されているかをみる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①種目ごとにテキストや配布されたプリントをよく読み，実験内容の理解を深める。［45分］ ②各実験種目のレポートを作成する。［120分］ ②各種目で適用された分析方法を復習する。［30分］ ③返却されたレポートを見直し、修正する。［30分］	各種目についてのレポートは，添削終了後返却し，コメントを行う。

受講生に望むこと	評価はレポートにより行われるが，実験実習であるため全ての回に出席・参加することが原則となる。また，授業時以外に自分で調べ，レポートを書き進めることで実験レポートを書く力が身につくので，授業への積極的な参加態度が求められる。	教科書・テキスト	『心理学実験法・レポートの書き方』 西口利文・松浦均（編） ナカニシヤ出版 2008年 ISBN 978-4-7795-0237-8
指定図書／参考書等	なし／種目ごとに適宜授業内に提示する。	その他・特記事項	代替授業がある場合にはGoogle Classroomを通じて課題などを提示する。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SP211U 心理学研究法			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	松尾　藍						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、社会学科の「心理と社会」科目であり、心理学を学ぶ体系に位置づけられる。心理学は、目には見えない「心」を扱う学問分野である。そのような「心」を科学的に理解するためには、適切な方法論が必要不可欠である。本科目では、直接観察できない心のはたらきに科学的にアプローチするための心理学の方法論を概説する。そのうえで、受講生には実際に研究計画の立案に取り組んでもらう。	①心理学における実証的研究法、具体的には実験法と観察法を中心とした量的・質的研究の基礎知識を習得する。 ②データを用いた実証的な思考方法を身につける。 ③研究倫理を理解し、実践することができる。

教授方法	講義を中心に実習を取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：「心理学研究法」を学ぶ意義について考える。	
2	科学と実証：実証するとはどういうことか、因果関係と相関関係の違いを学ぶ。	
3	実証の２つの手続き：実験法と観察法のそれぞれの特徴や違いを概観する。	
4	実験法（１）：実験法の基本的な考え方について学ぶ。	
5	実験法（２）：原因をどのように作り出すか、独立変数の操作を学ぶ。	
6	実験法（３）：結果をどのように取り出すか、従属変数の測定を学ぶ。	
7	実験法（４）：原因を見誤らないために、剰余変数の統制を学ぶ。	
8	実験法（５）：質問紙実験やフィールド実験など、様々な実験法を学ぶ。	
9	中間テストとその解説：第１～８回の内容の理解度を問うテストを実施するとともに、前半の内容を振り返る。	
10	観察法（１）：観察法の基本的な考えについて学ぶ。	
11	観察法（２）：観察による心理学的研究を行う際の留意点について学ぶ。	
12	研究倫理：心理学研究に特有の倫理問題を学び、心理学研究に必要な倫理的配慮を理解する。	
13	研究計画の立て方　研究計画を実際に立てる際の手法と留意点について学ぶ。	
14	研究計画の実際（１）：具体的に研究計画を考える実践にとりくみ、これまでに学んだ内容を振り返る。	
15	研究計画の実際（２）：具体的な研究計画をまとめる実践をおこない、これまでに学んだ内容を振り返る。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	40	第14～15回で立てた研究計画をレポートにまとめて提出を求める。レポートに授業で学んだ内容が反映されているかを評価する。	中間テスト	40	講義前半で学んだ内容に関する筆記テストを行い、内容の理解度を評価する。
提出物	20	振り返りシートなど、各授業回の提出物の提出状況とその内容を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習：教科書（各回の授業内容に該当する箇所）をあらかじめ読み、内容の理解に努めると共に、疑問点をまとめておく。[30分/回] ②事後学習：授業で配布する資料等を活用し、授業内容を復習する。[60分/回] ③その他：「心理学研究」など学術雑誌に掲載されている心理学の実証研究論文を、授業内容と照らし合わせながら１本以上読む。[期間を通して合計38時間]	各授業回の提出物については、次回授業の冒頭に講評やフィードバックを行う。中間テストについては、テスト終了後に解説を行う。

受講生に望むこと	自分の興味ある事がらを研究として調べるためには、研究法を正しく理解する必要がある。研究のためには何をする必要があるのか、何をしてはいけないのかを考えながら講義に臨んでほしい。	教科書・テキスト	『心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし 補訂版』高野陽太郎・岡隆 編　有斐閣　2017年　ISBN 978-4-641-22086-7
指定図書／参考書等	指定図書なし。 参考書については、授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SP216U 心理的ｱｾｽﾒﾝﾄ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	松下　健						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
心理アセスメントの理論、方法、倫理について学ぶ。実際に心理検査（知能検査・質問紙法・投影法等）を体験しながら、実施方法、結果の分析、解釈などアセスメントの実施方法について学習し、得られた検査結果から具体的な支援計画を作成する方法までを修得する。アセスメントを通して状態を把握する力を身につけ、支援計画を作成するスキルも高めていく機会とする。	1)心理的アセスメントの目的と倫理を説明できるようになること。 2)心理的アセスメントの観点と展開を説明できるようになること。 3)心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）を説明できるようになること。 4)心理測定の信頼性と妥当性を説明できるようになること。 5)心理検査を実施、採点、解釈できるようになること。 6)心理アセスメントの適切な記録と報告をできるようになること。

教授方法	講義、演習
履修条件	公認心理師または認定心理士を目指し、かつ統計法および心理学研究法に習熟した者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	心理アセスメントとは何か：心理アセスメントの目的、方法（面接、観察、検査）、倫理	
2	心理測定の基礎、データの尺度水準、分布、代表値、正規分布と確率、標準得点	
3	心理測定の信頼性と妥当性	
4	心理アセスメントと統計解析	
5	質問紙検査、STAIの理論と実施、解釈と所見作成（適切な記録と報告）	
6	性格検査、TEGの理論と実施	
7	性格検査、TEGの解釈と所見作成（適切な記録と報告）	
8	描画法、投映法、バウムテストの理論と実施	
9	描画法、投映法、バウムテストの解釈と所見作成（適切な記録と報告）	
10	知能検査、WAIS-Ⅲ（言語性検査1回目）	
11	知能検査、WAIS-Ⅲ（言語性検査2回目）	
12	知能検査、WAIS-Ⅲ（動作性検査1回目）	
13	知能検査、WAIS-Ⅲ（動作性検査2回目）	
14	知能検査、WAIS-Ⅲ（結果の解釈と所見作成）	
15	総括、心理アセスメントの観点および展開	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	30	講義中の演習や課題に従事すること、積極的に質問、発言すること、他者の発表や意見を聴くこと	課題と発表	30	出された課題を行うこと、小レポートを作成すること、必要に応じて発表すること
期末レポート	40	レポートを書式通りに作成し、期日を守り提出すること			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
心理アセスメントの演習を行うために、心理検査の実施方法を予習して修得すること。[120分] 心理アセスメントの所見を宿題として作成すること。[120分]	講義中に課す小レポートについては返却時に適宜フィードバックする。

受講生に望むこと	公認心理師および認定心理士に関連する科目である。国家資格を目指す者に照準を合わせるため、負担の大きい科目であることを理解し履修すること。	教科書・テキスト	『心理検査の実施の初歩　心理学基礎演習5』　願興寺礼子・吉住隆弘（編）ナカニシヤ出版　2011年 ISBN-13:9784779503870
指定図書／参考書等	なし/『心理テスト―理論と実践の架け橋―』　ホーガン、T．P．（著）繁桝算男・椎名久美子・石垣琢麿（共訳）　培風館　2010年　ISBN-13:978-4563052041	その他・特記事項	・心理アセスメントの演習は他者とペアあるいはグループを作り実施する。予習を行わない場合は他者に迷惑をかけることになるので、大きな減点になる。

実務経験を活かした授業の概要

公認心理師、臨床心理士として、医療、教育、産業、そして福祉の４領域における実践経験をもとに、実践を想定して心理アセスメントの演習を行う

授業科目名	SP225U 発達心理学			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤　英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・スクール（学校）ソーシャルワーカー・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
人間がどのような発達過程をたどるかを理解することは、保育や教育に携わるうえで重要な視点である。本講義では、発達心理学の具体的成果をもとに、乳幼児期から青年期を中心に、人間の心理的発達のしくみについて学ぶ。	①発達心理学の諸理論に関する基礎知識を答えられる。 ②生涯における心身の発達について答えられる。 ③各年齢期において達成されるべき発達課題を答えられる。 ④発達心理学の知見を踏まえ、乳幼児期から青年期の子どもに対する基本的な関わりについて考察できる。

教授方法	講義を中心にワークなどを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問なのか。発達心理学を学ぶ意義を理解する。	
2	「発達」を考える①：人の発達において、各発達段階で達成しておくことが望まれる「発達課題」について理解する。また、発達課題と教育との関連について考える。	
3	「発達」を考える②：「発達を決めるのは遺伝か環境か」、「年をとるのは衰退か成熟か」などの疑問をもとに、人の「発達」について考える。	
4	胎児期～乳児期①：お腹のなかにいる赤ちゃんに意識はあるのだろうか。生後間もない赤ちゃんはただ泣いているだけだろうか。胎児や新生児の発達と有能さについて理解する。	
5	胎児期～乳児期②：赤ちゃんはどのように外界と関わっているか。乳児期の情動、認知、言語の発達について考える。	
6	胎児期～乳児期③：対人関係の基盤となるものは何か。情緒的な絆である「愛着（アタッチメント）」について考える。	
7	幼児期①：「ぼく・わたし」はいつ成立するか。子どもの言語発達や自己概念の成立について考える。	
8	幼児期②：なぜ子どもにとって「遊び」は重要なのか。「象徴機能」や社会性の発達を通して考える。	
9	幼児期③：子どもはどのように「賢く」なっていくか。幼児期における認知発達について考える。	
10	児童期①：子どもの対人関係はどう変わっていくか。友人関係の展開を中心に、学童期の子どもが抱えやすい問題について考える。	
11	児童期②：物事の善し悪しや思いやりはどのように育つか。学童期の子どもの「道徳性」や「向社会性」の発達について考える。	
12	児童期③：子どもはどのように物事を捉え、思考していくのだろうか。児童期の認知発達について考える。	
13	青年期：青年期における身体と心の変化、周囲との関係の変化について考える。また、「自分らしさ」とは何だろうか。青年期の重要な発達課題とされる「自我同一性（アイデンティティ）」について考える。	
14	成人期・老年期：家庭を持ち親になることの意味、老いや病がもたらすもの、死を目前にした人間について考える。	
15	「発達障害」の理解と対応：発達障害は親のしつけや本人の性格が原因ではない。では、発達障害とは何だろうか。発達障害など非定型発達の基礎的な知識や考え方について理解し、適切な関わりを考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
各回の授業レポート	30	講義内容に対する意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。	ブックレポート	20	発達心理学に関連する文献の概要をまとめ、内容について論理的に考察されているかが評価基準となる。
定期試験	50	発達心理学の諸理論、発達課題、子どもに対する適切な関わりなど、授業で取り上げる内容の知識が獲得されていることが評価基準となる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の該当する箇所を読んでおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、発達心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分] ③発達心理学の下位領域・関連領域である「乳幼児心理学」「児童心理学」「青年心理学」「発達障害」などの参考書を用いて、知識を深める。[60分]	①毎回の授業レポートについては、対面授業時に内容に関する振り返りを行います。 ②定期試験については、希望者に次学期に内容に関してコメントなど対応します。

受講生に望むこと	授業の内容が今後の自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的に受講することを望みます。	教科書・テキスト	坂上裕子・山口智子・林 創 ・中間玲子（2014）．問いからはじめる発達心理学　有斐閣　ISBN:978-4641150133
指定図書／参考書等	なし／本郷一夫・飯島典子編（2019）．保育の心理学　建帛社　ISBN：978-4767950914、若尾良徳・岡部康成（2010）．発達心理学で読み解く保育エピソード　北樹出版　ISBN：978-4779302510、岡本祐子・深瀬裕子編（2013）．エピソードでつかむ生涯発達心理学　ミネルヴァ書房 ISBN: 978-4623065318、伊藤亜矢子編（2011）．エピソードでつかむ児童心理学　ミネルヴァ書房　ISBN:978-4623058259	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例をもとに発達課題などのテーマと関連づけて紹介し、子どもへの関わり方について検討する時間を設けている。

授業科目名	SP230U 教育心理学			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤　英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				

授業の概要	授業の到達目標
教育心理学における主要な領域（発達、学習、評価、集団・適応）について講義する。本講義では、教育活動について心理学の視点から理解を深め、効果的な学びを促すにはどうすればよいかについて考える。	①子どもの心身の発達過程を答えられる。 ②心理的発達の特徴を踏まえた上で、学習過程で生じる心理的メカニズムについて答えられる。 ③主体的な学習を支える集団づくりと集団への適応に関して正しい知識を答えられる。 ④教育活動の評価の意義および役割を答えられる。

教授方法	講義を中心にワークなども取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション：教育心理学は、どのような学問なのか。教育心理学の主な領域である「発達」「学習」「評価」「集団・適応」の概要と、教育心理学の研究法を理解する。	
2	発達と教育「発達における教育の役割」：ピアジェやヴィゴツキーの発達理論を通して発達における教育の役割を考える。	
3	学習①「学習理論①」：学びはどのようにして生じるか。条件づけ理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。	
4	学習②「学習理論②」：学びはどのようにして生じるか。学習に関する様々な理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。	
5	学習③「学習と教授理論」：どのような教え方が効果的だろうか。さまざまな教授理論を比較しながら各教授法の特徴を考える。	
6	学習④「動機づけ」：やる気はどこから生じるか。動機づけに関する研究を通して、学ぶ意欲について考える。	
7	学習⑤「記憶」：学びの基礎になる記憶の理論を学ぶ。記憶に関する研究成果を紹介し、学習においてどのように活用できるか考える。	
8	学習⑥「学習指導と個人差」：すべての子どもに同じ教え方でよいだろうか。教授方法と個人差との関係を通して、学習指導について考える。	
9	評価①「パーソナリティ」：パーソナリティ（性格）とは何だろうか。パーソナリティに関する様々な理論を学び、パーソナリティを理解することについて考える。	
10	評価②「知能」：知能とは何だろうか、どのように測定できるだろうか。知能に関する様々な理論と測定方法を学び、「知能が高い（低い）」とはどのようなことか考える。	
11	評価③「教育評価」：教育評価とは何か、誰が誰の何を評価するのだろうか。教育評価の意義を理解し、教育における評価の役割を考える。	
12	集団・適応①「学級集団」：学級は単なる個人の集まりだろうか。集団心理や成員間の相互作用などを通して、学級集団について考える。	
13	集団・適応②「不登校・いじめ」：不登校やいじめの問題を通して、学校や学級集団への適応を考える。	
14	集団・適応③「発達障害・精神障害」：発達障害や精神障害を抱えた子どもの学校や学級集団への適応を考える。	
15	集団・適応④「学校カウンセリング」：学校や家庭において、子どもの心の問題にどのように取り組んでいくことができるだろうか。学校現場での心理支援活動について考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
各回の授業レポート	30	講義内容に対する感想や意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。	ブックレポート	20	教育心理学に関連する文献の概要をまとめ、内容について論理的に考察されているかが評価基準となる。
定期試験	50	教育心理学の主要な内容（発達、学習、評価、集団・適応）に関する基礎知識が獲得されていることが評価基準となる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の該当する箇所を読んでおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、教育心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分]	①各回の授業レポートについては、対面授業時に内容に関する振り返りを行います。 ②定期試験については、希望者に次学期に内容に関してコメントなど対応します。

受講生に望むこと	授業の内容が自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的な受講態度を望みます。	教科書・テキスト	石津憲一郎 ・下田芳幸 ・ 横田晋務（2022）．教育・学校心理学　サイエンス社　ISBN: 978-4781915272
指定図書／参考書等	なし/服部環・外山美樹編(2013)．スタンダード教育心理学　サイエンス社　ISBN:978-4781913254、大村彰道編（1996）．教育心理学Ⅰ　東京大学出版会　ISBN: 978-4130520720、下山晴彦編（1998）．教育心理学Ⅱ　東京大学出版会　ISBN: 978-4130520744、藤田哲也編（2021）．絶対役立つ教育心理学［第２版］　ミネルヴァ書房　ISBN： 978-4623091638、水野浩久・串崎真志編（2019）教育・学校心理学　ミネルヴァ書房　ISBN:978-4623086078、橋本創一・ 三浦巧也・ 渡邉貴裕・ 尾高邦生・堂山亞希・熊谷亮・田口禎子・大伴潔編（2020）．キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育　福村出版　ISBN:978-4571121401	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例（いじめや不登校など）をもとに、子どもへの関わり方や解決策について検討する時間を設けている。

授業科目名	SP236U 人格心理学（感情・人格心理学A）			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤　英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
人間の心理や行動には個人差が存在する。そのような個人差が生まれるメカニズムに関連しているものの1つとして人格（＝性格、パーソナリティ）があげられる。本講義では、心理学の知見を通して人格を捉えるための多様な観点を概観し、人間理解に向けた１つの基本的知識・視点を身につけることを目指す。	①人格を理解するための諸理論を説明できる。 ②人格を測定する方法と、測定における問題点を答えられる。 ③人格の形成過程について説明できる。 ④人格心理学の科学的知見をもとに、人間のパーソナリティについて幅広い視野から考えることができる。

教授方法	講義を中心に性格検査などワークを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション：人格（性格、パーソナリティ）とは何か。人の内面の特徴とされるパーソナリティとはどのようなものか概説する。	
2	類型論：人格をとらえる視点の一つである「類型論」をとりあげ、性格をタイプに分けることの利点と欠点について考える。	
3	精神分析的人格論①：フロイトの精神分析的人格論をとりあげ、人の内面構造に関する理論を学ぶ。	
4	精神分析的人格論②：ユングのパーソナリティ論をとりあげ、人の内面構造に関する理論を学ぶ。	
5	特性論①　その考え方：人格をとらえる視点の一つである「特性論」をとりあげ、人をいくつかの特性からとらえることの利点と欠点を考える。	
6	特性論②　Big Five：パーソナリティは 5 つの主要な性格因子で構成されるとする「Big Five モデル」を学ぶ。	
7	状況論：状況要因や環境要因を重視した「状況論」について学び、人格における状況の影響について考える。	
8	相互作用論：人‐状況論争を経て誕生した「相互作用論」をとりあげ、近年の性格研究の動向について学ぶ。	
9	物語論：物語論（ナラティブ）の視点から人格について考える。	
10	人格の測定と研究法：人格はどのように測定することができるか考える。方法論（質問紙法、投影法、観察法、面接法）を理解し、研究方法について学ぶ。	
11	人格の発達①：一度つくられた人格が変わることはあるか、また人格の成熟とは何かについて考える。	
12	人格の発達②：遺伝や家庭をはじめとする環境が、どの程度、人格の形成に影響しているかを考える。	
13	人間関係と人格：「対人魅力」に関する研究成果をもとに、相手に好かれる性格とはどういったものかについて考える。	
14	文化と人格：東洋と西洋、日本と米国など、異なった文化環境は人格の形成にどういった影響を及ぼしうるかについて考える。	
15	人格の病理：人格における病理にはどのようなものがあるか、またそれらへの対応や治療について考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
各回の授業レポート	30	講義内容に対する意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。	課題レポート	20	授業内容をもとに、課題テーマについて自らの意見や考察が行われているかどうかを評価基準とする。
定期試験	50	「人格心理学」の基礎知識が獲得されている。 「人格心理学」のテーマについて、実証的研究の知見を踏まえて論理的考察がされている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスを読み、授業内容について参考書などで予習をしておくこと。[30分] ②授業の後に各回の講義内容について、関連図書などを用いて復習しておくこと。[40分] ③普段自分が、自分の性格や他人の性格をどのようにとらえているのか意識して生活してみること。 ④授業内で習った理論に基づいて、自分の性格や他人の性格を分析してみること。	①授業レポートについては、対面授業時に振り返りの時間をもちます。 ②課題レポートや定期試験については、希望者に授業内や次学期に内容に関してコメントなど対応します。

受講生に望むこと	性格は身近なものであり、講義内容と自分の性格など自分自身とを結びつけながら受講してほしい。	教科書・テキスト	適宜プリントを配布する。
指定図書／参考書等	なし/詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊 (2003)．性格心理学への招待：自分を知り他者を理解するために［改訂版］サイエンス社　ISBN:978-4781910444、榎本博明・安藤寿康・堀毛一也 (2009)．パーソナリティ心理学　有斐閣　ISBN:978-4641123779、鈴木公啓編 (2012)．パーソナリティ心理学概論　ナカニシヤ出版　ISBN:978-4779506383	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SW201U ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの基盤と専門職			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
授業を通して、ソーシャルワークの概念、範囲、形成過程、理念について学び、ソーシャルワーク・相談援助にかかる専門職としての役割、意義を理解する。また、ソーシャルワーク・相談援助専門職としての専門性と倫理を学ぶとともに、総合的かつ包括的なソーシャルワークの全体像と理論を理解する。 社会福祉士資格に係るソーシャルワーク実習、および国家試験受験を意識した専門的な内容を展開する。	1．社会福祉士の法的な位置付けについて理解し、説明できるようにする。 2．ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解し、説明できるようにする。 3．ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解し、説明できるようにする。 4．社会福祉士の職域と求められる役割について理解し、説明できるようにする。 5．ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解し、説明できるようにする。 6．ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解し、説明できるようにする。 7．総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解し、説明できるようにする。

教授方法	講義
履修条件	「現代社会と福祉Ⅰ」の単位修得済みの者、または同時履修の者。加えて、「現代社会と福祉Ⅱ」の単位修得済み、および「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」の同時履修が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ソーシャルワーク専門職である社会福祉士の法的な位置付け：社会福祉士及び介護福祉士法、共生社会の実現に向けて活躍が期待されるソーシャルワーク専門職である国家資格の位置付け	
2	ソーシャルワーク専門職である社会福祉士の法的な位置付け：社会福祉士の専門性、社会福祉士に求められるコンピテンシー、これからの社会福祉士に求めらる能力	
3	ソーシャルワークの概念：ソーシャルワークの定義、ソーシャルワークの構成要素、任務や原理、ソーシャルワークの基盤となる知と実践	
4	ソーシャルワークの基盤となる考え方：ソーシャルワークの原理、ソーシャルワークの理念、現代社会状況との関係、ソーシャルワークの必要性	
5	ソーシャルワークの形成過程：ソーシャルワークの源流と基礎確立期、ソーシャルワークの発展期、ソーシャルワークの萌芽となった諸活動	
6	ソーシャルワークの形成過程：ソーシャルワークの展開期と統合化、日本におけるソーシャルワークの形成過程、救済から社会事業への展開、戦後のソーシャルワークの導入、国家資格化	
7	ソーシャルワークの倫理：専門職倫理の概念、倫理綱領、専門職倫理綱領の必要性、その意義や構成要素と機能・活用の仕方、倫理的ジレンマ	
8	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲：ソーシャルワーク専門職の概念と範囲、ソーシャルワーカーが専門職であるために必要な条件	
9	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲：社会福祉士の職域と役割、社会福祉士が働く職域の広がり	
10	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲：多様な組織・機関・団体における専門職、ソーシャルワークを担うさまざまな職種や職場、諸外国の動向	
11	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク：ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象、三つのレベルの相互関係	
12	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク：ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開、ソーシャルワークグローバル定義に基づいた実践	
13	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容：総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点、ジェネラリストの意味と視点	
14	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容：ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容、さまざまな人や組織との連携・協働	
15	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容：多職種連携およびチームアプローチの意義と内容	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	授業への参加状況、受講態度、毎回の小テスト（持ち込み不可）、提出物等（課題、ミニレポート、ワークシートなど）	確認テスト	50	授業内容の理解（テストは持ち込み不可）、レポート等の記載内容

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．社会のなかで起こっている福祉に関する問題について関心をもつ。 2．相談援助の基盤となる人間関係についてさまざまな機会をとおして学ぶ。 3．社会問題に関する新聞記事を読み、自分なりに考察し、まとめる。 ［1～3の全体で30分以上］	確認テスト等は、毎回、結果とともに内容を解説する。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応する。

受講生に望むこと	社会のなかで発生しているさまざま社会福祉の問題に関心をもち、なぜそのような事象が起こるのか、その問題の解決にはどのような方法があるのか、自分なりに問題意識をもちながら授業に臨んでください。 授業、および毎回の小テストと期末の確認テスト（全て持ち込み不可）は、社会福祉士資格に係るソーシャルワーク実習と国家試験受験を意識した専門的な内容です。	教科書・テキスト	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、最新社会福祉士養成講座11『ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）』中央法規出版、2021. ISBN978-4-8058-8241-2 ※旧テキスト（2021年度以前）は使えません。
指定図書／参考書等	なし／なし　必要な資料を講義内で配布する。	その他・特記事項	随時、社会福祉士国家試験に関する資料を配布、説明します。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SW206U ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法Ⅰ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
ソーシャルワーク専門職にとって必要な知識・技術に関する全体像を理解する。ソーシャルワークの構造、機能、展開過程を理解し、専門職として求められる基本的な理論と方法の習得を目指して授業を進める。 関連科目の内容を意識しつつ、社会福祉士資格に係るソーシャルワーク実習、および社会福祉士国家試験を意識した内容を展開する。	1．ソーシャルワークに関する基本的な知識と技術を理解し、説明できるようにする。 2．ソーシャルワーク専門職の役割と意義を理解し、説明できるようにする。 3．人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解し、説明できるようにする。 4．ソーシャルワークの過程と係る知識と技術、および様々な実践モデルとアプローチについて理解し、説明できるようにする。 5．ソーシャルワーク実習に必要な基礎的内容を理解、習得する。

教授方法	講義
履修条件	「ソーシャルワークの基盤と専門職」の単位修得済みの者、または同時履修の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク：ソーシャルワーカーが学ぶ理論、ソーシャルワークの共通基盤、固有の視点	
2	人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク：システム理論、生態学理論、バイオ・サイコ・ソーシャルモデル、各理論・モデルの基本的な考え方と内容の理解	
3	人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク：ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク、ソーシャルワークの目標と展開過程、生活課題が「人と環境との交互作用」により生じることの理解	
4	ソーシャルワークの過程：ケースの発見、援助までのプロセス、エンゲージメント（インテーク）の意味と役割、クライエントとの関係構築の留意点	
5	ソーシャルワークの過程：アセスメントの意義と目的、アセスメントの方法、アセスメントの留意点、「生活者」や「生活」への接近の方法、アセスメントを支える理論・方法・構成要素、マッピング技法	
6	ソーシャルワークの過程：プランニングの意義と目的、ソーシャルワークにおけるプランニング	
7	ソーシャルワークの過程：プランニングのプロセスと方法、目的・目標・計画内容の設定、プランニングにおける留意点、倫理的な実践、包括的な支援のための連携・協働	
8	ソーシャルワークの過程：支援の実施、モニタリング、効果測定、モニタリングから再アセスメントまでの流れ、シングルシステムデザイン	
9	ソーシャルワークの過程：支援の終結と結果評価、ソーシャルワーカーとクライエント双方で行うことの意味、結果評価の意義・視点・方法、アフターケア、再支援を行う重要性	
10	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方、視点、モデル、アプローチ等の意味	
11	ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ：治療モデル、ストレングスモデル、生活モデル（ライフモデル）、実践モデル・アプローチの特徴と歴史的な概要、モデル・アプローチによる違い	
12	ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ：心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチ、実践モデル・アプローチの特徴と歴史的な概要、モデル・アプローチによる違い	
13	ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ：課題中心アプローチ、行動変容アプローチ、認知アプローチ、実践モデル・アプローチの特徴と歴史的な概要、モデル・アプローチによる違い	
14	ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ：危機介入アプローチ、エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチ、実践モデル・アプローチの特徴と歴史的な概要、モデル・アプローチによる違い	
15	ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ：解決志向アプローチ、さまざまなアプローチ、実践モデル・アプローチの特徴と歴史的な概要、モデル・アプローチによる違い	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	授業への参加状況、受講態度、提出物等（課題、小テスト、ミニレポート、ワークシートなど）	確認テスト等	50	授業内容の理解（テストは全て持ち込み不可）、レポート等の記載内容

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．毎回の授業後に、自身で振り返り、疑問点や不明な点を調べる。 2．社会の事象に関心を持ち、とくに福祉領域の特徴、問題等をまとめる。 3．社会福祉士の国家試験と関連したポイントを整理する。［1～3で30分以上］	確認テスト等は、毎回結果とともに内容を解説する。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応する。

受講生に望むこと	相談援助の専門職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。	教科書・テキスト	ソーシャルワーク教育学校連盟編、最新社会福祉士養成講座12『ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』中央法規出版、2021. ISBN978-4-8058-8242-9 ※旧テキスト（2021年度以前）は使えません。
指定図書／参考書等	なし／なし　必要な資料を講義内で配布する。	その他・特記事項	随時、社会福祉士国家試験に関する資料を配布、説明します。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SW211U ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法Ⅱ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
ソーシャルワークの展開過程において必要な知識、技術について、その意義、目的、留意点を理解する。また、ソーシャルワーク専門職に必要な面接技術、記録の技術を学ぶ。加えて、ケアマネジメント（ケースマネジメント）方法、グループの活用、コミュニティワーク、スーパービジョンの意義について理解する。 関連科目の学びを意識しつつ、社会福祉士資格に係るソーシャルワーク実習、および国家試験を意識した内容を展開する。	1．相談援助にかかる基本的な面接技術を理解し、援助過程において活用できるようにする。 2．相談援助にかかる基本的な記録の技術を理解し、援助過程において活用できるようにする。 3．ケアマネジメント（ケースマネジメント）の意義と方法について理解し、説明できるようにする。 3．コミュニティワークの概念とその展開について理解し、説明できるようにする。。 4．ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解し、説明できるようにする。

教授方法	講義
履修条件	「ソーシャルワークの基盤と専門職」、「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」の単位修得済みの者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ソーシャルワークの面接：面接の意義と目的、日常会話と面接の特徴と違い、ソーシャルワークにおける面接の意義、目的	
2	ソーシャルワークの面接：面接の方法と実際、ソーシャルワーク面接における形態や手段、場所の多様性、面接の基本的留意点、具体的な面接技法	
3	ソーシャルワークの記録：記録の意義と目的、記録の内容、専門職の記録に求められる倫理的責任	
4	ソーシャルワークの記録：記録のフォーマット、根拠のある記録の書き方	
5	ケアマネジメント（ケースマネジメント）：ケアマネジメント（ケースマネジメント）の歴史、ケアマネジメント（ケースマネジメント）の原則	
6	ケアマネジメント（ケースマネジメント）：ケアマネジメント（ケースマネジメント）の意義と方法、モデルとプロセス	
7	グループを活用した支援：グループワークの意義と目的、グループワークの展開過程、ジェネラリスト実践を意識したグループワーク、グループの発達段階に応じた介入	
8	グループを活用した支援：グループワークとセルフヘルプグループ、セルフヘルプグループへの向き合い方	
9	コミュニティワーク：コミュニティワークの意義と目的、住民が主体となる地域福祉活動の意義、コミュニティワークの展開、コミュニティワークの各技法の特徴、評価の視点・方法	
10	コミュニティワーク：コミュニティワークの理論的系譜とモデル、コミュニティワークの歴史、各モデルが必要とされた社会的背景	
11	ソーシャルアドミニストレーション：ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義、組織介入・組織改善の実践モデル、ピラミッド組織・フラット組織・ティール組織	
12	ソーシャルアドミニストレーション：組織運営における財源の確保、種類、ファンドレイジングの手法	
13	ソーシャルアクション：ソーシャルアクションの概念とその意義、事例を通じたソーシャルアクションの基本	
14	ソーシャルアクション：コミュニティ・オーガナイジング、コミュニティ・オーガナイジングの実例、展開過程	
15	スーパービジョンとコンサルテーション：スーパービジョンの意義・目的・方法・関係・形態・実施、コンサルテーションの意義・目的・方法、コンサルテーションとスーパービジョン	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	授業への参加状況、受講態度、提出物等（課題、小テスト、ミニレポート、ワークシートなど）	確認テスト	50	授業内容の理解（テストは持ち込み不可）、レポート等の記載内容

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．毎回、テキスト・資料等で授業を振り返り、学びを定着させる。[30分以上] 2．社会の事象に関心を持ち、福祉領域との関係を意識する、まとめる。 3．福祉現場への理解を深めるため施設・機関への見学、ボランティアに参加する。	確認テスト等は、毎回結果とともに内容を解説する。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応する。

受講生に望むこと	1．相談援助の専門職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。 2．現代社会において社会福祉のニーズは多様化し、範囲も広がっています。日頃から関連するニュースには関心を持つようにしてください。	教科書・テキスト	ソーシャルワーク教育学校連盟編、最新社会福祉士養成講座12『ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』中央法規出版、2021. ISBN978-4-8058-8242-9 ※前期「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」と同じもの ※旧テキスト（2021年度以前）は使えません。
指定図書／参考書等	なし／なし　必要な資料を講義内で配布する。	その他・特記事項	随時、社会福祉士国家試験に関する資料を配布、説明します。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SW221U ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ演習Ⅰ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する。	1. ケースワーク及びグループワークの理論や技術について、演習により基礎的な能力 を習得する。 2. ソーシャルワークの価値と倫理を実践的に理解できる。 3. 演習を通じて、利用者・家族等とのコミュニケーションに必要な能力を理解できる。 4. ソーシャルワークの展開過程に用いられる知識と技術を実践的に理解できる。

教授方法	個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定したロールプレイング等を中心とする演習形態
履修条件	社会福祉士またはスクールソーシャルワーカーの資格取得を目指している者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、受講の注意点、演習形態の重要性を理解する	
2	自己覚知（自己理解と他者理解）について理解する。	
3	関係形成のための原則について学ぶ：バイスティックの７原則の理解	
4	基本的なコミュニケーション技術の習得：言語的、非言語的技術の理解	
5	基本的なコミュニケーション技術の習得：観察、傾聴、伝達等の技術の習得	
6	基本的な面接技術の習得：基本的応答技法の体験的な理解	
7	基本的な面接技術の習得：基本的応答技法の活用	
8	基本的な面接技術の習得：面接の構造化、場の設定、ツールの活用	
9	ソーシャルワークの展開過程の理解：ケースの発見、インテーク	
10	ソーシャルワークの展開過程の理解：アセスメント、プランニング	
11	ソーシャルワークの展開過程の理解：支援の実施、モニタリング	
12	ソーシャルワークの展開過程の理解：支援の終結と事後評価、アフターケア	
13	ソーシャルワークの記録の理解：支援経過の把握と管理。	
14	グループダイナミクスの活用：グループワークの構成、グループワークの展開過程	
15	プレゼンテーション技術の理解：個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
テスト	60%	授業内容についてどれだけ理解しているか。	授業参加態度等	40%	・演習の目的を理解し、積極的に自ら学びとろうとする姿勢。 ・ワークシート等の提出物（講義内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・授業の後に講義と演習内容を復習し、毎回の授業のねらい達成を確実なものとする。[30分以上] ・授業の後に課された課題に取り組み、次の授業に備える。[30分以上] ・分からない語句や興味の持てたことに関して、自分で調べて理解を深める。	・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。

受講生に望むこと	・授業の後に講義と演習内容を復習し、毎回の授業のねらい達成を確実なものとする。[30分以上] ・授業の後に課された課題に取り組み、次の授業に備える。[30分以上] ・分からない語句や興味の持てたことに関して、自分で調べて理解を深める。	教科書・テキスト	なし。ワークシート等を毎回配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

毎年実施している施設職員向けの研修や本学の出張講座等の経験をもとに、面接や記録等の相談援助についてのロールプレイやディスカッションを行っている。

授業科目名	SW226U ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ演習Ⅱ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。 ケアマネジメントについて、事例や援助場面を想定した実技指導を中心とする演習形態により習得する。	1.ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。 2.社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を習得する。 3.具体的な事例等を題材として、ソーシャルワークにおける展開過程、アプローチについて理解する。 4.ケアマネジメントについて、その誕生の背景、基本理念、目的、援助の視点を理解する。

教授方法	ワークシート等を用いて演習形式で行う。
履修条件	ソーシャルワーク演習Ⅰの単位を修得済の者。高齢者福祉論の単位の修得済が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の流れと到達目標を把握し、ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合について理解する。	
2	援助資源になるための自己覚知、他者理解と尊重、ソーシャルワーカーの使命と役割、価値基盤を理解する。	
3	ソーシャルワーク実践における専門的援助関係づくりと、そのために必要なコミュニケーション・かかわり行動について理解する。	
4	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。事例等：虐待（高齢者）	
5	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。事例等：認知症	
6	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。事例等：終末期ケア	
7	ケアマネジメントの基本的理念、意義と目的について理解する。	
8	ケアマネジメントの基本的理念、意義と目的について理解する。	
9	ケアマネジメントとソーシャルワークの関係について理解する。	
10	介護保険制度におけるケアマネジメント（居宅介護支援）について理解する。	
11	介護保険制度におけるケアマネジメント（介護予防支援）について理解する。	
12	介護保険制度におけるケアマネジメント（施設介護支援）について理解する。	
13	障害者領域におけるケアマネジメントについて理解する。	
14	子ども家庭福祉領域におけるケアマネジメントについて理解する。	
15	生活困窮者等に対するケアマネジメントについて理解する。まとめ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	60%	毎回の授業内容についてどれだけ理解しているか。	授業参加状況	40%	・授業への積極的な取り組み。 ・ワークシート等の提出物。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・授業の後に講義と演習内容を復習し、毎回の授業のねらい達成を確実なものとする。[30分以上] ・授業の後に課された課題に取り組み、次の授業に備える。[30分以上] ・参考書等の事例を読み込み、ソーシャルワークへの理解を深める。	・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。

受講生に望むこと	・授業では演習形態により、実際の状況を模擬的に体験すること等を通して、専門的な知識と技術を学んでいくために、毎回、積極的な姿勢で臨むこと。 ・ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目と関連づけるとともに、ソーシャルワーク実習に備えることを意識する。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし/『対人援助職をめざす人のケアマネジメント』 太田貞司 他編　みらい　2007年　ISBN:978-4-86015-109-6	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

毎年実施している施設職員向けの研修や本学の出張講座等の経験をもとに、ケアマネジメントの演習を行っている。

授業科目名	SW351U ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ実習指導Ⅰ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則・田引　俊和　（代表教員　真砂　良則）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
ソーシャルワーク実習の意義について理解する。社会福祉士に求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。	①ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導の意義について理解できる。 ②実際の実習を行う実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等について理解できる。 ③社会福祉士に求められる役割の理解と、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を身につける。 ④ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。

教授方法	テキストをもとにした講義の他、実習ガイドブック、ワークシート等を用いた演習、ＤＶＤの視聴を行う。
履修条件	ソーシャルワーク実習Ⅰを履修中（履修登録済）の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導の意義の理解	
2	実際に実習を行う分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（事前リサーチ：分野）	
3	実際に実習を行う分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（事前リサーチ：施設）	
4	実際に実習を行う分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（概況表）	
5	実習先で関わる他の職種の専門性や業務に関する基本的な理解	
6	実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理･知識及び技術に関する理解	
7	実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解	
8	実習目的と実習課題の明確化（個人票）	
9	実習目的と実習課題の明確化（実習計画）	
10	実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解（実習記録の目的・内容）	
11	実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解（記述方法）	
12	実習先への事前訪問の意義と留意点の理解	
13	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成及び実習後の評価への理解	
14	巡回指導	
15	実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	・授業への積極的な取り組み ・課題への取り組み状況	提出物	50	・ワークシート等の提出物の内容等

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にあらかじめ指示したテキストの箇所を読んでおく。[30分以上] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持てたことや疑問点に関して自分で調べて理解を深める。[30分以上] ③福祉現場におけるボランティアや自主的な見学等を経験しておくことが望ましい。	・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。

受講生に望むこと	・実習では、社会人としてのマナーも問われる。挨拶や身だしなみなどに日頃から気をくばること。規律のある態度で授業に臨むこと。 ・実習及び実習指導は社会福祉士という国家資格の取得を目指すものであるということを常に意識すること。	教科書・テキスト	『相談援助実習・相談援助実習指導』第3版 早坂聡久他編　弘文堂　2018年 ISBN978-4-335-61189-6
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

職能団体である社会福祉士会の現場職員との定期的な交流、意見交換をもとに現場で求められる社会福祉士像について、ディスカッション等により指導をおこなっている。

授業科目名	SW366U ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ実習Ⅰ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則・田引　俊和　（代表教員　真砂　良則）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
8日間(60時間）にわたる実習を通して、ソーシャルワークの実践に必要な各科 目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。 支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について 把握する。施設・機関等が地域社会の中で果たす役 割を実践的に理解する。総合的かつ包括的な支援における多職 種・多機関、地域住民等との連携のあり方 及びその具体的内容を実践的に理解する。	①利用者やその関係者との円滑な人間関係や援助関係が形成できる。 ②地域の課題や利用者のニーズ等について理解できる。 ③実習施設・機関の機能・役割について理解できる。 ④社会福祉士の業務内容や職業倫理について実際的に理解できる。 ⑤ソーシャルワークに関する基礎的な知識や技術が習得できる。

教授方法	実習施設の指導者による指導、担当教員による巡回指導等。
履修条件	高齢者福祉論、障害者福祉論、児童福祉論、ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅰの単位を修得済で、ソーシャルワーク実習指導Ⅰを履修中の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	利用者やその関係者(家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランテイア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成	実習指導者、担当教員
2	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成	実習指導者、担当教員
3	利用者や地域の状況を理解し、その生活上 の課題（ニーズ）の把握	実習指導者、担当教員
4	多職種連携及びチームアプローチの実践的理解	実習指導者、担当教員
5	当該実習先が地域社会の中で果たす役割の 理解及び具体的な地域社会への働きかけ	実習指導者、担当教員
6	地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解	実習指導者、担当教員
7	施設・事業者・機関・団体等の経営やサービ スの管理運営の実際（チームマネジメントや 人材管理を含む）の理解	実習指導者、担当教員
8	社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解	実習指導者、担当教員
9	ソーシャルワーク実践に求められるアウトリーチ ・ネットワーキングなどの技術の実践的理解	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習施設の指導者による評価	60	・実習の態度 ・専門的知識、技術の習得の状況	担当教員による評価	40	・実習記録の内容等

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①実習の前に事前学習や実習計画、実習プログラム等の内容を再確認しておく。[30分] ②実習の後に実習課題に関する自己評価や内省を行うとともに疑問点等を調べ次に備える。[60分]	・実習記録等をもとに、実習指導者から指導を受ける。 ・巡回訪問時等の面接により、担当教員から気づきを促していく。 ・実習を終えての内省や自己評価を実習指導Ⅱ及び実習Ⅱに繋げていく。

受講生に望むこと	・実習ガイドブックを熟読し、意欲的に取り組む。 ・実習及び実習指導は社会福祉士という国家資格の取得を目指すものであるということを常に意識すること。 ・社会福祉士の具体的なイメージを掴む。	教科書・テキスト	『相談援助実習・相談援助実習指導』第3版 早坂聡久他編　弘文堂　2018年 ISBN978-4-335-61189-6
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	・状況によっては代替実習（オンライン等）となることがある。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SB100U 生涯学習概論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	高橋　律子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
生涯学習及び社会教育施設の本質と意義の理解を図り、学ぶことの楽しさを理解することから始めます。自分自身の学びを振り返りながら、今後の生涯学習社会の在り方について理解を深めます。	①生涯学習を通して「学ぶ」意味について理解する。 ②社会教育施設の役割について理解を図る。 ③社会教育施設の見学を通して現在の生涯学習の在り方について理解を図る。 ④今後の生涯学習社会の在り方について考察する。

教授方法	基本的に講義形式となりますが、ディスカッションやグループワークも併用し、積極的な参加を求めます。校外学習があります。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：授業の進め方と成績評価について説明した後、「生涯学習」とは何かについて考えます。	
2	学習について：自分自身のこれまでの学びを振り返りながら、「学習」についての理解を深めます。	
3	芸術文化と生涯学習Ⅰ：生涯学習の視点から映画を視聴し、分析を試みます。	
4	芸術文化と生涯学習Ⅱ：視聴した映画の分析内容を共有することで学びを深めます。	
5	学習の内容Ⅰ：生涯学習において何を学ぶべきか考えます。	
6	学習の内容Ⅱ：生涯学習社会において何を学ぶべきか考えます。	
7	芸術文化と生涯学習Ⅲ：生涯学習の視点から映画を視聴し、分析を試みます。	
8	芸術文化と生涯学習Ⅳ：視聴した映画の分析内容を共有することで学びを深めます。	
9	生涯学習施設を知るⅠ：生涯学習施設を見学し、学習しやすい環境をどのように作っているのか理解します。	
10	生涯学習施設を知るⅡ：生涯学習施設を見学し、学習しやすい環境はどうあるべきか考えます。	
11	生涯学習施設を知るⅢ：生涯学習施設を見学し、学習しやすい環境はどうあるべきか考えます。	
12	生涯学習施設を知るⅣ：生涯学習施設を見学し、考えたことを共有し、学びを深めます。	
13	生涯学習プログラムについてⅠ：生涯学習プログラムをどのように企画実施するか、実践的に学びます。	
14	生涯学習プログラムについてⅡ：生涯学習プログラムをどのように企画実施するか、実践的に学びます。	
15	生涯学習についての総括：生涯学習について学んだことを総括し、最終レポートにまとめます。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への積極的な参加	50	出席だけでなく、ディスカッションやグループワークなどでの積極的な発言を評価します。	小レポート	20	授業内で数回実施する課題について、理解できているかどうか評価します。
最終レポート	30	最終授業で総括としてレポート提出を求めます。自分自身の課題として生涯学習をとらえることができているか評価します。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
① 授業に参加する前に自分がこれまでどのように「学習」(学校内、学校外とも)してきたか、振り返っておいてください。[30分]	授業内でフィードバックを行います。

受講生に望むこと	集中講義のため1日の欠席が４回の欠席扱いとなります。体調管理にも留意してください。	教科書・テキスト	特に用いません。
指定図書／参考書等	リンダ・グラットン『ライフ・シフト』東洋経済新報社、2016、ISBN13：978-4492533871	その他・特記事項	特になし。

実務経験を活かした授業の概要

学芸員としての経験をもとに、金沢市内の図書館及び美術館などの社会教育施設の現場見学を取り入れつつ、具体的な学習支援の方法と内容の理解を深められるよう講義を行う。

授業科目名	SB200U 図書館ｻｰﾋﾞｽ概論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目であり、図書館の中心的機能である情報提供について、その意義・種類・方法について理解を深めるとともに、多様な図書館サービスの形態を学ぶ。またそれぞれの図書館サービスの本質を理解することを目指す。	①図書館サービスの意義・構造について理解する。 ②資料提供サービスの基本について理解する。 ③様々な情報提供サービスの形態と機能について理解する。 ④図書館ネットワークについて理解する。 ⑤障碍者サービス、高齢者サービス、など利用対象に応じたサービスについて理解する。 ⑥図書館と著作権について問題意識を持って理解する。

教授方法	講義
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者または履修中の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	図書館サービスの意義（1）図書館の構成要素とサービスの役割	
2	図書館サービスの意義（2）図書館サービスの類型化	
3	図書館サービスとマネージメント（1）計画の立案と評価	
4	図書館サービスとマネージメント（2）図書館の「新・望ましい基準」	
5	来館者へのサービス	
6	利用空間の整備	
7	貸出サービスの構造	
8	資料提供の展開（1）リクエストサービス	
9	資料提供の展開（2）資料収集の方針	
10	情報提供サービス	
11	利用対象に応じたサービス（1）障碍者サービス、高齢者サービス	
12	利用対象に応じたサービス（2）児童サービス	
13	利用対象に応じたサービス・利用者とのコミュニケーション	
14	図書館サービスの課題：情報提供と著作権	
15	これからの図書館サービスのあり方について（まとめ）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	20	授業内で小テストを実施する。	授業内課題	20	授業内での作業・コメントなどの成果を評価する。
レポート	40	①授業で指定した内容をまとめ，②同一内容を扱う別の文献を探し，内容をまとめる。③双方の見解に基づいて意見をまとめ，④期限までに指定書式にて提出する。	授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
教科書を指定しているため、教科書を活用した予習復習を推奨する。図書館を日常的(できれば週1回以上)に活用することを心がける。 また、図書館員には幅広い背景知識が求められるため、日頃から様々な領域に関心を持つことを求める。図書館利用の際は図書館がどのようなサービスを実施しているのか注目し、機会があれば積極的にサービスを利用すること。 各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。	試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてClassroomなども利用する。

受講生に望むこと	履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨むこと。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問すること。	教科書・テキスト	『図書館サービス概論　改訂版』高山 正也，村上篤太郎編著．樹村房，2019．(現代図書館情報学シリーズ4) ISBN:978-4-88367-294-3
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	レポートは未提出の場合は単位認定を行わない。 必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SB205U 情報ｻｰﾋﾞｽ論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目である。図書館における情報サービスの歴史や理念をふまえ、図書館情報サービスを形成する情報検索や各種のサービス（レファレンスサービス、カレントアウェアネスサービス、レフェラルサービス、利用者教育、SDIなど）について解説する。また各種情報源の種類や利用・検索方法について、文字情報、数値情報、映像・音声情報などの種類別やメディア別に解説する。	①図書館の理念を理解し、利用者サービスの重要性を理解する。 ②資料提供サービスと情報提供サービスの違いを理解する。 ③図書館サービスの中における情報サービスの位置づけを理解する。 ④各種情報源の特性を知り、情報源の利用について知識を身に付ける。

教授方法	講義，スライドを使用した形式で実施
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	情報サービスの概要：情報サービスの意義を理解する	
2	情報サービスの基礎：レファレンスサービスとはなにか	
3	情報サービスの展開：利用指導、レフェラルサービスとはなにか	
4	多様な情報サービス：読書相談、地域情報の発信、専門的な情報提供のあり方	
5	デジタルレファレンスサービス：デジタル環境でのサービスとは	
6	情報源整備の実際：印刷メディアと電子メディアの特徴、レファレンス情報源の構築と評価	
7	利用者の情報利用に対する理解：情報ニーズと情報探索行動	
8	レファレンス質問への対応：レファレンスプロセスの理解	
9	情報の検索と回答：検索戦略構築と情報検索を行うには	
10	情報検索のしくみ：レファレンスブックの構造、データベースの検索機能	
11	情報サービスの管理：情報サービスの組織化、人的な資質と能力	
12	情報源の特質：事実検索と文献検索、データベースの種類内容	
13	事実情報の検索の実際：言葉、統計、地理、人名などの調べ方	
14	文献情報の検索の実際：図書雑誌、雑誌記事などの調べ方	
15	情報サービスを行う意義：まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末テスト	60	記述式の筆記試験を行う。図書館における情報サービスの基本的な位置づけを理解できている必要がある。	授業内課題	20	授業中に小課題を行う。理解度の確認や各自の意見を記述してもらう。
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業内で紹介した各種情報源について、図書館やWebで実際に確認すること。 図書館のOPACなどデータベースを日常的に活用すること。 各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。	試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてClassroomなども利用する。

受講生に望むこと	図書館司書資格の科目であることを理解し、その意義をよく考えて履修をすること。分からない点、疑問に思ったことがあれば積極的に教員に質問をすること。	教科書・テキスト	『情報サービス論』小田光宏編著．日本図書館協会，2012．（JLA図書館情報学テキストシリーズ 3；5）ISBN：978-4-8204-1211-3
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SB210U 情報資源組織論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目である。印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報源からなる図書館情報資源の組織化と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法などについて理解することを目的とする。	①資料組織化の意義、書誌コントロールについて理解する。 ②記述目録法について学び、書誌記述法を理解する。 ③主題分析・分類法・索引法について理解する。 ④日本目録規則にもとづく目録法を理解する。

教授方法	講義
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	資料組織化の意義について	
2	書誌コントロール（1）書誌とは何か	
3	書誌コントロール（2）全国書誌・OPACとは	
4	書誌情報の作成・流通・管理	
5	記述目録法の基礎―概要と記述の範囲	
6	記述の単位と順序、記述ユニット方式と区切り記号	
7	記述目録法作成の実際（1）タイトルと責任表示、版表示に関する事項	
8	記述目録法作成の実際（2）出版頒布・形態に関する事項	
9	記述目録法作成の実際（3）シリーズ・注記・標準番号・入手条件に関する事項	
10	記述目録法作成の実際（4）標目と排列	
11	主題分析と分類法・索引法	
12	分類法の実際（1）分類総論	
13	分類法の実際（2）日本十進分類法	
14	分類法の実際（3）その他の分類法	
15	ネットワーク情報源の組織化とメタデータ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末テスト	60	筆記試験（持ち込み不可）を実施する。目録の基礎知識及び基本的な技術を習得している必要がある。	授業内課題	20	目録の知識を確認するため記述式などの形式で課題を授業内で行う。
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか，教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
図書館を日常的に活用することを心がける。特に目録を活用し、OPACは日常的に利用すること。 履修までに大学図書館だけでなく、公共図書館のOPAC利用を経験しておくこと。 各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。	試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてClassroomなども利用する。

受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨むこと。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問すること。	教科書・テキスト	『情報資源組織論　3訂版』柴田正美著．日本図書館協会，2020．(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3；9) ISBN:978-4-8204-1915-0
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ST100U 公認心理師の職責			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	松下　健・齊藤　英俊　（代表教員　松下　健）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
公認心理師の役割、責任、業務内容を学ぶ。心理学だけでなく倫理、医療、教育、福祉、司法、資格に関連する法律など、公認心理師に関わる広範な内容を学習する。	1)公認心理師の役割を説明できること。 2)公認心理師の法的義務及び倫理を説明できること。 3)心理に関する支援を要する者等の安全の確保を説明できること。 4)情報の適切な取扱いを説明できること。 5)各分野における公認心理師の具体的業務を説明できること。 6)自己課題発見・解決能力を説明できること。 7)生涯学習への準備を説明できること。 8)多職種連携及び地域連携を説明できること。

教授方法	講義、演習。
履修条件	公認心理師を目指す者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	公認心理師の職責：導入	齊藤・松下
2	公認心理師の役割	松下・齊藤
3	公認心理師の法的義務・倫理	齊藤・松下
4	クライエント／患者らの安全の確保のために	齊藤・松下
5	情報の適切な取り扱いについて	松下・齊藤
6	保健医療分野における公認心理師の具体的な業務	松下・齊藤
7	福祉分野における公認心理師の具体的な業務	松下・齊藤
8	教育分野における公認心理師の具体的な業務	松下・齊藤
9	司法・犯罪分野における公認心理師の具体的な業務	松下・齊藤
10	産業・労働分野における公認心理師の具体的な業務	松下・齊藤
11	支援者としての自己課題発見・解決能力	齊藤・松下
12	生涯学習への準備	齊藤・松下
13	多職種連携・地域連携	齊藤・松下
14	公認心理師の今後の展開	齊藤・松下
15	公認心理師の職責のまとめ	齊藤・松下

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小レポート・代替課題	30	講義中に提示する小レポートや代替課題の完成度をみる	講義参加態度	30	課題、発表、質問などの参加態度をみる
期末試験	40	講義内容の理解度をみる			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
与えられたテーマについて予習すること。[90分] 各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[90分]	小レポートは返却時にフィードバックする。

受講生に望むこと	公認心理師の関連科目である。そのため、資格取得を目指す学生の真摯で積極的な学習が望まれる。	教科書・テキスト	『公認心理師の職責』　野島一彦・繁桝算男（編）遠見書房 2018年（ISBN:978-4-86616-051-1）
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	対面授業が完全に実施不可能になった場合，代替課題90%，期末レポート10%の評価基準にする。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ST200U 学習・言語心理学			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	加藤　仁						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
人間が経験に基づきどのように変化するかを，主に行動の変化と言語の習得を中心に学ぶ。基本的には講義形式で進めるが，必要に応じてディスカッションの機会を設ける。	(1) 経験を通して人の行動が変化する過程を説明できる。 (2) 言語の習得における機序について概説できる。

教授方法	講義形式
履修条件	認定心理士あるいは公認心理師を目指す者が望ましい

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：学習心理学および言語心理学について概説する。また，授業の進め方や成績評価基準などを説明する。	
2	学習・行動領域の心理学（パヴロフの条件反射，ソーンダイクの試行錯誤学習・効果の法則，ワトソンの恐怖条件づけ，トールマンの認知地図）	
3	行動の測定と実験デザイン（行動の定義，反応型と行動の機能，様々な観察法）	
4	生得性行動（生得性と学習性，刺激と反応の随伴性，刻印づけ，馴化の法則）	
5	レスポンデント条件づけ（無条件・条件刺激，無条件・条件反応，中性刺激）	
6	オペラント条件づけ（強化・弱化，強化子・弱化子，正の強化子・負の強化子，条件強化子）	
7	強化随伴性（確立操作，遮断化，飽和化，強化スケジュール）	
8	刺激性制御（弁別刺激，同時弁別，継時弁別，条件性弁別刺激）	
9	言語に関する理論と研究（言語の４領域（音韻・語彙・文法・語用論），スキナーの言語学習理論・模倣言語行動，生成文法理論，普遍文法）	
10	言語に関する理論と研究（認知言語学，社会語用論的アプローチ，非言語的・前言語的コミュニケーション，ナラティブ，ディスコース，言語と推論，言語と文化）	
11	語彙の獲得過程（クーイング，喃語，初語，一語発話，二語発話，概念カテゴリー，理解語，産出語（表出語彙））	
12	語彙の獲得過程（語彙カテゴリー，指示対象と語のマッピング，相互排他性，社会的手がかり，語彙の爆発的増加，認知的制約）	
13	文法能力の発達（構文の発達，埋め込み文，語順，文法形態素の獲得（助詞，助動詞））	
14	言語の生物学的基礎と障害（言語における脳機能，失語症（ブローカ失語，ウェルニッケ失語，超皮質性運動失語，超皮質性感覚失語，伝導失語），読字障害（ディスレクシア））	
15	全体のまとめ：学習心理学および言語心理学のまとめを行い，それぞれの心理学の社会での展開について説明する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	70	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し，提出すること。	受講態度	10	発表，質問，グループディスカッションなどの参加態度をみる
小レポート	20	小レポートの完成度を評価する			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
シラバスを確認し，毎回扱う内容を予習すること。［60分］ 学習した内容が定着するよう復習すること。［90分］	小レポート等の提出物については，次回講義時にフィードバックを行う。

受講生に望むこと	心理学特有の抽象的概念を扱うことが多い科目である。 シラバスの内容をよく確認した上で受講すること。 学習に自発的，積極的に取り組むこと。	教科書・テキスト	毎回，教員が作成した資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ST205U 神経・生理心理学			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	柚木　颯偲						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
本講義では、脳・神経の役割を理解し、脳や神経が行動や心理・精神にどのような影響を与えているのかを知り、脳神経が障害された場合にはどのような症状が生じるのかを学習し、患者さんの症状理解の基礎を学ぶ。	1. 脳神経系の構造及び機能について概説できる 2. 各種神経心理学的症候について概説できる 3. 神経心理学領域における心理職の役割を概説できる

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	神経心理学の目的，神経心理学領域における心理職の役割	
2	脳神経系の構造と理解	
3	脳波と脳画像診断	
4	視覚・聴覚・体性感覚・運動の理解と評価	
5	注意障害の理解	
6	記憶障害の理解	
7	遂行機能障害の理解	
8	失語症の理解	
9	失行・失認・脳梁離断症候の理解	
10	社会的行動障害・情動障害の理解	
11	神経心理学的アセスメントと支援	
12	神経心理学的症候をもたらす原因疾患の理解	
13	神経心理学からみた高齢期の課題	
14	神経心理学からみた小児・思春期の課題	
15	睡眠と睡眠障害の理解	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	70	授業で取り扱った内容を習得できているかどうかを評価する。	リアクションペーパーまたは小レポート	30	各回の授業で配布する。授業内容をもとに自分自身の考えを述べることができるかどうか、心理職として必要な知識が身についているかどうかを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業前にシラバスを確認し、そのテーマが取り扱うであろう内容について事前に参考書等を用いて調べておく［60分］ 授業後に学習した内容を自分の言葉で説明できるように復習する［60分］	各回で提出してもらったリアクションペーパーについては、次回講義時に全体に対しコメントする。

受講生に望むこと	脳の働きや脳損傷における心理・行動障害について取り扱いますが、学習した内容を自分の言葉で他者に説明できるようになることを目指して受講してください。	教科書・テキスト	公認心理師カリキュラム準拠【神経・生理心理学】臨床神経心理学　緑川晶（他）編　医歯薬出版　2018年 ISBN：978-4-263-26561-1
指定図書／参考書等	なし／公認心理師の基礎と実践10 神経・生理心理学　梅田聡 編　遠見書房　2021年　ISBN：978-4-86616-060-3	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

脳・神経と行動や心理・精神との関連を理解・習得するために、医療機関における臨床心理士／公認心理師としての実務経験をもとに、臨床的知見を取り入れた授業を実施する。

授業科目名	ST210U 人体の構造と機能及び疾病			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	中谷　壽男						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
医療を理解するには，人の体の構造と機能をある程度理解し記憶していることが重要になります．この構造と機能を理解するときには，病気を例にして講義することが役立つことがありますので，少数の病気にも言及することも行います．将来，皆さんが自分で病気などを調べる時の基礎知識と考えを講義では示したいと思います．	人体の構造と機能の基礎知識を身につける．それをもとに，病気をどのように捉えるかの考え方を身につける．

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション	
2	解剖（皮膚　からだの構造　骨格系　筋系）	
3	解剖（循環器系）	
4	解剖（呼吸器系）	
5	解剖（消化器系１）	
6	解剖（消化器系２）	
7	解剖（泌尿器系　生殖器系）	
8	解剖（内分泌系　神経系　感覚器系）	
9	緩和ケアと終末期医療について	
10	薬の基礎知識	
11	検査概論、医療用語	
12	リハビリテーションについて	
13	感染症	
14	栄養	
15	試験対策	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	80	筆記試験の結果に基づいて評価する	課題提出物	20	適宜課す課題提出物に基づいて評価する

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
テキストに目を通しておき，疑問点などがあれば自身で問いを立てておく．講義で自分でその解答を見つける．［90分］分からなければ，講師にその場で質問するか，時間がなければ，質問を用紙に書いて講師に渡すか，講師へメールで質問を送る．	試験後は答案用紙を返却し，解答を開示する． 提出物に関しては授業内に適宜フィードバックを行なう．

受講生に望むこと	テキストは最初から最後まで読むこと．人体の色々な部位の構造と機能は関連しあっているので，最初は理解が難しくても，他の部位の内容を読むことで，理解ができることがあるので，諦めないこと．	教科書・テキスト	『医学一般』一般社団法人　医療教育協会　2018年 ISBN:なし
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SK300U 専門ｾﾞﾐⅠ			開講学科	社会	必修・選択	必修
担当教員名	田中　純一・小林　正史・田引　俊和・俵　希實・真砂　良則・矢澤　励太・若山　将実・井上　克洋・竹中　祐二・松下　健・若杉　亮平・加藤　仁・松尾　藍　(代表教員　田中　純一)						
標準履修年次	3年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
担当する教員の専門分野の中から自分の興味関心のあるテーマについての知見を深める。ゼミごとに文献を設定し、演習形式で文献の輪読と担当者によるレジュメの作成と発表、内容についてのディスカッションを通して、専門的な文献の読解力と内容の把握の方法を身につける。自分のテーマを追求するのに適した理論や方法論を見出し、ゼミレポートの作成を目指す。	①専門分野に関する文献を読んで理解する。 ②専門分野に関するディスカッションを通して自分が取り組みたい研究テーマを見つける。 ③専門分野に関するディスカッションを通して自分の研究テーマの追及に適した理論や方法を探す。 ④ゼミレポートを作成する。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
15	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
16	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
28	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員

授　業　計　画		
実施回	授業内容・目標	担当教員
29	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
30	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員

成績評価方法と基準					
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	50	①課題にまじめに取り組んでいるか。 ②積極的にディスカッションに参加しているか。	レポート	50	①指定された書式に従っているか。 ②適切な内容となっているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
ゼミレポートの作成やゼミ発表の準備を進める[週平均90分以上] 詳細は各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。

受講生に望むこと	研究課題に主体的に取り組むこと。	教科書・テキスト	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。
指定図書／参考書等	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	その他・特記事項	特になし。

実務経験を活かした授業の概要
なし

授業科目名	S0300U 応用心理社会統計法			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	松尾　藍						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会調査士				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、社会学科の基本・共通科目であり、心理学（特に心理統計学）を学ぶ体系として位置づけられる。本科目では、多変量解析の基本的な考え方を学び、特に回帰分析と因子分析を中心に、その知識と技法を習得することを目指している。統計解析を用い、大量のデータがどのように処理されるのかを知ることで、データを適切に読み解くことができるようになると期待される。	①多変量解析の概要を理解し、データの特徴に応じて適切な分析方法を選ぶことができる。 ②回帰分析の手法を理解し、データの分析をおこない、結果を解釈して報告できる。 ③因子分析の手法を理解し、データの分析をおこない、結果を解釈して報告できる。

教授方法	講義を中心に実習を取り入れながら進める。
履修条件	心理学統計法の履修済が望ましい（単位未修得可）

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：本科目が扱う「多変量解析」とは何かを学び、本科目を学ぶ意義について考える。	
2	多変量データとは何か：データの種類による分類を学ぶ。	
3	代表値：代表値の計算を通じて記号に慣れ、共変動、相関係数についても学ぶ。	
4	多変量解析を俯瞰する：多変量解析の概要を知り、それぞれの解析の位置づけについて学ぶ。	
5	回帰分析を理解する（１）：回帰分析の基本モデルと推定法を学ぶ。	
6	回帰分析を理解する（２）：回帰係数の算出など回帰分析の実際と重回帰分析への拡張について学ぶ。	
7	因子分析を理解する（１）：因子分析の基本モデルと推定法を学ぶ。	
8	因子分析を理解する（２）：因子分析の詳細な設定と実際の流れを学ぶ。	
9	統計的分析の実際（１）：統計ソフトを使って基礎的分析の実際を学ぶ。	
10	統計的分析の実際（２）：統計ソフトを使ってt検定や分散分析の実際を学ぶ。	
11	多変量解析の実際（１）：統計ソフトを使って単回帰分析の実際を学ぶ。	
12	多変量解析の実際（２）：統計ソフトを使って重回帰分析の実際を学ぶ。	
13	多変量解析の実際（３）統計ソフトを使って因子分析の基本的な流れを学ぶ。	
14	多変量解析の実際（４）統計ソフトを使って因子分析の実際（因子軸の回転、因子の解釈）を学ぶ。	
15	まとめ：講義全体の振り返りとともに、日常生活における身近な統計活用事例を考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	50	講義内容に関する筆記テストを行い、内容の理解度を評価する。	提出物	50	振り返りシートなど、各授業回の提出物の提出状況とその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習：各回の事前配布資料をあらかじめ読み、内容の理解に努めると共に、疑問点をまとめておく。[30分/回] ②事後学習：授業で配布する資料等を活用し、授業内容を復習する。[60分/回] ③その他、テレビや新聞、雑誌、インターネット、商業広告等、日常生活の中にある統計情報に積極的に触れ、そこで示されているデータを、授業内容と照らし合わせて適切に読み取るように習慣づける。	各授業回の提出物については、次回授業の冒頭に講評やフィードバックを行う。

受講生に望むこと	パソコンを使って、データ解析を行います。キーボード、マウスの操作や、ファイル、フォルダの扱いに慣れておいて下さい。	教科書・テキスト	使用しない。資料を配布する。
指定図書／参考書等	指定図書なし。 参考書については、授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	本科目は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのE科目に準拠しています。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	S0305U 社会調査実習			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	俵　希實・若山　将実　（代表教員　俵　希實）						
標準履修年次	3年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	社会調査士				

授業の概要	授業の到達目標
「社会調査論」「社会調査法」「統計データの読み方」「心理学統計法」などで学んできたことを基礎とし、調査の構想・計画→準備→実査→データの入力と点検→分析→報告という社会調査の全過程を体験的に学び、社会調査士資格に相応の社会調査に関する実践能力を習得することを目的とする。同時に、調査組織のつくり方、運営していくためのコミュニケーション能力、マネジメント能力、作業のダブル･チェックの徹底、資料の保管方法、作業記録の作り方など、社会で働くために必要な基本的スキルを獲得することを目指す。	①社会調査の全過程を知る。 ②社会で働くために必要な基本的スキルを獲得する。

教授方法	実習
履修条件	「社会調査論」「社会調査法」「統計データの読み方」「心理学統計法」を履修済、もしくは現在履修していることが望ましい。履修していない場合は要相談。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準についての説明	全員
2	共通テーマ、年間スケジュールに関する説明	全員
3	テーマ別調査研究班の編成と役割分担の決定	全員
4	調査テーマに関する先行研究論文の発表	全員
5	調査テーマに関する先行研究論文の発表	全員
6	調査テーマに関する先行研究論文の発表	全員
7	調査テーマに関する先行研究論文の発表	全員
8	調査テーマに関する仮説の構成	全員
9	調査テーマに関する仮説の構成	全員
10	調査テーマに関する仮説の構成	全員
11	調査テーマに関する仮説の構成	全員
12	質問文の作成	全員
13	質問文の作成	全員
14	質問文の作成	全員
15	サンプリング　対象者リストの作成	全員
16	調査票の作成	全員
17	調査票の作成	全員
18	調査票の作成	全員
19	調査票の作成	全員
20	実査の準備	全員
21	実査の準備	全員
22	実査	全員
23	エディティング・コーディング	全員
24	エディティング・コーディング	全員
25	エディティング・コーディング	全員
26	分析についての説明：相関分析　クロス表　カイ二乗検定など	全員
27	データクリーニング　単純集計表の作成	全員
28	調査データの分析:各自の分析	全員

授　業　計　画		
実施回	授業内容・目標	担当教員
29	調査データの分析:各自の分析	全員
30	報告書の作成	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業態度	50	①授業にまじめに取り組んでいるか。 ②自分の役割を遂行しているか。	レポート	50	①期限内に提出しているか。 ②指定された書式・分量にしたがっているか。 ③適切な内容となっているか。 ④図表が適切に作成されているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
仮説の構成、質問文の作成、分析などは主に授業外で進めること。調査票配布および回収、エディティングやコーディング作業など、受講生で協力して授業外で進めること。[120分]	仮説の構成や質問文の作成にあたり、完成するまで継続的にコメントする。

受講生に望むこと	着手から最終報告まで受講生が主体となるため、主体的に考え、他のメンバーに迷惑をかけないよう責任を持って行動してください。	教科書・テキスト	『入門・社会調査法』（第３版）轟亮・杉野勇　編 法律文化社　2017 年 ISBN：978-4-589-03817-3
指定図書／参考書等	授業中に紹介する。	その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのG科目に準拠している。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SC300U 石川の伝統文化と産業			開講学科	社会	必修・選択	選択必修
担当教員名	小林　正史						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
伝統的な台所・火処と食文化の結びつきについて学んだ後、金沢近郊の農村での高度成長期までの生活についてのフィールド調査に基づいて、石川の伝統的食文化の特徴を明らかにする。	①日本の伝統的食文化（和食）の特徴を理解する。 ②薪による調理といった伝統文化（手作り技術）の優れた面を理解する。 ③人類学におけるフィールド調査とそのデータ解析の方法を実践的に習得する。

教授方法	①講義においてキャンパス近郊での伝統的食文化聞き取りの先行研究を学ぶ。 ②それをもとにして、金沢近郊の農村でのフィールド調査（聞き取りや古民家観察）に参加し、文献（市町村誌民俗編）調査も加えて分析を行い、レポートを作成する。
履修条件	特になし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業概要：伝統的（手作り）技術の特徴と優れた面を理解する。	
2	伝統的火処と台所の文化間比較：文化間比較を通して、日本の伝統的民家の作りにみられる火処と台所の工夫を理解する。	
3	日本の火処の歴史：日本の伝統的民家におけるカマドとイロリの作りの工夫とその変化過程を理解する。	
4	火処と食文化の結びつき：前回の火処の歴史的変化が調理方法の変化とどのようにむすびついているかを理解する。	
5	農民の米食程度の歴史：「農民が主食米飯をどの程度食したか」についての先行研究を理解する。	
6	米飯の食べ方の変化：主食米の精米度や食べ方の歴史的変化について理解する。	
7	石川の伝統的台所と食文化：高度成長期以前の石川の伝統的農村における台所の特徴と工夫を理解する。	
8	中間テスト：前半の講義内容を的確に理解しているかを確認する。	
9	フィールド調査の準備：　フィールド調査の前に観察項目と目的を理解する。	
10	フィールド調査：近隣の農村を訪問し、古民家観察や聞き取り調査に参加し、伝統的生活様式の優れた面を理解する。	
11	フィールド調査：近隣の農村を訪問し、古民家観察や聞き取り調査に参加し、伝統的生活様式の優れた面を理解する。	
12	石川の伝統的台所と火処：伝統的台所と火処にみられる地域差と、その背景について理解する。	
13	薪燃料の入手と使用：農村の伝統的生活における薪燃料の入手と使い方の工夫を理解する。	
14	石川の農村における伝統的食文化：石川の農村における食文化の特徴と台所構造の結び付きについて理解する。	
15	食文化と火処の地域間比較：自然環境の違いと伝統的食文化（特に火処・台所）の違いとの結びつきを理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
参加態度	10	積極的に授業と調査に参加している。	授業内ワークと課題提出、小テスト	30	授業中のワークや課題における理解度
中間テスト	20	前半の内容を的確に理解できているかどうか。	学期末レポート	40	調査内容について各学生が内容を的確に理解し、レポートにまとめることができる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
調査のまとめと発表準備は授業外で行うこと［平均45分］。課題リーディングなどを授業外で行うこと［平均45分］	レポート提出の後、振り返りを行う。

受講生に望むこと	講義においても積極的な参加と質疑応答を望む。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	授業中に指示する。	その他・特記事項	フィールド調査は授業外の時間に行う（振替あり）

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SC305U 教育社会学			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	竹中　祐二						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
生物としてのヒトが社会の一員としての人間になる過程を理解する上で欠くことのできない、極めて重要な概念が「社会化」であるが、E.デュルケムは方法的社会化・系統的社会化作用として教育を位置付けている。人間にとって、「社会化としての教育」が本質的なものである一方、「制度としての教育」は、時代や文化による影響を色濃く受けるものでもある。この授業では、教育というものの、そもそも、あるいは今、「あるべき姿」というものについて、社会との関わりから捉え直すことを目的とする。	①「近代化」との関わりから、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。 ②時代や文化を超えて普遍的である特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。 ③今日的な特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。 ④教育制度の歴史的変遷や、今日の学校と地域社会や関係機関との連携を踏まえつつ、教育に関わる主体の役割や特徴を、文章によって説明することができる。

教授方法	講義（受講生の要望に応じて、グループディスカッション等のワークを実施する場合もある。）
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：社会学的に考えるということ、および教育を社会学的に捉え直すことについての基本的な視点を提供し、本科目で学ぶ内容と、その意義について整理する。	
2	制度としての教育①：教育内容や教育方法の変遷を学び、それらが社会と深く関わっていることについて学習する。	
3	制度としての教育②：階層再生産のメカニズムといった、近代化の所産と教育のあり方について学習する。	
4	制度としての教育③：主に義務教育課程について、その概要について学ぶと共に、教育をめぐる平等について学習する。	
5	制度としての教育④：高校ならびに大学への進学率上昇と、その背後に潜む諸問題について学習する。	
6	社会における教育者の意義①：重要な他者／一般化された他者としての教育者の役割、あるいはそのオルタナティブについて学習する。	
7	社会における教育者の意義②：今日の子どもの権利をめぐる諸議論に関わって教育が果たすべき役割について考察すると共に、非対称的な関係が構造的にもたらす教育の逆機能についても学習する。	
8	社会における教育者の意義③：子どもにとっての学校が持つ意味を踏まえながら、教師と子どもの関係および学校現場における両者の相互作用について学習する。	
9	日本における教育環境の変遷①：学校現場への理解から、非行・不登校・いじめ問題について学習する。	
10	日本における教育環境の変遷②：トラッキングやメリトクラシーの問題から、日本におけるキャリア教育について学習する。	
11	日本における教育環境の変遷③：特別活動や部活動の検討を通して、教師と子どもそれぞれが今日置かれている教育環境について学習する。	
12	日本における教育環境の変遷④：今日的な課題のうち、マイノリティ教育に対する教育の意義や実践例について考察する。	
13	日本における教育環境の変遷⑤：今日的な課題のうち、ジェンダー教育に対する教育の意義や実践例について考察する。	
14	総括①：社会との関わりから教育を理解するための方法論的基礎知識について学習する。	
15	総括②：本科目を通じて学習した内容について振り返り、専門職をはじめとするそれぞれの立場から社会の中で教育を達成することの意義について再考し、理解を深める。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加度	45	小テスト・小レポートを通して、日常的な授業態度を評価する。	期末レポート	55	授業の到達目標に即して、この授業で学んだ内容を適切にかつ分かり易くまとめられているか評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①該当する教科書の範囲ならびに事前配付資料を読んでおく。[60分] ②授業時に提示された小課題に取り組む。[45分]	・各回の授業でコメントフォームを活用し、そこでの質問は次回に全体共有する。

受講生に望むこと	・この授業は主として講義形式を採り、多種多様な知識と情報の伝達に努める。したがって、どちらかと言えば双方向ではなく一方向的な学習となる。ただし、教育的な関わり・教育実践にあたっては、すなわち良い教育者になるにあたっては、一面的な価値観に固執するようなことがあってはならない。この授業における学びを通して、社会や制度との関わりから自らの価値観を相対化すると共に、その上で自らの主観や態度を大切にする姿勢を身に付けていただきたい。	教科書・テキスト	『現場で使える教育社会学』 中村高康・松岡亮二　ミネルヴァ書房 2021年　ISBN:978-4623092604
指定図書／参考書等	＜参考書＞ 『よくわかる教育社会学』 酒井朗・中村高康・多賀太　ミネルヴァ書房 2012年　ISBN:978-4623062935 『教育の社会学〔新版〕』 苅谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗　有斐閣 2010年　ISBN:978-4641124004	その他・特記事項	・日常的な学習について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。 ・授業実施形態に伴い、筆記試験からレポート課題へ変更する場合がある。 ・授業実施形態に伴い、また受講生のニーズあるいは登録状況に応じて、アクティブラーニングを別の課題に代える場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SC310U 犯罪社会学			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	竹中　祐二						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
辞書的な観点から理解すると、社会的に有害、あるいは危険である行為・現象を犯罪・非行として定義することができる。しかし、一面的な視点からだけでは、犯罪・非行の本質を理解することはできない。この授業では、社会との関わりに重点を置いて犯罪・非行現象にアプローチし、犯罪・非行を多面的に理解すると共に、犯罪・非行の取り扱い方／取り扱われ方を通して、私達の社会のあり様それ自体を考えていく。	①犯罪・非行の量的・質的変遷がどのようになっているか、またどういった社会背景によってもたらされたのかを、文章で説明することができる。 ②犯罪・非行の処遇について、制度の目的や量的・質的な現状を、的確にポイントを押さえた文章で説明することができる。 ③逸脱行動論の観点から、社会学的に犯罪・非行の発生ならびに予防のメカニズムを理解し、具体例に応用して文章で説明することができる。 ④定義を含む、犯罪・非行に対する社会的反応について、どういった意義や問題があるのか、また時代に沿ってどのように変化したのかを、的確にポイントを押さえた文章で説明することができる。

教授方法	講義・グループディスカッション・受講生によるプレゼンテーション
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：犯罪学・社会学というそれぞれの大領域の中での位置付けを考える作業を通して、犯罪社会学の意義・目的について理解する。	
2	犯罪・非行に関する基礎知識①：犯罪・非行に関わる法・政策・制度・機関等についての基礎知識を学習する。	
3	犯罪・非行に関する基礎知識②：犯罪・非行にまつわる統計を通して、当該現象に接近・観察することの難しさについて学習する。	
4	犯罪者処遇①：成人を対象とし、犯罪者処遇の制度や意義、現状や課題について学習する。	
5	犯罪者処遇②：少年を対象とし、成人との比較を通して、非行少年処遇の制度や意義、現状や課題について学習する。	
6	逸脱行動論①：初期の犯罪学理論と合わせて、アノミー論や社会解体論等の、主としてマクロ領域における逸脱行動論について学習する。	
7	逸脱行動論②：分化的接触理論や非行サブカルチャー論等の、主としてメゾ領域における逸脱行動論について学習する。	
8	逸脱行動論③：コントロール理論等の、主としてミクロ領域における逸脱行動論について、またそれとの関連から環境犯罪学について学習する。	
9	犯罪・非行への社会的反応①：各種逸脱行動論への理解を踏まえて、また犯罪・非行に接近・観察することの難しさとも合わせて、ラベリング論や逸脱の相互作用性について学習する。	
10	犯罪・非行への社会的反応②：犯罪報道と世論の関係について、また被害者の視点から社会における犯罪・非行を再理解することについて学習する。	
11	小括：この授業が目指す社会学的な理解という点に基づいて、ここまでの学習内容を振り返る。／次週以降のグループ報告における分担を話し合う。	
12	プレゼンテーションに向けたリサーチ①：それぞれの分担に応じて、テーマに対する切り口を検討し、プレゼンテーションに必要なデータを収集し、報告形式に合わせた資料を作成する。	
13	プレゼンテーションに向けたリサーチ①：それぞれの分担に応じて、テーマに対する切り口を検討し、プレゼンテーションに必要なデータを収集し、報告形式に合わせた資料を作成する。	
14	受講生によるプレゼンテーション①：模擬授業の形でリサーチ結果を報告する。	
15	受講生によるプレゼンテーション②：模擬授業の形でリサーチ結果を報告する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加度	15	日常的な授業態度を評価する。	プレゼンテーション実施	20	受講生同士の投票によって、担当回におけるプレゼンテーションとレジュメ等の正確さや分かり易さ等を評価する。
プレゼンテーション準備	15	実施されたプレゼンテーションを通して、教員の視点から、そこに至るまでの作業成果を総合的に評価する。	試験	50	授業の到達目標に即して、この授業で学んだ内容を適切に理解しているか評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業で学習した犯罪社会学の理論や知識について復習し、日常的に新聞等を通して実際の社会との関わりを意識し、知識を応用して文章化することができるように練習する。[60分] ②各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]	・各回の授業でコメントフォームを活用し、そこでの質問は次回に全体共有する。

受講生に望むこと	・社会現象への関わり方や理解の仕方は多様であるが、犯罪・非行へのそれらはとりわけセンシティブでデリケートなものとなる。そのことを踏まえてなお、積極的に社会における包摂のあり方について、日頃から関心を持って、考えていただきたい。	教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）
指定図書／参考書等	＜参考書＞ 『よくわかる犯罪社会学入門（改訂版）』 矢島正見・山本功・丸秀康著　学陽書房　2009年＜ISBN:978-4313340183＞ 『ビギナーズ犯罪学』 守山正・小林寿一著　成文堂　2016年＜ISBN:978-4792351830＞ 『犯罪・非行の社会学―常識をとらえなおす視座［補訂版］』 岡邊健著　有斐閣　2020年＜ISBN:978-4641184534＞	その他・特記事項	・日常的な学習やグループ作業について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。 ・授業実施形態に伴い、筆記試験からレポート課題へ変更する場合がある。 ・授業実施形態に伴い、また受講生のニーズあるいは登録状況に応じて、アクティブラーニングを別の課題に代える場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SC320U ﾒﾃﾞｨｱ文化論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	辰巳　平一						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
メディアの使命は正確な情報の媒介にある。この授業では遡及力のあるテレビニュースを中心に、マスメディアではその現状と課題を紹介する。又ソーシャルメディアも対象とし実情を解説する。災害やスポーツ報道にも言及したい。	①メディア別の個性を理解し、情報受容体として、批判力と偏りのない判断力を身につける。②一つの事案に対して背景や影響の及ぶ範囲などを推考し、時に自ら調査する。③「話す」「書く」等を加え総じてリテラシー能力の向上

教授方法	基本的には講義と課題に対するリポート。対面授業では受講生との質疑応答を多く取り入れる
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の目指すところ、授業の進め方、評価方法を話す。メディアとは	
2	取材：取材対象について多角的に聞き取り、記事としてまとめるワークショップを行う	
3	ネットニュース比較：代表的なネットニュースを紹介し、その特徴について比較検討する	
4	動員とフェイクニュース：ネットメディアの多面性を検討し、フェイクニュースにも触れる	
5	テレビは今：地上デジタル移行後10年、テレビ視聴者層の推移や地方テレビ局の現状は	
6	テレビジャーナリズムとコメンテーター：テレビニュースがいつから報道の主筋となったか	
7	NHKニュース7、最も信頼される訳：VTRを見ながら、ニュースの根幹は何か、信頼の基礎を考える	
8	メディアスクラム：戦後最大の報道被害「松本サリン事件」を紹介、情報源や取材競争の実態を紹介	
9	災害現場取材：2007年能登半島地震、講師の実体験を語る。災害現場や取材の実情を伝える	
10	大災害とメディア：未曾有の被害を出した東日本大震災、被災地での情報ニーズとメディア別の特性	
11	スポーツ番組の手法：如何に視聴者の興味を引きだし、感動を生み出すか、メディア側の工夫を分析	
12	スポーツの物語性：スポーツ報道では物語性を重視する。どう語り、如何に惹きつけるかを分析する	
13	政治とメディア：メディアとの関わりの長い相手で、時に応じ距離感を保つ。この2者の関係性を説く	
14	選挙・政治が最も緊張する時：今年は石川では選挙の年と言われている。選挙報道の実態、報道で守るべきこと、情勢分析等を語る	
15	メディア文化論のまとめ：これまでの授業の総括、補足説明、就職対策、試験のこともにも触れる	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	30	①授業への集中　②講師との応答の的確性 ③授業内で質問をするなど積極性	レポート	30	①提出期限の厳守　②表現の適格性、論理性 ③内容の独自性　④テーマに対する調査
学期末試験	40	①筆記試験　②論理の展開　③授業内容の反映 ④誤字・脱字の有無　⑤思考の奥行ある答案			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①対面授業では毎回時事に関する意見を求めるので準備をしておく(90分) ②同じニュースの報道方法の違いを注目する（30分）	①レポートには所感とアドバイスを付記し返還する。　②試験にも同様の措置を取りたい　③授業に関する意見も求める

受講生に望むこと	①常に時事問題に注目　②幅広くニュースを取得し洞察力を養う　③語彙力・表現力を得る	教科書・テキスト	毎回講師作成のレジメを用意する
指定図書／参考書等	なし／参考書「メディアの苦悩」長澤秀行/光文社新書 2014年ISBN978-4-334-0334-03798-7「どうする情報源」藤田博司レベルタ出版2010年ISBN978-4-903724-20-1	その他・特記事項	特になし

実務経験を活かした授業の概要

放送局における勤務経験をもとに、勤務時代の経験，取材体験を紹介，さらにテレビ局で研修を行っている。

授業科目名	SL300U 地域行政入門			開講学科	社会	必修・選択	選択必修
担当教員名	若山　将実						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業の目的は、日本の地方政治・行政について理論と実際の見地から考察することにあります。この授業の前半では、地方自治を担う首長、議会、そして地方公務員が果たす役割、地方自治体の組織編成、そして地方行政における政策過程について学んでいきます。また、この授業の後半では学生が主体的に個人で地方自治体が実際に直面している政策課題に取り組む機会を設ける予定です。	①民主主義国家における行政部門が果たす役割を理解する。 ②日本の中央・地方などのマルチレベルの行政の実態を理解し、それがどのような要因によって規定され、そして日本の社会にどのような帰結を生み出しているのかを理解できるようになる。 ③日本の地方政治・行政の実態を理解し、それがどのような要因によって規定され、そして日本の社会にどのような帰結を生み出しているのかを理解できるようになる。 ④日本の地方自治体組織の実態を理解し、それがどのような要因によって規定されているのかを理解できるようになる。 ⑤地方自治体における政策過程の理論と実際を理解し、それに依拠した形で日本の政策過程の実際を理解できるようになる。

教授方法	この授業の前半は講義形式が中心となりますが、後半はフィールドワークを含む学生による能動的な学習が中心となります。
履修条件	社会学科の学生のみ可。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要説明：授業の進め方や成績評価の方法とともに、地域の行政を担う地方自治体について、基礎的な行政主体である市町村と広域的な行政主体である都道府県が日本の国の中に存在する意味を考えます。（地域行政を学ぶ意味を理解する。）	
2	中央地方関係：戦後日本の中央・地方関係において、地方自治体へ権限が委譲されてきた過程を振り返るとともに，地方分権が進められてきた要因について考察します。（戦後日本の地方分権の流れを理解する。）	
3	地方自治体における首長：地域の行政を担う主役である地方自治体の首長に関する制度や実像について実例を交えながら説明します。（地方政治・行政における首長の影響力を理解する。）	
4	地方議会：主に地域の行政をチェックする役割を持つ地方議会や地方議員に関する制度や実像について実例を交えながら説明します。（地方政治・行政において地方議会が果たす役割を理解する。）	
5	地方公務員：地域の行政の実務を担う地方公務員について、その多様性、採用や昇進のシステム、そして実際の仕事内容について実例を交えながら説明します。（地方行政における地方公務員が果たす役割を理解する。）	
6	地方自治体の組織編成：日本の地方自治体組織の実態について、それがどのような要因によって規定されているのかを説明します。（地域の実情に応じて地方自治体の組織が編成されていることを理解する。）	
7	地方選挙、直接請求、そして住民投票：地域の行政に対しては住民が積極的に参加・関与することが求められています。この回では地方選挙、直接請求、そして住民投票を通じて住民の意思が地域の行政にどのように反映されているかを考えます。（地域行政に住民が積極的に参加・関与する意義を理解する。）	
8	政策過程の理論と実際：地域行政において政策が発案され、実施に至る過程について実例を交えながら説明します。（地域行政における政策過程を理解する。）	
9	政策リサーチの方法①：地方自治体が実際に直面している課題に取り組むため、この回ではリサーチ・クエスチョンのたてかたについて学びます。（因果関係を解明することの意味を理解する。）	
10	政策リサーチの方法②：地方自治体が実際に直面している課題に取り組むため、この回では仮説について説明し、そして仮説のたてかたについて学びます。（仮説をたてる意味を理解する。）	
11	政策リサーチの方法③：地方自治体が実際に直面している課題に取り組むため、この回では政策課題に関する資料・データを収集する方法を学びます。（資料・データの収集方法を理解する。）	
12	政策リサーチの方法④：地方自治体が実際に直面している課題に取り組むため、この回では仮説を検証する方法を学びます。（因果関係特定のために、条件をコントロールする方法を理解する。）	
13	政策リサーチの方法⑤：地方自治体が実際に直面している課題に取り組むため、この回ではリサーチ結果をまとめ、伝える方法を学びます。（リサーチ結果をわかりやすく伝える方法を理解する。）	
14	政策リサーチの方法⑥：地方自治体が実際に直面している課題に取り組むため、この回ではリサーチ結果を政策化する方法を学びます。（特定した因果関係に基づく政策提言・評価の方法を理解する。）	
15	政策リサーチの方法⑦：まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	60	地方行政の理論をふまえたうえで、地方自治体が実際に直面している課題に対する学生自身の政策提案を論理的に書くことができているレポートを評価する。	各回の課題	40	Google Classroomを通じて提示する毎回の授業の理解度を確認する課題への取り組み姿勢を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①この授業の後半は個人で能動的に取り組む課題（政策リサーチ）が中心となるので、授業外で継続して課題に取り組むことが求められる。[90分以上]	①毎回の課題は、必要に応じてコメントを付けて返却します。 ②期末レポートは、採点およびコメントを付けて次学期冒頭に返却することを検討します。

受講生に望むこと	①将来、地方公務員への道を考えている学生の受講を望みます。 ②授業外でフィールドワークに出る可能性があるので、そうした負担を負う覚悟のある学生のみ受講することを望みます。また、単なる大学の授業の一環としてではなく、地域で暮らす社会人の一人として自覚のある態度で授業に取り組んでほしい。 ③教室内での私語やスマートフォンの使用など、特定の学生による受講態度が講義に重大な悪影響を与えていることが度々認められた場合、その学生に対しては退室等の厳しい処置を取ることがあります。	教科書・テキスト	自作のレジュメやスライドを毎回Google Classroomなどを通じて配布します。
指定図書／参考書等	なし／『地方自治論：２つの自律性のはざまで』北村亘・青木栄一・平野淳一著　有斐閣　2017年　ISBN-13:978-4-641-15048-5.『テキストブック地方自治 第2版』村松岐夫編著　東洋経済新報社　2010年　ISBN-13:978-4492211830.『新版 現代地方自治論』橋本行史編著　ミネルヴァ書房　2017年　ISBN-13:978-4623079902.『政策リサーチ入門：仮説検証による問題解決の技法』伊藤修一郎著　東京大学出版会　2022年増補版　ISBN-13:978-4-13-032232-4.	その他・特記事項	毎回の授業では、Google Classroomを使用して授業内容についてのアンケートや学生からの質問受付を随時実施します。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SL310U 法律学			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	稲角　光恵						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
法学と政治学の基礎を概括した上で、国内社会と国際社会の構造とともに、それぞれの法体系を学ぶ。法律学共通の基本理念・原則、裁判制度をはじめとする法制度全体を知り理解する。また、現代社会においては国内社会と国際社会は密接に関連しており、現代社会の国内問題を考える上でも、国際法の知識は欠かせない。そこで、本講義では、現代社会構造と法体系に関する包括的な理解を進めるため、日本の法に加えて国際法を学ぶ。これらの知識を深めて、社会と法の役割について考えてみよう。	①法学および政治学全般にかかわる基礎知識の修得 ②国際法を理解する ③国内法と国際法の基礎知識を踏まえて、国内社会と国際社会がかかえる現代的問題を理解する ④上記の知識を基に法的問題について説明し議論することができる

教授方法	講義を主体とする。
履修条件	学部生のみ履修可。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	法と政治の基礎①：社会と法の役割　－　自分と社会と法との関係を考えよう	
2	法と政治の基礎②：国家と法の歴史　－　人は平等でしょうか？	
3	法と政治の基礎③：法と正義　－　何が正しい？現代問題を考えよう	
4	日本の社会と法①：憲法　－　国家権力から守ってくれるもの	
5	日本の社会と法②：民事法　－　契約、財産、家族の法	
6	日本の社会と法③：刑事法　－　これも犯罪だ。犯罪と刑罰	
7	日本の社会と法④：裁判制度　－　裁判はどのように進む？	
8	国際社会と法①：国際社会の構造　－　国家とは何？	
9	国際社会と法②：国家の権利義務　－　国は国を裁けない？	
10	国際社会と法③：国際連合　－　国連の目的は？	
11	国際社会と法④：戦争の禁止　－　戦争はどうすればなくなる？	
12	国際社会と法⑤：国際的な人権の保護　－　女性差別禁止や難民保護	
13	国際政治と法①（SDGsや時事問題など、受講者の関心が高いテーマを取り上げる）	
14	国際政治と法②（時事問題や受講者の関心が高いテーマを取り上げる）	
15	法律学まとめの論議	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	60	講義で学んだ知識に基づき設問に的確に答えているか。	授業での参加態度やレポート	40	授業内で行うディベートへの参加態度や小レポートで示される授業への取り組み姿勢を総合的に評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回の授業で次回の予習として求められることを発表するので準備すること。（例：皆とのディスカッションに向けて自分の意見をまとめること。「死刑制度について賛成か反対か？」「核の使用についてどう思うか」など。）[20分] ②授業では時事問題の中でも法律や政治に関わる社会問題を取り上げることがあるので日頃から新聞・ニュース等をチェックし社会的問題に関心を持ち、自らの意見を形成することを行うこと。[20分] ③授業内で配布されたレジュメや資料を読み返し、授業の復習を行うこと。その際、解らない所や疑問点などがあった場合には、すぐ教員にメール又は次回授業の時に知らせること。[30分]	毎回授業終了後、授業内容が理解できたかアンケート（小レポート）を学生は提出する。教員は学生の理解度をアンケート（小レポート）で確認し、毎回の授業の冒頭で前回授業に関しての記述をもとにして理解の確認や学生からの疑問・質問に答える。また、授業内容やディベートや試験問題の解答等に対してメールでも学生からの質問に対応する。

受講生に望むこと	新聞等で日頃から現代の社会問題に興味を持って学ぶ姿勢を持つこと。	教科書・テキスト	なし（毎回資料を配布する）
指定図書／参考書等	授業内で適宜指定する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SL325U 社会貢献実習			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	田中　純一						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この実習は、県内の里山里海集落において地域課題を調査・把握し、課題の改善・解決に向けて実践活動を行うことを目的とする。 ①実施時期：講義・プレゼンテーション（平日、学内）＋現地実習（土・日、学外）※現地の調整により、宿泊が伴う場合あり。 ※具体的な実施日は受講者と相談し決定する。 ②実習先：七尾市内（予定） ③定員：10名程度 ④費用：7,000円程度（交通費、宿泊費、飲食費、保険代等）※詳細は事前説明会時にアナウンスする。 ※SDGsターゲット12.8,14.1関連科目	①地域の課題を整理し、解決策を提案する。 ②問いを探し、仲間と協議して提案する。

教授方法	フィールドワーク、グループワーク、プレゼンテーション
履修条件	事前説明会（3月24日）を開催するので、受講希望者は必ずエントリーすること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス　　実習概要の説明、役割分担、スケジュールの確認	
2	現地概況の概説　　対象地の社会動態、課題等についての概説、調べたことの共有	
3	現地活動（1）　　地域住民と連携した活動実践	
4	現地活動（2）　　地域住民と連携した活動実践	
5	現地活動（3）　地域住民と連携した活動実践	
6	現地活動（4）　地域住民と連携した活動実践	
7	現地活動（5）　地域住民と連携した活動実践	
8	現地活動（6）　地域住民と連携した活動実践	
9	現地活動（7）　地域住民と連携した活動実践	
10	現地活動（8）　地域住民と連携した活動実践	
11	現地活動（9）　地域住民と連携した活動実践	
12	地域課題分析（1）　住民等への聞き取りによる課題の分析	
13	地域課題分析（2）　住民等への聞き取りによる課題の分析	
14	プレゼンテーション準備	
15	プレゼンテーション　課題解決に向けたプレゼンテーションの実施	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習参加態度	30	グループワークへの積極的参加、住民聞き取り、現地活動への積極的参加	期末レポート	50	実習活動を通して得た情報などを活用し、要求されたレベルの考察ができている
プレゼンテーション	20	ポイントを押さえたわかりやすく、説得力のある内容及び説明になっている			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①当該地域に関する情報収集を行う［30分以上］ ②聞き取り調査に向け、情報収取と準備をする［30分以上］	実習を通した質問等については適宜助言指導を行う。

受講生に望むこと	・問いを立て、住民や地域住民団体関係者に質問し、自ら情報を収集すること。 ・宿泊を伴う実習のため、体力に自信がある人、集団生活に抵抗のない人が望ましい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	・受講希望者に対し事前説明会を実施する。詳細を連絡するので、次のEmail宛に連絡しエントリーすること。 Email:tanaka.j@hokurikugakuin.ac.jp ※履修希望者多数の場合、社会貢献論履修者を優先することがある。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SL330U 地域環境ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論			開講学科	社会	必修・選択	選択必修
担当教員名	田中　純一						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この講義では、Sustainable Development Goals概念及びローカルなレベルでの具体的実践について検討しつつ、持続可能な社会や持続可能な暮らし方について受講者と考える。 ※SDGsターゲット1～17関連科目	「持続可能な社会」について、自分のことばで説明できる。 Sustainable Development Goalsを相対化して捉えることができる。

教授方法	対面授業,グループ・ディスカッション、学外講義
履修条件	特になし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス	
2	リスクとしての環境問題　U.ベックのリスク社会論について理解する。	
3	リスクと不確実性　不確実性概念について理解する。	
4	持続可能性とは（１）　sustainable development概念について、概念の共有化に向けた歴史的過程について理解する。	
5	ESDからSDGsへ　環境教育からESD（Education for Sustainable Development）への歴史的経緯から、Sustainable Development概念を理解するための重要視点について理解する。。	
6	SDGsとは何か　Sustainable Development Goalsの概要及び17の目標及びその内容について理解する。	
7	持続可能性とは（２）　SDGsに関する具体的な事例について映像資料を参照しつつ、持続可能な社会について批判的に捉える。	
8	強い持続性、弱い持続性　ハーマン・デイリーにによる最適規模概念、「強い持続性」「弱い持続性」の考え方について理解する。	
9	ローカルSDGs実践事例研究①　　自治体によるSDGsの取り組み実践から、SDGｓについて理解する。	
10	ローカルSDGs実践事例研究②　企業によるSDGsの取り組み実践からSDGsについて理解する。	
11	持続可能な地域社会とは（１）　石川県内のSDGs実践事例について検討する。	
12	持続可能な地域社会とは（２）　石川県内のSDGs実践事例について検討する。	
13	持続可能な地域社会とは（３）　石川県内のSDGs実践事例について検討する。	
14	持続可能な地域社会を支える主体　持続可能な地域社会を支える主体についてグループ・ディスカッションする。	
15	総括・まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
講義参加態度	10	講義への積極的参加	小レポート	25	講義で学んだ知識を適切に用いて、要求されたレベルの内容になっている
講義内プレゼンテーション	15	与えられたテーマに基づいて、これまでの講義で学んだ知識を適切に用いて、要求されたレベルの発表になっている	期末レポート	50	講義で学んだ知識を適切に用いて、要求されたレベルの内容になっている

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①適宜資料を配布するので、事前に目を通し理解を深める［30分以上］ ②レポート作成に向け、自ら問を立て、関連する書籍・資料に目を通す［30分以上］	講義内プレゼンテーション課題および実施方法については、オリエンテーション時にアナウンスする。プレゼン実施時は、発表者以外の受講者の積極的な発言を求める。

受講生に望むこと	関連するニュースや新聞記事を興味関心をもって見る。 あらゆる事象や考え方を相対化して捉える視点を持つ。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし/講義時に適宜紹介する。	その他・特記事項	第11～13回は週末等を利用し、学外実施予定（金沢市内を予定（現地集合、現地解散。会場までの交通費は自己負担）。日程等詳細は受講者確定後にアナウンスする。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SL335U ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	平岩　英治						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
マーケティングとは簡単に言えば、「売れる仕組みづくり」である。そして、そのマーケティングの基本理念が「CS（Customer Satisfaction）＝顧客満足」である。現代の企業経営においては、CSの創造を通して新規顧客の獲得とその維持が図られる必要がある。本授業では、わかりやすい事例をもとに、マーケティングの概念やさまざまな理論を学び、基本的な知識を習得することを目的とする。	①授業で設定されたテーマを理解する。 ②授業で学んだキーワードを用いて、テーマの内容を説明できる。 ③授業で学んだ基本的な専門用語を使って、自分の身近な事例を紹介することができる。

教授方法	講義。
履修条件	人間総合学部生のみ履修可。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ＣＳ（顧客満足）とは何か・・マーケティングとの関係について知る	
2	ＳＴＰ（マーケティングの第一歩）と４Ｐについて学ぶ	
3	製品のマネジメント：マーケティングの４Ｐのうち、製品（Product）に関するマネジメントついて学ぶ	
4	価格のマネジメント：マーケティングの４Ｐのうち、価格（Price）に関するマネジメントを学ぶ	
5	広告のマネジメント：マーケティングの４Ｐのうち、広告（Promotion）に関するマネジメントを学ぶ	
6	流通のマネジメント：マーケティングの４Ｐのうち、流通（Place）に関するマネジメントを学ぶ	
7	サプライチェーンのマネジメント：在庫とサプライチェーンのマネジメントについて学ぶ	
8	営業のマネジメント：マーケティングにおける営業部門の活動について知る	
9	顧客関係のマネジメント：顧客との「関係性マーケティング」の基礎について理解する	
10	ビジネスモデルのマネジメント：ビジネスモデルの開発とマーケティングとの関係について学ぶ	
11	顧客理解のマネジメント：マーケティングリサーチについて学ぶ	
12	ブランド構築のマネジメント：ブランドをどのように創り上げるか、ブランド構築のマネジメントを学ぶ	
13	動画視聴　USJの戦略とマーケティング	
14	社会責任のマネジメント：CSR、CSVについて学ぶ	
15	まとめと理解度確認	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	60	授業の配布資料から、穴埋めおよび論述問題を出題し、理解度を評価する。	小テスト	30	簡単なキーワード、専門用語のチェックテストを行い、その理解度を評価する。（2回予定）
授業態度	10	授業態度を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業後に、配布資料の内容をもう一度確認し、専門用語を理解し覚えること。[60分]	課題の結果は、次回の授業で紹介と解説を行う。

受講生に望むこと	教室の中だけが学ぶ場所ではない。普段の生活の中で接する会社やお店、あるいはテレビ・雑誌広告などを通じ、製品やサービスのマーケティングについて興味・関心を持つことを期待する。	教科書・テキスト	なし(毎回資料を配布する)
指定図書／参考書等	なし／『１からのマーケティング（第４版）』石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著　碩学舎　中央経済社　2019年　ISBN：978-4-502-32771-1	その他・特記事項	コミュニティ文化学科科目「マーケティング論」と合同開講である。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SP306U 社会・集団・家族心理学			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	松尾　藍						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、社会学科の「心理と社会」科目であり、心理学を学ぶ体系に位置づけられる。人は人との関わりの中で、互いに影響を与え合って生きている。本科目では、こうした「社会的存在」としての人間を理解することを目的に、社会心理学の代表的な理論を概説する。人間の行動を個人と状況との相互作用の産物として捉える社会心理学の視点を身に着けることで、身近な出来事や社会現象を科学的に理解できるようになると期待される。	①社会心理学の基礎知識を習得する。 ②対人関係ならびに集団における人の意識および行動についての心の過程を理解できる。 ③人の態度および行動との関わりを理解できる。 ④家族、集団、文化が個人に及ぼす影響を理解できる。

教授方法	講義を中心に、一部ワークを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：社会心理学とは何か、この科目を学ぶ意義を考える。	
2	対人認知：人の印象がどのように作られるのかを学習し、その印象に基づく他者への理解は正確であるかを考える。	
3	社会的推論：人は物事の原因をどのように推論し、その際どのような間違いを起こしやすいのかを理解する。	
4	態度：態度がどのように決定されるかを学び、人には認知的一貫性を求める基本的性質があることを理解する。	
5	説得：人に命令されるとやりたくなくなるのはなぜか？　説得と態度変容のプロセスを理解する。	
6	社会的自己：他者との関わりのなかで揺れ動く自己について理解する。	
7	対人行動：なぜ人は助け合い傷つけ合うのか、援助行動や攻撃行動のしくみを理解する。	
8	対人関係（１）：関係の成立から、発展、維持、崩壊まで、対人関係のしくみを理解する。	
9	対人関係（２）：家族に焦点を絞り、その特徴や機能について理解する。	
10	コミュニケーション：非言語的コミュニケーションを学び，心地よいコミュニケーションのあり方を考える。	
11	集団と個人（１）：他者の存在が個人にどのような影響を及ぼすのかを理解する。	
12	集団と個人（２）：多くの社会問題や迷惑行為に共通する「社会的ジレンマ」を理解する。	
13	健康と幸福：幸福や健康を支える人間関係を理解するとともに、SNS利用が健康や幸福に及ぼす影響を考える。	
14	文化と人間：文化的自己観を紹介し、心と文化には相互構成的な関係があることを理解する。	
15	まとめ：講義全体の総括を行い、社会的環境を生きる社会的存在としての自分自身を振り返る。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	60	講義内容に関する筆記テストを行い、内容の理解度を評価する。	提出物	40	振り返りシートなど、各授業回の提出物の提出状況とその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習：教科書（各回の授業内容に該当する箇所）をあらかじめ読み、内容の理解に努めると共に、疑問点をまとめておく。[30分/回] ②事後学習：授業で配布する資料等を活用し、授業内容を復習する。また、授業内容を自身の経験や社会問題、社会現象などと照らし合わせながら、ノートにまとめるなどして理解を深める。[60分/回] ③その他，日ごろから新聞やテレビなどの報道に触れ，社会で起こっている出来事に関心をもつ。授業テーマと関連する本を１冊以上読む。[期間を通して合計38時間]	各授業回の提出物については、次回授業の冒頭に講評やフィードバックを行う。

受講生に望むこと	社会は心に影響を及ぼし、そうして影響を受けた心もまた社会に影響を及ぼしていく。こうした心と社会との相互構成的な関係を念頭におき、授業内容と日常生活との接点を見つけ、自分と社会との関わりについて興味・関心を広げてほしい。	教科書・テキスト	『グラフィック社会心理学 第2版』池上知子・遠藤由美 著　サイエンス社　2008年　ISBN：978-4-7819-1191-5
指定図書／参考書等	指定図書なし。 参考書については、授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SP311U 産業・組織心理学			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	松尾　藍						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、社会学科の「心理と社会」科目であり、心理学を学ぶ体系に位置づけられる。産業・組織心理学は、企業や公的機関など、組織で働く人の心のはたらきと行動を明らかにする学問である。AIの活用やテレワークの導入など働く現場は変化を続け、多様な働き方が求められる今、そこに生きる人間を理解することはこれからますます重要となる。本科目では、産業・組織心理学の代表的な理論を紹介する。	①産業・組織心理学の基礎知識を習得する。 ②組織における人の行動を、心理学の視点から理解できる。 ③職場やキャリア形成に関する問題と必要な支援を理解できる。

教授方法	講義を中心に、一部ワークを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：産業・組織心理学とは何か、この科目を学ぶ意義を考える。	
2	人的資源管理：「雇用」「能力開発」「人事評価」など、働く人の個性や能力を活かす仕組みを理解する。	
3	ワーク・モチベーション：職場における「やる気」はどのように作られ、どのように維持されるのかを理解する。	
4	職場集団のダイナミクス（1）：職場集団の特性について理解する。	
5	職場集団のダイナミクス（2）：チームワークの意義を理解し、優れたチームワークに必要な条件を考える。	
6	職場のコミュニケーション（1）：職場に特有のコミュニケーションの性質や機能を理解し、効果的なコミュニケーションについて考える。	
7	職場のコミュニケーション（2）：集団での意思決定が必要な場面における、人の心の働きを理解する。	
8	職場の人間関係：職場の人間関係の特徴と、そこで生じる対人的葛藤について理解する。	
9	リーダーシップ：代表的なリーダーシップ理論を学習し、優れたリーダーシップのあり方について考える。	
10	消費者行動：消費者がモノやサービスを購入利用するプロセスの特徴を理解する。	
11	職場のメンタルヘルス（1）：　ストレスに関する基本的な概念を学習したうえで、働く人に特有のストレスを理解する。	
12	職場のメンタルヘルス（2）：　ストレスと上手に付き合っていく方法や対処について、個人と組織の双方の視点から理解する。	
13	作業管理・安全管理：仕事の能率や生産性に関わる「作業管理」と、労働災害や産業事故の防止対策に関わる「安全管理」について、理論と実践方法を紹介する。	
14	キャリア発達：キャリア発達に関する主要な理論を学習し、自身が歩んできた道を振り返る。	
15	まとめ：講義全体の振り返りとともに、将来へ向けて、主体的に歩む自身のキャリアを考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	60	講義内容に関する筆記テストを行い、内容の理解度を評価する。	提出物	40	振り返りシートなど、各授業回の提出物の提出状況とその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習：教科書（各回の授業内容に該当する箇所）をあらかじめ読み、内容の理解に努めると共に、疑問点をまとめておく。[30分/回] ②事後学習：授業で配布する資料等を活用し、授業内容を復習する。また、授業内容を自身の経験や社会問題、社会現象などと照らし合わせながら、ノートにまとめるなどして理解を深める。[60分/回] ③その他、日ごろから新聞やテレビなどの報道に触れ、社会で起こっている出来事に関心をもつ。授業テーマと関連する本を１冊以上読む。[期間を通して合計38時間]	各授業回の提出物については、次回授業の冒頭に講評やフィードバックを行う。

受講生に望むこと	産業・組織心理学は、組織で働く人を研究対象としているが、大学生にとっても、アルバイトやサークルといった組織での体験と関連づけて理解することが可能である。授業内容と日常生活との間に接点を見つけ、本科目で学んだ内容を、自身の就職活動やキャリアプランニングに活かしてほしい。	教科書・テキスト	『はじめて学ぶ産業・組織心理学』柳澤さおり・田原直美 編　白桃書房　2015年　ISBN:9784561256557
指定図書／参考書等	指定図書なし。 参考書については、授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SP316U 知覚・認知心理学			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	松尾　藍						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・司書・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、社会学科の「心理と社会」科目であり、心理学を学ぶ体系に位置づけられる。知覚・認知心理学は、人が自分自身や自分をとりまく環境について、どのように知覚し処理しているのかを探る学問である。知覚・認知心理学の代表的な理論を学ぶことにより、「人間とはどのような生き物であるか」を知るための、はじめの1歩となることが期待される。	①知覚心理学および認知心理学の基礎知識を習得する。 ②人の感覚・知覚のメカニズムとその障害について理解できる。 ③人の認知・思考のメカニズムとその障害について理解できる。

教授方法	講義を中心に、一部ワークを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：知覚心理学、認知心理学とは何を明らかにする学問なのか、この科目を学ぶ意義を考える。	
2	感覚の基礎：人はどのように周囲の環境から情報を取り入れているのか、感覚の種類と構造について学ぶ。	
3	知覚の基礎：閾や順応など、知覚の基本的特性について学ぶ。	
4	視覚：視覚の基本的なはたらき、運動知覚、奥行き知覚、幾何学的錯視などについて学ぶ。	
5	聴覚：聴覚の基本的なはたらき、音源定位、知覚的補完などについて学ぶ。	
6	様々な感覚：体性感覚や自己受容感覚について、基本的なはたらきを学ぶ。	
7	対象認知：人の知覚、認知の対象は様々であり、物体や顔、絵画、さらには時間まで、様々な対象の知覚、認知を学ぶ。	
8	感覚・知覚の障害：視覚障害、聴覚障害など知覚における障害を学ぶ。	
9	認知の基本特性：情報処理システムとしての人間像を学び、その処理の二方向性を理解する。	
10	記憶（１）：基本的な記憶のメカニズムや知識の構造について学ぶ。	
11	記憶（２）：日常生活の中で経験する出来事の記憶に焦点を絞り、人の記憶が正確であるかを考える。	
12	注意：注意の特徴や種類、注意のはたらきや基本的なしくみについて学ぶ。	
13	思考：推論の特徴、確率判断の特徴やその影響について学ぶ。	
14	認知・思考の障害：認知や思考の障害にはどのようなものがあるのか、神経心理学の知見から学習する。	
15	まとめ：講義全体を振り返るとともに、授業内容と日常生活との接点を考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	60	講義内容に関する筆記テストを行い、内容の理解度を評価する。	提出物	40	振り返りシートなど、各授業回の提出物の提出状況とその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習：各回の事前配布資料をあらかじめ読み、内容の理解に努めると共に、疑問点をまとめておく。[30分/回] ②事後学習：授業で配布する資料等を活用し、授業内容を復習する。また、授業内容を自身の経験と照らし合わせながら、ノートにまとめるなどして理解を深める。[60分/回] ③授業テーマと関連する本を１冊以上読む。[期間を通して合計38時間]	各授業回の提出物については、次回授業の冒頭に講評やフィードバックを行う。

受講生に望むこと	知覚・認知心理学が扱う内容は、日ごろの生活では意識されずに「当たり前」に行われる心のはたらきである。この「当たり前」がなぜ、どのように成立するのか、本当に「当たり前」なのか、それが成立しなくなるとどうなるのかを意識しながら、講義に臨んでほしい。	教科書・テキスト	使用しない。資料を配布する。
指定図書／参考書等	指定図書なし。 参考書については、授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SP321U 感情心理学（感情・人格心理学B）	開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤　英俊・松尾　藍　（代表教員　齊藤　英俊）				
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
本講義は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。感情とは日常から私たちの生活を彩るものであり、誰しもが経験するものである。その一方で、それがどのようなものであるのかということはなかなかとらえ難いものである。心理学という科学の視点からそれがいかに捉えられるか。また、感情には疾患と診断される部分もあり、その機序と支援の方法を含め、「感情」について全体的に理解することを目指す。	①感情に関する理論及び感情喚起の機序について説明できる。 ②感情が行動に及ぼす影響について説明できる。 ③幸福感や対人不安などの個別の感情についてどのような研究があり、どのようなメカニズムで経験されるかを理解できる。 ④感情の病理について理解し、どのような支援を行うことができるかを考えられる。

教授方法	講義を中心にワークなどを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション　感情心理学とは何を明らかにしようとする学問なのか、この科目を学ぶ意義を考える。	松尾
2	感情とは何か　感情の基礎的な事項を説明し、感情の役割や機能について考える。	松尾
3	感情の理論　感情が生じる仕組みについて、古典的理論を中心に説明する。	松尾
4	感情の生物学的基礎　感情の生物学的基盤である脳と身体について、基礎的な神経生理学的理論を紹介する。	松尾
5	感情がもたらす影響　感情が認知や行動に及ぼす影響を説明する。また、行動経済学の知見を紹介し、人々の生活における理性と感情の役割を考える。	松尾
6	社会を支える感情　人間関係や集団の機能の維持に関わる感情について、進化心理学の視点を交えて説明する。	松尾
7	健康を支える感情　心身の健康を増進させる感情のはたらきを説明する。また、幸福感や畏怖などポジティブ感情の研究を紹介する。	松尾
8	感情の調整　感情が生じる仕組みについて現在主流の２つの理論を説明し、感情とうまく付き合っていくにはどうしたら良いかを考える。	松尾
9	感情の発達　感情について発達の観点から考える。	齊藤
10	精神疾患に関連する感情①　不安：不安感情が行動に与える影響や不安に関連する精神疾患について理解を深め、支援の方法を考える。	齊藤
11	精神疾患に関連する感情②　抑うつ：抑うつ感情が行動に与える影響や抑うつに関連する精神疾患について理解を深め、支援の方法を考える。	齊藤
12	精神疾患に関連する感情③　恐怖：恐怖感情が行動に与える影響や恐怖感情と精神疾患について理解を深め、支援の方法を考える。	齊藤
13	感情の病理への心理的アプローチ①　精神分析的心理療法：精神分析の視点から感情の病理のメカニズムや心理的支援について考える。	齊藤
14	感情の病理への心理的アプローチ②　フォーカシングの視点から感情の病理のメカニズムやその理論について理解を深める。	齊藤
15	感情の病理への心理的アプローチ③　エモーション・フォーカスト・セラピーなどの近年の感情の病理への心理的アプローチの視点から感情の病理のメカニズムやその理論について理解を深める。	齊藤

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	講義の理解がどの程度できているかで評価を行う。	講義への参加態度	30	講義への参加態度と振り返りの内容から評価を行う。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義の際に配布される資料や紹介された文献を読んで、予習復習を行う。［45分］ ②講義で学んだ内容を自分自身や他者の作品（小説、映画、漫画など）にあてはめて具体的に理解する。［30分］	各回での振り返り・リアクションシートの内容について、授業内でフィードバックを行う。

受講生に望むこと	「授業の概要」でも述べたように、日常経験するものでありながら、科学的・理論的に理解しようとするとそこには困難が多いのが「感情」である。自分自身のみの視点だけでなく、広い視野でとらえられるように励んでもらいたい。	教科書・テキスト	特に指定しない。適宜資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／講義の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SP326U 障害者・障害児心理学			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	加藤　仁						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
現代の様々な障害について、その原因・頻度・治療・リハビリテーションに関わる基本的知識や利用できる社会資源について概観し、障害および障害児／者に対する理解を深める。また、障害児／者が社会の中でよりよく生きることを支援する姿勢を身につけるために、ペア・グループワークやロールプレイ等のアクティブラーニングを通じた体験的学習を行う。	1．身体障害、知的障害および精神障害など障害に関する知識を身につけ、障害児／者への理解を深める。 2．障害児／者を取り巻く心理社会的課題と支援について学習し、適切な支援の心構えを身につける。

教授方法	講義形式で行う。必要に応じてペアワーク・グループディスカッションやビデオ視聴を行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション／障害とは？:国際社会における障害概念の捉えられ方とその変遷について理解する。	
2	障害と心理学：障害と心理学との関連について、障害に対するイメージや人々の意識の傾向を理解する。	
3	身体障害：視覚・聴覚・言語・内部障害や肢体不自由などの身体障害について理解する。	
4	知的障害：知的障害の定義と判定基準、アセスメントの方法について理解する。	
5	精神障害：不安症関連の障害、うつ病関連の障害、精神病性障害など主要な精神障害について理解する。	
6	行動・情緒障害：発達プロセスでみられる行動障害、情緒障害について概観し、その支援について理解する。	
7	発達障害（1）：自閉症スペクトラム障害：発達障害の概念、診断基準の変遷を概観し、自閉症スペクトラム障害の基本的な概念と支援について理解する。	
8	発達障害（2）注意欠如・多動性障害、局限性学習障害：注意欠如・多動性障害、局限性学習障害の基本的な概念と支援について理解する。	
9	障害児の支援（1）：応用行動分析：応用行動分析の概念および基本的な考え方と障害児への支援について理解する。	
10	障害児の支援（2）：ペアレントトレーニング：応用行動分析の考え方に基づいた、障害児の保護者への支援方法について理解する。	
11	障害受容のプロセス／障害の理解：障害受容過程における反応とそれに応じた心理学的支援について理解する。	
12	保健・医療における課題と支援：認知行動療法などの治療法と心理的アセスメントについて理解する。	
13	福祉・教育における課題と支援：障害者福祉施設、特別支援教育や通級指導など幼稚園・学校における支援について理解する。	
14	保護者や家族の理解と支援：障害児／者の保護者および家族への支援のあり方について理解する。	
15	コミュニティ支援／障害児・者支援のこれから：障害児／者を取り巻く環境へのアプローチとこれからの支援について考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	60	期末レポートのテーマや出題形式、配点等については、授業内で周知する。	振り返りシート	40	毎回の授業後に記入する、授業への取り組みの振り返りおよびコメントを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回取り扱うテーマについて、自身の日常的な経験を振り返り、障害について自分なりの考えをもっておくこと。また、配布資料や参考書、授業で紹介する文献を用いて予習・復習を自発的に行うこと。［30分程度］	振り返りシートを通じてあがった意見や質問を取り上げ、授業時に全体に向けてフィードバックする。 期末レポートは次学期はじめに内容に関するコメントを全体にするとともに、希望者に対して個別にフィードバックを行う。

受講生に望むこと	本授業では、障害に関する基本的な知識だけでなくその支援の視点を身につけることを目的としている。障害を取り巻く問題について積極的に考え、自分なりの考えをもつ姿勢を求める。	教科書・テキスト	教科書は特に定めず、教員が作成した資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／『障害者心理学』太田信夫（監修）北大路書房，2017年，ISBN-13：978-4762829840	その他・特記事項	授業中にWebサイト等を利用して意見聴取・全体へのフィードバックを行う。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SP331U 心理学的支援法			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	加藤　仁						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
「代表的な心理療法の基礎知識」のみならず，「コミュニケーションの技法」、「訪問・地域支援」、「プライバシーへの配慮」、「支援者への支援」、「心の健康教育」等の心理学的支援にまつわる様々なトピックについて、事例に基づくディスカッションやロールプレイ等を交えながら体験的に学習する。第15回では全体を振り返り、個別の支援だけが心理学的支援ではなく包括的な視点に立って適切なアプローチを想定するための考え方についても学習する。	様々な心理学的支援の技法に触れることで学派にとらわれない心理学的支援法の理解を深めること、体験的な学習を通じて心理学的支援の在り方を自ら考え、クライエントやクライエントを支える周囲の人々にとってより適切な支援の方法を考えられるようになることを目標とする。

教授方法	講義形式で行う。必要に応じてペアワーク・グループディスカッションを通じた体験的な学習、ビデオ視聴も行う
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	心理学的支援とは？：心理学的支援の概念とあり方について概観し、全体像を理解する。	
2	カウンセリング：カウンセリングの基本的な概念、カウンセリングマインド、カウンセリングのプロセス、カウンセリングに伴う問題について理解する。	
3	コミュニケーションの技法：良好な人間関係を築き信頼関係を醸成するための関わりを学ぶ。	
4	精神分析的心理療法：精神分析の基礎的な考え方および治療同盟・転移／逆転移・治療抵抗など心理療法の重要な概念について理解する。	
5	行動療法・行動分析：行動療法の成り立ちと理論、現代の行動療法的アプローチについて理解する。	
6	認知療法・認知行動療法：認知療法の考え方、認知行動療法の現在について理解する。	
7	パーソンセンタードアプローチ：様々な人間性心理学的アプローチの技法とその考え方について理解する。	
8	集団精神療法：集団精神療法をはじめとしたグループアプローチの技法とその考え方について理解する。	
9	家族療法：システムズアプローチの考え方と治療プロセスについて理解する。	
10	芸術療法・遊戯療法：芸術を利用した表現技法やプレイセラピーについて体験を通じて理解する。	
11	訪問による支援や地域支援：コミュニティアプローチ、アウトリーチの考え方について理解する。	
12	関係者への支援：援助者への援助の方法とコンサルテーションの在り方について理解する。	
13	心の健康教育：ストレスマネジメントや予防教育について、その実践例の体験を通じて理解する。	
14	プライバシーへの配慮：心理学的支援に伴うプライバシーの問題と倫理的配慮のあり方について理解する。	
15	心理学的支援の包括的視点：様々な支援法を概観し、問題に対してエビデンスに基づく包括的な視点をもってアプローチすることの重要性について振り返る。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	60	期末レポートのテーマや出題形式、配点等については、授業内で周知する。	振り返りシート	40	毎回の授業後に記入する、授業への取り組みの振り返りおよびコメントを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業内でペア・グループワーク等を実施した場合には、各種心理学的支援に関して自らがどのように感じたか、あるいはどのような場合に効用が発揮されるかを振り返って考えながら授業に臨むこと。その他、配布資料や参考書、授業で紹介する文献を用いて予習・復習を自発的に行うこと。［30分程度］	振り返りシートを通じてあがった意見や質問を取り上げ、授業時に全体に向けてフィードバックする。 期末レポートは次学期はじめに内容に関するコメントを全体にするとともに、希望者に対して個別にフィードバックを行う。

受講生に望むこと	実際にカウンセリングや心理療法で用いる技法を学ぶ実践的な授業であるため、ペアワークやグループワークがある場合は積極的に参加するとともに、授業内での質問や発言を求める。	教科書・テキスト	教科書は特に定めず、教員が作成した資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／『心理療法ハンドブック』乾吉佑・氏原寛・亀口憲治他（編）創元社，2005年，ISBN-13：978-4422113265	その他・特記事項	授業中にWebサイト等を利用して意見聴取・全体へのフィードバックを行う。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SP332U 学校心理学（教育・学校心理学）			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	上農　肇						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
教育現場における諸問題についてその実情を学び、問題状況の解決を援助する「心理教育的援助サービス」の実践を支える学校心理学の理論と方法について解説する。教育現場における種々の心理社会的課題とその支援の実際について例を挙げて解説する。	①教育現場において生じる問題とその背景を説明できる。 ②教育現場における心理社会的課題及び必要な支援を説明できる。

教授方法	講義を中心とするが、エクササイズやワーク、ディスカッションを取り入れる。
履修条件	公認心理師または認定心理士を目指す者が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（教育・学校心理学を概観し、実際の教育現場での様々な課題について知る）	
2	教育現場での心理教育的援助サービスの実践とそのための援助者（ヘルパー）を理解する。	
3	子どもをめぐる課題①（不登校）の実情とその支援について理解する。	
4	子どもをめぐる課題②（いじめ）の実情とその支援について理解する。	
5	子どもをめぐる課題③（発達障害）の実情とその支援について理解する。	
6	子どもをめぐる課題④（ネット・ゲーム依存）の実情とその支援について理解する。	
7	子どもをめぐる課題⑤（精神疾患・非行・その他）の実情とその支援について理解する。	
8	教師・学校をめぐる課題（教師のバーンアウト・危機介入・その他）の実情とその支援について理解する。	
9	家庭・地域をめぐる課題（児童虐待・貧困・その他）の実情とその支援について理解する。	
10	心理教育的援助サービスの方法①（アセスメント）について理解する。	
11	心理教育的援助サービスの方法②（カウンセリング）について理解する。	
12	心理教育的援助サービスの方法③（コンサルテーション・コーディネーション）について理解する。	
13	学校心理学を支える心理学的基盤（発達心理学、教育心理学、臨床心理学等）について理解する。	
14	学校心理学を支える学校教育的基盤（学校組織と教育制度、教育関連法規等）について理解する。	
15	まとめ（教育現場での諸問題について概観し、専門的ヘルパーとして教育現場にかかわる場合の義務と役割について考える ）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート課題	60	指定したテーマについてのレポートを提出する。	授業時課題	30	各実施回の振り返りシートの提出と内容について評価する。
授業への参加態度	10	授業中のエクササイズやワーク、ディスカッションへの取り組み方を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[90分]	提出されたレポートは、評価を行い返却する。

受講生に望むこと	公認心理師および認定心理士に関連する科目である。資格を目指す者に照準を合わせるため、講義内容を理解するための相応の受講態度を求める。	教科書・テキスト	『学校心理学ハンドブック［第2版］チーム学校の充実をめざして』　日本学校心理学会編　教育出版　2016 ISBN978-4-316-80312-8
指定図書／参考書等	なし/『生徒指導提要』　文部科学省　教育図書　2010 ISBN978-4-87730-274-0	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

教育相談員やスクールカウンセラーとしての経験や担当した幼児期・児童期・青年期の事例を取り上げ、討論や演習を通して学生の学びを深めている。

授業科目名	SP336U 心理演習			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤　英俊・松下　健　(代表教員　齊藤　英俊)						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
心理面接の流れ、構造、理論、技法、アセスメント、法的義務、倫理について学習する。これまでに学習した心理学の講義内容を基にさらに理解を深め、演習を通じて技術を修得する。	1)心理面接の流れ、構造、理論、技法、アセスメント、法的義務、倫理を説明できること。 2)心理面接に必要な技術を修得すること。

教授方法	演習、講義。
履修条件	心理学教員が合議の上、履修を認めた者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション：心理職における心理面接の役割	松下・齊藤
2	心理面接の特徴（治療構造など他の面接との共通点や相違点）	齊藤・松下
3	心理面接の開始（初回面接、受理面接）と終了（終結、中断など）	松下・齊藤
4	多職種連携および地域連携	松下・齊藤
5	基本的な傾聴スキル	齊藤・松下
6	心理面接の基礎（マイクロカウンセリング）	齊藤・松下
7	精神分析的心理療法における心理面接	齊藤・松下
8	精神分析的心理療法の心理面接のプロセス	齊藤・松下
9	クライアント中心療法の心理面接	齊藤・松下
10	フォーカシング指向心理療法の心理面接	齊藤・松下
11	行動療法の心理面接	松下・齊藤
12	認知行動療法における心理面接	松下・齊藤
13	認知行動療法の心理面接のプロセス	松下・齊藤
14	その他の心理療法（風景構成法）の心理面接	松下・齊藤
15	心理面接の効果と課題	松下・齊藤

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小レポート	30	講義において小レポートを課す。講義内容を踏まえ、自己の意見を論理的に記述すること。	講義参加態度	30	グループワークやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
与えられたテーマについて予習すること。[60分] 各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[60分] 学んだ内容を修得するよう練習すること。[60分]	小レポートは返却時にフィードバックする。期末レポートについては、次学期始めに適宜フィードバックする。

受講生に望むこと	公認心理師を目指す上で心理実習と同等の重要性を持つ科目である。努力の量ではなく結果を求められることを理解したうえで履修すること。	教科書・テキスト	講義開始時に適当なテキストが出版されている場合は、テキストを指定する可能性がある。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	・履修者数に制限のある科目である。心理学教員が合議の上、履修を認めた者のみ受講できる。学業成績と生活態度が優れ、かつ適性のある者のみ履修が認められる。 ・Google Classroomを通じて課題などを提示する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

松下：公認心理師、臨床心理士として、医療、教育、産業、そして福祉の４領域における実践経験をもとに、実践を想定して面接の演習を行う
齊藤：心理実践の経験をもとに、事例などをテーマにしたワークやディスカッションを通して心理面接の演習を行う。

授業科目名	SW300U 相談援助の理論と方法Ⅲ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
社会福祉士がソーシャルワーカーとして、個人、家族、小集団・組織、地域社会をクライエントシステムとして捉え、どのような対象者であろうとも一つのソーシャルワーク過程で対応できるよう、理論と方法を学ぶ。また、ケースマネジメントやネットワーキング等についても、社会福祉士が実施する業務の必要性に対応して、理論と方法を学ぶ。 相談援助実習および国家試験を意識した専門的内容を展開する。	①「社会福祉における相談援助とは何か」、その本質と相談援助の意義を理解する。 ②ケースマネジメント及びソーシャルワークの関係について理解する。 ③グループワークの意義、グループを活用した相談援助の展開について理解する。 ④連携や協働の考え方をケースマネジメントの中核的技術であるコーディネーションとして学ぶ。 ⑤社会資源の種類とその活用について学び、クライエントのニーズ充足との関係を理解する。 ⑥ソーシャルワーカーがクライエント個人に働きかける、環境に働きかける、個人と環境の調整を図ることを通じてクライエントを支援する方法について学ぶ。 ⑦ソーシャルワーカーの支援環境を整えるためのスーパービジョンやコンサルテーションについて学ぶ。 ⑧ケースカンファレンスや相談援助における個人情報保護について理解する。

教授方法	講義,ワークシートによる課題
履修条件	相談援助の理論と方法Ⅰ、Ⅱの単位を修得済みの者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	相談援助活動の概念と定義および対象をどうとらえるかについて理解する。	
2	システム理論による全体的、包括的な対象理解について学ぶ。システム理論を背景とした社会福祉援助活動の対象理解を踏まえて、個人、家族をどうとらえるかについて理解する。	
3	システム理論を背景とした社会福祉援助活動の対象理解を踏まえて、集団、地域をどうとらえるかについて理解する。新たなソーシャルワークの展開と社会福祉士認定制度について理解する。	
4	ケースマネジメントの目的、構成要素、過程について理解する。	
5	アセスメントについて理解する。また、パートナーシップやストレングスの視点の必要性を理解する。	
6	ケアプランの作成および実施について理解する。またケースマネジメントとソーシャルワークの関係について理解する。	
7	グループを活用した相談援助について理解する。	
8	自助グループを活用した相談援助について理解する。	
9	コーディネーションの目的と意義、コーディネーションの方法・技術・留意点等について理解する。	
10	ネットワーキングの意義と目的、方法について学習する。ネットワークの形成とシステム化について理解する。	
11	相談援助における社会資源の活用・調整・開発について理解する。	
12	スーパービジョンとコンサルテーションの意義、目的、方法等について理解する。	
13	ケースカンファレンスの意義・目的・運営と展開過程等について理解する。	
14	相談援助における個人情報の保護について理解する。	
15	相談援助における情報通信技術（ICT)の活用について理解する。まとめ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
テスト	80	・授業内容についてどれだけ理解しているか。	提出物	20	・ワークシート等の提出物（授業内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回、テキストを読んで予習・復習をする。[それぞれ30分以上] ②テキストで理解が難しい社会福祉用語については、社会福祉に関する書籍や社会福祉用語辞典等を参考にする。 ③相談援助演習や相談援助実習等の科目と関連づけて学ぶ。	毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、授業やオンラインによりフィードバックを行う。

受講生に望むこと	・受け身ではなく能動的な姿勢（疑問をもつ、考える、発言する等）で臨んで欲しい。	教科書・テキスト	『相談援助の理論と方法Ⅱ 第３版』　社会福祉士養成講座編集委員会編　中央法規出版　2015年 ISBN:978－4－8058－5104－3
指定図書／参考書等	なし／『相談援助の基盤と専門職 第３版』　社会福祉士養成講座編集委員会編　中央法規出版　2015年　ISBN:978-4-8058-5102-9 『相談援助の理論と方法Ⅰ 第３版』　社会福祉士養成講座編集委員会編　中央法規出版　2015年　ISBN:978－4－8058－5103－6	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

スーパービジョンやカンファレンス等、相談援助の理論と方法について、毎年実施している施設職員向けの各種研修の経験をもとに具体的なテーマを設定し、ディスカッションを取り入れている。

授業科目名	SW305U 相談援助の理論と方法Ⅳ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
ソーシャルワークは、クライエントが抱える生活課題を解決し、社会的機能の改善・維持・向上を具体的目標に、利用者の「最善の利益」を確保する展開過程である。そのため、クライエントが抱えている生活課題を正確に把握・理解していくためにさまざまな実践モデル・アプローチについて学習し、現場実践の中で活用できるようにする。実践モデル・アプローチについては、その基盤となる理論、適用対象・課題、支援展開などを学習し、ソーシャルワーカーとしてより高いレベルの知識・技術・価値、そして実践力を身につける。また、相談援助に係る事例分析の方法や相談援助の実際等について理解する。 相談援助実習および国家試験を意識した専門的内容を展開する。	①医療モデル、生活モデル、ストレングスモデルについて理解する。 ②ジェネラリスト・ソーシャルワークについて理解する。 ③「実践モデル」と「アプローチ」をそれぞれ「課題認識への範型」と「課題解決への方法」として峻別する。 ④「心理社会的」「機能的」「問題解決」「課題中心」「危機介入」「行動変容」の６つのアプローチについて、起源と基盤理論、支援焦点、支援展開などを理解する。 ⑤「エンパワメント」「ナラティブ」「フェミニスト」「解決志向」の「新興アプローチ」について理解する。 ⑥アプローチをめぐる課題について理解する。 ⑦事例分析の方法等について理解する。

教授方法	講義及びワークシートによる課題。
履修条件	相談援助の理論と方法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの単位を修得済みの者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	さまざまな実践モデルとアプローチⅠ：実践モデルとその意味を理解する。	
2	さまざまな実践モデルとアプローチⅠ：治療モデル、生活モデル、ストレングスモデルについて理解する。	
3	さまざまな実践モデルとアプローチⅠ：ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開と実践モデルについて理解する。	
4	さまざまな実践モデルとアプローチⅡ：心理社会的アプローチについて理解する。	
5	さまざまな実践モデルとアプローチⅡ：機能的アプローチについて理解する。	
6	さまざまな実践モデルとアプローチⅡ：問題解決アプローチについて理解する。	
7	さまざまな実践モデルとアプローチⅡ：課題中心アプローチについて理解する。	
8	さまざまな実践モデルとアプローチⅡ：危機介入アプローチについて理解する。	
9	さまざまな実践モデルとアプローチⅡ：行動変容アプローチについて理解する。	
10	さまざまな実践モデルとアプローチⅡ：事例考察によりアプローチの選択・活用を理解する。	
11	さまざまな実践モデルとアプローチⅢ：エンパワメントアプローチについて理解する。	
12	さまざまな実践モデルとアプローチⅢ：ナラティブアプローチについて理解する。	
13	さまざまな実践モデルとアプローチⅢ：実存主義アプローチとフェミニストアプローチについて理解する。	
14	さまざまな実践モデルとアプローチⅢ：解決志向アプローチ、事例考察によるアプローチの選択・活用、アプローチをめぐる課題について理解する。	
15	事例研究・事例分析の意義・目的・方法等について理解する。相談援助の実際（権利擁護活動を含む）を理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
テスト	80	授業内容についてどれだけ理解しているか。	提出物	20	・ワークシート等の提出物（授業内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回、テキストを読んで予習・復習をする。[それぞれ30分以上] ②テキストで理解が難しい社会福祉用語については、社会福祉に関する書籍や社会福祉用語辞典等を参考にする。 ③相談援助演習や相談援助実習等の科目と関連づけて学ぶ。	毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、授業やオンラインによりフィードバックを行う。

受講生に望むこと	・受け身ではなく能動的な姿勢（疑問をもつ、考える、発言する等）で臨んで欲しい。	教科書・テキスト	『相談援助の理論と方法Ⅱ』第３版　社会福祉士養成講座編集委員会編　中央法規出版　2015年 ISBN978－4－8058－5104－3
指定図書／参考書等	なし／『相談援助の基盤と専門職 』第３版　社会福祉士養成講座編集委員会編　中央法規出版　2015年　ISBN978-4-8058-5102-9 『相談援助の理論と方法Ⅰ』第３版　社会福祉士養成講座編集委員会編　中央法規出版　2015年　ISBN978－4－8058－5104－3	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

さまざまな実践モデルとアプローチ等、相談援助の理論と方法について、毎年実施している施設職員向けの各種研修の経験をもとに具体的なテーマを設定し、ディスカッションを取り入れている。

授業科目名	SW325U 保健医療ｻｰﾋﾞｽ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	松多　岳史						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
保健医療サービスを構築する要素を理解し、医療法改正における保健医療サービスの今日的課題、保健医療サービスを支える社会福祉士、精神保健福祉士その他の詩職種等の機能と役割を理解する。併せて保健医療サービスを提供する医療保険制度と診療報酬制度の概要を学び、高齢者が増加する現在における医療保険制度と介護保険制度の概要についても理解する。	①保健医療サービスの変化と、提供する施設とそのシステム及び社会福祉専門職（社会福祉士、精神保健福祉士）の役割について理解できる。 ②医療保険制度、介護保険制度、公費負担医療制度の概要について理解できる。 ③保健医療サービスを取り巻く法制度、仕組みについて理解できる。 ④保健医療サービスにおける各専門職、関係機関の連携と、社会資源との結び付きについて理解できる。

教授方法	講義とグループディスカッション（講義を聞くだけでなく、アウトプットを心掛ける）
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	保健医療サービスの変化：保健医療サービスの概要、保健医療サービスの構成要素、整備・拡充、住民及び患者視点の尊重	
2	医療法改正に見る保健医療サービスの今日的課題、医療連携チームと社会福祉士と精神保健福祉士の役割	
3	医療法および保健医療政策による、医療施設の機能・類型	
4	診療報酬における医療施設の機能、介護保険における施設の機能・類型	
5	在宅支援のシステム：医療と介護の連携、地域包括ケアシステムの必要性	
6	医療ソーシャルワーカーの業務内容、経済的問題への支援、退院援助・社会復帰援助	
7	通院援助、組織における地域の窓口、保健医療サービスの専門職の外観、基本的姿勢	
8	保健医療サービスにおける各専門職の視点と役割：チームアプローチの実際	
9	医療保険制度と診療報酬の概要：保険料の負担と給付、診療報酬における在宅医療・終末期医療	
10	介護保険制度と介護報酬及び公的扶助の概要	
11	保健医療の専門職との連携方法：保健医療チームとの連携、他職種チームとの連携	
12	チームケア実現のための制度や連携機関：チームケアの基本となる制度、行政、社会福祉協議会、地域包括支援センター等との連携	
13	社会福祉協議会、職能団体、ボランティア、地域産業、学校と教職員	
14	保健医療の専門職との連携の実際：チームケアの類型、疾病・障害別のチームケア、クリティカルパスの実践と活用	
15	地域の保健医療ネットワーク構築のための連携方法：地域連携とネットワーキングとその原則	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	50	保健医療サービスについての理解、知識の確認。テキストの持ち込み（確認）可	授業の取り組み態度	50	授業の参加率およびグループディスカッションに取り組む姿勢

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業の前にテキストを読み疑問に感じたことをまとめておくこと。 授業の後には分からなかった点を、当日・次回の授業で質問すること。（30分）	講義の前後に質疑応答の時間を設ける。講義開始時には前回の講義内容を復習して講義を始める。テーマに沿って、グループワークを行い全体フィードバックを図る。

受講生に望むこと	何事にも関心と疑問をもって、意欲的に取り組んでください。分からない点は講義中やその後、メール等で主体的に質問してください。	教科書・テキスト	『保健医療サービス』第5版、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規、2017年、ISBN:978-4-8058-5432-7 ※新版が発刊されていればそれを用いる
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

実務経験をもとに、学生がイメージしやすいよう、病院で医療ソーシャルワーカーがどのような業務を行うか事例を紹介する。また、病院内連携、地域包括ケアシステムなどをミクロ・メゾ・マクロレベルに分けて情報提供し、学生の知識に落とし込めるようディスカッションを行う。

授業科目名	SW330U 就労支援ｻｰﾋﾞｽ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
1．障害のある人たちの就労、就労支援に関する授業を展開する。 2．ソーシャルワーク・相談援助活動において必要となる就労支援制度等について説明する。 3．福祉施設等だけではなく、一般的な職場での就労についても講義内容に含む。	1．ソーシャルワーク・相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度、および就労支援に係る組織、団体及び専門職の役割、連携について理解し、説明できるようにする。 2．現代社会における雇用・就労の動向、労働施策の概要、社会的事象と背景について理解し、説明できるようにする。 3．生活保護制度における就労支援制度、障害者福祉施策における就労支援制度について理解する。 4．就労支援に関連する組織・団体、教育機関との連携について学ぶ。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	雇用・就労の動向と労働施策の概要、ライフスタイルに応じた多様な働き方、障害者の雇用・就労をとりまく情勢	
2	就労支援制度の概要（1）　障害者福祉施策における就労支援制度、就労移行支援事業、就労継続支援事業	
3	就労支援制度の概要（2）　障害者雇用施策の概要、障害者雇用率制度、職業リハビリテーションの実施体制	
4	就労支援制度の概要（3）　生活保護制度における就労支援制度、自立支援プログラム、ハローワーク	
5	就労支援に係る専門職の役割と実際、職場適応援助者（ジョブコーチ）、障害者職業カウンセラー	
6	就労支援に係る組織、団体の役割と実際、地域障害者職業センターにおける職業リハビリテーション	
7	就労支援分野の連携と実際（1）　ハローワーク（生活保護制度関連）、障害者雇用施策との連携	
8	就労支援分野の連携と実際（2）　職業リハビリテーション機関、障害者福祉サービス事業所、特別支援学校との連携	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業内確認テスト・レポート等	50	授業内容の理解、レポート評価基準に基づく（初回に説明）	授業参加状況	50	受講態度、提出物等（講義内のレポート等含む）

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．社会における多様な職業生活、就労支援のあり方を理解する。 2．雇用就労に関する事象、支援について考え、まとめる。[30分以上] 3．社会福祉士国家資格取得を目指すものはテキストや資料等を繰り返し学習する。	小テスト等は内容を解説する。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応する。

受講生に望むこと	社会福祉分野における就労支援とともに、自分自身の就労についても関心を持ち、考えてください。	教科書・テキスト	必要な資料を講義内で配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし　必要な資料を講義内で配布する。	その他・特記事項	随時、社会福祉士国家試験に関する資料を配付、説明します。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SW335U 相談援助演習Ⅲ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
社会福祉の援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した中で考察を深め、ソーシャルワークの専門技術、および視点について学ぶ。個別性・共通性の理解とともに、具体的な社会福祉援助技術の精度を高め、正しい利用者理解と援助に資するための感性を磨き、相談援助専門職として必要かつ適切な能力を習得する。 社会福祉士資格に係る相談援助実習、および国家試験を意識した専門的な内容を展開する。	1．毎回の演習を通して、相談援助の基礎的視点、技術を習得する。 2．各事例における個別性と価値倫理について理解する。 3．ソーシャルワークの展開過程を事例を通して理解する。 4．総合的かつ包括的な相談援助体制と機能を理解する。 5．支援ネットワークについて理解する。

教授方法	演習（一部講義）
履修条件	「相談援助の基盤と専門職」、「相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ」、「相談援助演習Ⅰ・Ⅱ」の単位修得済の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	科目を学ぶ意義、到達目標、授業の流れ、相談援助の展開過程	
2	専門職としての価値・倫理：援助資源になるための自己覚知、他者理解と尊重、ソーシャルワーカーの使命と役割、価値基盤	
3	相談援助実践における専門的援助関係づくりと、そのために必要なコミュニケーション・かかわり行動	
4	ソーシャルワーク実践における援助者の基本姿勢、専門的援助関係、受容的態度	
5	基礎的技能：受容、個別化、利用者主体、かかわり技法、観察技法など対人コミュニケーション	
6	基礎的技能：面接ロールプレイ、面接の環境づくり、話しを促すスキル、要約・繰り返しのスキル	
7	基礎的技能：記録技法と情報整理法、エコマップ、ジェノグラム、ケース記録	
8	事例の検討報告：相談援助の実際と援助技術について事例を活用して学ぶ（児童に関する事例）	
9	事例の検討報告：相談援助の実際と援助技術について事例を活用して学ぶ（高齢者に関する事例）	
10	事例の検討報告：相談援助の実際と援助技術について事例を活用して学ぶ（障害児者に関する事例）	
11	事例の検討報告：相談援助の実際と援助技術について事例を活用して学ぶ（家庭内に関する事例）	
12	事例の検討報告：相談援助の実際と援助技術について事例を活用して学ぶ（社会生活に関する事例）	
13	事例の検討報告：相談援助の実際と援助技術について事例を活用して学ぶ（社会的・ソーシャルインクルージョンに関する事例）	
14	事例の検討報告：相談援助の実際と援助技術について事例を活用して学ぶ（その他援助事例）	
15	事例の検討報告：相談援助の実際と援助技術について事例を活用して学ぶ（まとめと報告）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	演習への参加態度（発言の程度、頻度、内容など）、提出物等	確認テスト・レポート等	50	授業内容の理解、課題、レポート・ワークシート・確認テストの記載内容

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．毎回、配布資料の見直しとともに授業・演習内容を振り返り学びを定着させる。[30分以上] 2．社会の事象に関心を持ち、福祉領域との関係を意識する、まとめる。 3．福祉現場への理解を深めるため施設・機関への見学、ボランティアに参加する。	確認テスト等は、毎回結果とともに内容を解説する。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応する。

受講生に望むこと	相談援助の専門職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。	教科書・テキスト	必要な資料を講義内で配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし　必要な資料を講義内で配布する。	その他・特記事項	随時、社会福祉士国家試験に関する資料を配布、説明します。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SW340U 相談援助演習Ⅳ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
社会福祉の相談援助に関して、関連科目、および相談援助実習との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士に求められる知識、技術について実践的に習得することを目指す。具体的な相談援助事例を体系的に学び、専門的援助として概念化、理論化し、体系立てていくことができる能力を養う。 社会福祉士資格に係る相談援助実習、および国家試験を意識した専門的な内容を展開する。	1．ソーシャルワーカーとして必要な連携の基本的な知識、視点、態度を習得する。 2．多職種連携の前提として、ソーシャルワーカーの視点、立場、役割の特徴を理解し、相談援助演習に用いることができるようにする。 3．連携体制の構築、協働における対立や葛藤、それらへの対処法を学ぶとともに、相談援助演習に用いることができるようにする。 4．社会資源の活用、地域生活支援の重要性と課題を理解し、活用できるようにする。

教授方法	演習（一部講義）
履修条件	「相談援助の基盤と専門職」、「相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ」、「相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の単位修得済の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ソーシャルワーク実践の展開：援助展開過程とソーシャルワークの対象、焦点	
2	地域福祉推進のための援助技術：個別支援から地域支援へと支援範囲拡張、様々なニーズと社会資源	
3	地域福祉推進のための援助技術：地域ニーズ把握のためのアセスメント、エンパワメントを志向したプランニング	
4	地域福祉推進のための援助技術：活動・プログラムの実施、多職種連携等	
5	地域福祉推進のための援助技術：地域福祉の評価・計画・進捗管理、地域住民や社会福祉専門職の役割	
6	地域福祉推進のための援助技術：ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発	
7	地域福祉推進のための援助技術：地域での生活支援と地域の福祉力の醸成のための支援	
8	地域福祉推進のためにソーシャルワーカー、機関等が果たすべき機能と役割	
9	スーパービジョン：スーパービジョンの基本的な意義、機能	
10	スーパービジョン：スーパービジョンと専門職としての継続的な成長の必要性	
11	利用者を理解するためのニーズ把握、アセスメント	
12	人と環境の接点・相互作用、ミクロ、メゾ、マクロ、個人、家族、組織、地域、社会	
13	社会福祉士の専門性と社会福祉援助、および他の専門職についての理解	
14	ソーシャルワーカーの価値・倫理と葛藤：自己決定、エンパワメント、人間の尊厳、倫理	
15	相談援助演習まとめ：相談援助にかかる専門職の意義と役割	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	演習への参加態度（発言の程度、頻度、内容など）、提出物等	確認テスト・レポート等	50	授業内容の理解、課題、レポート・ワークシート・確認テストの記載内容

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．毎回、配布資料の見直しとともに授業・演習内容を振り返り学びを定着させる。[30分以上] 2．社会の事象に関心を持ち、福祉領域との関係を意識する、まとめる。 3．福祉現場への理解を深めるため施設・機関への見学、ボランティアに参加する。	確認テスト等は、毎回結果とともに内容を解説する。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応する。

受講生に望むこと	相談援助の専門職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。	教科書・テキスト	必要な資料を講義内で配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし　必要な資料を講義内で配布する。	その他・特記事項	随時、社会福祉士国家試験に関する資料を配布、説明します。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SW355U 相談援助実習指導Ⅱ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則・田引　俊和　（代表教員　真砂　良則）						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
相談援助実習Ⅰで学んだ「専門知識」「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、相談援助業務に必要となる資質・能力・技術を習得する。実習を行う分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等について学ぶ。個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に学び実践的な技術等を体得する。	①相談援助実習Ⅰを振り返り、実習Ⅱに向けた課題について改めて把握することができる。 ②実習を行う分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等について理解できる。 ③個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得することができる。

教授方法	テキストをもとにした講義の他、、実習ガイドブックを用いた演習、ＤＶＤの視聴、ワークシートによる課題。
履修条件	相談援助実習指導Ⅰ、相談援助実習Ⅰを履修済の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	相談援助実習Ⅰにおける実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理	
2	相談援助実習Ⅰにおける実習記録や実習体験を踏まえたレポートの作成（テーマ設定・アウトライン）	
3	相談援助実習Ⅰにおける実習記録や実習体験を踏まえたレポートの作成（資料・データ整理）	
4	相談援助実習Ⅰにおける実習記録や実習体験を踏まえたレポートの発表（第1グループ）	
5	相談援助実習Ⅰにおける実習記録や実習体験を踏まえたレポートの発表（第2グループ）	
6	実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（事前リサーチ分野）	
7	実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（事前リサーチ施設）	
8	実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（概況表）	
9	実習目的と実習課題について（個人票）	
10	実習目的と実習課題について（実習計画）	
11	実習生に求められる姿勢	
12	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解（実習記録の目的・内容）	
13	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解（記述方法）	
14	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成	
15	巡回指導	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	・授業への積極的な取り組み ・課題への取り組み状況	提出物	50	・実習レポートやワークシート等の提出物の内容等

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①相談援助実習Ⅰについて、学びと課題を再確認しておく。 ②授業の前にあらかじめ指示したテキストの箇所を読んでおく。[30分以上] ③授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持てたことや疑問点に関して自分で調べて理解を深める。[30分以上]	・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。

受講生に望むこと	・実習では、社会人としてのマナーも問われる。挨拶や身だしなみなどに日頃から気をくばること。規律のある態度で授業に臨むこと。 ・実習及び実習指導は社会福祉士という国家資格の取得を目指すものであるということを常に意識すること。 ・相談援助実習Ⅱでは、Ⅰに比べ実習期間が長くなる。実習の良い準備が出来るよう、意欲的な姿勢で授業に臨むこと。	教科書・テキスト	『相談援助実習・相談援助実習指導』第3版 早坂聡久他編　弘文堂　2018年 ISBN978-4-335-61189-6
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

職能団体である社会福祉士会の現場職員との定期的な交流、意見交換をもとに現場で求められる社会福祉士像について、ディスカッション等により指導をおこなっている。

授業科目名	SW360U 相談援助実習指導Ⅲ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則・田引　俊和　（代表教員　真砂　良則）						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
相談援助実習Ⅱで学んだ「専門知識」「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、相談援助業務に必要となる資質・能力・技術を習得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	①相談援助実習Ⅱを振り返り、実習課題の達成状況の評価が適切にできる。 ②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的な能力を習得することができる。 ③具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立ててレポートにまとめることができる。

教授方法	テキストをもとにした講義の他、レポート作成、ワークシートによる課題。
履修条件	相談援助実習指導Ⅱ、相談援助実習Ⅱを履修済の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	実習の価値と事後学習の意義	
2	相談援助実習Ⅱにおける実習課題の達成状況の評価	
3	相談援助実習Ⅱにおける課題や疑問点の言語化と整理	
4	実習評価と自己評価（相談援助実習と評価）	
5	実習評価と自己評価（スーパービジョン）	
6	相談援助実習Ⅱにおける実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成（テーマ設定）	
7	実習Ⅱにおける実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成（アウトライン）	
8	実習Ⅱにおける実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成（資料・データ収集・整理）	
9	実習Ⅱにおける実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成（レポート作成）	
10	実習Ⅱにおける実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成（見直し、プレゼン準備）	
11	実習総括レポートの発表とディスカッション（第1グループ）	
12	実習総括レポートの発表とディスカッション（第2グループ）	
13	実習報告会における実習総括レポート発表と指導者からの助言（第1グループ）	
14	実習報告会における実習総括レポート発表と指導者からの助言（第2グループ）	
15	実習指導のまとめ、総括	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	・授業への積極的な取り組み ・課題への取り組み状況	提出物	50	・実習レポートやワークシート等の提出物の内容等

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①相談援助実習Ⅱについて、学びと課題を再確認しておく。 ②授業の前にあらかじめ指示したテキストの箇所を読んでおく。[30分以上] ③授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持てたことや疑問点に関して自分で調べて理解を深める。[30分以上]	・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。

受講生に望むこと	・実習及び実習指導は社会福祉士という国家資格の取得を目指すものであるということを常に意識すること。 ・実習全体のまとめ・整理を行って、今後の学びにつなげていく。	教科書・テキスト	『相談援助実習・相談援助実習指導』第3版 早坂聡久他編　弘文堂　2018年 ISBN978-4-335-61189-6
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

職能団体である社会福祉士会の現場職員との定期的な交流、意見交換をもとに現場で求められる社会福祉士像について、ディスカッション等により指導をおこなっている。

授業科目名	SW370U 相談援助実習Ⅱ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則・田引　俊和　（代表教員　真砂　良則）						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	3単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
１６日間（１２８時間）にわたる相談援助実習Ⅱを通して、相談援助に係る専門的な知識と技術について具体的かつ実際的に学び、実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に学ぶ。	①実習施設・機関の機能・役割や利用者のニーズ等について理解できる。 ②社会福祉士の業務内容について実際的に理解できる。 ③ソーシャルワークの知識や技術について、総合的に対応できる能力が習得できる。

教授方法	実習施設の指導者による指導、担当教員による巡回指導等。
履修条件	相談援助実習Ⅰの単位を修得済の者。相談援助実習指導Ⅱを履修した者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成	実習指導者、担当教員
2	利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成	実習指導者、担当教員
3	利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成	実習指導者、担当教員
4	利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む）とその評価	実習指導者、担当教員
5	多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際	実習指導者、担当教員
6	社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解	実習指導者、担当教員
7	施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際	実習指導者、担当教員
8	当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解	実習指導者、担当教員
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習施設の指導者による評価	60	・実習の態度 ・専門的知識、技術の習得の状況	担当教員による評価	40	・実習記録の内容等

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①実習の前に事前学習や実習計画、実習プログラム等の内容を再確認しておく。［30分］ ②実習の後に実習課題に関する自己評価や内省を行うとともに疑問点等を調べ次に備える。［60分］	・実習記録等をもとに、実習指導者から指導を受ける。 ・巡回訪問時等の面接により、担当教員から気づきを促していく。 ・実習を終えての内省や自己評価を実習指導Ⅲに繋げていく。

受講生に望むこと	・相談援助実習Ⅰの学びを踏まえ、より良い実習となるよう意欲的に取り組む。 ・実習及び実習指導は社会福祉士という国家資格の取得を目指すものであるということを常に意識すること。 ・社会福祉士の具体的なイメージを掴む。	教科書・テキスト	『相談援助実習・相談援助実習指導』第3版 早坂聡久他編　弘文堂　2018年 ISBN978-4-335-61189-6
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SS300U 精神保健学			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
1．精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について理解する。 2．現代社会における精神保健の諸課題と精神保健の実際、および関連する専門職の役割について理解する。 3．精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。 4．国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。 5．社会福祉士国家試験受験、およびスクールソーシャルワーカー資格を意識した専門的な内容を展開する。	1．精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について理解し、説明できるようにする。 2．現代社会における精神保健の諸課題と精神保健の実際、および関連する専門職の役割について理解し、説明できるようにする。 3．精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種の役割と連携について理解し、説明できるようにする。 4．精神保健の視点からみた学校教育の課題を理解し、説明できるようにする。 5．スクールソーシャルワーカー資格に必要な基礎知識を習得する。

教授方法	講義
履修条件	「相談援助の基盤と専門職」、「相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ」の単位修得済の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	精神の健康と、精神の健康に関連する要因、および精神保健の概要（1）　オリエンテーション、精神保健の概要	
2	精神の健康と、精神の健康に関連する要因、および精神保健の概要（2）　精神保健の歴史、精神保健の課題	
3	精神の健康と、精神の健康に関連する要因、および精神保健の概要（3）　社会構造の変化と新しい健康観、ライフサイクルと精神の健康	
4	精神の健康と、精神の健康に関連する要因、および精神保健の概要（4）　ストレスと精神の健康、生活習慣と精神の健康、身体疾患に由来する障害	
5	精神の健康への関与と支援（1）　精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割の理解、精神の健康に関する心的態度、精神保健に関する予防の概念と対象	
6	精神の健康への関与と支援（2）　精神保健を維持、増進するために機能する専門機関や関係職種の役割と連携の理解、精神保健に関する国、都道府県、市町村、団体等の役割、および連携、専門職種	
7	精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ（1）　現代日本の家族の特徴、結婚生活と精神保健、出産・育児をめぐる精神保健、社会的ひきこもりをめぐる精神保健	
8	精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ（2）　病気療養と介護をめぐる精神保健、高齢者の精神保健、家庭内の問題を相談する機関	
9	スクールソーシャルワーカー資格に必要な基礎知識の習得・精神保健の視点からみた学校教育の課題とアプローチ（1）　現代日本の学校教育と生徒児童の特徴、教職員の精神保健	
10	スクールソーシャルワーカー資格に必要な基礎知識の習得・精神保健の視点からみた学校教育の課題とアプローチ（2）　関与する専門職と関係法規、学校における専門職の役割	
11	現代社会における精神保健の諸課題の理解・精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ（1）　現代日本の労働環境、うつ病と過労自殺、飲酒やギャンブルなど依存に関する問題	
12	現代社会における精神保健の諸課題の理解・精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ（2）　心身症と生活習慣病、職場内の問題を解決するための機関および関係法規	
13	現代社会における精神保健の諸課題の理解・精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ（1）　災害被災者、犯罪被害者、ニート・若年無業者、ホームレスおよび貧困問題と精神保健	
14	現代社会における精神保健の諸課題の理解・精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ（2）　性別違和、多文化、緩和ケアと精神保健	
15	精神保健に関する諸活動、資源開発、ネットワークづくり、人材育成、諸外国の精神保健活動の現状および対策、ＷＨＯなどの国際機関の活動	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	授業への参加状況、受講態度、提出物等（課題、小テスト・ミニレポート・ワークシート含む）	レポート・授業内確認テスト等	50	授業内容の理解、レポート・ワークシートの記載内容

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．毎回、テキスト・資料等で授業を振り返り、学びを定着させる。[30分以上] 2．社会の事象に関心を持ち、福祉・教育分野との関係を意識する、まとめる。 3．社会福祉、教育現場への理解を深めるため、施設・機関への見学、ボランティアに参加する。	確認テスト等は、毎回結果とともに内容を解説する。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応する。

受講生に望むこと	1．相談援助の専門職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。 2．疑問点や深い洞察も含めた知識の探求を意識し学んで下さい。 3．現代社会では精神保健のニーズや課題は多様化し、範囲も広がっています。日頃から関連するニュース、社会的事象に関心を持つようにしてください。	教科書・テキスト	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、新・精神保健福祉士養成講座『精神保健の課題と支援　第３版』中央法規、2012. ISBN:978-4-8058-5595-9
指定図書／参考書等	なし／なし　必要な資料を講義毎に配布する。	その他・特記事項	必要に応じて授業内で資料を配布します。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SS305U ｽｸｰﾙｿｰｼｬﾙﾜｰｸ論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
1．講義を中心に、教育現場での子どもの現状について理解し、子どもを取り巻く環境との関係性のとらえ方について学ぶ。 2．必要に応じて、資料や事例検討、グループ協議等を用いて、スクールソーシャルワーカーの役割、およびスクールソーシャルワークの発展過程を理解する。	1．今日の学校教育現場にスクール（学校）ソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性を理解し、説明できるようにする。 2．スクール（学校）ソーシャルワークの発展過程について理解し、説明できるようにする。 3．海外のスクールソーシャルワーカーの役割と活動について理解し、説明できるようにする。 4．スクール（学校）ソーシャルワークの実践モデルについて理解し、説明できるようにする。 5．スクール（学校）ソーシャルワーカーへのスーパービジョンの必要性について理解し、説明できるようにする。

教授方法	講義
履修条件	「相談援助の基盤と専門職」、「相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ」の単位修得済みの者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	講義オリエンテーション スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程の内容、位置づけ	
2	今日の学校教育現場が抱える課題とその実態、及びスクール（学校）ソーシャルワーカーを導入する意義	
3	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域の情勢①（不登校、非行、学齢期の児童虐待）	
4	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域の情勢②（特別支援教育、学習遅滞・学習障害、教育福祉）	
5	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域の情勢③（家族の抱える課題、外国児童の就学問題）	
6	スクール（学校）ソーシャルワークの価値・倫理	
7	スクール（学校）ソーシャルワークの発展過程、アメリカや他諸外国及び日本のスクール（学校）ソーシャルワークの発展過程の概要	
8	海外のスクールソーシャルワーカーの役割と活動、アメリカや他諸外国のスクールソーシャルワーカーの役割と活動	
9	スクール（学校）ソーシャルワークの実践モデル（生態学的視点、ストレングスの視点、エンパワメントの視点）	
10	スクール（学校）ソーシャルワークの支援方法、スクール（学校）ソーシャルワークの学校・家庭・地域共同支援の実際例（メゾ・レベル①）（学校内の支援ケース会議、校内協働、コンサルテーション）	
11	スクール（学校）ソーシャルワークの支援方法、スクール（学校）ソーシャルワークの学校・家庭・地域共同支援の実際例（メゾ・レベル②）（学校と関係機関の協働支援、校外協働）	
12	スクール（学校）ソーシャルワークの支援方法、スクール（学校）ソーシャルワークの学校・家庭・地域共同支援の実際例（メゾ・レベル③）（社会資源の開発）	
13	スクール（学校）ソーシャルワークの支援方法、スクール（学校）ソーシャルワークの教育行政への支援（マクロ・レベル①）（スクールソーシャルワーカー活用事業）	
14	スクール（学校）ソーシャルワークの支援方法、スクール（学校）ソーシャルワークの教育行政への支援（マクロ・レベル②）（教育委員会との協働、各地の教育委員会が実施するスクールソーシャルワークに関する事業）	
15	スーパービジョン、スクール（学校）ソーシャルワーカーへのスーパービジョン（スーパービジョン体制、スーパービジョンの方法）、全体まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	授業への参加状況、受講態度、提出物等（課題、小テスト・ミニレポート・ワークシート含む）	授業内確認テスト・レポート等	50	授業内容の理解、レポート・ワークシートの記載内容

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．毎回、資料等で授業を振り返り、学びを定着させる。[30分以上] 2．社会の事象に関心を持ち、福祉・教育分野との関係を意識する、まとめる。 3．社会福祉、教育現場への理解を深めるため、施設・機関への見学、ボランティアに参加する。	確認テスト等は、毎回結果とともに内容を解説する。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応する。

受講生に望むこと	1．学校教育における相談援助職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。 2．疑問点や深い洞察も含めた知識の探求を意識し学んで下さい。 3．現代社会では教育現場におけるニーズや課題は多様化し、範囲も広がっています。日頃から関連するニュース、社会的事象に関心を持つようにしてください。	教科書・テキスト	必要な資料を講義内で配布する。
指定図書／参考書等	なし／山野則子・野田正人・半羽利美佳編著『よくわかるスクールソーシャルワーク　第2版』ミネルヴァ書房、2016. ISBN: 978-4-623-07834-9	その他・特記事項	とくになし。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SB300U 児童ｻｰﾋﾞｽ論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	三田村　悦子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
児童サービスは全ての図書館サービスの中でも大変重要なサービスの一つである。サービスの対象者である児童は人として尊ばれ社会の一員として尊重されなければならず、よい文化環境（図書館）が必要だからである。その図書館を運営するのは子どもを知り、本を知り、子どもと本を結ぶことに使命感を持つ図書館職員である。そのような児童図書館員を養成するための授業を講義および実践を取り入れて実施する。	①児童サービスに必要な資料（絵本、児童文学、知識の本他）を知り、子どもを楽しく豊かな本の世界に導き、子どもが求める知識や情報を手に入れる方法を理解する。 ②子どもの発達段階および子どもを取り巻く環境を知り、最適な時に最適な本を提供することができることをめざす。 ③子どもと本をつなぐ手段を学び図書館および関連機関で実践できる基礎力を身につける。

教授方法	基本的に講義による授業および実践。レポート作成。
履修条件	「図書館概論」「図書館サービス論」の履修済みが望ましい。（単位未修得可）

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	児童サービスの意義・目的および歴史を説明する。（児童サービスの重要性・必要性を理解する。）	
2	子どもの発達および子どもを取り巻く社会・環境を説明する。（子どもを知ることができる。）	
3	児童資料の種類と特色①類型および絵本について学ぶ。（絵本を知り選書の力を付ける。）	
4	児童資料の種類と特色②児童文学について学ぶ。（子どもがよい物語を持つ意味について知る。）	
5	児童資料の種類と特色③ノンフィクション他の資料およびレファレンスについて学ぶ。（子どもが図書館で情報処理能力を高める重要性を理解する）	
6	児童資料の選択および整理について説明する。（子どもが利用しやすい児童室づくりが出来るようになる。）	
7	児童サービスの諸活動を説明する。（資料提供、フロアーワーク、集会行事、展示など実際に行われるサービスを知り実践に役立つ力を付ける。）	
8	児童サービスの運営について学ぶ。（運営計画および評価、市民との協働について理解し組織的にサービスを展開できる基礎力を養う。）	
9	子どもと本をつなぐ①読み聞かせ、ストーリーテリングを学び基礎力をつける。	
10	子どもと本をつなぐ②ブックトークを学び基礎力をつける。	
11	乳幼児サービスについて学ぶ。（意義と現状を理解し、対象資料およびサービスの展開を知り実践力を養う。）	
12	ヤングアダルトサービスについて学ぶ。（意義と現状を理解し、対象資料およびサービスの展開を知り実践力を養う。）	
13	特別支援の必要な子どもたちへのサービスについて学ぶ。（意義と現状を理解し、対象資料およびサービスの展開を知り実践力を習得する。）	
14	学校図書館への支援と連携・協力および関係機関との連携について学ぶ。（子どもにとって本と出合う一番身近な学校図書館について理解し、どんな支援・連携・協力が必要かを知る。）	
15	児童サービス担当者の役割を学ぶ。（これまでの講義のまとめとして子どもと本をむすぶ仕事の重要性を再認識し、キャリアアップする手立てを取得し今後に生かす。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	事前・事後学習も含めた授業への取り組み姿勢等	期末試験	40	筆記試験
実践・レポート	40	課題を的確に把握した内容であり、自分独自の考えがまとめられているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・身近な図書館を利用し児童室を配架・展示などに気をつけ見学する。利用案内、ブックリストなどを入手しおはなし会などのサービスを実際に見学する。（事前に開催日時を確認し図書館の了解を得ること）［30分］ ・指定図書、参考図書には目を通し、紹介されている本、講義中におすすめする本はできるだけ読むこと。［40分］ ・子どもと本を結ぶ技法（絵本の読み聞かせ、おはなし、わらべうた、ブックトークなど）をひとつでも習得し実践できるようにする。［60分］	課題レポートは、3週間以内に評価やコメントをつけて返却する。なお、評価やコメントに対しての疑問・質問に対しての申し出にはいつでも対応する。

受講生に望むこと	本と子どもを知るためにできるだけ本を読み、本の楽しさを味わうとともに、身近な子どもを観察する。子どもと本を結ぶための技法を身につけるために自己研鑽をしてほしい。	教科書・テキスト	『児童サービス論　新訂版』JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ６ 堀川照代編著 日本図書館協会 2020年 ISBN 978-4-8204-1909-9
指定図書／参考書等	なし／『子どもと本の世界に生きて』E.コルウェル著 石井桃子訳 こぐま社 2018年 ISBN4-7721-9017-6『子どもと本』松岡享子著 岩波書店 2015年 ISBN978-4004315339/『幼い子の文学』瀬田貞二著 中公新書 1980年 ISBN 978-4121005632『児童文学論』ﾘﾘｱﾝ・H・ｽﾐｽ著 岩波現代文庫 2016年 ISBN 978-4-00-602282-2『新編子どもの図書館』『児童文学の旅』『エッセイ集』（石井桃子ｺﾚｸｼｮﾝⅢⅣⅤ）岩波現代文庫 2015年 ISBN Ⅲ978-4-00-602254-9 Ⅳ978-4-00-602255-6 Ⅴ978-4-00-602256-3	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

子どもたちへ、児童サービス（絵本の読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク、わらべうた）を数多く実践してきた経験から、学生たちにその手法を実際に見せ、より具体的に教えている。

授業科目名	SB305U 図書館制度・経営論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	三田村　悦子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
図書館経営に関連する法律や制度、図書館政策などについて説明し、図書館の意義や社会的役割を理解させる。図書館の組織および施設、サービス計画を実例を参考に説明し、図書館経営に必要な知識を習得させる。	①図書館に関連する法律、条例等を学び図書館の法的根拠を把握し、図書館の意義と社会に果たす役割を理解する。 ②図書館の組織・職員について学び運営方法を習得しサービス計画を立てる力を養う。 ③図書館の管理運営形態について学び、これからの図書館の在り方を考察する。

教授方法	基本的に講義による授業、レポート作成
履修条件	「図書館概論」「図書館サービス論」の履修済みが望ましい。（単位未修得可）

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	図書館をめぐる法体系を学ぶ。（日本国憲法、教育基本法、社会教育法、図書館法を理解し図書館の法的位置づけを把握する。）	
2	図書館法について考える。①（図書館法第１条から９条までを学び図書館の目的・図書館奉仕などを理解する。）	
3	図書館法について考える。②（図書館法第１０条から２９条までを学び公立図書館の設置・職員・図書館協議会および無料の原則を習得する。）	
4	地方自治体の図書館関連条例などを知る。（地方自治法、条例・規則・内規・要項・マニュアルを学び図書館運営の法的根拠を理解する。）	
5	他館種の図書館に関する法律などを知る。（学校図書館・国立国会図書館・大学図書館などの法的根拠を理解し、他館種との連携、協力方法を考察する。）	
6	図書館サービス関連法規を知る。（子どもの読書活動の推進に関する法律、文字・活字文化振興法、著作権、個人情報の保護に関する法律などを学び図書館サービスの法的根拠を理解する。	
7	国、地方自治体の図書館政策を学ぶ。（国の政策、各自治体の政策の具体例を考察する。）	
8	公共機関・施設の経営方法と図書館経営を学ぶ。（公立図書館経営の理念と運営および危機管理について理解する。）	
9	図書館の組織・職員について学ぶ①（図書館の組織、館長の役割、図書館職員の在り方を理解し、求められる職員像を認識する。）	
10	図書館の組織・職員について学ぶ②（図書館協議会や図書館を支える団体、ボランティアについて考察し図書館運営への関わり方を理解する。）	
11	図書館の施設・設備について学ぶ。（図書館建築のあり方を理解し、建築計画書の実例に基づき図書館施設のあるべき姿を認識する。）	
12	図書館サービス計画と予算の確保について学ぶ。（サービス計画の実例を考察し実際に立案・策定できる能力を習得する。）	
13	図書館業務/サービスの調査と評価について知る。（評価の実例を考察し、効率的・効果的な図書館運営を学ぶ。）	
14	図書館の管理形態の多様化について知る。（業務委託、指定管理者制度、PFIの問題点について学び望ましい図書館の管理運営について考察する。）	
15	公立図書館の課題と今後の展望について考える。（複本購入批判、貸出猶予問題、予約・リクエストの在り方などの課題を検討し今後の図書館経営を考察する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	事前・事後学習も含めた授業への取り組み姿勢・発言等	期末試験	40	筆記試験
レポート	40	課題を的確に把握した内容であり、自分独自の考えがまとめられているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・国内外の図書館を見学、利用する機会をつくる。地元の図書館等の利用・見学をし、できれば条例・サービス計画の説明を聞く機会を持つ。［40分］ ・事前にテキストの章に目を通しておく。［30分］ ・参考図書および講義中に紹介する図書に目を通し講義内容を深める。［30分］	課題レポートは、3週間以内に評価やコメントをつけて返却する。なお、評価やコメントに対しての疑問・質問に対しての申し出にはいつでも対応する。

受講生に望むこと	図書館関係の雑誌や新聞の記事に関心を持ち最新の情報を得るように心掛ける。図書館情報学関係のウェブサイトにアクセスして情報の閲覧、理解に努める。	教科書・テキスト	『図書館制度・経営論 第２版』ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望５　手島孝典編著　学文社　2017年 ISBN 978-4-7620-2701-7
指定図書／参考書等	なし／『生きるための図書館』竹内 悊著 岩波新書 2019年 ISBN 978-4-00-431783-8/『読書からはじまる』長田弘著 日本放送出版協会 2004年 ISBN4-14-080564-1『つながる図書館』猪谷千香著 ちくま新書 2014年 ISBN 978-4-480-06756-2『新図書館法と現代の図書館』塩見昇他編著 日本図書館協会 2009年 ISBN 978-4820409151『図書館制度・経営論』糸賀雅児・薬袋秀樹編著 樹村房 2013 ISBN 978-4-88367-202-8	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

館長の経験を活かして、図書館制度の重要性および図書館経営の在り方を実例を挙げてより具体的に説明している。

授業科目名	SB310U 情報ｻｰﾋﾞｽ演習Ⅰ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目である。図書館での情報サービスにおいては、利用者が求める情報を適切に把握し、適切なツールを用いて情報を探し提供する能力と技能が必要となる。 情報サービス演習Ⅰでは、基礎科目で学んだ内容を元に、主にコンピュータを操作しデジタル情報源を用いる情報検索の演習を行う。演習内容を通じて、情報検索技術や情報源の評価技能を身につけ、多様な情報要求に対応できる能力と技能を習得することを目的とする。	①情報専門家として幅広い主題に対応できる情報検索技術の習得する。 ②一般的な情報リテラシー能力の習得と向上。 ③情報の評価能力 （情報内容の判断）の習得と向上。 ④情報発信能力 （回答の作成・提供） の習得と向上。

教授方法	演習中心に行う。コンピュータ室で情報検索演習を実施する。
履修条件	「司書資格」取得希望者かつ、「図書館概論」の単位を修得済みの者、「情報サービス論」を履修した者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	図書館の情報サービスと、情報検索の意義と内容	
2	ネットワーク、 ディジタル情報源の特性、 情報検索技術の基礎知識	
3	情報検索システムの基礎知識 （データベース構成／論理演算　等）	
4	ウェブ情報源の検索 （1） サーチエンジンの使い方とブール演算	
5	ウェブ情報源の検索 （2） サーチエンジンによるウェブ情報の検索	
6	ウェブ情報源の検索 （3） 検索結果と情報源の評価	
7	図書情報の検索 （1） 目録と書誌	
8	図書情報の検索 （2） 主題とアクセスポイント	
9	図書情報の検索 （3） 各図書館OPAC、 総合目録等	
10	時事情報の検索 新聞記事データベース、 ニュースサイト等	
11	雑誌記事の検索 （1） 雑誌記事データベース、 索引類	
12	雑誌記事の検索 （2） 引用の活用	
13	雑誌記事の検索 （3） 主題検索	
14	総合演習 （1） レファレンス質問を想定した実践演習　質問の分析と戦略立案	
15	総合演習 （2） レファレンス質問を想定した実践演習　検索と回答作成	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
演習課題	70	出題された演習課題は必ず全て提出すること。未提出がある場合は単位認定を行わない。また課題は出題に対して適切な内容であること。	小テスト	10	授業内で実施、理解度を確認する。
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
日常的に実際にインターネット上で利用できる情報源を使用してみること。さらに授業で紹介されたインターネット情報源は必ず自分自身で使用してみること。 また、情報検索には幅広い知識が求められるため、日頃からニュースなど世界の動向に気を配っておくこと。 課題とは別に、各回の復習を配布資料を用いて最低30分程度は行うこと。	必要に応じてレポートの添削結果を個別に伝達する。また適宜Classroomなども利用する。

受講生に望むこと	図書館司書資格の科目であることを理解し、その意義をよく考えて履修をすること。分からない点、疑問に思ったことがあれば積極的に教員に質問をすること。	教科書・テキスト	なし、授業内でプリントを配布
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SB315U 情報ｻｰﾋﾞｽ演習Ⅱ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目であり、情報サービス演習のうち特にレファレンスブックを用いた情報探索について学ぶ。そのために情報源としてのレファレンスブック評価を行い、その特性について理解を深める。また実際にレファレンス質問に取り組むことにより情報探索を行い、レファレンスサービス全体のプロセスの理解とその技術を取得することを目的とする。授業は課題作成と発表を交互に行い進めていく。	①レファレンスサービスのプロセスを理解する。 ②レファレンスブックの評価を通じてその特性を理解する。 ③レファレンスブックに関するパスファインダーの作成を行う。 ④レファレンス質問に取り組むことにより、レファレンスサービス全体のプロセス理解に努める。 ⑤基礎的なレファレンス質問に回答する能力を習得する。

教授方法	演習、図書館でレファレンス資料を用い課題作成及び発表を行う。
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「情報サービス論」「情報サービス演習Ⅰ」を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	レファレンスサービスの基礎・復習	
2	レファレンスブック評価の仕方	
3	情報源の評価（1）目録・書誌・索引	
4	情報源の評価（2）辞書・事典	
5	情報源の評価（3）便覧・年鑑類	
6	情報源の評価（4）地名・人名	
7	情報源の評価（5）各種の専門領域	
8	情報の探索（1）ことばの情報	
9	情報の探索（2）事柄・事物・現象の情報	
10	情報の探索（3）人物・団体の情報	
11	情報の探索（4）地名・地理の情報	
12	情報の探索（5）歴史・時事の情報	
13	情報の探索（6）統計の情報	
14	情報の探索（7）書誌情報	
15	情報の探索　まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
演習課題の作成	60	適切な課題作成を行い、期日までに必要な完成度で提出ができていること。	演習課題の発表	20	作成した課題を元に、発表が行えること。必要な質疑に応えることができること。
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
課題以外でも図書館を日常的に活用することを心がける。 日常的に疑問に思ったことがあれば、すぐに調べる癖をつけることが望ましい。その際，ウェブ情報源以外も活用すること。図書館などのレファレンスツールに慣れておくこと。 各回の復習を配布資料を用いて最低30分程度は行うこと。	課題発表時にコメントを行う形でフィードバックをする。

受講生に望むこと	課題が多く与えられるので，図書館情報資源を用いて課題作成に取り組むこと。授業では作成した課題を発表する機会があり，他の履修者や教員に分かりやすく説明することも求められる。	教科書・テキスト	なし、授業中に随時プリントを配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SB320U 情報資源組織演習Ⅰ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目であり、「情報資源組織論」で学んだ資料組織化の理論に基づき、図書をはじめとする多様な情報資源の書誌データの作成を演習する。時代に即した目録作成のためコンピュータを使用した演習を行う。	①多様な情報資源に関する書誌データの作成方法について、演習を通じて理解・取得する。 ②具体的な目録作成により、目録構築の意義や典拠コントロールの重要性を理解する。

教授方法	演習、主にコンピュータを使用する
履修条件	「司書資格」取得希望者かつ、「図書館概論」の単位を修得済みの者、「情報資源組織論」を履修した者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	「情報資源組織論」で学んだ日本目録規則における記述目録法について復習する。	
2	図書資料の標題紙・奥付などを基に、手書きによる目録記述の演習を行う。	
3	コンピューターによる目録記述方法を学ぶ。	
4	図書資料の標題紙・奥付などを基に、目録記述の演習を行う。（基礎的な資料）	
5	図書資料の標題紙・奥付などを基に、目録記述の演習を行う。（応用的な資料）	
6	図書資料の標題紙・奥付などを基に、目録記述の演習を行う。（応用的な資料）	
7	図書資料の現物を基に、目録記述の演習を行う。	
8	録音資料の情報源を基に、目録記述の演習を行う。	
9	映像資料の情報源を基に、目録記述の演習を行う。	
10	電子資料の情報源を基に、目録記述の演習を行う。	
11	これまで作成したデータの排列変更・検索の演習を行う。	
12	メタデータ記述方法を解説する	
13	インターネット情報源のメタデータ記述演習を行う。（Webサイトなど）	
14	インターネット情報源のメタデータ記述演習を行う。（データベースなど）	
15	これまで作成した書誌データをもとにした、まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	①授業課題に対し真摯に取り組んでいる。②教員の発問に対し意欲的に回答をしている。	授業前準備・復習	10	①授業実践のための事前学習を行っている。②授業後に作成した演習課題について再度振り返り、事後学習している。
演習課題内容	70	提出された演習課題が日本目録規則をはじめとする記述方法に沿って作成されているか、評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
図書館を日常的に活用することを心がける。 図書館のOPACを利用し、その記述内容についても関しを持つこと。日常的繰り返しに目録を利用し、目録と検索の関係性を経験から学ぶこと。 各回の課題を元に最低30分以上は予習・復習を行うこと。	課題の提出について随時添削を行い返却もしくは，直接説明を行う。

受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨むこと。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問すること。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	履修生には参考図書「日本目録規則」を貸与する。 返却にあたり紛失・汚破損等があった場合には履修学生の責任において返却すること。 必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SB325U 情報資源組織演習Ⅱ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目であり、「情報資源組織論」で学んだ資料組織化の理論に基づき、図書資料の主題目録法（分類法）について演習を行う。	①主題分析について、演習を通じて理解する。 ②分類作業について、演習を通じて基本的な技能を習得する。 ③分類の規則について、演習を通じて理解を深める。

教授方法	演習
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「情報資源組織論」「情報資源組織演習Ⅰ」を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	「情報資源組織論」で学んだ日本目録規則における主題目録法について復習する。	
2	演習問題を基に主題分析・分類作業を行うとともに、「日本十進分類法」の構造を理解する。	
3	演習問題を基に一般的な主題分析・分類作業を行う。（基礎問題）	
4	演習問題を基に一般的な主題分析・分類作業を行う。（応用問題）	
5	演習問題（形式区分）を基に主題分析・分類作業を行う。	
6	演習問題（地理区分）を基に主題分析・分類作業を行う。	
7	演習問題（地理区分・海洋区分）を基に主題分析・分類作業を行う。	
8	演習問題（言語区分）を基に主題分析・分類作業を行う。	
9	演習問題（補助表を使用した総合課題）を基に主題分析・分類作業を行う。	
10	演習問題（総合問題）を基に主題分析・分類作業を行う。	
11	演習問題（総合問題）を基に主題分析・分類作業を行う。	
12	演習問題（総合問題）を基に主題分析・分類作業を行う。	
13	演習問題を基に主題分析・件名付与を行う。	
14	演習問題を基に主題分析・件名付与を行う。	
15	演習問題を基に主題分析・件名付与を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	①授業課題に対し真摯に取り組んでいる。②教員の発問に対し意欲的に回答をしている。	授業前準備・復習	10	①授業実践のための事前学習を行っている。②授業後に作成した演習課題について再度振り返り、事後学習している。
演習課題内容	70	提出された演習課題が適切に主題分析され、分類・件名付与されていること。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
図書館を日常的に活用することを心がける。 図書館のOPACを利用し、その記述内容についても関心を持つこと。日常的繰り返しに目録を利用し、目録と検索の関係性を経験から学ぶこと。 各回の課題を元に最低30分程度は予習を行うこと。	課題発表を行い、その場で教員がコメントを行う。提出物についても、必要に応じて随時返却する。

受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨むこと。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問すること。	教科書・テキスト	『日本十進分類法新訂10版　簡易版』もりきよし原編，日本図書館協会分類委員会改訂　日本図書館協会 2018年　ISBN:9784820418078
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SB330U 図書館情報資源概論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目である。印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報源からなる図書館情報資源についてその類型と特質，生産・流通・選択・収集・保存に至るまでのプロセスなど、これら図書館業務に必要な情報資源に関する知識を解説する。	①印刷資料・非印刷資料について、政府刊行物等や電子資料、ネットワーク情報源を含めて学び、その理解を深める。 ②出版流通の在り方について学び、その理解を深める。 ③蔵書の形成、資料の収集の選択について学び、その理解を深める。 ④人文科学、社会科学、自然科学、日常生活などの情報資源について、その特性を理解する。 ⑤資料の受入・除籍・保存・管理について学び、その理解を深める。

教授方法	講義
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	図書館情報資源とは	
2	印刷資料について（1）印刷術の誕生と印刷の歴史	
3	印刷資料について（2）様々な印刷資料	
4	非印刷資料について	
5	灰色文献について	
6	政府刊行物・地域資料について	
7	映像資料・音声資料について	
8	電子資料・ネットワーク情報源について	
9	電子コンテンツと電子出版について	
10	出版と流通について（1）出版とはなにか・出版の意義	
11	出版と流通について（2）出版流通の経路・出版制度	
12	資料の収集と選択について	
13	人文科学分野の情報資源とその特性	
14	社会科学分野の情報資源とその特性	
15	自然科学分野の情報資源とその特性	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末テスト	50	筆記試験（持ち込み不可）を行う。図書館で取り扱う各種の情報資源について理解できている必要がある。	レポート	30	レポート課題について、課題の要件を満たしており十分な内容があること。
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
図書館を日常的に活用することを心がける。資料を扱う上で求められる基礎的・教養的な知識を幅広く身につけること。 そのために、なるべく多種の情報メディアを扱うこと、図書館だけでなくインターネットも日常的に活用し情報源として評価すること。 各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。	試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてClassroomなども利用する。

受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨むこと。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問すること。	教科書・テキスト	『図書館情報資源概論　新訂版』馬場俊明著. 日本図書館協会, 2018.（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3 ; 8） ISBN:978-4-8204-1808-5
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SB335U 図書・図書館史			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
人類の歴史の中で文字が生み出され、各種メディアに記録された情報資源が図書館に蓄積・保存されてきた。数千年の歴史を記録・継承する図書館のあり方や使命を学び、現代から未来の図書館に求められる役割と機能を学ぶ。	①各種記録媒体の歴史を学び、図書館の収集・保存すべき情報資源を理解する。 ②世界の図書館の歩みを考察し、図書館の存在意義を認識する。 ③図書館と図書館情報学の歴史を学ぶことにより、自らの将来を考える。

教授方法	講義
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	メディアと図書館の歴史とは	
2	記録メディアの歴史1：紙以前の記録メディア・紙メディア	
3	記録メディアの歴史2：図書の形態史，印刷の発明	
4	記録メディアの歴史3：印刷の種類，大量印刷の時代	
5	記録メディアの歴史4：新聞雑誌の歴史，近代のマスメディア	
6	記録メディアの歴史5：メディアの多様化，新しいメディアの出現	
7	図書館史（世界）1：図書館の源流と図書館の使命	
8	図書館史（世界）2：中世の図書館，近世の図書館の歩み	
9	図書館史（世界）3：公共図書館の成立	
10	図書館史（世界）4：近代の図書館	
11	図書館史（日本）1：前近代日本の図書館，近代図書館の誕生	
12	図書館史（日本）2：民主主義と図書館，戦争と図書館	
13	図書館史（日本）3：第2次世界大戦後の図書館改革と戦後民主主義	
14	図書館史（日本）4：市町村立図書館と図書館政策，住民と図書館の関係	
15	図書館史まとめ：図書館と社会の関わりを歴史から考える	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。	授業内課題	30	授業中・授業後に小課題を行う。理解度の確認や各自の意見を記述してもらう。
期末テスト	50	記述式の筆記試験（持ち込み不可）を行う。図書館の歴史及び情報メディアの歴史について基本的な理解ができている必要がある。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
図書館を日常的に活用することを心がける。世界史及び日本史の基本的な知識を確認しておくこと。必要に応じて高校までの歴史教科書なども活用すること。 各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。	試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてClassroomなども利用する。

受講生に望むこと	図書館司書資格の科目であることを理解し、その意義をよく考えて履修をすること。分からない点、疑問に思ったことがあれば積極的に教員に質問をすること。歴史を学ぶことは現在の我々の立ち位置を考える上で、極めて重要なアプローチである。歴史的な事柄にも注意を払うようにすること。	教科書・テキスト	『図書・図書館史』小黒浩司編著．日本図書館協会，2013．（JLA図書館情報学テキストシリーズ 3；11）ISBN：978-4-8204-1218-2
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ST300U 福祉心理学			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	大矢　正則						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
福祉心理学は，福祉問題に関する心理学的研究であり，比較的歴史の浅い心理学の応用分野である。この学問で一定の理解を得るためには，社会福祉に関する基本的な知識と，心理学に関する基本的な理解の両方が必要になる。授業では，福祉の対象となる側(乳児・児童・障害者・高齢者)を軸に章立てをし，その分野の福祉的な諸問題に，心理学がどのように役立つのかを問いを交えながら，順を追って説明していく。	①福祉現場において生じる問題及びその背景について説明できる。 ②福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援について概説できる。 ③虐待についての基本的知識を修得している。

教授方法	講義形式。
履修条件	認定心理士あるいは公認心理師を目指す者が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	現代社会における福祉をめぐる現状と課題(福祉心理学とは何か、現代社会の現状と課題)	
2	親子のアタッチメント関係と支援(アタッチメントの形成、アタッチメントの障害、アタッチメント形成を阻害する要因、アタッチメントの形成への支援、子育て支援の施策)	
3	児童虐待の理解と支援(児童を取り巻く虐待の現状、虐待による発達上への影響、児童の虐待防止対策と被虐待児への支援)	
4	社会的養護の課題と支援(社会的養護とは何か、社会的養護の制度と実施体系、社会的養護の実際、社会的養護における心理職の展望)	
5	夫婦間・カップル間暴力への支援(ドメスティック・バイオレンスとは何か、夫婦再統合に関する事例、夫婦再統合のための観点)	
6	貧困家庭への支援(貧困の定義・現状とその影響、貧困家庭への具体的支援策、支援の課題と方向性)	
7	自殺の背景の理解と支援(自殺の実態と対策の枠組み、自殺のメカニズムを説明する心理的理論、自殺対策における支援)	
8	障害と疾病の理解(障害者処遇を大きく変えたノーマライゼーション原理、共生社会の構築に向けて、障害の分類、障害者支援の観点)	
9	高齢者の心身機能の特徴(老年期の心理的適応、老年期の心理的特徴、老年期の心理的アプローチ、高齢福祉領域における多職種連携)	
10	認知症の理解と支援(認知症の定義と原因疾患、認知症の症状とアセスメント、認知症の人の理解と支援)	
11	介護と高齢者虐待(高齢者を介護する家族の心理と対応、介護保険制度と介護サービス、高齢者虐待の現状と有効な対応)	
12	災害と福祉①(災害と福祉心理学、こころのケアとウェルビーイング)	
13	災害と福祉②(災害における福祉心理学的援助の考え方)	
14	多職種連携による支援①(福祉心理相談・支援の連携による支援について、福祉心理相談・支援の事例)	
15	多職種連携による支援②(福祉心理相談・支援の多職種連携による支援のまとめ)	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	60	授業内容を理解できているか。毎回実施する小テストの点数で評価する。	レポート	40	期日までに，指定した書式でレポートを提出することができたものについて内容で評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業で使用するレジュメ(スライド)は，GoogleClassroomまたはメソフィアを通して1週間前までに配布するので，必ず目を通し，何が理解できていて，何が理解できていないかを明確になるまで予習しておいてください。［60分］ ②毎回講義後に復習すること。不明な点は図書館等で調べるなどすること。授業時も質問を受け付けます。［90分］	毎回行う小テストは，採点の上,返却する。

受講生に望むこと	福祉心理学は新しい学問でありながら公認心理士試験では9%もの出題があります。この授業はそのための対策も兼ねながらも，それを超えて，皆さんと一緒に，ディスカッションしながら楽しい授業を目指します。協力を願います。	教科書・テキスト	特に用いません。
指定図書／参考書等	なし／『福祉心理学』渡部純夫・本郷一夫(編著)　ミネルヴァ書房　ISBN978-4-623-08627-6.『生活支援の障害福祉学』奥野英子・結城俊哉(編著)　明石書店　ISBN978-4-75032-6-306.	その他・特記事項	なし。

実務経験を活かした授業の概要

小・中・高等学校の校長として勤務する中で、児童相談所等の職員との連携により子どもの安全・安心の確保に努めている。また、病院倫理委員として高齢者および家族に対する職員の倫理に関して心理学的観点から意見を発信している。
自身の経験を踏まえ、福祉の対象となる側(乳児・児童・障害者・高齢者)を軸に章立てをし，その分野の福祉的な諸問題に，心理学がどのように役立つのかをペア・グループワークやディスカッションを交えながら説明する。”

授業科目名	ST305U 司法・犯罪心理学			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	宮城　徹						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
司法・犯罪心理学に関する一般的な知識とこの分野で働く心理職が身につけておくべき基礎的知識を学ぶ。 参加学生にテキスト内容の説明を求め、それに解説を加える。さらに理解を深めるためにディスカッションを行う。 ※SDGsターゲット3.5,10.3,16.1～3,16.6,16.7,16.9,16.b関連科目	（1）犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基礎知識を習得し、概要を説明できる。 （2）犯罪・非行分野における心理支援について、その特徴を学び、概要を説明できる。 （3）離婚問題を中心とする夫婦と子どもの心理的問題を学び、それらについて理解を深める。

教授方法	輪読形式を中心とし、グループワーク（学生間討議）も行う。
履修条件	認定心理士や公認心理士等心理に関連する職を目指す者、教職を目指す者が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	この授業の目的とゴール：イントロダクション、犯罪心理学の歴史	
2	犯罪と心理：科学的犯罪捜査と犯罪・非行の予防における心理学	
3	いかに評価するか、判断するか：犯罪・非行の心理アセスメント	
4	いかに接近をはかるか：　犯罪・非行に対する心理面接とその技法	
5	法律的観点：　犯罪心理学に関する法律と制度	
6	非行をどうとらえるか：　非行少年への心理支援	
7	加害者へのアプローチ1：　犯罪加害者への心理アセスメント	
8	加害者へのアプローチ2：　矯正施設における加害者臨床	
9	類型化の意味：　犯罪類型の特徴と心理支援	
10	被害者へのアプローチ：　犯罪被害者への心理支援	
11	社会はどうあるのか：　社会内処遇と心理支援	
12	金沢家庭裁判所見学（家庭裁判所調査官、書記官から学ぶ）	
13	家事事件とは：　家事事件における法律と制度	
14	離婚を取り巻く問題１：　離婚と子どもの心理	
15	離婚を取り巻く問題2：　離婚後の家族関係と支援 補足および全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	30	最終日講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。	受講態度	20	発言、質問、グループディスカッションなどの参加態度をみる。
毎回授業後課題(宿題)	50	授業内容と自己学習に基づく基礎知識と自分なりの意見を展開して答えているかどうかをみる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・シラバスを確認し、毎回行う内容を予習してくること［毎回60分］ ・学習した内容のうち、自分が特に関心を持った項目について、文献探索、購読を行うこと。これが期末レポートの基礎になる。	・毎日の課題に関しては、次回授業冒頭でフィードバックを行う。 ・期末レポート（メール提出）に関しては、コメントをつけてメール返信を行う。

受講生に望むこと	・集中講義であり、1日でテキストの3章分を学習することになる。十分にテキストを読み込んで授業に参加すること。翌日の予習に加え、その日の3章分の課題を当日中に提出する必要がある。したがって、集中講義期間直前、期間中は極力アルバイトなどは入れず、予習、復習に打ち込めるようにしておくことが望まれる。 ・指定されたテキストはわかり易く書かれている。必ず予習をし、用語や概念を理解して受講すること。 ・授業では事前学習で得た知識をもとにして、討議に積極的に参加すること。 ・オンライン授業となった場合には、必ずビデオカメラをオンにして参加すること(バーチャル背景は使用してよい)。	教科書・テキスト	『公認心理士の基礎と実践19　司法・犯罪心理学』（野島一彦・繁枡算男監修、岡本吉生編）2019　遠見書房 ISBN: 978-4-86616-069-6
指定図書／参考書等	なし／『犯罪心理学　ビギナーズガイド：　世界の捜査，裁判，矯正の現場から』　R. ブル、C.クック他著、仲真紀子監訳　2010　有斐閣 ISBN: 978-4-641-17369-9	その他・特記事項	本科目は集中講義であり、8月上旬に対面授業を実施する予定。1回のフィールドワーク（家庭裁判所見学）を含む予定である。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ST315U 健康・医療心理学			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	森　彩香						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
本授業は公認心理師を目指すにあたり必要な科目である。ストレスと心身反応との関連、保健・医療・災害等の現場における心理社会的課題についての理解を深める。また、心理職の実践的な支援方法を学ぶ。	以下の項目内容に関する知識を習得し、自らの言葉で概要を説明できるようになることを目標とする。 ①ストレスと心身の疾病との関係 ②医療現場における心理社会的課題及び必要な支援 ③保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援 ④災害時等に必要な心理に関する支援

教授方法	基本的に講義形式を予定しているが、適宜ディスカッションやグループワークも取り入れる。
履修条件	公認心理師を目指すものが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：授業の進め方や成績評価基準の説明	
2	健康心理学①：健康心理学の特徴について説明	
3	健康心理学②：健康心理学におけるアセスメントと支援について説明	
4	ストレスとは何か①：ストレスと心身の疾病との関係について説明	
5	ストレスとは何か②：ストレスの対処法について説明	
6	健康心理学における各種心理支援法：心理支援方法の実際について説明	
7	医療心理学①：医療心理学の特徴について説明	
8	医療心理学②：医療心理学におけるアセスメントと支援について説明	
9	医療現場の実際①：精神科・心療内科領域の疾患・心理支援について説明	
10	医療現場の実際②：児童精神科・小児科領域の疾患・心理支援について説明	
11	緩和医療：緩和医療現場での心理的援助について説明	
12	産業保健：産業保健現場での心理的援助について説明	
13	地域保健活動：地域保健の現場での心理的援助について説明	
14	災害心理学：災害時の心理状態の変化と心理的支援について説明	
15	全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	授業で取り扱った内容を習得できているかどうかを評価する。	リアクションペーパーまたは小テスト	30	授業で配布する（不定期）。授業内容をもとに自分自身の考えを述べることができるかどうか、心理職として必要な知識が身についているかどうかを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業前にシラバスを確認し、該当する教科書のページを読んでおく［60分］ 授業後に、自分自身のこれまでの体験が授業で習得した内容とどのように関わっているのかを自分なりに考察する［60分］	提出してもらったリアクションペーパーについては、次回講義時に全体に対しコメントする。

受講生に望むこと	主に保健・医療現場の心理職には欠かせない知識や考え方を取り扱いますが、いずれも自分の言葉で他者に説明できるようになることを目指してください。	教科書・テキスト	教科書：『公認心理師カリキュラム準拠 健康・医療心理学』宮脇稔・大野太郎・藤本豊・松野俊夫 編, 医歯薬出版, 2018年出版, ISBN-13:978-4263265772.
指定図書／参考書等	指定図書：なし／参考書等：『公認心理師必携テキスト 改訂第2版』福島哲夫・尾久裕紀・山蔦圭輔・望月聡,学研メディカル秀潤社出版,2018年出版,ISBN 13:9784780912920.	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ST320U 関係行政論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	小笠原　知子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
この授業は公認心理師になるためのカリキュラム必修群の一つで、公認心理師が専門職として従事する分野を次の５つ：①保健医療分野、 ②福祉分野、③教育分野、④司法・犯罪分野、⑤産業・労働分野、に分け、それぞれの分野にどのような専門職や施設があり、どのような制度や法律が整備されているかを、具体的な事例や事件を取り上げながら履修します。効果的に学ぶためにグループ発表やペアワーク、また小テストなどを通じて総合的な理解を進めます。	この授業を通して、公認心理師養成カリキュラムが定める次の5つの分野①保健医療分野 ②福祉分野③教育分野④司法・犯罪分野⑤産業・労働分野に関する政策や法律について知識を得、具体的な適用について述べることができるようになりますなる。

教授方法	講義・グループ討論・ペアワーク
履修条件	公認心理師または対人援助職を目指す学生

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	はじめに：①公認心理師とは？（法的義務や倫理について）②授業内容、課題、評価についての説明	
2	A.保健医療の分野について①どのような施設や専門家がいるのか？　②支える法律と政策	
3	A.保健医療の分野について③精神科医療と地域保健医療　④法律と政策の適用	
4	A.保健医療の分野について⑤具体的事例からまとめる保健医療の政策と法律	
5	B.福祉の分野について①どのような施設や専門家がいるのか？　②支える法律と政策	
6	B.福祉の分野について③生活保護、児童、障害者、高齢者　④支える法律と政策	
7	B.福祉の分野について⑤具体的事例からまとめる福祉政策と法律	
8	C.教育の分野について①どのような施設や専門家がいるのか？　②支える法律と政策	
9	C.教育の分野について③いじめ、発達障害、いのちを守る　④支える法律と政策	
10	C.教育の分野について⑤具体的事例からまとめる教育政策と法律	
11	D.司法・犯罪の分野について①どのような施設や専門家がいるのか？　②支える法律と政策	
12	D.司法・犯罪の分野について③少年犯罪、犯罪被害者、家庭裁判所　④具体的事例から見る政策と法律	
13	E.産業・労働の分野について①どのような施設や専門家がいるのか？　②支える法律と政策	
14	E.産業・労働の分野について③ストレス・人間関係・ワークライフバランス　④具体的事例から見る法律と政策	
15	試験・グループ発表	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加	20	授業における発言、課題への取り組み、グループやペアワークへの姿勢 （詳細は授業オリエンテーションを参照）	小テスト/課題提出	30	授業中に行う小テストや課題学習の提出（詳細は授業オリエンテーションを参照）
試験	30	最終回授業にて行う（60分）	発表	20	関連したテーマごとに授業中にグループごとに実施するもの （詳細は授業オリエンテーションを参照）

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
初回授業において事前学習の詳細については説明する	小テストは解答を行い、提出課題に対しては、課題点およびコメントをつけて返却

受講生に望むこと	関係行政論は政策や法律のみに焦点を当てると煩雑で膨大になりますが、心理職・対人援助職としてクライアントやその関係者を支援するうえで必要な、役に立つものとして学んでほしいと思います。その際、身の回りの社会でおこる具体的な事件や事例と積極的に結び付けこの授業の理解を広げてほしいと思います。	教科書・テキスト	公認心理師の基礎と実践　23巻「関係行政論」　遠見書房　元永拓郎編　ISBN-10:4866161051　ISBN-13:978-4866161051
指定図書／参考書等	授業内で紹介する。	その他・特記事項	特になし

実務経験を活かした授業の概要

これまでの対人援助専門職としての実務経験を活かし、心理的支援の際に関わる政策や法律について具体的な運用を念頭に置きながら講義を行う。

授業科目名	SK305U 専門ｾﾞﾐⅡ			開講学科	社会	必修・選択	必修
担当教員名	松下　健・小林　正史・田中　純一・田引　俊和・俵　希實・真砂　良則・若山　将実・矢澤　励太・竹中　祐二・若杉　亮平・加藤　仁（代表教員　松下　健）						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
「専門ゼミⅠ」で学んだ研究方法を土台に、それぞれの専門分野で設定したテーマに沿って研究レポートを作成する。具体的には、先行研究の検討、研究上の仮説の構築、適切な方法論の構築などを行った上で、データ収集、分析、解釈を実施し合理的な結論を導く。この過程をゼミ担当教員の指導の下で行う。レポートを作成するとともに、その成果を卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会で報告する。	①各自の問題関心を深めて研究テーマを設定し、それについて論理的に考えることができるようになる。 ②設定した研究テーマについて、レポートを作成することができるようになる。 ③レポートの内容について、プレゼンテーションを通して効果的な報告を行うことができるようになる。 ④専門分野について自分の考えを持ち、ディスカッションに参加できるようになる。

教授方法	演習
履修条件	「専門ゼミⅠ」の単位を修得済の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の目的、流れ、方針と評価方法等について説明する。	各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
15	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
16	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
28	卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会での報告準備。	各担当教員

授　業　計　画		
実施回	授業内容・目標	担当教員
29	卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会での報告。	全教員
30	全体のふりかえり。	各担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	30	①授業にまじめに取り組んでいるか（報告会を含む）。 ②積極的にディスカッションに参加しているか（報告会を含む）。	レポート	50	①期限内に提出しているか。 ②指定された字数、書式にしたがっているか。 ③適切な内容となっているか。
成果報告	20	①レポートの内容を効果的に伝えることができているか。 ②報告態度は適切か。 ③質疑への応答ができているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
レポートの作成および報告会の準備は、ほぼ授業外で行う。［120分以上］	卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会において行う。

受講生に望むこと	レポートの作成は、早目に着手し、主体的に進めて欲しい。	教科書・テキスト	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。
指定図書／参考書等	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	その他・特記事項	不明な点は自分の所属するゼミ担当教員に問い合わせをすること。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SK310U 卒業研究			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	松下　健・小林　正史・田中　純一・田引　俊和・俵　希實・真砂　良則・若山　将実・矢澤　励太・竹中　祐二・若杉　亮平・加藤　仁（代表教員　松下　健）						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
大学での学びの集大成として、これまでの専門分野での学習を総合的に生かし、自ら研究テーマを設定し、その研究テーマの探究を通して、研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。具体的には、研究方法の選択、先行研究の検討、研究上の仮説の構築、適切な方法論の構築などを行った上で、データ収集、分析、解釈を実施し合理的な結論を導き、卒業論文を執筆する。また、卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会で研究成果を報告する。	①現代社会が抱える様々な問題に対しての関心を高め、研究テーマを設定し、それについて論理的に考えることができるようになる。 ②専門分野において適切な研究計画を遂行するための技法、考え方を身につける。 ③既存の資料や文献の批判的検討を通じて独自の分析視点を構築できるようになる。 ④研究内容について、論文執筆および口頭発表という形で的確に表現することができ、さらに他者と討論ができるようになる。

教授方法	演習
履修条件	3年次終了時点で累積GPAが2.5以上であること。3年次までに開講されている全必修科目の単位を修得していること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：卒業研究の概要および注意事項等について説明する。	全教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
15	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
16	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
28	卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会での報告準備	各担当教員

授　業　計　画		
実施回	授業内容・目標	担当教員
29	卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会での報告	全教員
30	卒業研究の総括	各担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	10	①研究にまじめに取り組んでいるか（報告会を含む）。 ②積極的にディスカッションに参加しているか（報告会を含む）。	卒業論文	80	①期限内に提出しているか。 ②指定された字数、書式にしたがっているか。 ③適切な内容となっているか。
成果報告	10	①卒業論文の内容を効果的に伝えることができているか。 ②報告態度は適切か。 ③質疑への応答ができているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
卒業論文の作成および卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会での報告準備は、ほぼ授業外で行う。［120分以上］	卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会において行う。

受講生に望むこと	卒業論文の作成は、早めに着手し、主体的に進めて欲しい。	**教科書・テキスト**	担当教員の指示にしたがう。
指定図書／参考書等	担当教員の指示にしたがう。	**その他・特記事項**	不明な点は自分の所属するゼミ担当教員に問い合わせること。 履修条件についての詳細は、『学生要覧』の「卒業研究履修条件」を参照のこと。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SW310U 福祉行財政と福祉計画			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	田中　純一						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
この講義では、福祉行政の実施体制及び福祉財政の動向、福祉計画の意義・目的、方法に関する基礎的事項を、分野横断的に理解する。 ※SDGsターゲット1.1～1.3,3.1,3.2,4.1～4.a,10.2～10,4,11.3,16.7関連科目	①福祉行財政のしくみについて具体的に説明することができる。 ②福祉行財政の内容について具体的に説明することができる。 ③福祉行財政の現状について具体的に説明することができる。 ④福祉行財政の課題について具体的に説明することができる。

教授方法	講義及びテーマに基づくディスカッション
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス	
2	福祉の法制度と福祉計画　　福祉の法制度の歴史的展開及び福祉計画の概要について理解する。	
3	福祉行政　　福祉行政の実施体制、組織について理解する。	
4	国の福祉財政　　国の一般会計予算と社会保障関係費の動向について理解する。	
5	地方の福祉財政　地方自治体の福祉財政と民生費の動向について理解する。	
6	福祉行政の組織（１）　福祉行政における専門機関及び専門職の役割について理解する。	
7	福祉行政の組織（２）　福祉行政における相談支援体制について理解する。	
8	福祉計画の意義と目的　福祉計画の意義と目的、住民参加の意義について理解する。	
9	福祉計画の基本的視点　福祉計画の概念、福祉行財政との関係性について理解する。	
10	福祉計画の技法（１）　福祉計画におけるニーズ把握、評価について理解する。	
11	福祉計画の技法（２）　福祉計画と住民参加について理解する。	
12	福祉計画の策定過程　問題分析と合計形成の方法について理解する。	
13	福祉計画の実際（１）　老人福祉計画、介護保険事業計画について理解する。	
14	福祉計画の実際（２）　障害者計画、障害福祉計画、地域福祉計画について理解する。	
15	まとめ・総括	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
講義参加態度	10	講義への積極的参加	小テスト	15	講義の理解度
レポート	25	講義で学んだ知識等を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考がなされている	期末試験	50	要求されたレベルの論考がなされている

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①適宜資料を配るので、講義までに目を通し内容を理解する ［30分以上］ ②適宜小テストを実施するので、先に学んだことを復習する ［30分以上］ ③講義で紹介した書籍、論文等について目を通し知識を得る ［30分以上］	社会福祉士国家試験過去問を中心とした小テストを講義時間内に適宜実施する。

受講生に望むこと	国家試験受験を目指す学生に照準を当て講義を展開する。受講生は高い目的意識をもって講義に臨んで欲しい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし/社会福祉士養成講座編集委員会編『福祉行財政と福祉計画』第5版、中央法規出版、2017　ISBN-13　978-4805854303	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SW315U 福祉ｻｰﾋﾞｽの組織と経営			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	竹中　祐二						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
福祉サービスを担う組織・団体の多様性を認識しつつ、福祉とは馴染まないと思われがちな経営的な側面について学ぶ。組織論、経営・マネジメント論の一般的な理解に努めつつ、福祉サービス提供者としての特殊性を踏まえた知識と理解の獲得に努める。	①福祉サービスに関わる主体を類型化し、そのポイントを的確に文章で説明することができる。 ②福祉サービスに多様な主体が関わることの意義について、ポイントを的確に文章で説明することができる。 ③福祉サービスが制度として提供されるべき社会的な背景について、歴史的経緯と特徴を正しく理解し、文章で説明することができる。 ④福祉サービスが制度として提供されるべき根拠となる諸概念について、短い文章で説明することができる。 ⑤福祉サービスに限らない、およそ組織・集団を運営・経営する上でのポイントについて、用語や概念を短い文章で説明することができる。 ⑥福祉サービスを提供する組織・集団が固有に抱える理念・概念上のポイントについて、具体例を交えながら文章で説明することができる。 ⑦福祉サービスを提供する組織・集団を支える今日の諸制度について、歴史的経緯と特徴を正しく理解し、文章で説明することができる。

教授方法	講義（一部、映像教材の視聴や個人ワークを採り入れることもある。）
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	福祉サービスの基礎知識①：総論的な社会福祉史を踏まえつつ、サービスとしての福祉実践のあり方を理解する。	
2	福祉サービスの基礎知識②：福祉レジームや社会市場等の考え方を基に、現代社会における福祉サービスのあり方について学ぶ。	
3	福祉サービスの基礎知識③：福祉レジームや社会市場等の考え方を基に、現代社会における福祉サービスのあり方について学ぶ。	
4	福祉サービスの提供主体①：社会福祉法人を中心に、それとの比較を踏まえて、NPO法人、一般企業、ボランティア団体等の関わりについて学ぶ。	
5	福祉サービスの提供主体②：社会福祉法人を中心に、それとの比較を踏まえて、NPO法人、一般企業、ボランティア団体等の関わりについて学ぶ。	
6	福祉サービス経営の基礎理論①：経営学の理論や技法を基に、福祉サービス経営の概要について学ぶ。	
7	福祉サービス経営の基礎理論②：経営学の理論や技法を基に、福祉サービス経営の概要について学ぶ。	
8	福祉サービスの内部運営①：組織論を基盤にして福祉サービスにおける内部経営の概要について学ぶと共に、組織内部のグループダイナミクスについて学ぶ。	
9	福祉サービスの内部運営②：組織論を基盤にして福祉サービスにおける内部経営の概要について学ぶと共に、組織内部のグループダイナミクスについて学ぶ。	
10	福祉サービスの内部運営③：組織運営におけるリーダーシップについて学ぶと共に、スーパービジョン論に沿った、人材育成のあり方について学ぶ。	
11	福祉サービスの内部運営④：組織運営におけるリーダーシップについて学ぶと共に、スーパービジョン論に沿った、人材育成のあり方について学ぶ。	
12	福祉サービスの品質管理①：PDCAサイクルやISO認証制度等の、質保証における基本的な知識について学ぶ。	
13	福祉サービスの品質管理②：PDCAサイクルやISO認証制度等の、質保証における基本的な知識について学ぶ。	
14	福祉サービスの品質管理③：第三者評価や施設設置基準等の、社会福祉領域において安定した良質のサービス提供を果たすための仕組みについて学ぶと共に、当事者主体の流れを踏まえ、苦情解決制度や権利擁護について学ぶ。	
15	福祉サービスの品質管理④：第三者評価や施設設置基準等の、社会福祉領域において安定した良質のサービス提供を果たすための仕組みについて学ぶと共に、当事者主体の流れを踏まえ、苦情解決制度や権利擁護について学ぶ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加度	20	日常的な授業態度を評価する。	筆記試験	80	学習内容を正しく理解した上で、自らの態度・意見を表明することができるような、記述を中心とする筆記試験を行う。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業で学習した福祉サービスに関わる用語や概念を正しく理解し、短い文章で説明できるように復習する。[30分] ②各回の授業で学習した福祉サービスに関わる用語や概念を、社会福祉全般の中で正しく位置付ける、あるいは他の各論領域と比較することができるように理解を深めるため、書籍や論文を積極的に読み込む。[30分] ③各回の授業で学習した組織経営に関わる用語や概念を正しく理解し、短い文章で説明できるように復習する。[30分] ④各回の授業で学習した組織経営に関わる用語や概念を、社会福祉全般の中で正しく位置付ける、あるいは他の各論領域と比較することができるように理解を深めるため、書籍や論文を積極的に読み込む。[30分] ⑤各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[30分]	・各回の授業でコメントフォームを活用し、そこでの質問は次回に全体共有する。

受講生に望むこと	・福祉的支援は決して一面的なものではないので、多様な視点から問題を切り取ることが大切である。そのため、自らの価値観は大切にしつつ、様々な知識と理解を吸収しようとする姿勢を持つことが望ましい。	教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）
指定図書／参考書等	＜参考書＞ 『新・社会福祉士養成講座11　福祉サービスの組織と経営（第5版）』 社会福祉士養成講座編集委員会編　中央法規出版　2017年 ISBN:978-4805854310 ※同種のテキストでも特に問題はないが、法制度の改正に合わせて適宜版が改められ、内容が更新されることに注意が必要である。 ※資格取得に向けたテキスト以外の基本書・概説書を合わせて読み込むことで、価値・理念を掘り下げて理解することが望ましい。	その他・特記事項	・日常的な学習について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。 ・授業実施形態に伴い、筆記試験からレポート課題へ変更する場合がある。 ・授業実施形態に伴い、また受講生のニーズあるいは登録状況に応じて、アクティブラーニングを採り入れるなど、授業内容を変更する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SW320U 公的扶助論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	堂田　俊樹						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
社会保障・社会福祉制度の中で「最後のセーフティ・ネット」の役割を果たすのが生活保護（公的扶助）である。生活保護は様々な要因によって貧困状態に陥った人々を経済給付により保護し、相談援助により自立助長を図る。生活保護を理解するため、法制度や相談援助の実践方法を学ぶと同時に、貧困が生み出される社会的要因と実態、政治・経済・社会構造の中で生活保護がどのような位置を占めるのかを考える。その上で、社会保障制度における生活保護制度の役割と社会的意義について考察する。 ※SDGsターゲット1.2,1.3,2.1,4.1関連科目	①現代社会における公的扶助の理念と意義について理解する。 ②公的扶助制度の歴史を理解する。 ③貧困・低所得者の動向と社会的課題について理解する。 ④生活保護制度とその関連制度の仕組みについて理解する。 ⑤生活保護の実施と関係専門職の役割について理解する。 ⑥現在の低所得者の支援に関する社会保障制度について理解する。 ⑦コミュニティソーシャルワークと生活保護ケースワークとの関連を理解する。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：授業の進め方、成績評価について。公的扶助論の概要、社会福祉士国家試験について理解する。	
2	公的扶助の意義と役割。公的扶助とは何か、国民の生活とどのように関連しているか、国民的議論になるのは何故かを理解する。	
3	公的扶助の歴史（英国中心に）。公的扶助制度はどのように萌芽したのか、世界に影響を与えた流れ、貧困観を理解する。	
4	公的扶助の歴史（日本）。戦前から戦後、占領軍の社会保障政策を学び、現代に続く公的扶助制度の根幹を理解する。	
5	公的扶助のしくみ（社会保険との違い）。社会保障制度の基本である制度設計について、民間保険との関係性も含め理解する。	
6	生活保護法を条文とともに概観する。法の目的、原理原則を理解し、国家試験対策としても習得する。	
7	生活保護制度（保護の種類、範囲、方法）。生活保護法及び運用規定等を含め、国家試験対策と絡めて理解する。	
8	生活保護ケースワークの概要。ソーシャルワーク実践としての事例を通して理解する。	
9	生活保護基準（扶助費等）。生活保護受給額や具体的内容について理解する。	
10	低所得者対策（ホームレス自立支援の施策等）。生活保護制度とホームレス対策を理解する。ソーシャルワーカーの実践活動から学ぶ。	
11	生活保護の実施体制（福祉事務所の業務と組織）を学ぶ。生活保護ワーカーと組織体制、関係外部機関との関りも理解する。	
12	低所得者に対するソーシャルワークの実践について理解する。具体的な手法について習得する。初回面談から終結の流れを理解する。	
13	生活保護における自立支援。生活保護と自立支援の関係を理解する。	
14	生活保護における自立支援。具体的な自立支援制度、経済的自立、日常生活自立、社会生活自立の概念を理解する。	
15	生活保護制度（不服申立と制度の運用）。講義のまとめとして、公的扶助とは何か、国民の生活とどのように関連しているか、自分と生活保護制度との関係を理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	70	①テーマに関し自らの考えを述べる②根拠に基づき論理的な説明③引用・参考文献を巻末に明示している。④誤字脱字がなく、段落も明確で読みやすい文章⑤「だ・である」体で統一して書かれている	課題への取組	30	講義では、各々に課題を与え、ディスカッションを行いながらすすめる。したがって、問題意識を持っているか、積極的に講義に参加しているかを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
＜各回共通＞ 予習：教科書の該当部分を事前に読了し、不明点について調べたり質問すること（120 分） 復習：配布したレジュメをもとに重要事項を確認し、不明点について調べたり質問すること（120 分）	授業開始時に前回の授業についてのフィードバックを行う。

受講生に望むこと	①人と環境について、理性的に見る力を養って欲しい。生活保護制度を取り巻く世論の実態とナショナルミニマムについて深く考える機会と捉えてください。 ②ソーシャルワーカーとして、クライエントに関わる場合、公的扶助を理解していないとどの分野においても丁寧なソーシャルワークはできません。 ③社会の貧困について様々な媒体から情報を取捨選択する力を身に着け、貧困を解消について理解を進めてください。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	参考図書：新・社会福祉士養成講座（第5版）１６巻『低所得者に対する支援と生活保護制度』社会福祉士養成講座編集委員会編　中央法規出版　2019年　ISBN：978-4805858103	その他・特記事項	①学籍番号順に座席を指定する。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SW345U 相談援助演習Ⅴ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	前川　直樹						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
演習のねらいは、相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得させるとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養することにあります。この授業では、地域福祉の基盤整備と開発に係る事例等を活用した演習により、地域で展開されている援助技術の実際について学び、具体的実践能力の習得をめざします。	①地域で展開されている援助技術について、具体的なレベルで理解する。 ②各理論・概念、技術や価値について、実践に適用する方法を理解できるようになる。 ③実習での体験や学習、日々の実践について、一般化・理論化する方法を理解できるようになる。

教授方法	講義と個人、グループでの演習。
履修条件	相談援助演習Ⅰ、相談援助演習Ⅱ、相談援助演習Ⅲ、相談援助演習Ⅳを履修済の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	演習実施のための枠組み（地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握）：アウトリーチの概念とニーズ整理の方法について知る。	
2	相談援助事例（地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握①）：アウトリーチ、ニーズ把握の実際について知る。	
3	相談援助事例（地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握②）：アウトリーチの具体的実践について考える。	
4	演習実施のための枠組み（チームアプローチ）：チームアプローチの概念と実際について知る。	
5	相談援助事例（チームアプローチ）：チームアプローチを促進するコーディネーションの技術について考える。	
6	演習実施のための枠組み（ネットワーキング）：ネットワーキングの概念と実際について知る。	
7	相談援助事例（ネットワーキング①）：ソーシャルサポート・ネットワークの具体的実践について考える。	
8	相談援助事例（ネットワーキング②）：地域福祉を推進するための総合的なネットワーク形成について考える。	
9	演習実施のための枠組み（社会資源の活用・調整・開発）：社会資源の概要と活用・調整の方法について知る。	
10	相談援助事例（社会資源の活用・調整・開発①）：社会資源開発の具体的展開について考える。	
11	相談援助事例（社会資源の活用・調整・開発②）：ソーシャルアクションの具体的展開について考える。	
12	演習実施のための枠組み（サービスの評価）：サービスの評価の概念と実際について知る。	
13	相談援助事例（サービスの評価）：福祉サービスの評価制度の概要について知る。	
14	演習実施のための枠組み（地域福祉の計画）：コミュニティソーシャルワークの概念、地域福祉計画の概要について知る。	
15	相談援助事例（地域福祉の計画）：地域福祉の計画化、住民の主体化と住民参加について考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	45	授業に対する取り組み姿勢を評価します。 ・講義、個人での演習時の学習態度 ・グループでの演習への参加態度	課題レポート	20	指定する書式にて期日までに提出し、自身の考察を加えてまとめていることを評価します。
期末試験	35	講義、演習内容の理解を筆記試験で評価します。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習として、各回の内容を他の科目のテキスト、またはその他のテキスト（例：「新・社会福祉士養成講座」社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版）等を参考にして確認しておく。[30分] ②事後学習として、テキスト（社会福祉士 相談援助演習）にある各回の内容に関連する他の演習課題にも各自取り組む。[60分]	レポートは２週間を目安に評価とコメントをつけて返却します。

受講生に望むこと	他の科目で習得した内容や実習での体験、学習等と関連づけながら、積極的に各作業や討議に参加して下さい。	教科書・テキスト	『社会福祉士 相談援助演習 第２版』社団法人日本社会福祉士養成校協会監修、中央法規出版、2015年、ISBN978-4-8058-5123-4
指定図書／参考書等	授業中に適宜紹介します。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

社会福祉の実施機関、事業所での相談員としての実務経験をもとに、近年の動向も取り入れながら、社会福祉の理論や歴史、制度、方法等について話をしている。

授業科目名	SW355U 相談援助実習指導Ⅱ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則・田引　俊和　（代表教員　真砂　良則）						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
相談援助実習Ⅰで学んだ「専門知識」「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、相談援助業務に必要となる資質・能力・技術を習得する。実習を行う分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等について学ぶ。個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に学び実践的な技術等を体得する。	①相談援助実習Ⅰを振り返り、実習Ⅱに向けた課題について改めて把握することができる。 ②実習を行う分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等について理解できる。 ③個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得することができる。

教授方法	テキストをもとにした講義の他、、実習ガイドブックを用いた演習、ＤＶＤの視聴、ワークシートによる課題。
履修条件	相談援助実習指導Ⅰ、相談援助実習Ⅰを履修済の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	相談援助実習Ⅰにおける実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理	
2	相談援助実習Ⅰにおける実習記録や実習体験を踏まえたレポートの作成（テーマ設定・アウトライン）	
3	相談援助実習Ⅰにおける実習記録や実習体験を踏まえたレポートの作成（資料・データ整理）	
4	相談援助実習Ⅰにおける実習記録や実習体験を踏まえたレポートの発表（第1グループ）	
5	相談援助実習Ⅰにおける実習記録や実習体験を踏まえたレポートの発表（第2グループ）	
6	実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（事前リサーチ分野）	
7	実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（事前リサーチ施設）	
8	実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（概況表）	
9	実習目的と実習課題について（個人票）	
10	実習目的と実習課題について（実習計画）	
11	実習生に求められる姿勢	
12	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解（実習記録の目的・内容）	
13	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解（記述方法）	
14	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成	
15	巡回指導	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	・授業への積極的な取り組み ・課題への取り組み状況	提出物	50	・実習レポートやワークシート等の提出物の内容等

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①相談援助実習Ⅰについて、学びと課題を再確認しておく。 ②授業の前にあらかじめ指示したテキストの箇所を読んでおく。[30分以上] ③授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持てたことや疑問点に関して自分で調べて理解を深める。[30分以上]	・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。

受講生に望むこと	・実習では、社会人としてのマナーも問われる。挨拶や身だしなみなどに日頃から気をくばること。規律のある態度で授業に臨むこと。 ・実習及び実習指導は社会福祉士という国家資格の取得を目指すものであるということを常に意識すること。 ・相談援助実習Ⅱでは、Ⅰに比べ実習期間が長くなる。実習の良い準備が出来るよう、意欲的な姿勢で授業に臨むこと。	教科書・テキスト	『相談援助実習・相談援助実習指導』第3版 早坂聡久他編　弘文堂　2018年 ISBN978-4-335-61189-6
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

職能団体である社会福祉士会の現場職員との定期的な交流、意見交換をもとに現場で求められる社会福祉士像について、ディスカッション等により指導をおこなっている。

授業科目名	SW360U 相談援助実習指導Ⅲ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則・田引　俊和　（代表教員　真砂　良則）						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
相談援助実習Ⅱで学んだ「専門知識」「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、相談援助業務に必要となる資質・能力・技術を習得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	①相談援助実習Ⅱを振り返り、実習課題の達成状況の評価が適切にできる。 ②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的な能力を習得することができる。 ③具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立ててレポートにまとめることができる。

教授方法	テキストをもとにした講義の他、レポート作成、ワークシートによる課題。
履修条件	相談援助実習指導Ⅱ、相談援助実習Ⅱを履修済の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	実習の価値と事後学習の意義	
2	相談援助実習Ⅱにおける実習課題の達成状況の評価	
3	相談援助実習Ⅱにおける課題や疑問点の言語化と整理	
4	実習評価と自己評価（相談援助実習と評価）	
5	実習評価と自己評価（スーパービジョン）	
6	相談援助実習Ⅱにおける実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成（テーマ設定）	
7	実習Ⅱにおける実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成（アウトライン）	
8	実習Ⅱにおける実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成（資料・データ収集・整理）	
9	実習Ⅱにおける実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成（レポート作成）	
10	実習Ⅱにおける実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成（見直し、プレゼン準備）	
11	実習総括レポートの発表とディスカッション（第1グループ）	
12	実習総括レポートの発表とディスカッション（第2グループ）	
13	実習報告会における実習総括レポート発表と指導者からの助言（第1グループ）	
14	実習報告会における実習総括レポート発表と指導者からの助言（第2グループ）	
15	実習指導のまとめ、総括	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	・授業への積極的な取り組み ・課題への取り組み状況	提出物	50	・実習レポートやワークシート等の提出物の内容等

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①相談援助実習Ⅱについて、学びと課題を再確認しておく。 ②授業の前にあらかじめ指示したテキストの箇所を読んでおく。[30分以上] ③授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持てたことや疑問点に関して自分で調べて理解を深める。[30分以上]	・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。

受講生に望むこと	・実習及び実習指導は社会福祉士という国家資格の取得を目指すものであるということを常に意識すること。 ・実習全体のまとめ・整理を行って、今後の学びにつなげていく。	教科書・テキスト	『相談援助実習・相談援助実習指導』第3版 早坂聡久他編　弘文堂　2018年 ISBN978-4-335-61189-6
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

職能団体である社会福祉士会の現場職員との定期的な交流、意見交換をもとに現場で求められる社会福祉士像について、ディスカッション等により指導をおこなっている。

授業科目名	SW370U 相談援助実習Ⅱ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則・田引　俊和　（代表教員　真砂　良則）						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	3単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
１６日間（１２８時間）にわたる相談援助実習Ⅱを通して、相談援助に係る専門的な知識と技術について具体的かつ実際的に学び、実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に学ぶ。	①実習施設・機関の機能・役割や利用者のニーズ等について理解できる。 ②社会福祉士の業務内容について実際的に理解できる。 ③ソーシャルワークの知識や技術について、総合的に対応できる能力が習得できる。

教授方法	実習施設の指導者による指導、担当教員による巡回指導等。
履修条件	相談援助実習Ⅰの単位を修得済の者。相談援助実習指導Ⅱを履修した者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成	実習指導者、担当教員
2	利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成	実習指導者、担当教員
3	利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成	実習指導者、担当教員
4	利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む）とその評価	実習指導者、担当教員
5	多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際	実習指導者、担当教員
6	社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解	実習指導者、担当教員
7	施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際	実習指導者、担当教員
8	当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解	実習指導者、担当教員
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習施設の指導者による評価	60	・実習の態度 ・専門的知識、技術の習得の状況	担当教員による評価	40	・実習記録の内容等

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①実習の前に事前学習や実習計画、実習プログラム等の内容を再確認しておく。［30分］ ②実習の後に実習課題に関する自己評価や内省を行うとともに疑問点等を調べ次に備える。［60分］	・実習記録等をもとに、実習指導者から指導を受ける。 ・巡回訪問時等の面接により、担当教員から気づきを促していく。 ・実習を終えての内省や自己評価を実習指導Ⅲに繋げていく。

受講生に望むこと	・相談援助実習Ⅰの学びを踏まえ、より良い実習となるよう意欲的に取り組む。 ・実習及び実習指導は社会福祉士という国家資格の取得を目指すものであるということを常に意識すること。 ・社会福祉士の具体的なイメージを掴む。	教科書・テキスト	『相談援助実習・相談援助実習指導』第3版 早坂聡久他編　弘文堂　2018年 ISBN978-4-335-61189-6
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SS310U ｽｸｰﾙｿｰｼｬﾙﾜｰｸ演習			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
1．スクール（学校）ソーシャルワーカーに必要な視点、および援助技術について、援助場面を想定した具体的な事例を用い考察を深め、理解する。 2．個別性・共通性の理解とともに、子どもを取り巻く環境との関係性、および学校教育現場の特性、当該地域の特性についても理解を深め、必要かつ適切な能力を習得する。 3．スクール（学校）ソーシャルワーク実習、および国家試験を意識した内容を展開する。	1．個別事例へのアセスメントのみでなく、ソーシャルワーカーとして、教育行政や学校の動き、地域を把握し、地域アセスメント、学校（地域機関）アセスメントができる力をつける。 2．スクール（学校）ソーシャルワーク実践、特にメゾ・マクロプラクティスについて実際に体験的に習得する。 3．記録化する手法を持たない学校のなかで、記録化するだけでなく、校内で記録用紙を創造し、蓄積していく力をつける。

教授方法	演習
履修条件	「相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、「相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、「相談援助実習指導Ⅰ」、「相談援助実習Ⅰ」の単位修得済みの者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ソーシャルワークの価値、福祉の価値、ミッションとは	
2	子どもを取り巻く地域の状況、インフォーマルな機関を含めた地域機関、教育委員会、学校の状況の把握、地域アセスメント、学校アセスメント	
3	ミクロプラクティス（具体的な問題解決能力、アウトリーチ）	
4	メゾプラクティス（チームアプローチ、マネジメント）	
5	メゾプラクティス（ケース会議、教育行政との協働）	
6	マクロプラクティス（市町村子ども家庭相談体制の位置づけ、福祉・教育協働の相談体制作り）	
7	マクロプラクティス（地域に根ざした活動展開、開発機能の意義と実践）	
8	記録、スーパービジョン、評価（スクール（学校）ソーシャルワークを維持発展させる力、実証的にソーシャルワーク行為を示す力）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	演習への参加態度（発言の程度、頻度、内容など）、提出物等	レポート・授業内確認テスト等	50	レポート・ワークシート・小テストの記載内容、授業内容の理解

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．毎回、資料等で授業を振り返り、学びを定着させる。[30分以上] 2．社会の事象に関心を持ち、福祉・教育分野との関係を意識する、まとめる。 3．社会福祉、教育現場への理解を深めるため、施設・機関への見学、ボランティアに参加する。	確認テスト等は、毎回結果とともに内容を解説する。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応する。

受講生に望むこと	1．学校教育における相談援助職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。 2．現代社会では教育現場におけるニーズや課題は多様化し、範囲も広がっています。日頃から関連するニュース、社会的事象に関心を持つようにしてください。	教科書・テキスト	必要な資料を講義内で配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし　必要な資料を講義内で配布する。	その他・特記事項	とくになし。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SS315U ｽｸｰﾙｿｰｼｬﾙﾜｰｸ実習指導			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
1．スクール（学校）ソーシャルワーク実習にかかる個別指導並びに集団指導を通して学校における相談援助活動やソーシャルワーク実践にかかる知識と技術について、具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。 2．具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化、理論化し、体系立てていくことができる能力を養う。	1．スクール（学校）ソーシャルワーク実習の意義について理解する。 2．学校現場等を知り、学校組織を体験的に学ぶ。 3．教育の場において社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 4．用意された現場ではなく社会福祉が展開されるべく新しい現場に入るという意味を十分理解し、開拓の視点を養う。

教授方法	演習
履修条件	「スクール（学校）ソーシャルワーク演習」の単位修得済みの者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	スクール（学校）ソーシャルワーク実習の意義、学校、教育委員会、教育センター、適応指導教室など基本的な理解	
2	実習先で必要とされる相談援助（子ども、家族、教員対象）に係る知識と技術に関する理解、実習先で必要とされるチームで対応する力やケース会議に係る知識と技術に関する理解	
3	実習先の自治体等の子ども相談体制についての理解、現場体験学習（個別面接、ケース会議、連携会議など）、見学実習、実習における個人のプライバシー保護と守秘義務等の理解	
4	実習記録ノートへの記録内容、及び記録方法に関する理解	
5	実習生、実習担当専任教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成	
6	巡回指導	
7	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理、実習におけるスクール（学校）ソーシャルワーク実習としての不足分のレポート、実習総括レポートの作成	
8	実習の評価全体総括会（報告会）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	授業への参加態度（発言の程度、頻度、内容など）、提出物等	レポート・授業内確認テスト等	50	レポート・ワークシートの記載内容、授業内容の理解

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．毎回、資料等で授業を振り返り、学びを定着させる。[30分以上] 2．社会の事象に関心を持ち、福祉・教育分野との関係を意識する、まとめる。 3．社会福祉、教育現場への理解を深めるため、施設・機関への見学、ボランティアに参加する。	確認テスト等は、毎回結果とともに内容を解説する。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応する。

受講生に望むこと	1．学校教育における相談援助職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。 2．疑問点や深い洞察も含めた知識の探求を意識し学んで下さい。 3．現代社会では教育現場におけるニーズや課題は多様化し、範囲も広がっています。日頃から関連するニュース、社会的事象に関心を持つようにしてください。	教科書・テキスト	必要な資料を講義内で配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし　必要な資料を講義内で配布する。	その他・特記事項	とくになし。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SS320U ｽｸｰﾙｿｰｼｬﾙﾜｰｸ実習			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
1．規定時間数のスクール（学校）ソーシャルワーク実習を通して、日々子どもたちが過ごす学校現場等を知り、学校組織を体験的に学び、理解を深める。 2．ソーシャルワーク実践にかかる知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する。	1．スクール（学校）ソーシャルワーカーとして求められる資質、技能、倫理から、福祉が一次分野でない教育現場における課題を見つけられる力を養う。 2．教職員、他との連携のあり方、及びその具体的内容を実践的に理解する。 3．子どもや家族、教職員から自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

教授方法	実習
履修条件	「スクール（学校）ソーシャルワーク演習」、「スクール（学校）ソーシャルワーク実習指導」の単位修得済みの者、または同時履修の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	子どもたち、教職員、教育委員会、事例や学校に関する関係者との基本的コミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成	実習指導者・担当教員
2	子ども・家族の理解、学校、教育委員会、教育センター、適応指導教室など基本的な理解、そしてそのニーズ把握と支援計画の作成	実習指導者・担当教員
3	子ども・家族、そして学校、教育委員会などとの援助関係の形成、子ども・家族への権利擁護、そして学校、教育委員会など含めての支援（エンパワーメント含む）とその評価	実習指導者・担当教員
4	校内におけるケース会議や学年会議でのケース検討における進め方の実際	実習指導者・担当教員
5	校内や関係機関を含めた多職種によるチームアプローチの実際	実習指導者・担当教員
6	社会福祉士としての職業倫理、教員など学校関係者の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解	実習指導者・担当教員
7	学校運営、学校組織、教育委員会組織の実際	実習指導者・担当教員
8	市町村の子ども相談体制についての理解、学校がどのようにつながっているのか具体的なネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解	実習指導者・担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習指導者による評価	60	実習態度、専門的知識・技術の習得の状況	担当教員による評価	40	実習記録の内容等

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．実習前においては、事前学習、実習計画、実習プログラムを確認する。 2．実習後は、実習計画・課題に対する振り返りや自己評価を行い、有意義な学びにつながるように努める。	実習記録等については、指導者から適宜指導・助言を受ける。また、担当教員も巡回指導時に同様に適宜指導・助言を行う。

受講生に望むこと	1．子ども（家族含め）の権利を守る専門職として常に自覚しながら、謙虚で真摯な態度で実習に臨んでください。 2．学校教育における相談援助職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。 3．現代社会では教育現場におけるニーズや課題は多様化し、範囲も広がっています。日頃から関連するニュース、社会的事象に関心を持つようにしてください。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし　必要な資料を授業内で配布する。	その他・特記事項	とくになし。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	SB340U 図書館実習			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の選択科目である。図書館に関する科目で得た知識・技術を基にして、事前・事後の指導を受けつつ図書館業務を経験し、図書館業務全般に対する理解を深めることを目的とする。	①図書館実習事前準備を通じて、実習先の図書館業務について理解を深める。 ②図書館実習を通じて図書館業務全般を経験することでその理解を深める。 ③図書館実習事後レポートをまとめることにより、その成果を確認する。

教授方法	実習、学内での事前指導及び事後指導と図書館においての1週間の実習を行う
履修条件	「北陸学院大学　図書館実習実施規程」における実習参加資格を有するものに限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	図書館実習の概要	
2	図書館実習事前準備レポートの作成指導	
3	図書館実習事前準備レポートの提出・評価	
4	図書館実習直前指導	
5	公共図書館実習（原則として 7 日間、ただし実習受入館で特に指定がある場合はその日程で実施する）	
6	公共図書館実習	
7	公共図書館実習	
8	公共図書館実習	
9	公共図書館実習	
10	公共図書館実習	
11	公共図書館実習	
12	公共図書館実習	
13	公共図書館実習	
14	公共図書館実習	
15	図書館実習事後レポートの提出	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
図書館実習	70	図書館実習に参加し、受入館側の評価を考慮しつつ総合的に判断する。	図書館実習事前課題レポート	15	図書館実習受入館について、事前に調査を行いレポートとしてまとめる。なお、このレポートの未提出者、不合格者は図書館実習参加を認めない。
図書館実習事後レポート	15	図書館実習後に、実習内容及び実習で学んだことについてレポートとしてまとめる。なお、このレポートの未提出者、不合格者は単位修得できない。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
司書課程における科目を必ず復習すること。あらかじめ利用者として実習先の公共図書館を訪れて利用すること。 学外での実習であり、十分な準備を行った上で参加すること。（60分）	事前レポートは添削の上で評価を直接授業内で伝達する。事後レポート及び図書館側の評価は希望に応じて個別に伝達する。

受講生に望むこと	司書資格取得を希望する学生のみを対象とする。図書館実習は公共図書館という学外において、公共図書館職員に準じる立場でさまざまな規程に基づいて実習にあたることになる。法令・規程を遵守するとともに、実習受入館に迷惑がかかることが無いように注意すること。また原則として実習中の遅刻・早退・欠席は認められない（事故・体調不良等を除く）。	教科書・テキスト	なし、授業時に随時配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	復習のためには、これまでの司書科目の教科書を参照すること。実習中図書館への自家用車利用は認められない。実習内容は実習先図書館によって異なる。

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	ST400U 心理実習			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤　英俊・松下　健・加藤　仁　（代表教員　齊藤　英俊）						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	可	関連資格	公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
実習施設において、実習生が心理の支援を要する者及びその関係者に対して、実際に面接や検査を実施する、あるいは見学することを通じて、心理状態の観察及び分析並びに必要な支援（法第２条第１号から第３号までに規定する行為に相当するもの）を行う。また、実習担当教員や指導者が実習の前後に実習生に対して指導を行う。	1）心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析を説明できること。 2）心理に関する支援を要する者に対する、その心理に関する相談及び助言、指導その他の援助を説明できること。 3）心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助を説明できること。 4）心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供を説明できること。

教授方法	実習施設の指導者による指導、実習担当教員の巡回指導。
履修条件	3年次までの公認心理師科目の単位を全て修得した者のうち、心理学教員が履修を認めた者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	事前指導：実習における注意点、実習に必要な知識を学ぶ。	
	実習：各施設において公認心理師の業務を体験的に学ぶ。	
	事後指導：各施設における実習の振り返り。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習施設における評価	50	実習施設の指導者による評定を基に評価する。	実習ノート	50	実践に繋がる学びを得たか、実習指導者の指示に従い実習したかを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
実習施設の指導者に従った課題をこなす。[90分]	実習指導者あるいは実習担当教員が適宜行う。

受講生に望むこと	臨床現場に出て体験的に心理師の仕事を学ぶ。努力の量ではなく結果を求められることを理解したうえで履修すること。予防接種など実習施設に指定された準備は自己負担である。	教科書・テキスト	勝谷紀子・松下 健・加藤 仁・齊藤英俊（2021）．公認心理師「心理実習」ノート 三恵社 ISBN:978-4-86693-476-1
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	履修者数に制限のある科目である。心理学教員が認めた者のみ受講できる。学業成績と生活態度が優れ、かつ適性のある者のみ履修が認められる。

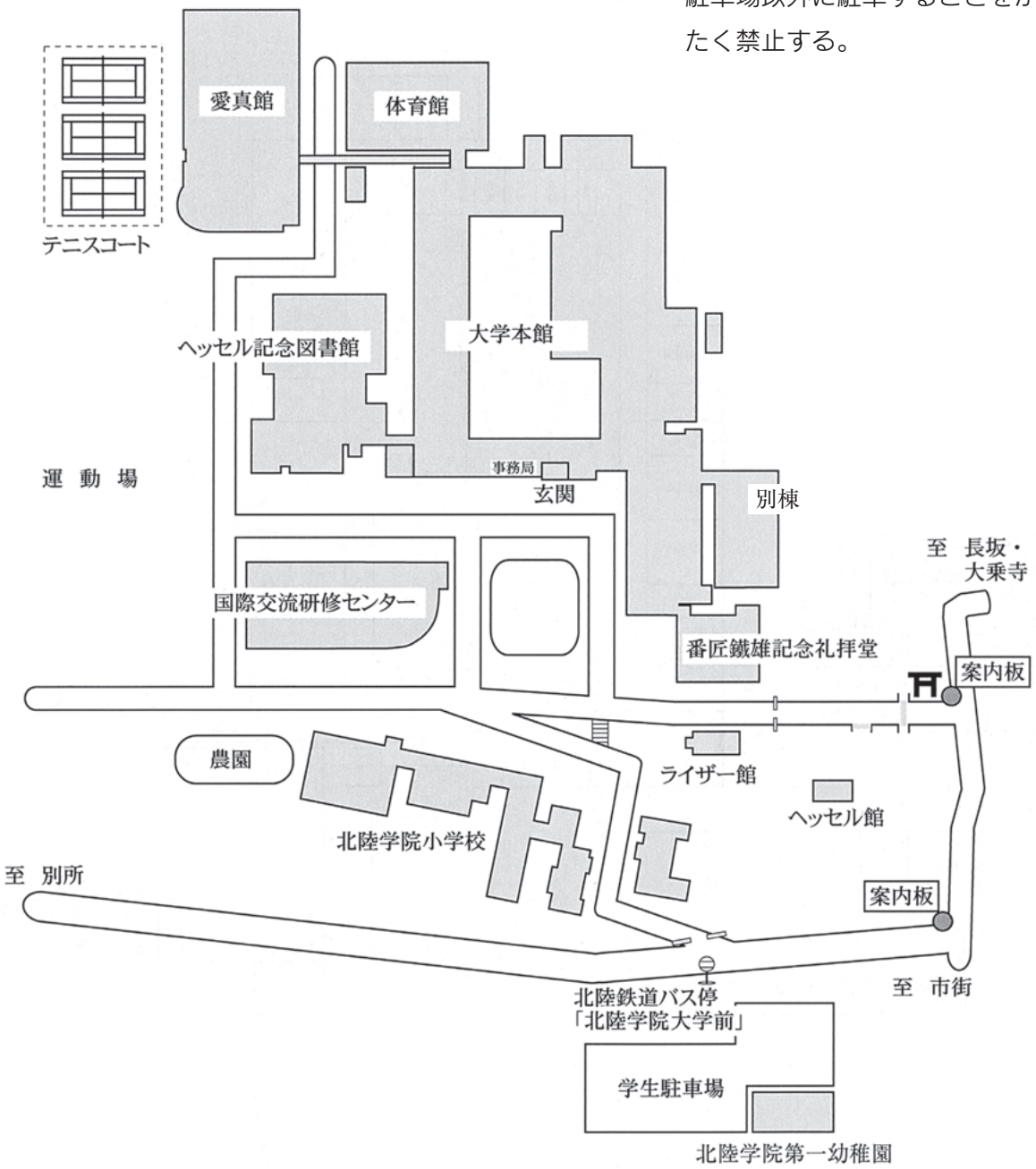
実務経験を活かした授業の概要

松下：公認心理師、臨床心理士として、医療、教育、産業、そして福祉の４領域における実践経験をもとに実習指導を行う

キャンパス案内図

北陸学院三小牛キャンパス案内図

学生に関しては決められた学生駐車場以外に駐車することをかたく禁止する。



校舎案内
INFORMATION

1階

校舎案内
INFORMATION

２階

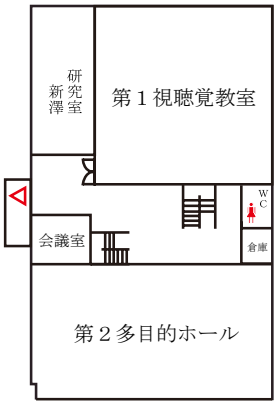
凡例

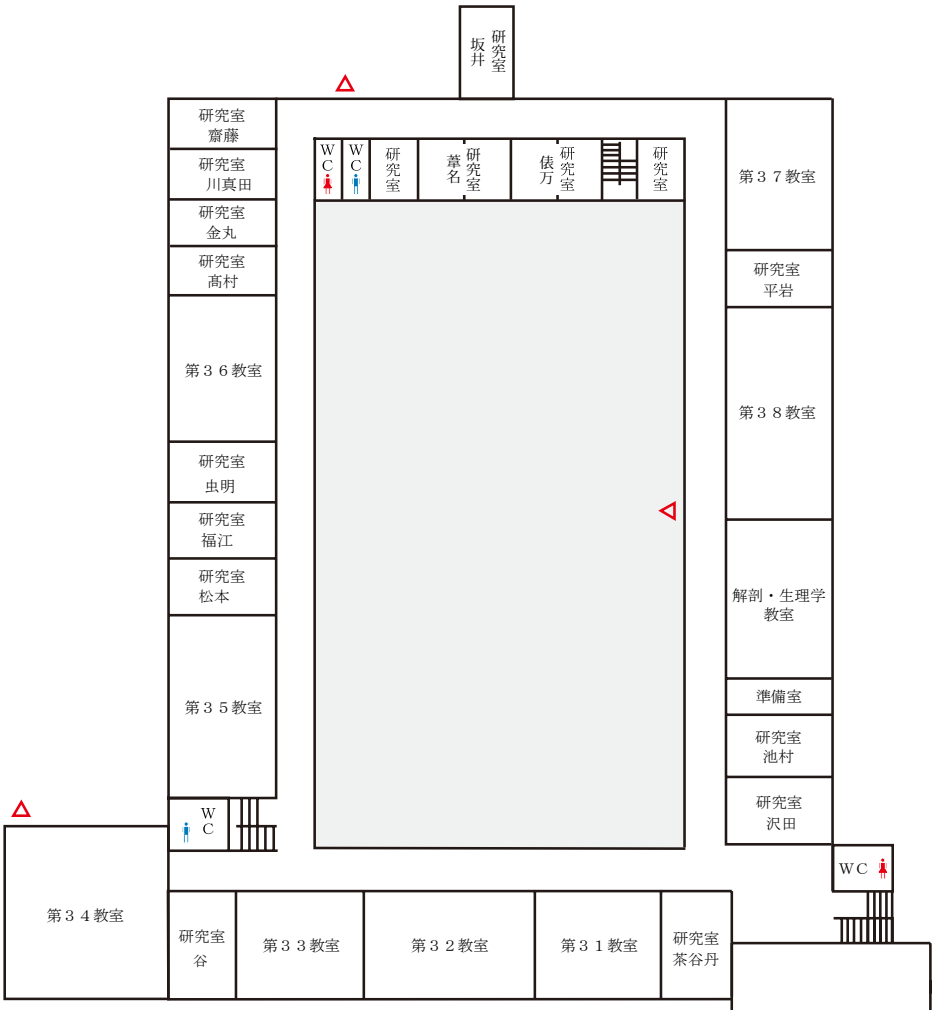
- 避　難　口
- 避難はしご

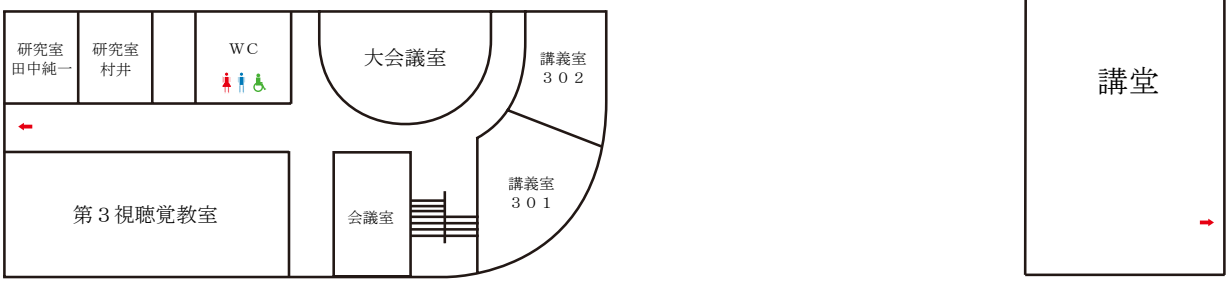
校舎案内
INFORMATION

３階

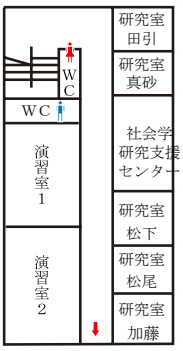
愛真館







別棟



国際交流研修センター

凡例
避　難　口
避難はしご

HOKURIKU GAKUIN Univ. & J.C.

hgu

KANAZAWA JAPAN